

西五十子古墳群

本庄総合公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

2007

本庄市教育委員会

序

本庄市はかつて中山道一の繁栄を誇った宿場町として、また、国学者塙保己一誕生の地として広く知られているところです。そうした豊かな歴史的背景と文化的風土をもつ本庄市は、また多くの貴重な埋蔵文化財にも恵まれ、市内には旧石器時代から近代に至るまで、さまざまな遺跡が分布しています。

今回報告する西五十子古墳群の周辺は、古墳時代には前山1号墳や公卿塚古墳といった大型古墳が築かれ、また中世以来の名刹である宥勝寺や栗崎館跡、五十子陣跡が立地するなど著名な遺跡の集中する一帯として従来から注目されていました。本庄総合公園の建設事業に先立って実施された西五十子古墳群の調査では、60基以上の古墳が新たに発見されたのをはじめ、古墳時代の集落、中世の五十子陣関連の遺構、近世の修験者の墓など多様な遺構が確認され、学術的にも重要な遺物が数多く検出することができました。このような貴重な文化遺産を長く後世に伝えていくことは、現代に生きるわたくしたちに与えられた責務であり、歴史を明らかにすることは、よりよい未来を築くための手掛かりとなるものです。こののちは、本書が学術研究の発展に資するとともに、一般にも広く活用されることによって郷土史への関心や埋蔵文化財への理解が一層深められることを願ってやみません。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、ご指導、ご教示を賜りました方々、現地調査にご協力いただいた関係諸機関、直接調査の労にあたられた皆様に心よりの御礼を申し上げます。

平成19年3月

本庄市教育委員会
教育長 茂木 孝彦

例 言

1. 本報告書は埼玉県本庄市西五十子字諏訪廻・同北堀字諏訪台地内に位置する西五十子古墳群の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は本庄総合公園建設に伴い、本庄市教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査は公園建設予定地のうち、遺跡の範囲と重複する28,885m²を対象として実施した。
4. 発掘調査期間は昭和63年12月12日から平成3年12月6日にかけて、都合4次にわたり実施した。

各次の調査期間は以下のとおりである。

- | | | | | |
|------|---|-------------|---|------------|
| 1次調査 | 自 | 昭和63年12月12日 | 至 | 平成元年3月31日 |
| 2次調査 | 自 | 平成元年6月1日 | 至 | 平成2年3月30日 |
| 3次調査 | 自 | 平成2年4月3日 | 至 | 平成2年10月29日 |
| 4次調査 | 自 | 平成3年4月2日 | 至 | 平成3年12月6日 |

5. 各次の発掘調査担当者は以下のとおりである。

- | | | | |
|--------|----------|-------|------|
| 1次調査 | 本庄市教育委員会 | 社会教育課 | 長谷川勇 |
| 2～4次調査 | 本庄市教育委員会 | 社会教育課 | 太田博之 |

6. 基準点、水準点の設置は中央航業株式会社に委託して行い、現場実測作業は平面図、断面図、遺物出土状況図とも手作業で行った。また、遺構平面図の編集は株式会社測研に、遺物実測図の作成は有限会社毛野考古学研究所にそれぞれ委託して行った。

7. 発掘調査における写真撮影は各調査担当者が行った。

8. 整理調査期間は以下のとおりである。

自 平成16年4月1日から 至 平成19年2月15日

9. 整理調査担当者は以下のとおりである。

- | | | |
|----------|--------|------|
| 本庄市教育委員会 | 社会教育課 | 太田博之 |
| 本庄市教育委員会 | 文化財保護課 | 太田博之 |

9. 本書の執筆・編集は太田が行った。

10. 本書に掲載した遺構実測図、出土遺物、写真は本庄市教育委員会において保管している。

11. 発掘調査から整理、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜った。

ご芳名を記し感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

秋元陽光	足立佳代	新井 端	石橋 充	稲村 繁	犬木 努	井上裕一
入澤雪絵	内山敏行	江原昌俊	大谷 徹	賀来孝代	加藤一郎	風間栄一
加部二生	金子彰男	車崎正彦	小林 修	昆 彭生	坂本和俊	島田孝雄
志村 哲	進藤敏雄	杉崎茂樹	杉山晋作	外尾常人	滝沢 誠	田中正夫
田村 誠	鳥羽政之	長井正欣	中里正憲	中沢良一	中村享史	萩原恭一
日高 慎	深澤敦仁	丸山 修	宮本袈裟雄	山崎 武	横澤真一	若狭 徹

12. 西五十子古墳群の発掘調査、整理調査及び報告書刊行にかかる本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| ・発掘調査(昭和63年4月1日～平成3年3月31日) | ・整理調査(平成18年1月10日～平成19年2月15日) |
| 教 育 長 坂本敬信 | 教 育 長 福島 巖 |
| 事 務 局 長 荒井 茂 (平成元年度) | (平成18年2月17日まで) |
| 金井善一 (平成2・3年度) | 茂木孝彦 |
| 社会教育課 | (平成18年2月18日から) |
| 課 長 荒井正夫 (昭和63・平成元年度) | 事 務 局 長 揖斐龍一 (平成17年度) |
| 坂上英夫 (平成2・3年度) | 丸山 茂 (平成18年度) |
| 課長補佐兼文 | 文化財保護課 |
| 化財保護係長 田村文一 (昭和63年度) | 課 長 前川由雄 |
| 中島正和 (平成元年度) | 課 長 補 佐 増田一裕 |
| 文化財保護係長 長谷川勇 (平成2・3年度) | 同 鈴木徳雄 |
| 文化財保護係 長谷川勇 (昭和63・平成元年度) | 埋蔵文化財係長 鈴木徳雄 |
| 増田一裕 (昭和63～平成3年度) | 埋蔵文化財係 太田博之 |
| 早野秀之 (昭和63年度) | 恋河内昭彦 |
| 太田博之 (平成元～3年度) | 松澤浩一 |
| 赤尾直行 (平成元～3年度) | 松本 完 (平成18年度) |
| 調査担当者 長谷川勇 (昭和63年度) | 臨 時 職 員 松本 完 (平成17年度) |
| 太田博之 (平成元～3年度) | 的野義行 |
| | 調査担当者 太田博之 |
| ・整理調査(平成16年4月1日～平成18年1月9日) | |
| 教 育 長 福島 巖 | |
| 事 務 局 長 揖斐龍一 | |
| 社会教育課 | |
| 課 長 吉田敬一 | |
| 課 長 補 佐 桜場幸男 | |
| 同 上野良一 | |
| 文化財保護係長 吉田 稔 | |
| 文化財保護係 太田博之 | |
| 齊藤みゆき | |
| 臨 時 職 員 松本 完 | |
| 的野善行 (平成17年度) | |
| 調査担当者 太田博之 | |

凡 例

1. 本書所収の遺跡全体図における X・Y座標値は世界測地系に基づく。各遺構における方位針は座標北を示す。
2. 西五十子古墳群におけるグリッドの呼称は、北東隅杭が基準となり、東から西へ向かい 1A～2G、北から南へ向かい 1～25 となる。
3. グリッドは、1 辺 10m の正方形に設定し、各グリッド北東隅杭の呼称を当該グリッドの呼称としている。

5. 本調査における各種遺構名称は下記の記号で示し、本書掲載の本文、挿図、写真図版中の遺構名称も同一の記号で記述した。

ST…古墳

SI…住居

SF…方形竪穴状遺構

SW…井戸

SK…土坑

SD…溝

5. 本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、原則的に以下のとおりである。

[遺構図]		[遺物実測図]	
ST…1/80・1/100・1/120	SF…1/60	埴輪…1/4	鉄鏃…1/3
1/140・1/160・1/200	SW…1/60	土師器、須恵器…1/4	鉄鎌…1/3
1/240・1/400	SK…1/80	土製品…1/4	鉄刀…1/4・1/10
SI…1/60	SD…1/600	中世陶磁器…1/4	銅製品…1/2
SIカマド…1/30		縄文土器…1/2・1/3	石製紡錘車…1/2・1/4
SI貯蔵穴…1/30			硯・砥石…1/4

その他のものについては、個別にスケールを示した。

6. 遺構断面図の水準数値は海拔を示す。単位は m である。
7. 遺構断面図のスクリーントーンのうちストライプは地山のローム層を、網は貼床層を示す。
8. 遺物実測図の網のスクリーントーンは、付着物のあることを示す。
9. 観察表中の単位は、法量は cm、重さは g である。() 内の数値は推定値を示す。
10. 本書掲載の地形図は、国土交通省国土地理院発行 1/25,000 「本庄」、位置図は本庄市都市計画図 1/2,500 に加筆したものをを用いた。
11. 本書の引用・参考文献は巻末に一括して記載した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
I 調査に至る経過	1
II 遺跡の環境	
(1) 地理的環境	2
(2) 歴史的環境	4
III 調査の成果	
1 遺跡の概要	5
2 古墳	9
3 住居	147
4 方形竪穴状遺構	221
5 井戸	225
6 土坑	227
7 溝	269
8 埴輪集中	291
9 土器集中	293
10 グリッド	299
11 試掘	318
12 調査区一括	323
IV 結 語	331
引用・参考文献	
写真	

挿図目次

図 1 埼玉県 の地形	2	図 39 ST-14 平面	44
図 2 周辺 の遺跡	3	図 40 ST-14 周堀土層断面	45
図 3 遺跡 の位置	6	図 41 ST-14 埴輪分布	45
図 4 古墳配置	7・8	図 42 ST-14 出土円筒埴輪	46
図 5 ST- 3 平面および周堀土層断面	10	図 43 ST-14 出土土器	47
図 6 ST- 3 出土土器	11	図 44 ST-15 平面および周堀土層断面	48
図 7 ST- 4 平面および周堀土層断面	12	図 45 ST-16 平面および周堀断面	49
図 8 ST- 5 平面および周堀土層断面	13	図 46 ST-17 平面	50
図 9 ST- 5 出土紡錘車	14	図 47 ST-17 周堀土層断面	51
図 10 ST- 6 平面および周堀土層断面	15	図 48 ST-18 平面および周堀土層断面	52
図 11 ST- 6 埴輪分布	16	図 49 ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	53
図 12 ST- 6 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	17	図 50 ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	54
図 13 ST- 6 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	18	図 51 ST-18 出土形象埴輪	55
図 14 ST- 6 出土円筒・朝顔形埴輪(3)	19	図 52 ST-18 出土土器・紡錘車	55
図 15 ST- 6 出土円筒・朝顔形埴輪(4)	20	図 53 ST-19 平面および周堀土層断面	56
図 16 ST- 6 出土形象埴輪	21	図 54 ST-19 出土円筒埴輪	57
図 17 ST- 6 出土土器・紡錘車	22	図 55 ST-20 平面および周堀土層断面	58
図 18 ST- 7 平面および周堀土層断面	23	図 56 ST-20 出土形象埴輪	59
図 19 ST- 7 埴輪分布	24	図 57 ST-20 出土土器	59
図 20 ST- 7 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	25	図 58 ST-21 周堀土層断面	59
図 21 ST- 7 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	26	図 59 ST-21 平面	60
図 22 ST- 7 出土円筒・朝顔形埴輪(3)	27	図 60 ST-22 平面および周堀土層断面	61
図 23 ST- 7 出土形象埴輪(1)	28	図 61 ST-22 出土形象埴輪	62
図 24 ST- 7 出土形象埴輪(2)	29	図 62 ST-22 出土土器(1)	63
図 25 ST- 7 出土土器	30	図 63 ST-22 出土土器(2)	64
図 26 ST- 8 平面および周堀土層断面	32	図 64 ST-23 平面および周堀土層断面	65
図 27 ST- 9 平面	33	図 65 ST-23 埴輪分布	66
図 28 ST- 9 周堀土層断面	34	図 66 ST-23 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	67
図 29 ST-10 平面および周堀土層断面	35	図 67 ST-23 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	68
図 30 ST-11 平面および周堀土層断面	37	図 68 ST-23 出土土器	69
図 31 ST-12 平面	38	図 69 ST-24 周堀土層断面	70
図 32 ST-12 周堀土層断面	39	図 70 ST-24 平面	71
図 33 ST-13 平面	40	図 71 ST-24 出土土器	71
図 34 ST-13 周堀土層断面	41	図 72 ST-25 平面	72
図 35 ST-13 埴輪分布	41	図 73 ST-25 周堀土層断面	73
図 36 ST-13 出土円筒埴輪(1)	42	図 74 ST-25 出土土器	73
図 37 ST-13 出土円筒埴輪(2)	43	図 75 ST-26 平面および周堀土層断面	74
図 38 ST-13 出土土器	43	図 76 ST-26 出土土器	75

図 77	ST-27	周堀土層断面	75	図 117	ST-45	出土土器	113
図 78	ST-27	平面	76	図 118	ST-46	平面	114
図 79	ST-28	平面および周堀土層断面	77	図 119	ST-46	周堀土層断面	115
図 80	ST-28	出土土器	78	図 120	ST-47	周堀土層断面	115
図 81	ST-29	平面および周堀土層断面	79	図 121	ST-47	平面	116
図 82	ST-30	平面および周堀土層断面	80	図 122	ST-48	平面および周堀土層断面	117
図 83	ST-31	平面および周堀土層断面	81	図 123	ST-49	平面	118
図 84	ST-31	出土土器	82	図 124	ST-49	周堀土層断面	119
図 85	ST-32	周堀土層断面	82	図 125	ST-49	埴輪分布	119
図 86	ST-32	平面	83	図 126	ST-49	出土朝顔形埴輪	120
図 87	ST-33	平面および周堀土層断面	84	図 127	ST-49	出土土器	121
図 88	ST-34	平面および周堀土層断面	85	図 128	ST-49	出土鉄鍬	122
図 89	ST-34	出土土器	86	図 129	ST-50	周堀土層断面	122
図 90	ST-35	平面および周堀土層断面	87	図 130	ST-50	平面	123
図 91	ST-35	出土土器	88	図 131	ST-51	平面および周堀土層断面	124
図 92	ST-36	周堀土層断面	88	図 132	ST-51	出土土器(1)	125
図 93	ST-36	平面	89	図 133	ST-51	出土土器(2)	126
図 94	ST-37	平面および周堀土層断面	90	図 134	ST-51	出土土器(3)・紡錘車	128
図 95	ST-38	平面および周堀土層断面	91	図 135	ST-52	周堀断面	129
図 96	ST-39	平面	92	図 136	ST-52	平面	130
図 97	ST-39	周堀土層断面	93	図 137	ST-53	平面および周堀土層断面	131
図 98	ST-40	周堀土層断面	93	図 138	ST-54	平面および周堀土層断面	132
図 99	ST-40	平面	94	図 139	ST-54	出土円筒埴輪	133
図 100	ST-41	平面および周堀土層断面	95	図 140	ST-54	出土土器	133
図 101	ST-42	平面および周堀土層断面	96	図 141	ST-55	平面および周堀土層断面	134
図 102	ST-43	平面および周堀土層断面	97	図 142	ST-56	平面および周堀土層断面	135
図 103	ST-43	出土鉄刀	98	図 143	ST-57	平面および周堀断面	136
図 104	ST-43	出土土器	99	図 144	ST-58	平面および周堀断面	137
図 105	ST-44	平面および周堀土層断面	100	図 145	ST-59	平面および周堀断面	138
図 106	ST-44	埴輪分布	101	図 146	ST-60	平面	139
図 107	ST-44	出土円筒・朝顔形埴輪(1)	102	図 147	ST-60	周堀土層断面	140
図 108	ST-44	出土円筒・朝顔形埴輪(2)	103	図 148	ST-61	周堀断面	140
図 109	ST-44	出土円筒・朝顔形埴輪(3)	104	図 149	ST-61	平面	141
図 110	ST-44	出土円筒・朝顔形埴輪(4)	105	図 150	ST-62	平面および周堀土層断面	142
図 111	ST-44	出土形象埴輪	106	図 151	ST-63	平面	143
図 112	ST-44	出土土器(1)	107	図 152	ST-63	周堀断面	144
図 113	ST-44	出土土器(2)	110	図 153	住居配置	145・146	
図 114	ST-44	出土土器(3)	111	図 154	SI-1	床面平面および断面	148
図 115	ST-45	周堀土層断面	112	図 155	SI-1	掘り方平面	149
図 116	ST-45	平面	113	図 156	SI-1	掘り方断面	150

図157	SI- 1	出土土器	151	図197	SI-15	出土土器	193
図158	SI- 2	床面平面および断面	153	図198	SI-16	床面平面および断面	194
図159	SI- 2	掘り方平面および断面	154	図199	SI-16	カマド平面および断面	194
図160	SI- 2	貯蔵穴平面および断面	154	図200	SI-16	掘り方平面および断面	195
図161	SI- 3	平面および断面	155	図201	SI-16	貯蔵穴平面および断面	195
図162	SI- 3	貯蔵穴平面および断面	155	図202	SI-16	出土土器(1)	197
図163	SI- 4	平面および断面	156	図203	SI-16	出土土器(2)	198
図164	SI- 5	平面および断面	157	図204	SI-17	床面平面および断面	199
図165	SI- 6	床面平面および断面	158	図205	SI-17	掘り方平面および断面	200
図166	SI- 6	掘り方平面および断面	159	図206	SI-17	貯蔵穴平面および断面	200
図167	SI- 7	床面平面および断面	160	図207	SI-17	出土土器	201
図168	SI- 7	掘り方平面および断面	161	図208	SI-18	床面平面および断面	202
図169	SI- 7	出土土器	162	図209	SI-17	掘り方平面および断面	203
図170	SI- 8	床面平面および断面	163	図210	SI-17	貯蔵穴平面および断面	204
図171	SI- 8	掘り方平面および断面	164	図211	SI-18	出土土器	204
図172	SI- 8	出土土器・砥石・薦編石	165	図212	SI-19	床面平面および断面	205
図173	SI- 9	床面平面および断面	166	図213	SI-19	掘り方平面および断面	206
図174	SI- 9	掘り方平面および断面	167	図214	SI-20・21・22	床面平面および断面	208
図175	SI- 9	貯蔵穴平面および断面	167	図215	SI-20・21・22	床面断面	209
図176	SI- 9	出土土器(1)	169	図216	SI-20・21・22	貯蔵穴平面および断面	209
図177	SI- 9	出土土器(2)	171	図217	SI-21	出土土器	210
図178	SI- 9	出土土器(3)	173	図218	SI-22	掘り方平面および断面	212
図179	SI- 9	出土土器(4)	175	図219	SI- 23	平面および断面(1)	213
図180	SI- 9	出土土器(5)	176	図220	SI- 23	平面および断面(2)	214
図181	SI- 9	出土土器(6)	177	図221	SI- 23	貯蔵穴平面および断面	214
図182	SI- 9	出土土器(7)	178	図222	SI- 24	平面および断面	215
図183	SI-10・11	床面平面	180	図223	SI- 24	出土土器	216
図184	SI-10・11	床面断面	181	図224	SI- 25	平面および断面	217
図185	SI-10・11	掘り方平面	182	図225	SI- 26	平面および断面	218
図186	SI-10・11	掘り方断面	183	図226	SI- 6	貯蔵穴平面および断面	218
図187	SI-10	出土土器	184	図227		方形竪穴状遺構・井戸・土坑配置	219・220
図188	SI-11	出土土器	185	図228	SF	平面および断面(1)	222
図189	SI-12	床面平面および断面	187	図229	SF	平面および断面(2)	223
図190	SI-12	掘り方平面および断面	188	図230	SF- 6	出土鉄鎌	224
図191	SI-13	床面平面および断面	189	図231	SW	平面および断面(1)	225
図192	SI-13	掘り方平面および断面	190	図232	SW	平面および断面(2)	226
図193	SI-13	貯蔵穴平面および断面	190	図233	SK	平面および断面(1)	231
図194	SI-14	平面および断面	191	図234	SK	平面および断面(2)	232
図195	SI-15	平面および断面	192	図235	SK	平面および断面(3)	233
図196	SI-15	貯蔵穴平面および断面	192	図236	SK	平面および断面(4)	236

図237 SK平面および断面(5)……………	237	図268 大溝出土形象埴輪(1)……………	283
図238 SK平面および断面(6)……………	238	図269 大溝出土形象埴輪(2)……………	284
図239 SK平面および断面(7)……………	240	図270 大溝出土形象埴輪(3)……………	285
図240 SK平面および断面(8)……………	241	図271 大溝出土土器(1)……………	286
図241 SK平面および断面(9)……………	242	図272 大溝出土土器(2)……………	287
図242 SK平面および断面(10)……………	244	図273 大溝出土土器(3)……………	289
図243 SK平面および断面(11)……………	246	図274 検出状況……………	291
図244 SK平面および断面(12)……………	247	図275 1Y-17G出土円筒埴輪……………	292
図245 SK平面および断面(13)……………	250	図276 検出状況……………	293
図246 SK平面および断面(14)……………	251	図277 1Y-20G出土土器(1)……………	294
図247 SK平面および断面(15)……………	254	図278 1Y-20G出土土器(2)……………	295
図248 SK平面および断面(16)……………	255	図279 1Y-20G出土土器(3)……………	296
図249 SK平面および断面(17)……………	256	図280 グリッド出土円筒埴輪(1)……………	299
図250 SK平面および断面(18)……………	258	図281 グリッド出土円筒埴輪(2)……………	300
図251 SK平面および断面(19)……………	259	図282 グリッド出土円筒埴輪(3)……………	301
図252 SK平面および断面(20)……………	261	図283 グリッド出土円筒埴輪(4)……………	302
図253 SK平面および断面(21)……………	262	図284 グリッド出土形象埴輪(1)……………	303
図254 SK出土鉄刀・鉄鎌・鏡板付轡・鉸具・鞍……………	263	図285 グリッド出土形象埴輪(2)……………	304
図255 SK-376・389・404 出土土器……………	264	図286 グリッド出土土器(1)……………	306
図256 SK-207 出土銅製錫杖頭・ 金銅製袈裟金具・銅銭・数珠 ……	266	図287 グリッド出土土器(2)……………	308
図257 SK-209 出土金銅製袈裟金具・銅銭……………	267	図288 グリッド出土土器(3)……………	310
図258 SK-208・215・216・218 出土土器……………	268	図289 グリッド出土土器(4)……………	311
図259 SD断面(1)……………	269	図290 グリッド出土土器(5)……………	313
図260 SD断面(2)……………	270	図291 グリッド出土土器(6)……………	314
図261 SD断面(3)……………	272	図292 グリッド出土土器(7)……………	315
図262 SD断面(4)……………	274	図293 グリッド出土砥石・羽口・銅銭……………	317
図263 SD断面(5)……………	276	図294 試掘調査出土遺物(1)……………	319
図264 SD断面(6)……………	277	図295 試掘調査出土遺物(2)……………	320
図265 大溝出土円筒・朝顔形埴輪(1)……………	279	図296 試掘調査出土遺物(3)……………	322
図266 大溝出土円筒・朝顔形埴輪(2)……………	280	図297 調査区一括遺物(1)……………	324
図267 大溝出土円筒・朝顔形埴輪(3)……………	281	図298 調査区一括遺物(2)……………	326
		図299 調査区一括遺物(3)……………	328
		図300 調査区一括遺物(4)……………	330

写真目次

写真 1	ST- 7 周堀検出状況	ST-47 周堀検出状況
	ST-14 周堀検出状況	ST-48 周堀検出状況
	ST-15 周堀検出状況	写真 7 ST-49 周堀検出状況
	ST-16 周堀検出状況	ST-50 周堀検出状況
	ST-17 周堀検出状況	ST-51 周堀検出状況
	ST-18 周堀検出状況	ST-52 周堀検出状況
写真 2	ST-19 周堀検出状況	ST-53 周堀検出状況
	ST-20 周堀検出状況	ST-54 周堀検出状況
	ST-21 周堀検出状況	写真 8 ST-55 周堀検出状況
	ST-22 周堀検出状況	ST-56 周堀検出状況
	ST-23 周堀検出状況	ST-57 周堀検出状況
	ST-24 周堀検出状況	ST-58 周堀検出状況
写真 3	ST-25 周堀検出状況	ST-59 周堀検出状況
	ST-26 周堀検出状況	ST-60 周堀検出状況
	ST-27 周堀検出状況	写真 9 ST-61 周堀検出状況
	ST-28 周堀検出状況	ST-62 周堀検出状況
	ST-29 周堀検出状況	ST-63 周堀検出状況
	ST-30 周堀検出状況	写真10 ST-3・4 東拡張区調査区全景 [北から]
写真 4	ST-31 周堀検出状況	ST- 4 周堀検出状況 [北から]
	ST-32 周堀検出状況	ST- 4 周堀検出状況 [西から]
	ST-33 周堀検出状況	ST- 8 周堀検出状況 [北西から]
	ST-34 周堀検出状況	ST- 9 周堀検出状況 [北西から]
	ST-35 周堀検出状況	ST-10 周堀検出状況 [北西から]
	ST-36 周堀検出状況	ST-11 周堀検出状況 [北から]
写真 5	ST-37 周堀検出状況	ST-12 周堀検出状況 [北西から]
	ST-38 周堀検出状況	写真11 ST- 4 周堀内遺物検出状況 [北西から]
	ST-39 周堀検出状況	ST- 6 周堀内遺物検出状況 [北西から]
	ST-40 周堀検出状況	ST- 6 周堀内遺物検出状況 [北西から]
	ST-41 周堀検出状況	ST- 6 周堀内遺物検出状況 [北西から]
	ST-42 周堀検出状況	ST-14 周堀内遺物検出状況 [西から]
写真 6	ST-43 周堀検出状況	ST-22 周堀内遺物検出状況
	ST-44 周堀検出状況	ST-22 周堀内遺物検出状況
	ST-45 周堀検出状況	ST-22 周堀内遺物検出状況
	ST-46 周堀検出状況	

写真 12	ST-22 周堀内遺物検出状況	写真 16	SI- 7・8 掘り方検出状況 [北東から]
	ST-22 周堀内遺物検出状況		SI- 7 遺物検出状況
	ST-22 周堀内遺物検出状況		SI- 8 掘り方検出状況 [西から]
	ST-22 周堀内遺物検出状況		SI- 8 遺物検出状況 [西から]
	ST-23 周堀内遺物検出状況		SI- 9 H2 調査区 掘り方検出状況 [西から]
	ST-23 周堀内遺物検出状況		SI- 9 H2 調査区 遺物検出状況 [西から]
	ST-23 周堀内遺物検出状況		SI- 9 H3 調査区 床面検出状況 [東から]
	ST-24 周堀内遺物検出状況		SI- 9 H3 調査区 掘り方検出状況 [東から]
写真 13	ST-25 周堀内遺物検出状況 [南東から]	写真 17	SI- 9 H3 調査区 遺物検出状況 [東から]
	ST-25 周堀内遺物検出状況 [北西から]		SI- 9 H3 調査区 遺物検出状況 [西から]
	ST-32 周堀内遺物検出状況		SI- 9 H3 調査区 遺物検出状況 [東から]
	ST-34 周堀内遺物検出状況		SI- 9 H3 調査区 遺物検出状況 [北から]
	ST-44 H2 調査区 周堀内遺物検出状況 [北から]		SI- 9 H3 調査区 遺物検出状況 [東から]
	ST-44 H2 調査区 周堀内遺物検出状況 [北から]		SI-10・11 床面検出状況 [南西から]
	ST-44 H2 調査区 周堀内遺物検出状況 [北西から]	写真 18	SI-10・11 遺物検出状況 [南西から]
	ST-44 H2 調査区 周堀内遺物検出状況 [北西から]		SI-11 遺物検出状況 [南西から]
写真 14	ST-44 H3 調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]		SI-12 遺物検出状況 [南西から]
	ST-44 H3 調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]		SI-12 遺物検出状況 [南西から]
	ST-44 H3 調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]		SI-15 遺物検出状況 [南東から]
	ST-44 H3 調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]		SI-15 貯蔵穴遺物検出状況 [南東から]
	ST-45 周堀内遺物検出状況 [西から]		SI-16 カマド検出状況 [南西から]
	ST-45 周堀内遺物検出状況 [西から]		SI-16 掘り方検出状況 [南西から]
	ST-49 周堀内遺物検出状況 [北から]		SI-17 床面検出状況 [南東から]
	ST-49 周堀内遺物検出状況 [北から]		SI-18 掘り方検出状況 [北から]
写真 15	ST- 1 床面検出状況 [北から]	写真 19	SI-18 遺物検出状況 [北から]
	ST- 1 掘り方検出状況 [北から]		SI-18 遺物検出状況 [南から]
	SI- 1 遺物検出状況		SI-19 掘り方検出状況 [南から]
	SI- 2 掘り方検出状況 [北東から]		SI-20 掘り方検出状況 [南東から]
	SI- 2 遺物検出状況 [南西から]		SI-20 遺物検出状況 [南東から]
	SI- 4 掘り方検出状況 [北東から]		SI-21 掘り方検出状況 [南から]
	SI- 6 掘り方検出状況 [南西から]		SI-22 掘り方検出状況 [西から]
	SI- 6 掘り方検出状況 [北から]		SI-23 床面検出状況 [南西から]
		写真 20	SI-23 掘り方検出状況 [南西から]
			SI-23 遺物検出状況 [南西から]
			SI-23 遺物検出状況 [南西から]
			SI-24 掘り方検出状況 [東から]
			SI-25 掘り方検出状況 [南東から]
			SI-25 遺物検出状況 [南東から]
			SI-26 床面検出状況 [北東から]
			SI-26 遺物検出状況 [北東から]

写真21	SK-24 鉄刀検出状況 [北から]	写真36	ST-44 出土形象埴輪
	SK-24 鉄刀検出状況 [北から]		ST-49 出土朝顔形埴輪
	SK-191 鉄鎌検出状況 [南東から]		ST-54 出土円筒埴輪
	SK-191 鉄鎌検出状況 [南東から]	写真37	ST-3 出土土器
	SK-207 銅製錫杖頭・金剛製袈裟金具・ 銅銭検出状況 [北東から]		ST-5 出土紡錘車
	SK-209 金剛製袈裟金具・銅銭検出状況 [北から]		ST-6 出土土器・紡錘車
	SK-215 土器検出状況 [北から]		ST-7 出土土器(1)
	SK-216 土器検出状況 [西から]	写真38	ST-7 出土土器(2)
写真22	SK-376 土器検出状況		ST-13 出土土器
	SK-389 土器検出状況		ST-14 出土土器
	SF-7 掘り方検出状況 [北から]		ST-18 出土土器・紡錘車
	1Y-17G 埴輪検出状況 [西から]		ST-20 出土土器
	1Y-20G 土器検出状況	写真39	ST-22 出土土器
	1Y-20G 土器検出状況	写真40	ST-23 出土土器
	1Y-20G 土器検出状況		ST-24 出土土器
	1Y-20G 土器検出状況		ST-25 出土土器
	1Y-20G 土器検出状況		ST-26 出土土器
	1Y-20G 土器検出状況		ST-28 出土土器
写真23	ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	写真41	ST-31 出土土器
写真24	ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪(2)		ST-34 出土土器
写真25	ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪(3)		ST-35 出土土器
	ST-6 出土形象埴輪		ST-43 出土土器
写真26	ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪(1)		ST-44 出土土器(1)
写真27	ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	写真42	ST-44 出土土器(2)
写真28	ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪(3)	写真43	ST-44 出土土器(3)
	ST-7 出土形象埴輪(1)	写真44	ST-44 出土土器(4)
写真29	ST-7 出土形象埴輪(2)		ST-45 出土土器
	ST-13 出土円筒埴輪		ST-49 出土土器
写真30	ST-14 出土円筒埴輪	写真45	ST-51 出土土器(1)
	ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	写真46	ST-51 出土土器(2)
写真31	ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	写真47	ST-51 出土土器(3)・紡錘車
写真32	ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪(3)		ST-54 出土土器
	ST-18 出土形象埴輪	写真48	SI-1 出土土器
	ST-19 出土円筒埴輪	写真49	SI-7 出土土器
	ST-20 出土形象埴輪		SI-8 出土土器・砥石・薦編石
	ST-22 出土形象埴輪		SI-9 出土土器(1)
	ST-23 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	写真50	SI-9 出土土器(2)
写真33	ST-23 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	写真51	SI-9 出土土器(3)
写真34	ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪(1)	写真52	SI-9 出土土器(4)
写真35	ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪(2)	写真53	SI-9 出土土器(5)

- 写真 54 SI- 9 出土土器(6)
- 写真 55 SI- 9 出土土器(7)
- 写真 56 SI- 9 出土土器(8)・砥石
SI- 10 出土土器
SI- 11 出土土器(1)
- 写真 57 SI- 11 出土土器(2)
SI- 15 出土土器(1)
- 写真 58 SI- 15 出土土器(2)
SI- 16 出土土器(1)
- 写真 59 SI- 16 出土土器(2)
- 写真 60 SI- 16 出土土器(3)
SI- 17 出土土器
SI- 18 出土土器
- 写真 61 SI- 21 出土土器
- 写真 62 SI- 24 出土土器
- 写真 63 大溝出土円筒・朝顔形埴輪(1)
- 写真 64 大溝出土円筒・朝顔形埴輪(2)
- 写真 65 大溝出土円筒・朝顔形埴輪(3)
- 写真 66 大溝出土形象埴輪(1)
- 写真 67 大溝出土形象埴輪(2)
大溝出土土器(1)
- 写真 68 大溝出土土器(2)
SF-6 出土鉄鎌
SK-376・389・404 出土土器
- 写真 69 ST-43 出土鉄刀
ST-49 出土鉄鏃
SK 出土鉄刀・鉄鎌・鏡板付轡・鉸具・鞍
- 写真 70 SK-208・215・216・218 出土土器
SK-207 出土銅製錫杖頭・
金銅製袈裟金具・銅銭・数珠
- SK-209 出土金銅製袈裟金具・銅銭
SK-213 出土簪
- 写真 71 1Y-17G 出土円筒埴輪
1Y-20G 出土土器(1)
- 写真 72 1Y-20G 出土土器(2)
- 写真 73 1Y-20G 出土土器(3)
グリッド出土円筒埴輪(1)
- 写真 74 グリッド出土円筒埴輪(2)
- 写真 75 グリッド出土円筒埴輪(3)
- 写真 76 グリッド出土円筒埴輪(4)
グリッド出土形象埴輪
- 写真 77 グリッド出土土器(1)
- 写真 78 グリッド出土土器(2)
- 写真 79 グリッド出土土器(3)
- 写真 80 グリッド出土土器(4)
グリッド出土砥石・銅銭・羽口
- 写真 81 試掘調査出土遺物
- 写真 82 調査区一括遺物(1)
- 写真 83 調査区一括遺物(2)

I 調査に至る経過

昭和61年6月27日、本庄市長織茂良平から、本庄市西五十子ほかの地区において本庄総合公園建設事業の計画があり、当該事業予定地に関係する埋蔵文化財の所在及び取扱いについての協議が本庄市教育委員会に提出された。この本庄総合公園建設事業は、西五十子・北堀・栗崎地区にまたがり、面積も230,000㎡におよぶ大規模なものであり、野球場・陸上競技場の建設なども予定されていることから、当該事業予定地に埋蔵文化財が所在する場合、相当程度の影響が及ぶことが予測された。本庄市教育委員会事務局では、これを受けて、埼玉県教育委員会発行の『本庄市遺跡分布地図』をもとに、当該開発計画予定地における埋蔵文化財包蔵地の所在を確認した。その結果、同地には本庄48・49・54・55・151号遺跡が所在することが判明した。このうち、本庄49号遺跡は西五十子古墳群とも称され、昭和60年度に実施された導水路建設に伴う調査で、円墳3基が検出されているほか、付近の畑地には広範に埴輪の散布が認められることから、大規模な群集墳であることが予想された。また、54・55遺跡周辺は児玉党荘氏の居館所在の伝承地であり、さらに151号遺跡は15世紀後半に構築された五十子陣の跡と考えられる遺構群で、過去、周辺では土木工事の際などに、「かわらけ」が検出されていた。

本庄市教育委員会では、このような状況をふまえ、昭和61年7月4日付け本教社発第210号で、本庄市長織茂良平あて埋蔵文化財の所在及び取扱いについての回答を行い、1) 当該事業予定地には周知の埋蔵文化財包蔵地本庄48・49・54・55・151号遺跡が所在すること。2) これまでの分布調査ならびに隣接地における発掘調査の成果から、これら周知の埋蔵文化財包蔵地には遺構の存在が確実にあり、現状保存が望ましいこと。3) やむをえずを現状変更を行う場合は、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること。4) 今後は埼玉県教育委員会指導部文化財保護課、本庄市教育委員会との連絡を密にし、埋蔵文化財の保護上、遺漏のないよう徹底することの旨を伝達した。また、これに合わせて本庄市教育委員会から、昭和61年7月4日付け本教社発第211号で、埼玉県教育委員会あて、本庄総合公園建設事業予定地にかかる埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。

その後、本庄市教育委員会と本庄市との間で協議を重ねた結果、ほかに公園建設の適地がなく、埋蔵文化財の取扱いについては必要な記録保存の措置を取ることが決定された。また、本庄49号遺跡（西五十子古墳群）にかかる範囲については先行して建設工事に着工する計画があり、まず同遺跡についての試掘調査を実施し、遺跡の範囲確定を行うこととなった。

試掘調査は昭和63年9月7日から実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地内の全域にわたって古墳の分布が確認されたほか、一部に古墳時代の集落、中世の竪穴状遺構なども存在していることが判明した。本庄市教育委員会ではこの試掘調査の結果を受けて、昭和63年11月15日付け本教社発第326号で、埼玉県教育委員会あて、本庄総合公園建設事業予定地にかかる埋蔵文化財の取扱いについて協議をおこなうとともに、公園建設計画に基づき順次発掘調査に取りかかった。

現地での発掘調査は昭和63年12月12日から平成3年12月6日にかけて都合4次に分けて断続的に実施し、整理調査は平成16年4月から平成19年2月15日にかけて実施した。

II 遺跡の環境

(1) 地理的環境

西五十子古墳群は本庄台地の南東端に立地し、台地の直下を男堀川が東流し、南方に小山川の開析する沖積平野を望む位置にある。北側はやや離れた台地の奥部を女堀川が東流し、その周囲は沖積化が進行している。周辺の台地上は南西から北東方向へ緩やかに傾斜し、多くは畑地帯となっている。地表面の標高は55～56mを測る。

本庄市の地形は利根川右岸に広がる低地と、市街地を乗せる台地、その南方へ連なる山地に大別される。低地部には利根川の氾濫による自然堤防が発達し、同川沿いに妻沼低地、加須低地へと連続している。これに対し、台地部は小山川扇状地と神流川扇状地との複合地形から成り、本庄台地と称され、立川期に対応するものとされる。

小山川扇状地は西側を第三系の残丘である生野山、大久保山などの児玉丘陵に、東側を松久丘陵と櫛引台地によって画され、小山川、志戸川などが北東方向へ流れている。河川の周辺は沖積化が進行し、自然堤防状の微高地が発達しており、遺跡の多くはこの上に立地している。

いっぽう、神流川扇状地は群馬県鬼石町浄方寺付近を扇頂部とし、扇端部は上里町金久保から本庄市万年寺、同市鶴森にかけて比高差6～10mの段丘崖を形成して、一部にはなお伏流水の湧出が観察される。この扇状地を開析して流れる中小河川には女堀川、男堀川などがあり、これら河川の周辺もまた沖積化が顕著である。また、段丘崖下の低地には元小山川が東流している。さらに、近年の微地形の観察や発掘調査により、現状では平坦に映る台地面下にも、幾筋かの埋没谷の存在が明らかにされて来ており、過去の地理的環境は、現在に比べてより複雑な様相を示している。

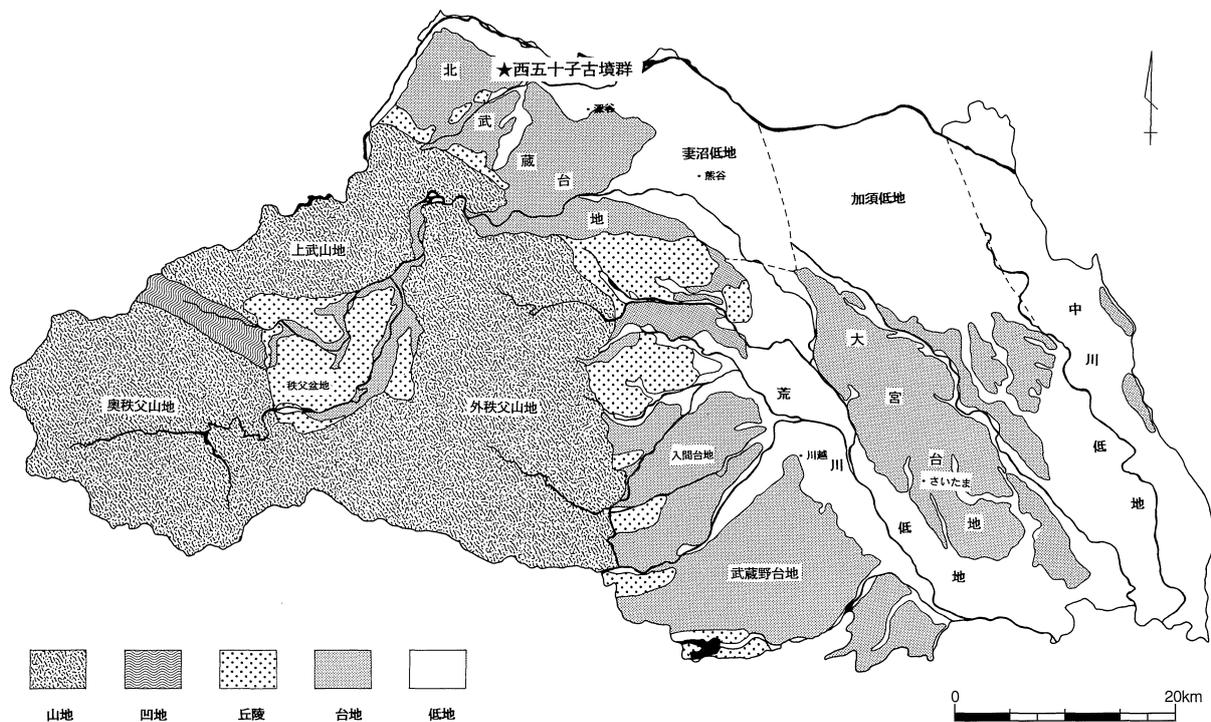
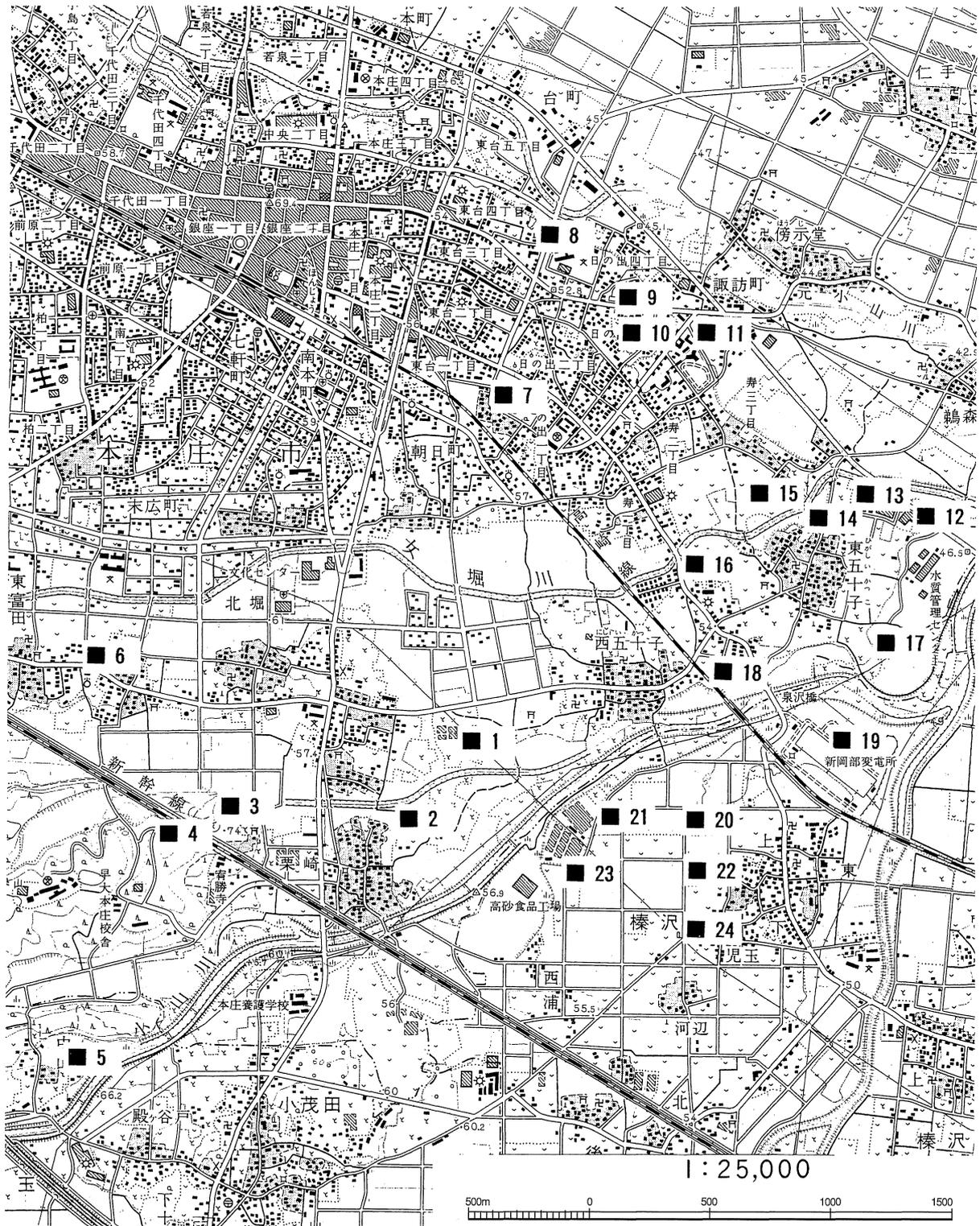


図1 埼玉県の地形



1. 西五十子古墳群 2. 東本庄遺跡 3. 有勝寺北裏壇輪窯跡 4. 前山1・2号墳 5. 塚本山古墳群
6. 公卿塚古墳 7. 塚合古墳群 8. 薬師堂遺跡 9. 御堂坂遺跡 10. 御堂坂古墳群 11. 諏訪新田遺跡
12. 東五十子城跡遺跡 13. 赤坂壇輪窯跡 14. 東五十子赤坂遺跡 15. 鷺森古墳群 16. 西五十子大塚遺跡
17. 東五十子遺跡 18. 西五十子台遺跡 19. 六反田遺跡 20. 稻荷前遺跡 21. 大寄A遺跡
22. 西浦北遺跡 23. 大寄B遺跡 24. 宮西遺跡

図2 周辺の遺跡

(2) 歴史的環境

西五十子古墳群において確認された遺構は、5世紀末から7世紀前半にかけての古墳群、古墳時代の集落、15世紀代を中心とする中世の遺構群に大別される。以下では、付近の古墳・集落遺跡・中世の遺跡の様相を概観し、歴史的環境の理解としたい。

古墳

大久保山丘陵に立地する前山1号墳は、近年の範囲確認調査により、後円部に葺石を備え、全長70前後の墳丘をもつ前期末葉の前方後円墳となることが確認されている。近接の前山2号墳は中期前半の方墳で、粘土槲状の埋葬施設が確認されている。やや年代の降る公卿塚古墳は格子タタキ技法による埴輪を出土する直径60mの大型円墳である。5世紀後半段階では岡部町四十古墳が短甲・銅製鏡付鏡板付轡・鉄製楕円形鏡板付轡などを副葬する首長墳である。古式群集墳の形成も、この時期に開始され、塚合古墳群・美里町塚本山古墳群では、B種ヨコハケ調整、窯焼成による円筒埴輪の樹立が確認できる。小山川左岸の台地上に位置する東五十子古墳群は、これにやや遅れる大規模群集墳で総計50基以上を数え、群構成は西五十子古墳群に近似する。新式群集墳としては、本庄台地北縁の御堂坂古墳群、女堀川左岸の台地上に鶴森古墳群が所在する。また、塚合古墳群・東五十子古墳群でも6世紀末葉から7世紀前半にかけて古墳の築造が継続している。終末期の首長墳は、近隣に認めないものの、小山川対岸の台地状に立地する深谷市前原愛宕山古墳は有力な候補である。

集落遺跡

本遺跡東北方の台地縁辺に存在する東五十子田畑屋敷遺跡では、4～9世紀の大規模な集落が展開し、その北方に隣接する東五十子城跡遺跡では多量の鉄製農具を保有する5世紀後半の竪穴住居が検出され注目される。本庄台地北縁の段丘崖沿いには薬師堂遺跡・御堂坂遺跡・諏訪新田遺跡など古墳時代中期から平安時代にかけての集落が分布し、本遺跡西方の男堀川沿いには新田前遺跡・久下前遺跡・久下東遺跡・下田遺跡など4～9世紀の集落が微高地上に展開している。いっぽう、南方の小山川沖積地には東本庄遺跡・古川端遺跡があり、また、東方の小山川右岸の低地帯には、深谷市六反田遺跡・稻荷前遺跡・大寄A・B遺跡・宮西遺跡など古墳時代から平安時代にかけての集落が連続する。

中世の遺跡

15世紀代の遺物を出土する遺跡は小山川に沿う本庄台地の縁辺部を中心に点在している。東五十子城跡遺跡は、五十子陣の中核部をなす位置にあり、かつて土塁が存在したと伝えられ、また、工事などに伴い数次にわたって該期の遺物が出土している。西五十子台遺跡では、板碑と宝篋印塔で囲われた遺構の中から焼土、灰とともに多量のかわらけが検出されている。男堀川右岸の自然堤防上に立地する東本庄遺跡でもこの時期の区画溝の一部と、多量のかわらけが投棄された土壌が検出されている。

いっぽう、女堀川右岸の台地上には東五十子赤坂遺跡・西五十子大塚遺跡が存在する。東五十子赤坂遺跡では土壌が検出され、かわらけとともに、細片ながら、青磁椀、火鉢、瓦灯が出土している。西五十子大塚遺跡でも、明確な遺構には伴わないものの、かわらけの出土が認められる。小山川を挟んで対峙する東五十子・六反田遺跡の2遺跡では、溝・井戸・土壌などから中世陶器・かわらけ・石臼・板碑・火鉢など大量の遺物が出土し、遺構・遺物の組成において相似た内容を見せる。以上の遺跡は、多量のかわらけを伴う例が多く、五十子陣に関係する一連の遺構群と考えられる。

Ⅲ 調査の成果

1 遺跡の概要

西五十子古墳群は本庄台地南側の縁辺部にあつて、調査区中央には北西から南東方向に走行する浅い谷地形が入り、多くの遺構はこの谷地形を挟んだ両側に分布している。遺構の確認面は、台地を形成するローム層の上面である。

西五十子古墳群では、これまで発掘調査において、3基の古墳が確認されているのみであった。ただし、周辺の畑地においては広範に埴輪の散布が認められることから、従前から付近には相当規模の古墳群の存在が予測されていた。今回の調査においては、古墳時代中期末葉から終末期にかけての大規模な群集墳が確認されたのをはじめ、あらたに古墳時代前・中期の竪穴住居、中世の方形竪穴状遺構のほか井戸・土坑・溝などの遺構の存在も明らかとなった。以下、遺構の性格別に、調査成果の概要について述べる。

古墳は63基を検出した。古墳は調査区中央の谷を避け、大きく南北に別れて分布している。墳形は帆立貝形古墳1基を除き、すべて円墳である。墳丘盛土、墳丘下旧表土、埋葬施設は完全に削平を受けて消滅している。周堀は掘り方が明瞭で整円を呈し全周するものと、掘り方が浅く不整形で断続的にめぐるものとに二分される。遺物は埴輪・土師器・須恵器・鉄鏃・直刀を検出した。円筒埴輪の一部は樹立原位置において転倒・破断した状態で検出されている。形象埴輪は細片が多く、また配列復原の可能な出土状況を示す事例はなかった。器種には家・器財・人物・馬・鳥などがある。年代は5世末葉と、6世紀後半から7世紀初頭の二時期に別れる。前者はとくに典型的な古式群集墳と認識しうるものである。なお、一部の周堀覆土中にHr-FAの堆積を認めた。なお、古墳以外に埴輪集中1基を確認したほか、溝・土坑など後代の遺構からも埴輪片を出土している。また、南側の台地縁辺部の崖際に所在する古墳は、完存しないものがあることから、かつては現在よりも南方へ発達していた台地上にも古墳が存在したことが推測される。

住居は26基を検出した。分布は調査区南側に集中する。本庄台地では数少ない古墳時代前期の住居が含まれる点は注目される。

方形竪穴状遺構は中世の遺構である。遺物はほとんど伴わないが、周辺遺跡で検出されている中世の方形竪穴状遺構と同形であり、五十子陣関連の遺構の一部と推定される。

土坑・溝は遺物が少なく時期の不明なものが多い。溝の覆土中には白色パミスが混入したり、Sa-A(浅間Aパミス)の純層が発達することから、所属時期が近世以降に降下するものも多い。土坑の中には鉄鏃・直刀・馬具など古墳副葬品と同種の遺物を出土するものがあり、人骨を伴わないものの、古墳に付随する副次的な埋葬坑としての性格を有するものも含まれると推測される。また、時期不詳の落とし穴や近世墓も含まれ、その性格は多様であったと考えられる。

なお、縄文時代に帰属する遺構は、明瞭には存在せず、縄文土器の細片のみを散発的に検出している。すべて古墳周堀・住居・方形竪穴状遺構、溝、井戸、土坑など後代の遺構の覆土から出土している。土器の所属時期は断続的ながら前期から後期におよぶ。かつては存在していた当該期の遺構は、長期の風化作用による地表面の浸食に伴い、すべて消滅している。

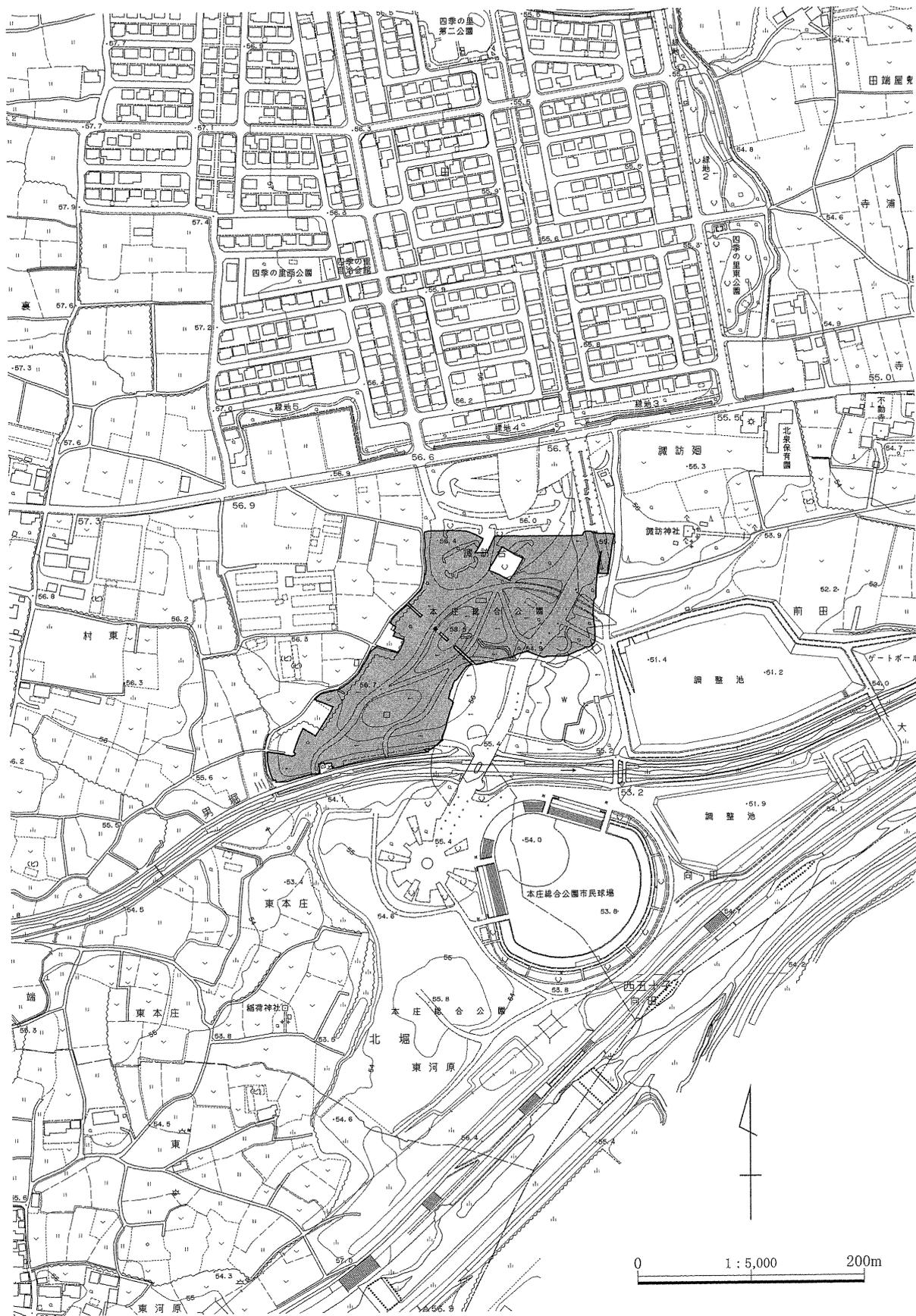


図3 遺跡の位置

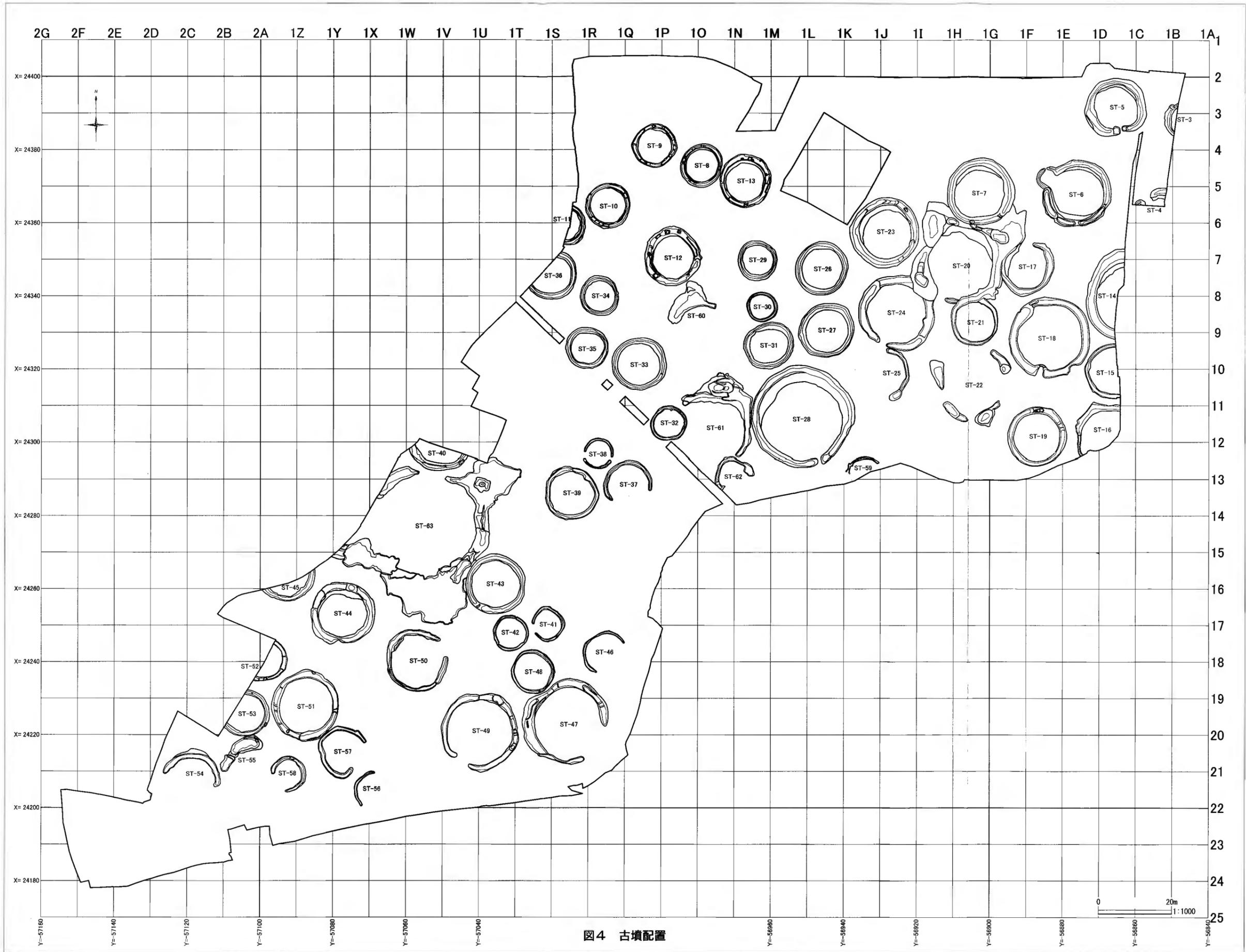


图4 古墳配置

2 古墳

古墳は63基を検出した。古墳は調査区中央の谷を避け、大きく南北に別れて分布している。台地縁辺部の崖際に所在する古墳には、崖の形成によって切られ、完存しないものがあることから、かつては現在よりも南方へ台地が延び、さらに多くの古墳が存在した可能性が考えられる。

墳形は帆立貝形古墳のST-6を除き、他はすべて円墳である。墳丘盛土、墳丘下旧表土、埋葬施設は完全に削平を受けて消滅している。周堀は掘り方が明瞭で全周するタイプと、掘り方が浅く不整形で断続的にめぐるタイプとに二分される。後者のなかには周堀の深掘り部分だけが残り、一見関連性のない複数の不連続な土坑となっている例もある。遺物を伴わない古墳もあるが、前者の多くは中期末葉に築造時期の中心があり、木棺直葬など堅穴系埋葬施設を備える古式群集墳を形成し、後者は後期後葉から終末期にかけての築造と考えられ、埋葬施設に横穴式石室を備える新式群集墳を成している。ただし、後期前半から中葉にかけての築造と考えられる古墳は、調査の範囲には存在せず、群集墳の造営が中断する時期が存在するようにみえる。古墳群内における両者の分布域は、明瞭に区分されるわけではなく、しかも先行して築造された古墳の空間に、周堀を重複するようにして新しい古墳が占地している状況が随所で確認されることから、複数の集団が一定の造墓空間を占有し、その空間内において断続的な造墓活動を展開していたことが伺える。

古式群集墳段階の墳丘規模は、最大がST-28の径約25m、最小がST-30の径約7mであるが、多くは径10～15mの範囲に収まる。遺物には、円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪・土師器・石製紡錘車・直刀・鉄鏃などがある。ST-6・ST-7・ST-44では樹立位置において転倒・破断した状態で複数の円筒埴輪が検出されている。円筒埴輪は帆立貝形古墳のST-6を含め、すべて2条突帯3段構成品で統一されている。二次調整を施す個体は含まれず、透孔も半円形で揃えられている。形象埴輪は細片が多く、配列復原の可能な出土状況を示す例はみられない。器種は家・人物・馬・鶏がみられる程度で、樹立個体数もさほど多くはなかったと推測される。土師器は坏・壺類が中心で、とくに壺は有稜口縁と球状の胴部を特徴とする須恵器甕の模倣形態である。ST-43の直刀・ST-49の鉄鏃は周堀覆土からの出土であるが、ともに周堀内埋葬の痕跡は確認できなかった。一部の周堀覆土にHr-FAの堆積を認める。新式群集墳段階の墳丘規模は、ST-63の径約32mが最大で、周堀が全周せず、墳丘規模の不明な古墳も多い。遺物は土師器・須恵器が中心で、埴輪を伴う古墳は確認できない。ST-22では完形品を含む須恵器高坏・フラスコ形長頸壺・提瓶・土師器壺・甕などの土器一括を検出している。周堀内や周辺の溝・土坑からは横穴式石室の構築に使用されたとされる角閃石安山岩の河原石が出土している。

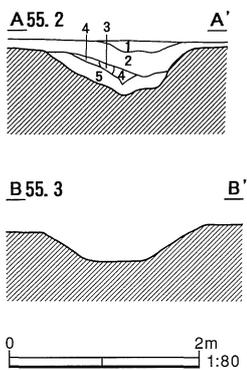
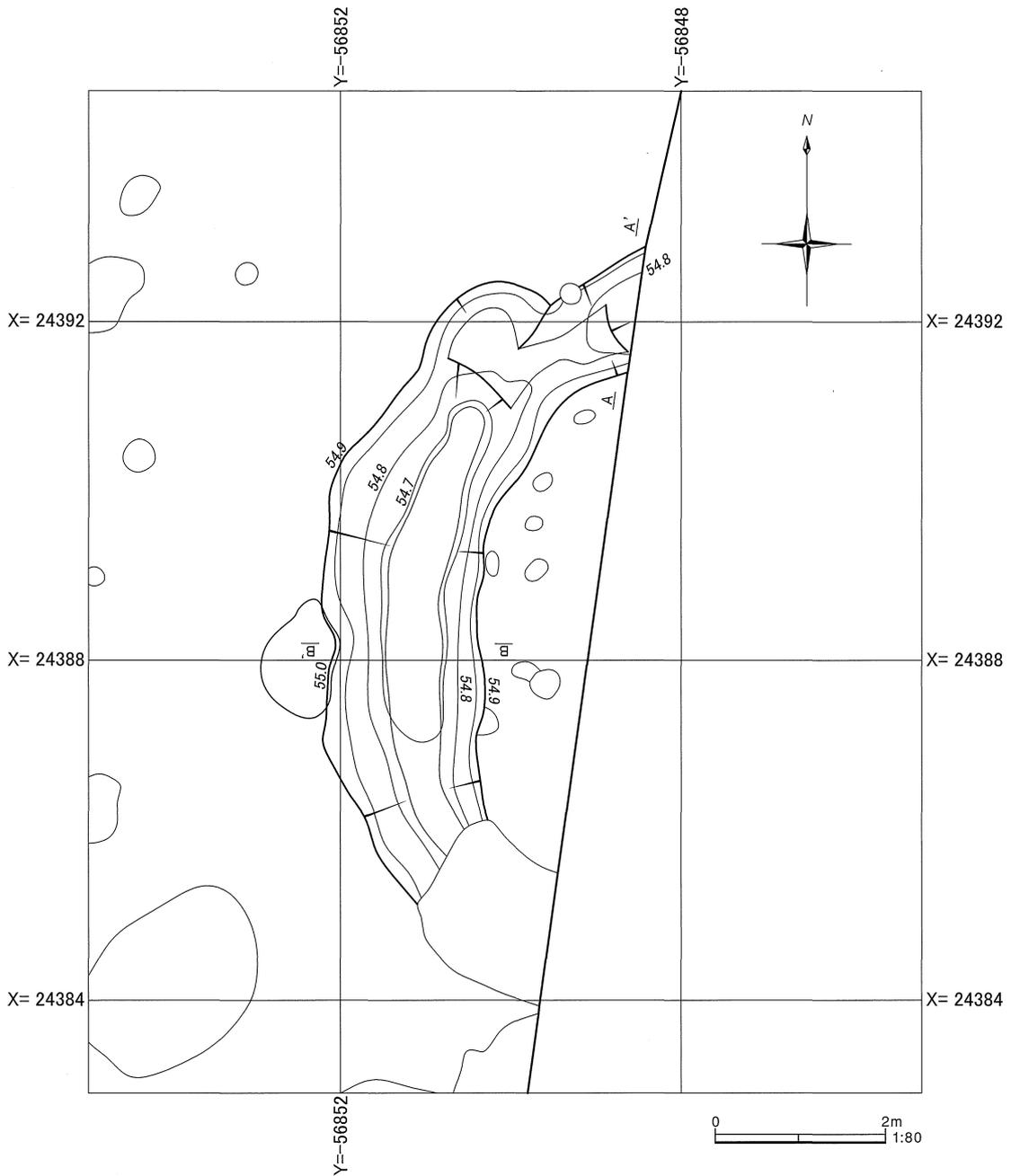
ST-3

(1) 遺構 (図5、写真10)

位置：調査区の北東端にあって、1A-2・3、1B-2・3グリッドに位置する。南側の台地縁辺からは最も離れた位置にあり、西側に隣接するST-5とともに群の北限をなす古墳である。

形態：墳丘東側3/4ほどが調査区外にあり、全形を確認できないが、円墳と推定される。墳丘部の平面形態は比較的整った円形を呈する。調査範囲の南端は攪乱により破壊を受けている。

周堀は北西側の一角に堀底が浅く、堀幅も大きく変わる箇所がある。周堀覆土は5層に区分される。



ST-3 土層説明

- 1 黒褐色土 黒色土ブロック (径 20 mm 土) を含み斑状に堆積する。白色パミス (径 1 mm 土) ロームブロック (径 1 mm 土) 少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 白色パミス (径 1 ~ 2 mm) ロームブロック (径 1 ~ 10 mm) を含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 暗褐色土 しまり弱。粘性弱。
- 4 黒色土 白色パミス (径 1 mm 土) ロームブロック (径 1 mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 5 暗褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。

図 5 ST-3 平面および周堀土層断面

周堀底面は黒色土の4層で被覆され、これより上には黒褐色ないし暗褐色の土層が堆積している。最下層の4層まで白色のパミスが点々と観察されるが、火山噴出物の層状堆積は、明瞭には観察されない。
規模：墳丘規模は推定径6.5m、周堀は幅1.3～2.3m、深さ20～30cmを測る。

(2) 遺物

遺物は、周堀覆土から、須恵器小型甕1点を検出した。埴輪は出土していない。

a. 土器

須恵器 (図6、写真37)

甕 [1]

底部から胴部にかけての3/4ほどが残るが、口縁部は完全に欠失している。外面調整は全面が平行タタキで、胴部上位にはナデによる多条の横線がめぐ

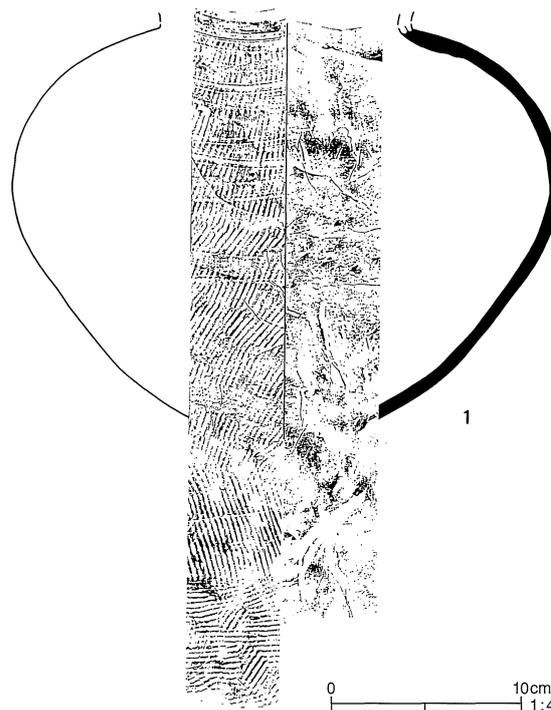


図6 ST-3 出土土器

ST-3 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	上位が膨らむ胴部。底部は丸底	外面-胴部～底部平行タタキ、胴部上位にナデ横線が多条に巡る。 内面-胴部～底部無文の当具痕。	黒色粒・白色粒 内-にぶい黄褐色 外-灰黄褐色	胴部～底部3/4 残存。接合破片の1片内面に赤色顔料付着。

ST-4

(1) 遺構 (図7、写真10)

位置：調査区の東端にあつて、1B-5グリッドに位置する。

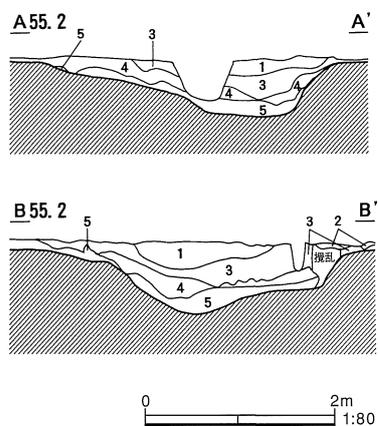
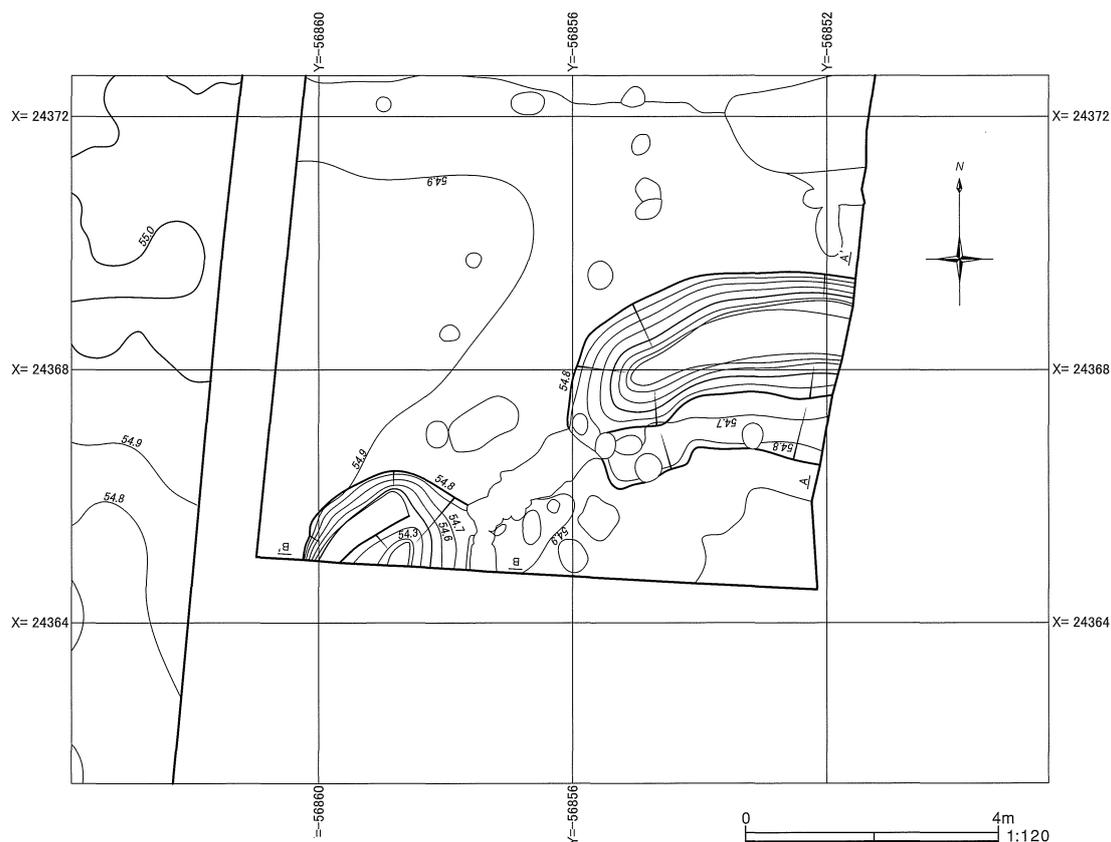
形態：墳丘南半と北東部は調査区外にあり、全形を確認できないが、円墳と推定される。北西側で周堀が途切れ、この部分に陸橋をもつ。墳丘部の平面形態は比較的整った円形を呈する。

周堀底面は、陸橋から東側では平坦であるが、陸橋から南側では内側がいったん深く落ち込んでから墳丘の立ち上がりへ連続している。また、陸橋東側墳丘はいったん急傾斜で立ち上がったのち、中位で角度を変換して緩やかに立ち上がっている。なお、陸橋部分には途切れた周堀を結ぶように、幅が狭く浅い直線的な溝が走るが、近世以降の掘削によるものと判断された。周堀覆土は5層に区分される。周堀底面は黒色土の4層で被覆され、これより上には黒褐色ないし暗褐色の土層が堆積している。2層まで白色パミスの混入を認めるが、火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は推定径約13.0m、周堀は幅2.96m、深さ50～60cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。



ST-4 土層説明

- 1 黒褐色土 黒色土ブロック（径 20 mm 土）を含み斑状に堆積する。白色パミス（径 1 mm 土）ロームブロック（径 1 mm 土）少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 白色パミス（径 1 ~ 2 mm）黒色土ブロック（径 10 mm 土）含む。しまり強。粘性欠。
- 3 黒色土 白色パミス（径 1 mm 土）ロームブロック（径 1 mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 暗褐色土 ロームブロック（径 1 ~ 20 mm）を多量に含む。しまり弱。粘性弱。
- 5 褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり欠。粘性欠。

図 7 ST-4 平面および周堀土層断面

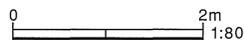
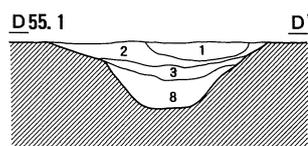
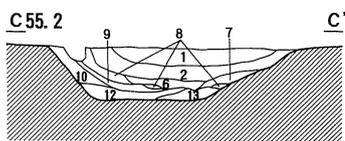
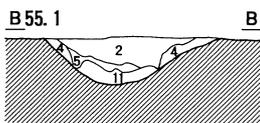
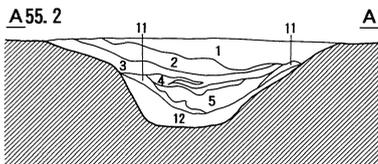
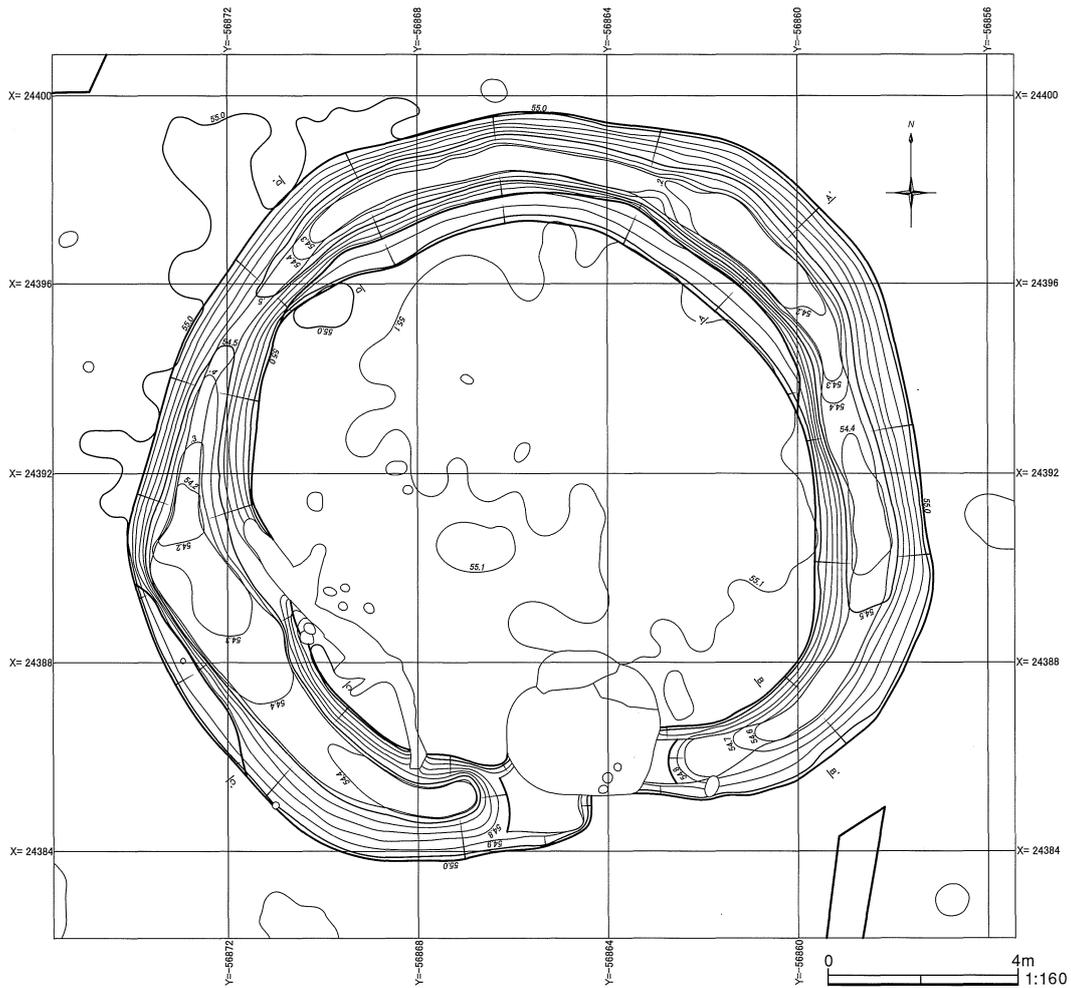
ST-5

(1) 遺 構 (図 8)

位置：調査区の北端にあって、1B-2・3、1C-2・3、1D-2・3 グリッドに位置する。東側に隣接する ST-3 とともに群の北限をなす古墳である。南側にはやや離れて ST-6 が所在する。

形態：円墳である。墳丘立ち上がりが整円を描かず、各所で歪みを生じている。

周堀の幅は北東・南西側が広く、北西側が狭い。また、南側でも周堀幅を減じている箇所があり、この部分に狭い陸橋状の施設が存在した可能性があるが、後代の土壌によって破壊を受け、形状を確認できない。周堀覆土は 13 層に区分される。全体的に、下層にはやや粘性を帯び、ロームブロックを



ST-5土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) を含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) 白色パミスを共に少量含む。しまり普通。粘性欠。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~3mm) を多量に含む。しまり普通。粘性欠。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) 少量含む。土層に比べ赤味に欠ける。しまり普通。粘性欠。
- 6 暗褐色土 ロームブロック (径1mm) を多量に含む。しまり普通。粘性欠。
- 7 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 8 黒色土 黒色土ブロックおよびロームブロックの混合層。しまり弱。粘性弱。
- 9 黒色土 ロームブロック (径1~30mm) を少量含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロック (径1mm±) 多量に含む。
- 11 褐色土 風化ロームの堆積層。しまり弱。粘性ふつう。
- 12 極暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) 黒色土ブロック (径5~15mm) を多量に含み斑状を呈する。しまり弱。粘性やや強。
- 13 褐色土 風化ロームの堆積層。しまり弱。粘性ふつう。

図8 ST-5平面および周掘土層断面

多少含む褐色系の覆土が堆積する。中層以上には粘性・しまりを欠く黒色～暗褐色系の覆土が堆積している。上層にはわずかながら白色パミスの混入を認めるが、火山噴出物の層状堆積は観察されない。規模：墳丘規模は北西－南東方向にやや長く径13.9 m、北東－南西で径12.6 mを測る。周堀幅は1.4～2.9 m、確認面からの深さは20～70 cmと各所で顕著な差がみられる。

(2) 遺物

遺物は、周堀覆土から、石製紡錘車1点を検出した。土器・埴輪の出土はない。

a. 石製品

紡錘車 [1] (図9、写真37)

にぶい黄褐色を呈する片岩製で、調整は全体に粗雑である。各面の境界をなす稜も丸味を帯びている。刻線は存在しない。

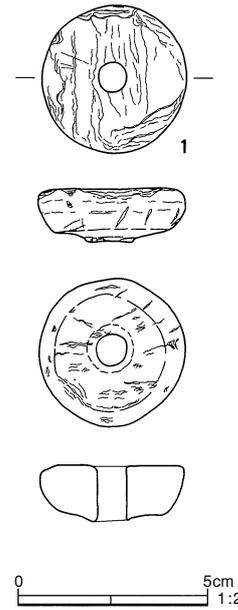


図9 ST-5 出土紡錘車

ST-5 出土紡錘車観察表

No.	器種	法量・材質 (cm)	備考
1	石製紡錘車	上端径：3.9 下端径：3.0 厚さ：1.4 孔径0.8 重さ36.39g にぶい黄褐色片岩製。	完形。

ST-6

(1) 遺構 (図10)

位置：IC-4・5、1D-4・5・6、E-4・5・6グリッドに位置する。

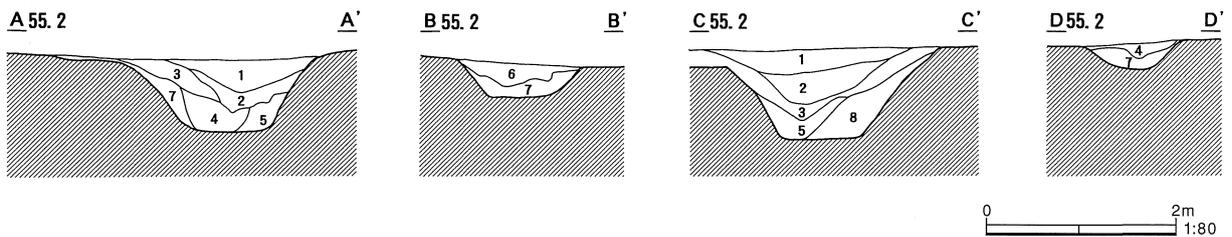
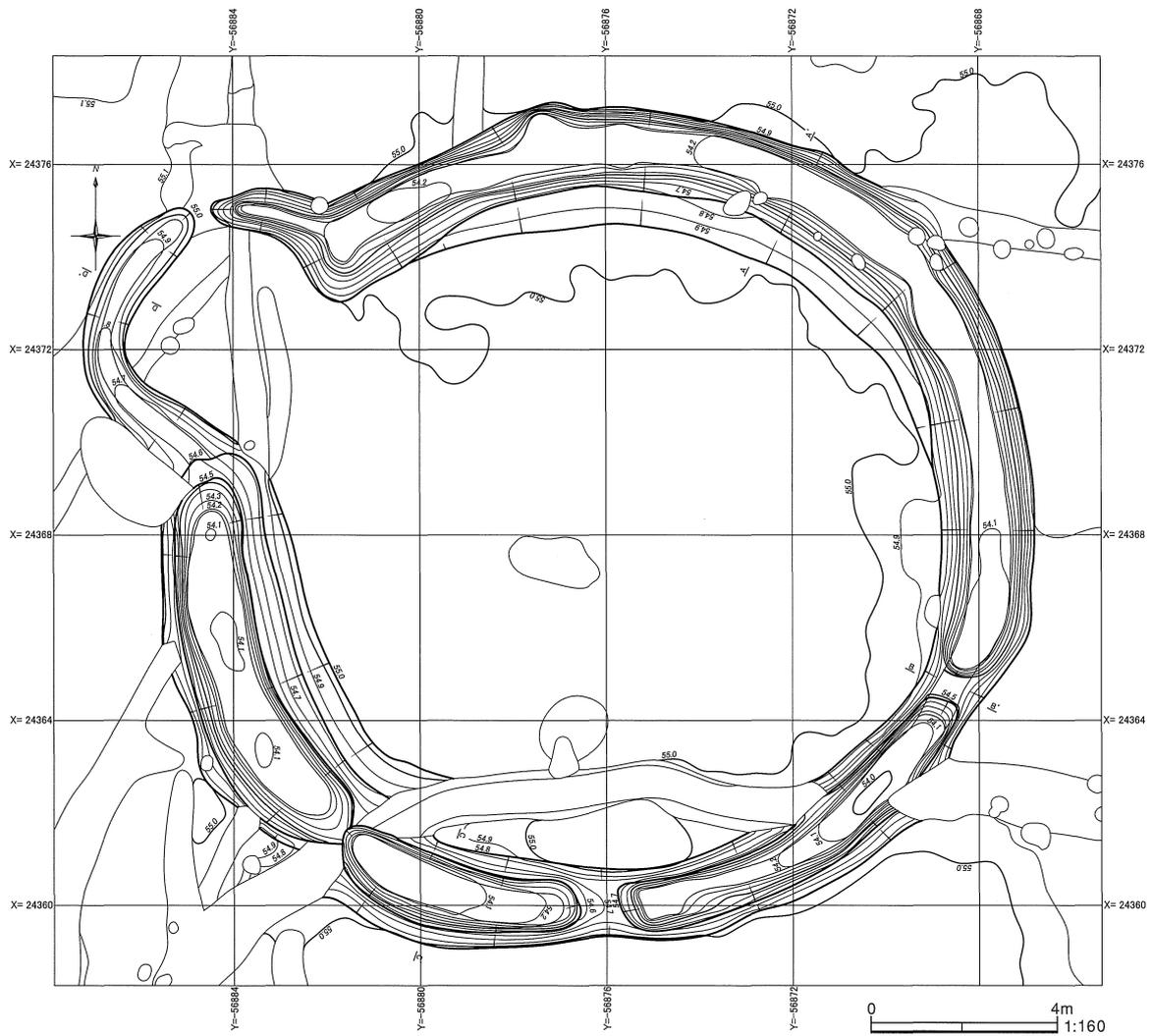
形態：西五十子古墳群では、これまで確認された中で唯一の帆立貝形古墳である。墳丘立ち上がりは整円を描き、造出部を北西に向けている。北側と南西側の墳丘外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設を形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。

周堀は、円丘部南東側で、部分的に狭くなる箇所がみられるものの、おおよそ均一の幅でめぐる。造出部では大きく幅を減じ、北隅には周堀の途切れる箇所があって、この部分に陸橋状の施設が存在する。周堀底は円丘部北半が平坦であるのに対し、南半は高低の差が顕著で、3箇所周堀底の浅くなる部分がみられる。造出部の周堀は前面および右側面側が浅く、左側面側が深い。周堀覆土は8層に区分される。下層には、ロームブロックを多量に含む暗色系の覆土、中層以上には黒褐色・黒色系の覆土が堆積する。1・2層にわずかながら白色パミスの混入を認めるが、明瞭な火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は全長19.5 m、円丘部径、15.5～16.5 m、造出部幅5.1 mを測る。周堀は円丘部で幅1.4～2.2 m、深さ80～90 cm、造出部では幅1.0～1.2 m、深さ10～70 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は、埴輪・土師器・石製紡錘車を検出している。とくに円筒埴輪1・3・4および朝顔形埴輪19は、墳丘外縁のテラス面の原位置において崩れたような状態で出土し、周堀覆土最上層の黒色土からも、多数の埴輪片が出土している。また、土師器・石製紡錘車は円丘部西側周堀の括れ部に近い位置



ST-6 土層説明

- | | |
|--|---|
| <p>1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠</p> <p>2 黒褐色土 白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>3 黒褐色土 ロームブロック (径1~3mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>4 黒褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。</p> | <p>5 黒褐色土 ロームブロック (径1~3mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。</p> <p>6 極暗褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり普通。粘性欠。</p> <p>7 褐色土 風化ロームの堆積層。</p> <p>8 極暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) 黒色土ブロック (径5~15mm) を多量に含み斑状を呈する。しまり弱。粘性やや強。</p> |
|--|---|

図10 ST-6平面および周堀土層断面

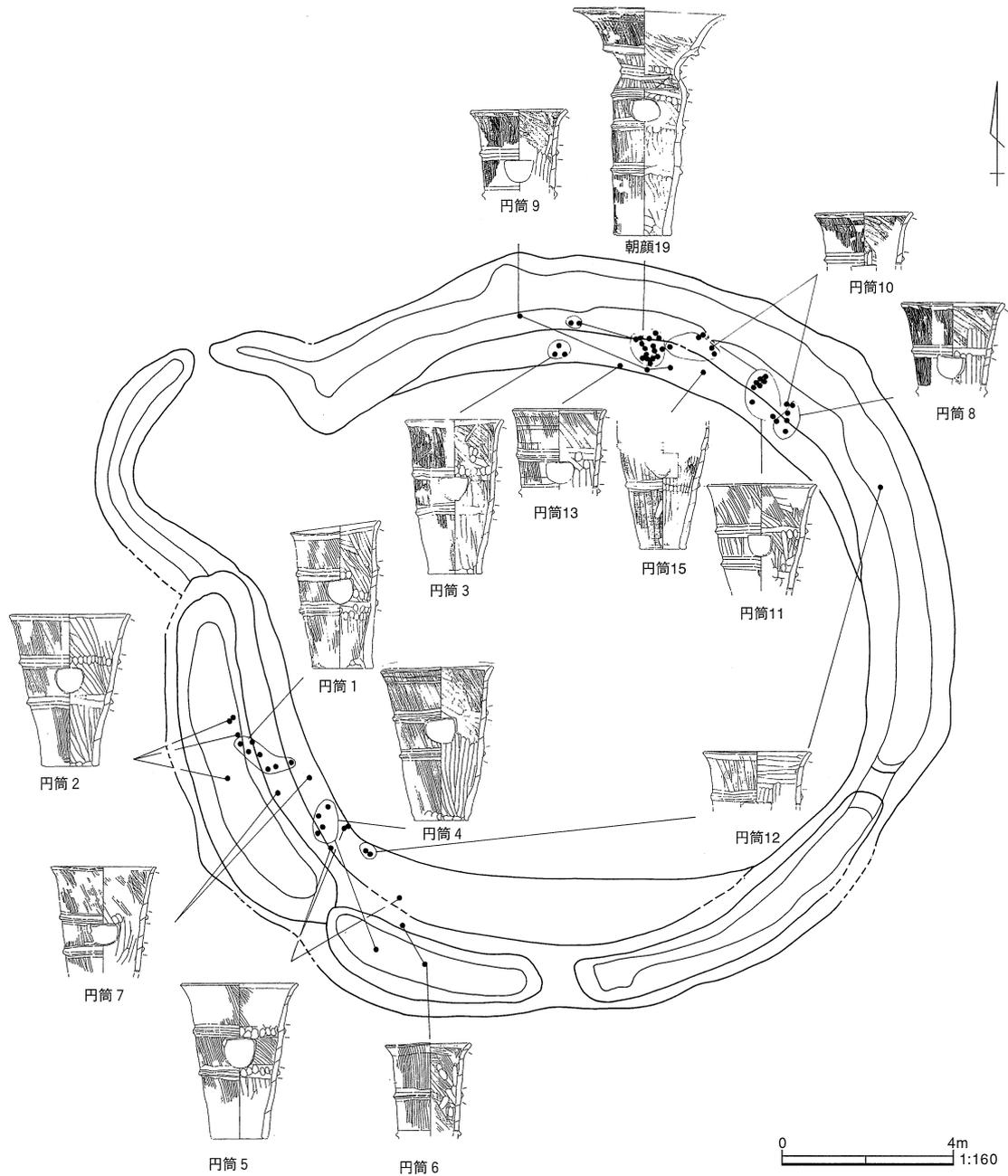


図11 ST-6 埴輪分布

で出土している。造出部の周堀覆土からは遺物は検出されていない。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1～18] (図12～15、写真23～25)

すべて2条突帯3段構成で占められている。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は、確認される範囲において、すべて半円形である。突帯は総じて貧弱で、断面が三角形となった個体も目立つ。第3段の外面に「×」形の刻線を認めるものが多い。

朝顔形埴輪 [19] (図15、写真25)

胴部は3段構成で、第3段に大型の半円形透孔が一对穿たれる。肩部は幅が狭く、円筒埴輪と同様な「×」形の刻線が1箇所描かれる。口縁部は中位で内側に屈曲して立ち上がり、口唇部は外側へ大

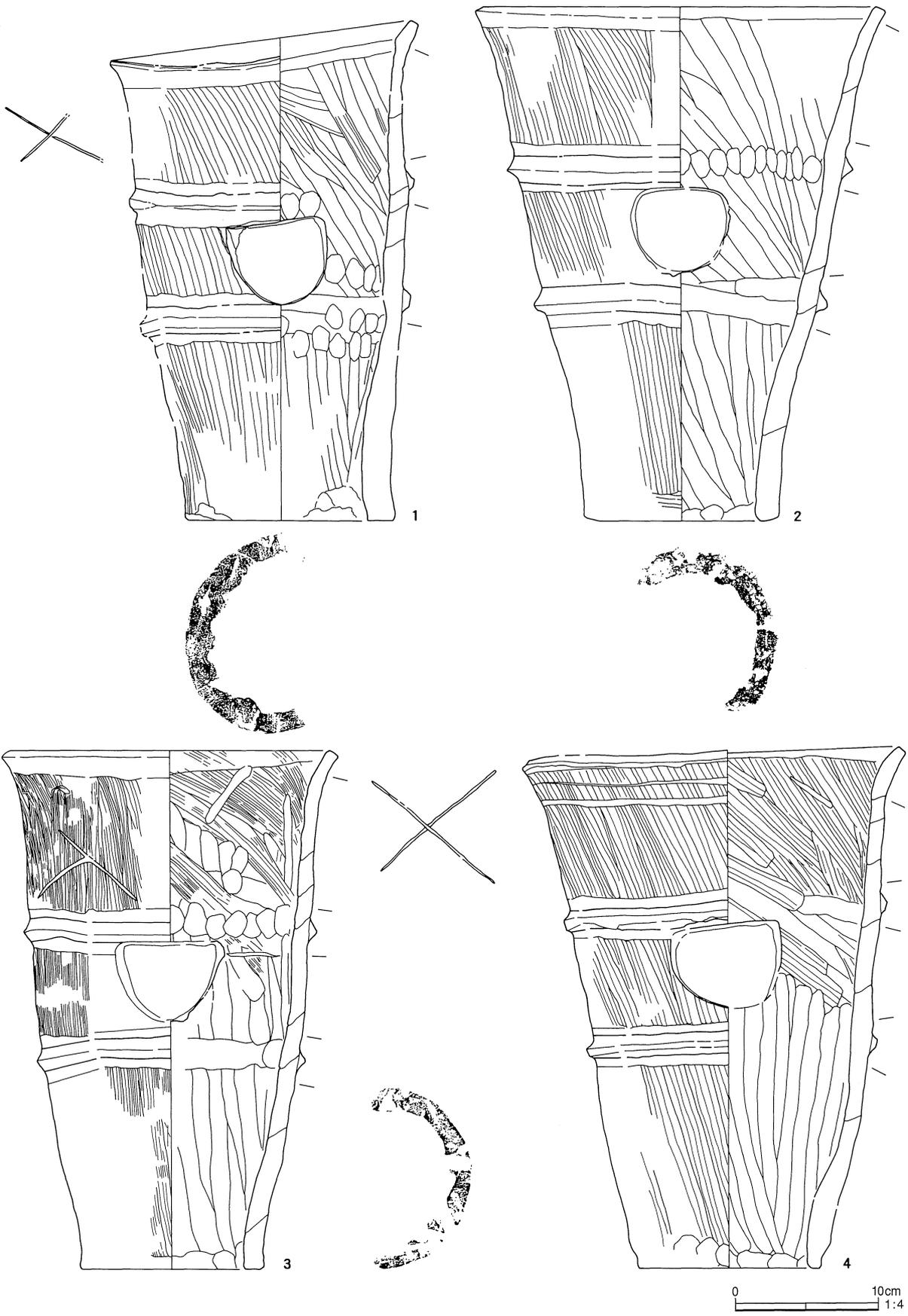
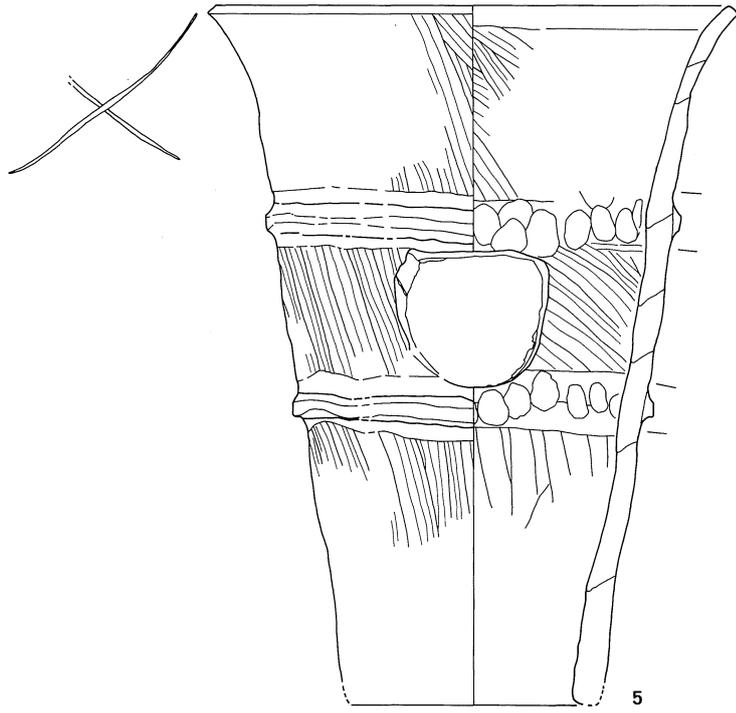
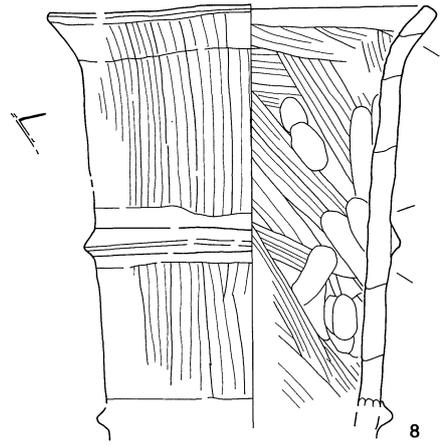


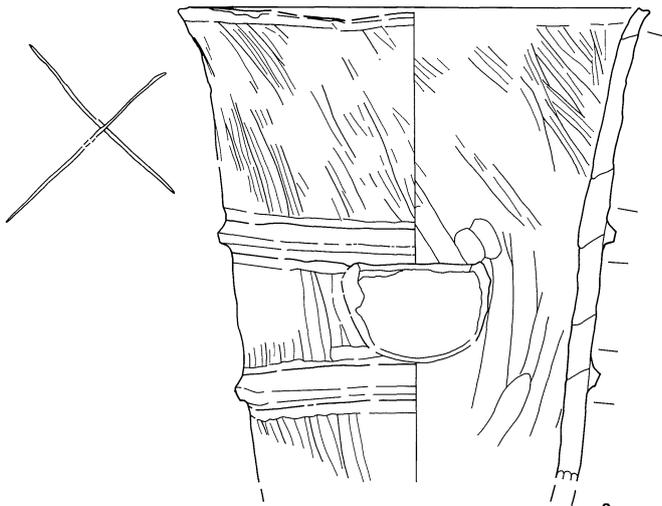
图 12 ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)



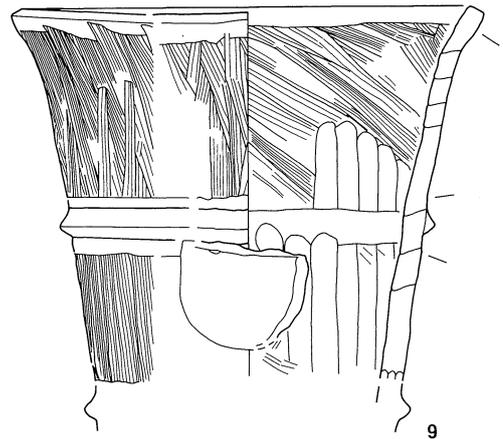
5



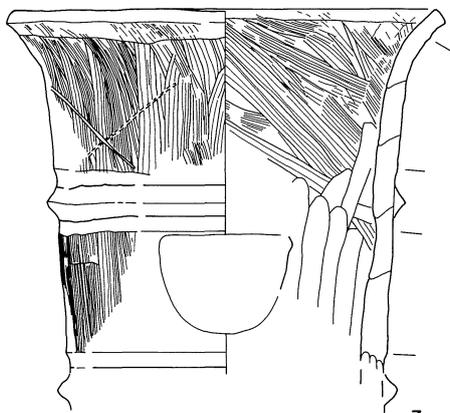
8



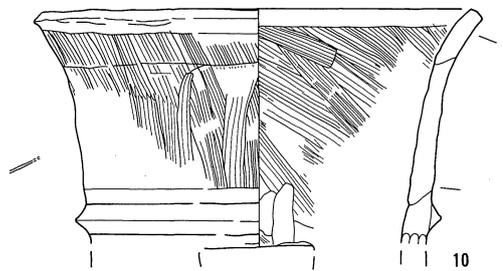
6



9



7



10



图 13 ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)

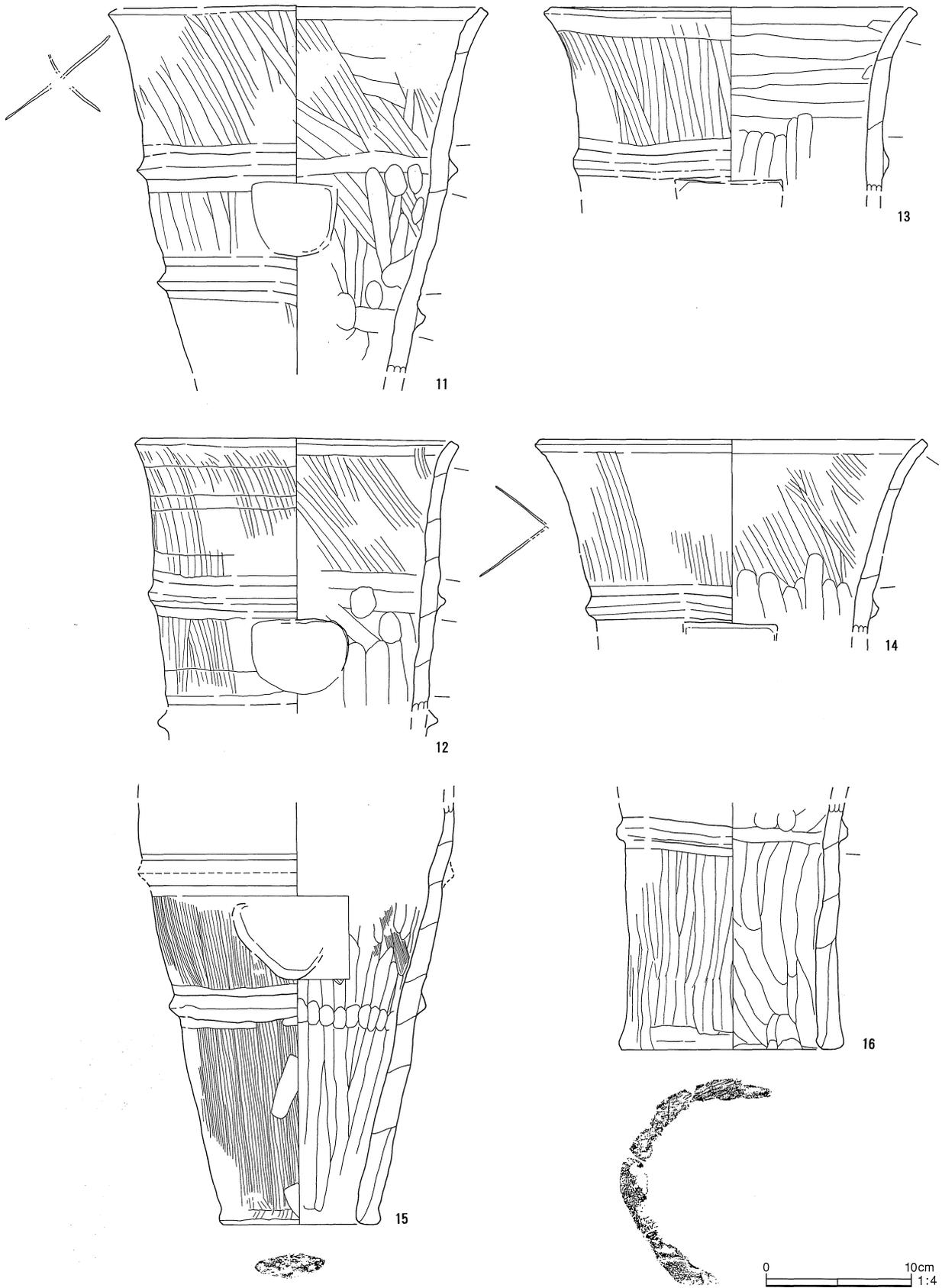


图 14 ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪 (3)

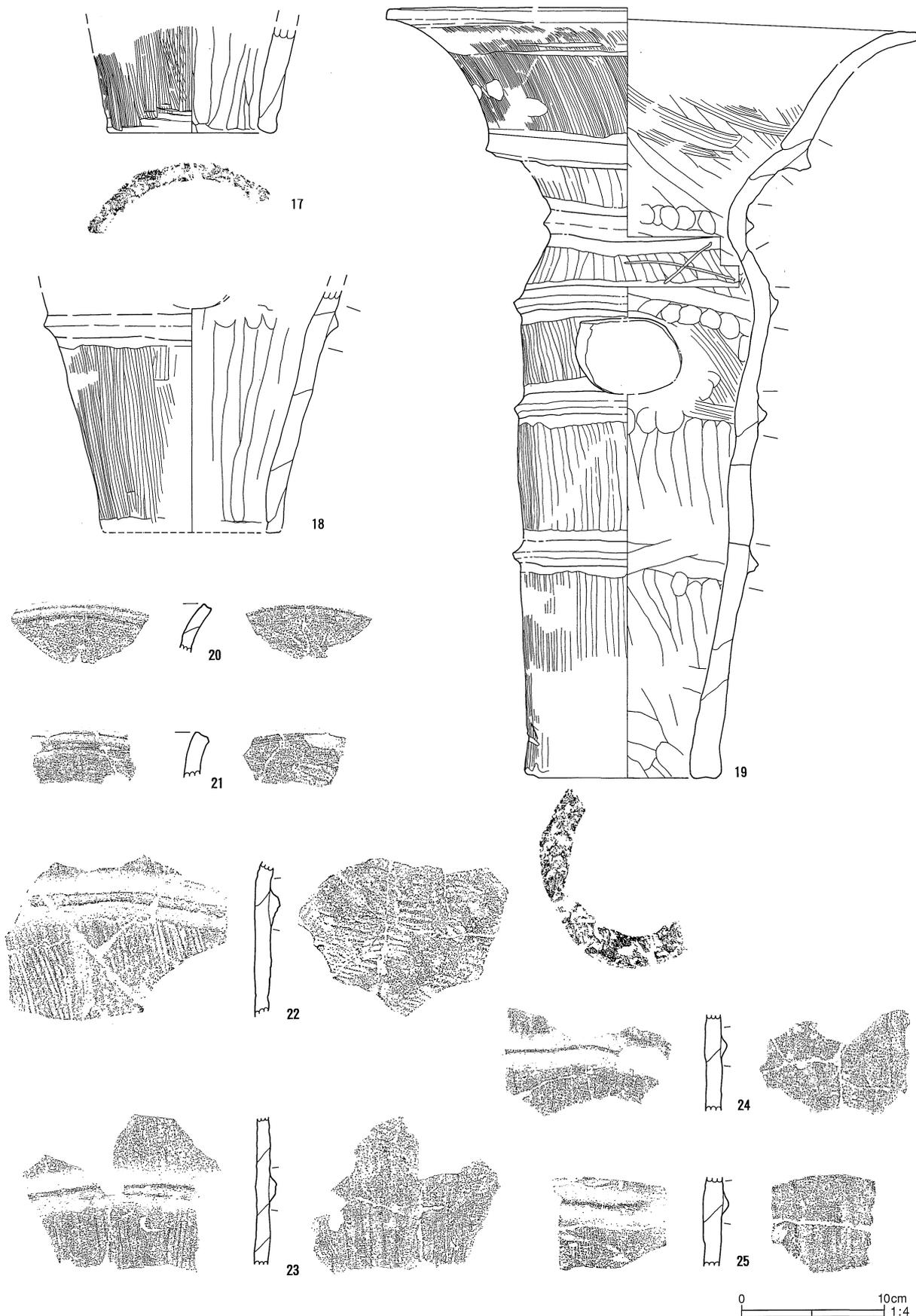


图 15 ST-6 出土卣筒·朝顔形埴輪 (4)

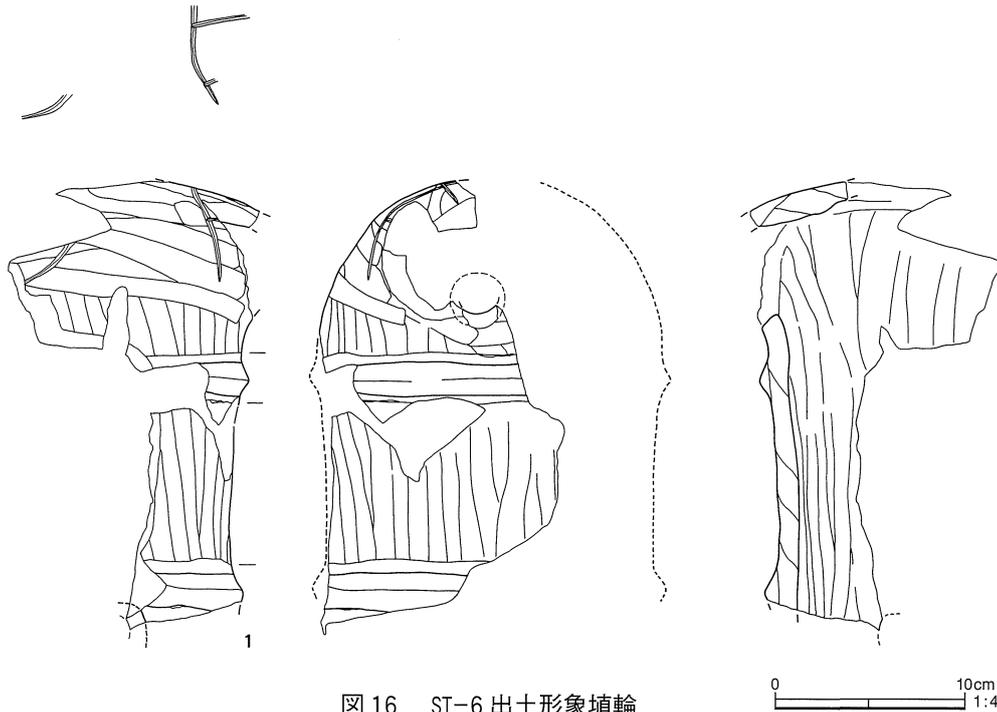


図 16 ST-6 出土形象埴輪

大きく湾曲する。外面調整は全体に目の粗い刷毛目工具で施されているが、口縁部上段外面のみは、他とは別種の目の細かな刷毛目工具が用いられている。内面調整は胴部第2段までが縦位のナデ、胴部第3段以上はハケとナデが併用されている。

形象埴輪（図 16、写真 25）

鶏 [1]

体部左後方から尾羽の付根にかけての破片である。翼と尾羽は刻線で表現される。翼は左側の一部がわずかに残る。尾羽の部分は筒状に造形され、尾羽の下方には小穿孔が存在する。調整は内外面とも丁寧なナデが施され、一部に赤色顔料の塗布が認められる。台部は2段が残るが、下段には透孔が認められることから、3段以上の高さに復原される。

b. 7 器

土師器（図 17、写真 37）

坏 [1・2]

1は内斜口縁坏で、丸底の底部と深い体部をもつ。2は須恵器坏蓋の模倣坏で、口径 15.8 cm を測る大型品である。一般的な法量の坏蓋模倣坏に比較して、やや胎土が粗い。

壺 [3]

口縁部中位に稜をもつ須恵器甕の模倣形態である。胴部中位以上は丁寧なナデが加えられているのに対し、下半にはヘラケズリの痕跡を明瞭に残す。

c. 石製品

紡錘車 [4]（図 17、写真 37）

黒緑色を呈する蛇紋岩製の紡錘車で、各面とも丁寧に磨きだされている。側面には工具による調整痕が明瞭に観察される。

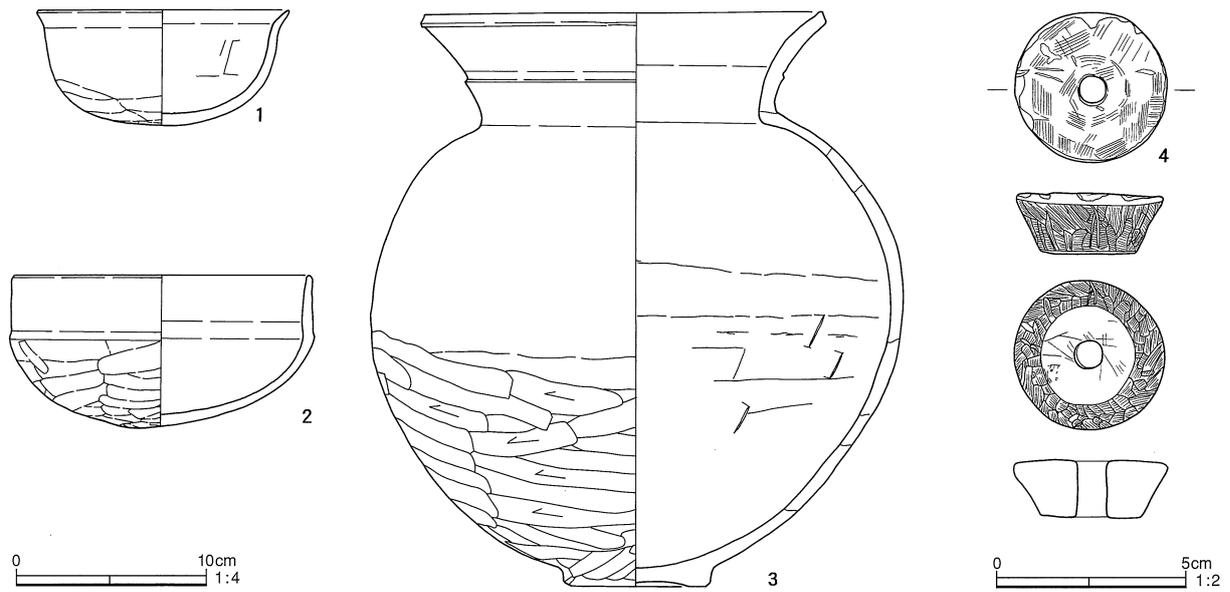


図 17 ST-6 出土土器・紡錘車

ST-6 出土土器・紡錘車観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 13.3 底径 — 器高 6.1	内斜口縁。体部は丸みを持つ。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	粗砂粒・チャート 内—橙色 外—明赤褐色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 15.8 底径 — 器高 8.0	口縁部は体部との境に稜を持ち、直立気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヨコナデ。	黒色粒・白色粒 内—明赤褐色 外—橙色	完形。
3	土師器 壺	口径 21.3 底径 7.7 器高 30.4	大きく膨らむ胴部。口縁部は中位に凹線による段を有し、外反して開く。底部は台状で上げ底。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後に上位をナデ、底部ヘラケズリ後に中央部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外—明赤褐色	ほぼ完形。
No.	器種	法量・材質 (cm)				備考
4	石製紡錘車	上端径：3.9 下端径：2.6 厚さ：1.6 孔径0.7 重さ32.30g 黒色 蛇紋岩製 側面に鑿状工具痕。				完形。

ST-7

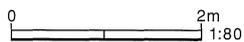
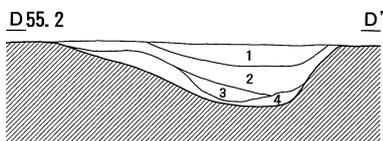
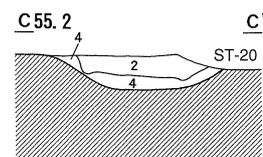
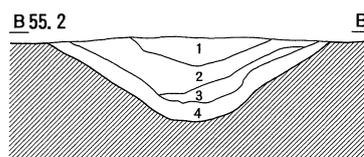
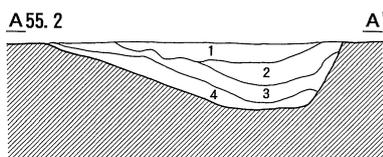
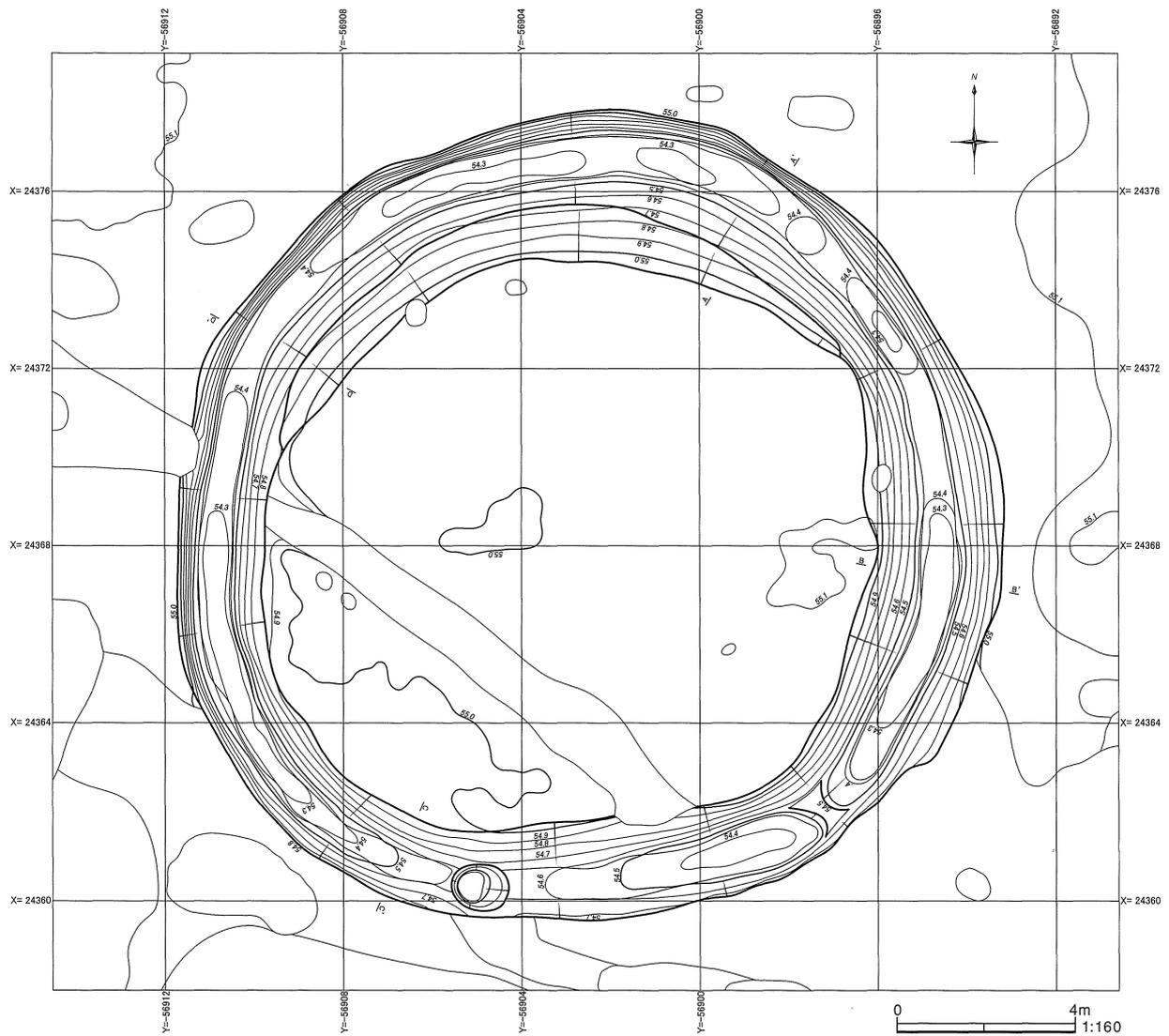
(1) 遺構 (図 18、写真 1)

位置：1F-4・5、1G-4・5、1H-45グリッドに位置する。南側はST-20と切り合っている。

形状：円墳である。墳丘平面形はわずかに歪みがあり、北東—南西方向にやや長い。北側の墳丘外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。

周堀の幅はおおよそ一定しているが、西側がやや狭く、東側が広い。周堀底面はほぼ平坦であるが、南東側に段差が存在する。南側には土坑状の落ち込みが1箇所認められる。周堀覆土は4層に区分される。下層にはロームブロックを多量に含む黒褐色系の覆土、上層に白色パミスを含む黒褐色・黒色系の覆土が堆積している。火山噴出物の層状堆積はとくに観察されない。ST-20の周堀覆土との切り合いは、ST-20が新しく、ST-7が古い。

規模：墳丘規模は、北東—南西方向で径 16.3 m、北西—南東方向で径 15.3 m、周堀は幅 1.7～3.2 m、深さ 30～70 cmを測る。



ST-7土層説明

- 1 黒色土 白色バミス (径1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 白色バミス (径1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~3mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~3mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。

図18 ST-7平面および周堀土層断面

(2) 遺物

遺物は、周堀覆土最上層の黒色土から、埴輪、土師器を検出している。いずれも原位置を保つ状態では検出されていないが、埴丘北・東・南側にそれぞれ遺物の集中する箇所が認められた。とくに

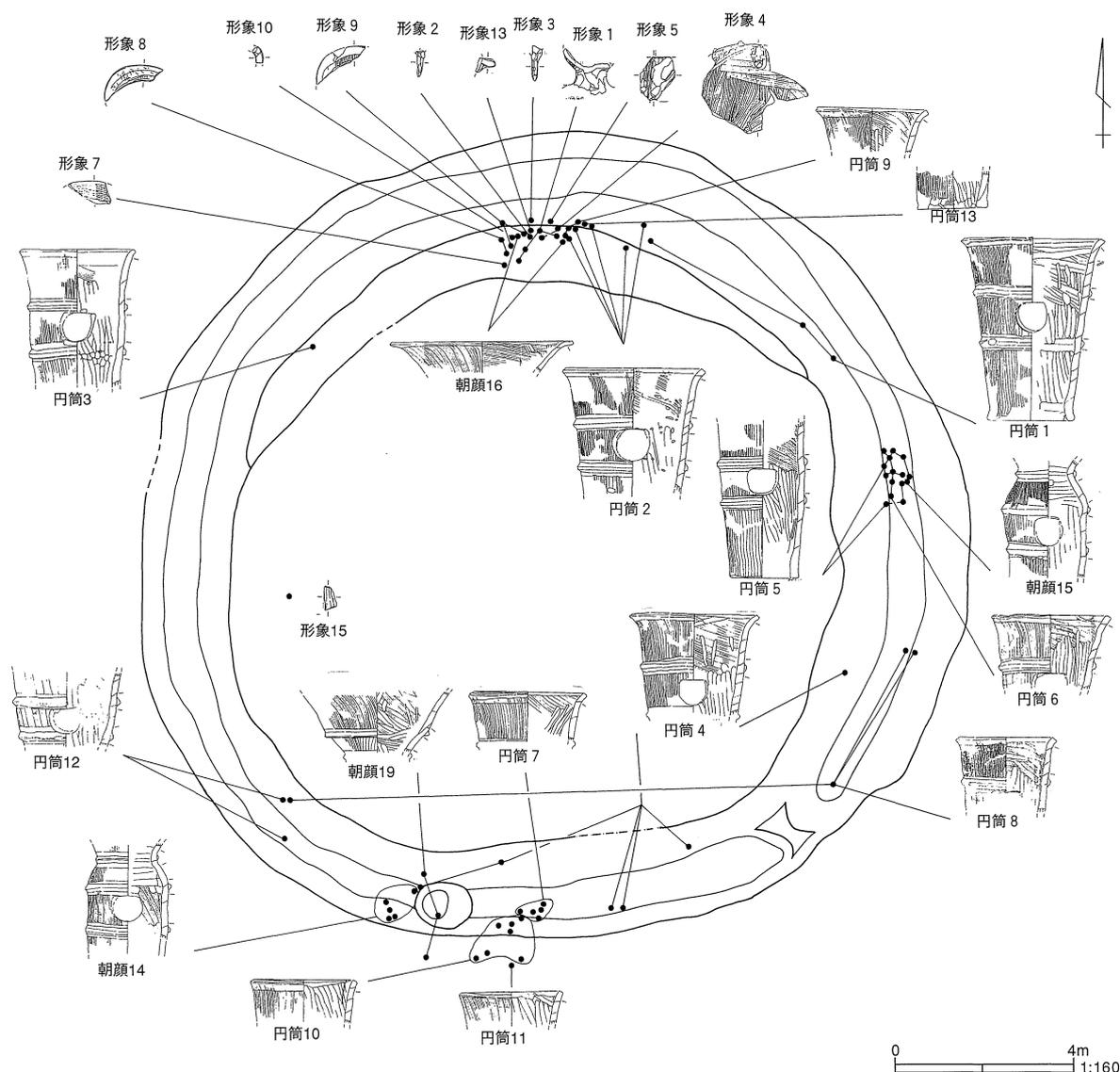


図19 ST-7 埴輪分布

北側では形象埴輪片がまとまって検出されている（図19）。なお、土師器甕5は周堀確認面上層から出土している。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1～13]（図20・21、写真26・27）

すべて2条突帯3段構成品で占められている。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は、確認される範囲において、すべて半円形である。突帯は総じて貧弱で、断面が三角形となった個体も目立つ。1・3・6・7の第3段内面に「×」形の刻線が存在する。また、5の第3段内面上端には弧状、9の同じく第3段内面には縦位の直線状の刻線を認める。4・7の胎土には白色針状粒の混入が認められる。色調は橙色を呈する個体が多く、ほかににぶい橙色・黄橙色を示す個体が混じる。2の第3段外面には赤色塗彩が残る。



图 20 ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)

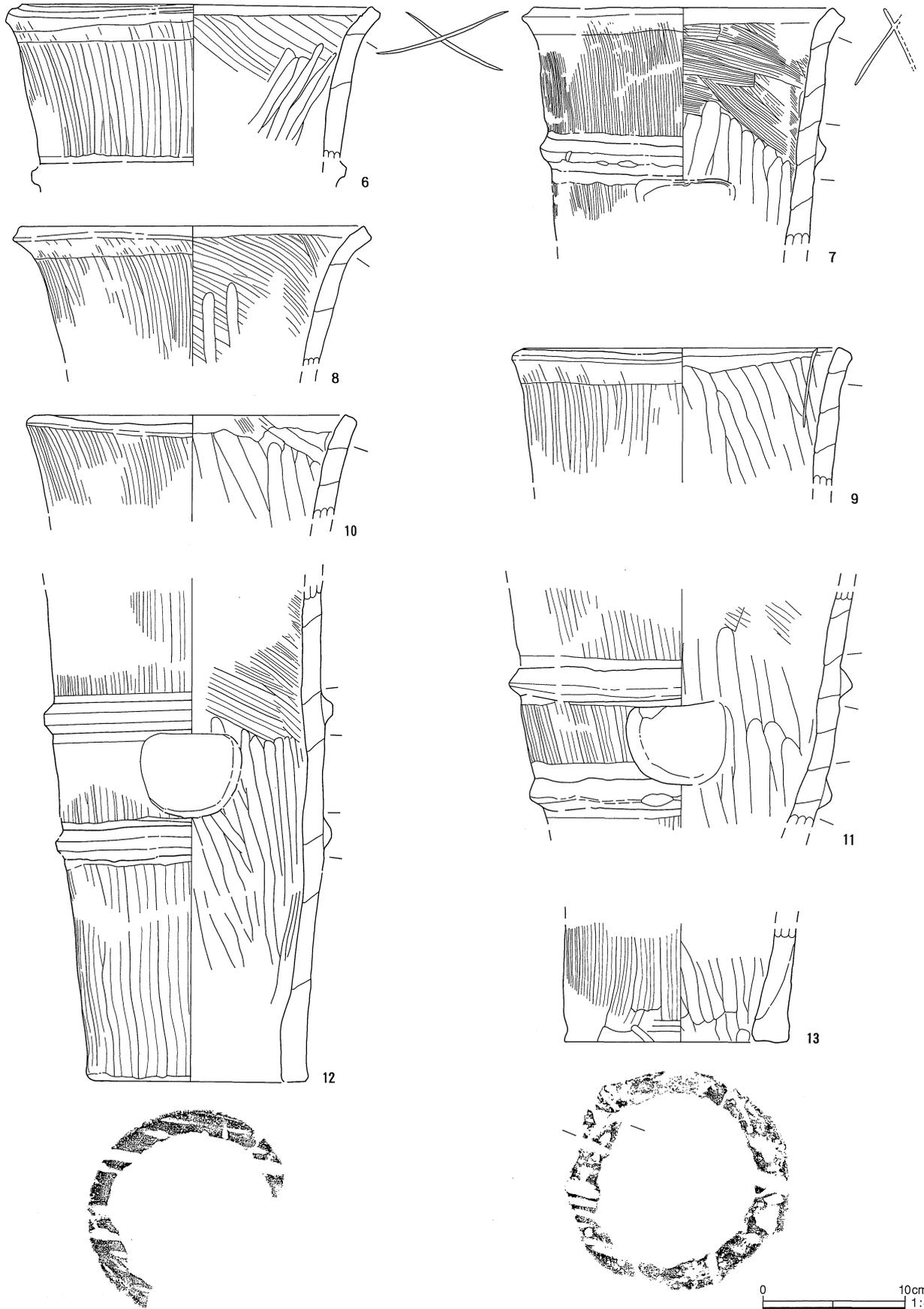


图 21 ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)

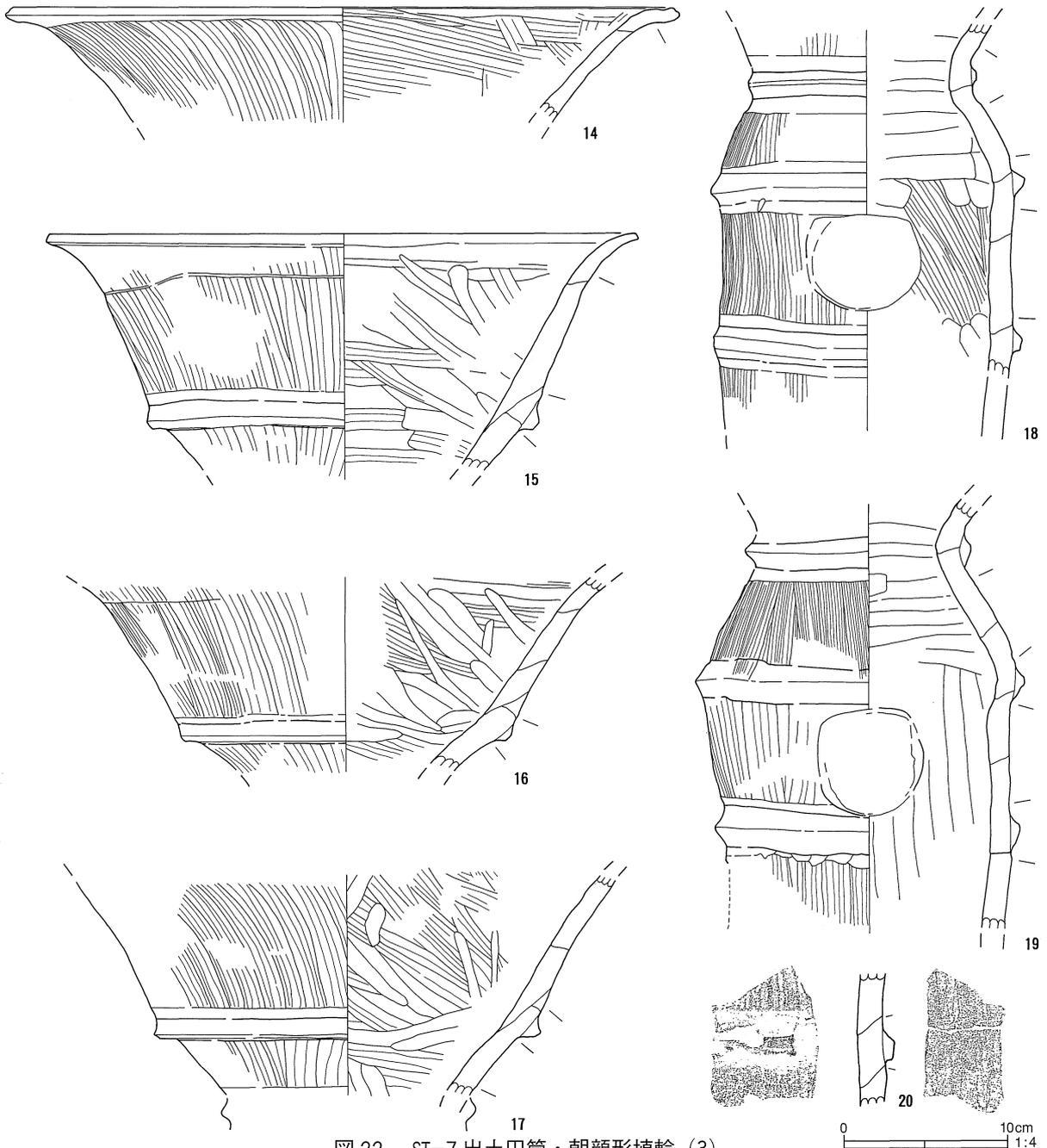


図 22 ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪 (3)

朝顔形埴輪 [14～20] (図 22、写真 27・28)

胴部は段構成の判明する資料がないが、胴径との比から 2 突帯 3 段構成になると推定される。第 3 段に大型の半円形透孔が一对穿たれる。口縁部は中位で内側に屈曲して立ち上がり、口唇部は外側へ大きく湾曲する。外面調整は全体に目の粗い刷毛目工具で施されているが、19 の肩部のみは、他とは別種の目の細かな刷毛目工具が用いられている。内面調整は 18 の胴部が斜位のハケ、19 はナデ。肩部 18・19 とも横位のナデ。口縁部はいずれも斜位のハケとナデが併用されている。

胎土には片岩・チャートを含む。色調は多様で、明赤褐色・橙色・にぶい橙色・にぶい黄橙色などを呈する。

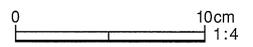
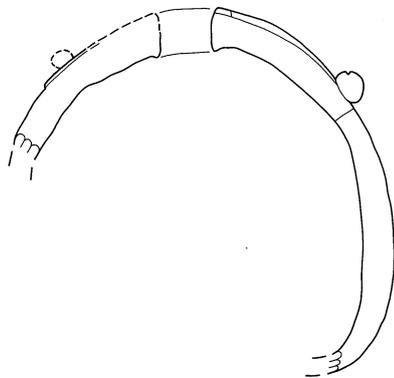
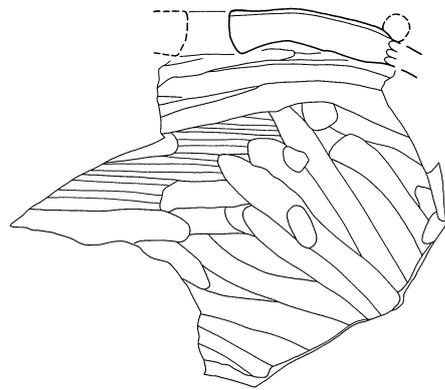
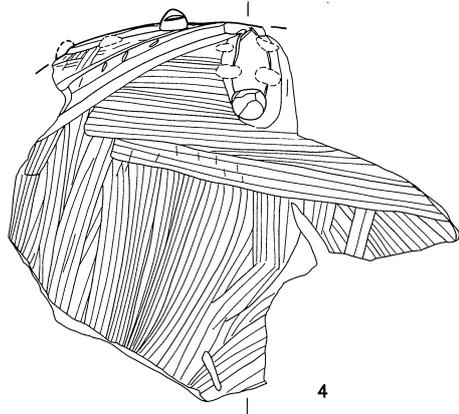
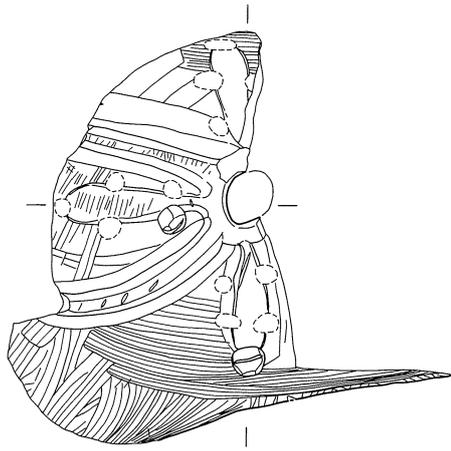
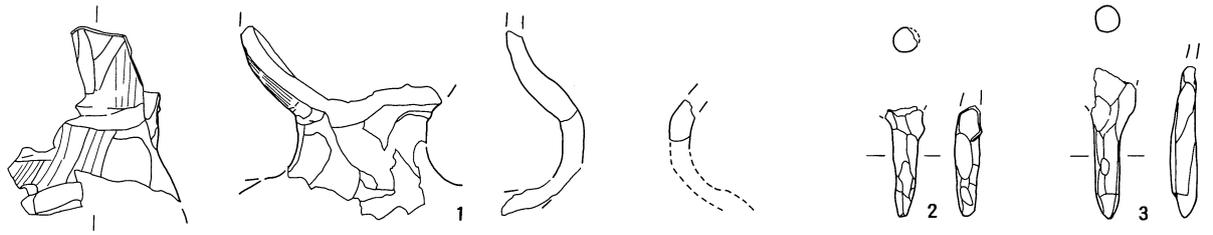


图 23 ST-7 出土形象埴輪 (1)

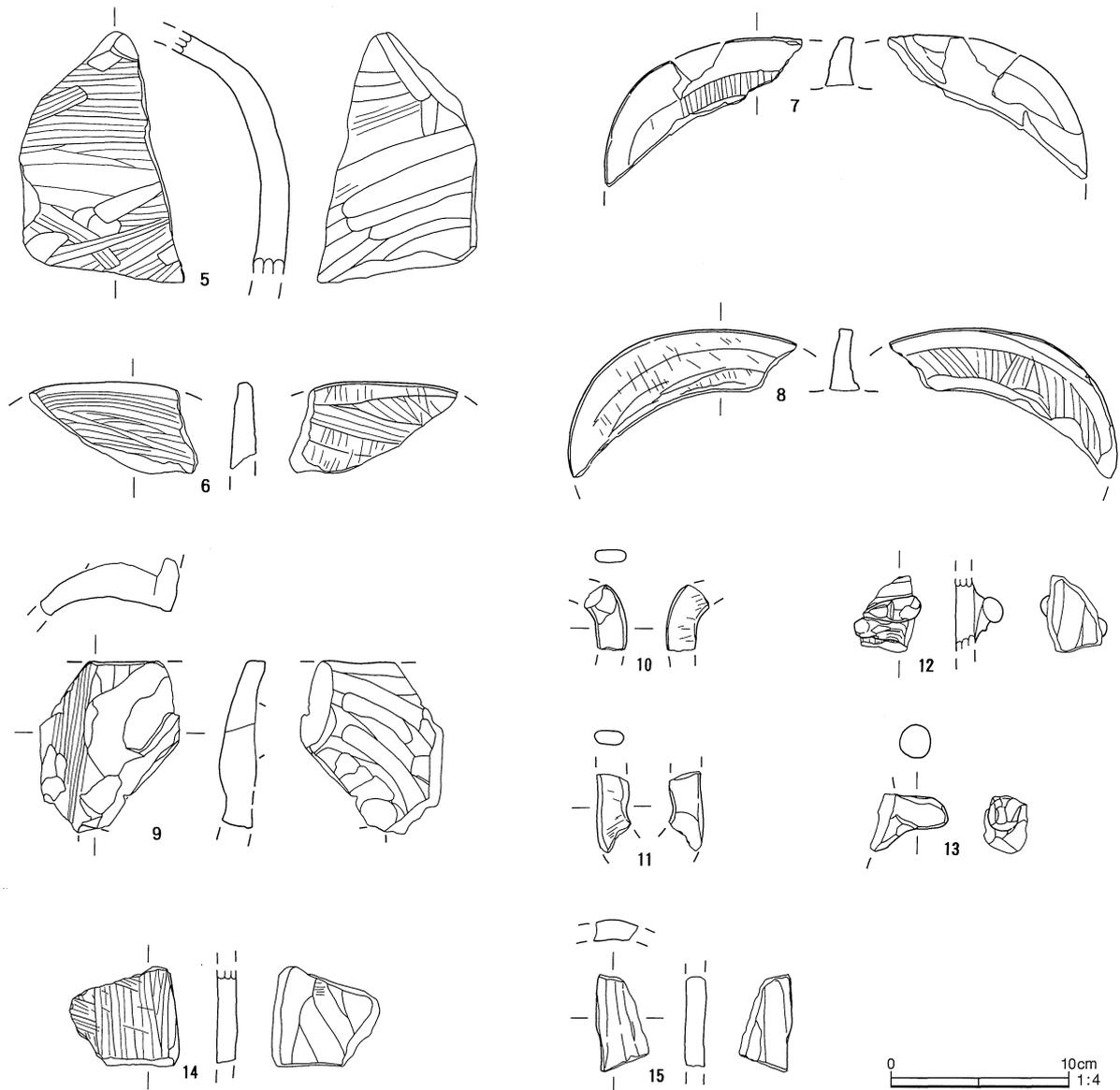


図24 ST-7出土形象埴輪(2)

形象埴輪 [1~15] (図23・24、写真28・29)

人物 [1~3]

1は頸部から顔面部下端にかけての破片である。調整は顔面部がハケのちナデ、頸部がハケである。胎土に片岩・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

2・3は美頭良である。直線的な棒状で先端へ移行するにしたがい細くなる。調整は全面ナデで、色調は2がにぶい赤褐色、3が明赤褐色を呈する。

馬 [4~8]

4は尻部周辺の破片である。中央に穿孔があり、その周囲に粘土紐を貼付して環状雲珠を表現する。尻繫の表現は大半が剥離・脱落しているが、五鈴杏葉の表現が3箇所に残る。調整は外面がハケのち部分的にナデ、内面はすべてナデである。胎土には片岩・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

5は胴部の破片である。調整は外面がハケのち部分的にナデ、内面はハケのち全面的にナデが加えられている。色調はにぶい橙色を呈する。

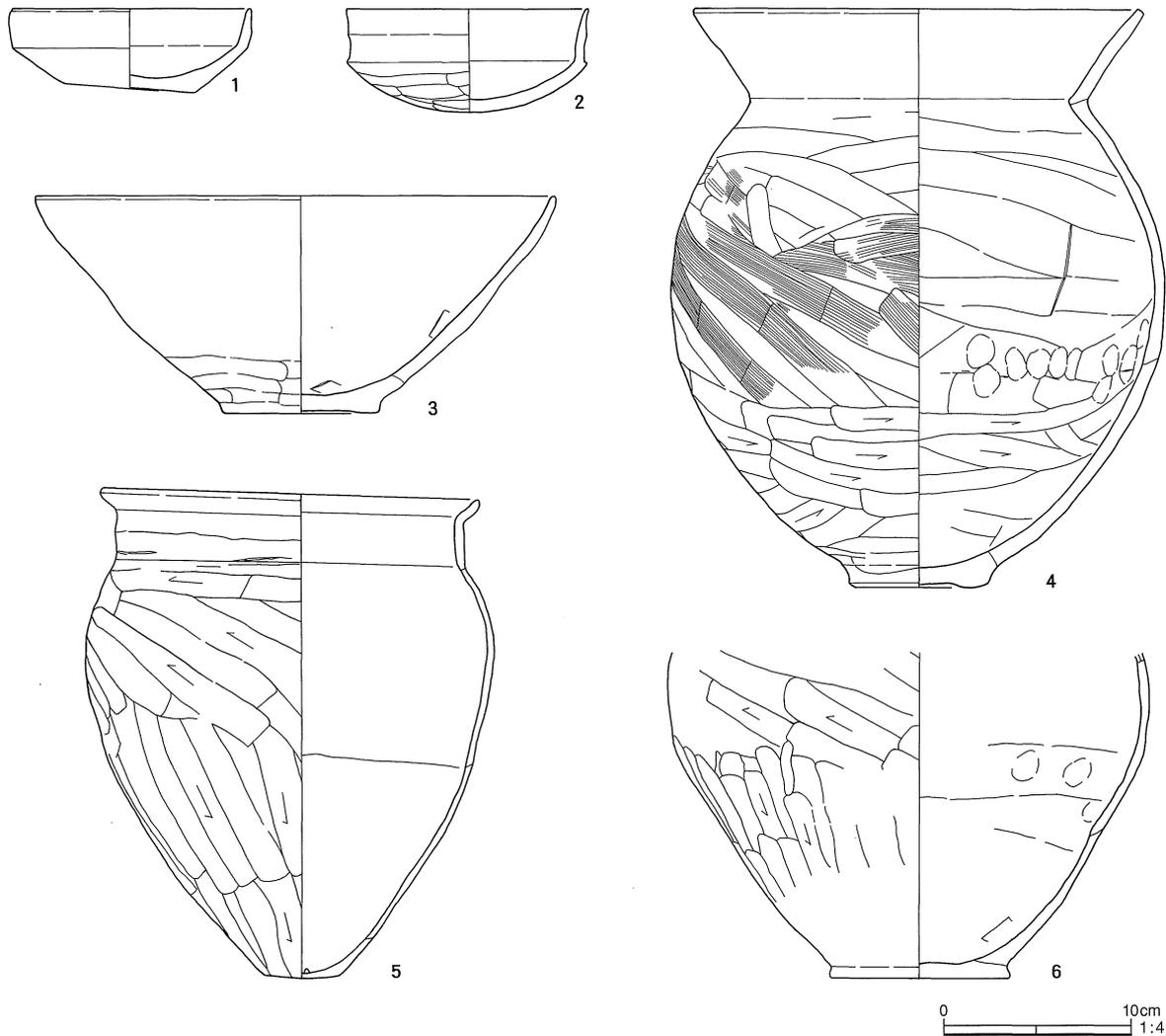


図 25 ST-7 出土土器

ST-7 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.8 底径 6.8 器高 4.5	口縁部は体部との境に稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリと思われるが摩耗のため不明瞭。内面－口縁部～底部ヨコナデ。	チャート・黒色粒 内－橙色 外－明赤褐色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 12.9 底径 — 器高 5.5	口縁部は体部との境に稜を持ち、わずかに湾曲して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	角閃石・白色粒 内－明褐色 外－赤褐色	2/3。
3	土師器 鉢	口径 (27.7) 底径 8.2 器高 11.7	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。底部は平底。	外面－口縁部～体部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面－口縁部ナデ、体部～底部ヘラナデ。	微砂粒 内外－橙色	2/3。
4	土師器 甕	口径 (24.0) 底径 7.4 器高 31.0	中位に膨らみを持つ胴部。口縁部は直線的に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位木口状工具ナデ、胴部下位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ、中位下側ヘラケズリ・指頭圧痕。	チャート・黒色粒 内外－にぶい赤褐色	1/2。 外面胴部中位に煤附着。
5	土師器 甕	口径 20.2 底径 3.8 器高 26.2	コの字状口縁で端部はやや内湾する。胴部は上位に膨らみを持つ。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外－橙色	4/5。
6	土師器 甕	口径 — 底径 (9.3) 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみを持つ胴部。	外面－胴部・底部ヘラケズリ。内面－胴部～底部ヘラナデ・指頭圧痕。	チャート・黒色粒 内－灰黄色 外－橙色	胴部中位～底部。

6～8は鞍橋である。調整は表裏面ともハケおよびナデで、周縁部には丁寧なナデを施している。胎土には片岩・チャートを含む。6には白色針状粒の混入を認める。色調は橙色を呈する。

器種不明 [9～15]

10は環状の破片で鏡板の一部の可能性がある。また、14・15は動物の脚部の可能性が考えられる。調整は9～13がナデのみ、14・15が外面がハケ、内面がナデである。胎土にはいずれも片岩・チャートを含む。色調は11がにぶい赤褐色を示し、他は橙色を呈する。

b. 土器

土師器 (図25、写真37・38)

坏 [1・2]

1・2とも坏蓋模倣坏であるが、1は厚手で平底を呈する点、2は口縁部外面中位に稜をもつ点でやや異質である。2の胎土には角閃石の混入が認められる。

鉢 [3]

底部は壺・甕のつくりと同様である。体部も全体に分厚いが、調整は丁寧なナデが加えられている。

甕 [4～6]

4は外面調整にハケとケズリを併用している。胴部外面の中位に煤の付着が観察される。5は出土状況などからST-7に伴うものではないと考えられる。

ST-8

(1) 遺構 (図26、写真10)

位置：1N-3・4、10-3・4グリッドに位置する。南東側に周堀を接するようにしてST-13が存在している。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円を描く。南東側1/4を除き、墳丘外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。

周堀の幅はほぼ一定しているが、ST-13に接近した南東ではやや幅を減じている。周堀底面には各所に段差が存在する。なお、ST-13の周堀との上端同士の距離は、確認面において最短で30cmほどあることから、旧地表面のレベルでは両古墳の周堀が重複していた可能性がある。周堀覆土は18層に区分される。やや複雑な堆積をみせる箇所も見られるが、全体として、下層には粘性のある黄褐色系の覆土、上層にはしまり・粘性とも弱い暗褐色・灰褐色系の覆土が堆積している。最上層には黒色土が見られる。なお、2層および5層にはHr-FAの堆積が認められる。とくに5層はHr-FAの純層で、上層に堆積していることから、Hr-FAは周堀の埋没がある程度進行した段階で降下していることがわかる。規模：墳丘規模は、北東-南西方向で径10.3m、北西-南東方向で径9.1m、周堀は幅1.0～1.5m、深さ30～50cmを測る。

(2) 遺物

周堀覆土からの遺物の出土はない。表土中にも、土師器の小片がわずかに含まれる程度で、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

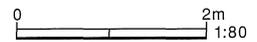
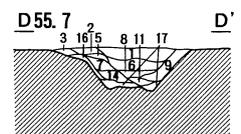
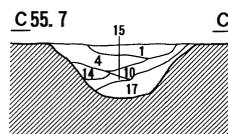
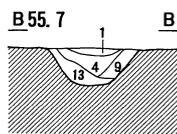
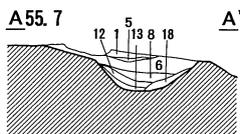
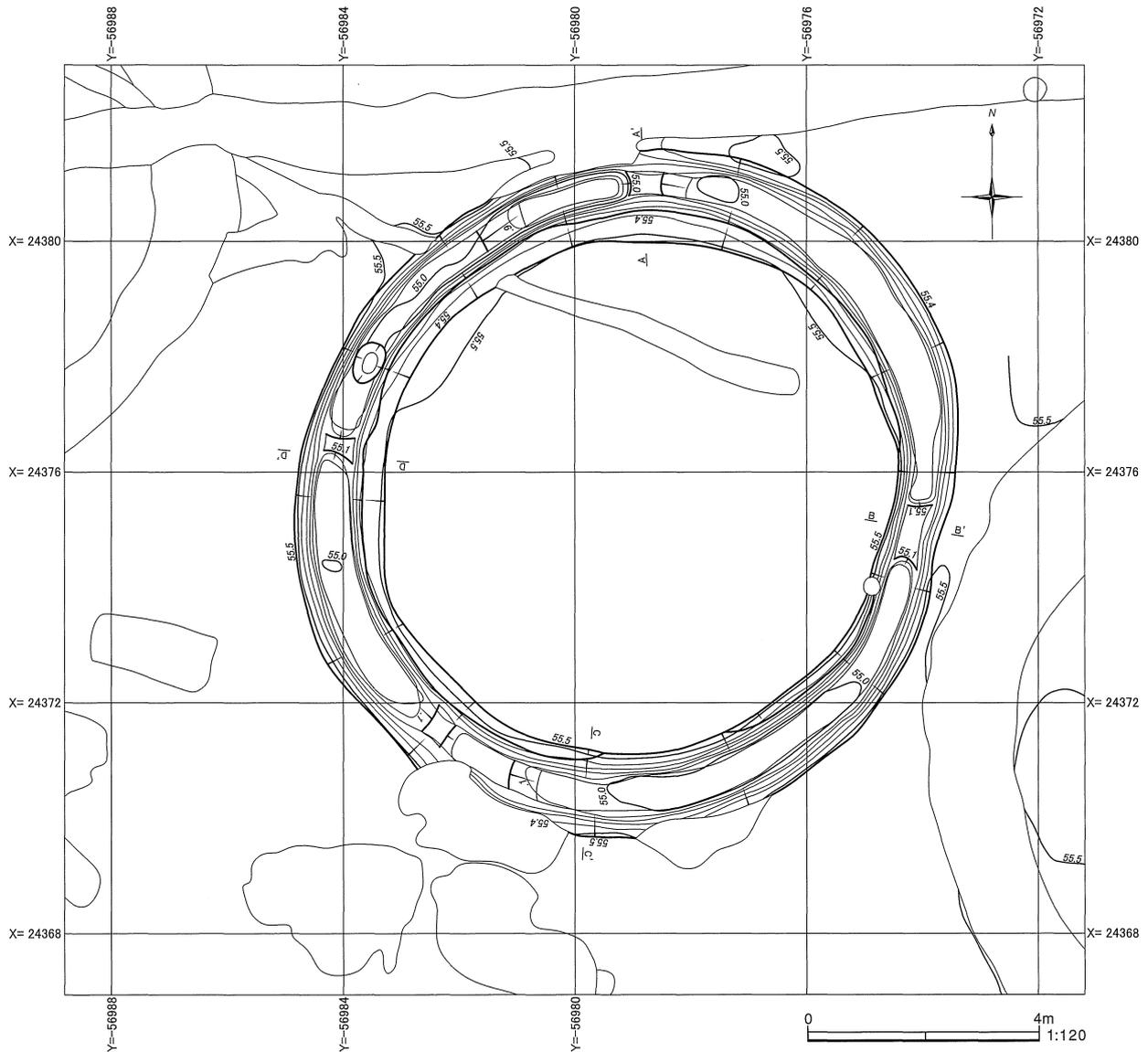


図 26 ST-8 平面および周堀土層断面

ST-8 土層説明

- | | | | |
|---------|------------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 黒色土 | 白色バミス (径1mm以下) を少量含む。しまり弱。粘性欠。 | 7 灰褐色土 | ロームブロック (径1~20mm) を少量含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 2 灰褐色土 | Hr-FAを多量に含む。しまり弱。粘性欠。 | 8 暗褐色土 | ロームブロック (径1~20mm) を少量含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 3 暗灰褐色土 | ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。 | 9 暗褐色土 | ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 4 暗灰褐色土 | ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。 | 10 灰褐色土 | ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 5 乳白色土 | Hr-FAの純層。しまりやや強。粘性欠。 | 11 暗褐色土 | ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性やや強。 |
| 6 灰褐色土 | ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。 | | |

- | | | | |
|----------|---|---------|--|
| 12 暗黄褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。粘性やや強。 | 16 黄褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を主体とする。しまり、粘性ともやや強。 |
| 13 暗黄褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径1～20mm）を少量含む。しまり弱。粘性やや強。 | 17 黄褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を主体とし、黒色土ブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり、粘性ともやや強。 |
| 14 暗黄褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。粘性やや強。 | 18 灰褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり、粘性ともやや強。 |
| 15 黄褐色土 | ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径1～20mm）を少量含む。しまり、粘性ともやや強。 | | |

ST-9

(1) 遺 構 (図27・28、写真10)

位置：10-3・4、1P-3・4 グリッドに位置する。周辺ではST-9より北側に古墳の分布が見られず、群の北限をなす古墳のひとつである。

形状：円墳である。墳丘平面形はわずかに歪みがあり、北東-南西方向にやや長い。北側の墳丘外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。

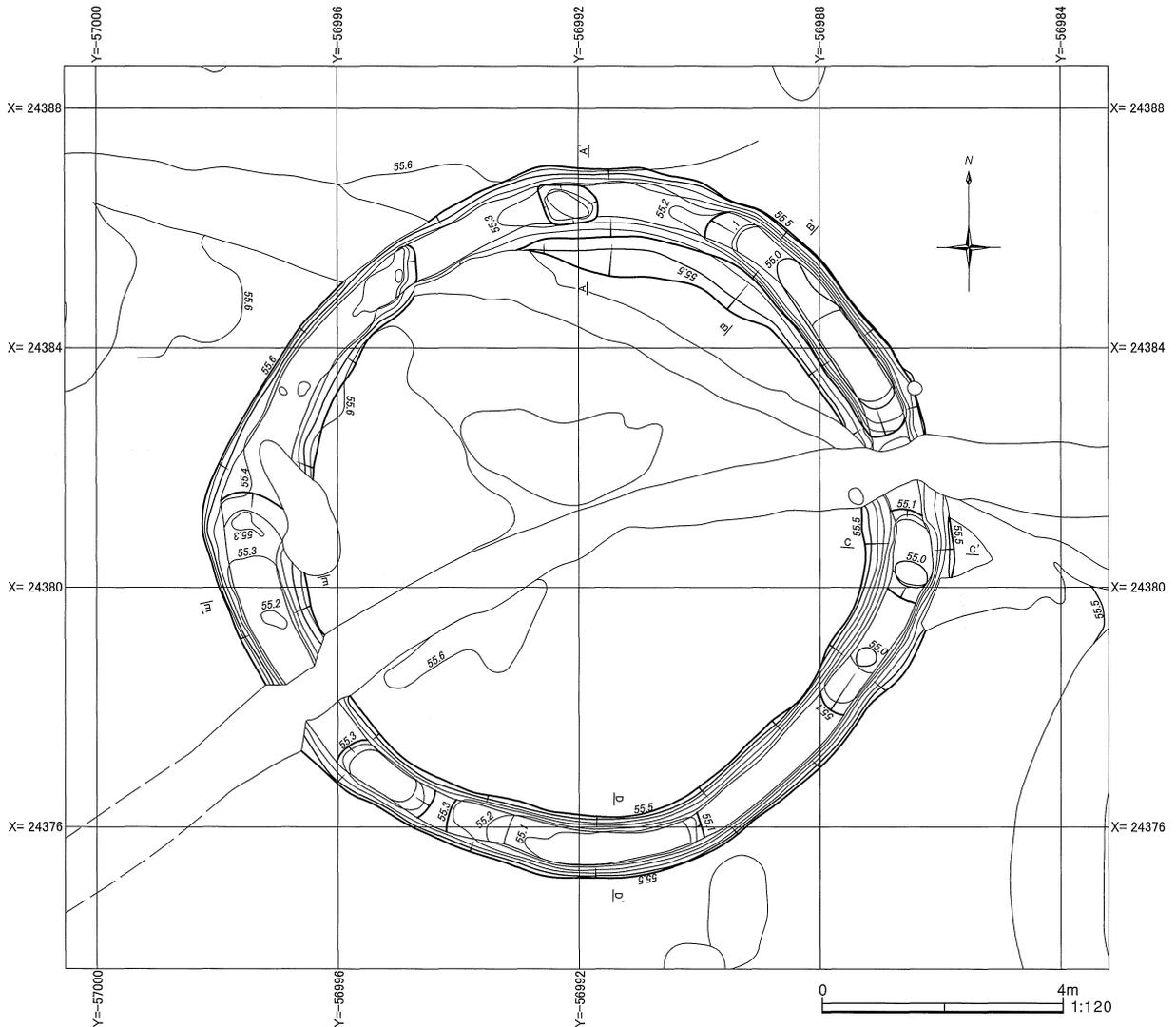
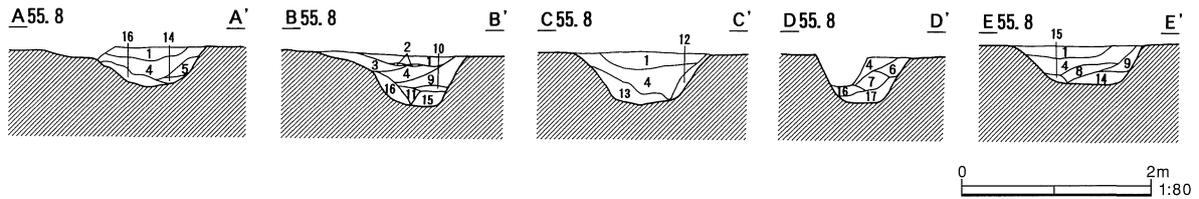


図27 ST-9平面



ST-9 土層説明

- | | |
|---|--|
| <p>1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>2 乳褐色土 Hr-FAの純層。しまりやや強。粘性欠。</p> <p>3 暗灰褐色土 ロームブロック (径1～5mm) を多量に含む。しまり強。粘性欠。</p> <p>4 暗灰褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>5 暗灰褐色土 ロームブロック (径1～20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>6 暗灰褐色土 ロームブロック (径1～5mm) を少量含む。しまり強。粘性欠。</p> <p>7 暗褐色土 ロームブロック (径1～20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>8 黒褐色土 ロームブロック (径1～5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>9 黒褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>10 黒褐色土 ロームブロック (径1～20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> | <p>11 黄褐色土 ロームブロック (径1～5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。</p> <p>12 黄褐色土 ロームブロック (径1～5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。</p> <p>10 黄褐色土 ロームブロック (径1～20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。</p> <p>13 黄褐色土 ロームブロック (径1～25mm) を多量に含む。しまり弱。粘性弱。</p> <p>14 暗黄褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を多量に含む。黒色土ブロック (径1～20mm) を少量含む。しまり、粘性ともやや強。</p> <p>15 暗黄褐色土 ロームブロック (径1～20mm) を多量に含む。しまり、粘性ともやや強。</p> <p>16 黄褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を多量に含む。黒色土ブロック (径1～20mm) を少量含む。しまり、粘性ともやや強。</p> <p>17 黄褐色土 ロームブロック (径1～5mm) を主体とする。しまり、粘性ともやや強。</p> |
|---|--|

図 28 ST-9 周堀土層断面

周堀の幅はおおよそ一定しているが、西側を中心にやや幅が広がっている。周堀底面には各所に段差が存在する。周堀覆土は17層に区分される。やや複雑な堆積をみせる箇所も見られるが、下層には粘性のある黄褐色系の覆土、上層にはしまり・粘性とも弱い暗褐色・灰褐色系の覆土が堆積している。最上層には黒色土が見られる。なお、2層にはHr-FAの堆積が認められる。この2層は最上層である黒色土層の直下に堆積したHr-FAの純層であることから、Hr-FAは周堀の埋没がある程度進行した段階で降下していることがわかる。

規模：墳丘規模は、北東-南西方向で径10.3m、北西-南東方向で径9.6M、周堀は幅0.9～1.8m、深さ20～50cmを測る。

(2) 遺物

周堀覆土からの遺物の出土はない。表土中には、土師器の小片がわずかに含まれる程度で、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-10

(1) 遺構 (図29、写真10)

位置：1P-5、1Q-4・5・6、1Q-6、R-5グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形はわずかに歪みがあり、南-北方向にやや長い。北側の墳丘外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。

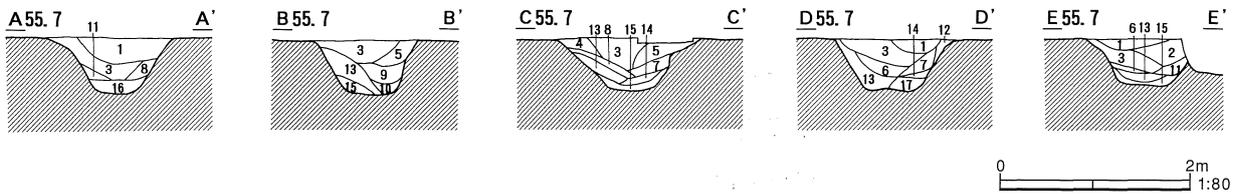
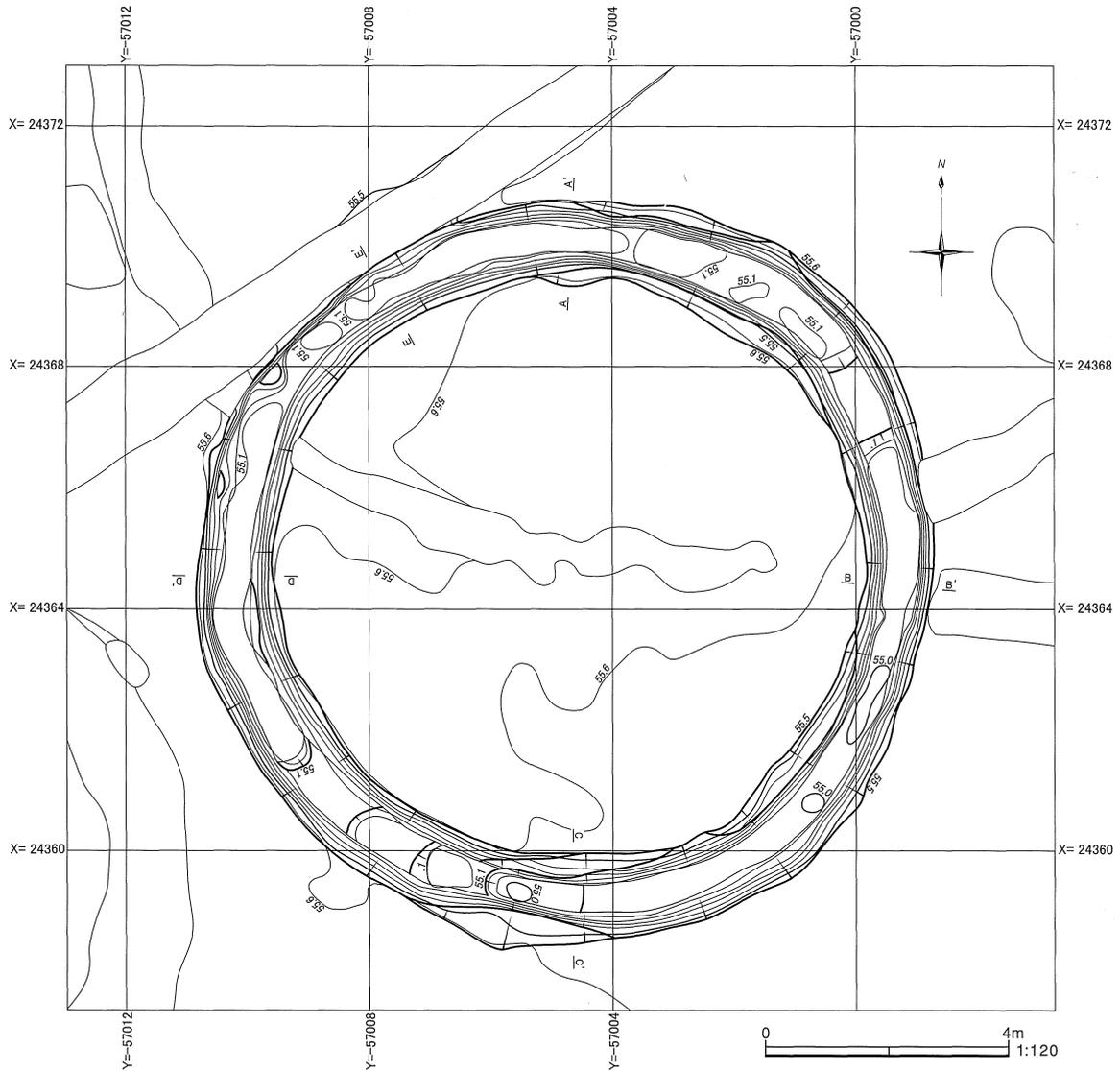


図 29 ST-10 平面および周堀土層断面

周堀の幅はおおよそ一定しているが、北西側でやや幅を減じるのに対し、南側では外方へ緩やかに張り出している箇所が見られる。周堀底面には各所に段差が存在する。西側の周堀外側立ち上がりには、ロームを削り出して成形したステップが2箇所存在する。周堀覆土は17層に区分される。下層には粘性のある黄褐色系の覆土、上層にはしまり・粘性とも弱い暗褐色・灰褐色系の覆土が堆積している。土層の色調・堆積状況はST-8、ST-9と変わらないが、Hr-FAは検出されていない。

ST-10 土層説明

- | | | | |
|---------|---|----------|--|
| 1 灰褐色土 | | 10 暗黄褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロック（径1～2mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。 | 11 暗黄褐色土 | ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。粘性欠。 | 12 暗黄褐色土 | ロームブロック（径1～20mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 4 黒灰褐色土 | ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。 | 13 黄褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性弱。 |
| 5 黒灰褐色土 | ロームブロック（径1～2mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。 | 14 黒色土 | 黒色土ブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。 |
| 6 黒灰褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。 | 15 黄褐色土 | ロームブロック（径1～20mm）を主体とする。しまり・粘性ともやや強。 |
| 7 黒灰褐色土 | しまり弱。粘性欠。 | 16 暗褐色土 | ロームブロック（径1～20mm）と黒色土ブロック（径1～10mm）の混合層。しまり・粘性ともやや強。 |
| 8 暗褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。 | 17 明黄褐色土 | ロームブロック（径1～20mm）を主体とする。しまりやや強・粘性強。 |
| 9 黒褐色土 | ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。粘性欠。 | | |

規模：墳丘規模は、南―北で径10.4m、径東―西方向で径9.9、周堀は幅1.1～1.4m、深さ30～50cmを測る。

(2) 遺物

周堀覆土からの遺物の出土はない。表土中には、土師器の小片がわずかに含まれる程度で、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-11

(1) 遺構（図30写真10）

位置：調査区の西端にあって、1R-5・6グリッドに位置する。北東側でST-10、南側でST-36と隣接している。

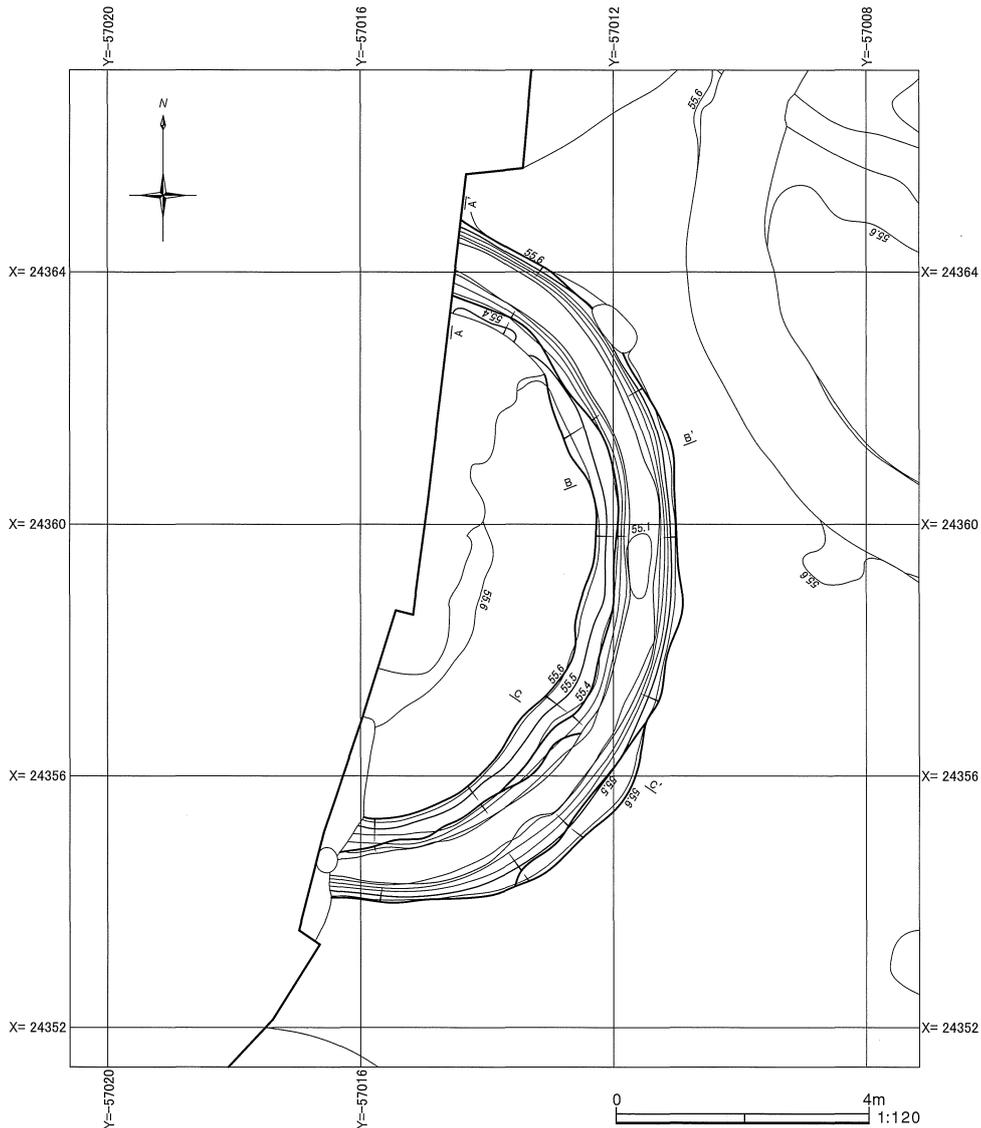
形態：墳丘西側2/3ほどが調査区外にあり、全形を確認できないが、円墳と推定される。墳丘部の平面形態はやや蛇行しつつもおおよそ整った円形を呈する。墳丘外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。

周堀の幅は南側でやや狭くなっているほかは、ほぼ一定している。周堀底面も平坦である。周堀覆土は9層に区分される。下層には粘性のある黄褐色・黒色系の覆土、上層には粘性を欠く黒色・灰褐色系の覆土が堆積している。最上層の3層には白色パミスの混入が認められるが、火山噴出物の層状堆積は観察されない。

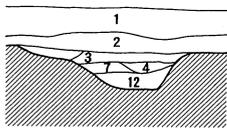
規模：墳丘規模は、推定径9.6m、周堀は幅0.7～1.3m、深さ10～50cmを測る。

(2) 遺物

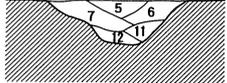
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。



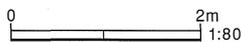
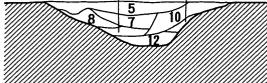
A56.2 **A'**



B55.7 **B'**



C55.7 **C'**



ST-11 土層説明

- 1 灰褐色土 表土層。
- 2 灰褐色土 表土層。
- 3 黒色土 白色バミス (径1mm以下) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 5 灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 6 灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 7 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 8 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 9 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 10 黄褐色土 ロームブロック (径1~25mm) を多量に含む。しまり・粘性ともやや強。
- 11 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性やや強。
- 12 黄褐色土 ロームブロック (径1~25mm) を多量に含む。黒色土ブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり・粘性ともやや強。

図30 ST-11 平面および周堀土層断面

ST-12 (図31・写真10)

(1) 遺 構

位置：1N-6、10-6・7、1P-6・7グリッドに位置する。

形態：円墳である。墳丘平面形は歪みがあり、南-北方向に長い。周堀幅は南側で狭くなっている。堀底はほぼ平坦に掘削されている。

周堀の幅は一定せず、南側から東側にかけて狭くなっている。周堀底は東側で複雑な段差を生じているほか、各所に土坑状の落ち込みを認める。また、北側の周堀外側立ち上がりには、ロームを削り出して成形したステップが1箇所存在する。周堀覆土は16層に区分される。下層には粘性のある黄褐色の覆土、上層には粘性を欠く黒色・灰褐色系・暗褐色系の覆土が堆積している。最上層の1層には白色パミスの混入が観察されるが、火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南-北方向で径13.1m、東-西で径11.9m、周堀は幅1.8～2.8m、深さ30～50cmを測る。

(2) 遺 物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

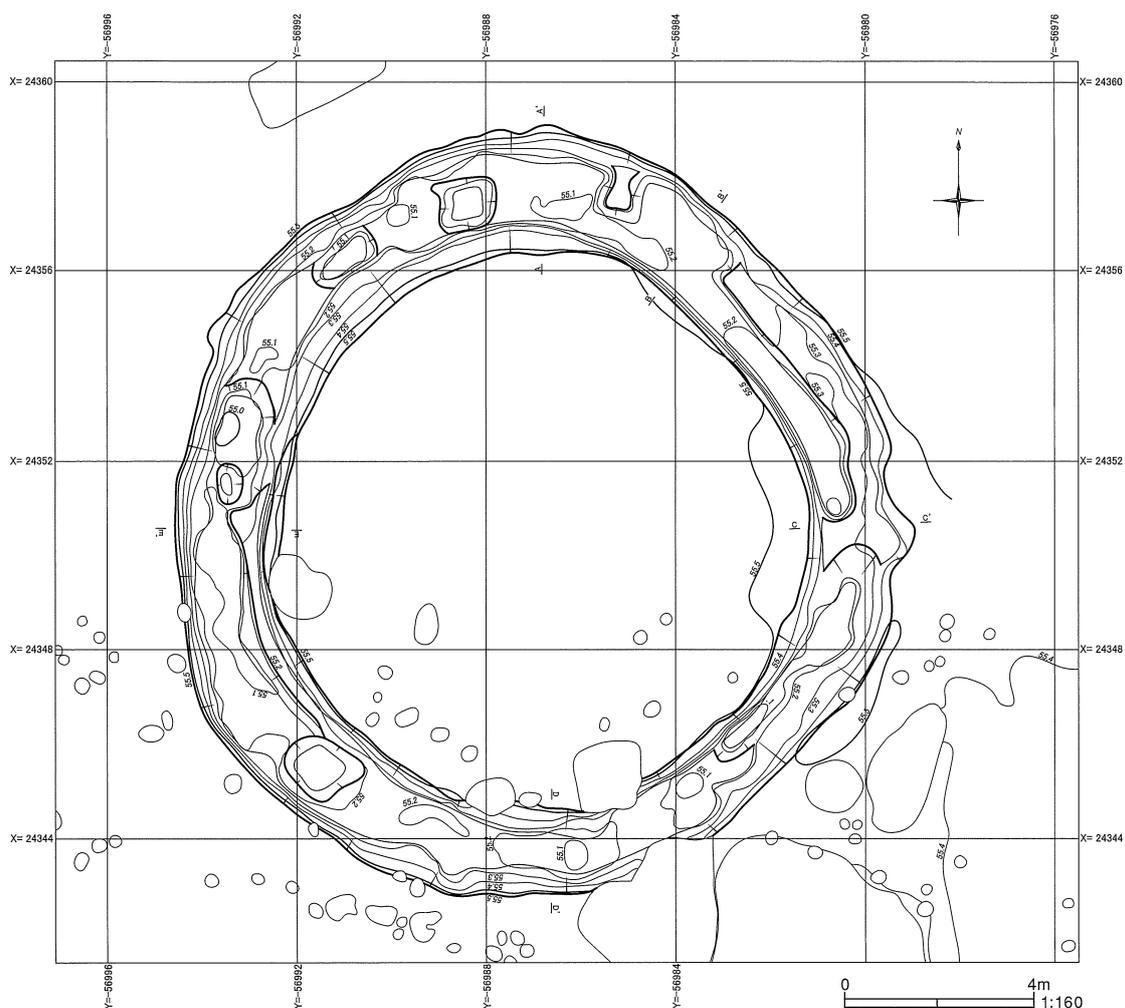
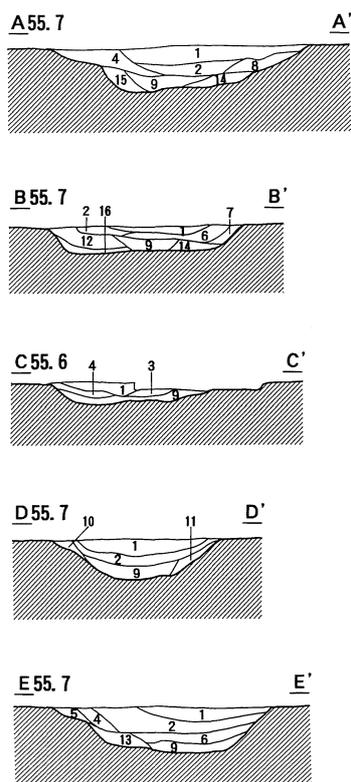


図31 ST-12平面



ST-12 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径1mm以下)、ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~25mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 5 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 6 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 7 暗褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 8 灰褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 9 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~20mm)、黒色土ブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性やや強。
- 10 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 11 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 12 暗黄色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 13 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を主体とし、黒色土ブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり・粘性ともやや強。
- 14 黄褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を主体とし、黒色土ブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり・粘性ともやや強。
- 15 黄褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、黒色土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり・粘性ともやや強。
- 16 黄褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を主体とする。しまり・粘性ともやや強。

図 32 ST-12 周堀土層断面

ST-13

(1) 遺 構 (図 33・34)

位置：1M-4・5，1N-4・5グリッドに位置する。

形態：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円形を呈する。墳丘外縁の西・北・東側には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。

周堀の幅は一定せず、南側から西側にかけて狭くなっている。南半の周堀底面には各所に段差がみられ、北半の周堀底面には大小の土坑状の落ち込みが存在する。また、東側の墳丘立ち上がりには、ロームを削り出して成形したステップが1箇所存在する。周堀覆土は19層に区分される。堆積状態は地点により一様ではないが、おおむね下層には黄褐色系の覆土、上層には黒色・黒灰色系の覆土が堆積している。3・5層にはHr-FAがブロック状に混入している状況が観察される。

規模：墳丘規模は、南-北方向で径12.0m、東-西方向で径11.5、周堀は幅1.1~1.8m、深さ10~40cmを測る。

(2) 遺 物

遺物は埴輪、土師器を検出している。いずれも原位置を保つ状態では検出されていないが、墳丘北側から東側の墳丘外縁テラスから周堀上層にかけて集中的に出土している。とくに、墳丘東側のステップの周辺では円筒埴輪片の集中する箇所が認められた。

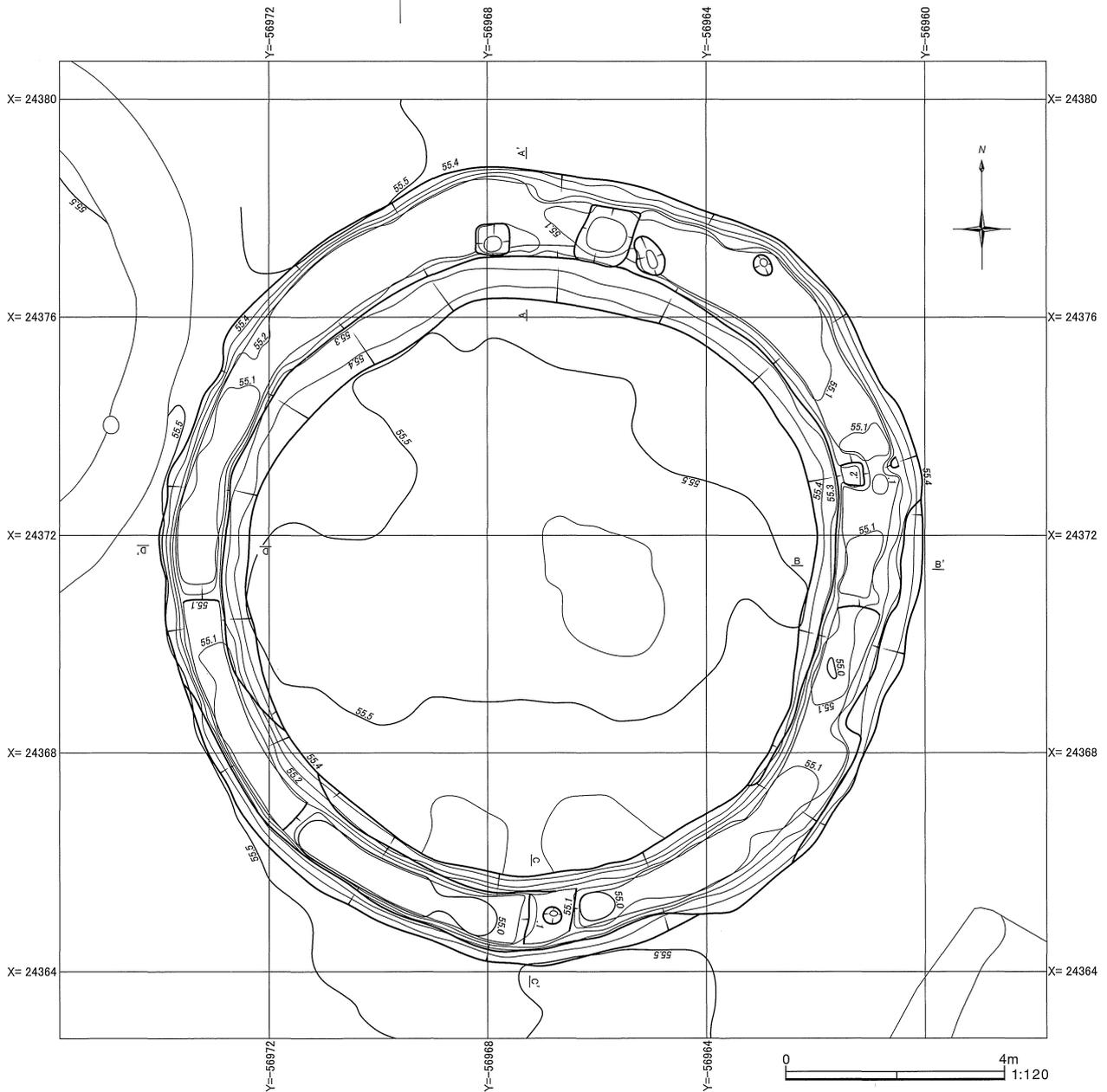
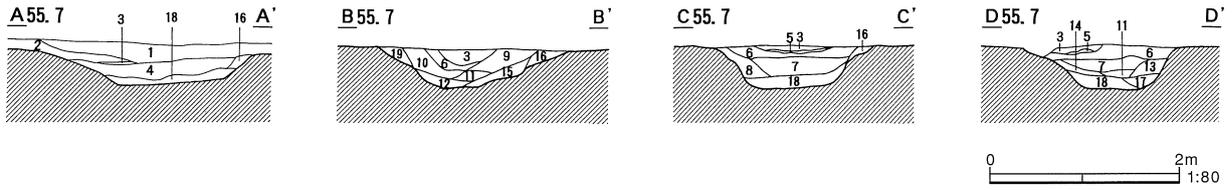


図 33 ST-13 平面

a. 埴輪

円筒埴輪 [1～16] (図 36・37、写真 29)

すべて 2 条突帯 3 段構成で占められている。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は、確認される範囲において、すべて半円形である。突帯は総じて貧弱で、ほとんどすべての個体で断面が三角形を呈する。4・11 には第 3 段外面に「×」形になると思われる刻線が存在する。また、3 の第 3 段外面、14 の第 3 段内面には斜め 1 条の刻線が認められる。ほとんどの個体の胎土に片岩・チャートが含まれる。色調は橙色を呈する個体が多く、にぶい橙色・明褐色を示す個体が混じる。



ST-13 土層説明

- | | |
|--|---|
| <p>1 黒褐色土 白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり・粘性とも欠。</p> <p>2 暗灰褐色土 白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>3 黒色土 Hr-FAブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>4 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>5 黒褐色土 Hr-FAブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>6 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>7 黒色土 ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>8 暗灰褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>9 黒色土 しまり・粘性とも欠。</p> <p>10 灰褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> | <p>11 黒色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>12 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。しまり・粘性とも弱。</p> <p>13 灰褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。しまり・粘性とも弱。</p> <p>14 暗褐色土 ローム粒子、微小ロームブロックを多く含む。黄味がかり13層より明。</p> <p>15 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。しまり・粘性とも弱。</p> <p>16 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含み、黒色土ブロック (径1~5mm) を少量含む。しまりやや強。粘性弱。</p> <p>17 黄褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を主体とする。周溝肩部崩壊土。しまり弱。粘性欠。</p> <p>18 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~25mm) を多量に含む。しまり・粘性ともやや強。</p> <p>19 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり・粘性ともやや強。</p> |
|--|---|

図 34 ST-13 周堀土層断面

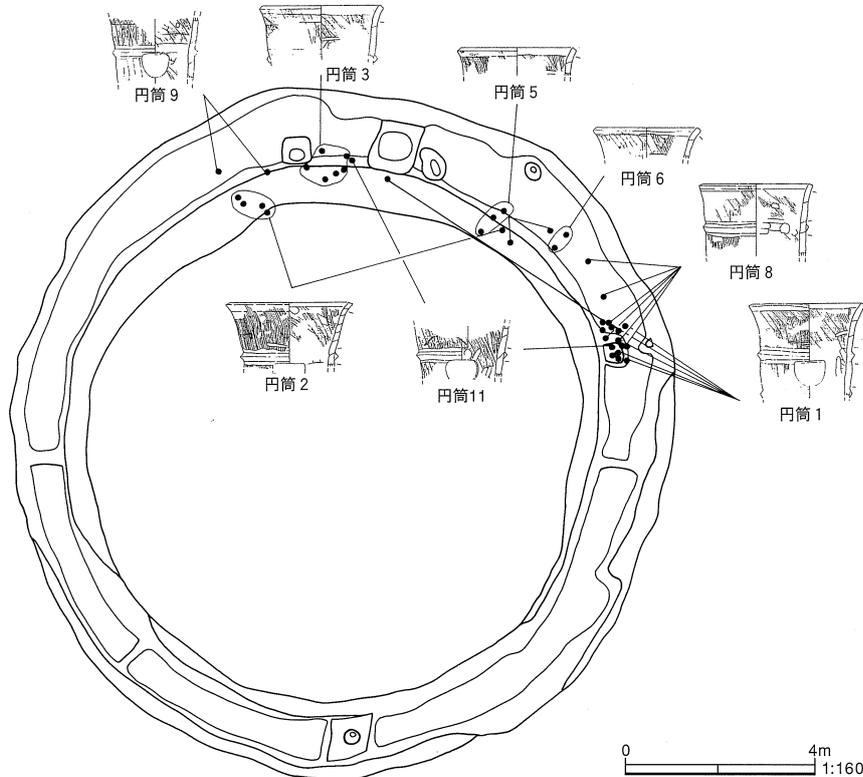


図 35 ST-13 埴輪分布

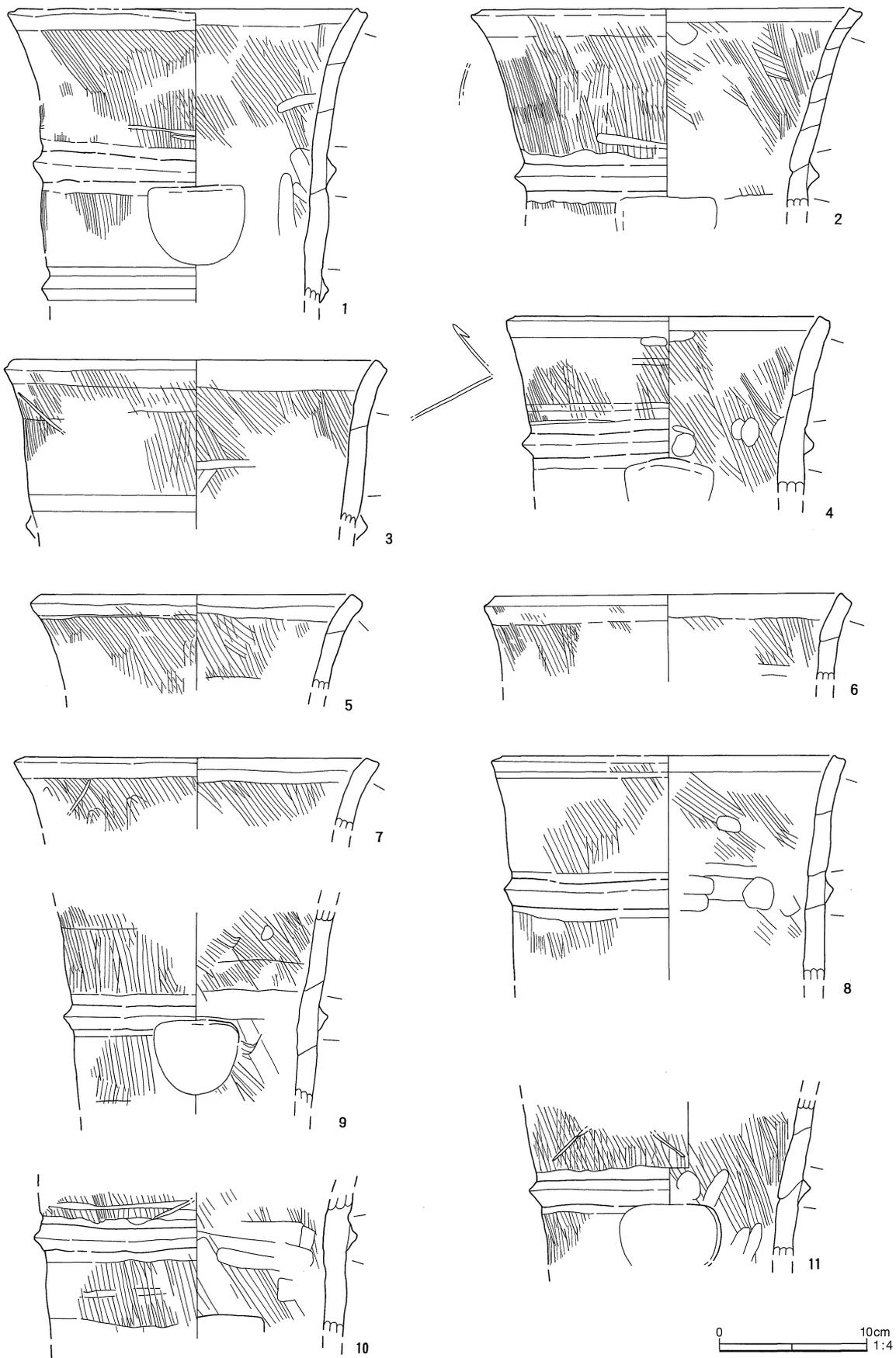


图 36 ST-13 出土陶筒埴輪 (1)

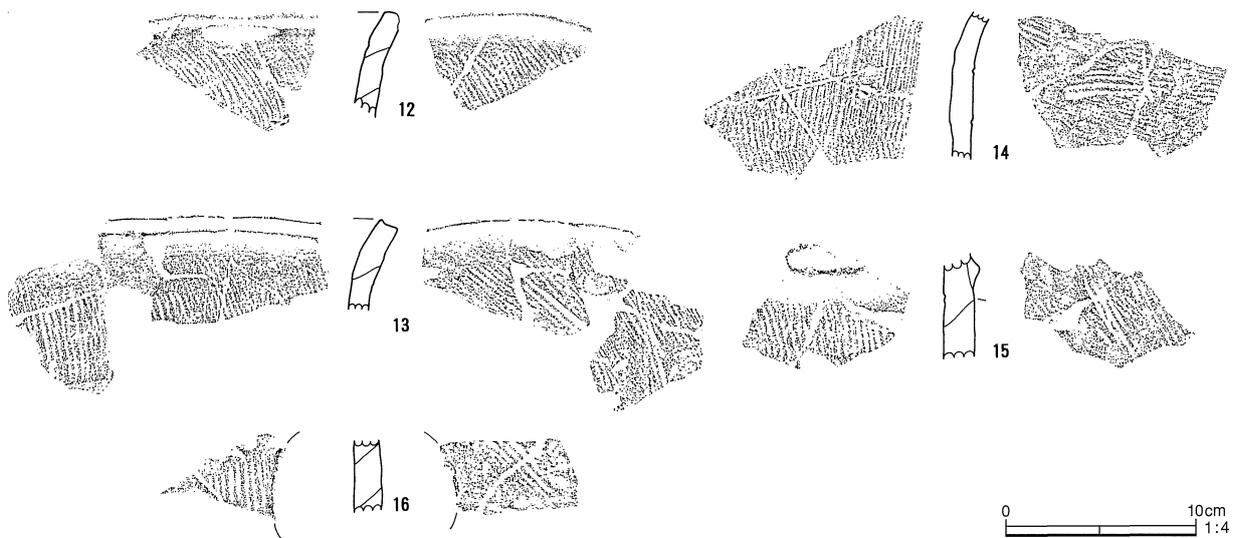
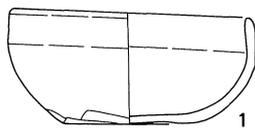


図 37 ST-13 出土円筒埴輪 (2)



b. 土器

土師器 (図 38、写真 38)

坏 [1]

平底で深い体部をもち、口縁部がわずかに内傾する器形が特徴である。口縁部には横位のナデを施し外面には、体部との境界に微かな稜を形成している。

壺 [2]

口縁部中位に稜をもつ、須恵器甕の模倣形態である。調整は外面がヘラケズリののち上半のみナデを加え、内面はヘラナデが施されている。

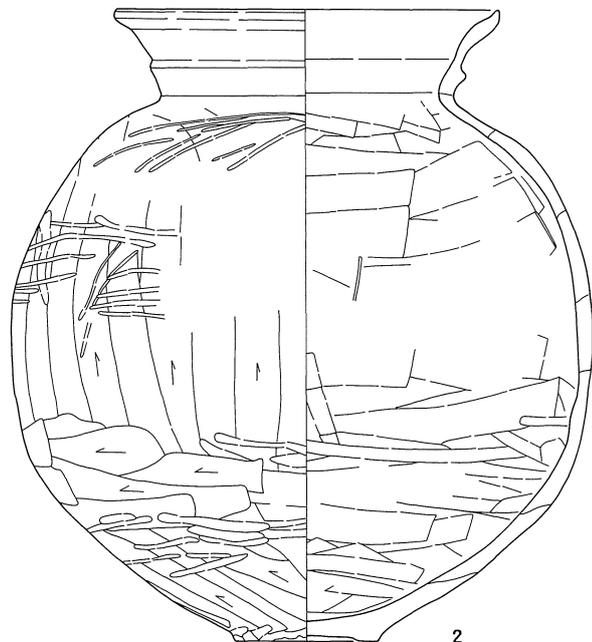


図 38 ST-13 出土土器

ST-13 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.7 底径 7.3 器高 6.2	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・チャート 内外-にぶい橙色	4/5。
2	土師器 壺	口径 (20.2) 底径 7.4 器高 33.4	粘土紐巻き上げ成形。中位が大きく膨らむ胴部。口縁部は中位に段差を有し、外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後に上位をナデ、部分的に弱いナデ線、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内-暗赤褐色 外-赤褐色	5/6。

ST-14

(1) 遺 構 (図 39・40、写真 1)

位置：調査区の東端にあつて、1C-6・7・8・9，1D-7・8グリッドに位置する。南側でST-15、南西側でST-18と近接している。

形態：台地の南端部に近く、確認面は北から南へ緩やかに傾斜している。墳丘東側2／3ほどが調査区外にあり、また、墳丘南西側には大規模な攪乱があつて、全形を確認できないが、円墳と推定され

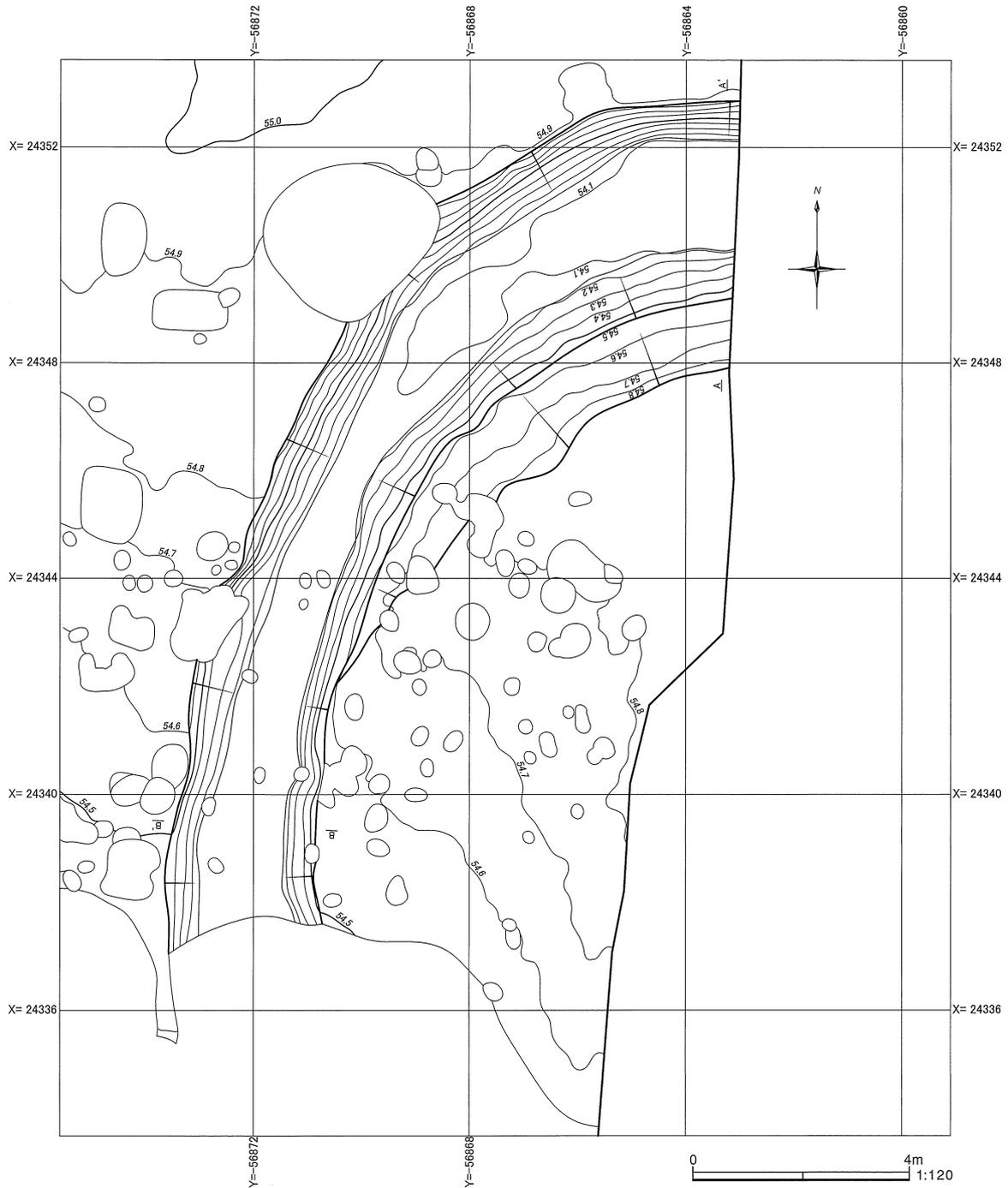
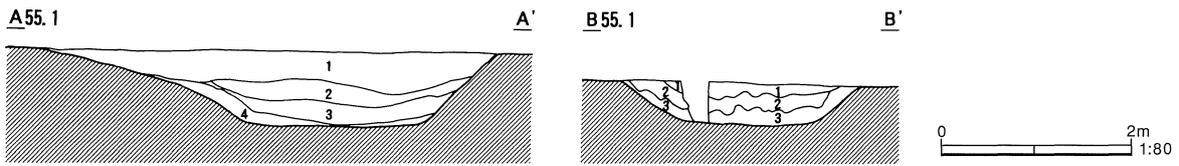


図 39 ST-14 平面



ST-14 土層説明

- 1 黒褐色土 白色パミス（径1mm±）ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。
 2 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。粘性欠。

- 3 褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり弱。
 4 鈍褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり弱。粘性強。

図40 ST-14 周堀土層断面

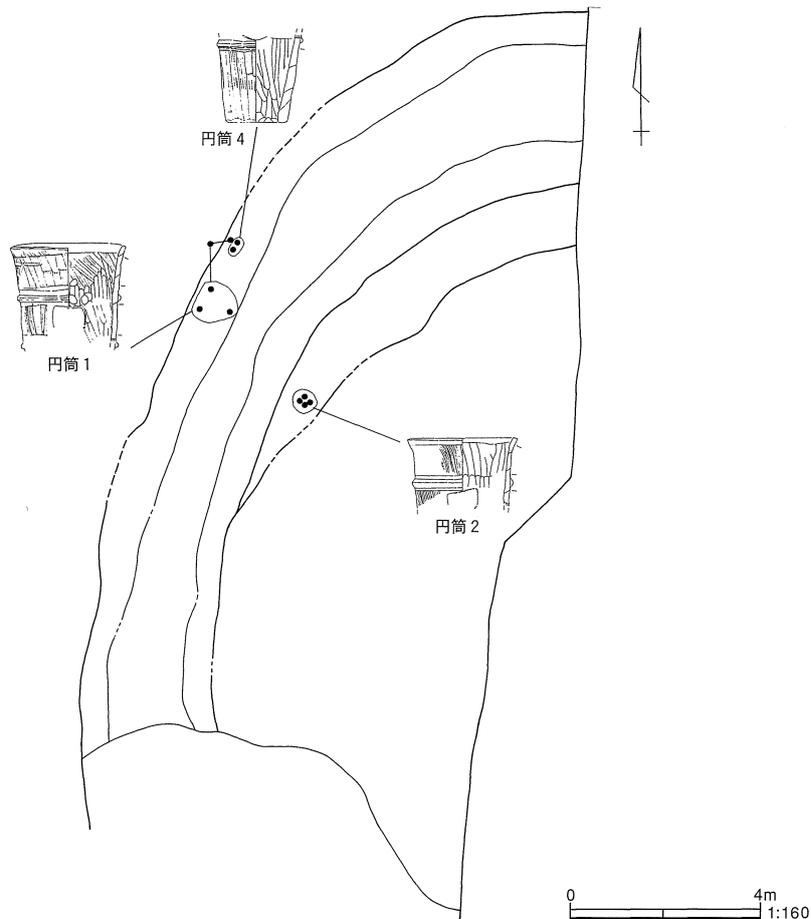


図41 ST-14 埴輪分布

る。墳丘部の平面形態は南北方向にやや長い。墳丘北半の外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。周堀は西側で狭く、北側と南西側で広い。周堀底面は一定し、ほぼ平坦である。周堀覆土は4層に区分される。下層に風化ロームの堆積層およびロームブロックを多量に含む褐色土、中層にロームブロックを少量含む黒褐色土、上層にロームブロックを含まない黒色土が堆積する。このなかで最上層の1層には白色パミスの混入が認められるが、火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径18.5m、周堀は幅2.6～3.8m、確認面からの深さ40～70cmを測る。

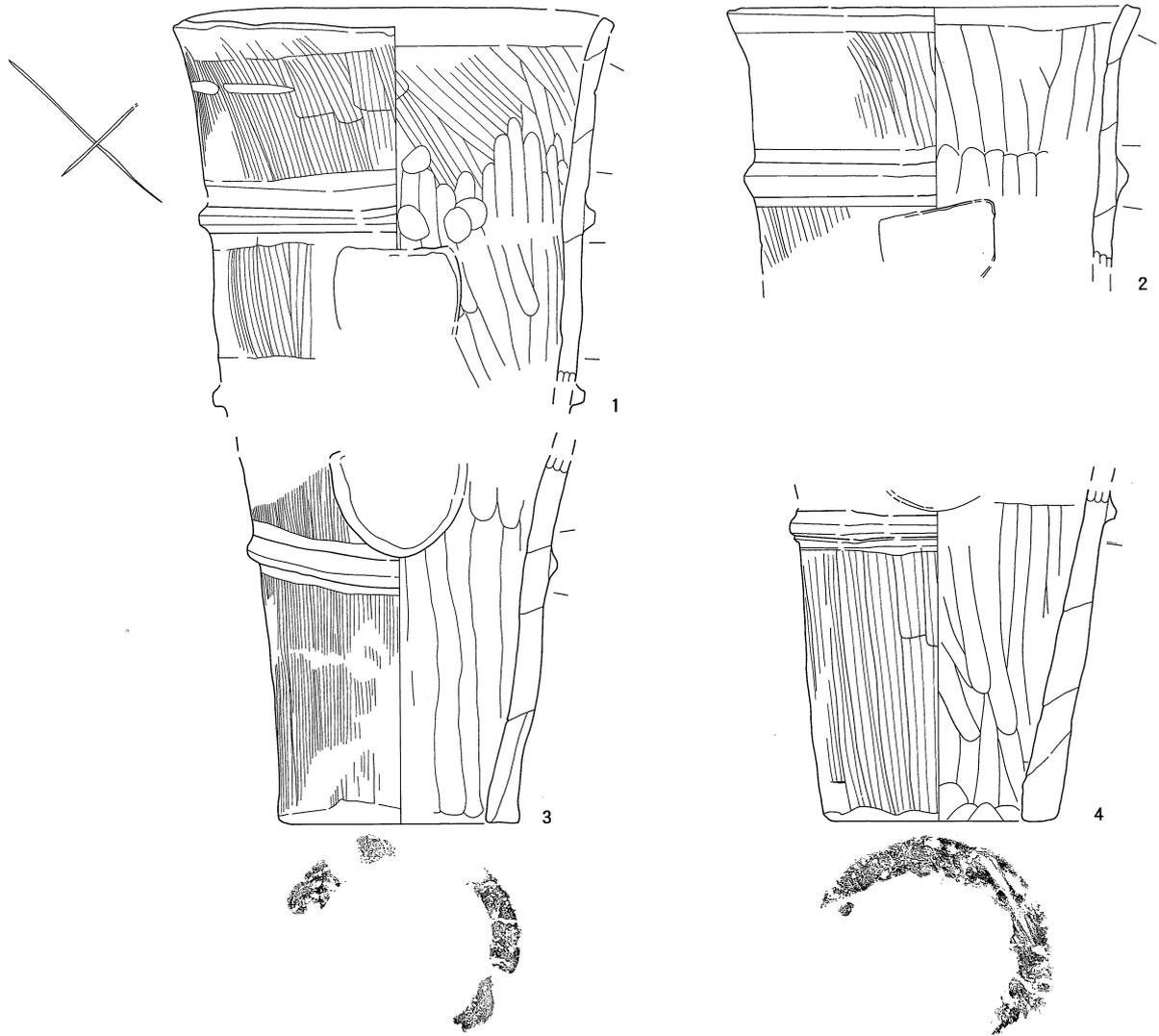


図42 ST-14 出土円筒埴輪

(2) 遺物

遺物は埴輪、土師器を検出している。いずれも原位置を保つ状態ではないが、埴輪は墳丘北西側の墳丘外縁テラスから周堀上層にかけてややまとまって出土しているほか、遺構確認面上層からも破片を検出している。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1～4] (図42、写真30)

全形の判明する資料はないが、底径・口径・段間の法量からいずれも2条突帯3段構成と推定される。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は、確認される範囲において、すべて半円形である。突帯は断面が崩れた台形または三角形を呈する。1の第3段外面には「×」形の刻線が存在する。胎土に片岩・チャートが含まれる。色調は橙色または明赤褐色を示す。

b. 土器

土師器 (図43、写真38)

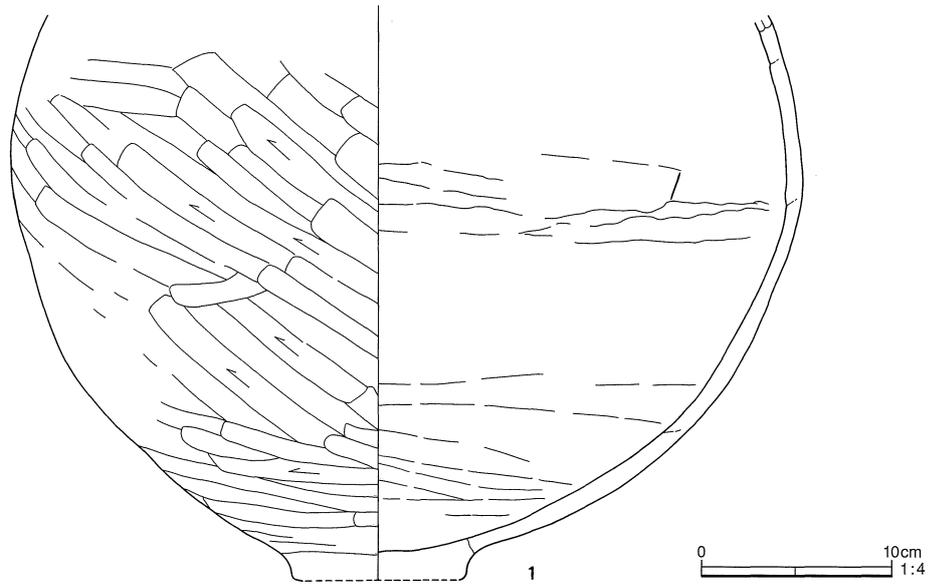


図 43 ST-14 出土土器

ST-14 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 壺	口径 - 底径 (9.2) 器高 -	大きく膨らむ胴部。	外面－胴部ヘラケズリ。内面－胴部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内－橙色 外－明赤褐色	胴部中位～下位 残存。

壺 [1]

胴部下半から中位にかけての破片である。調整は外面がヘラケズリ、内面はヘラナデが施されている。肩部以上を欠失しているが、原形は口縁部中位に稜をもつ、須恵器甕の模倣形態と推測される。

ST-15

(1) 遺構 (図 44, 写真 1)

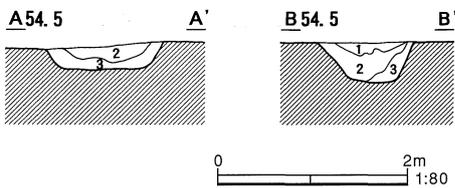
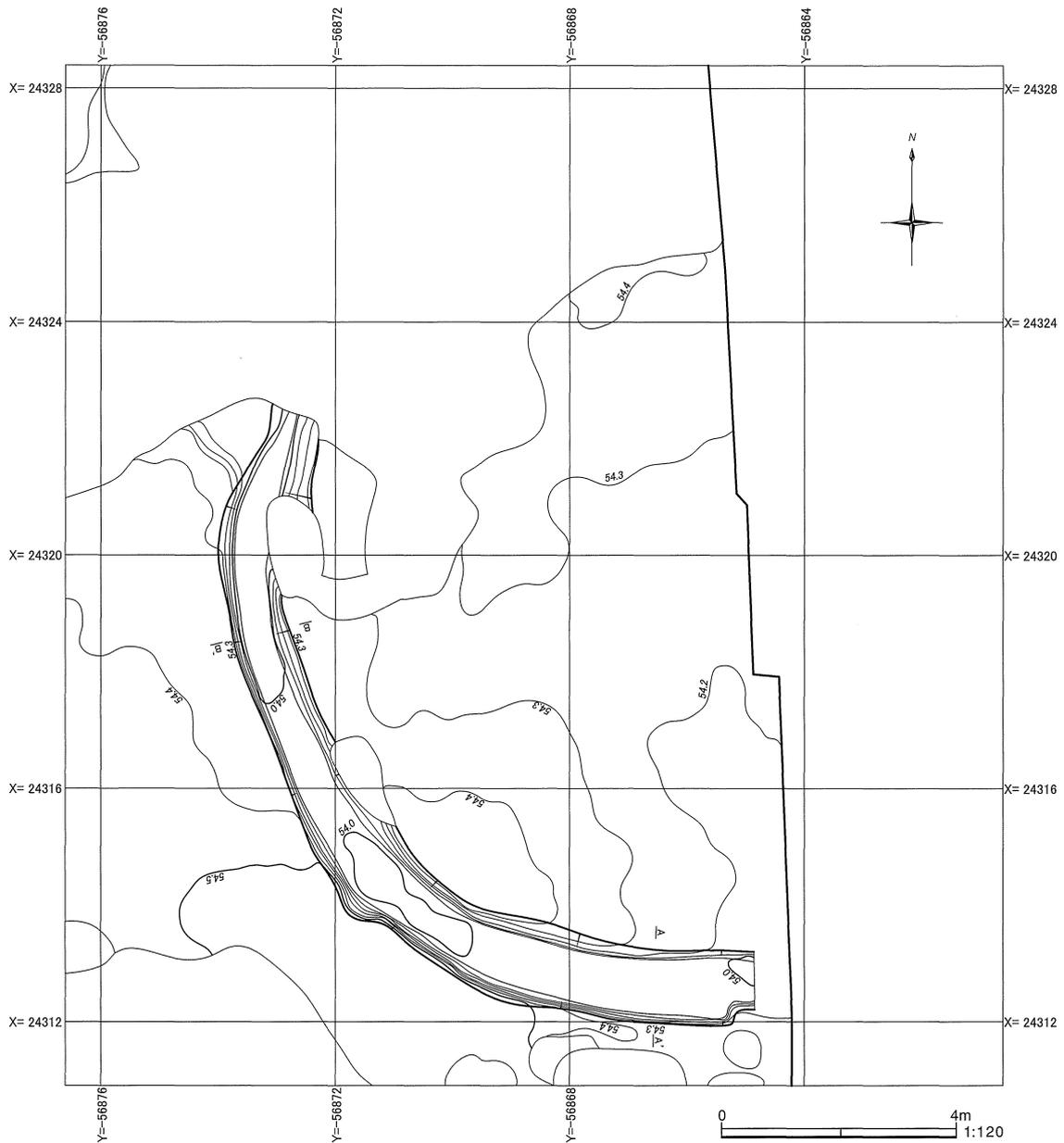
位置：調査区の東端にあって、1C-6・7・8・9, 1D-7・8グリッドに位置する。北側でST-14、北西側でST-18、さらに南側でST-16と近接している。

形態：台地の南端に近く、確認面は北から南へ緩やかに傾斜している。墳丘東側1/2ほどが調査区外にあり、また、墳丘北側にも大規模な攪乱があって、全形を確認できないが、円墳と推定される。墳丘部の平面形態はほぼ整円を呈する。墳丘北半の外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。周堀は全体に狭く、南側では外側が鍵の手状に屈曲し幅を減じている箇所が存在する。周堀覆土は3層に区分され、下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、中層に同じくロームブロックを多量に含む黒褐色土、上層にロームブロックを含まない黒色土が堆積する。最上層の1層には白色パミスの混入が観察されるが、火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は推定径 14.5 m、周堀は幅 1.1 ~ 1.5 m、確認面からの深さ 30 ~ 50 cmを測る。

(2) 遺物

周堀覆土からの遺物の出土はなかったが、削平が著しく埴輪樹立の有無については確定できない。



ST-15 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含みまだら状に堆積する。しまり弱。粘性欠。

図44 ST-15 平面および周堀土層断面

ST-16

(1) 遺構 (図45、写真1)

位置：調査区の南東端にあって、1C-11、1D-10・11・12 グリッドに位置する。北側でST-15、西側でST-19と近接している。

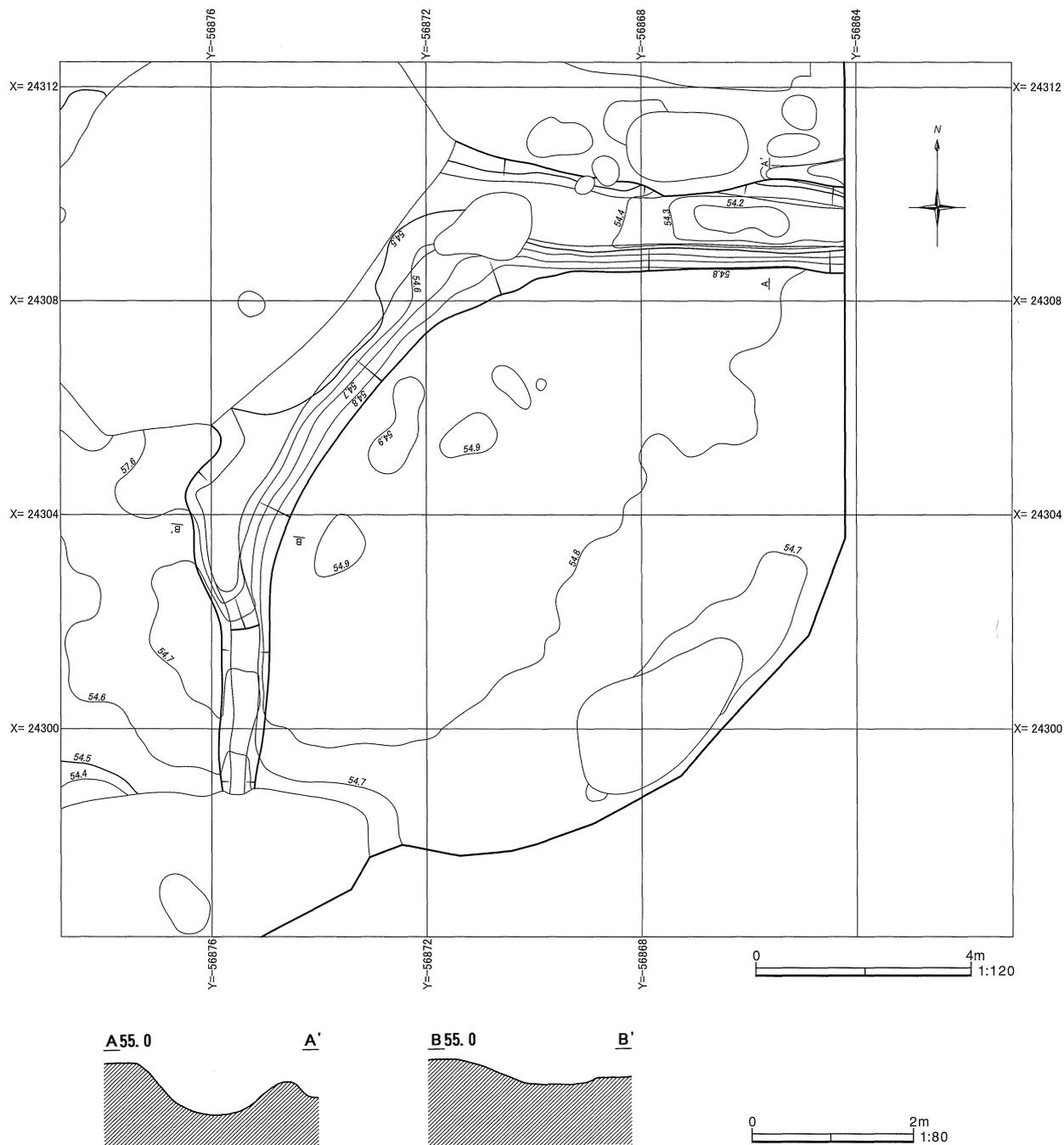


図 45 ST-16 平面および周堀土層断面

形態：台地の南端部にあるため、確認面は北から南へ緩やかに傾斜している。墳丘東側 1/2 ほどが調査区外にあり、さらに残りの南半を台地端部の浸食により失っている。平面形態は整円を描かず、墳形は不明である。周堀は北西側で大きく外側に拡張しているが、西側では極端に幅を減じ、堀底も段をもって極度に浅くなっている。周堀覆土は 3 層に区分される。下層に風化ロームの堆積層、中層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層に白色パミスとロームブロックを少量含む黒褐色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は推定径 15.2 m、周堀は幅 0.8 ~ 2.0 m、深さ 20 ~ 40 cm を測る。

(2) 遺物

周掘覆土からの遺物の出土はなかったが、古墳上面の削平が著しく、埴輪樹立の有無については確定できない。

ST-17

(1) 遺構 (図46・47、写真1)

位置：1E-6・7、1F-6・7グリッドに位置し、北西側でST-20の周堀と切り合っている。

形態：円墳である。墳丘平面形は各所に歪みがあり、整円を描かない。北側で周堀が途切れ、この部

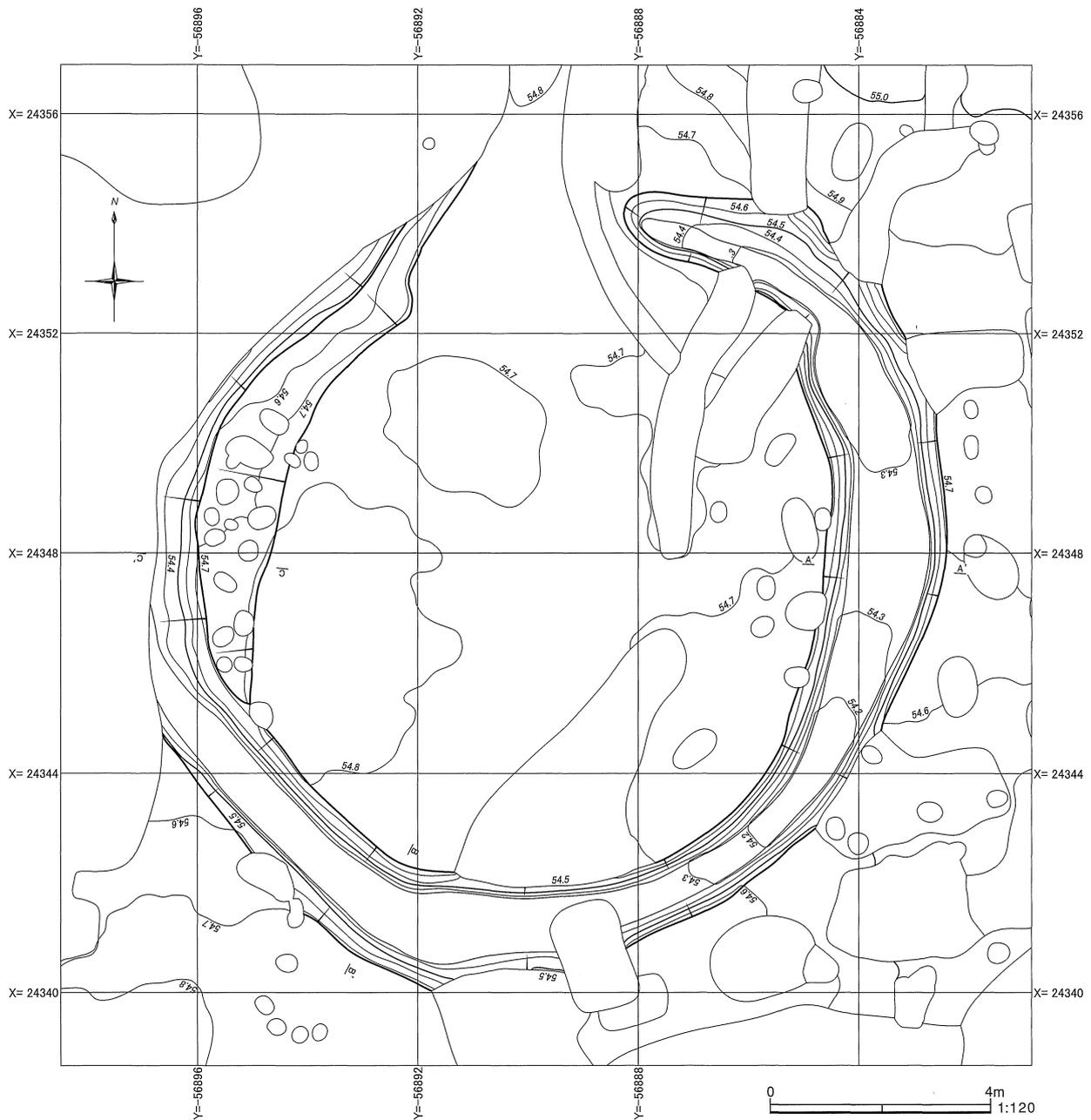
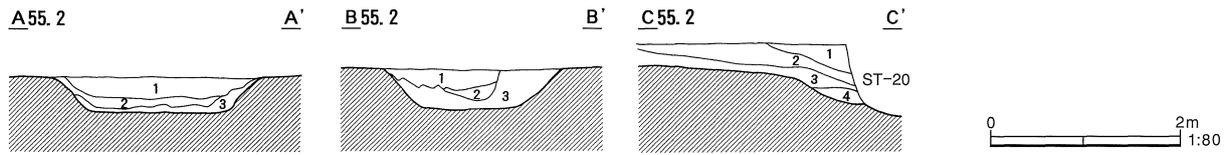


図46 ST-17平面



ST-17 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含みまだら状に堆積する。
- 4 褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。

図 47 ST-17 周堀土層断面

分に陸橋をもつ。墳丘北西側の外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。周堀幅は一定せず南東側および北側で狭くなっている。周堀底面はほぼ平坦である。北西側では、墳丘立ち上がり付近までST-20の周堀と重複している。周堀覆土は4層に区分される。下層に風化ロームの堆積層およびロームブロックを多量に含む褐色土、中層にロームブロックを少量含む黒褐色土、上層にロームブロックを含まない黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。なお、ST-20との覆土の切り合いは、ST-17が古く、ST-20が新しい。

規模：墳丘規模は、北東-南西方向で径12.8m、周堀は幅1.2~2.2m、深さ20~50cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-18

(1) 遺構 (図48、写真1)

位置：1D-8・9・10, 1E-8・9・10, 1F-8・9グリッドに位置し、北西側でST-14、ST-15に近接している。

形態：墳丘東半に大規模な攪乱があって、全形を確認できないが、円墳と推定される。南側で周堀がいったん途切れ、この部分に陸橋をもつ。また、北西側には屈曲する箇所が存在する。

周堀は南東側で大きく内側へ曲がり幅を減じている。陸橋部分では墳丘方向へ「∩」状に湾曲する細い溝が伸び、左右の周堀を繋げている。周堀覆土は3層に区分される。下層に風化ロームの堆積層、中層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層に黒褐色土、黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南-北方向で径19.0m、周堀は幅0.9~2.8m、深さ30~50cmを測る。

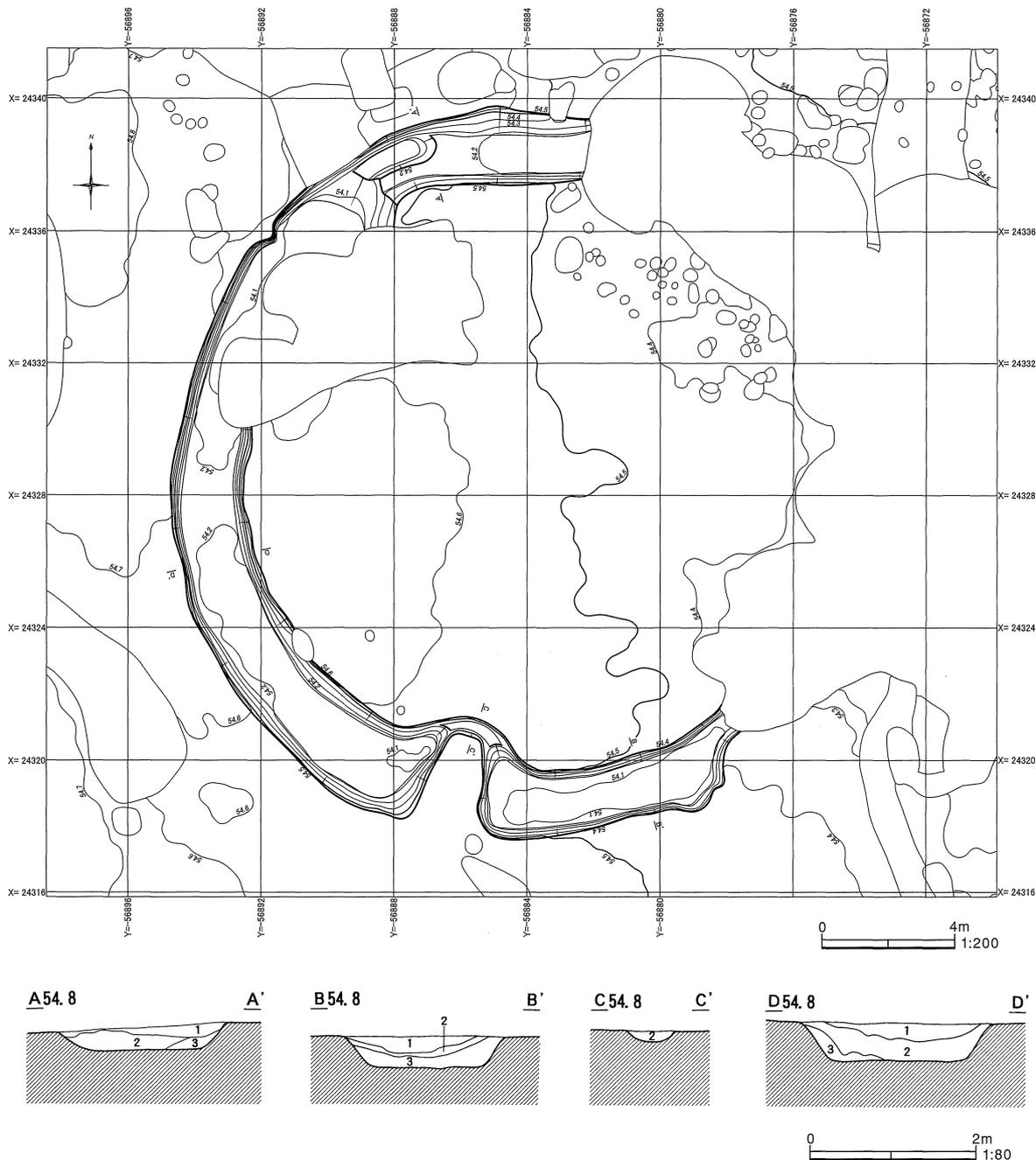
(2) 遺物

遺物は埴輪、土師器、石製紡錘車を検出している。いずれも原位置を保つ状態では検出されていない。土師器甕1点は平安時代に降下する資料で、周囲からの流れ込みである。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1~22] (図49・50、写真30~32)

全形の判明する資料はないが、底径・口径・段間の法量からいずれも2条突帯3段構成品と推定さ



ST-18 土層説明

- 1 黒褐色土 白色バミス（径1mm以下）ロームブロック（径1～2mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 暗褐色土 ロームブロック（径1～30mm）を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 褐色土 風化ロームの堆積層。しまり弱。粘性弱。

図48 ST-18平面および周堀土層断面

れる。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は多くが半円形で占められるなかで、9～11は円形となる可能性がある。突帯は断面がM字形、崩れた台形または三角形を呈する。12・15の第3段外面には「×」形と思われる刻線が存在する。

胎土は多くの個体が片岩・チャートを含む。白色針状粒を含む個体が目立つ。色調は多様である。

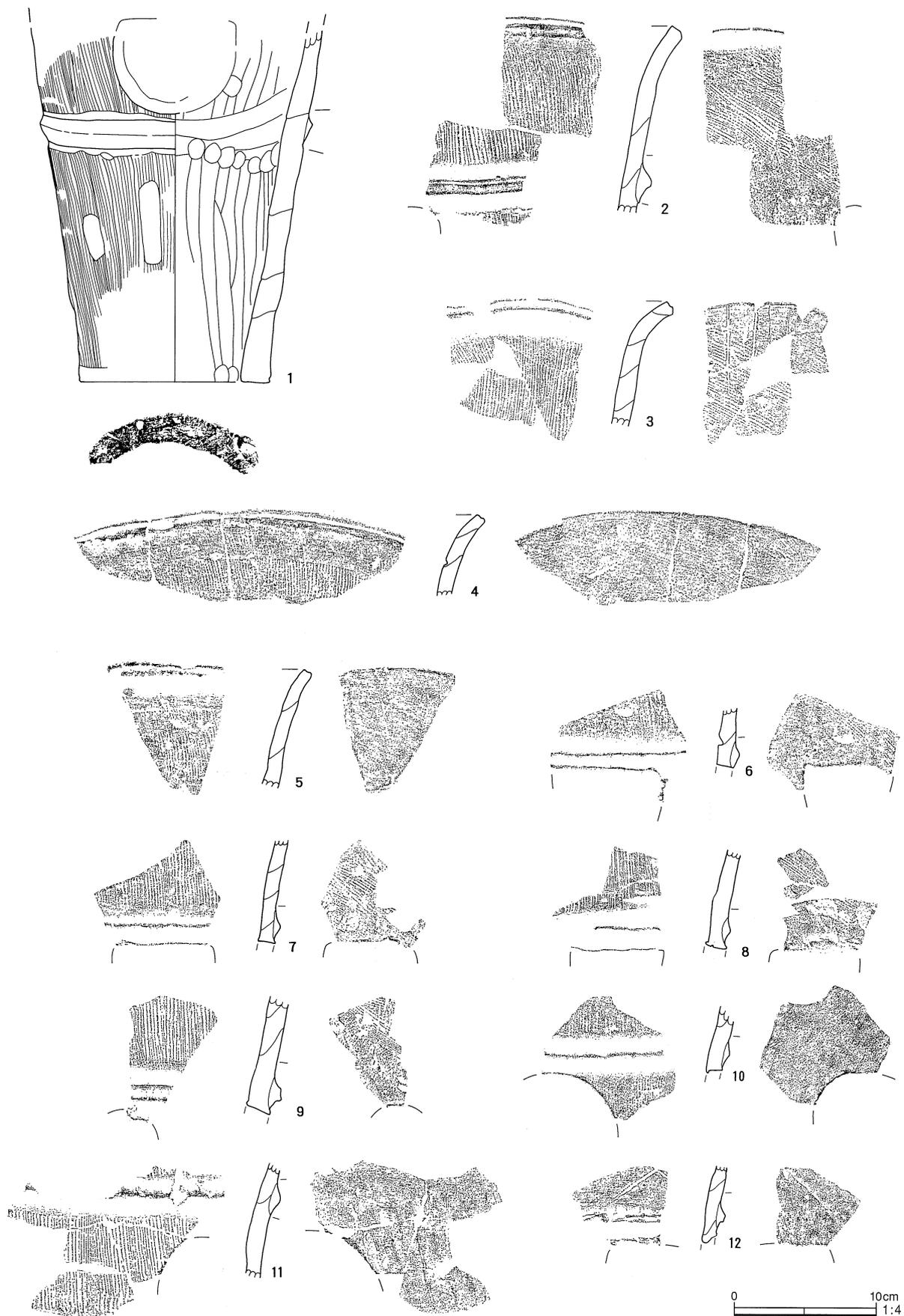
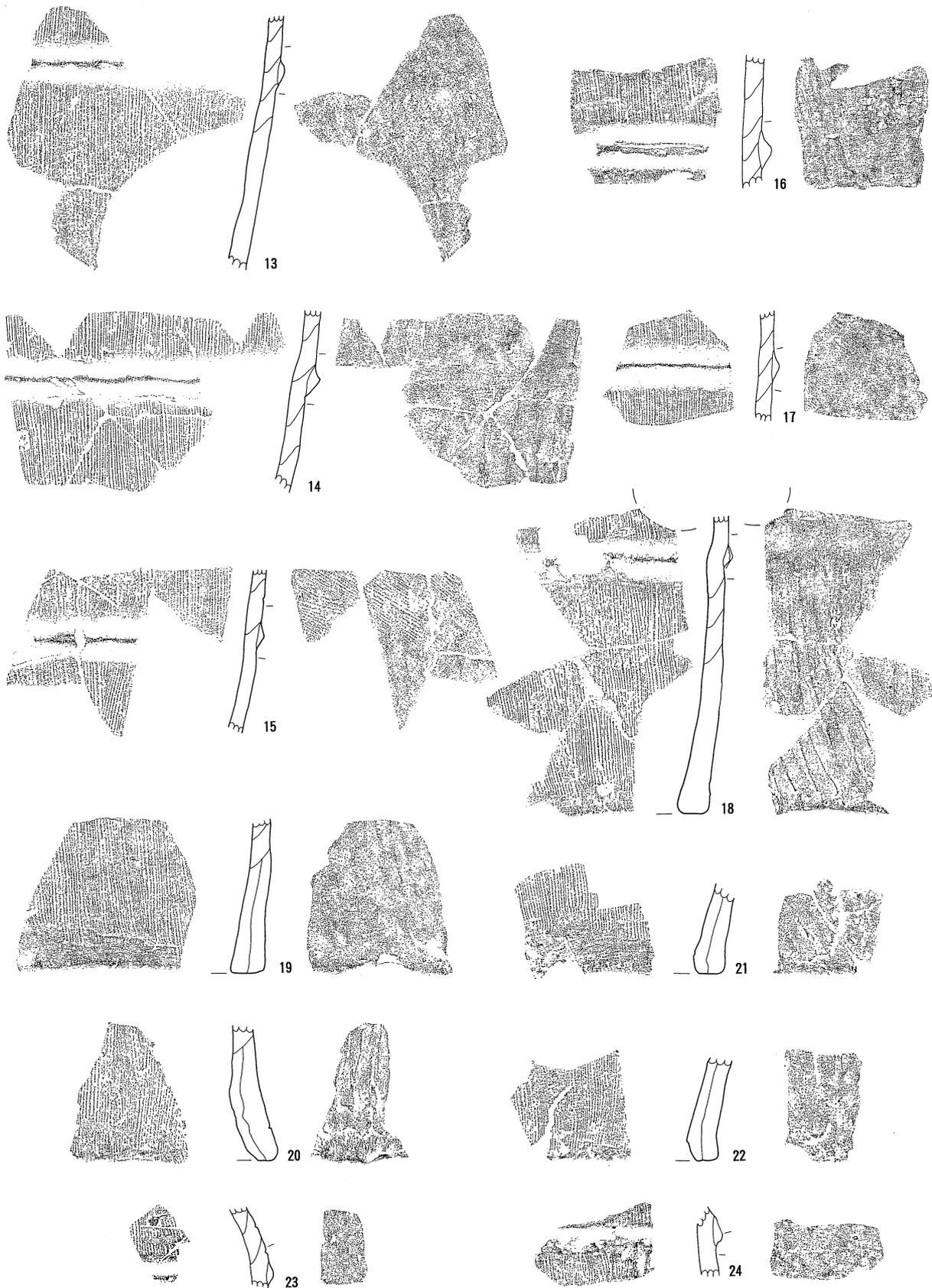


图 49 ST-18 出土陶筒・朝顔形埴輪 (1)



0 10cm
1:4

图 50 ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)

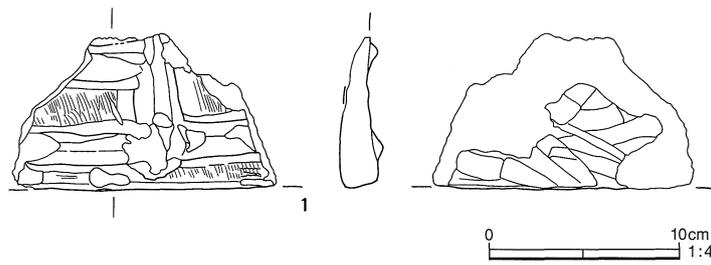


図 51 ST-18 出土形象埴輪

3・9・20・22は還元焼成品で、灰色系の色調を示す。また、2は半還元状態となっていて、にぶい黄褐色を呈する。2の外面には赤色塗彩の痕跡を認める。

朝顔形埴輪 [23・24] (図 50、写真 32)

23は肩部、24は胴部最上段から肩部下端の破片である。23の外面には線刻が存在する。24の胎土に片岩・チャートを含む。色調はともに橙色を呈する。

形象埴輪 [1] (図 51、写真 32)

家 [1]

壁体基部の破片である。外面は調整に縦位のハケを加えたのち、縦横に突帯を貼付している。内面には斜位のハケを施している。胎土に片岩・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

b. 石製品

紡錘車 [2] (図 52、写真 38)

黒緑色を呈する蛇紋岩製の紡錘車で、各面とも丁寧に磨きだされている。側面には網目状の刻線がある。

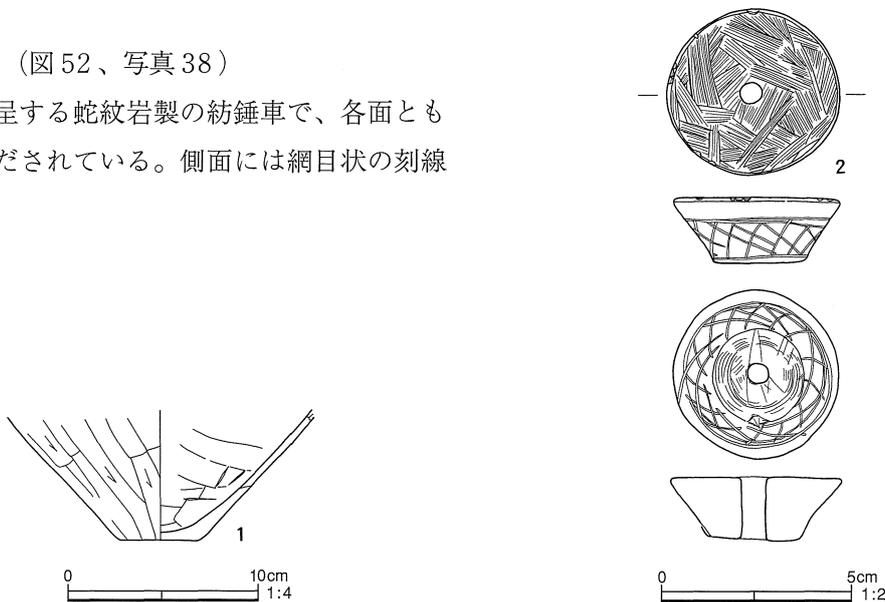


図 52 ST-18 出土土器・紡錘車

ST-18 出土土器・紡錘車観察表

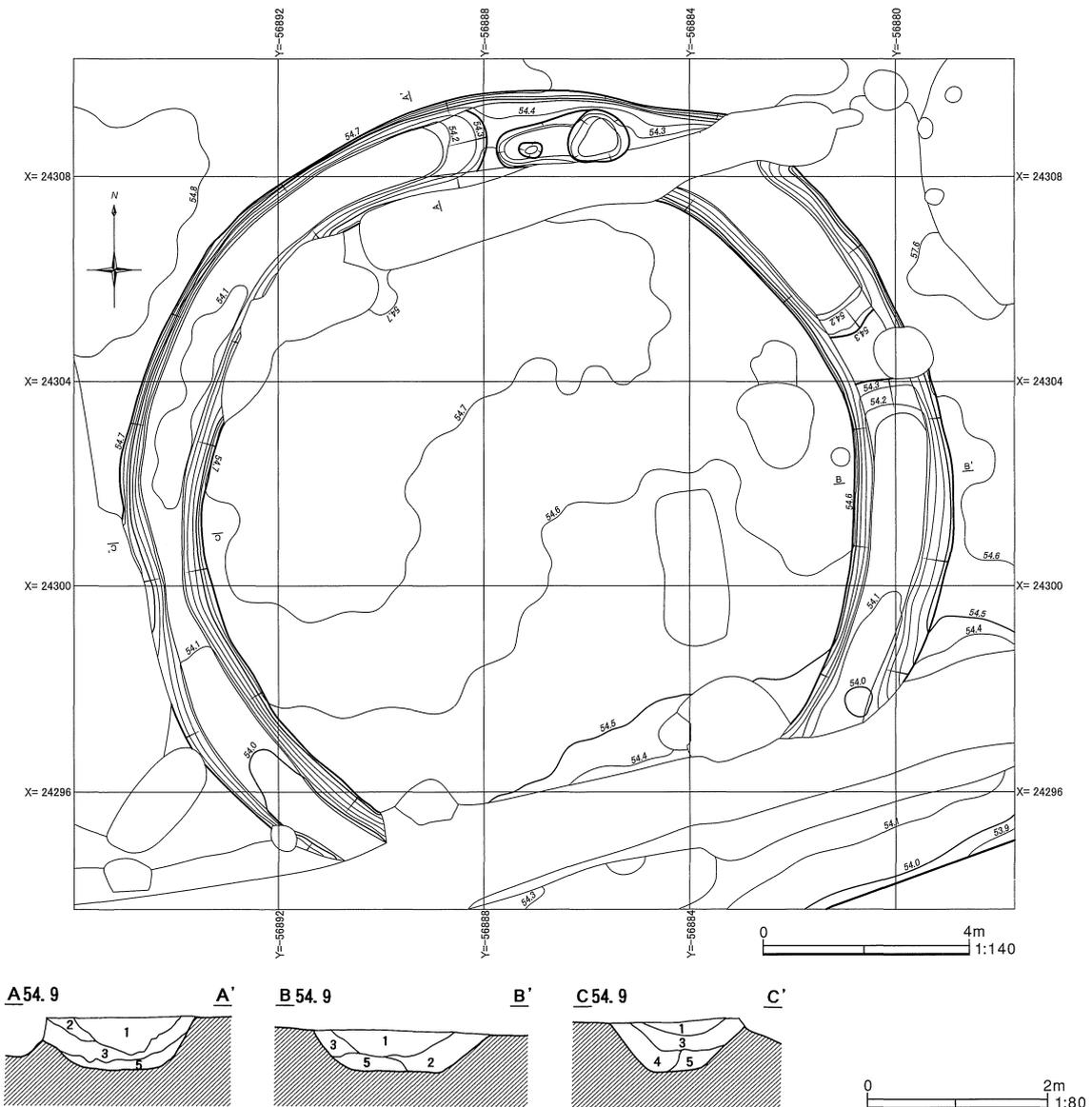
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 - 底径 4.1 器高 -	小さめの底部。胴部は直線的に開く。	外面-胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ後ナデ。内面-胴部~底部ヘラナデ。	石英・チャート 内外-にぶい赤褐色	1/5。 平安時代の紛れ込み遺物。
No.	器種	法量・材質 (cm)				備考
2	石製紡錘車	上端径：4.4 下端径：2.4 厚さ：1.7 孔径0.6 重さ38.71g 黒色 蛇紋岩製 側面に斜格子状の線刻。				完形。

ST-19

(1) 遺 構 (図 53、写真 2)

位置：調査区の南端にあつて、1C-11，1D-10・11・12 グリッドに位置する。東側でST-16、西北側でST-22 と近接している。

形態：円墳である。台地の南端部にあるため、確認面は北から南へ緩やかに傾斜している。墳丘平面形はほぼ整円形を呈する。



ST-19 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり欠。粘性弱。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり欠。粘性弱。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~20mm) 及び黒色土ブロック (径10~20mm) を多量に含みまだら状に堆積する。しまり欠。粘性やや強。
- 4 褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機物を含む。しまり欠。粘性強。
- 5 黄褐色土 風化ロームの堆積層。しまり欠。粘性強。

図 53 ST-19 平面および周堀土層断面

周堀の幅はほぼ一定している。北側から東側にかけての周堀底面には段差がみられ、北半の周堀底面には土坑状の落ち込みが存在する。周堀覆土は5層に区分される。地点により一様ではないが、おおむね下層には風化ロームの堆積層が発達し、中層にはロームブロック・黒色土ブロックを多量に含む暗褐色土、上層に黒褐色土、黒色土が堆積する。上層には白色パミスの混入を認めるものの、火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南－北方向で径12.0 m、東－西方向で径11.5 m、周堀は幅1.1～1.8 m、深さ10～40 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は少量の埴輪破片を検出している。すべて周堀覆土の黒色土層および周堀確認面上層からの出土で、原位置を保つ状態では検出されてはいない。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1] (図54、写真32)

2条突帯3段構成で第3段とを欠失している。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられていない。透孔は半円形、突帯は断面が三角形を呈する。胎土には片岩・チャートを含み、色調は橙色を示す。

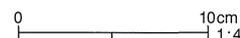
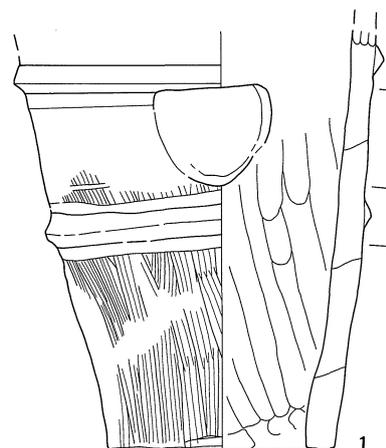


図54 ST-19出土円筒埴輪

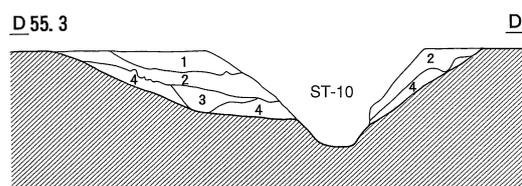
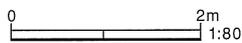
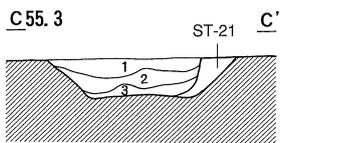
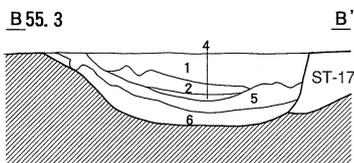
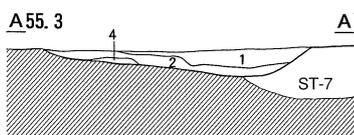
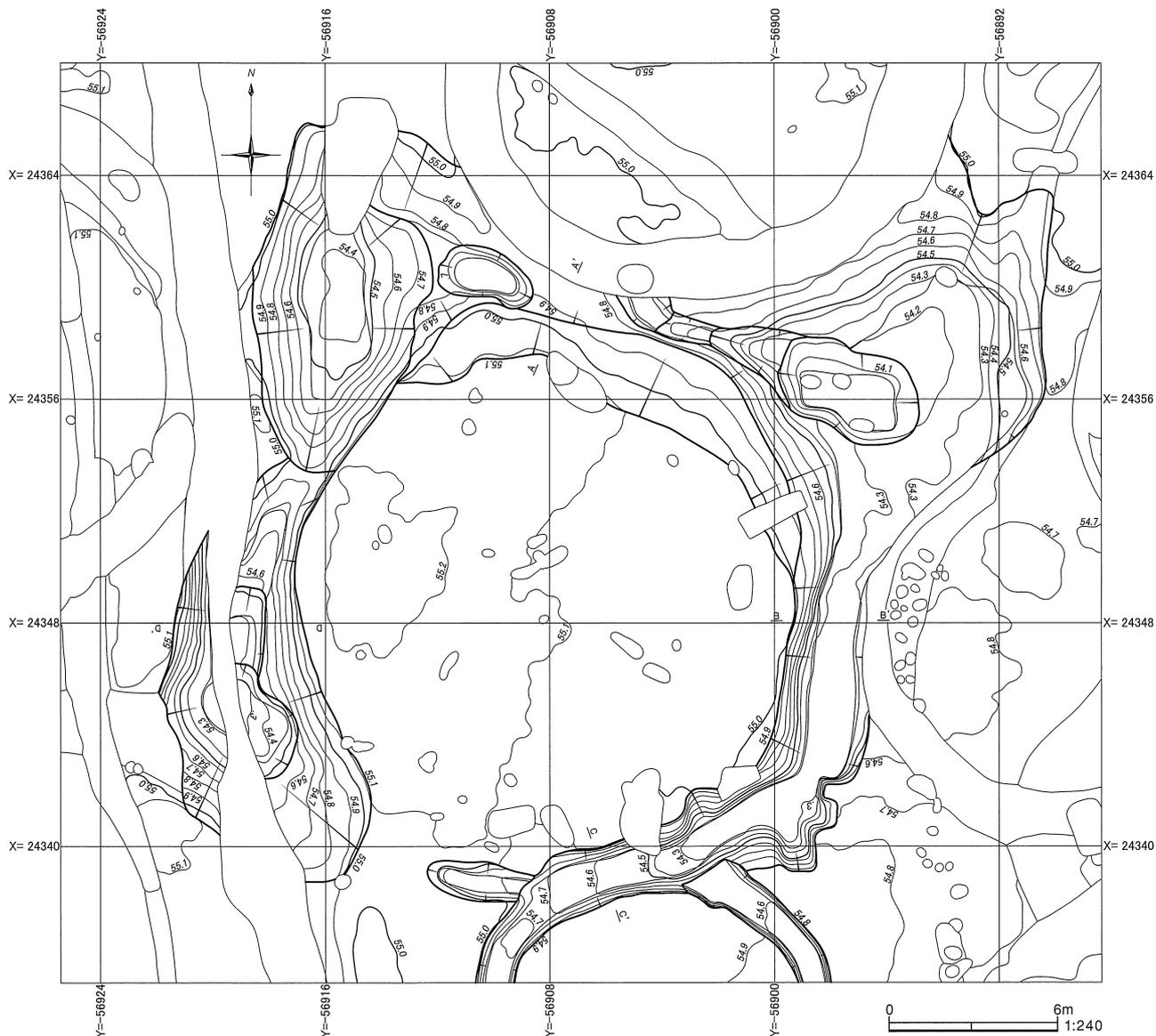
ST-20

(1) 遺構 (図55、写真2)

位置：1F-5・6・7・8、1G-5・6・7・8、1H-5・6・7・8、1I-6・7グリッドに位置し、北側でST-7、東側でST-17、南側でST-21、南西側でST-24の周堀とそれぞれ切り合っている。また西側ではSD-10を隔ててST-23と近接している。

形態：円墳である。墳丘平面形は各所に歪みがあり、整円を描かない。とくに、北側ではST-7、東側ではST-17を避けるように内側へ大きく歪んでいる。南西側で周堀が途切れる箇所があり、この部分に陸橋をもつ。墳丘北側の外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。周堀の幅は各所で外側へ膨らみ、北東側のST-7とST-17の間、北西側のST-7とST-23の間では、大きく張り出している。周堀底面には深く掘り込まれた土坑状の落ち込みがあり、坑底はローム層下の白色粘土層を掘り抜いて、礫層にまで達している。周堀覆土は6層に区分される。周堀の浅深が著しく、地点により堆積状態は大きく異なる。火山噴出物の層状堆積は観察されない。なお、覆土の切り合いは、ST-7・17・21・24がいずれも古く、ST-20が新しい。

規模：墳丘規模は、南－北方向で径20.3 m、東－西方向で径19.5 m、周堀の幅は南側の狭い部分で幅2.0 m、最大箇所では13.44 m、深さ20～90 cmを測る。



ST-20 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり弱。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含みだら状に堆積する。
- 4 黒色土 白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 6 褐色土 白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を多量に少量含む。粘性強。

図55 ST-20 平面および周堀土層断面

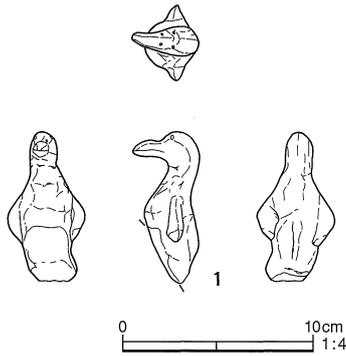


図 56 ST-20 出土埴輪

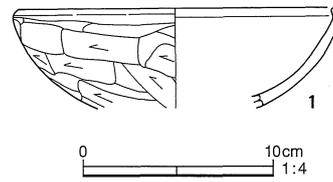


図 57 ST-20 出土土器

ST-20出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (16.5) 底径 - 器高 -	体部は丸みを持ち、口縁部は短く内傾する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。	黒色粒・白色粒 内-にぶい橙色 外-橙色	1/3。

(2) 遺物

遺物はごく少量の埴輪破片と土師器片を検出している。いずれも周堀覆土の黒色土層および周堀確認面上層からの出土で、土師器片は他所からの流れ込みと判断される。

a. 埴輪

器種不明 [1] (図 56、写真 32)

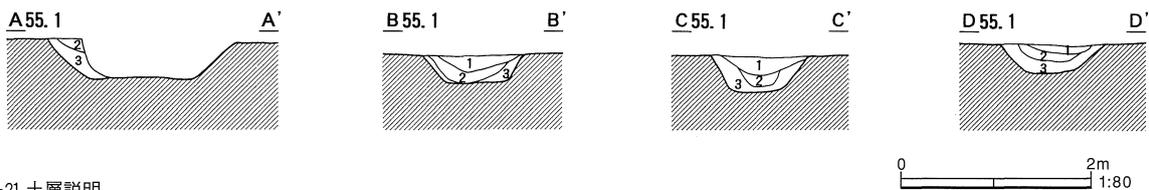
本体から剥離した鳥形の部品である。腹部に剥離痕があり、本来は円筒・家などに貼付されていたものであろう。尾羽を欠失している。細い棒状工具を刺突し眼と鼻孔を表現している。調整は全面ナデ、胎土には片岩・チャートを含み、色調はにぶい褐色を示す。

ST-21

(1) 遺構 (図 58・59、写真 2)

位置：1F-8・9、1G-8・9、1H-8 グリッドに位置し、北側でST-20の周堀と切り合っている。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円を描くが、立ち上がりの線は各所で緩やかに蛇行している。周堀幅も一定せず、南東側にはとくに狭くなっている箇所がある。周堀底面はほぼ平坦である。周堀覆土は3層に区分される。下層には風化ロームの堆積層が発達し、中層にはロームブロック・黒色土ブロックを多量に含む暗褐色土、上層に黒褐色土、黒色土が堆積する。上層には白色パミスの混入を認めるものの、火山噴出物の層状堆積は観察されない。ST-20との覆土の切り合いは、ST-21が古く、ST-20が新しい。



ST-21 土層説明

- 1 暗褐色土 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1~20mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径 1~30mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 褐色土 風化ロームの堆積層。しまり弱。粘性欠。

図 58 ST-21 周堀土層断面

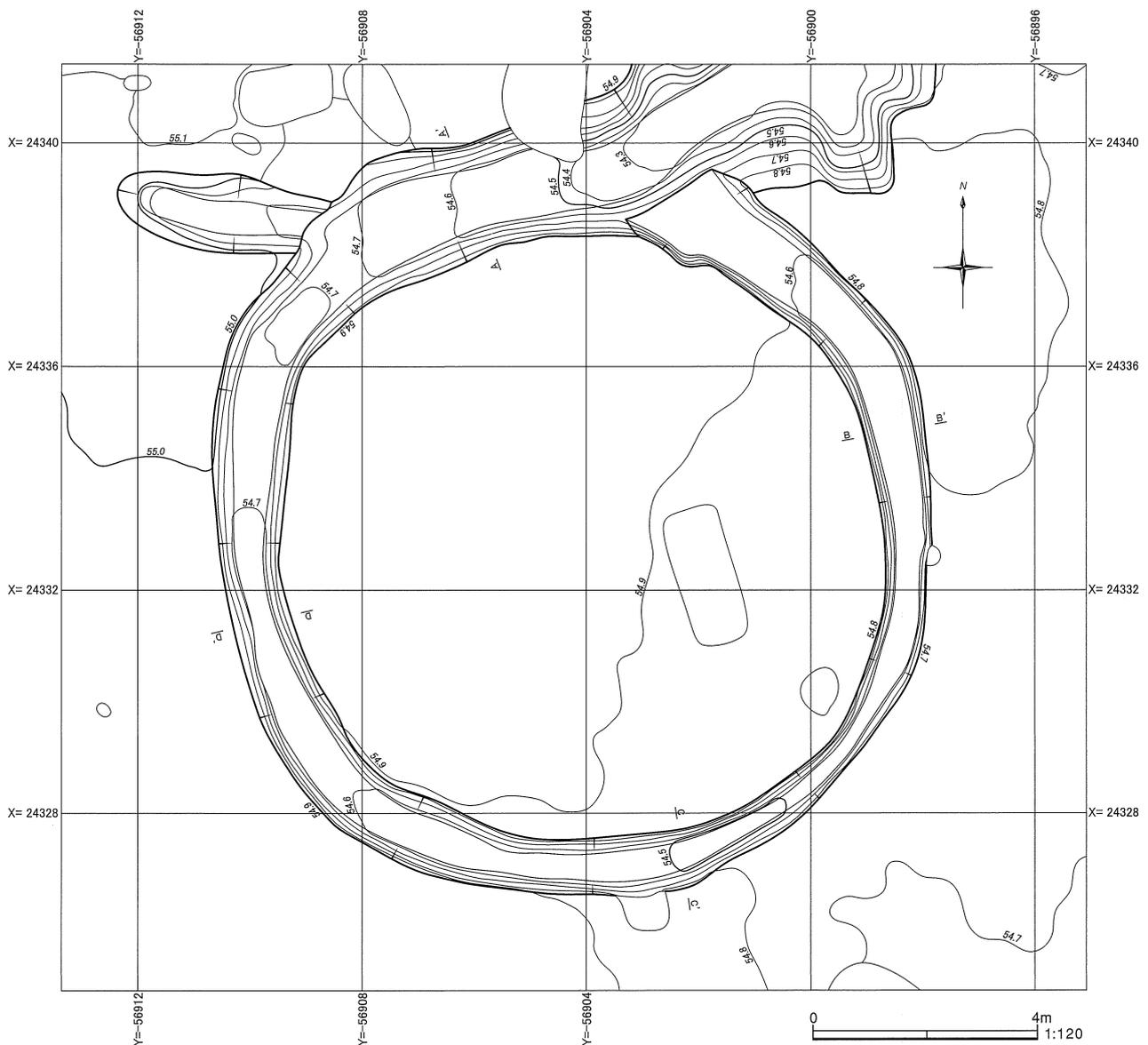


図 59 ST-21 平面

規模：墳丘規模は、北西－南東方向で径 11.8 m、北東－南西方向で径 11.0 m、周堀は幅 0.6 ～ 2.4 m、深さ 20 ～ 60 cm を測る。

(2) 遺物

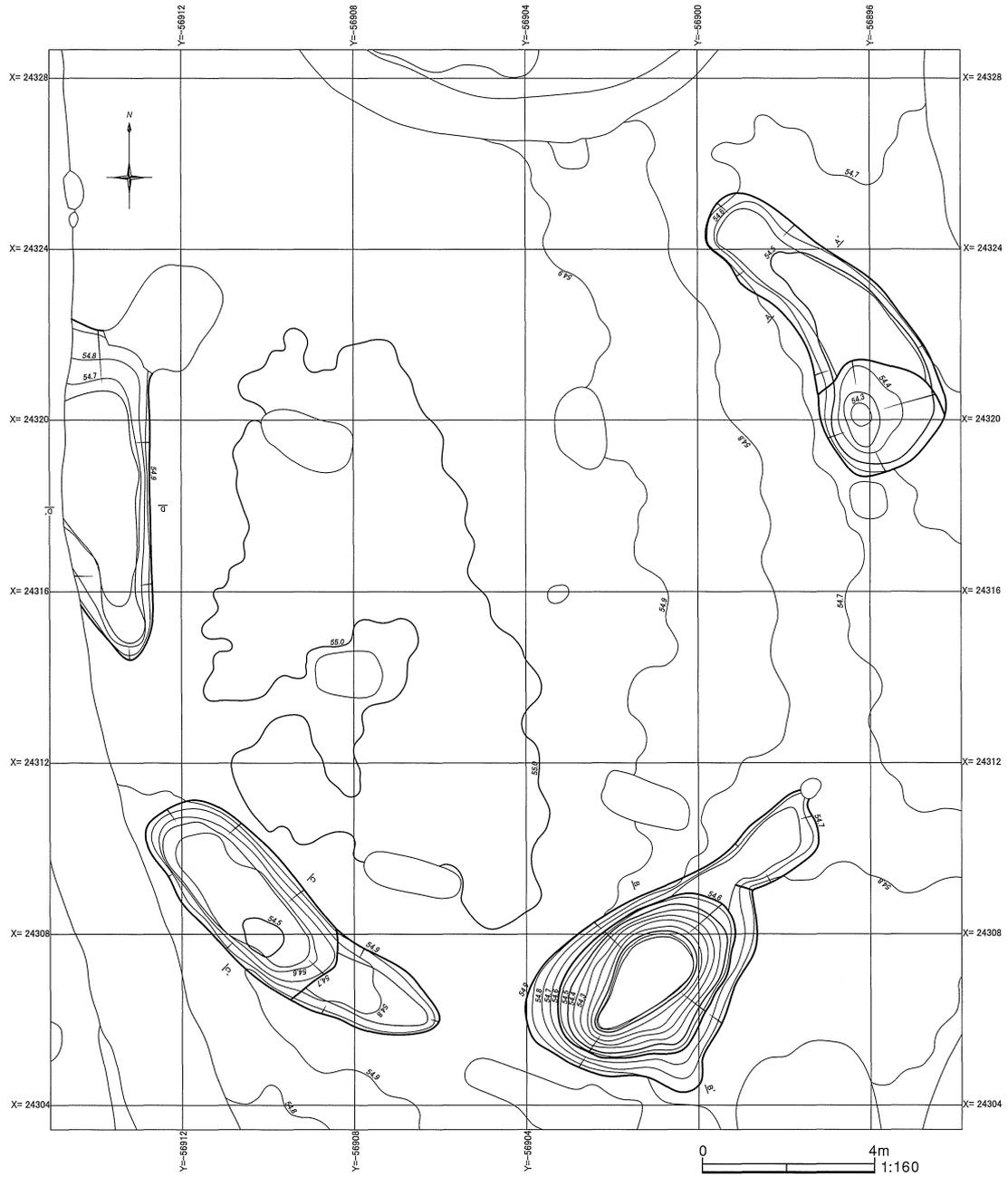
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-22

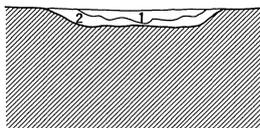
(1) 遺構 (図 60、写真 2)

位置：1F-9・10・11、1G-9・10・11、1H-9・10・11 グリッドに位置する。

形状：円墳である。周堀の掘り込みが全体に浅かったためか、墳丘上面の削平を受けて、周堀底の深掘り部分 4 箇所のみが残存している。南東側に残った周堀にはとくに深い部分があり、ローム層下の白色粘土層を掘り抜いて、礫層にまで達している。周堀覆土は最も深い南東側周堀で 4 層に区分されるが、周堀全体の浅深が著しく、地点により堆積状態は大きく異なる。火山噴出物の層状堆積は観察

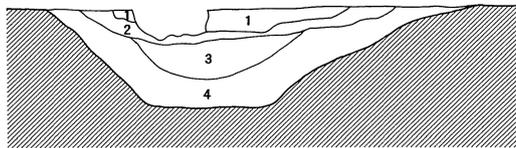


A55.1



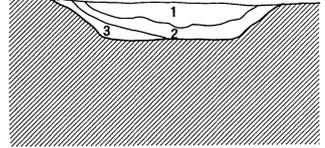
A'

B55.1



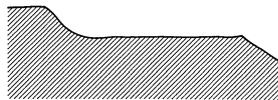
B'

C55.1



C'

D55.2



D'

ST-22土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径 1mm±) 微量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 黒色土ブロック (径 10~50mm) を多量に含み、まだら状に堆積する。しまり弱。粘性欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径 1~2mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径 1~2mm) を多量に含む。しまり・粘性とも弱。

0 2m
1:80

図 60 ST-22平面および周堀土層断面

されない。

規模：墳丘規模は、径19 m前後、周堀に幅は1.04～4.44 m、深さ20～100 cmを測る。

(2) 遺物

南東側周堀内の土坑状の落ち込みから須恵器がまとまって出土している。南東側周堀でも須恵器フラスコ形瓶1点を検出している。

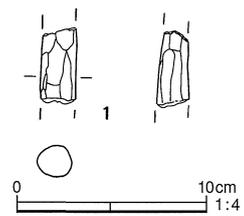


図 61 ST-22 出土形象埴輪

埴輪は他所からの流れ込みと思われる棒状の小片が1点みられる以外はまったく出土していない。

a. 土器

土師器 [1・2] (図 62、写真 39)

小型壺 [1]

底部は平底で器壁が厚く、胴部は屈曲気味に強く張る。頸部は「く」字状に外反し、口縁部は短く直線的に立ち上がる。

甕 [2]

全体に器壁が薄く、丸底気味の底部をもち、頸部は強く外湾する。調整は胴部外面がヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともナデである。

須恵器 [3～10] (図 62、写真 39)

高坏 [3・4]

4の脚部は2方2段透しで上段が長方形、下段が三角形となっている。軽量軟質の焼成で、灰白色系の色調が特徴的である。地元窯の製品と推測される。

フラスコ形瓶 [5・6]

5・6ともに小型で比較的頸部の短い器形と特徴とする。堅緻な焼成で、灰色系の色調を呈する。

提瓶 [7]

外反する口縁部をもち、胴部は片面閉塞で成形される。肩部には円板状の粘土粒を貼付している。

瓶 [8]

緩やかに外湾する立ち上がり、口唇部は丁寧につくり出されている。横瓶の口縁部の可能性がある。

甕 [9]

焼成はきわめて堅緻で、色調は黒色を呈する。胴部外面調整にはタタキののち横位のナデを加えている。内面には同心円文の当て具痕がみられる。

大甕 [10]

頸部に断面三角形の補強帯をもつ。部外面調整にはタタキののち横位のナデを加えている。内面には同心円文の当て具痕がみられる。

ST-22 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 小型壺	口径 (9.1) 底径 5.0 器高 7.0	胴部は中位で膨らみ、口縁部は外傾する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ミガキ、底部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外－赤色	3/4。
2	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 6.9 器高 32.0	粘土紐積み上げ成形。中位上側に膨らみを持つ胴部。口縁部は外反して開く。底部は丸みを持つ平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内－明赤褐色 外－橙色	2/3。

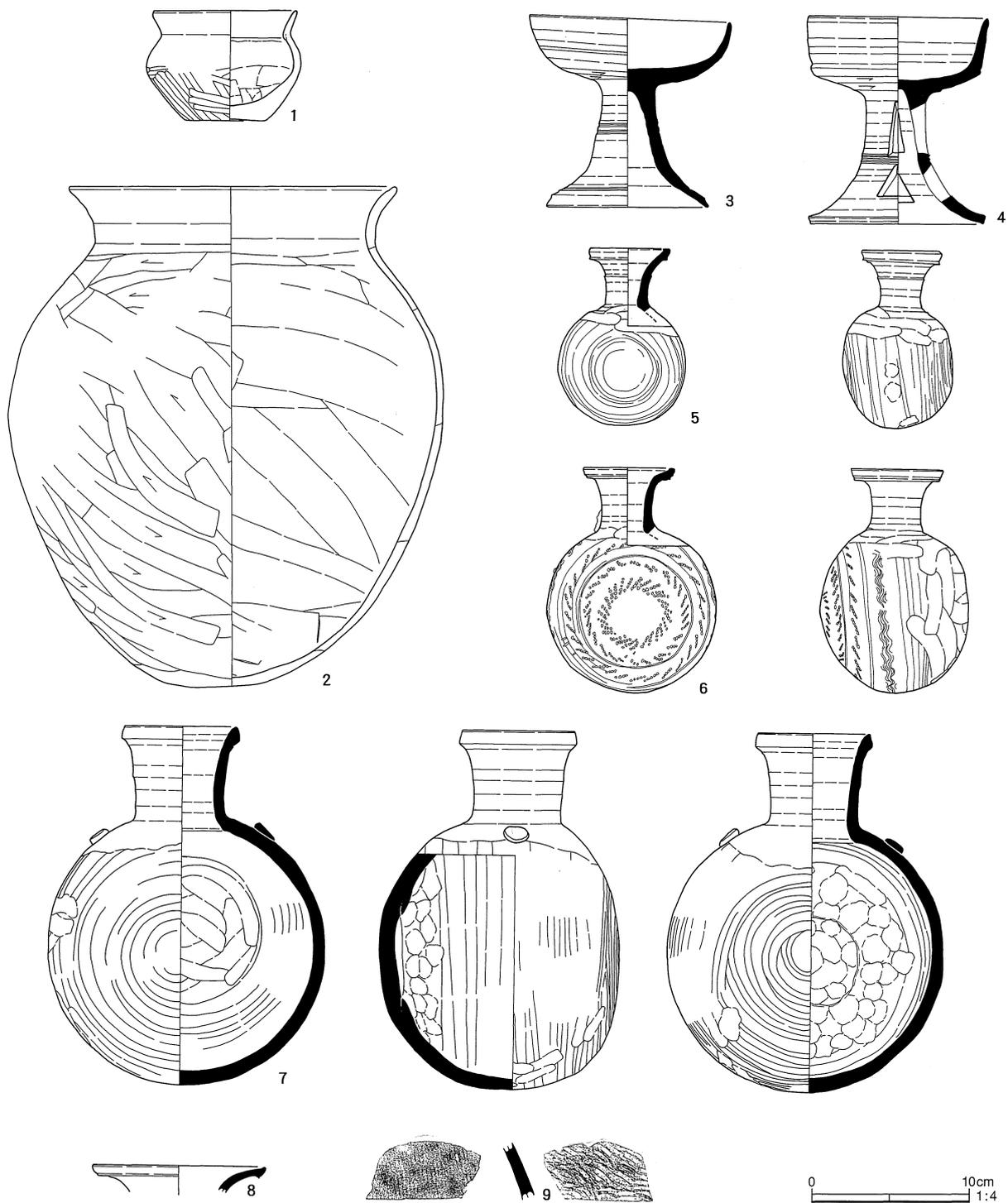


図 62 ST-22 出土土器 (1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	須恵器 高杯	口径 12.7 底径 10.2 器高 12.4	体部～口縁部は内湾気味に立ち上がる。脚部は下方へ外反して開く。	外面－体部回転ヘラケズリ、体部に2条、脚部に2条、裾部に1条の凹線。内面－ロクロ調整。	白色粒 内－灰黄色 外－灰白色	3/4。
4	須恵器 高杯	口径 11.5 底径 11.1 器高 13.4	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は外傾。脚部は下方へ外反し、2方向に2段の透孔を有する。透孔は上段長方形、下段三角形。	外面－体部回転ヘラケズリ、脚部上下の透孔の間に凹線。内面－ロクロ調整。	白色粒 内外－灰黄色	ほぼ完形。

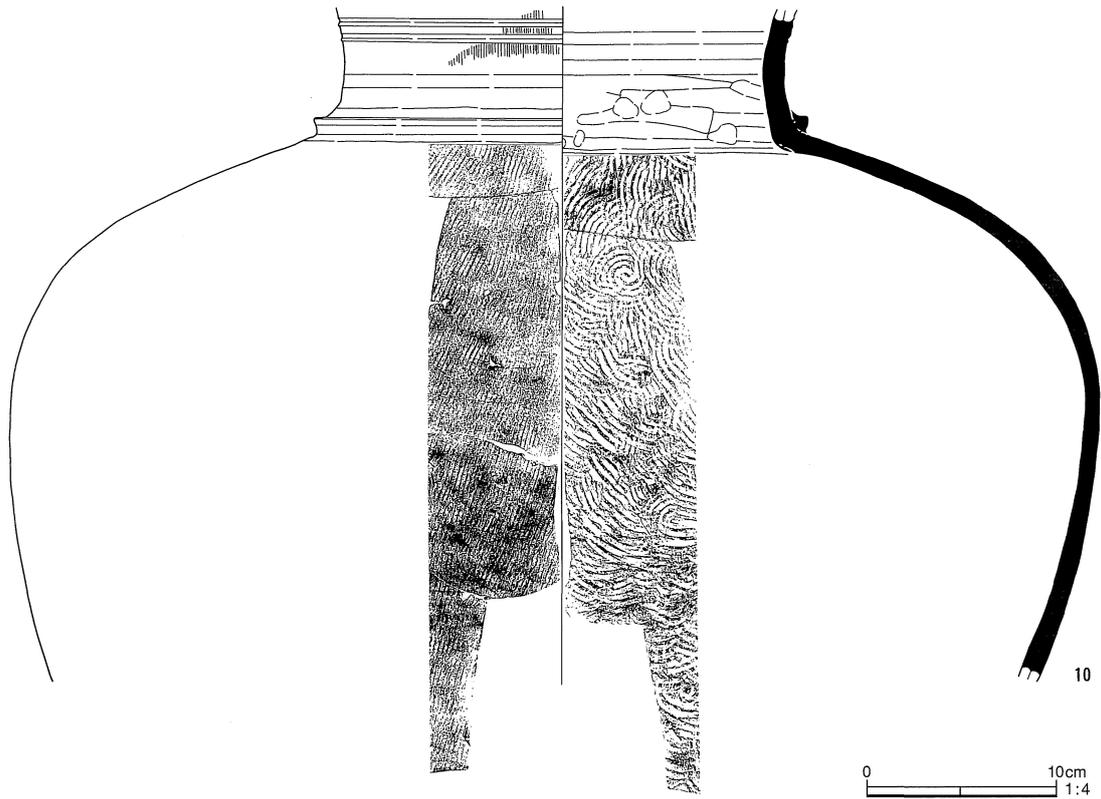


図 63 ST-22 出土土器 (2)

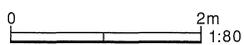
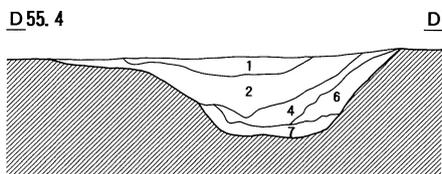
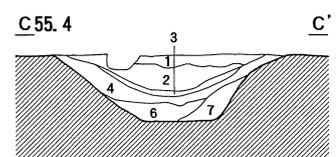
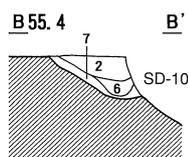
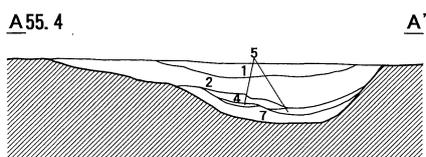
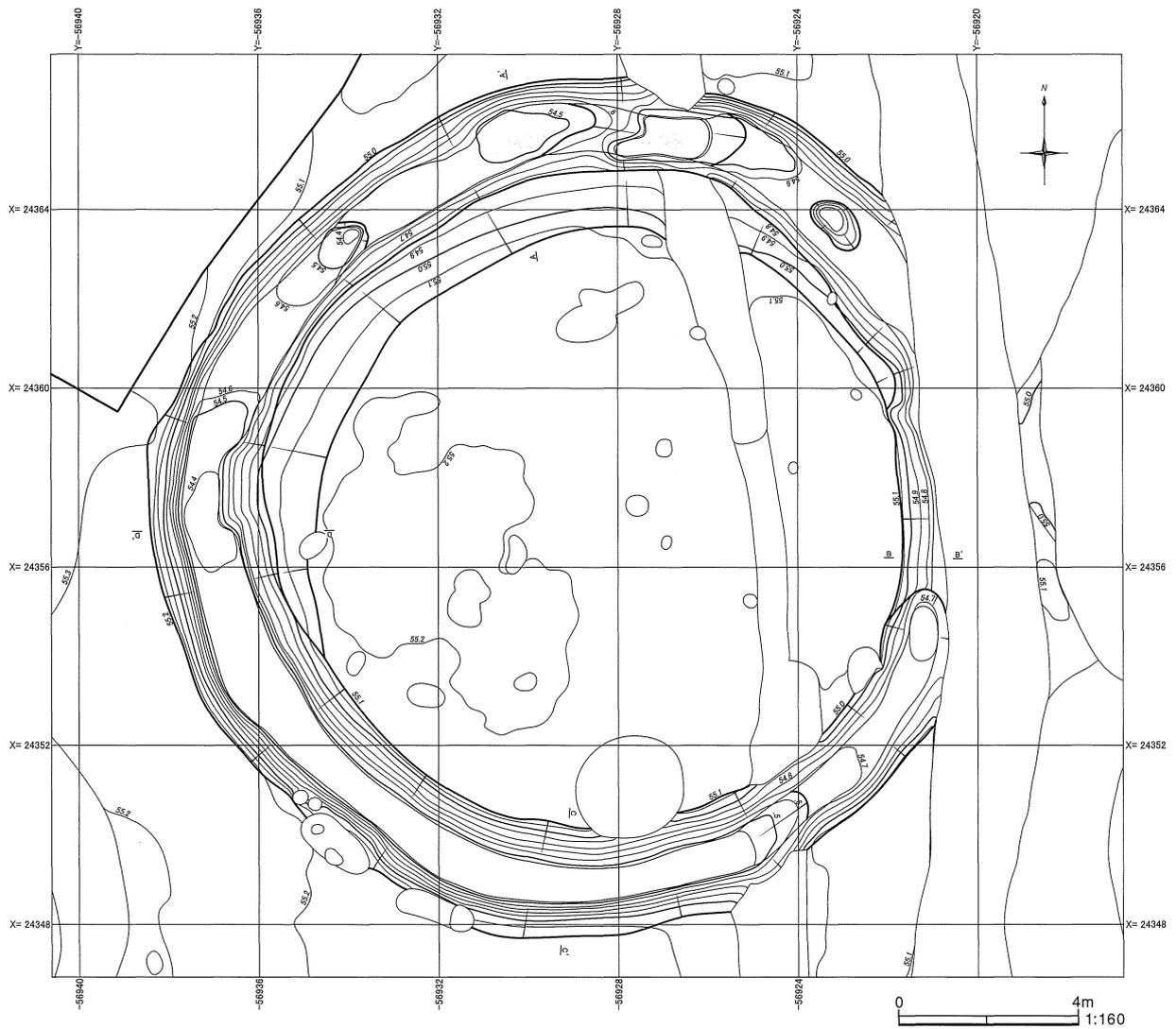
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
5	須恵器 フラスコ 形長頸壺	口径 5.2 底径 - 器高 11.4	胴部の膨らみ大きく、口縁部は外反する。小型品。	外面-胴部回転ナデ、胴部正面周縁に凹線2条、口縁部ロクロ調整。 内面-口縁部ロクロ調整。	白色粒 内外-灰オリーブ色~黄灰色	完形。
6	須恵器 フラスコ 形長頸壺	口径 5.8 底径 - 器高 14.4	胴部の膨らみ大きく、口縁部は外反する。小型品。頸部と胴部外面融着物。	外面-口縁部回転ナデ、胴部正面に櫛歯状工具による波状文と刺突文、胴部背面と頸部指ナデ。内面-口縁部ロクロ調整。	白色粒 内外-灰色	完形。外面に自然釉。
7	須恵器 提瓶	口径 (7.1) 底径 - 器高 23.0	部の膨らみは大きく、口縁部は外反する。肩に円形の粘土粒を貼付。片面閉塞。	外面-胴部背面回転ヘラケズリ、胴部正面回転ナデ調整、頸部ナデ。 内面-胴部正面・背面指ナデ。	白色粒 内-黒褐色 外-暗灰色	口縁部~胴部一部欠損。外面に自然釉。
8	須恵器 瓶	口径 (11.0) 底径 - 器高 -	口縁部は外反し、外面に稜線が巡る。	内外面-ロクロ調整。	黒色粒 内外-黄灰色	口縁部1/6。
9	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部小片。	外面-胴部タタキ後ナデ。 内面-胴部同心円文当て具痕後ナデ。	白色粒 内-灰色 外-黒色	胴部小片。
10	須恵器 大甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部肩の張り出し大きく、口縁部は外反する。頸部に補強帯を施す。	外面-口縁部下位ハケ後凹線2条、頸部ナデ、胴部タタキ後横方向のナデ。内面-頸部指ナデ、胴部同心円文当て具痕。	白色粒・赤褐色粒 内-灰色 外-オリーブ灰色	頸部~胴部上位1/3。

ST-23

(1) 遺構 (図 64、写真 2)

位置：1I-5・6・7、1J-5・6・7グリッドに位置する。東側でST-20と近接している。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円を描くが、真西側には台形に突出する箇所が認められる。



ST-23 土層説明

1 黒色土 白色バミス (径 1mm以下) を微量含む。しまり弱。粘性欠。

- 2 黒褐色土 白色バミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1mm±) を含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径 10~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径 1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 5 黒色土 ロームブロック (径 10mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 6 暗褐色土 ロームブロック (径 1~30mm) を多量に含み、斑状を呈する。しまり弱。粘性弱。
- 7 鈍黄褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり弱。粘性弱。

図 64 ST-23 平面および周堀土層断面

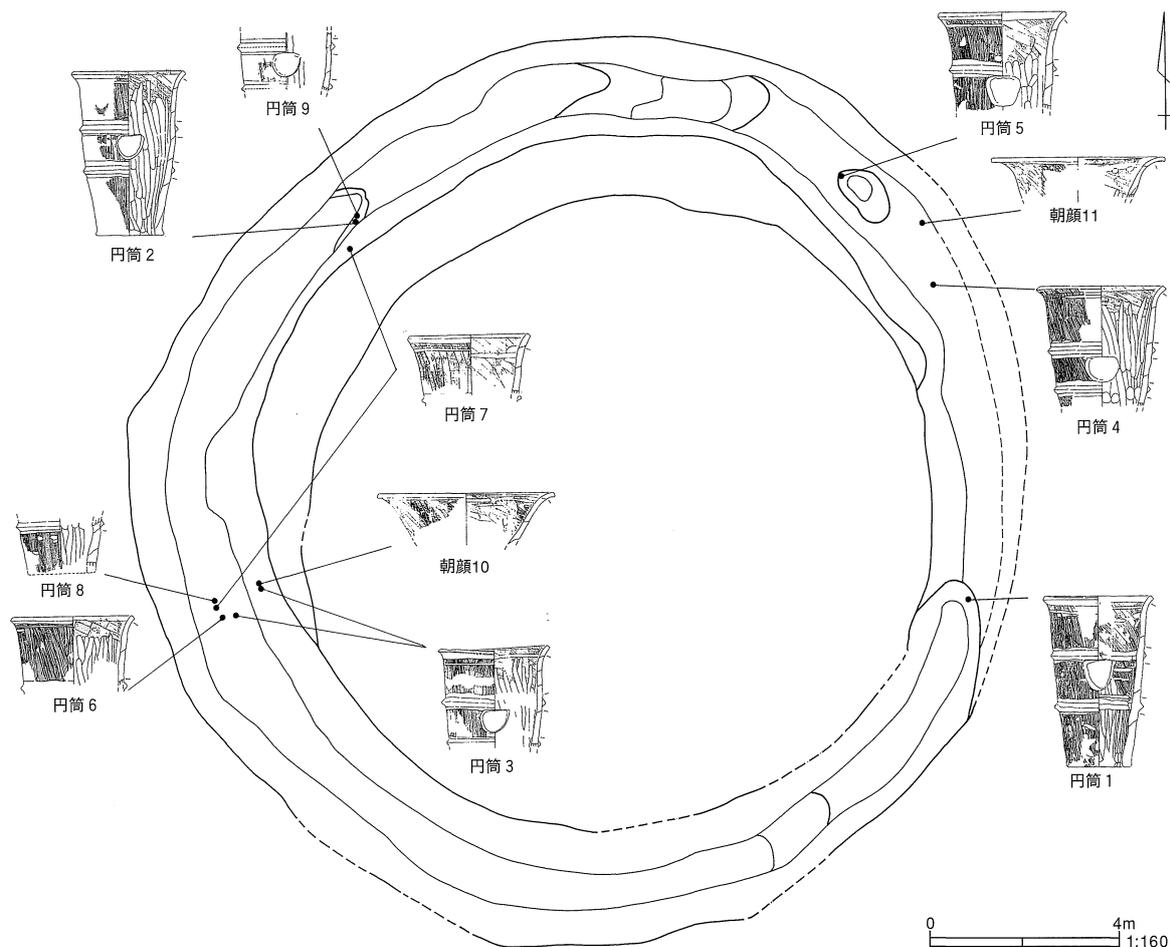


図 65 ST-23 埴輪分布

北半の墳丘外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。周堀幅はおおよそ一定しているが、東側を中心にやや幅を減じている。周堀底面には、各所に段差や土坑状の落ち込みが存在する。周堀覆土は7層に区分される。地点により堆積状態は異なるが、おおむね下層には風化ロームの堆積層が発達し、中層にはロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層には白色パミスを含む黒色および黒褐色土が堆積している。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘長径、北東－南西方向で径 15.5 m、北西－南東方向で径 15.1 m、周堀の幅 1.8～2.7 m、深さ 10～80 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は周堀覆土上層から埴輪、土師器、須恵器を検出している。いずれも原位置を保つ状態では出土していない。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1～9・12～14] (図 66・67、写真 32・33)

全形の判明する資料はいずれも 2 条突帯 3 段構成品である。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔はすべて半円形で占められる。9～11 は円形となる可能性

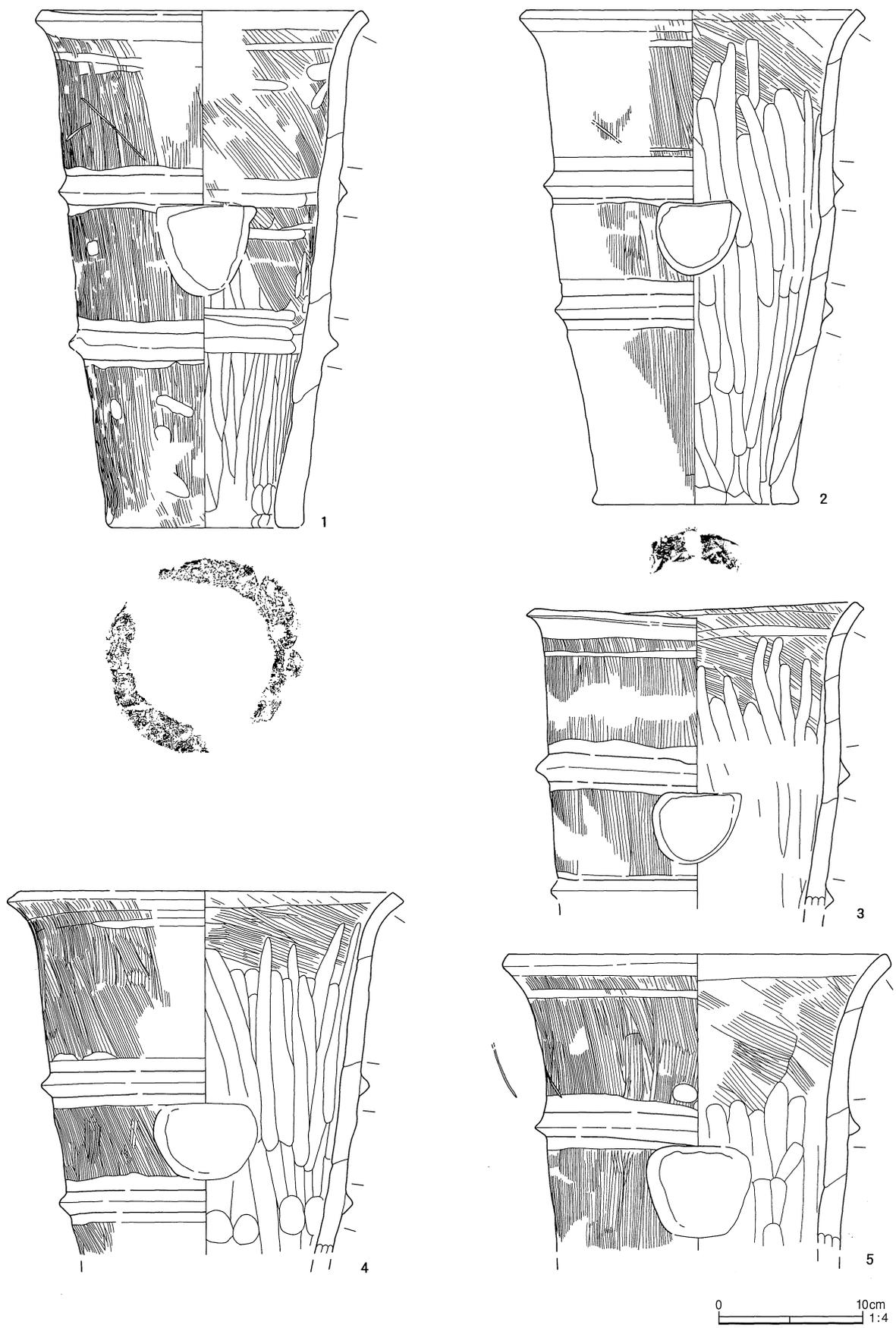


图 66 ST-23 出土卣筒·朝顔形埴輪 (1)

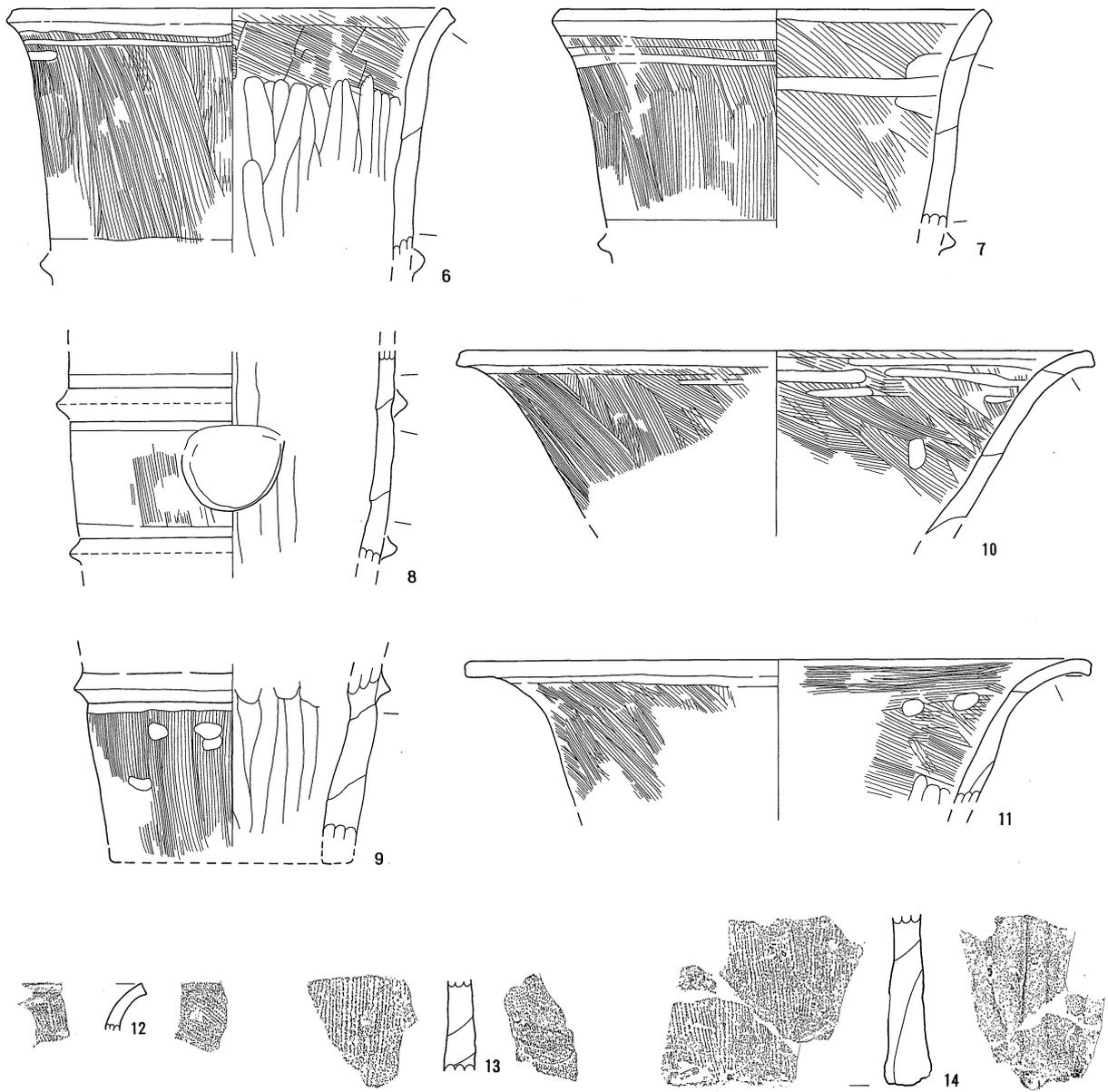


図 67 ST-23 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)

0 10cm
1:4

がある。突帯はほとんどが断面三角形を呈する。1の第3段外面には「入」形の刻線が、また2の第3段外面にも形状不明の刻線が存在する。胎土にはすべての個体で片岩・チャートを含む。白色針状粒を含む個体は見当たらない。色調は明赤褐色・橙色・にぶい橙色などを呈する。

朝顔形埴輪 [10・11] (図67、写真33)

ともに口縁部上段のみの破片である。口唇部付近で大きく外湾し、調整は内外面とも斜位のハケを丁寧に施している。胎土には片岩・チャートを含み、色調はにぶい橙色を呈する。

b. 土器

土師器 [1～6] (図68、写真40)

坏 [1～5]

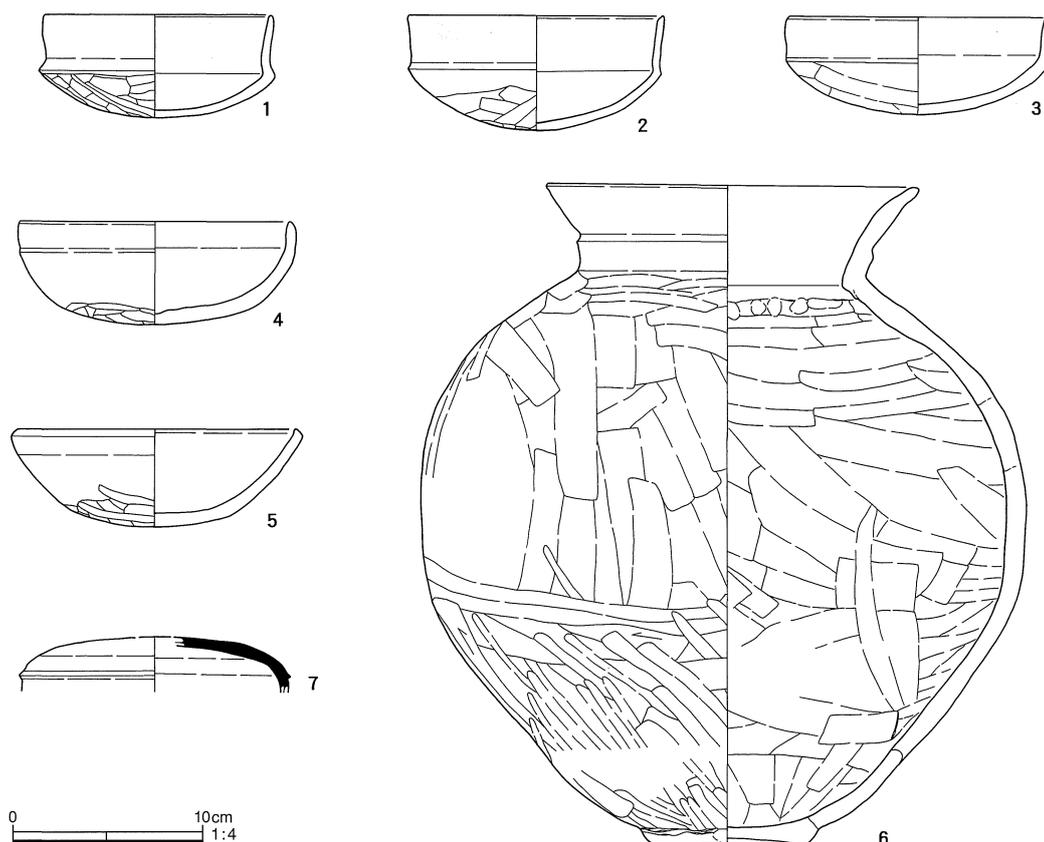


図 68 ST-23 出土土器

ST-23 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.9 底径 — 器高 5.4	口縁部は体部との境に稜を持ち、外反気味に立ち上がり、上位はわずかに内湾する。口唇部は面をなす。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	赤褐色粒・黒色粒 内外－橙色	完形。
2	土師器 坏	口径 13.5 底径 — 器高 6.1	口縁部は体部との境に稜を持ち、外反気味に立ち上がる。口唇部は弱い面をなす。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、体部は一部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
3	土師器 坏	口径(13.5) 底径 — 器高 5.2	口縁部は体部との境に稜を持って立ち上がり、上位わずかに内湾する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に一部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	黒色粒・白色粒 内外－にぶい褐色。	2/3。
4	土師器 坏	口径 14.3 底径 — 器高 5.5	口縁部は体部との境に弱い稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。体部は丸みを持って立ち上がり、	外面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・白色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい褐色	ほぼ完形。
5	土師器 坏	口径 14.7 底径 — 器高 5.2	口縁部は短く内傾する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・白色粒 内外－にぶい赤褐色	完形。
6	土師器 壺	口径 19.5 底径 8.5 器高 35.0	中位が大きく膨らむ胴部。口縁部は下位に段を有し、外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ・ナデ、胴部下位ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－橙色	ほぼ完形。
7	須恵器 蓋	口径 — 底径 — 器高 —	扁平気味の天井部と口縁部との境にわずかに突出する稜線。	外面－ロクロ整形。天井部は灰かぶりのため調整不明瞭。内面－ロクロ整形。	微砂粒 内－灰色 外－灰白色	1/6。

1～3はいずれも坏蓋模倣坏であるが、1は口縁部幅が広く、3は器壁が厚く口唇部が丸いという特徴があり、いずれも典型的な模倣坏ではない。4は口縁外面に工具を当てて回転させ、体部との境界に稜をつくり出している。5は口縁部に横位のナデを加え、口唇部には端面を形成するとともに、内面を内側につまみ出している。

壺 [6]

口縁部中位に稜をもつ須恵器甕の模倣形態であるが、胴部下半が直線的に外反して立ち上がり、球胴と呈さず、口縁部が2段に屈曲して立ち上がる形態に特徴がある。調整は胴部外面では上下で明瞭に分かれ、上半がナデおよびヘラナデとなっている。内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともナデである。

須恵器 [7] (図68、写真40)

坏蓋 [7]

扁平な天井部をもち、口縁部との境界には明瞭な稜がめぐる。焼成は良好で、天井部には灰が付着し、色調は灰白色を呈する。

ST-24

(1) 遺 構 (図69・70、写真2)

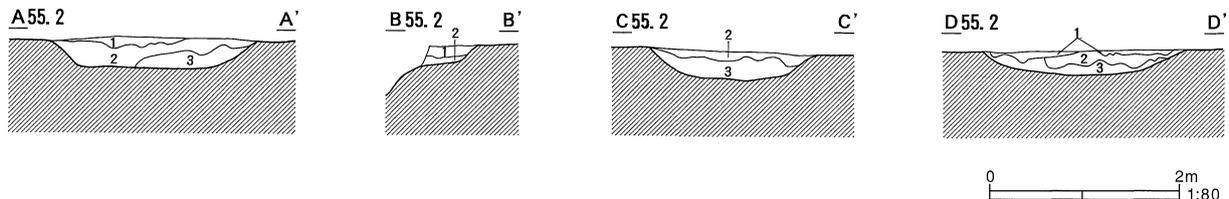
位置：1H-7・8・9、1I-7・8・9、1J-7・8・9グリッドに位置する。北東側でST-20の周堀と切り合っている。

形状：円墳である。墳丘平面形は整円を描かず、立ち上がりの線は各所で緩やかに湾曲している。南東側で周堀が途切れる箇所があり、この部分に陸橋をもつ。周堀幅も一定せず、南西側は狭く、北東側には外方向へ広がっている箇所がある。周堀底面には南東側と北西側に1箇所ずつ段差がみられるほか、全体に緩やかな起伏を生じている。周堀覆土は3層に区分される。下層には風化ロームの堆積層が発達し、中層にはロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層にもロームブロックを少量に含む暗褐色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。ST-20との覆土の切り合いは、ST-24が古く、ST-20が新しい。

規模：墳丘規模は、北東-南西方向で径17.2m、周堀は幅2.1～3.2m、深さ10～40cmを測る。

(2) 遺 物

遺物は周堀南側の覆土から土師器甕1点を検出している。これ以外に、表土・周堀覆土からの遺物



ST-24 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1～30mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 褐色土 風化ロームの堆積層。しまり弱。粘性弱。

図69 ST-24周堀土層断面

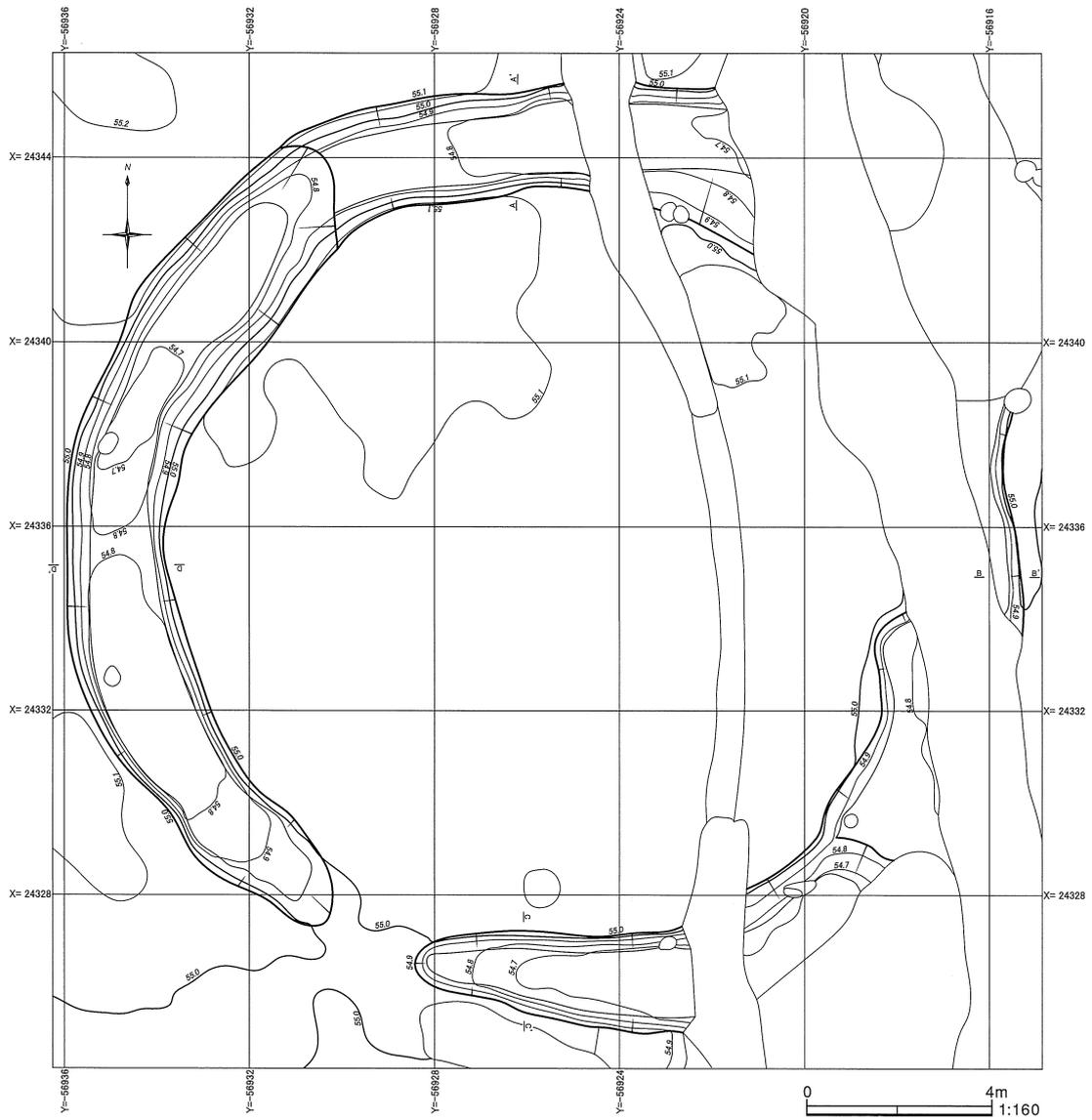


図 70 ST-24 平面

の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

a. 土器

土師器 [1] (図 71、写真 40)

甕 [1] 調整は胴部外面では上下で明瞭に分かれ、上半がヘラケズリののちナデ、下半がヘラケズリのみとなっている。内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともナデである。

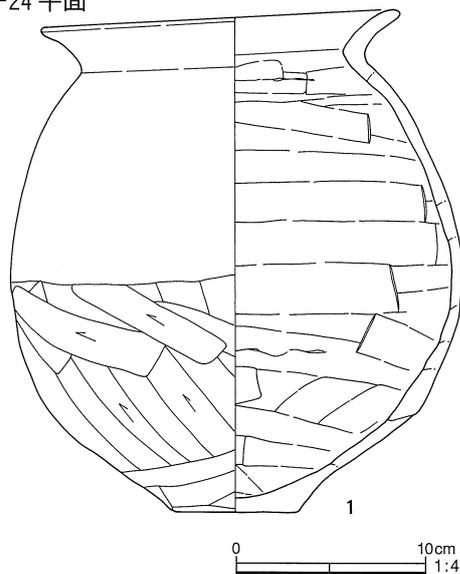


図 71 ST-24 出土土器

ST-24 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径(19.1) 底径 6.8 器高(26.6)	粘土紐巻き上げ成形。中位下側が膨らむ胴部。口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後に上位をナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	粗砂粒・チャート 内－にぶい黄橙色 外－明赤褐色	4/5。

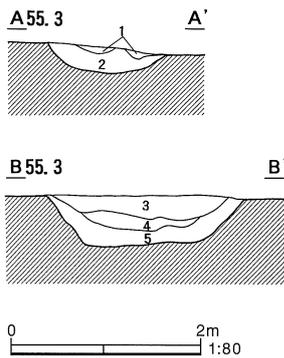
ST-25

(1) 遺構 (図72・73、写真3)

位置：1I-9・10、1I-10、1J-9・10グリッドに位置する。削平により周堀の西半を失っている。東半部分も確認面から周底までが浅い。



図72 ST-25平面



ST-25 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック（径 1～30 mm）を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 褐色土 風化ロームの堆積層。しまり弱。粘性弱。
- 3 黒褐色土 白色パミス（径 1mm以下） ロームブロック（径 1mm±） 暗褐色土ブロック（径 20mm±）を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 暗褐色土 白色パミス（径 1mm以下） ロームブロック（径 1mm±）を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 5 暗褐色土 ロームブロック（径 1～10mm）を多量に含む。しまり弱。粘性弱。

図 73 ST-25 周堀土層断面

形状：墳丘平面形は整円を描かず、立ち上がりの線は各所で緩やかに屈曲している。この部分に陸橋をもつ。周堀幅も一定せず、南東側では大きく広がって土坑状の落ち込みを形成し、坑底はローム層下の白色粘土層を掘り抜いて、礫層にまで達している。周堀覆土の堆積状況は地点により異なるが、火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定で径 12.0 m、周堀幅 1.0～2.0 m、深さ 10～50 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は周堀南東側の土坑状の落ち込みで土師器甕 1 点を検出している。これ以外に、表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

a. 土器

土師器 [1] (図 74、写真 40)

甕 [1]

口縁部中位と頸部に稜をめぐらせている。調整は胴部外面がヘラケズリ、内面はヘラナデ、口縁部は内外面ともナデである。

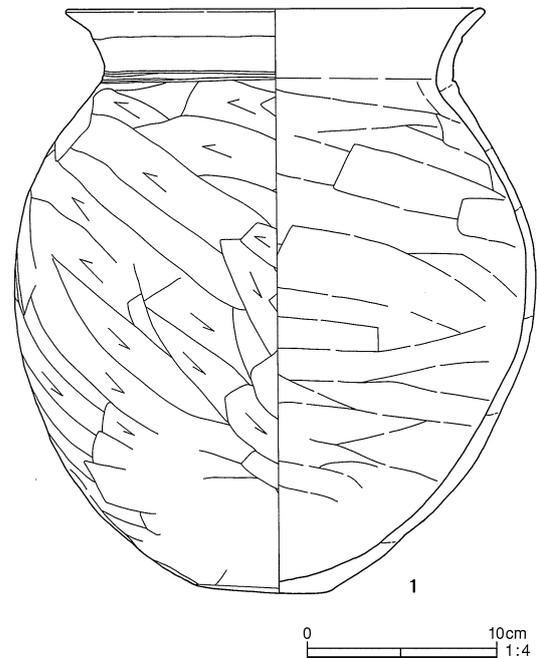


図 74 ST-25 出土土器

ST-25 出土土器観察表

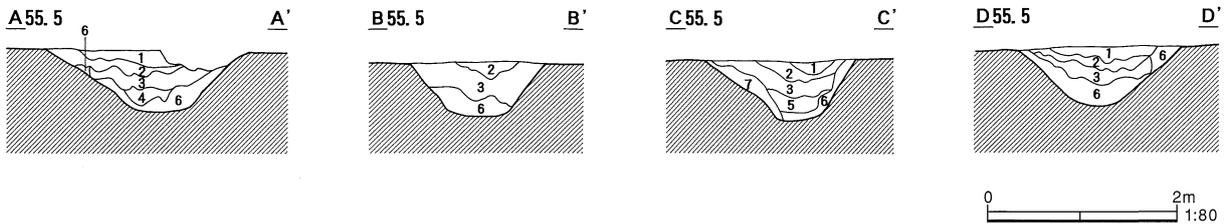
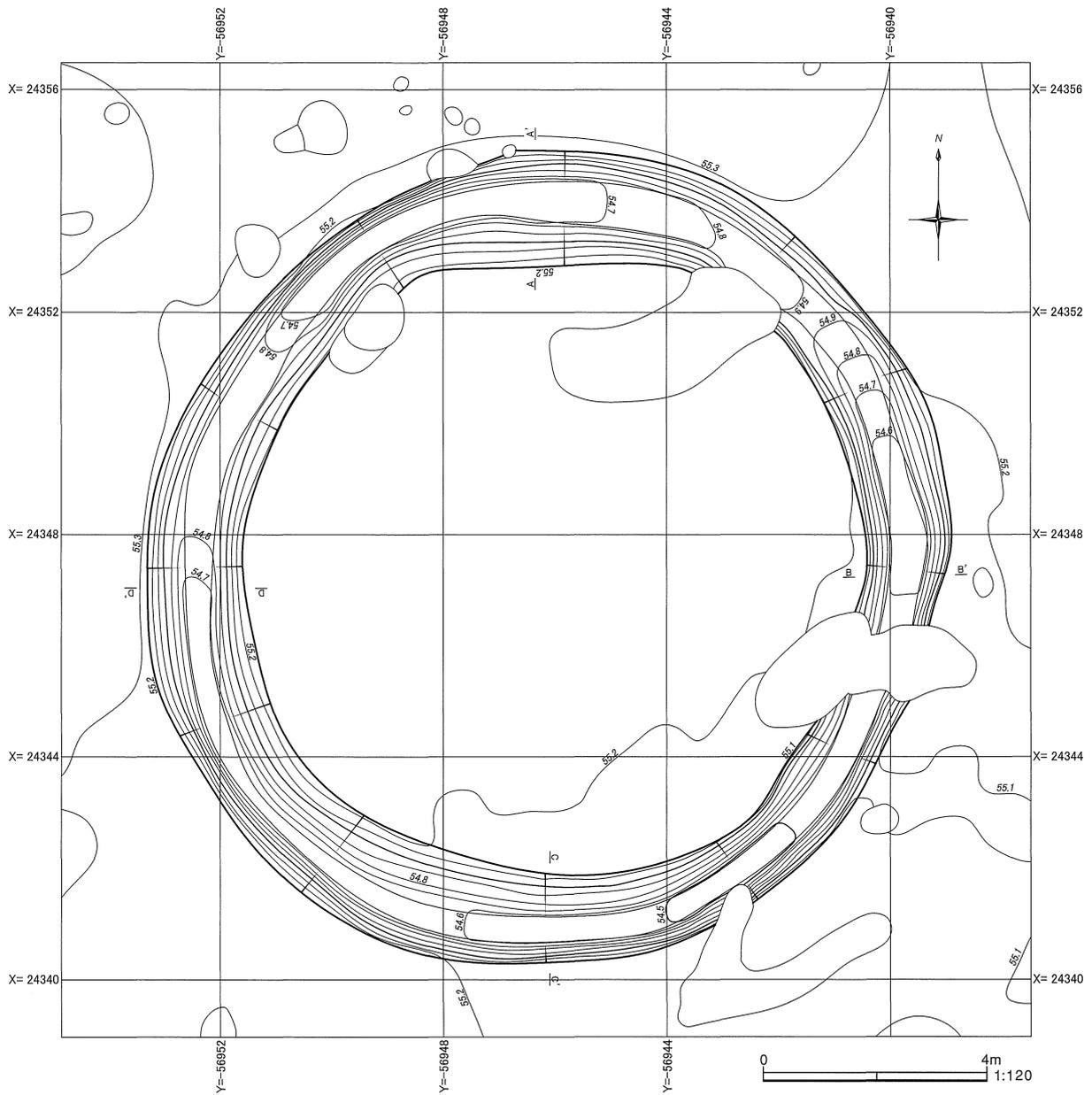
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 22.2 底径 7.3 器高 31.1	中位に膨らみを持つ胴部。口縁部は弱い段を有し、外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部・底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内－にぶい褐色 外－にぶい橙色	5/6。

ST-26

(1) 遺構 (図 75、写真 3)

位置：1J-6・7、1K-6・7、1L-6・7 グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円形を呈する。周堀の幅もほぼ一定しているが、南東側でやや狭くなっている。周堀底面には緩やかな起伏がみられるが、段差を生じている箇所はない。周堀覆



ST-26 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1~2mm) を微量含む。しまり弱。粘性欠。
- 2 黒褐色土 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1~2mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径 1~40mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。

- 4 暗褐色土 ロームブロック (径 1~2mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。
- 5 暗褐色土 ロームブロック (径 1~30mm) を多量に含み斑状を呈する。しまり弱。粘性欠。
- 6 褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり弱。粘性欠。
- 7 黄褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり弱。粘性欠。

図 75 ST-26 平面および周堀土層断面

土は7層に区分される。下層には風化ロームの堆積層が発達し、中層にはロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層には白色パミス・ロームブロックを少量に含む黒褐色土・黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南－北方向で径 12.6 m、周堀は幅 1.2～2.1 m、深さ 30～60 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は周堀覆土の上層で土師器甕 1 点を検出している。これ以外に、表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

a. 土器

土師器 [1] (図 76、写真 40)

甕 [1]

やや長胴化の進行した甕で、平底の底部をもち、最大径は胴部中位にある。調整は胴部外面がヘラケズリ、内面はヘラナデである。

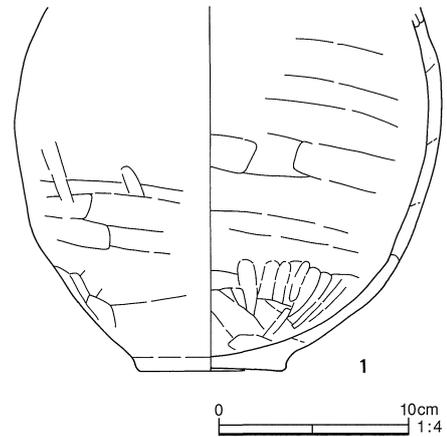


図 76 ST-26 出土土器

ST-26 出土土器観察表

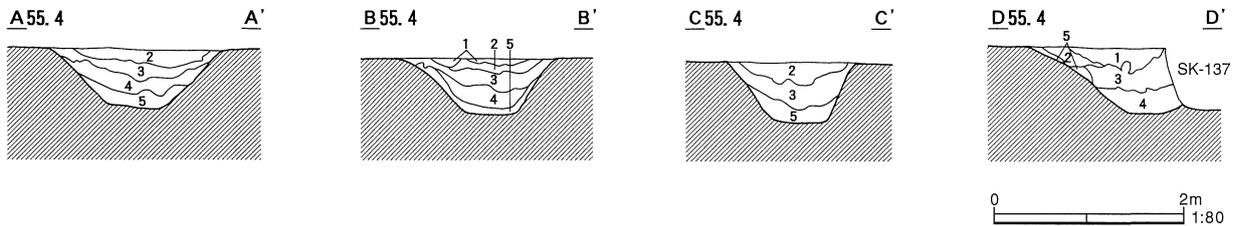
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 — 底径 8.0 器高 —	中位が膨らむ胴部。	外面－胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面－胴部～底部ヘラナデ、下位一部指ナデ。	黒色粒・チャート 内外にぶい黄褐色	胴部～底部 1/2。

ST-27

(1) 遺構 (図 77・78、写真 3)

位置：1J-8・9、1K-8・9、1K-9、1L-8・9 グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形はやや歪んで北東－南西方向に長い。周堀の幅はほぼ一定しているが、南東側でやや狭くなっている。周堀底面は平坦で、起伏もわずかで、段差も存在しない。周堀覆土は 5 層に区分される。下層には風化ロームの堆積層が発達し、中層にはロームブロックを多量に含む暗



ST-27 土層説明

- | | |
|--|--|
| <p>1 黒色土 白色パミス (径 1 mm以下) ロームブロック (径 1～2 mm) を微量含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>2 黒褐色土 白色パミス (径 1 mm以下) ロームブロック (径 1～2 mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。</p> | <p>3 暗褐色土 ロームブロック (径 1～40 mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。</p> <p>4 暗褐色土 ロームブロック (径 1～30 mm) を多量に含み斑状を呈する。しまり弱。粘性欠。</p> <p>5 褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり弱。粘性欠。</p> |
|--|--|

図 77 ST-27 周堀土層断面

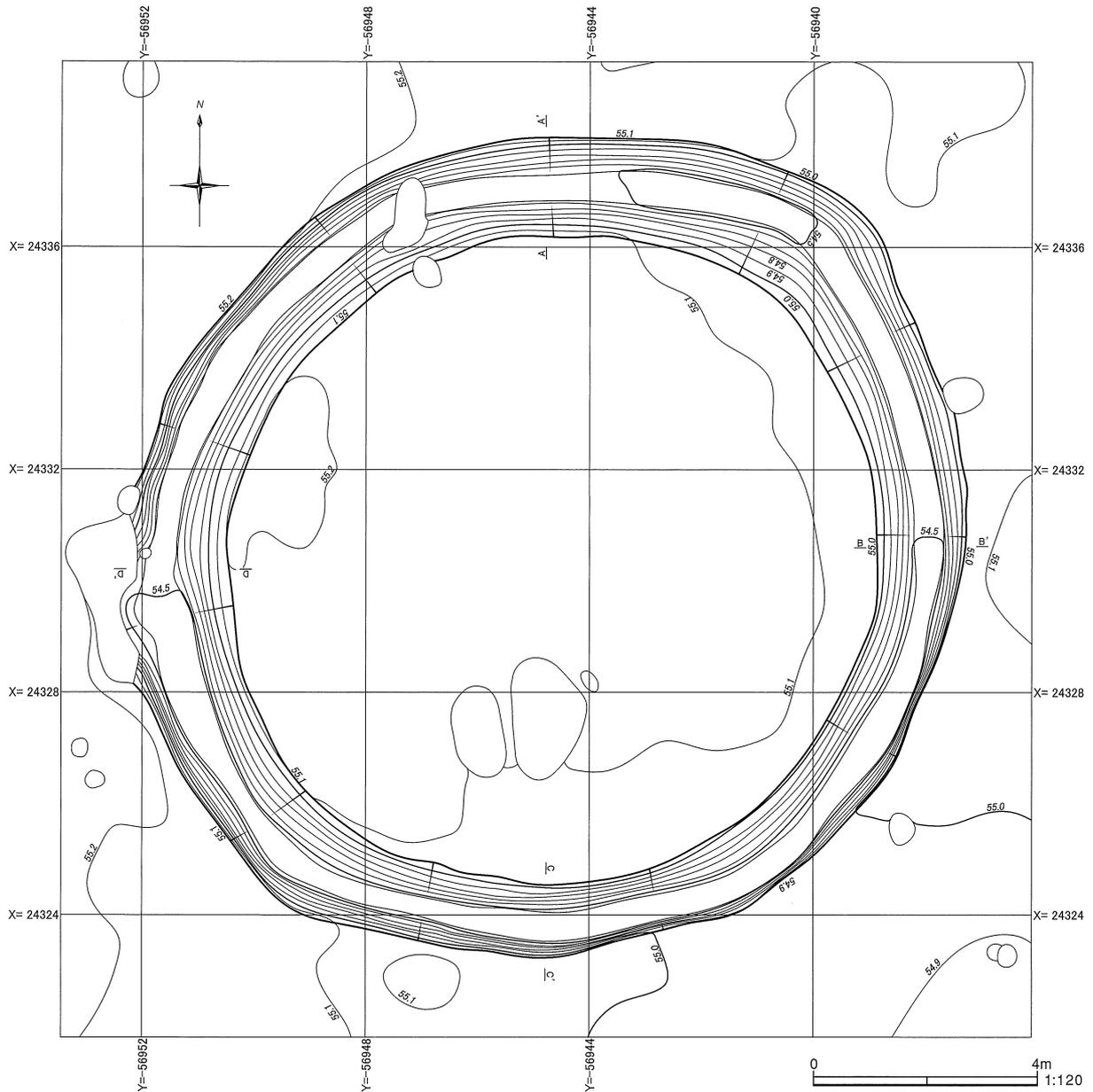


図 78 ST-27 平面

褐色土、上層には白色パミス・ロームブロックを少量に含む黒褐色土・黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北東－南西方向で径 14.0 m、北西－南東方向で径 12.8 m、周堀は幅 1.1 ～ 2.3 m、深さ 40 ～ 70 cm を測る。

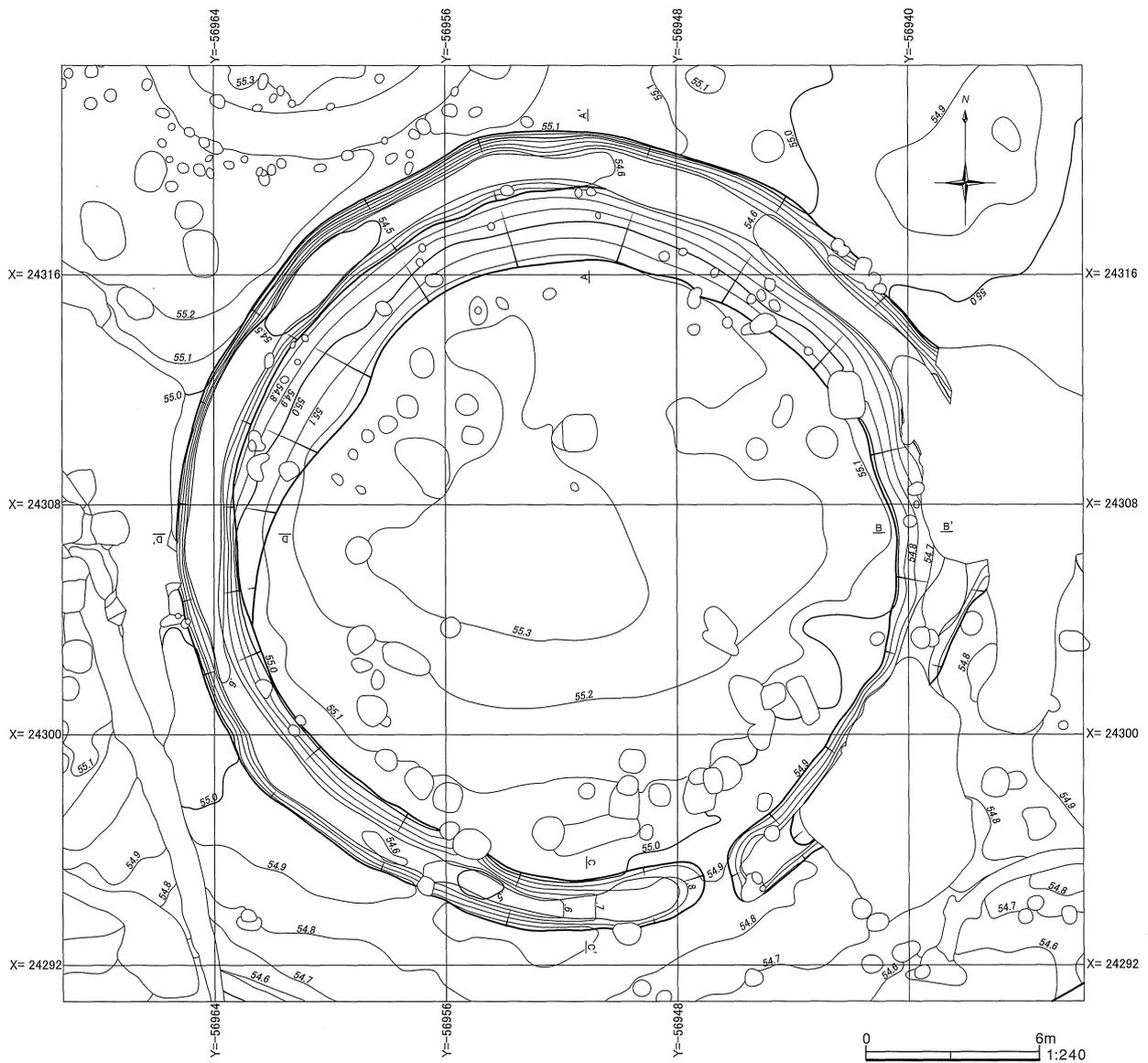
(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

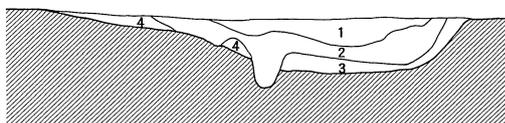
ST-28

(1) 遺構 (図 79、写真 3)

位置： 1J-10・11, 1K-9・10・11・12、1L-9・10・11・12、1M-10・11・12 グリッドに位置する。

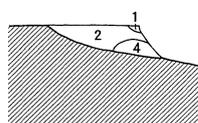


A55.4



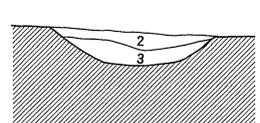
A'

B55.4



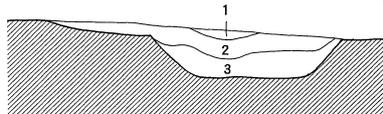
B'

C55.4



C'

D55.4



D'

0 2m
1:80

ST-28 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm±) を若干量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 白色パミス (径 1mm±) を若干量含みロームブロックを局部的に含んで斑状に堆積する。しまり・粘性とも欠。
- 3 黄褐色土 黒色土ブロック (径 1~2mm) を含む。しまり欠。やや粘強。
- 4 褐色土 しまり欠。やや粘強。

図 79 ST-28 平面および周堀土層断面

形状：円墳である。墳丘平面形はやや歪んで北東－南西方向に長い。南東側で周堀が途切れ、この部分に陸橋をもつ。墳丘北半の外縁には、ロームを削り出してテラス状の施設が形成され、周堀に向かって緩やかに傾斜している。周堀の幅はほぼ一定しているが、南半ではやや狭くなっている。周堀底面は平坦で、起伏もほとんどなく、段差も存在しない。北東側では墳丘側の周堀立ち上がりがなく、墳丘外縁のテラス面が直接周堀底と接している。周堀覆土は4層に区分される。最下層には褐色土もしくは黒色土ブロックを含む黄褐色土が発達し、中層および上層には黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南－北方向で径 24.8 m、東－西方向で径 23.7 m、周堀は幅 1.8 ～ 4.8 m、深さ 20 ～ 70 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は周堀覆土の上層で土師器高坏の脚部 1 点を検出している。これ以外に、表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

a. 土器

土師器 [1] (図 80、写真 40)

高坏 [1]

薄く丁寧なつくりで、脚中位が若干膨らみ、裾部は広がる。調整は脚部外面がヘラミガキ、脚部内面はヘラケズリ、裾部は内外面とも横位のナデである。

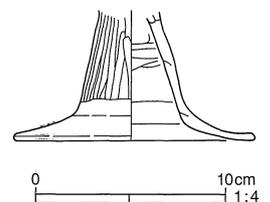


図 80 ST-28 出土土器

ST-28 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高坏	口径 — 底径 12.7 器高 —	脚部は下方に向かって開き、裾部は広がる。	外面－脚部ミガキ、裾部ヨコナデ。 内面－脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。	雲母・チャート 内外－明赤褐色	脚部4/5。

ST-29

(1) 遺構 (図 81、写真 3)

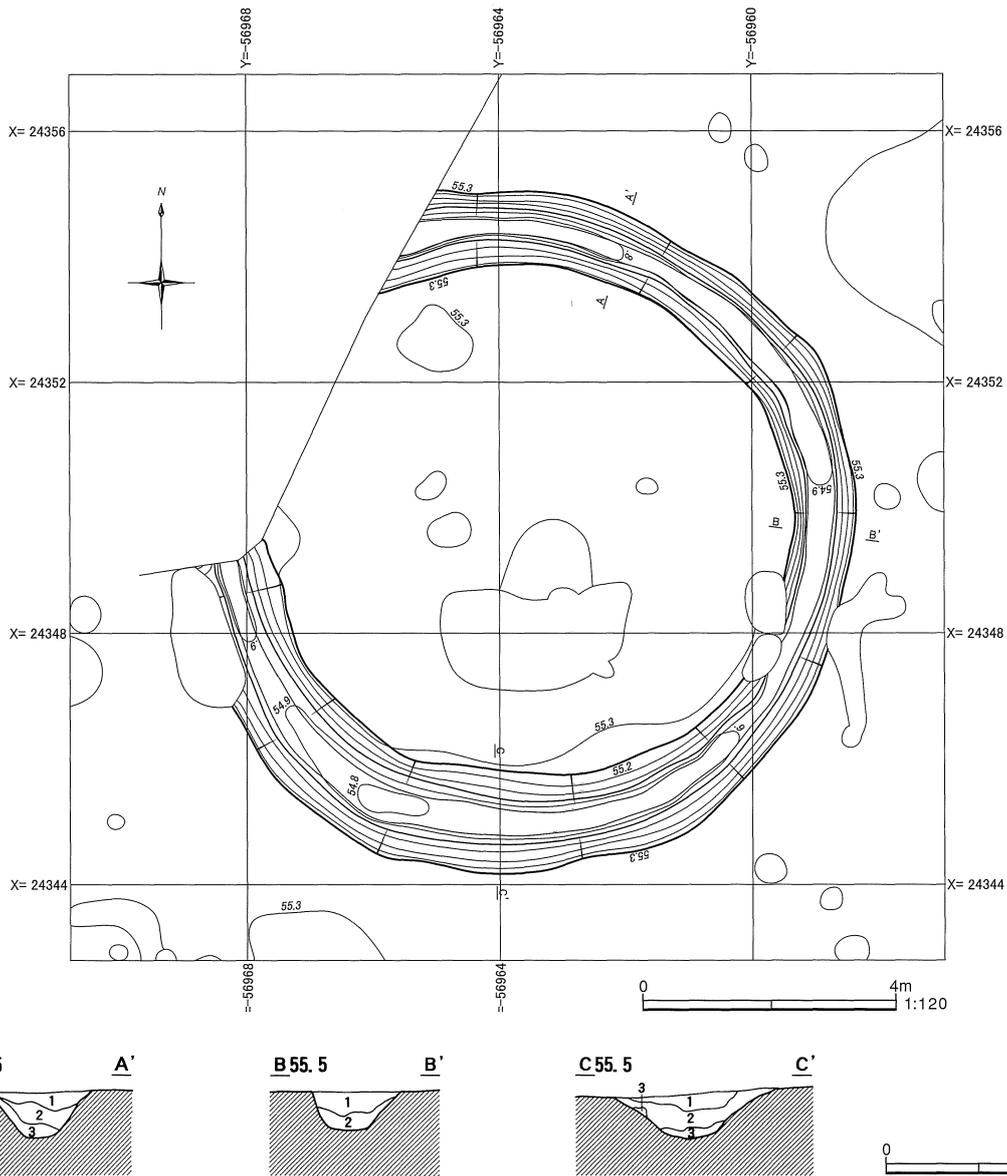
位置：1L-6・7、1M-6・7グリッドに位置する。

形状：北西側の一部が道路下にあつてすでに失われている。全形を確認できないが、円墳と推測される。墳丘平面形はほぼ整円形を呈する。周堀の幅は一定せず、南側で広く、東側で狭い。周堀底面には緩やかな起伏がみられるが、段差を生じている箇所はない。周堀覆土は3層に区分される。下層には風化ロームの堆積層が発達し、中層にはロームブロックを含む暗褐色土、上層には白色パミスを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北東－南西方向で径 9.3 m、周堀は幅 1.0 ～ 1.7 m、深さ 40 ～ 50 cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。



ST-29 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス（径 1mm±）を若干量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 暗褐色土 ロームブロック（径 1～10mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 黄褐色土 風化ロームの堆積層。若干の有機質を含む。しまり弱。粘性やや強。

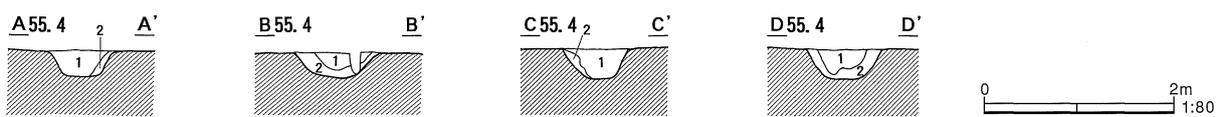
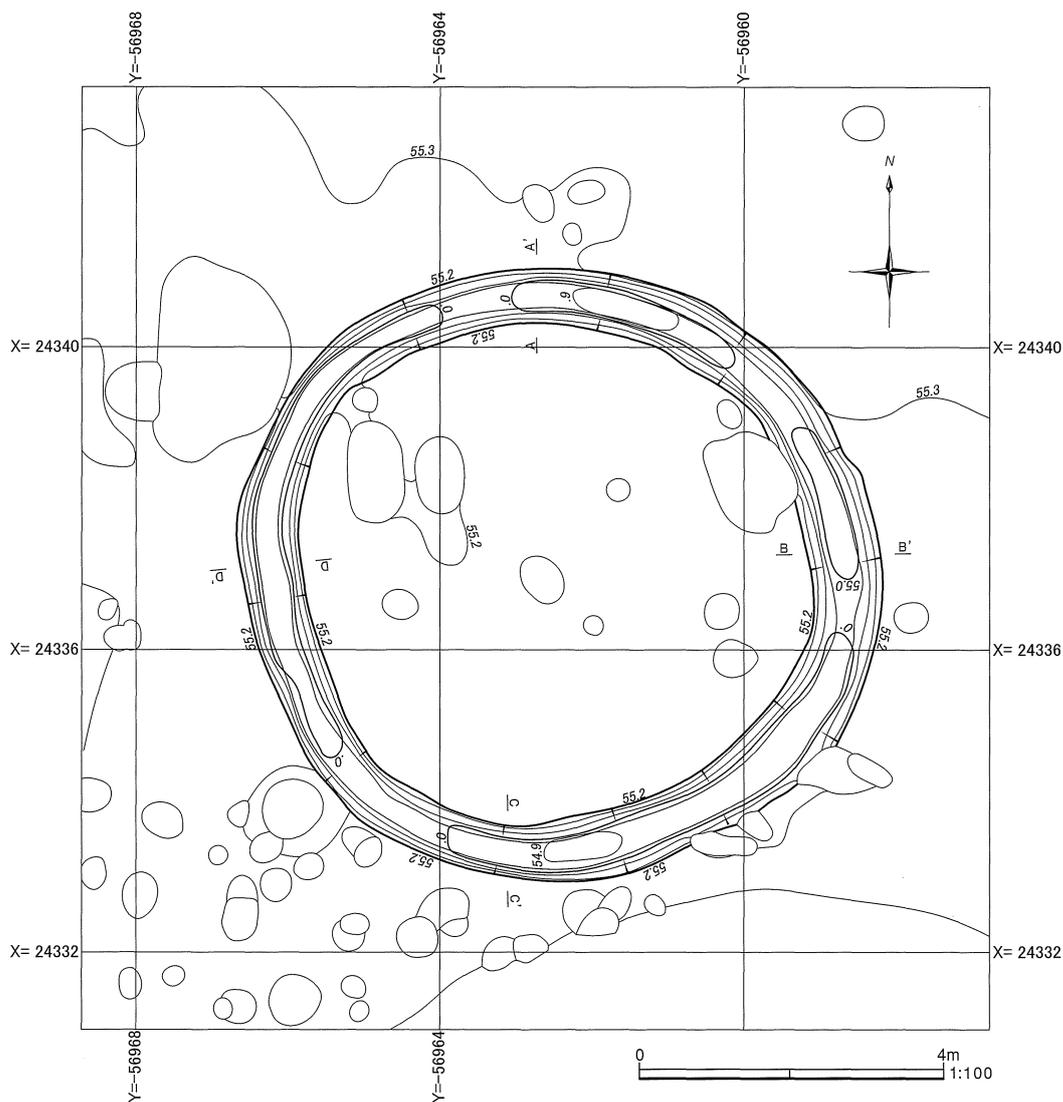
図 81 ST-29 平面および周堀土層断面

ST-30

(1) 遺構 (図 82、写真 3)

位置：1L-8，1M-7・8 グリッドに位置する。南側で ST-31 と近接している。

形状：円墳である。墳丘平面形はやや歪んで、西側で円弧の一部が欠けたような形態を示す。周堀の幅はほぼ一定し、周堀底面も平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は 2 層に区分される。下層にはロームブロックを含む暗黄褐色土、上層には白色パミス・ロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。



ST-30 土層説明

- 1 黒色土 白色バミス（径1mm±）、ロームブロック（径1～5mm）を若干量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり欠。粘性弱。

図 82 ST-30 平面および周堀土層断面

規模：墳丘長径、北西－南東 7.52 m、短径北東－南西 6.96 m、周堀は幅 0.6～0.9 m、深さ 20～30 cm を測る。

(2) 遺物

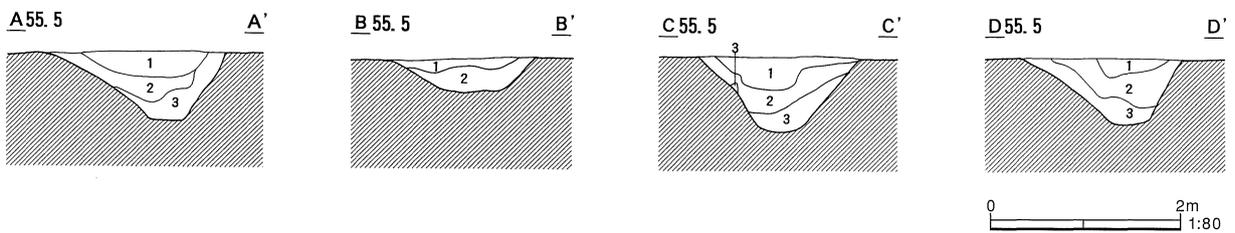
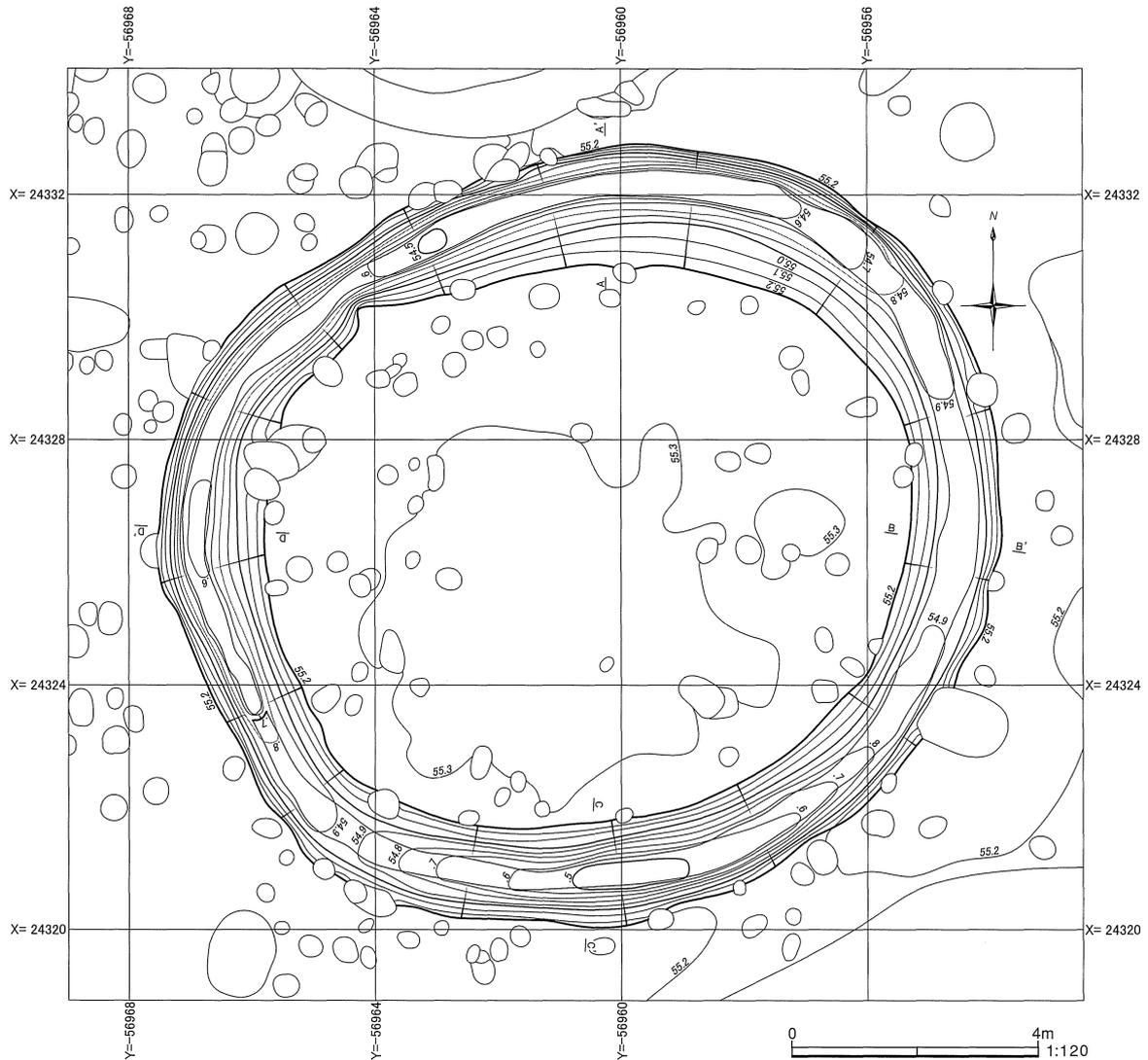
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-31

(1) 遺構 (図83、写真4)

位置：1L-8・9，1M-8・9グリッドに位置する。北側でST-30と近接している。

形状：円墳である。墳丘平面形は大きく歪んで、北東-南西方向に長い。周堀も墳丘に相似して不整形



ST-31 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm±) を若干量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を少量含む。しまり弱。粘性弱。

図83 ST-31 平面および周堀土層断面

形を呈し、幅も一定しない。周堀底面は平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は3層に区分される。下層にロームブロックを含む暗黄褐色土、中層にロームブロックを含む暗褐色土、上層には白色パミスを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北東-南西方向で径12.0 m、北西-南東方向で径10.8、周堀は幅0.9～2.0 m、深さ30～70 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は周堀覆土の上層で土師器坏1点を検出している。これ以外に、表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

a. 土器

土師器 [1] (図84、写真41)

坏 [1]

丸底で、湾曲した体部をもち、口径が小さく、半球状の器形を特徴とする。口縁部はわずかに内湾する。調整は外面の底部から体部中位までがヘラケズリ、体部中位から口縁部までは横位のナデ。内面は全体に丁寧なナデが加えられている。

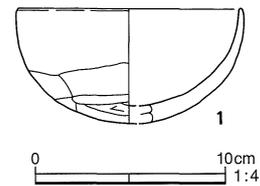


図84 ST-31 出土土器

ST-31 出土土器観察表

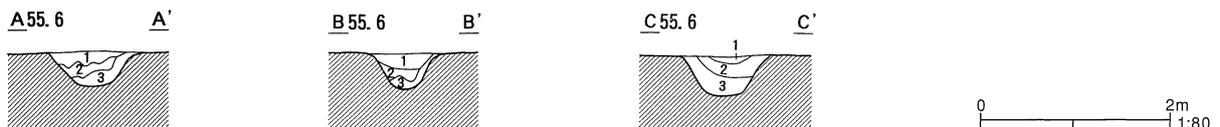
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径(12.0) 底径 — 器高(6.1)	体部は丸みを持ち、口縁部はわずかに内湾する。底部は丸底。	外面-口縁部～体部上位ヨコナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・チャート 内外-明赤褐色	1/2。

ST-32

(1) 遺構 (図85・86、写真4)

位置：10-11, 1P-11 グリッドに位置する。

形状：南西側の一部がガスパイプラインの敷設工事により掘削を受け失われている。全形を確認できないが、円墳と推測される。墳丘平面形はほぼ整円を描くが、南側から東側にかけては若干歪みを生じている。周堀の幅はほぼ一定し、周堀底面も平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は3層に区分される。下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、中層に同じくロームブロックを多量に含む黒褐色土、上層には白色パミスを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。



ST-32 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり欠。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1～2mm) を多量に含む。しまり欠。粘性欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1～5mm) を多量に含む。しまり欠。粘性欠。

図85 ST-32 周堀土層断面

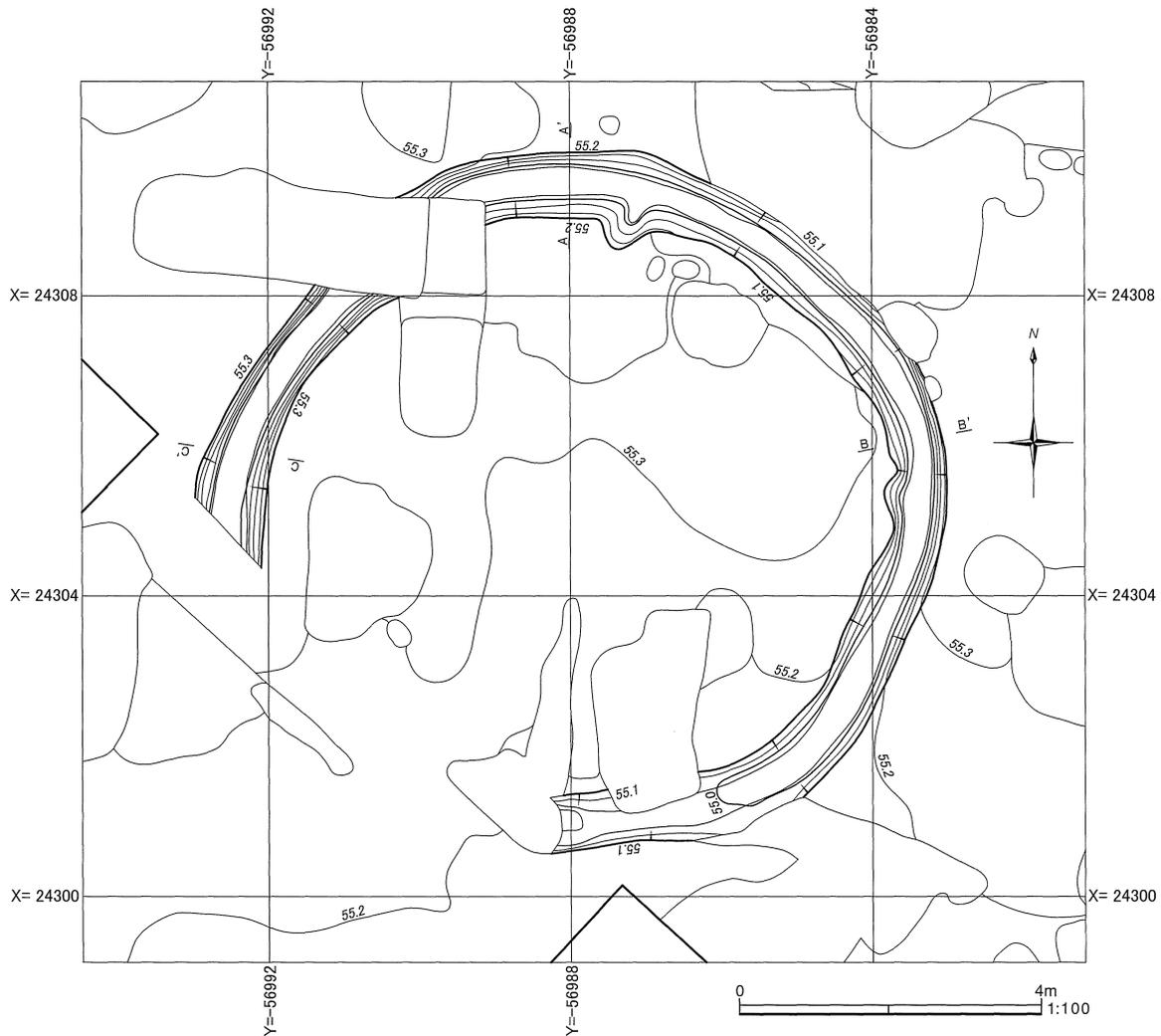


図 86 ST-32 平面

規模：墳丘規模は、東－西方向で径 8.8 m、南－北方向で径 8.2 m、周堀は幅 0.6 ～ 1.3 m、深さ 10 ～ 30 cm を測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

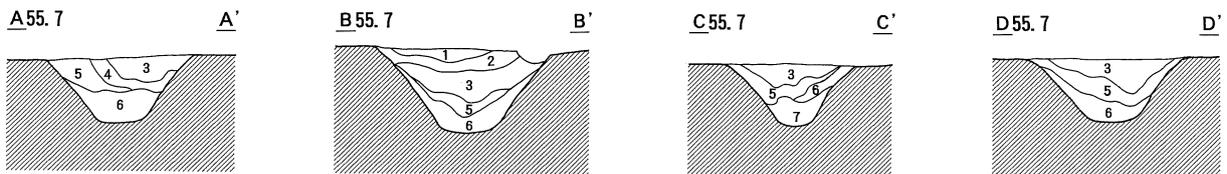
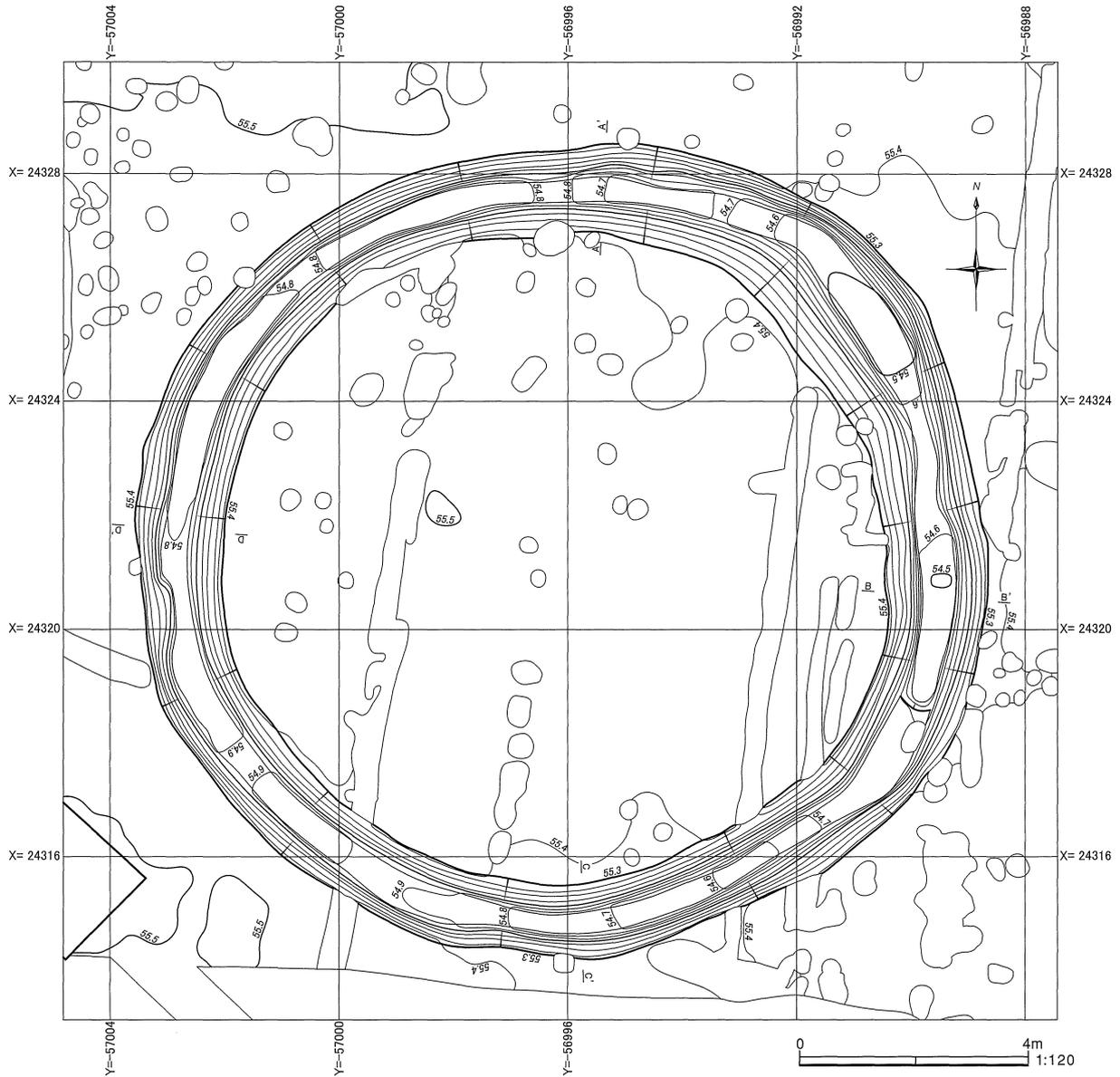
ST-33

(1) 遺構 (図 87、写真 4)

位置：10-9・10、1P-9・10、1Q-9・10 グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円形を呈するが、北東側ではやや外に膨らんでいる。周堀の幅も北東側で広がっている。周堀底面はほとんど平坦であるが、東側の 1 箇所段差が存在する。周堀覆土は 7 層に区分される。地点により堆積状況は異なるが、おおむね下層にロームブロックを多量に含む褐色～黒褐色の覆土が発達し、上層には白色パミスを含む黒色土ないし黒褐色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北東－南西方向で径 12.9 m、南東－北西方向で径 12.5 m、周堀は幅 0.8 ～ 1.2



ST-33 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。粘性欠。
- 2 黒褐色土 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 3 黒色土 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。しまり欠。粘性欠。

- 4 黒色土 ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。しまり欠。粘性欠。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径 1~2mm) を多量に含む。しまり欠。粘性欠。
- 6 暗褐色土 にぶい黄褐色ロームブロック (径 1~2mm) を多量に含む。しまり普通。粘性強。
- 7 褐色土 風化ローム層。若干の有機質を含む。粘性やや強。

図 87 ST-33 平面および周堀土層断面

m、深さ 40 ~ 80 cm を測る。

(2) 遺物

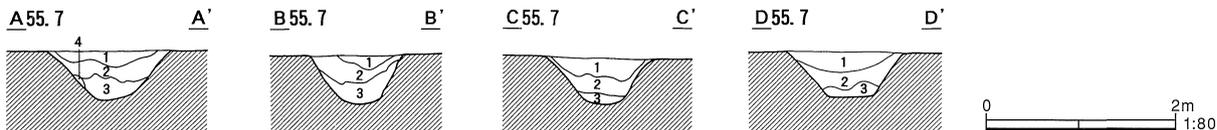
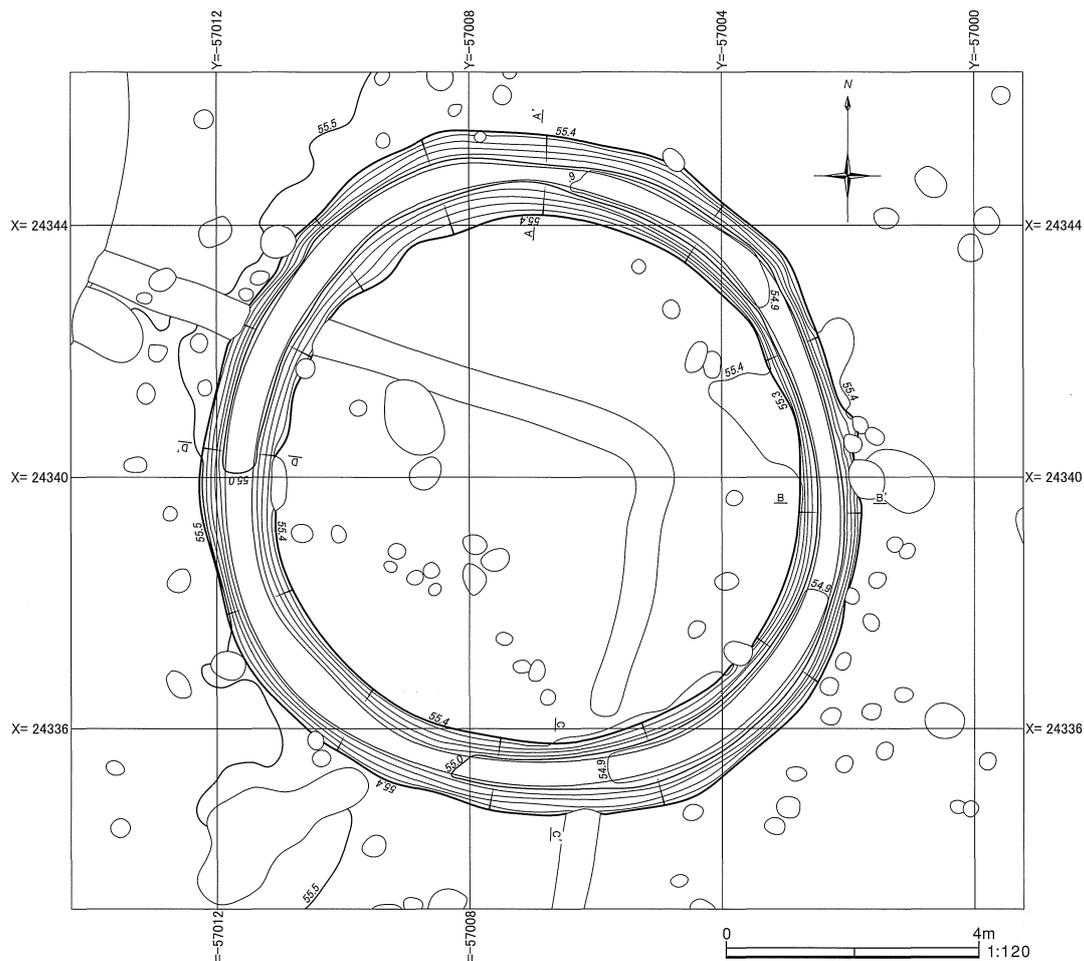
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-34

(1) 遺構 (図 88、写真 4)

位置：1Q-7・8、1R-7・8 グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形は整円形を呈する。周堀の幅もほぼ一定しているが、北東側でやや幅



ST-34 土層説明

- | | | | |
|--------|---|--------|-------------------------------------|
| 1 黒色土 | 白色パミス (径 1mm 以下) ロームブロック (径 1mm ±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | 3 黒褐色土 | ロームブロック (径 1~5mm) を多量に含む。しまり弱。粘性欠。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロック (径 1~2mm) を多量に含む。しまり・粘性とも欠。 | 4 褐色土 | ロームブロック (径 1~10mm) を主体とする。しまり弱。粘性欠。 |

図 88 ST-34 平面および周堀土層断面

を減じている。周堀底面は平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は4層に区分される。下層のロームブロックを多量に含む黒褐色土と上層の白色パミスを含む黒色土に大別される。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北西-南東方向で径12.9 m、北東-南西方向で径9.0 m、周堀は幅0.7～1.7 m、深さ40～50 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は周堀覆土の上層で土師器坏1点を検出している。これ以外に、表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

a. 土器

土師器 [1] (図89、写真41)

坏 [1]

偏平な体部と内傾して立ち上がる口縁部をもつ。調整は外面が底部から体部までヘラケズリ、口縁部は横位のナデで、内面は全体に丁寧なナデが加えられている。

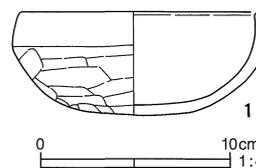


図89 ST-34 出土土器

ST-34 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.7 底径 — 器高 5.4	体部は丸みを持ち、口縁部はやや内傾する。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・チャート 内-明赤褐色 外-ぶい褐色	完形。

ST-35

(1) 遺構 (図90、写真40)

位置：1Q-8・9，1R-8・9グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形は大きく歪んで、北東-南西方向に長い。これに対し周堀はほぼ整円を描く。このため周堀の幅は一定しない。周堀底面は平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は4層に区分される。下層に褐色土もしくはロームブロックを多量に含む黒褐色土、中層に同じくロームブロックを含む黒褐色土、上層には白色パミスを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北西-南東方向で径9.8 m、北東-南西方向で径10.0 m、周堀は幅1.0～1.6 m、深さ30～70 cmを測る。

(2) 遺物

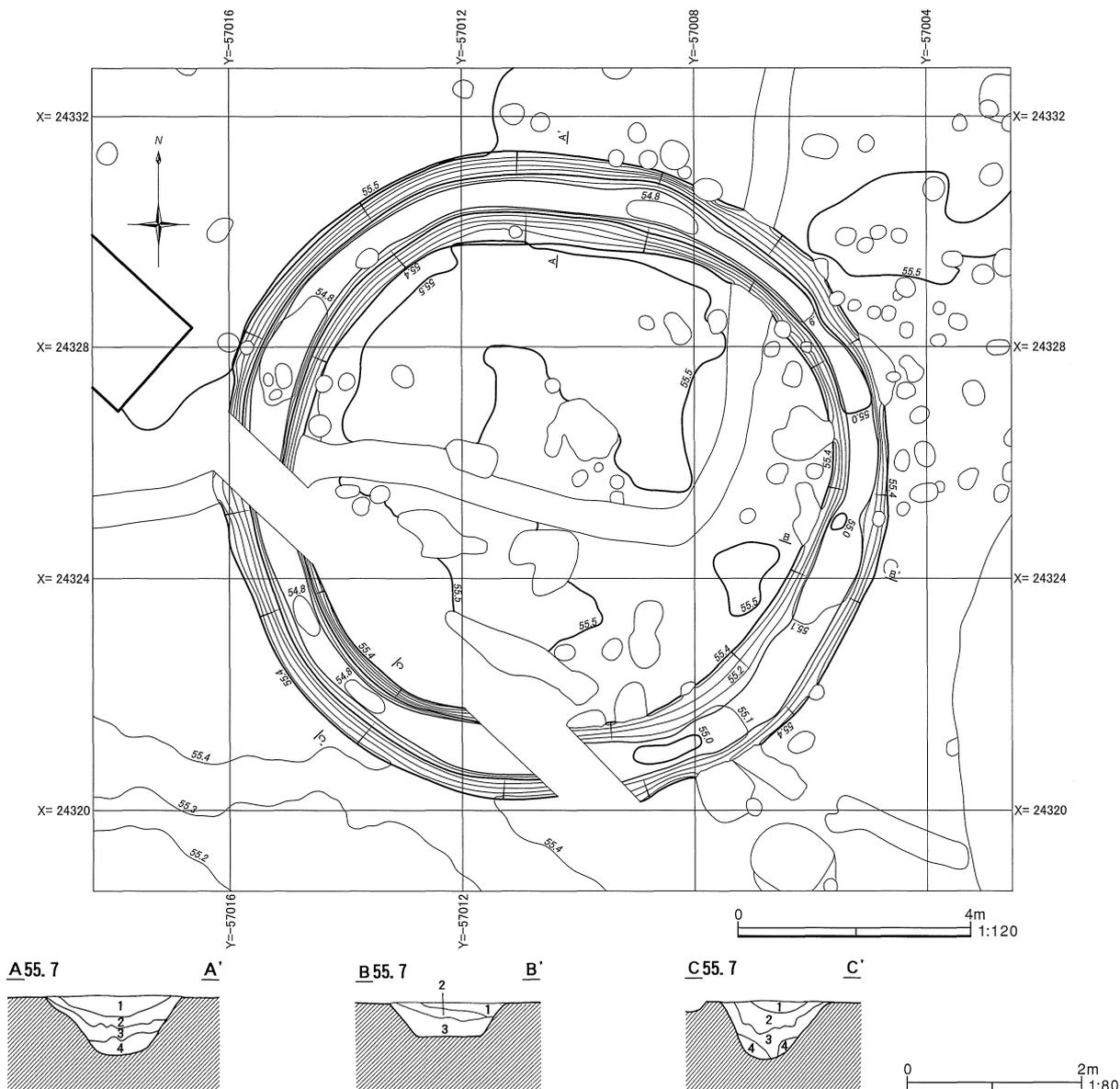
遺物は周堀覆土の上層で土師器坏2点、小型甕1点、甕1点を検出している。埴輪は樹立されていなかったと推定される。

a. 土器

土師器 [1～4] (図91、写真41)

坏 [1・2]

底部はともに小さな平底をもつ。1は丸みのある体部をもって立ち上がり、口縁部はわずかに内湾



ST-35 土層説明

- | | |
|---|--|
| 1 黒色土 白色パミス（径 1mm以下）ロームブロック（径 1～5mm）を少量含む。しまり欠。粘性欠。 | 3 黒褐色土 ロームブロック（径 1～20mm）を多量に含む。しまり欠。粘性欠。 |
| 2 黒褐色土 ロームブロック（径 1～5mm）を少量含む。しまり欠。粘性欠。 | 4 褐色土 若干の有機質を含む。しまり欠。粘性やや強。 |

図 90 ST-35 平面および周堀土層断面

する。2の体部は扁平で、口縁部は内傾して立ち上がる。調整は1・2とも同様で、外面は底部がナデ、体部はヘラケズリ、口縁部は横位のナデである。内面は全体に丁寧なナデが加えられている。

小型甕 [3]

底部は平底で、胴部が張り、中位に最大径がある。口縁部は内湾気味に立ち上がる。調整は胴部外面がヘラケズリ、内面はヘラナデで、口縁部は内外面とも横位のナデである。

甕 [4]

底部は平底で、胴部は屈曲気味に立ち上がる。全体に器壁が薄い。調整は外面がヘラケズリ、内面はヘラナデである。

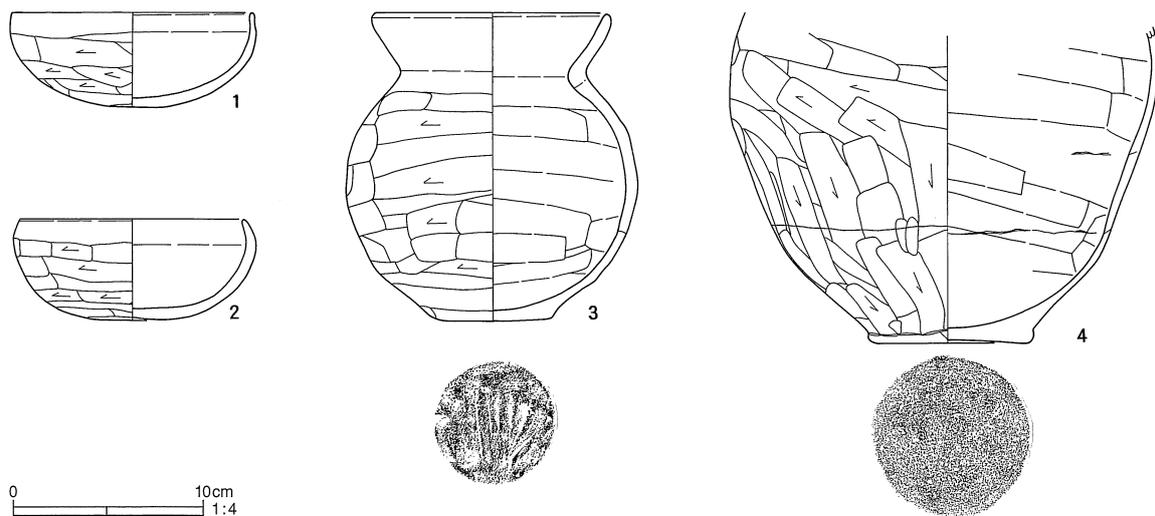


図 91 ST-35 出土土器

ST-35 出土土器観察表

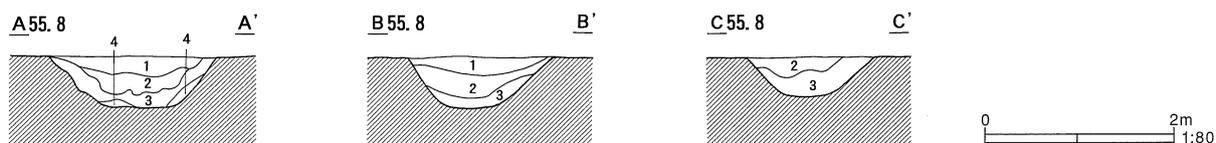
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.8 底径 2.6 器高 5.1	体部は丸みを持ち、口縁部はわずかに内湾する。底部は小さな平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ナデ。内面－口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	完形。
2	土師器 坏	口径 11.9 底径 3.0 器高 5.4	体部は丸みを持ち、口縁部はやや内傾する。底部は小さな平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	完形。
3	土師器 小型甕	口径 (12.7) 底径 6.4 器高 16.5	胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は湾曲気味に開き、端部はわずかに内湾する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ後に周縁部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	1/2。
4	土師器 甕	口径 － 底径 8.8 器高 －	中位に膨らみを持つ胴部。	外面－胴部ヘラケズリ、底部ナデ。内面－胴部～底部ヘラナデ。	赤褐色粒・黒色粒 ・チャート 内外－橙色	胴部中位～底部。

ST-36

(1) 遺構 (図 92・93、写真 4)

位置：調査区の西端にあって、1R-6・7・8、1S-7・8グリッドに位置する。

形状：北西側 1/4 程が調査区外にあり、全形を確認できないが、円墳と推測される。が、北側にやや湾曲する箇所がある。周堀の幅は東側と南西側でやや狭くなっている。周堀底面は平坦で、起伏は



ST-36 土層説明

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 1 黒色土 | 白色バミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1mm) を少量含む。しまりやや弱。粘性欠。 | 3 黒褐色土 | ロームブロック (径 1～30mm) を多量に含み、まだら状に堆積する。しまり欠。粘性やや強。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロック (径 1～10mm) を少量含む。しまり欠。粘性欠。 | 4 褐色土 | 風化ロームの堆積層。しまり欠。粘性やや強。 |

図 92 ST-36 周堀土層断面

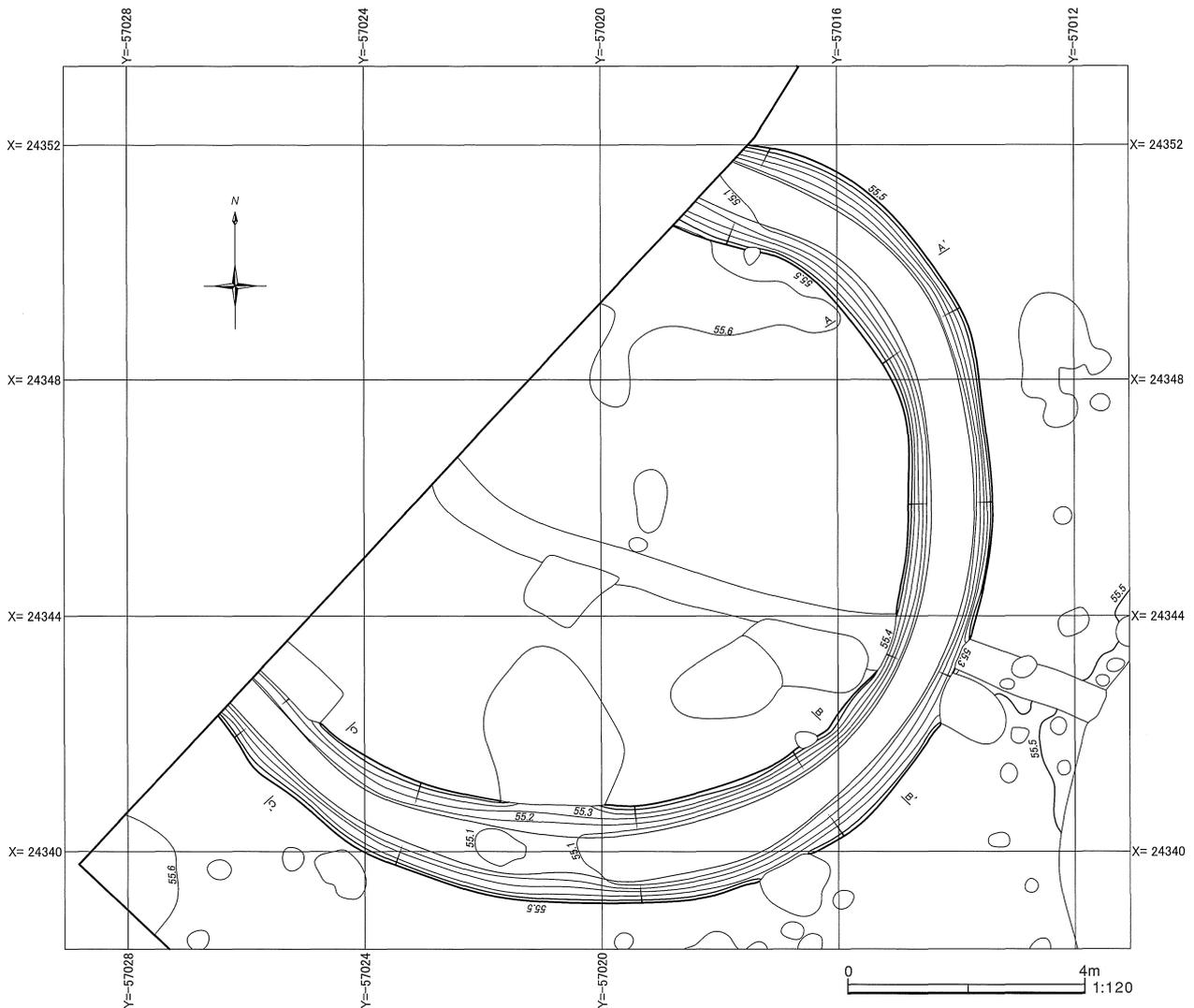


図 93 ST-36 平面

なく、段差も存在しない。周堀覆土は4層に区分される。下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、中層に同じくロームブロックを含む黒褐色土、上層には白色パミスを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北東－南西方向で径12.3m、南－北方向で径11.1m、周堀は幅1.3～1.8m、深さ30～50cmを測る。

(2) 遺物

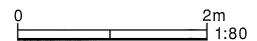
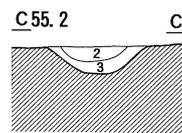
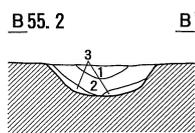
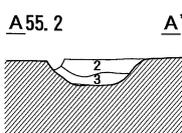
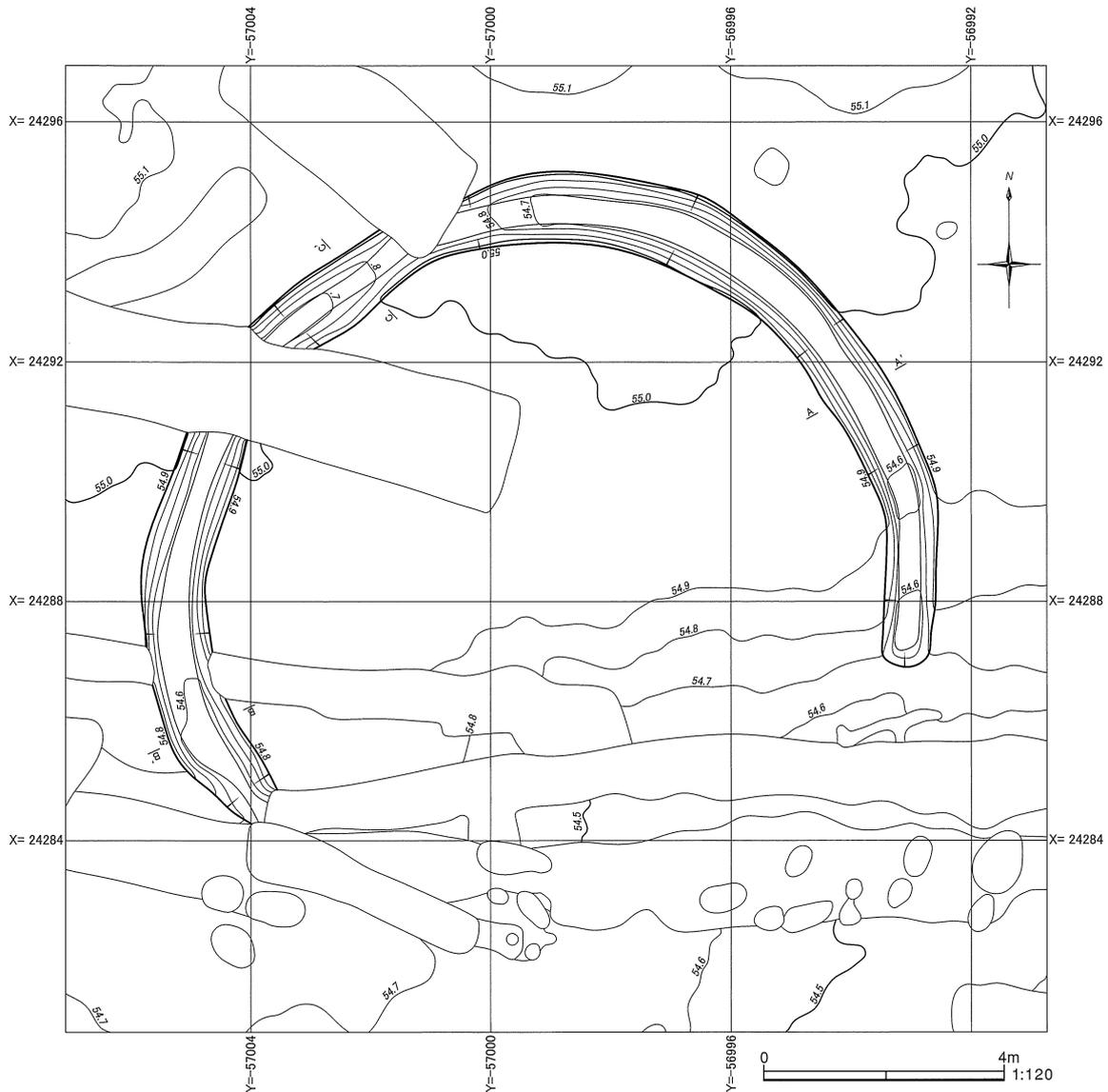
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-37

(1) 遺構 (図94、写真5)

位置：1P-12・13、1Q-12・13グリッドに位置する。北西側でST-38と南西側でST-39と近接している。これら3基は他の古墳と離れて小群を形成している。

形状：南側は浅い谷にかかり、また後代の溝などにより攪乱を受け原状を確認できない。残存部分の



ST-37 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。しまり欠。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を少量含む。しまり欠。粘性欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径 1~15mm) を多量に含む。しまり欠。粘性欠。

図 94 ST-37 平面および周堀土層断面

墳丘平面形はほぼ整円形を呈する。周堀の幅はほぼ一定し、周堀底面も平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は3層に区分される。下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、中層に同じくロームブロックを含む黒褐色土、上層には白色パミス・ロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北東-南西方向で推定径 11.8 m、周堀は幅 0.8 ~ 1.3 m、深さ 20 ~ 40 cmを測る。

(2) 遺物

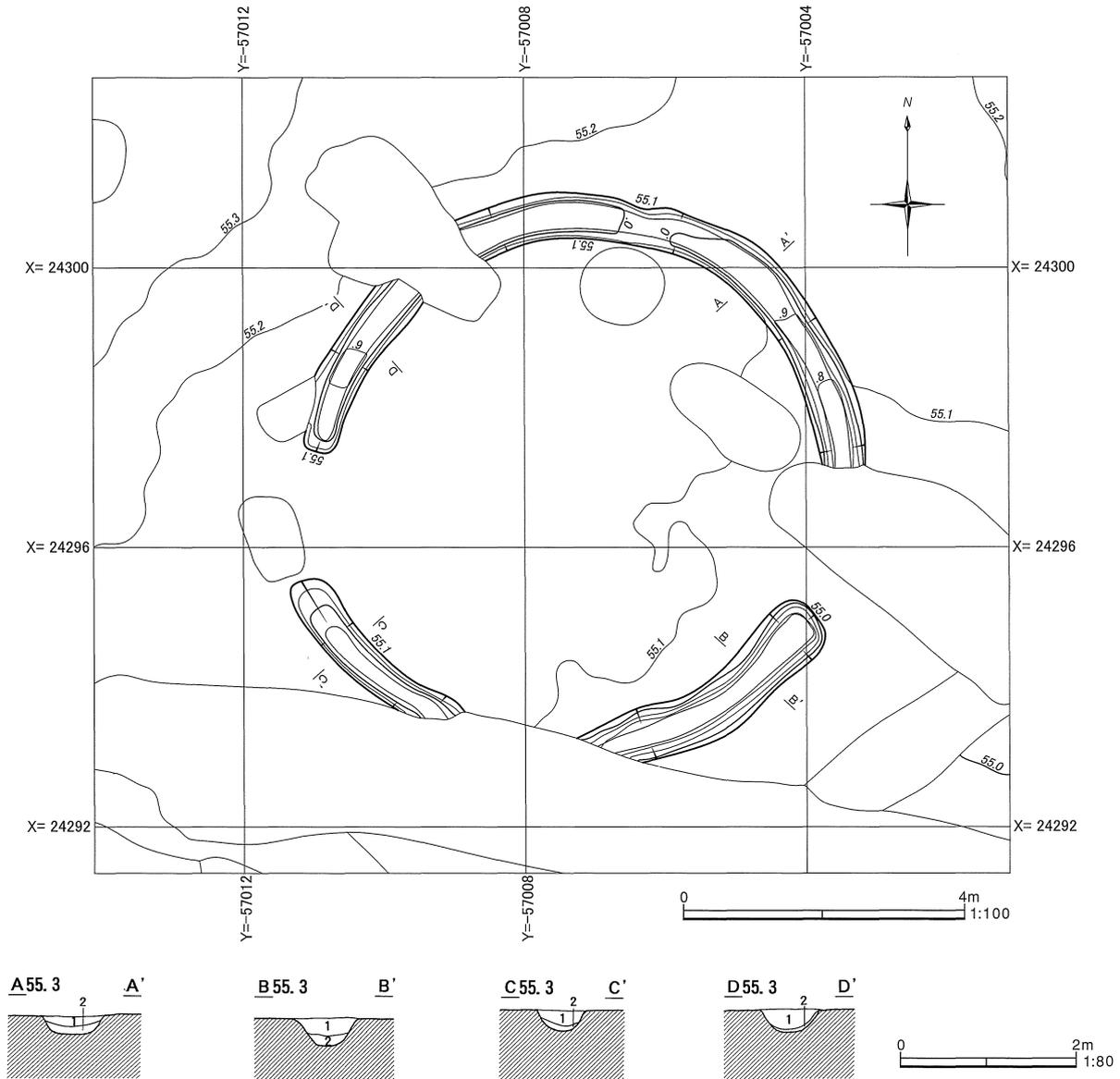
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-38

(1) 遺構 (図95、写真5)

位置：1Q-11・12、1R-12グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円形を呈する。東西で周堀が途切れ、この部分に陸橋をもつ。また、攪乱により明らかではないが、南側にも同様の陸橋をもつ可能性がある。周堀の幅はほぼ一定し、周堀底面も平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は2層に区分される。下



ST-38 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~2mm) を少量含む。しまり欠。粘性欠。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径 1~15mm) を多量に含む。しまり欠。粘性欠。

図95 ST-38平面および周堀土層断面

層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層にはロームブロックを少量含む黒褐色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北東－南西方向で径7.5 m、北西－南東方向で径7.1 m、周堀は幅0.6～0.9 m、深さ20～30 cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-39

(1) 遺構 (図96・97、写真5)

位置：1Q-12・13、1R-12・13・14、1S-13グリッドに位置する。

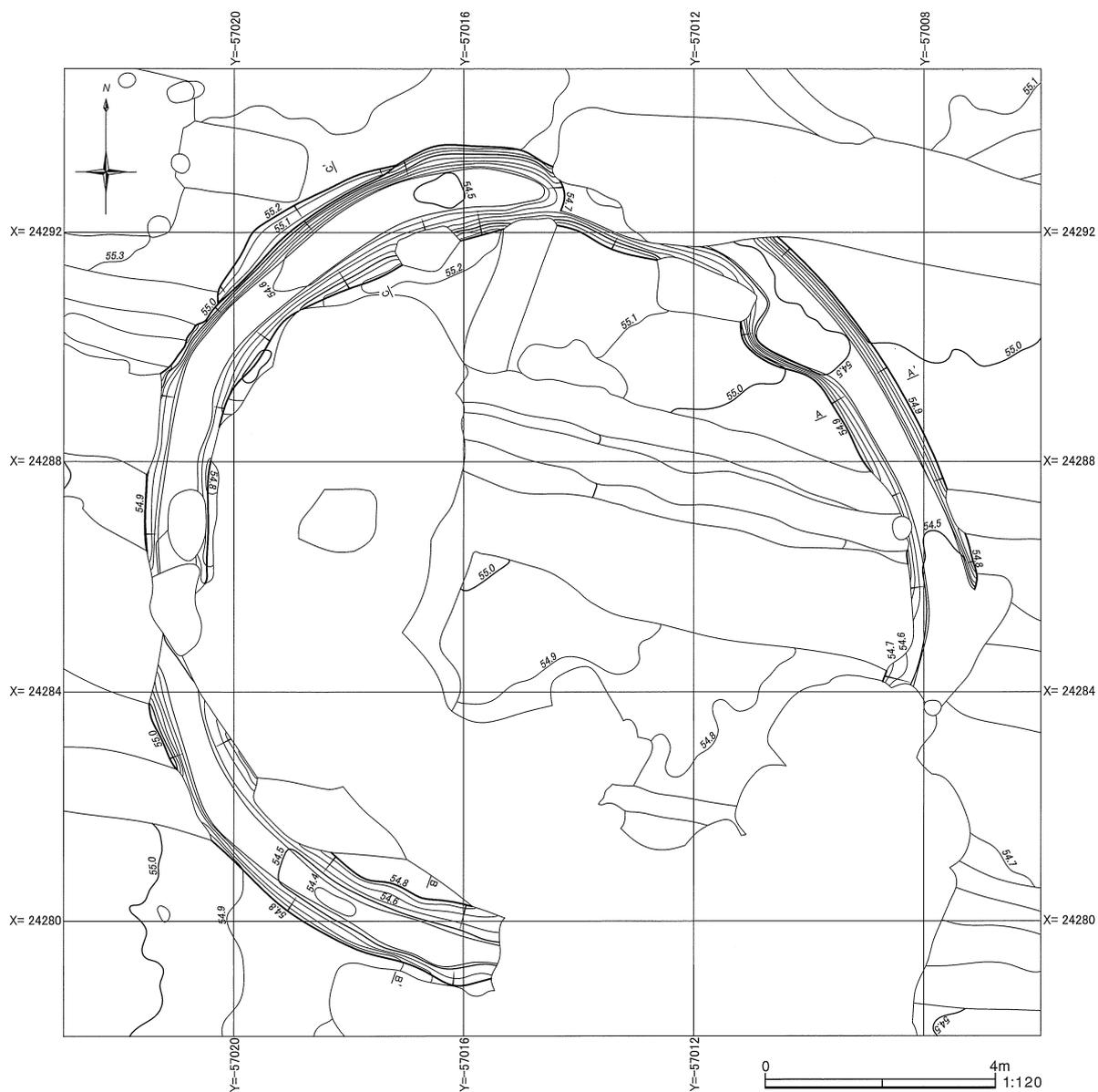


図96 ST-39平面

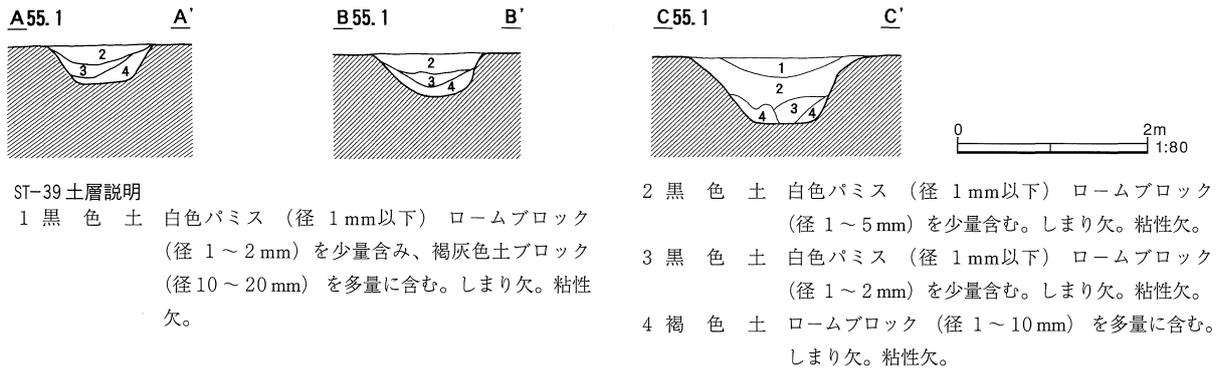


図 97 ST-39 周堀土層断面

形状：円墳である。墳丘平面形は整円を描かず、立ち上がりの線は各所で緩やかに屈曲している。周堀の幅は一定しない。周堀底面は緩やかに起伏し、北側で1箇所段差を生じている。北東側では墳丘よりも大きく屈曲している箇所が見られる。土坑状の副次的埋葬施設の存在も考えられたが、精査の結果、周堀覆土との相違は観察されなかった。周堀覆土は4層に区分される。確認面から周堀までは浅深があり堆積状況は地点により一様ではない。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、径 12.8 m、周堀は幅 1.1 ~ 1.8 m、深さ 20 ~ 70 cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

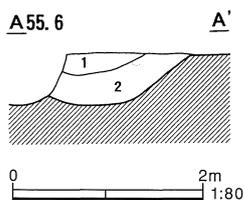
ST-40

(1) 遺構 (図 98・99、写真 5)

位置：IU-12、IV-12 グリッドに位置する。南側でST-63 に近接している。

形状：北側 2 / 3 程が調査区外にあり、全形を確認できない。また後代の溝・攪乱などにより大きく破壊を受け、遺構の詳細を把握できない。周堀は他の古墳と同様に円形にめぐる。周堀の幅は南側で広く、東側で狭くなるようである。また、南西側では周堀規格線に乱れを生じている。周堀覆土は2層に区分される。下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土、上層に白色パミス・ロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。ST-63 の周堀とは直接の切り合い関係はないが、ST-63 の周堀規格がST-40 を回避していることから、両者の時間的な前後関係は、ST-40 が古く、ST-63 が新しいことわかる。

規模：墳丘規模は、推定径 7.5 m、周堀は幅 1.5 ~ 2.0 m、深さ 30 ~ 60 cmを測る。



ST-40 土層説明

<p>1 黒色土 白色パミス (径 1 mm以下) ロームブロック (径 1 mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。</p>	<p>2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~30 mm) を多量に含む。しまり・粘性とも欠。</p>
--	---

図 98 ST-40 周堀土層断面

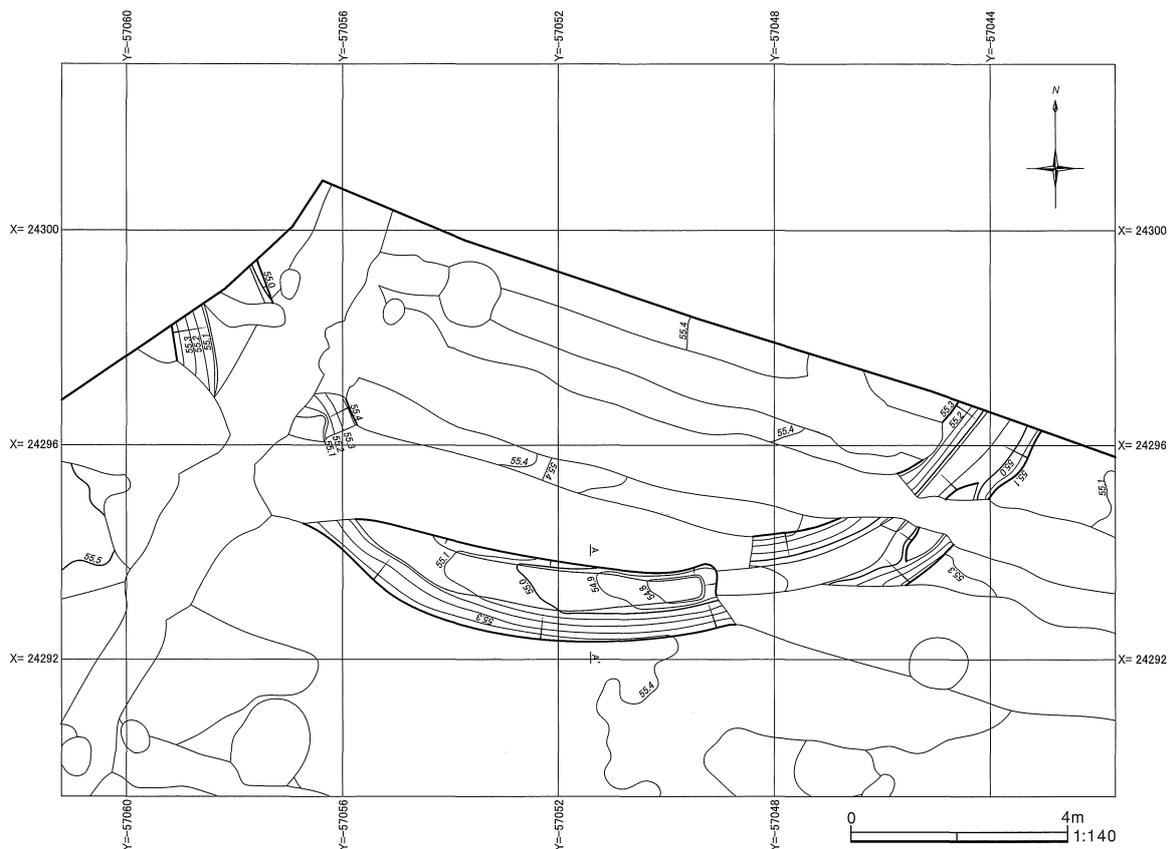


図 99 ST-40 平面

(2) 遺物

表土から少量の埴輪片が出土しているが、周堀覆土からは埴輪・土器ともまったく検出されていない。ST-40 には、本来、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-41

(1) 遺構 (図 100、写真 5)

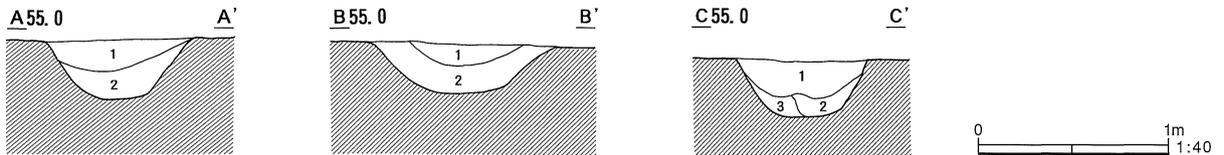
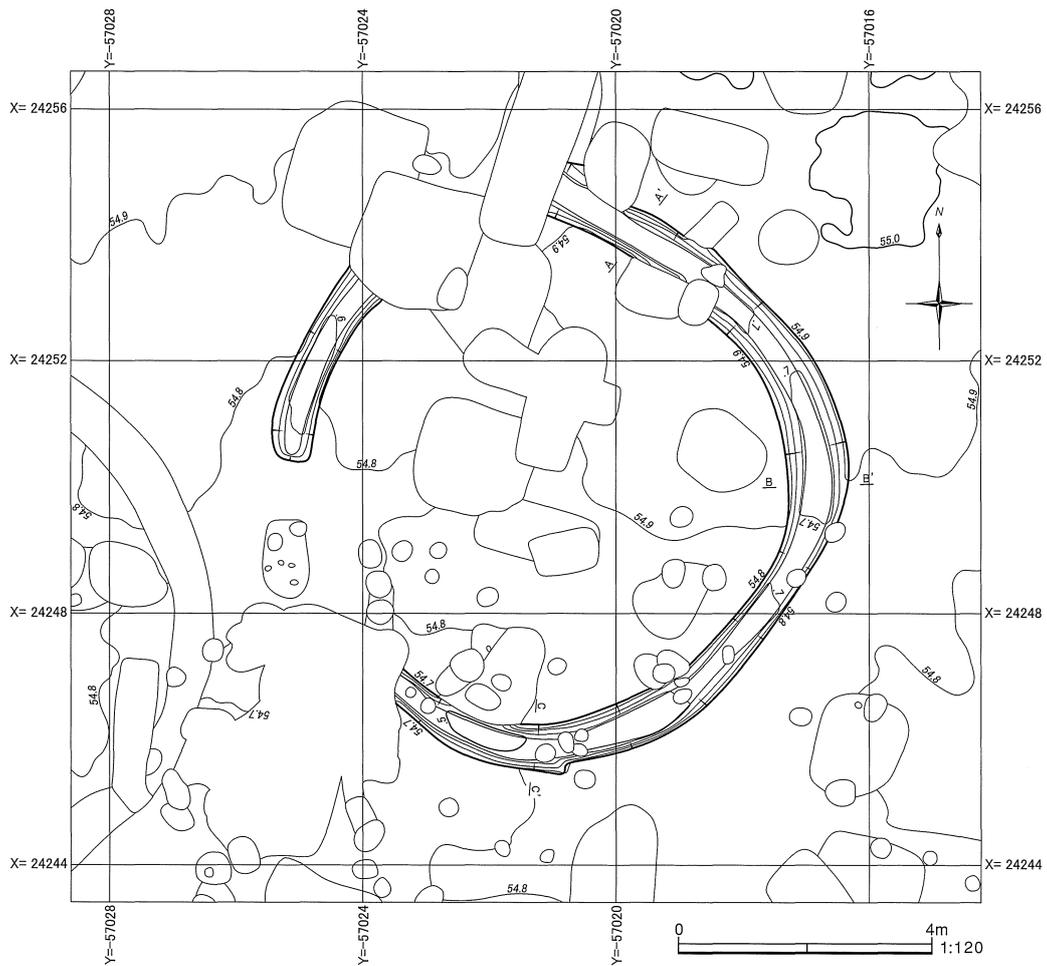
位置：1R-16・17、1S-16・17 グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形は整円を呈さず、部分的に円弧を描かずに直線状になっている箇所がみられる。周堀の幅はほぼ一定し、周堀底面も平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は3層に区分される。下層の褐色土ブロックを含む鈍黄褐色土およびロームブロックを多量に含む黒色土と上層のロームブロックを少量含む黒色土に大別される。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南－北方向で径 8.6 m、北西－南東方向で径 7.8 m、周堀は幅 0.5 ～ 1.0 m、深さ 10 ～ 30 cm を測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。



ST-41 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1mm±）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 鈍黄褐色土 褐色土ブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり欠。

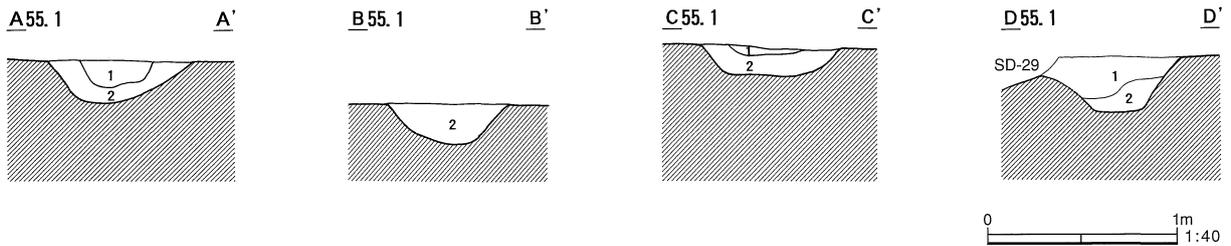
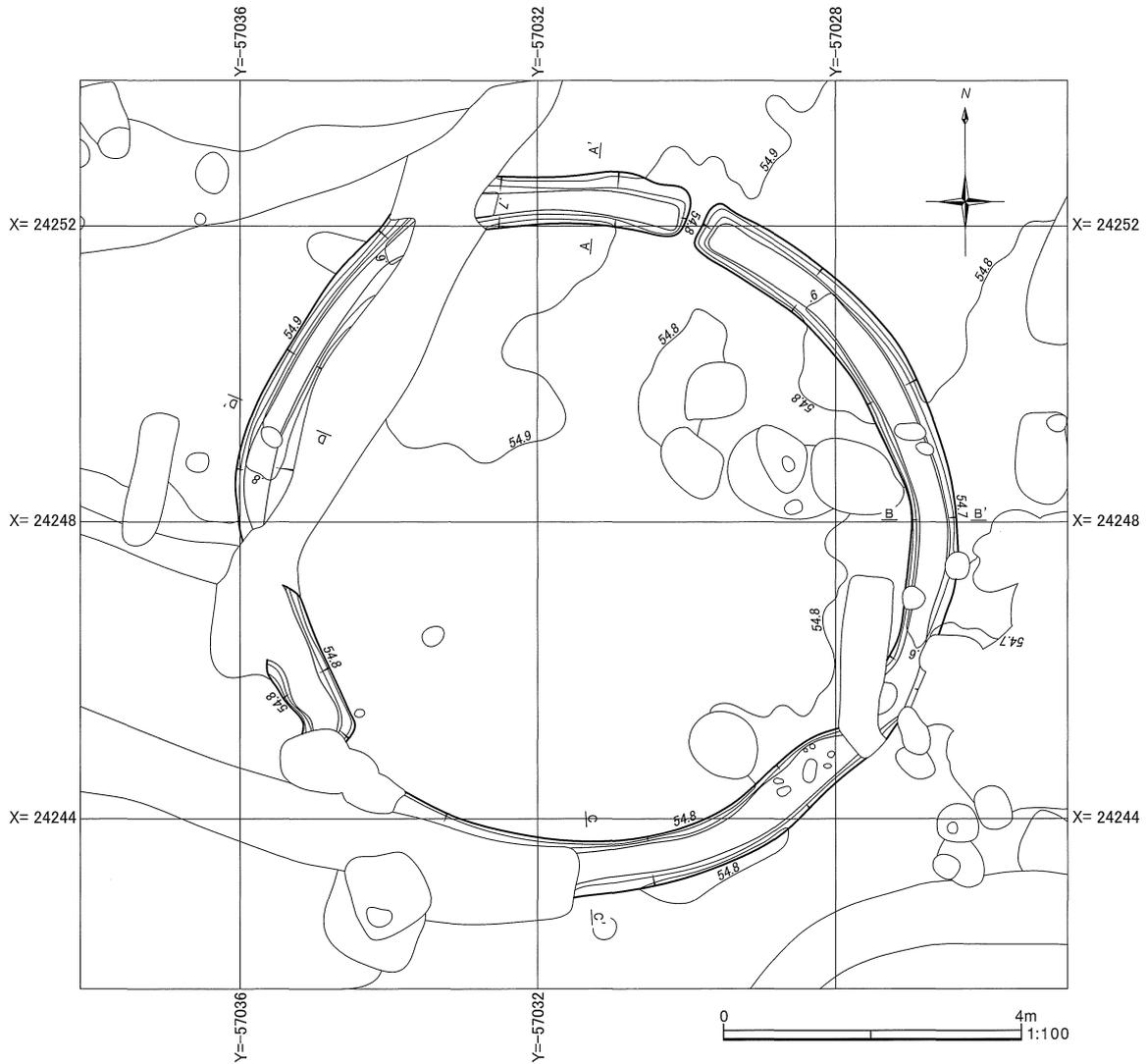
図100 ST-41 平面および周堀土層断面

ST-42

(1) 遺構（図101、写真5）

位置：1S-16・17、1T-16・17グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円形を呈する。北東側で周堀が途切れ、この部分に陸橋をもつ。また、攪乱により明らかではないが、南西側にも同様の陸橋をもつ可能性がある。周堀の幅はほぼ一定し、周堀底面も平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。



ST-42 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径1mm±) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含みまだら状に堆積する。しまり欠。

図101 ST-42 平面および周堀土層断面

周堀覆土は2層に区分される。下層にロームブロックを多量に含む黒褐色土、上層に白色パミス・ロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南-北方向で径8.7m、北東-南西方向で径8.3m、周堀は幅0.5~0.8m、深さ10~30cmを測る。

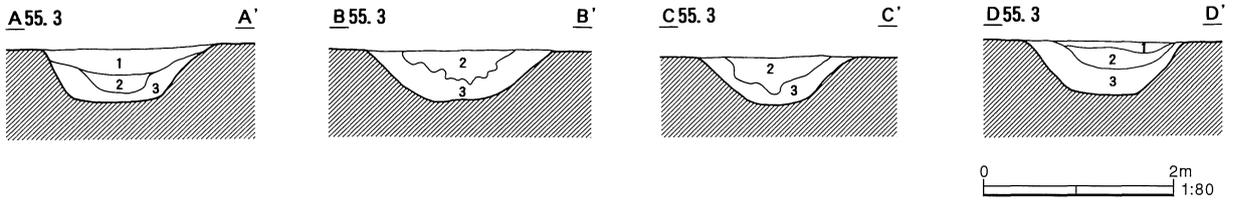
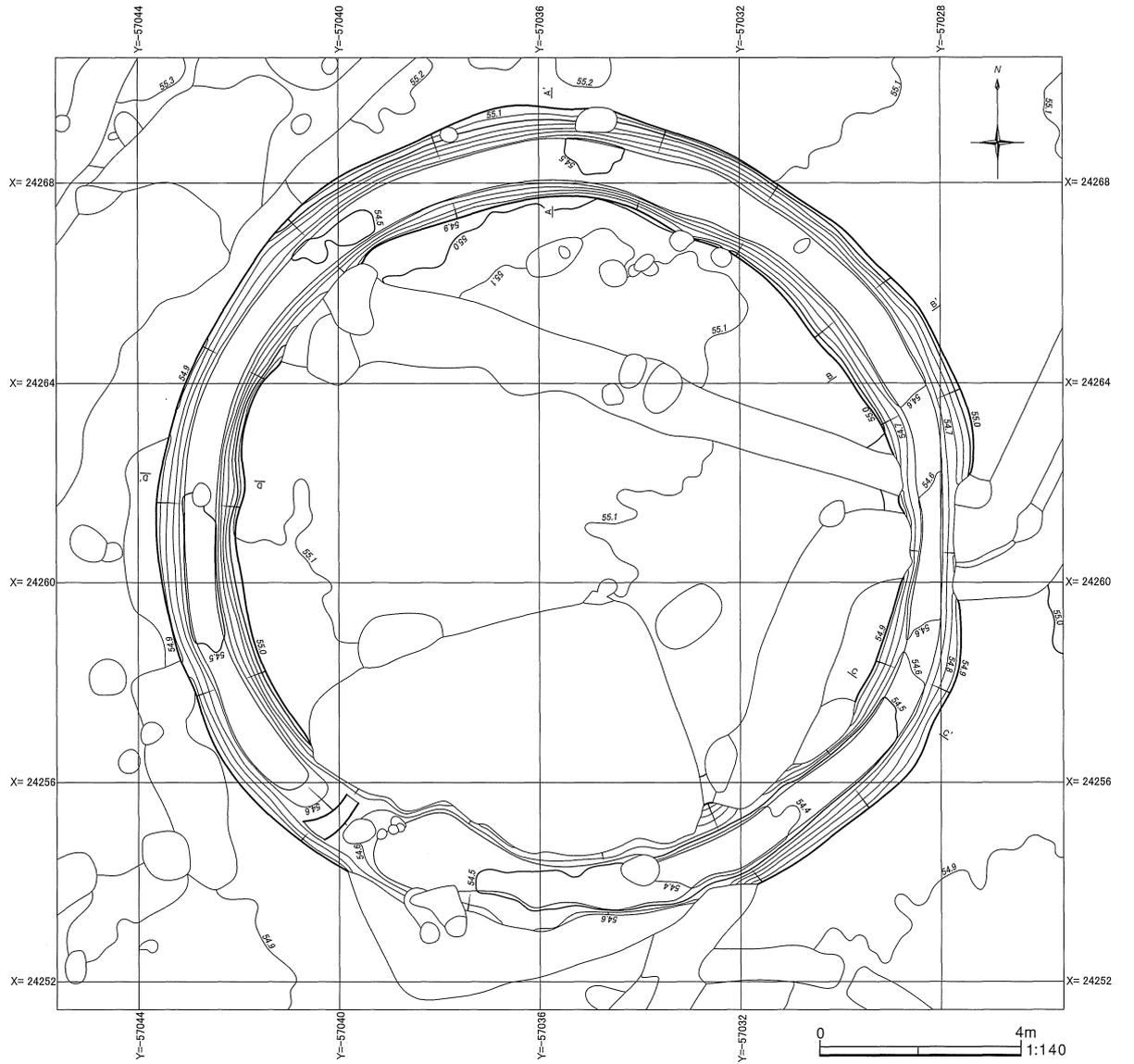
(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-43

(1) 遺構 (図102、写真6)

位置：1S-15・16、1T-15・16、1U-15・16グリッドに位置する。北西側でST-63の周堀と切り合っている。



ST-43 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm±) ロームブロック (径 1~2mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径 1~15mm) 白色粘質土ブロック (径 1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性やや強。

図102 ST-43平面および周堀土層断面

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円形を呈するが、南側には墳丘立ち上がりが内側へ屈曲する箇所がある。周堀の幅はほぼ一定し、周堀底面は南西側で段差を生じ、それ以外は緩やかに起伏している。周堀覆土は3層に区分される。下層にロームブロック・白色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色土、中層に同じくロームブロックを含む黒褐色土、上層には白色パミス・ロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。なお、ST-63との覆土の切り合いは、ST-43が古く、ST-63が新しい。

規模：墳丘規模は、北西-南東方向で径14.3m、北東-南西方向で径12.8m、周堀は幅1.4~1.9m、深さ20~60cmを測る。

(2) 遺物

周堀覆土から土師器片多数と鉄製小刀1振を検出している。土師器片は周堀南半を中心として各所で出土しているが、ST-43に伴うものではなく、切り合い関係にあるSI-1や他所からの流れ込みである。鉄製小刀は南側の周堀底面近くで出土しているが、埋葬施設に伴うものではない。

a. 鉄製品 [1] (図103、写真69)

小刀 [1]

平造りの小刀で、関は斜めに切られ、背側にも関状の段差が観察される。茎が長く、茎尻は欠損している。肉眼では目釘穴は観察されない。

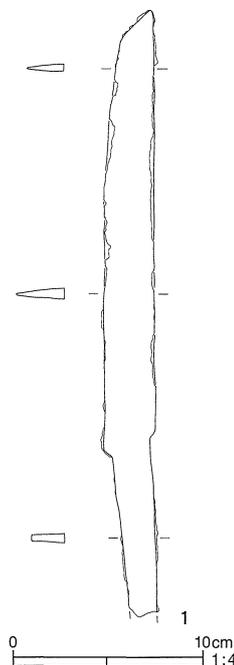


図103 ST-43出土鉄刀

ST-43出土鉄刀観察表

No.	種類	法量(cm)・特徴	備考
1	鉄刀	残存長31.9 刃部最大幅2.7 刃部背厚0.6 重さ166.48g 不均等両関。	刀身部に木質及び繊維付着。

ST-43出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 ミニチュア 土器	口径 3.7 底径 3.0 器高 2.5	手捏ね。口唇部は面をなす。底部は上げ底。	外面-口縁部~体部ミガキ、底部ナデ。内面-口縁~底部ナデ。	微砂粒 内-暗オリブ色 外-橙色・黒色	ほぼ完形。
2	土師器 器台	口径 - 底径 - 器高 -	ハの字状に開く脚部。長い穿孔部。	外面-脚部ハケ後ナデ。内面-脚部ハケ。	片岩・チャート 内-にぶい橙色 外-にぶい褐色	脚部1/3残存。
3	土師器 小型高坏	口径 - 底径 - 器高 -	丸みを持って立ち上がり始める坏体部。下方に向かって開く脚部。	外面-坏部~脚部ミガキ。内面-坏底部ミガキ、脚部上端ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外-橙色	坏底部~脚部上端片。
4	土師器 小型高坏	口径 - 底径 (6.6) 器高 -	ハの字状に開く台部。	外面-台部ヘラナデ。内面-台部ハケ・ナデ。	黒色粒・チャート 内-にぶい黄橙色 外-明赤褐色	台部3/4残存。
5	土師器 小型高坏	口径 - 底径 - 器高 -	外反気味に開き始める脚部。	外面-脚部ヘラケズリ後ナデ。内面-脚部上位絞り目、中位ヘラナデ。	白色粒・チャート 内-にぶい黄褐色 外-にぶい橙色	脚部上位。
6	土師器 (台付鉢)	口径 - 底径 (5.0) 器高 -	外反して開く台部。壙の底部をソケット状に台部に差し込むと思われる。	外面-台部ナデ、裾部ヨコナデ。内面-台部ナデ、裾部ヨコナデ。	黒色粒・チャート 内-明黄褐色 外-橙色	台部。
7	土師器 小型甕	口径 - 底径 (4.8) 器高 -	丸みを持って立ち上がる体部。底部は平底。	外面-体部ミガキ、底部ヘラケズリ後ナデ。内面-体部~底部指ナデ。	片岩・チャート 内外-明赤褐色	体部下位~底部3/4残存。

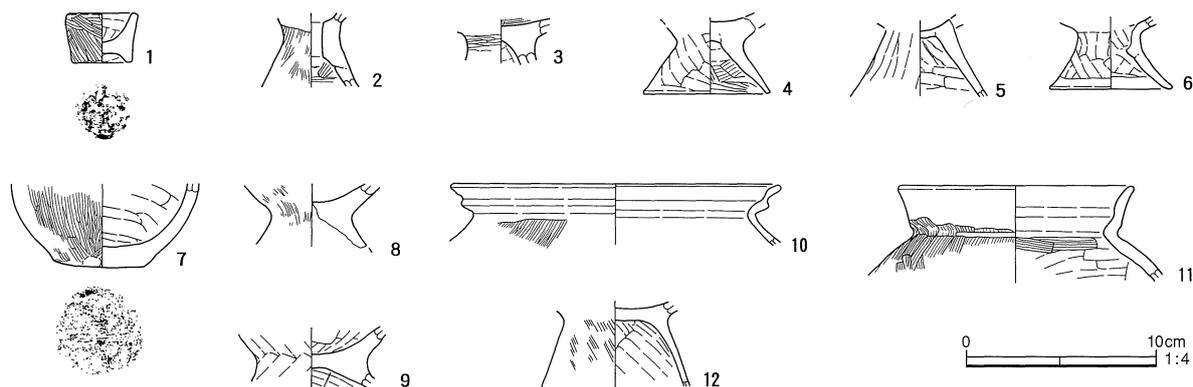


図 104 ST-43 出土土器

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
8	土師器 台付甕	口径 — 底径 — 器高 —	丸みを持って開き始める胴部。ハの字状に開き始める台部。	外面—胴部～台部剥離多く不明瞭だがハケ。内面—甕底部ヘラナデ、台部は剥離のため不明。	雲母・赤褐色粒 内—にぶい褐色 外—明赤褐色	胴部下端～台部上端片。
9	土師器 台付甕	口径 — 底径 — 器高 —	丸みを持って開き始める胴部。ハの字状に開き始める台部。	外面—胴部下端～台部上端ヘラナデ。内面—甕底部ヘラナデ、台部ヘラナデ。	片岩・チャート 内—橙色 外—にぶい黄褐色	胴部下端～台部上端片。
10	土師器 S字甕	口径 (17.4) 底径 — 器高 —	S字状口縁。内面括れ部は面をなす。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ハケ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	黒色粒・白色粒 外—にぶい黄褐色	口縁部片。
11	土師器 S字甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部は外反気味に開き、内面に屈曲部を有す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ハケ。内面—口縁部ヨコナデ、頸部ハケ、胴部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内—にぶい赤褐色 外—灰黄褐色	口縁部片。
12	土師器 S字甕	口径 — 底径 — 器高 —	ハの字状に開く台部。	外面—台部ハケ後ナデ。内面—甕底部ヘラナデ、台部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内—にぶい黄褐色 外—明褐色	台部上位。

ST-44

(1) 遺構 (図 105、写真 6)

位置：1W-16・17、1X-15・16・17、1Y-15・16・17グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形は整円を描かず、立ち上がりの線は各所で緩やかに湾曲している。周堀の幅はほぼ一定しているが、南側には大きく幅を減ずる箇所が存在する。周堀底面は北側に大きな土坑状の落ち込みがあり、西側では2箇所段差を生じている。それ以外は全体に緩やかな起伏がみられる。周堀覆土は3層に区分される。下層にロームブロック・白色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色土、中層に同じくロームブロックを含む黒褐色土、上層には白色パミスを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、東—西方向で径 14.4 m、南—北方向で径 13.3 m、周堀は幅 1.8～2.8 m、深さ 20～70 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は、埴輪のほか多量の土師器を検出している。墳丘外縁のテラス面では、円筒埴輪7点が原位で転倒した状態で検出されている。また、周堀覆土最上層の黒色土から埴輪片が出土している。さらに、土師器は周堀各所から検出されているが、土師器壺など一部の器種を除き、これらの中にはST-44と切り合い関係にあるSI-4～7からの流れ込みも多いと判断される。とくに、S字甕・真間式期

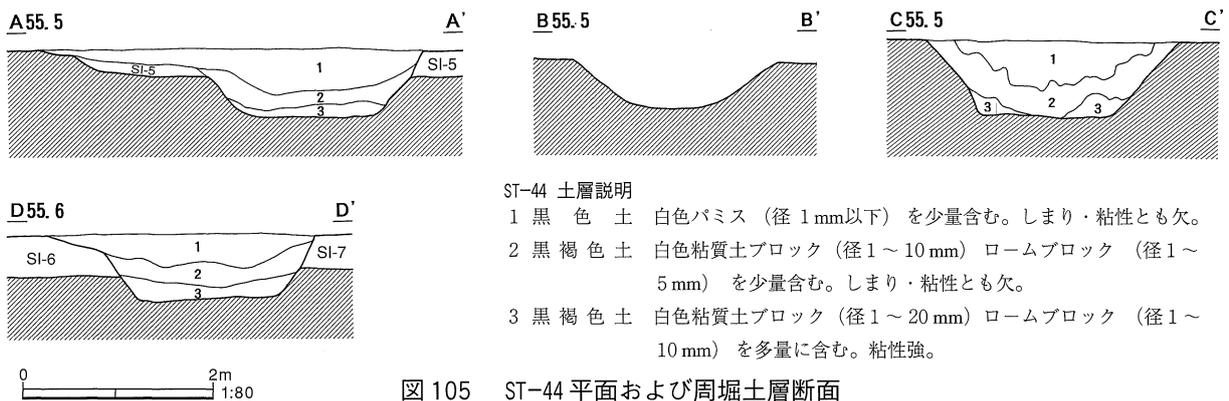
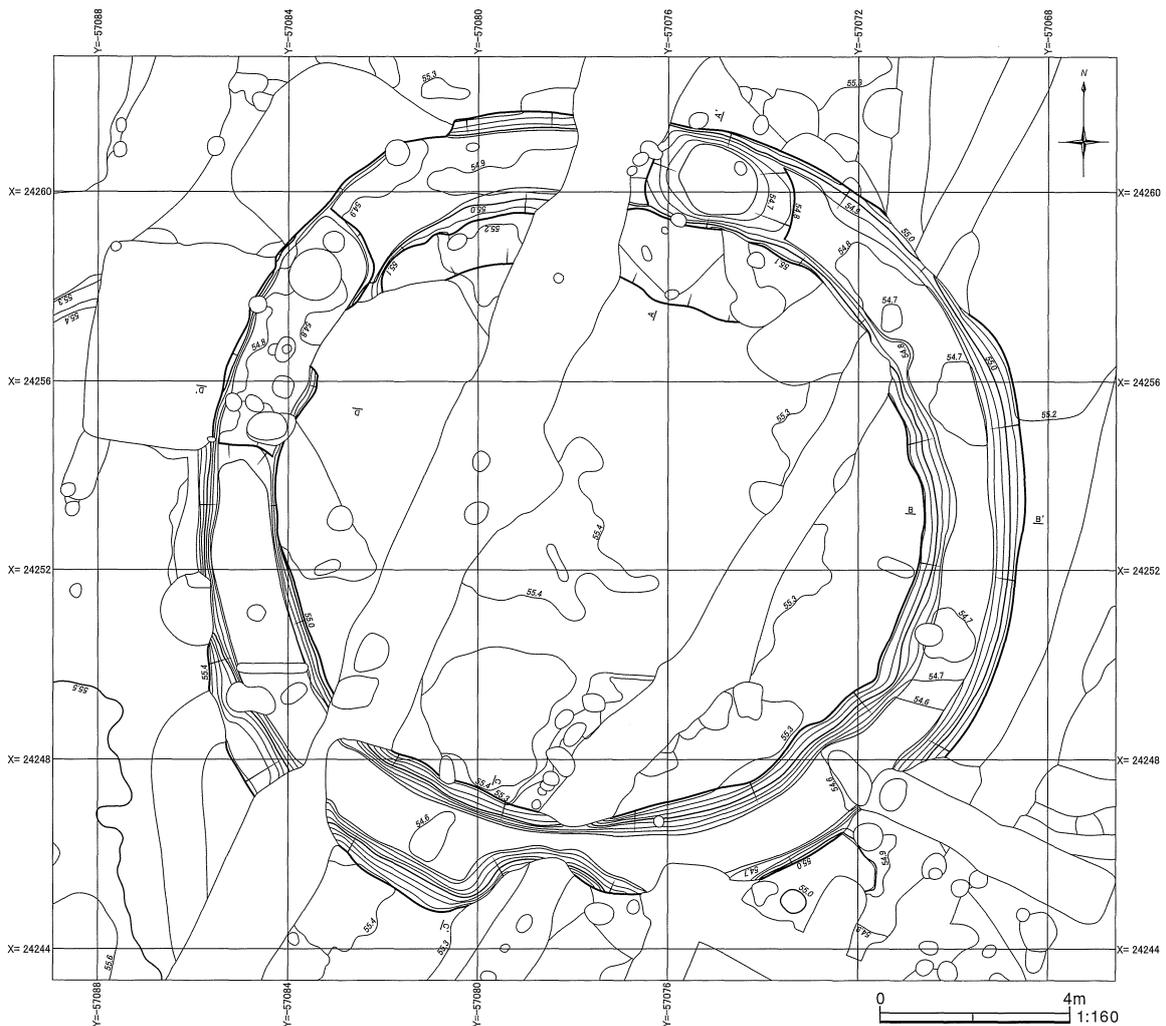


図 105 ST-44 平面および周堀土層断面

の甕は明らかな混入品である。

a. 埴輪

円筒埴輪 [1~10] (図 107~110、写真 34・35)

すべて 2 条突帯 3 段構成で占められている。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は、確認される範囲において、すべて半円形である。突帯は総じて貧弱

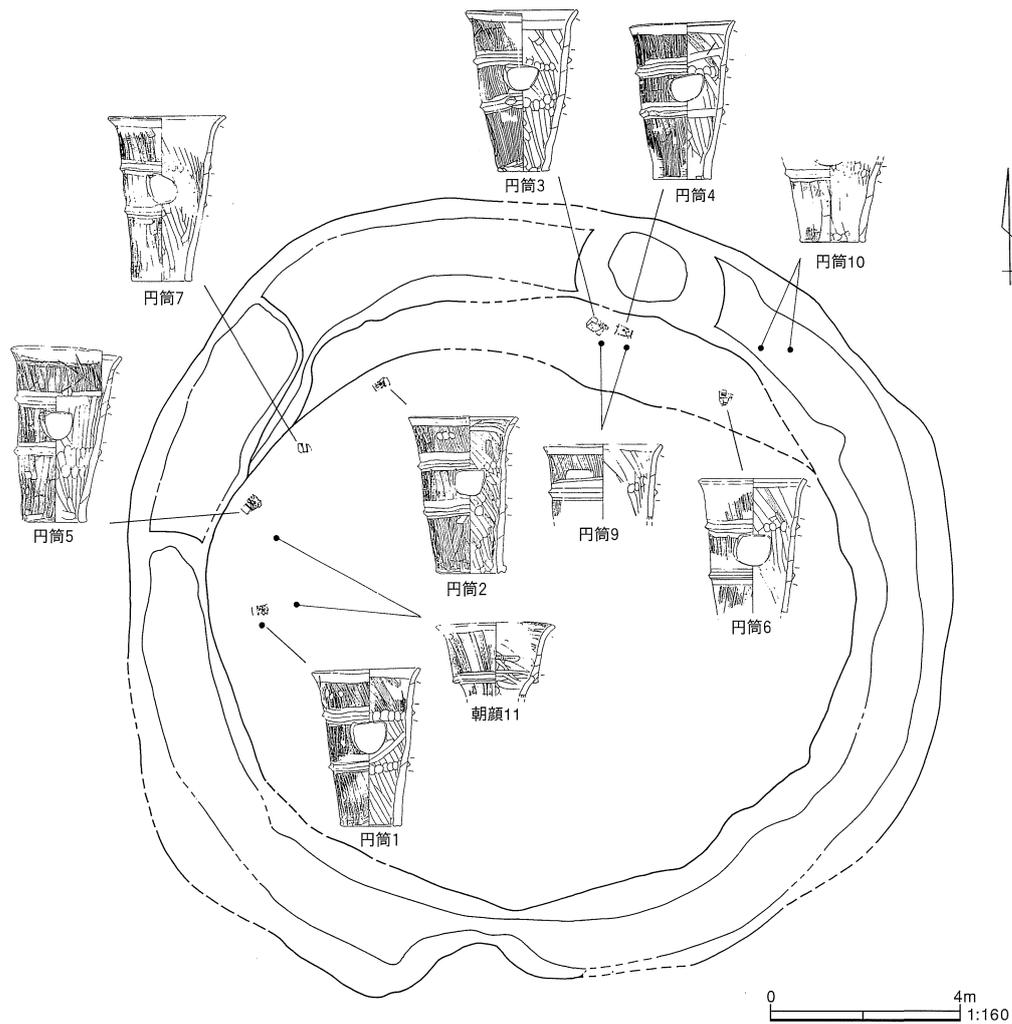


図 106 ST-44 埴輪分布

で、断面が三角形となった個体も目立つ。1～5の第3段外面には「×」形の刻線を認める。また、6には第3段外面に斜位4条線の刻線を、さらに7の同じく第3段外面には斜位3条線以上の刻線が観察される。

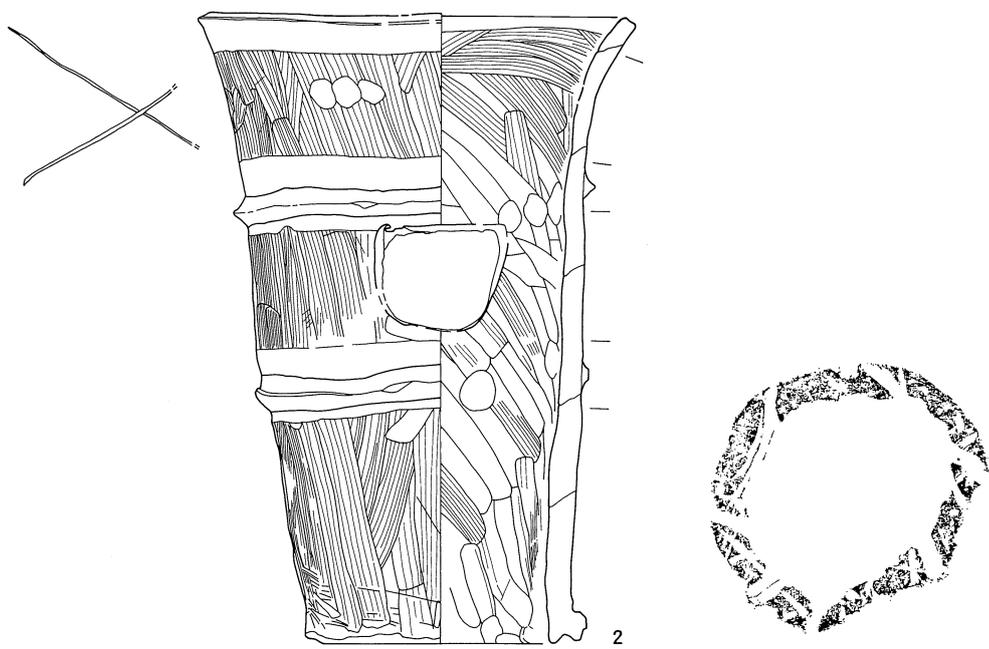
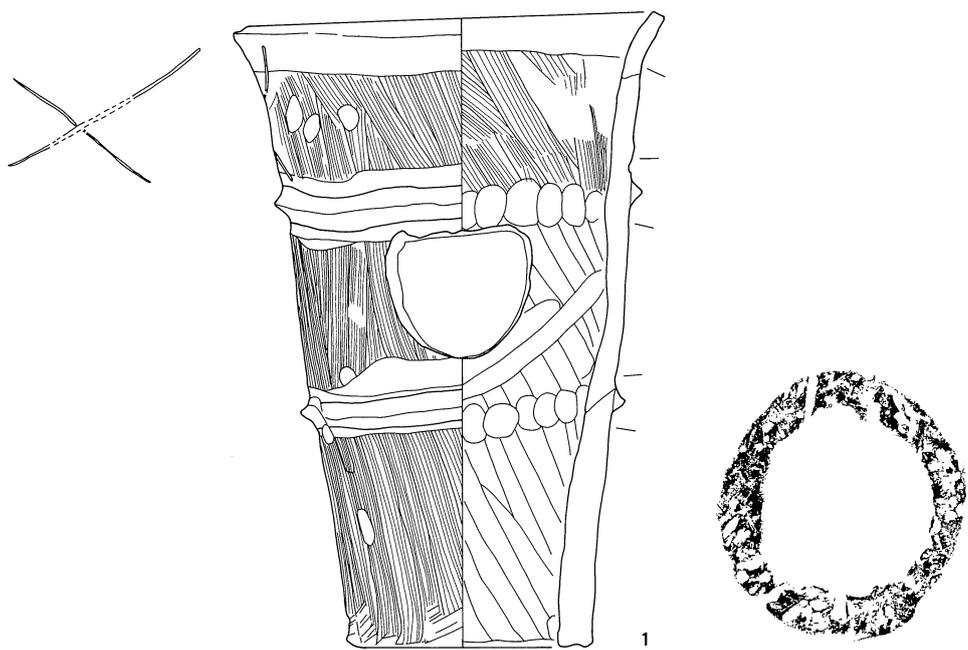
朝顔形埴輪 [11] (図 110、写真 35)

口縁部だけの破片である。中位で内側に屈曲して立ち上がり、口唇部は外側へ大きく湾曲している。調整は外面がタテハケ、内面はハケとナデが併用されている。

形象埴輪 (図 111、写真 36)

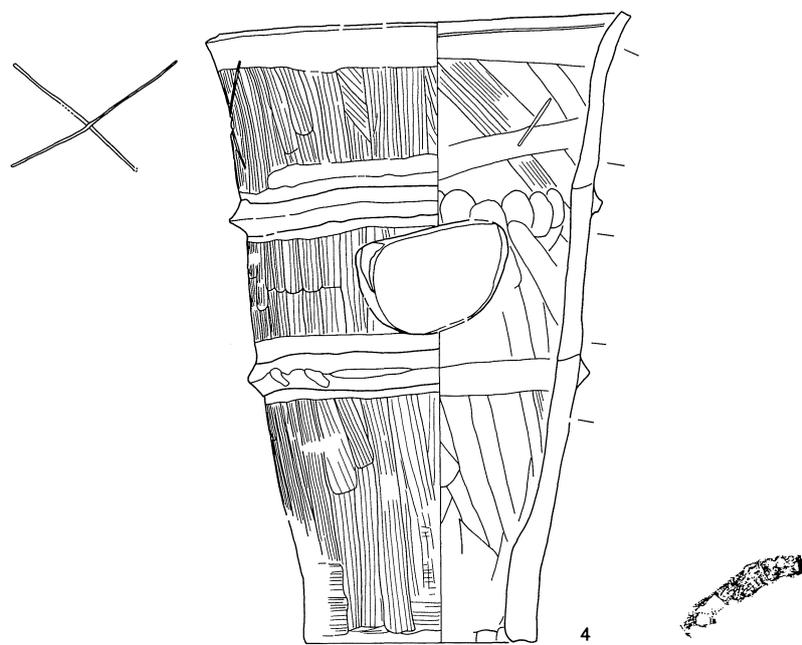
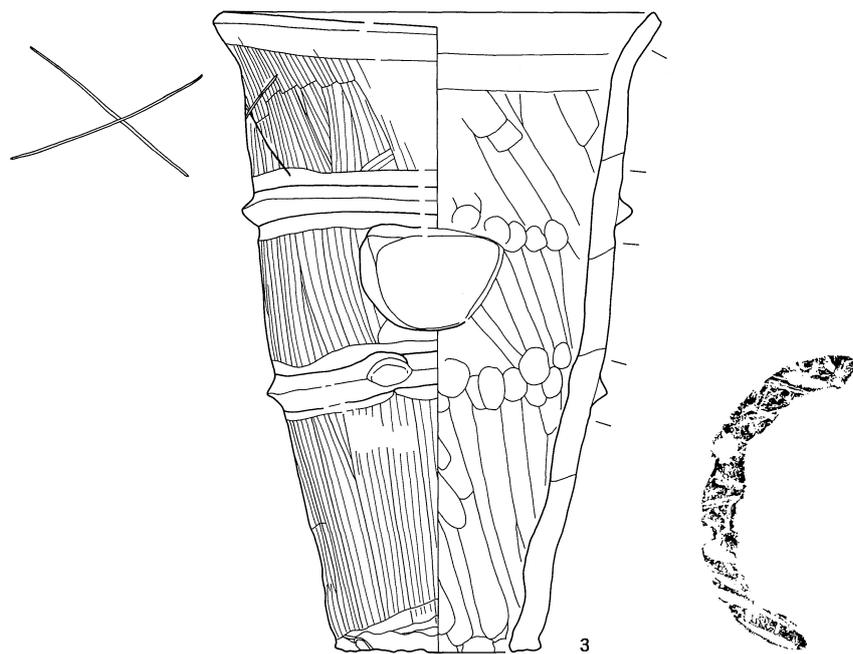
器種不明 [1]

形象埴輪の台部と考えられるが、馬形埴輪の脚部、朝顔形埴輪の第1段となる可能性も否定できない。基部は丁寧に成形され、調整は外面に縦位のハケ、内面に縦位のハケおよびナデを加えている。胎土に粗砂が目立ち、色調は橙色を呈する。



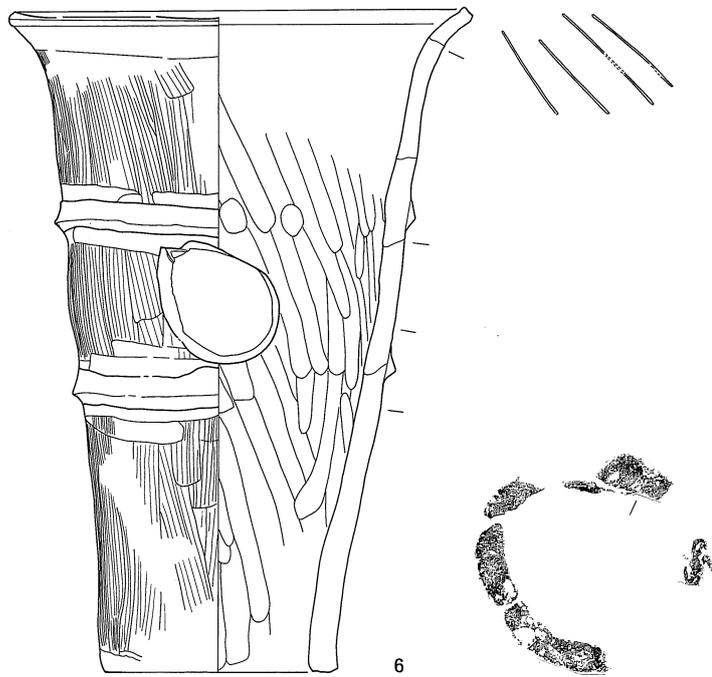
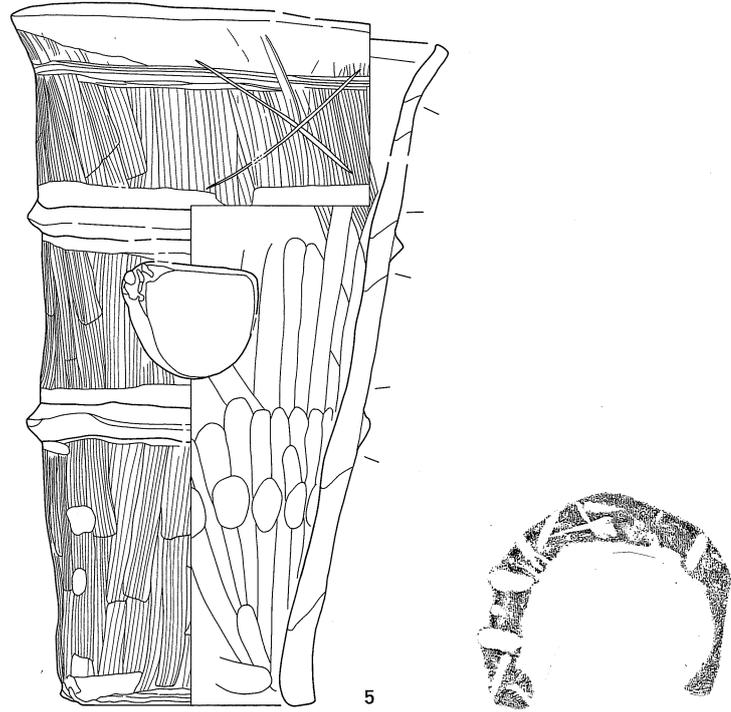
0 10cm 1:4

图 107 ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)



0 10cm
1:4

图 108 ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)



0 10cm
1:4

图109 ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪 (3)

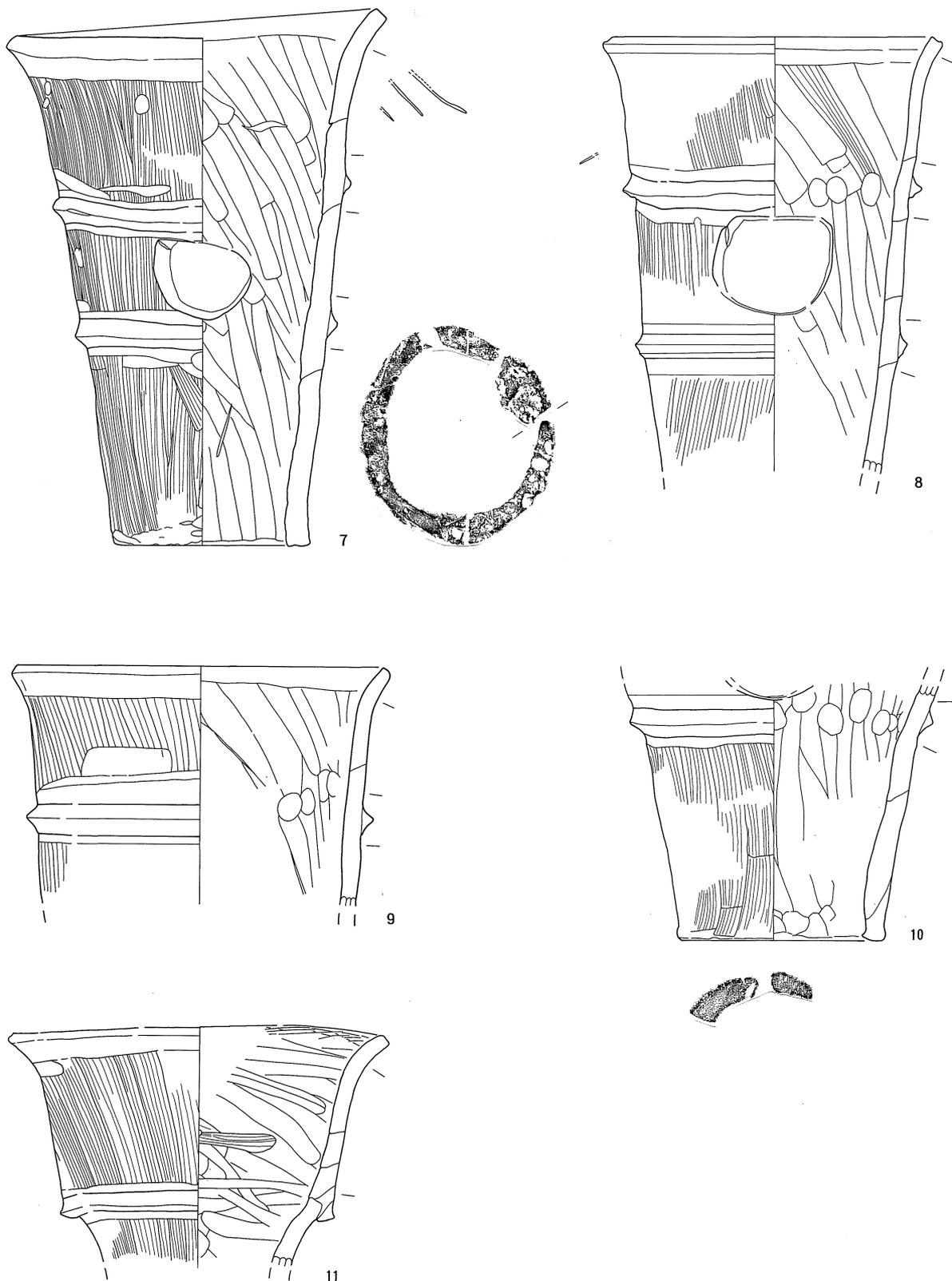


图 110 ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪 (4)

b. 土器

土師器 [1～41] (図112～114、写真41～44)

坏 [1～16]

1～10は体部と口縁部との境界に稜をもつ坏蓋模倣坏であるが、器形は一定していない。11～13も明瞭な稜を認めないものの坏蓋模倣を意識して口縁部を成形している。14は大きな平底をもつ特異な器形である。15・16は深い体部と内湾する口縁部をもつ。調整は体部外面がヘラケズリののち一部にナデ・ヘラナデが加えられている。体部内面はナデもしくはヘラナデで、口縁部には内外面とも横位のナデを施している。

高坏 [17～22]

17～19はいずれも短脚で坏部は下位に稜をもち、直線的に外反する器形が共通する。外面調整はヘラ状の工具を用いた粗いナデが目立つ。

埴 [23]

大型の埴である。丸底・球胴で頸部は「く」字状に外反し、口縁部は短く直線的に立ち上がって、口唇部は内屈している。調整は体部外面にヘラケズリを残すほかは全面にナデが加えられている。

小型甕 [24]

底部は平底で、体部が強く張り、口縁部は短く外反する。調整は体部外面がヘラケズリ、体部内面はヘラナデで、口縁部には内外面とも横位のナデを施している。

甕 [25～33]

器形は一定せず、全体に明らかな時間幅が存在する。25・33など胴の張る類の器壁が厚いのに対し、長胴化の進行した26は器壁が薄い。調整は体部外面がヘラケズリ、体部内面はヘラナデで、口縁部には内外面とも横位のナデを施している。

甗 [34]

体部が強めに張って立ち上がり、口縁部は直線的に外反する。器壁が厚い。調整は体部外面がヘラケズリののちヘラナデ、体部内面はヘラナデで、口縁部には内外面とも横位のナデを施している。

壺 [35～37]

口縁部中位に稜をもつ35・36は須恵器甕の模倣形態である。37も同様であろう。調整は胴部外面がヘラケズリ、内面はヘラナデが施されている。口縁部は内外面とも横位のナデが加えられている。

ST-44 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.0 底径 4.6 器高 5.0	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、底面木葉痕。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒 内－赤褐色 外－明赤褐色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 (11.3) 底径 3.5 器高 5.1	口縁部は体部との境に稜を持ち、外反気味に内傾する。底部は上げ底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・ 黒色粒 内外－褐色	口縁部1/6欠損。

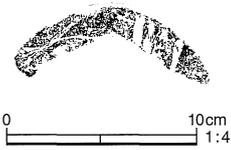
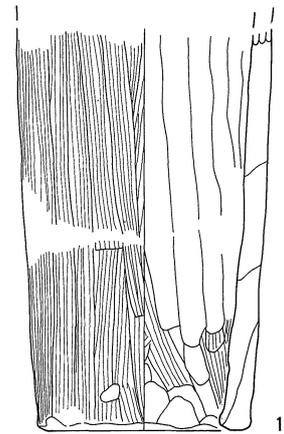


図111 ST-44 出土形象埴輪

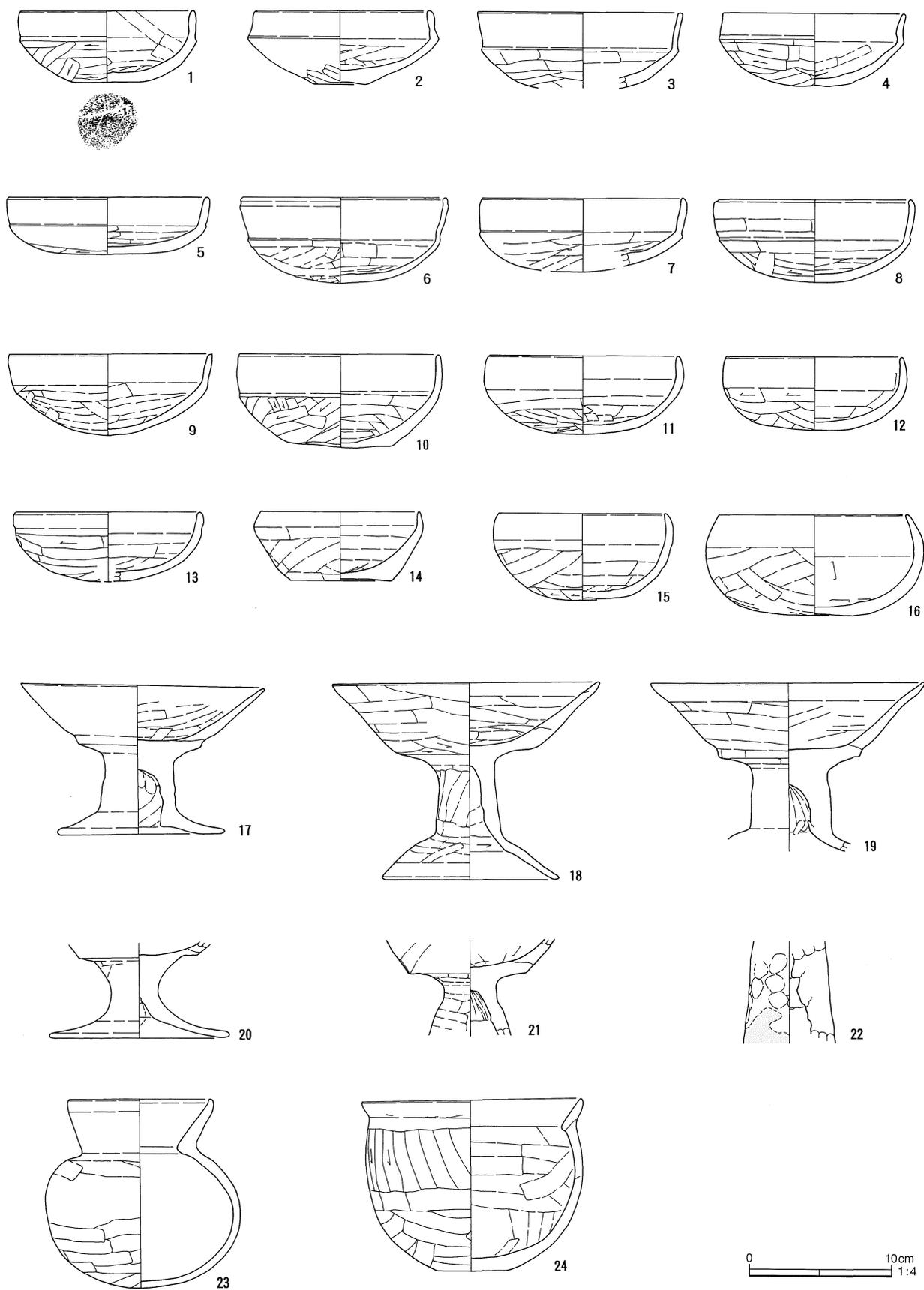


图 112 ST-44 出土土器 (1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土師器 坏	口径(14.2) 底径 — 器高 —	口縁部は体部との境に稜を持ち、外反気味に直立する。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	片岩・白色粒 内外—明赤褐色	1/3残存。
4	土師器 坏	口径(12.7) 底径 — 器高 5.1	口縁部は体部との境に稜を持ち、外反して立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	片岩・黒色粒・白色粒 内外—明赤褐色	3/4残存。
5	土師器 坏	口径(14.0) 底径 — 器高 4.0	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、外傾気味に立ち上がる。体部は浅い。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上～中位ナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・黒色粒 内外—にぶい赤褐色	2/3残存。
6	土師器 坏	口径(14.4) 底径 — 器高 6.0	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、内湾気味に立ち上がり、端部でわずかに内傾する。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	2/3残存。
7	土師器 坏	口径(14.0) 底径 — 器高 (5.2)	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・チャート・黒色粒 内外—明褐色	1/3残存。
8	土師器 坏	口径(14.0) 底径 — 器高 5.8	口縁部は体部との境に稜を持ち、内湾気味に立ち上がり、端部で内屈する。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上～中位ナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	片岩・チャート 内外—暗赤褐色	口縁部1/5欠損。
9	土師器 坏	口径 14.1 底径 — 器高 5.6	体部は丸みを持ち、口縁部は外傾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・褐色粒 内—赤褐色 外—明赤褐色	口縁部一部欠損。
10	土師器 坏	口径 14.0 底径 6.9 器高 6.5	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、直線的に立ち上がる。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・黒色粒 内外—明褐色	3/4残存。
11	土師器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.5	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く内傾する。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・黒色粒 内—褐色 外—明褐色	2/3残存。
12	土師器 坏	口径 12.2 底径 — 器高 5.2	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は端部でわずかに内傾する。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・黒色粒 内外—赤褐色	完形。
13	土師器 坏	口径(13.0) 底径 — 器高 (4.8)	体部は丸みを持ち、口縁部はわずかな段差から内湾気味に短く立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外—明赤褐色	1/3残存。
14	土師器 坏	口径 10.9 底径 6.9 器高 4.8	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は短く内傾する。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	片岩・黒色粒 内—にぶい橙色 外—橙色	ほぼ完形。
15	土師器 坏	口径 11.5 底径 — 器高 6.0	体部は丸みを持ち、口縁部はわずかに内湾する。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上～中位ヘラナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	チャート・黒色粒 内—にぶい橙色 外—にぶい橙色・オリーブ黒色	ほぼ完形。
16	土師器 坏	口径 13.0 底径 — 器高 7.1	体部は湾曲気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート 内—明赤褐色 外—にぶい橙色・黒色	3/4残存。
17	土師器 高坏	口径 16.8 底径 11.6 器高 10.7	坏部下位に稜を持ち、口縁部は直線的に開く。脚部は中位にわずかな膨らみを持ち、裾部は直線的に広がる。	外面—口縁部～脚部摩滅著しい。裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ。	チャート・黒色粒 内外—にぶい赤褐色	坏部1/3欠損。
18	土師器 高坏	口径 18.6 底径 12.3 器高 13.8	坏部は平底から外反気味に開き、口縁部に至る。脚部は下位にわずかな膨らみを持ち、裾部は湾曲して広がる。	外面—口縁部～坏部中位ヘラナデ、下位ヘラケズリ、脚部～裾部中位ヘラナデ、下位ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部ナデ、裾部上位ヘラケズリ、中～下位ヨコナデ。	雲母・チャート・褐色粒 内—橙色 外—明赤褐色	坏部一部欠損。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
19	土師器 高坏	口径(18.7) 底径 - 器高 -	坏部下位に稜を持ち、口縁部はゆるやかに外反する。脚部は中位にわずかな膨らみを持ち、上位がわずかに膨らむ。裾部は湾曲気味に広がる。	外面-口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部~裾部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚部縦位ナデ、裾部ヨコナデ。	雲母・チャート・黒色粒 内-橙色・にぶい黄橙色 外-灰赤色	坏部1/3・裾部欠損。
20	土師器 高坏	口径 - 底径(12.6) 器高 -	坏部下位に稜を持つ。脚部は中位ですばみ、裾部は外反気味に広がる。	外面-坏部下位~脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面-坏底部~脚部ナデ、裾部ヨコナデ。	雲母・黒色粒 内-黒色 外-明赤褐色	坏底部~裾部2/3残存。
21	土師器 高坏	口径 - 底径 - 器高 -	坏部は平底から外傾して開き始める。脚部は上位でわずかに膨らみを持ち、外側へ開く。	外面-坏部下位~脚部ナデ。内面-坏底部ヘラナデ、脚部絞り目。	雲母・チャート 内-褐灰色・にぶい赤褐色 外-にぶい黄褐色・灰黄褐色	坏部下位~脚部中位残存。 坏底部および脚部外面に黒斑あり。
22	土師器 高坏	口径 - 底径 - 器高 -	直線的な脚部。	外面-脚部指ナデ。内面-摩滅。	黒色粒・白色粒 内-褐色 外-にぶい黄褐色	脚部1/2残存。 外面上位被熱、下位粘土付着。
23	土師器 埴	口径 10.1 底径 - 器高 13.2	体部は中位に膨らみを持つ。口縁部は端部でわずかに内湾する。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、体部下位ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	金雲母・チャート・黒色粒 内-橙色 外-橙色・灰黄褐色	完形。
24	土師器 小型甕	口径 15.4 底径 4.9 器高 12.0	胴部は下位に膨らみを持ち、口縁部は短く外傾する。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ナデ。器面は摩滅が著しい。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内-にぶい黄褐色・黒色 外-にぶい橙色・にぶい赤褐色	胴部1/3欠損。
25	土師器 甕	口径(17.2) 底径(8.0) 器高 25.2	胴部は中~下位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に開く。底部は台状。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ、中位~底部摩滅。	片岩・チャート 内-にぶい褐色 外-にぶい褐色・黒褐色	口縁部~胴部1/2欠損。
26	土師器 甕	口径(17.1) 底径 - 器高 -	胴部は膨らみを持たない直胴状で、口縁部は強く外傾して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後、上位ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴下端部ヘラケズリ。	片岩・チャート 内-にぶい黄褐色・明赤褐色 外-橙色・黒色	1/3残存。
27	土師器 甕	口径(22.1) 底径 - 器高 -	胴部は上位にわずかな膨らみを持つ。口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上~中位ナデ、胴部下位ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ、胴部中~下位ナデ後ヘラケンマ。	雲母・チャート・黒色粒 内外-にぶい褐色	口縁部~胴部1/2残存。 内面煤付着。
28	土師器 甕	口径(19.4) 底径 - 器高 -	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は外反気味に開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	雲母・チャート・黒色粒 内外-にぶい褐色	口縁部~胴部1/5残存。
29	土師器 甕	口径(17.0) 底径 - 器高 -	胴部は上~中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	チャート・褐色粒 内外-にぶい赤褐色	口縁部~胴部上半1/4残存。
30	土師器 甕	口径(16.4) 底径 - 器高 -	口縁部は強く外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ。	黒色粒・白色粒・褐色粒 内外-にぶい褐色	口縁部~胴部上位1/5残存。
31	土師器 甕	口径(16.3) 底径 - 器高 -	口縁部は外反して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面-口縁部~胴部上位ヘラナデ。	片岩・チャート 内-にぶい黄褐色 外-にぶい黄褐色	口縁部~胴部上位1/5残存。
32	土師器 甕	口径(19.3) 底径 - 器高 -	胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	片岩・チャート 内外-にぶい褐色	口縁部~胴部上位1/6残存。
33	土師器 甕	口径 - 底径(7.9) 器高 -	胴部中位に膨らみを持つ。底部は平底。	外面-胴部中~下位ヘラケズリ後一部ナデ、底部ナデ。内面-摩滅。	チャート・黒色粒 内外-にぶい黄褐色	胴部中位~底部1/2残存。

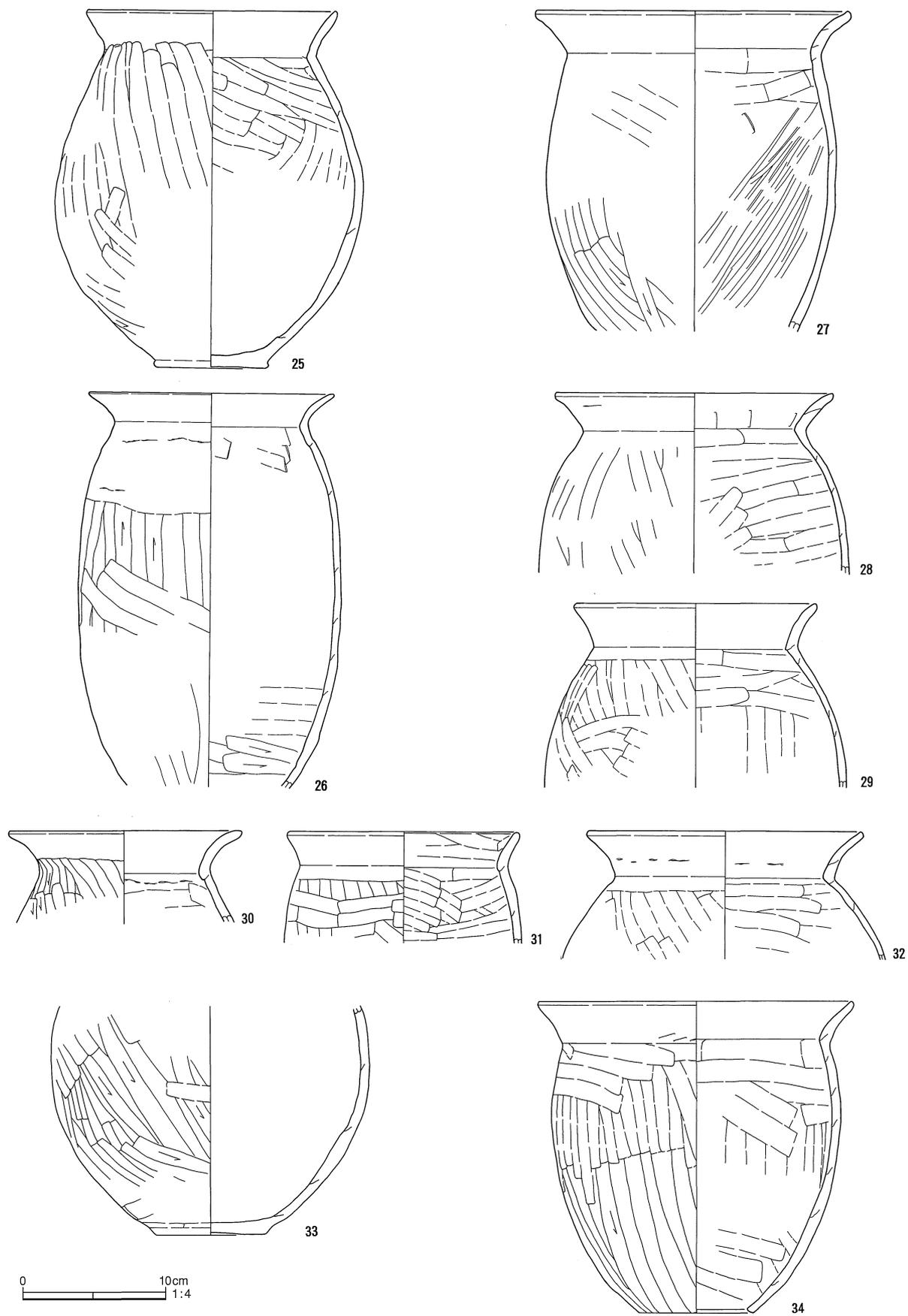


图 113 ST-44 出土土器 (2)

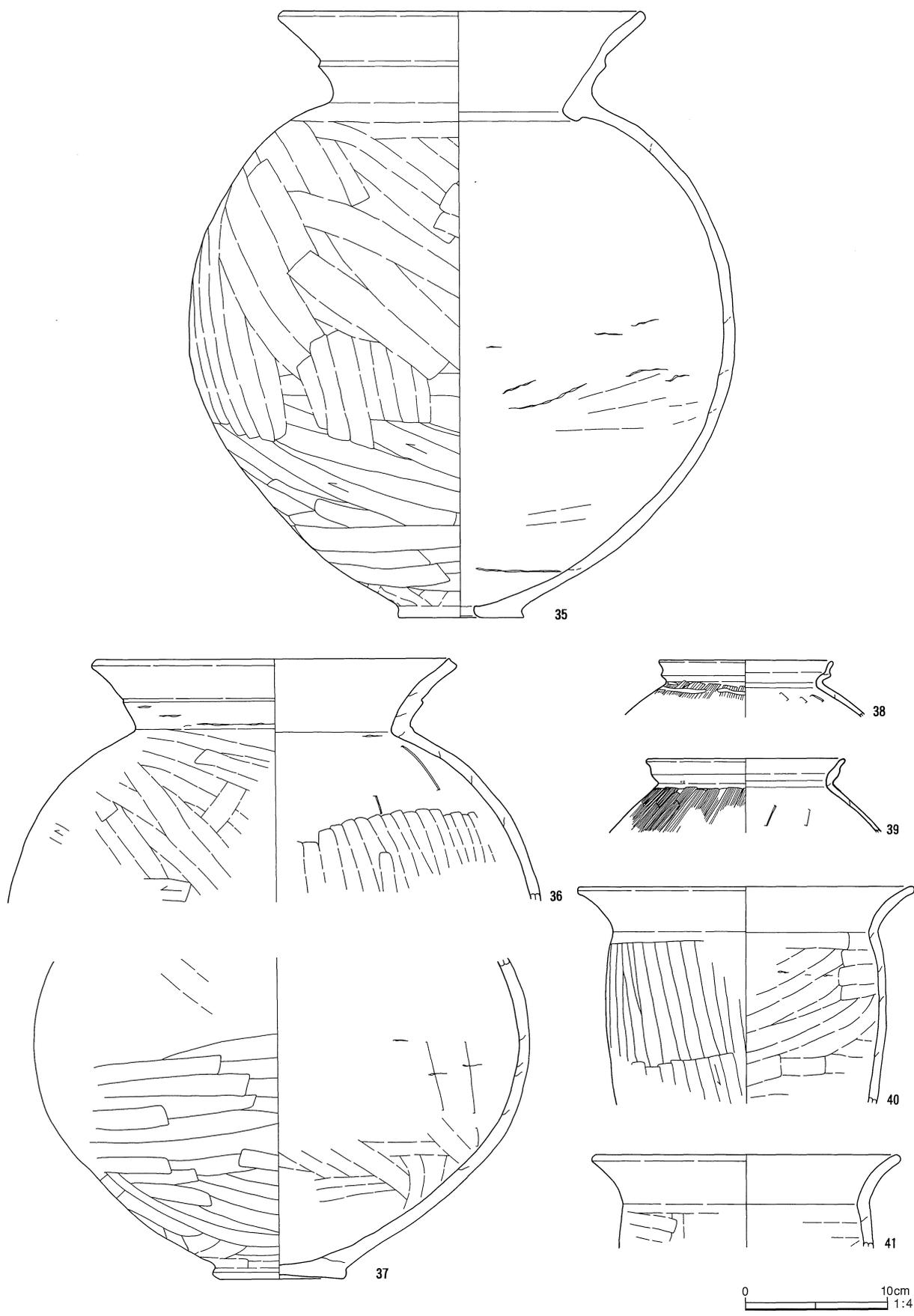


图 114 ST-44 出土土器 (3)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
34	土師器 甌	口径 (21.9) 底径 (7.9) 器高 21.9	胴部は上～中位に膨らみを持ち、口縁部は外反する。底部に径7.1cmの孔。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後、中～上部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・黒色粒 内－ぶい黄橙色 外－明赤褐色	1/2残存。
35	土師器 壺	口径 (25.0) 底径 (8.7) 器高 42.8	胴部は中位に大きな膨らみを持つ。口縁部は中位に段を有し、外反して開く。底部は台状で、中央に径1.9cmの孔。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上～中位ヘラナデ、下位ヘラケズリ、下端～底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	雲母・片岩・白色粒 内－明赤褐色 外－ぶい褐色	5/6残存。
36	土師器 壺	口径 25.5 底径 － 器高 －	胴部は上～中位に大きな膨らみを持つ。口縁部は外反して開き、中位に段を有する。口唇部はわずかに凹む。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内－明赤褐色 外－明赤褐色	口縁部～胴部上位2/3残存。
37	土師器 壺	口径 － 底径 － 器高 9.5	胴部は中位に大きな膨らみを持つ。底部は台状で、上げ底気味。	外面－胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面－胴部～底部ヘラナデ。	雲母・黒色粒 内－橙色 外－ぶい黄橙色	底部～胴部1/2残存。
38	土師器 S字甕	口径 (12.2) 底径 － 器高 －	S字状口縁。胴部は上位から大きく膨らみ始める。	外面－口縁部ヨコナデ、肩部ハケ目後、一部ミガキ。内面－口縁部ヨコナデ、肩部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外－ぶい黄褐色	口縁部～肩部2/3残存。
39	土師器 S字甕	口径 (13.9) 底径 － 器高 －	S字状口縁。胴部は上位から大きく膨らみ始める。	外面－口縁部ヨコナデ、肩部ハケ目。内面－口縁部ヨコナデ、肩部ヘラナデ。	片岩・チャート 内－明褐色 外－明赤褐色	口縁部～肩部1/5残存。
40	土師器 甕	口径 (23.6) 底径 － 器高 －	胴部は膨らみを持たない直胴状で、口縁部は強く外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	雲母・チャート 内－ぶい赤褐色 外－ぶい褐色	口縁部～胴部上位片。
41	土師器 甕	口径 (21.7) 底径 － 器高 －	口縁部は強く外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ。	雲母・チャート 内外－ぶい赤褐色	口縁部～胴部上位片。

ST-45

(1) 遺構 (図115・116、写真6)

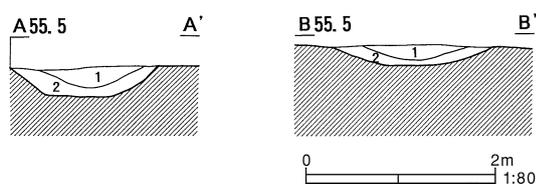
位置：調査区の西端にあって、1Y-15・16、1Z-15・16グリッドに位置する。

形状：北西側2/3程が調査区外にあり、全形を確認できない。墳丘立ち上がりの線は各所で緩やかに湾曲している。南東側では内外ともに立ち上がりの傾斜が急になっている。周堀覆土は2層に区分される。全体にロームブロックを含み、下層に黒褐色土、上層には黒色土が堆積する。全体に火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、東－西方向で推定径13.5m、周堀は幅1.5～2.9m、深さ20～50cmを測る。

(2) 遺物

確認面上層で土師器片を検出しているが、いずれも周辺の住居などからの流れ込みと判断される。周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。



ST-45 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。

図115 ST-45周堀土層断面

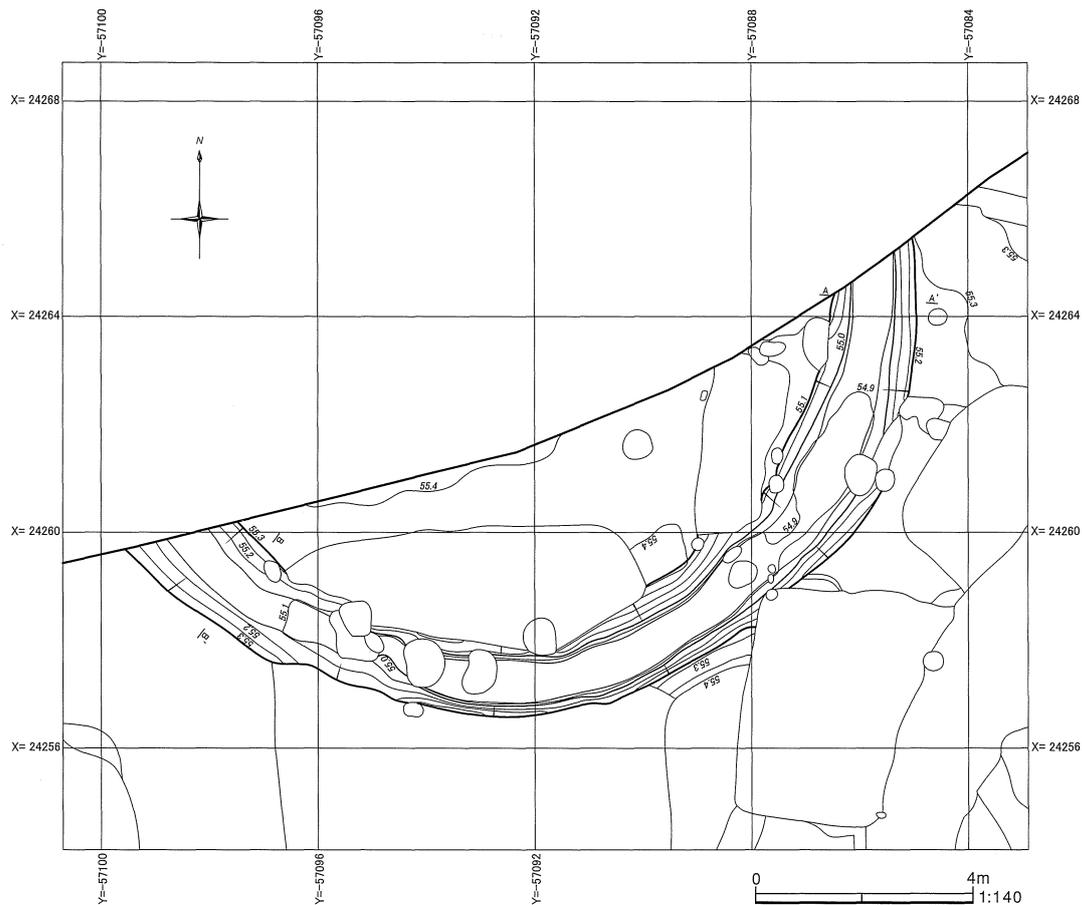


図 116 ST-45 平面

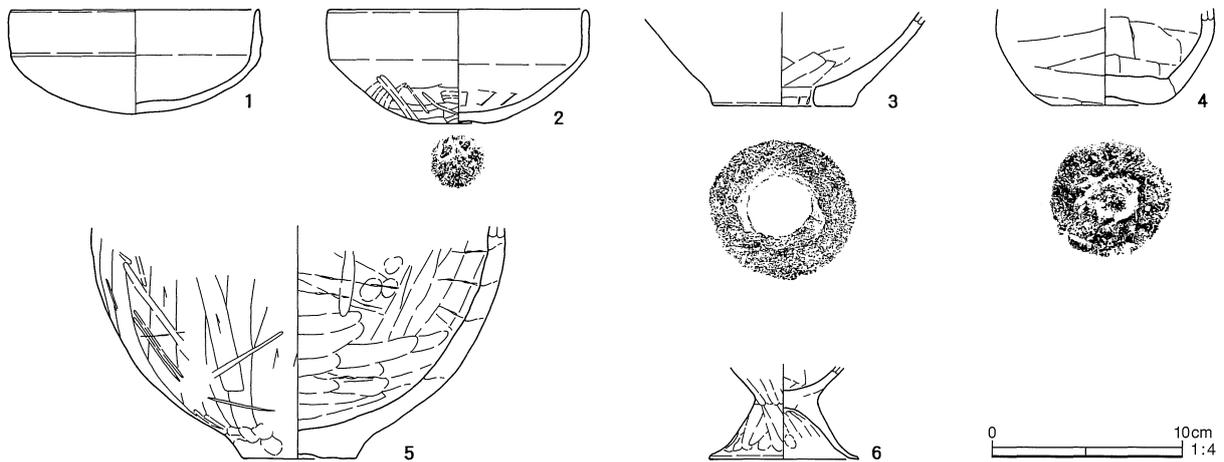


図 117 ST-45 出土土器

ST-45 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径(13.1) 底径 — 器高 5.5	口縁部は体部との境に稜を持ち、わずかに湾曲して立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・チャート 内外-橙色	1/4。
2	土師器 坏	口径(13.8) 底径 2.9 器高 6.0	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、直立気味に立ち上がる。底部は小さな平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内-橙色 外-にぶい黄橙色	1/3。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土師器 甌	口径 — 底径 7.6 器高 —	わずかに湾曲して立ち上がる胴部。 底部に径3.3cmの孔。	外面－胴部・底部ナデ。内面－胴 ～底部ヘラナデ。穿孔部－ヘラケ ズリ。	片岩・チャート 内－にぶい橙色 外－にぶい褐色	胴部下位～底 部残存。
4	土師器 壺	口径 — 底径 (5.0) 器高 —	上位が内湾する体部。体部は平底で 中央部が窪む。	外面－体部・底部ヘラケズリ後ナ デ。内面－体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外－にぶい黄橙 色	体部中位～底 部1/2残存。
5	土師器 甕	口径 — 底径 (6.0) 器高 —	膨らみを持つ胴部。底部は中央部が 窪む。	外面－胴部ヘラケズリ後に一部ナ デ、下端に指頭圧痕。内面－胴部 ～底部指ナデ・指頭圧痕。	黒色粒・チャート 内－にぶい橙色 外－にぶい黄褐色	胴部中位～底 部1/3残存。
6	土師器 (台付甕)	口径 — 底径 (7.8) 器高 —	台部はハの字状に開き、裾部は外反 する。	外面－胴部～台部ヘラケズリ後ナ デ、台裾部ヨコナデ。内面－胴底部ヘ ラナデ、台部指ナデ・指頭圧痕。	黒色粒・白色粒 内外－にぶい黄褐 色	台部3/4残存。

ST-46

(1) 遺構 (図118・119、写真6)

位置：1Q-17・18， 1R-17・18グリッドに位置する。南西側でST-47と近接している。

形状：台地の東端部にあるため、確認面は西から東へ緩やかに傾斜している。墳丘東側1/2ほどを

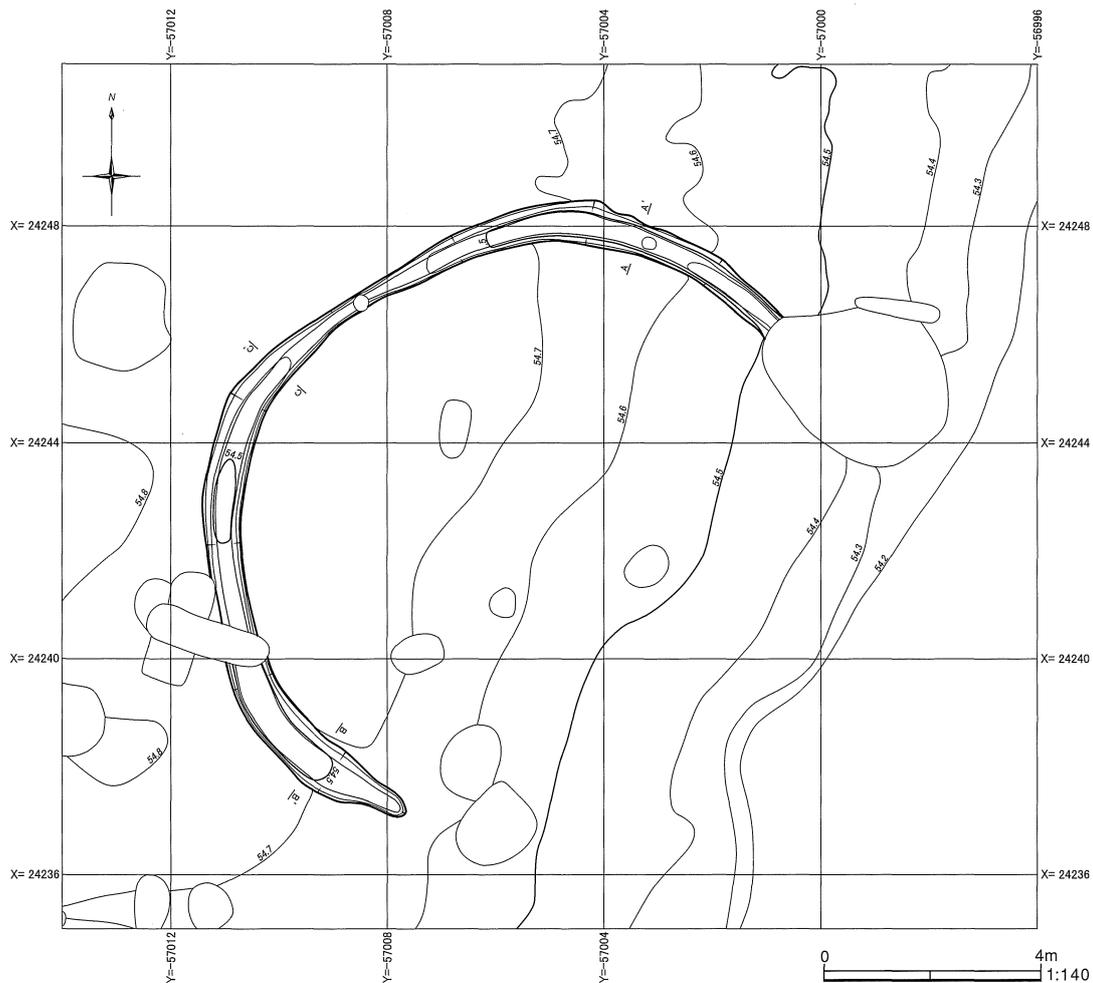
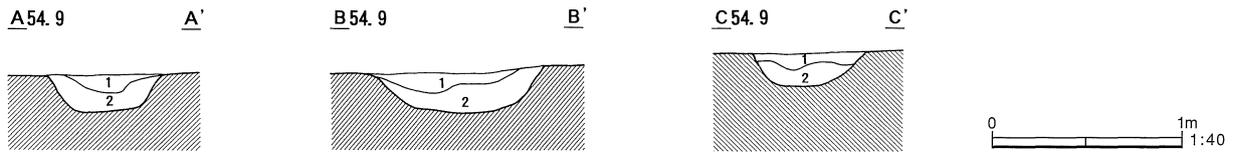


図118 ST-46平面



ST-46 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径 1～5 mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 鈍黄褐色土 黒色土ブロック（径 1～5 mm）を少量含む。しまり欠。

図 119 ST-46 周堀土層断面

台地端部の浸食により失っている。全形を確認できないが、円墳と推測される。周堀は全体に幅が狭く、北西側ではさらに大きく幅を減じている。堀底には緩やかな起伏がみられる。周堀覆土は 2 層に区分される。下層に黒色土を含む鈍黄褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、径 11.2 m、周堀は幅 0.2～2.0 m、深さ 10～30 cm を測る。

(2) 遺物

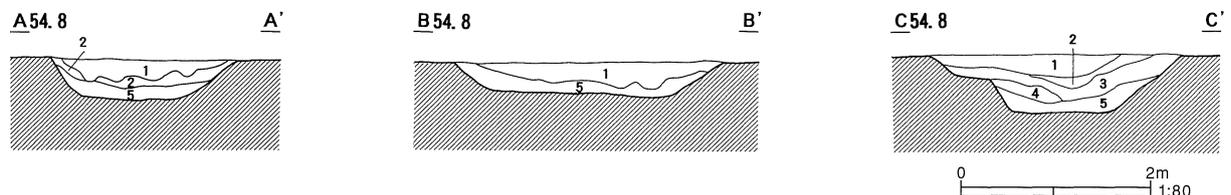
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-47

(1) 遺構（図 120・121、写真 6）

位置：1Q-18・19、1R-18・19・20、1S-18・19・20 グリッドに位置する。北東側で ST-46、北西側で ST-48、西側で ST-49 と近接している。

形状：円墳である。台地の南東端部にあるため、確認面は北西から南東へ緩やかに傾斜している。南東側の端を台地端部の浸食により失っている。墳丘平面形は各所に歪みがあり、整円を描かない。北西側に存在する ST-48 を意識したためか、北東-南西方向に長く、とくに、北西側では ST-48 を避けるように内側へ歪んでいる。周堀の幅は各所で異なり、南側では周堀が極度に狭くなる箇所がある。周堀底面には各所に段差や不整形の落ち込みが見られる。周堀覆土は 5 層に区分されるが堆積状態は地点により異なる。最下層にロームブロックと灰黄褐色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色土、最上層に白色パミスを含む黒色土の堆積が共通して見られ、中間に白色パミスとロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。



ST-47 土層説明

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 黒色土 白色パミス（径 1 mm±）を少量含み第 2 層との境界付近に暗灰黄色土ブロック（径 15 mm±）を含む。しまり・粘性とも欠。 2 黒色土 白色パミス（径 1 mm±）を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | <ol style="list-style-type: none"> 3 黒色土 白色パミス（径 1 mm±）ロームブロック（径 1～2 mm）を少量含む。しまり弱。粘性欠。 4 黒色土 白色パミス（径 1 mm±）ロームブロック（径 1～10 mm）を多量に含む。しまり弱。粘性欠。 5 黒褐色土 ロームブロック（径 1～15 mm）灰黄褐色粘質土ブロック（径 1～10 mm）を多量に含み、斑状に堆積する。しまり・粘性とも強。 |
|--|--|

図 120 ST-47 周堀土層断面

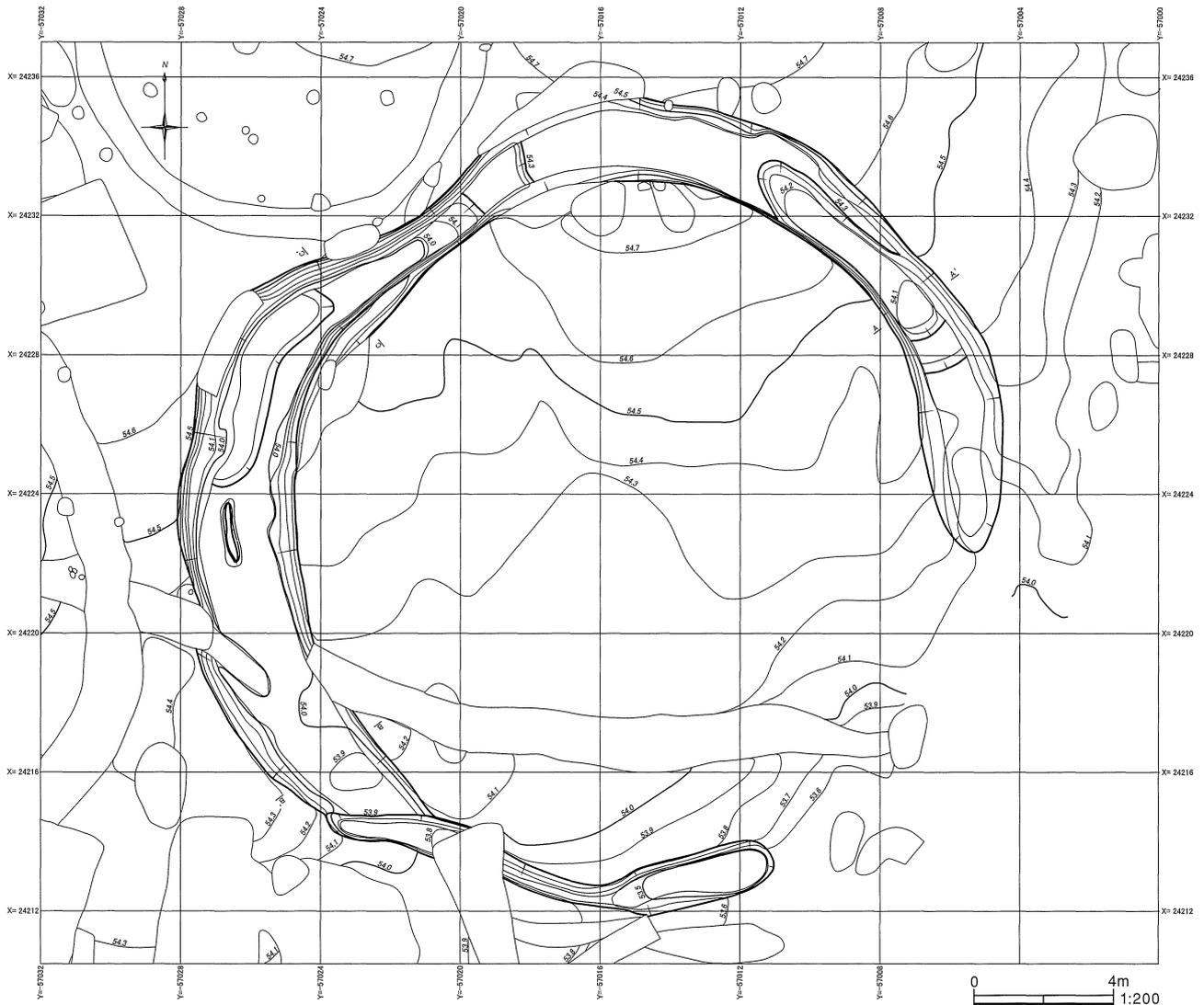


図 121 ST-47 平面

規模：墳丘規模は、南－北方向で径 21.0 m、東－西方向で 19.4 m、周堀は幅 0.6 ～ 3.2 m、深さ 10 ～ 60 cm を測る。

(2) 遺物

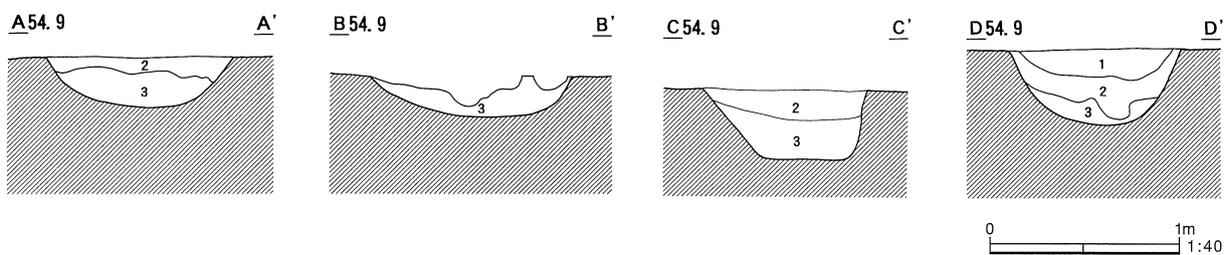
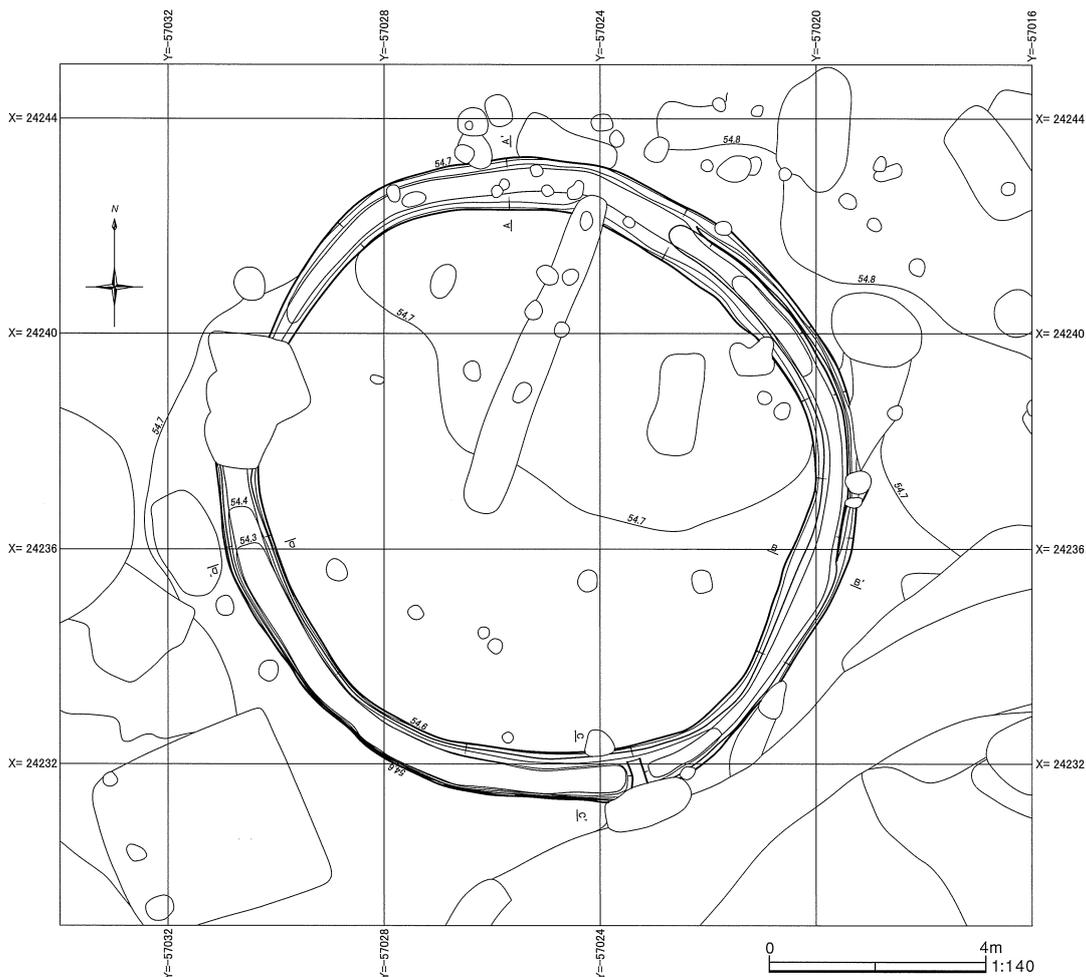
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-48

(1) 遺構 (図 122、写真 6)

位置：1R-18、1S-17・18、1T-18 グリッドに位置する。

形状：円墳である。墳丘平面形はほぼ整円形を呈するが、東側には墳丘立ち上がり内側へ屈曲する箇所がある。周堀の幅は北東側が広く、南西側が狭い。北西側と南東側では幅の狭くなる箇所がある。周堀底面は、南東側で陸橋状の段差が見られ、それ以外は緩やかに起伏している。周堀覆土は 3 層に区分される。下層にロームブロックを多量に含む黒褐色土、中層に同じくロームブロックを少量含む黒褐色土、上層には白色パミス・ロームブロックを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は



ST-48 土層説明

- 1 黒色土 白色バミス（径 1mm±）ロームブロック（径 1mm±）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径 1～15mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径 1～20mm）を多量に含み斑状に堆積する。しまり欠。

図 122 ST-48 平面および周堀土層断面

観察されない。

規模：墳丘規模は、北西—南東方向で径 11.2 m、北東—南西方向で径 10.2 m、周堀は幅 0.4～1.1 m、深さ 10～30 cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-49

(1) 遺 構 (図 123・124、写真7)

位置：1S-20、1T-18・19・20、1U-18・19・20、1V-19グリッドに位置する。

形状：円墳である。台地の南縁近くにあつて、確認面は北から南へ緩やかに傾斜している。墳丘平面形はほぼ整円形を呈するが、南西側で周堀が途切れる箇所があり、この部分に陸橋をもつ。また、この部分の周堀端部は、両側とも墳丘方向へ屈曲して立ち上がっている。周堀の幅は各所で異なり、東半の周堀底面には段差や不整形の落ち込みが見られる。周堀覆土は2層に大別され、下層にロームブロックを多量に含む黒色土、上層に白色パミスを含む黒色土が堆積する。土坑状の落ち込みにかかる箇所ではやや複雑な堆積をみせている。いずれの箇所でも火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、東-西方向で径18.5m、南-北方向で径18.0m、周堀は幅1.2~2.6m、深さ10~30cmを測る。

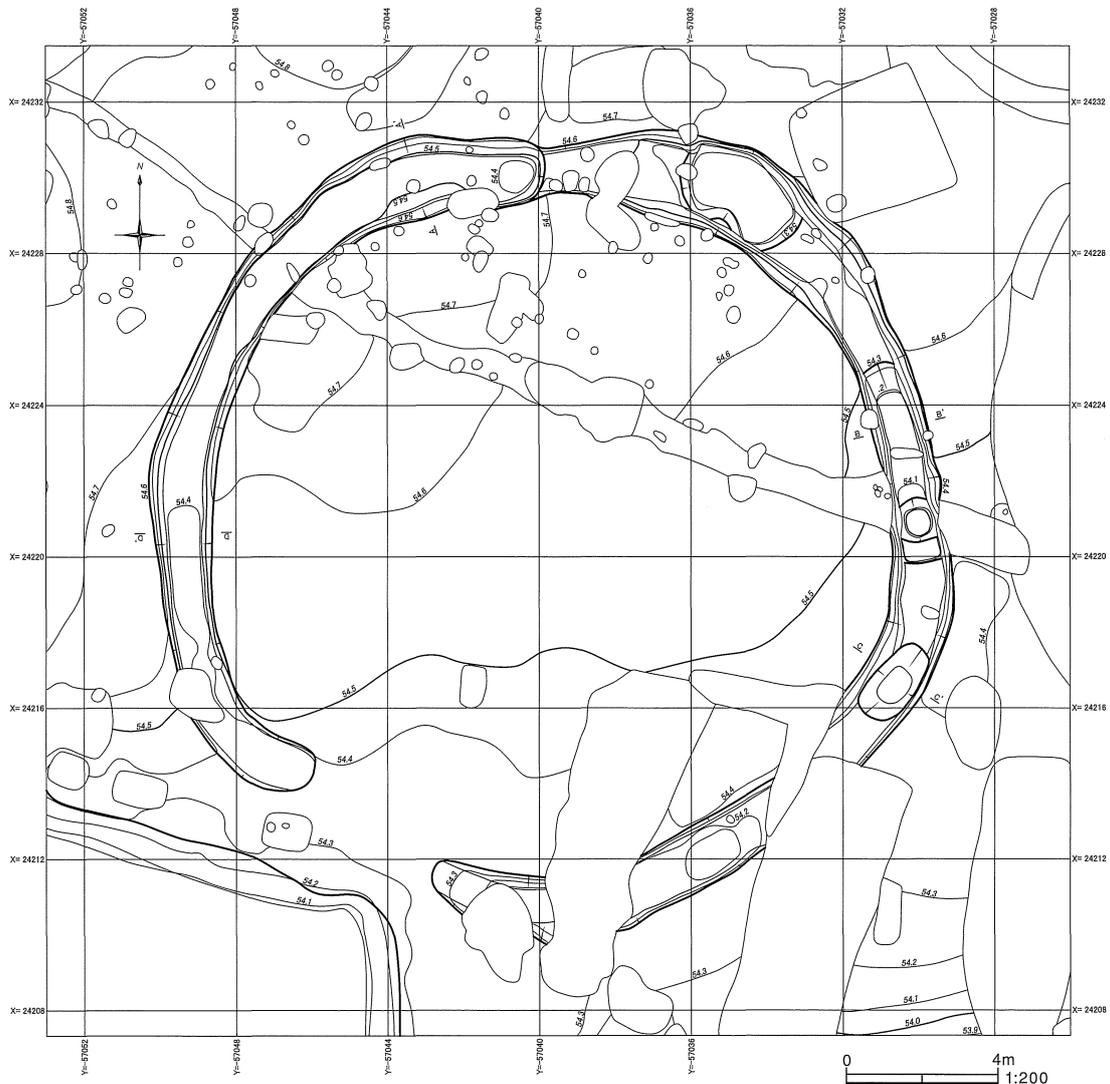
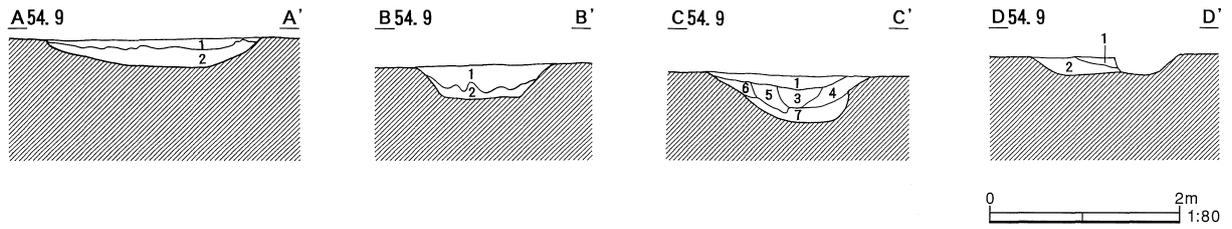


図 123 ST-49 平面



ST-49 土層説明

- | | |
|--|--|
| <p>1 黒色土 白色パミス (径 1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。</p> <p>2 黒色土 ロームブロック (径 1~50mm) を多量に含み斑状に堆積する。しまり・粘性とも欠。</p> <p>3 暗褐色土 しまり・粘性とも欠。</p> <p>4 黒色土 しまり・粘性とも欠。</p> | <p>5 暗褐色土 ロームブロック (径 1~2mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。</p> <p>6 暗褐色土 ロームブロック (径 1~5mm) 白色粘質土ブロック (径 1~5mm) を多量に含む。</p> <p>7 暗褐色土 ロームブロック (径 1~2mm) 白色粘質土ブロック (径 1~5mm) を多量に含む。</p> |
|--|--|

図 124 ST-49 周堀土層断面

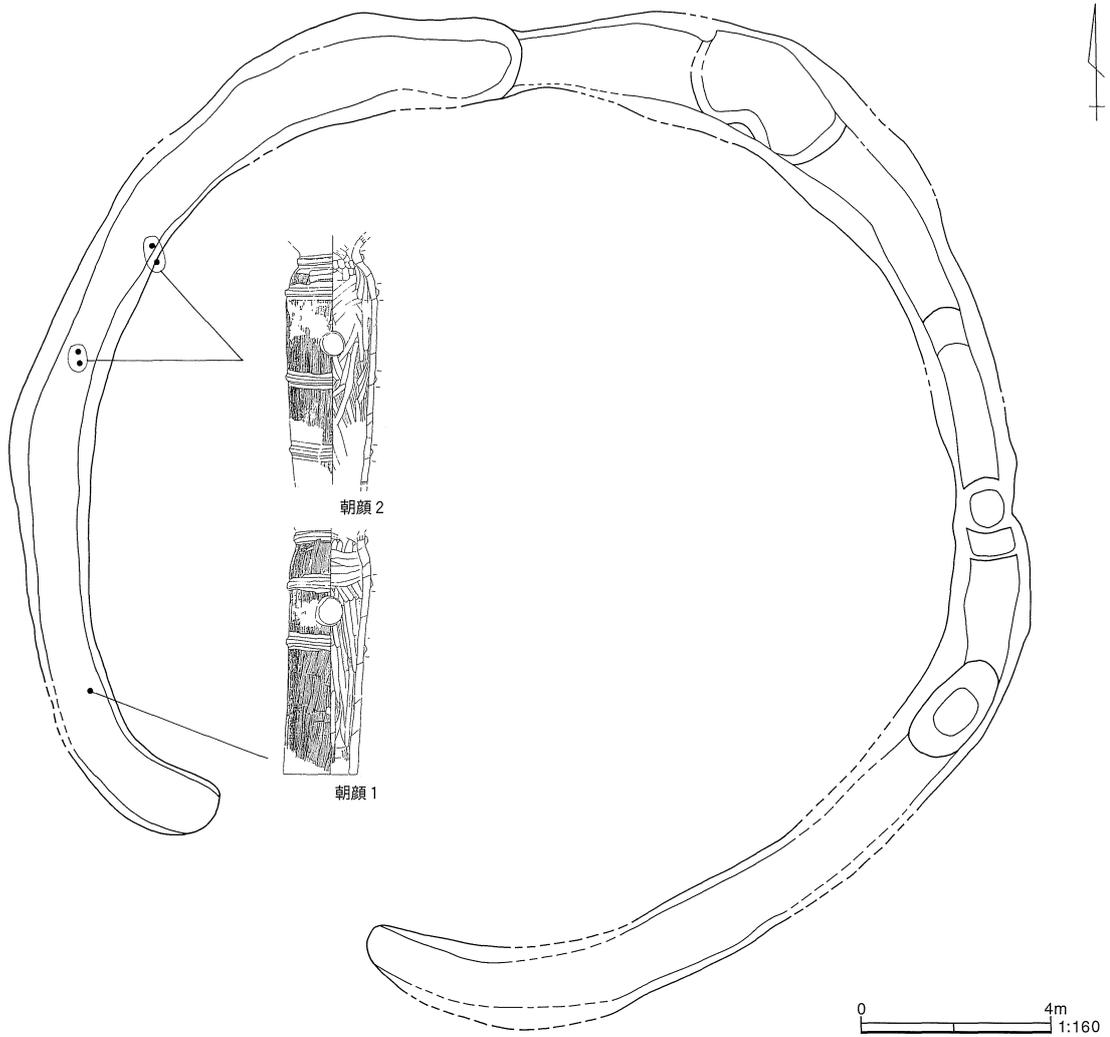


図 125 ST-49 埴輪分布

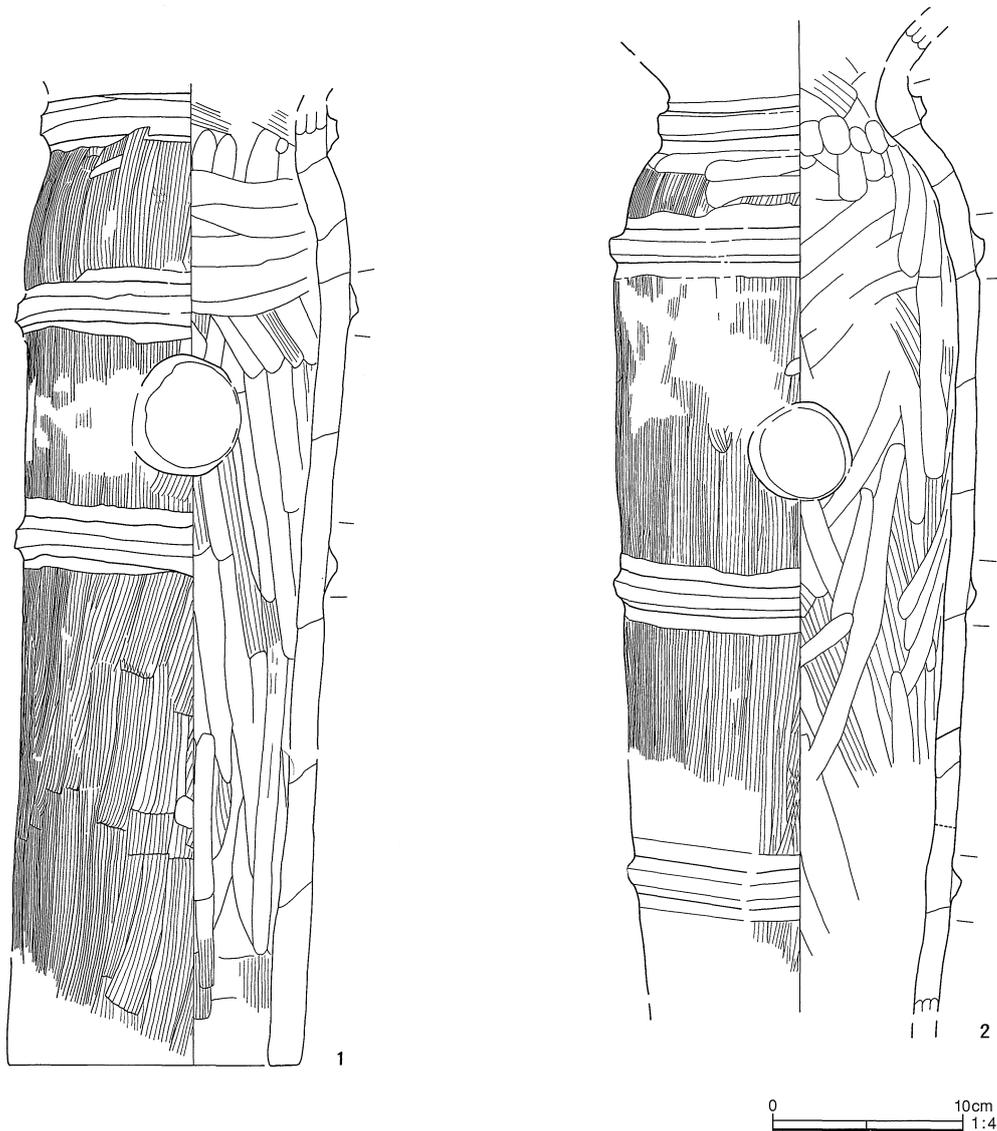


図 126 ST-49 出土朝顔形埴輪

(2) 遺物

周堀覆土から埴輪・鉄鏃・土師器を検出している。埴輪は西側周堀から朝顔形埴輪 2 点が出土したほか、各所で円筒埴輪の小片が認められた。鉄鏃も西側周堀から朝顔形埴輪の破片とともにやや分散した状態で出土している。土師器はいずれも破片資料で、ST-49 に伴うものではなく、他所からの流れ込みと判断される。

a. 埴輪

朝顔形埴輪 [1・2] (図 126、写真 36)

ともに口縁部を欠失している。段構成・格段の幅、透孔の大きさなどは大きく異なる。1 は胴部 1 条 2 段構成で、第 1 段幅が極度に広い。2 は基部を失っているものの、胴部 2 条 3 段構成と推測される。外面調整は、2 点とも肩部まで 1 次タテハケのみで、2 次調整は認められない。内面調整にはハケとナデが併用されている。胴部最上段に 1 対の円形透孔をもつ。

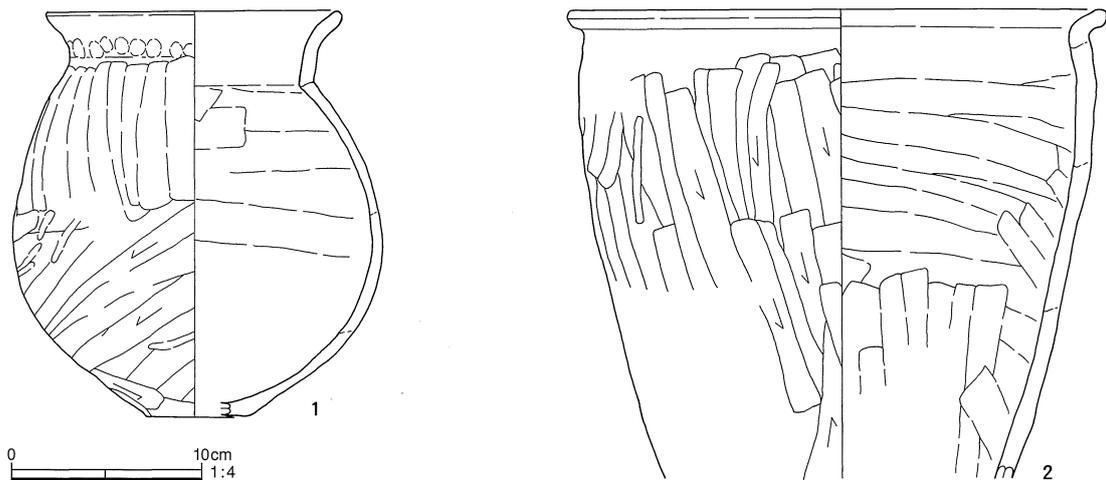


図 127 ST-49 出土土器

ST-49 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 小型甕	口径(15.4) 底径 — 器高 —	膨らみを持つ胴部。口縁部は外反して開き、端部やや内湾する。	外面－口縁部ヨコナデ・指頭圧痕、胴部ヘラケズリ後に上位をナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内－にぶい褐色 外－にぶい黄橙色	2/3。
2	土師器 (甕)	口径(28.3) 底径 — 器高 —	胴部は上位に膨らみを持ち、下方に向かってやや窄まる。口縁部は短く外方に折れる。	外面－口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ。外面－口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内－灰黄褐色 外－にぶい橙色	1/3。

b. 鉄鏃

無頸鏃 [1] (図 128、写真 69)

無頸腸挟平造長三角形式である。中期中葉以前の無頸・短頸鏃群に比べ、腸挟が浅い。中央に小円孔があり、根挟の痕跡が明瞭に残る。

長頸鏃 [2～13] (図 128、写真 69)

鏃被部で断裂している 4～10 のうちのいくつかは同一個体となる可能性があり、正確な点数を確認できないが、鏃被部の残存する個体を算すると 6 個体以上となる。

2・3 は鏃身部から茎部までが残り、いずれも長頸鏃被両丸造柳葉式である。4～6 も同型式と思われる。鏃身部はいずれも両丸造である。鏃身部長は 2・5 の順に長く、3・4・6 はほぼ同大である。鏃身部の関は 3・4・6 が角関であるのに対し、2・5 は撫関気味となっている。鏃被部の関は 6 個体で確認できるが、すべて台形である。7・8 には矢柄の一部が残存している。

ST-49 出土鉄器観察表

No.	種類	法量(cm)	備考
1	鉄製鏃	短茎腸挟三角形鏃。残長5.2 鏃身[長5.2 幅(4.0) 厚0.2] 孔径0.4 重さ6.73g。	茎部欠損。
2	鉄製鏃	長頸長三角形鏃。残長12.6 鏃身[長3.4 幅(1.3) 厚0.2] 頸[長7.3 幅0.6 厚0.3] 茎[残長1.9 幅1.0] 重さ9.96g。	鏃身一部と茎部下位欠損。
3	鉄製鏃	長頸長三角形鏃。残長11.7 鏃身[長2.5 幅0.9 厚0.2] 頸[長8.0 幅0.6 厚0.2] 茎[残長1.2 幅0.8] 重さ11.02g。	茎部下位欠損。
4	鉄製鏃	長頸長三角形鏃。残長6.8 鏃身[長2.4 幅1.0 厚0.1] 頸[残長4.4 幅0.6 厚0.2] 重さ5.65g。	頸部下位欠損。
5	鉄製鏃	長頸長三角形鏃。残長5.3 鏃身[長(2.6) 幅1.1 厚0.2] 頸[残長2.7 幅0.6 厚0.2] 重さ4.34g。	頸部下位欠損。
6	鉄製鏃	長頸長三角形鏃。残長3.1 鏃身[長2.6 幅1.1 厚0.2] 頸[残長0.5 幅0.6 厚0.3] 重さ2.83g。	鏃身部。
7	鉄製鏃	長頸鏃。残長12.8 頸[残長7.2 幅0.5 厚0.4] 茎[残長5.6 幅1.0] 重さ13.85g。	鏃身部と茎部下位欠損。

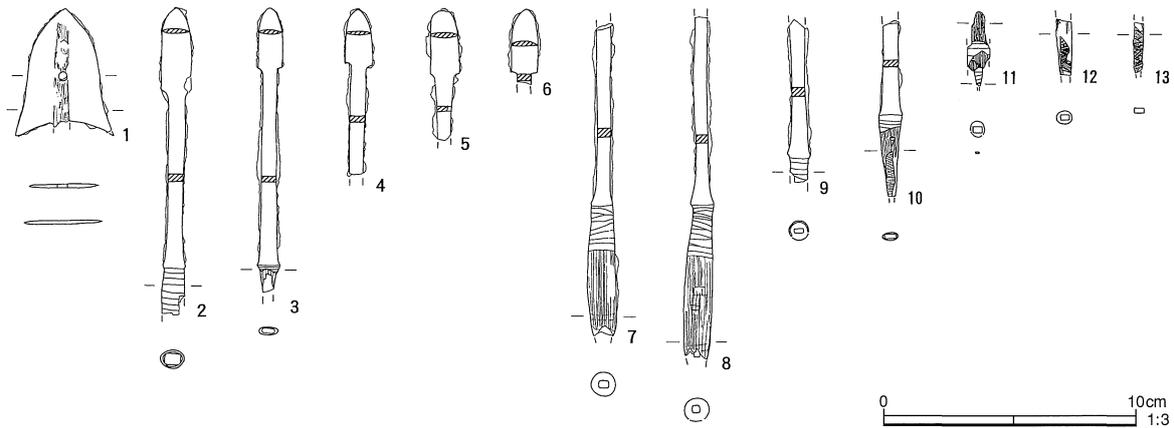


図 128 ST-49 出土鉄鎌

No.	種類	法 量(cm)	備 考
8	鉄製鎌	長頭鎌。残長14.0 頸[残長7.1 幅0.5 厚0.4] 茎[残長6.9 幅1.0] 重さ14.38g。	鎌身部と茎部下位欠損。
9	鉄製鎌	長頭鎌。残長6.6 頸[残長5.4 幅0.6 厚0.4] 茎[残長1.2 幅0.8] 重さ5.16g。	頸部下位。
10	鉄製鎌	長頭鎌。残長7.2 頸[残長3.7 幅0.6 厚0.3] 茎[残長3.5 幅0.7] 重さ5.13g。	頸部下位～茎部上位。
11	鉄製鎌	長頭鎌。茎[残長3.1 幅0.9] 重さ1.98g。	茎部。
12	鉄製鎌	長頭鎌。茎[残長2.3 幅0.6] 重さ1.03g。	茎部
13	鉄製鎌	長頭鎌。茎[残長2.1 幅0.5] 重さ0.42g。	茎部

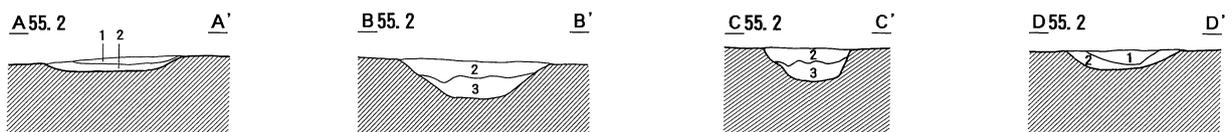
ST-50

(1) 遺 構 (図 129・130、写真7)

位置：1U-17・18、1V-17・18、1W-17・18グリッドに位置する。東側でST-47と近接している。

形状：円墳である。墳丘平面形は不整な整円形を呈し、西側から北側にかけては円弧を描かず直線的になっている。北東側で周堀が途切れる箇所があり、この部分に陸橋をもつ。周堀の幅は各所で異なるが、南半の周堀はとくに幅が狭い。南東側に周堀幅の大きく変化する箇所があり、周堀底にも段差を生じている。周堀覆土は3層に区分される。下層に黒色土ブロックと白色粘質土ブロックを含む褐色土、中層に同じく黒色土ブロックのみを含む褐色土、上層にロームブロックを多量に含む黒色土が堆積する。火山噴出物の堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、北西-南東方向で径 15.6 m、南-北方向で径 14.8 m、周堀は幅 0.6～1.7 m、深さ 10～30 cmを測る。



ST-50 土層説明

- 1 黒 色 土 ロームブロック (径 1～15 mm) を多量に含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 褐 色 土 黒色土ブロック (径 1～5 mm) を少量含む。しまり欠。
- 3 褐 色 土 黒色土ブロック (径 1～5 mm) 白色粘質土ブロック (径 1～5 mm) 少量含む。しまり欠。

図 129 ST-50周堀土層断面

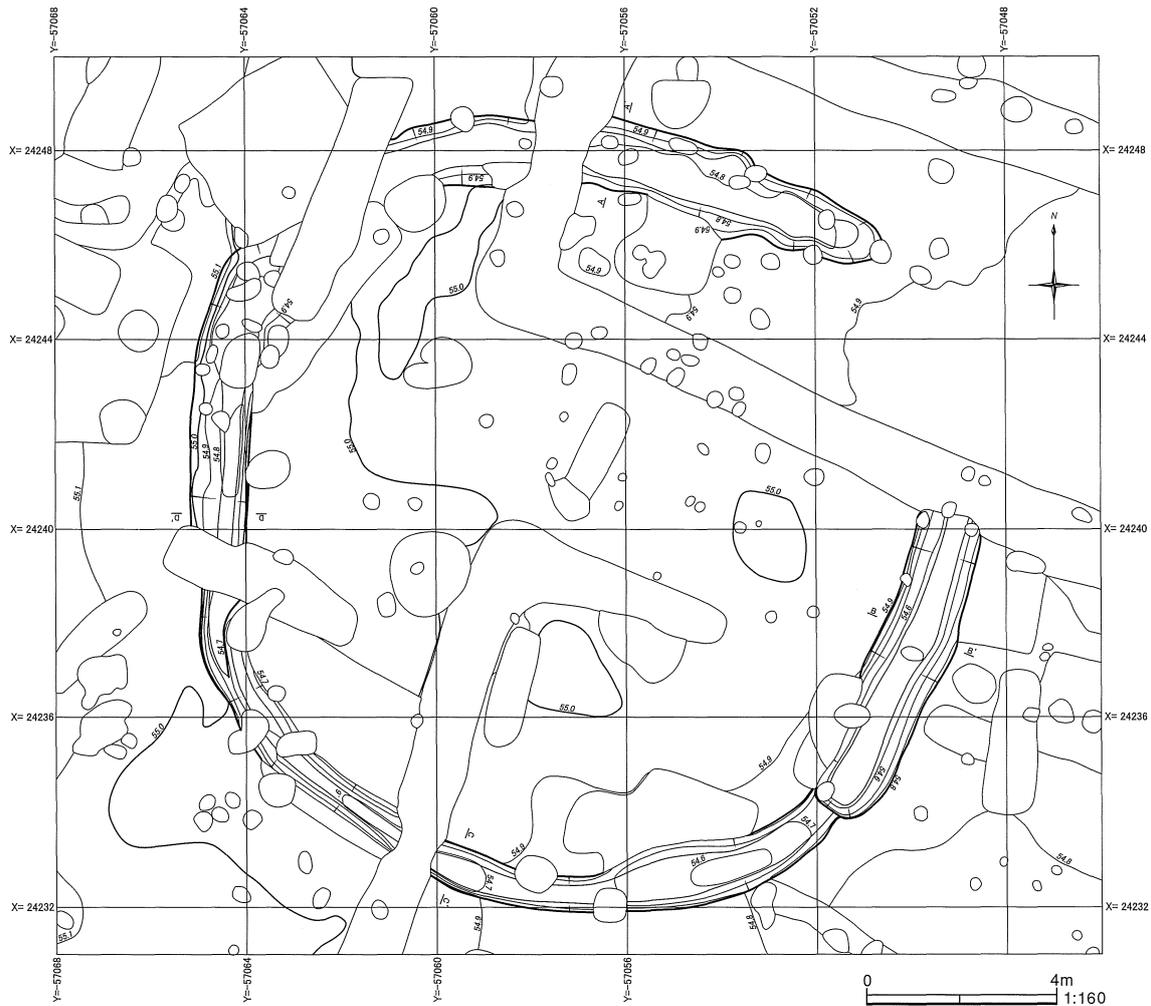


図 130 ST-50 平面

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

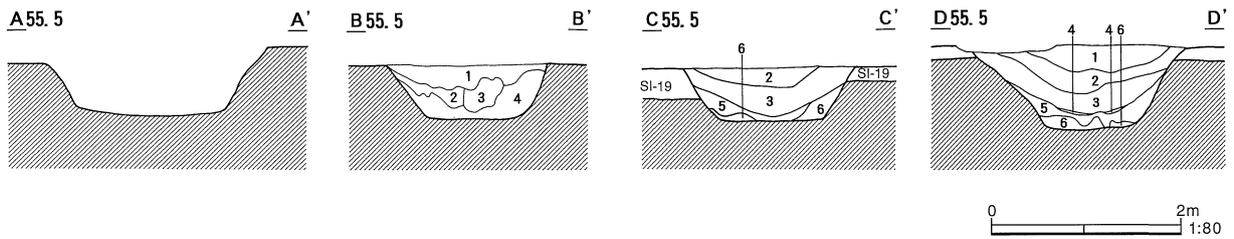
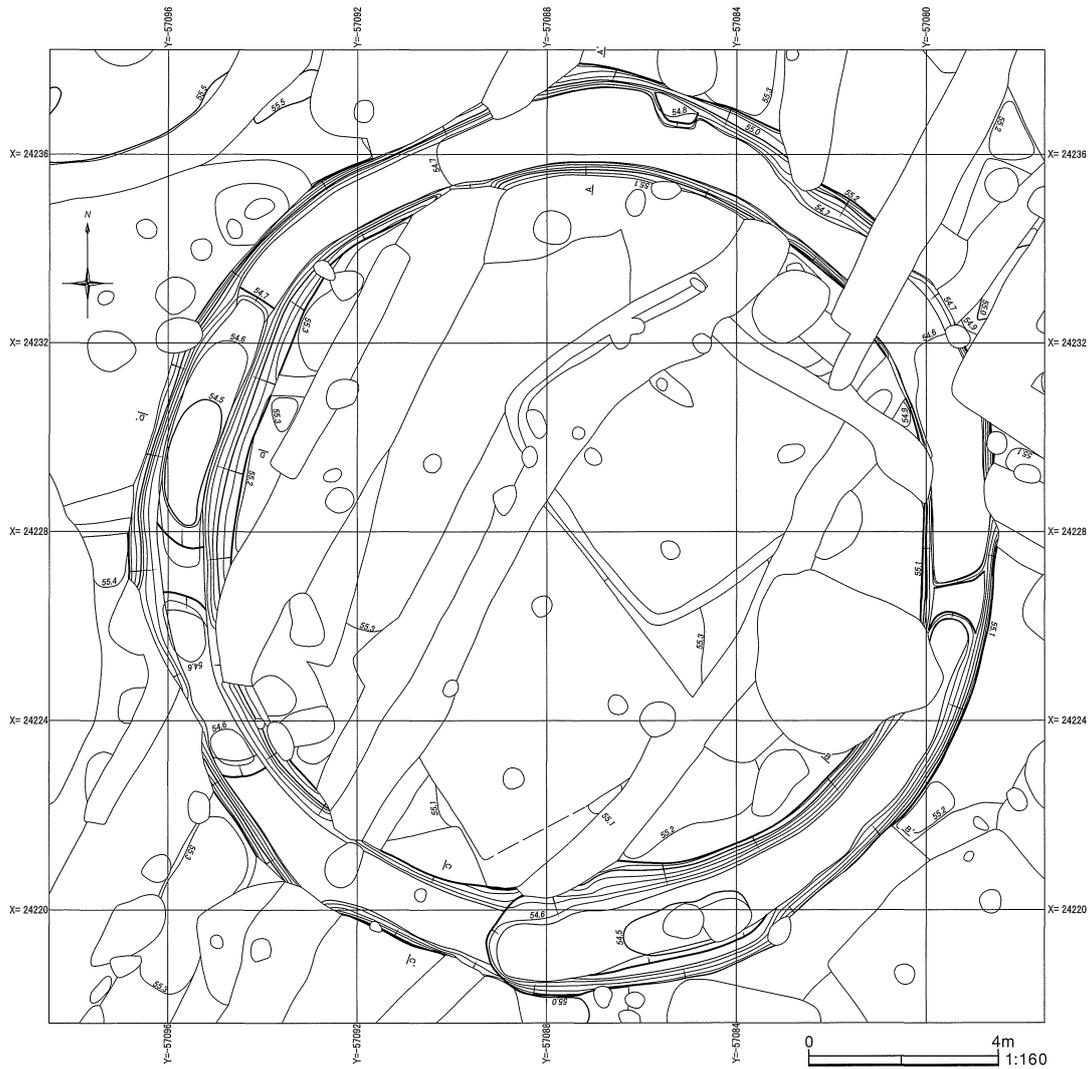
ST-51

(1) 遺構 (図 131, 写真 7)

位置：1X-18・19、1Y-18・19・20、1Z-18・19・20 グリッドに位置する。南東側でST-57 と、西側でST-53 と近接している。

形状：円墳である。各所に攪乱が入り滅失している部分も多いが、墳丘平面形はほぼ整円形を呈し、周堀の幅は、北側と南側でやや広い。周堀底面には西側 2 箇所土坑状の落ち込みが見られ、東側・南側では段差が形成されている。また、北側の外方立ち上がりには、ローム層をケズリ出して成形したステップが存在する。先行する遺構との切り合いが激しいためか、堆積状態は地点により堆積状態は大きく異なる。下層に褐色または暗褐色の覆土が見られ、上層には黒褐色または黒色系の覆土が堆積している。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、南-北方向で径 16.0 m、東-西方向で径 15.3 m、周堀は幅 1.5 ~ 2.7 m、深さ 20 ~ 70 cm を測る。



ST-51 土層説明 [B-B']

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm以下)、ロームブロック (径 1mm±)、にぶい黄褐色粘質土ブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5mm) を多量に含む。しまり・粘性とも欠。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む、まだら状に堆積する。しまり欠。粘性強。

ST-51 土層説明 [C-C'、D-D']

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm以下)、ロームブロック

(径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。

- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を少量含む。しまり弱。粘性欠。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む、白色粘質土ブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり弱。粘性やや強。
- 5 暗褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む。しまり弱。粘性やや強。
- 6 黄褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む、まだら状に堆積する。しまり欠。粘性強。

図 131 ST-51 平面および周堀土層断面

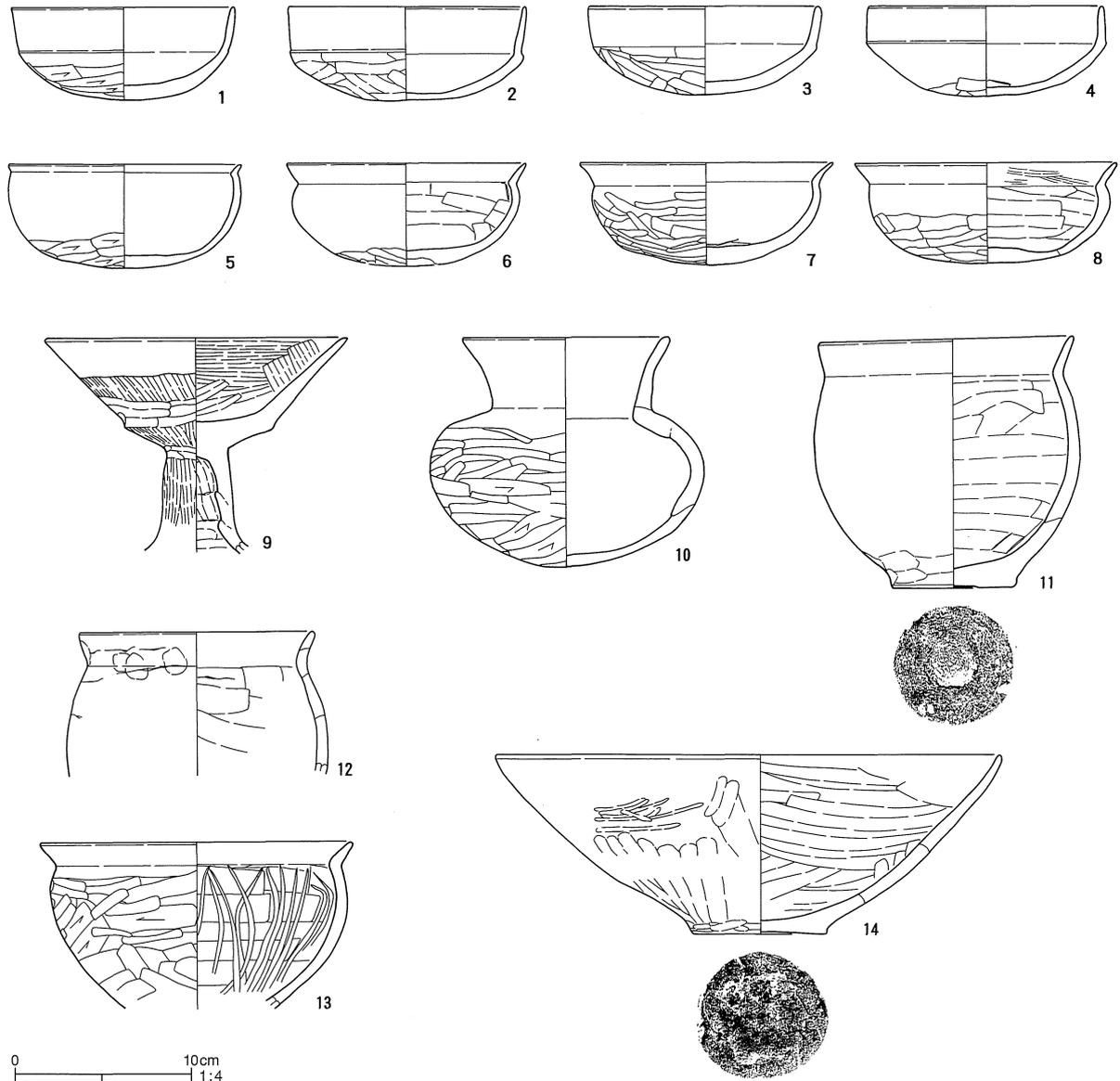


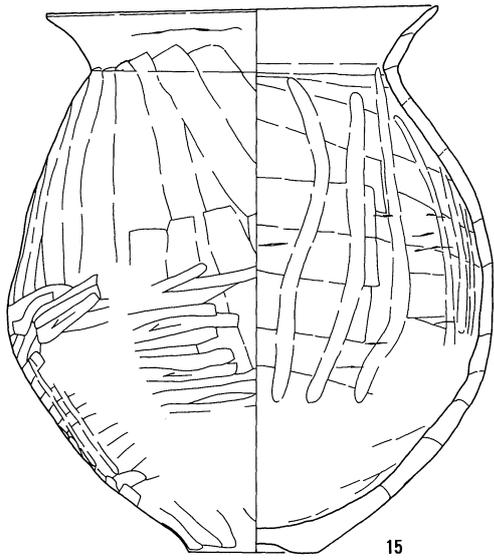
図 132 ST-51 出土土器 (1)

(2) 遺物

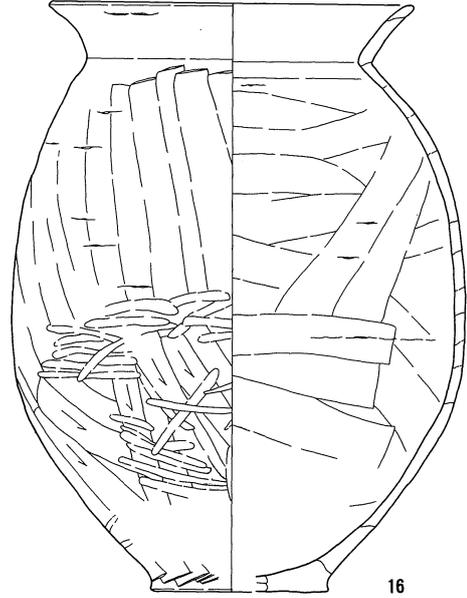
遺物は、周堀各所からは多量の土師器が検出されているが、坏類を除いて残存率が低いことから、いずれも ST-51 と切り合い関係にある SI-12・16・19 やその他の遺構からの流れ込みと判断される。埴輪は小片が若干量出土しているのみで、周辺の攪乱などからも確認されていないことから、ST-51 には埴輪が樹立されていなかったと推定される。

ST-51 出土土器・紡錘車観察表

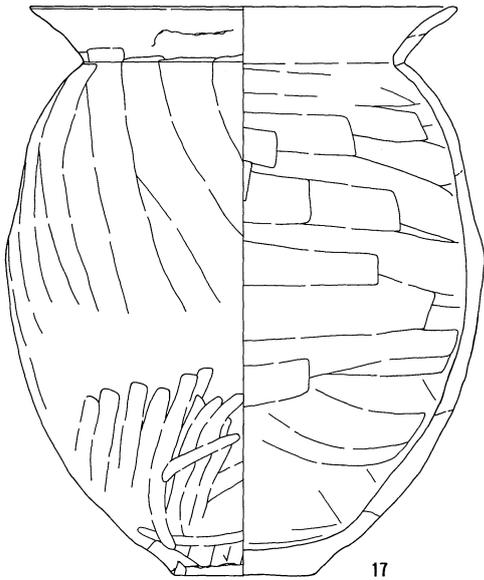
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.6 底径 — 器高 5.3	口縁部は体部との境に稜を持ち、わずかに内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に一部ナデ。内面-口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	雲母・白色針状粒 内-黒褐色 外-にぶい黄褐色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 13.6 底径 — 器高 5.5	口縁部は体部との境に稜を持ち、わずかに外傾して立ち上がる。口唇部は弱い面をなす。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	赤褐色粒・黒色粒 内-橙色・黒褐色 外-にぶい橙色	ほぼ完形。 外面一部に煤附着。



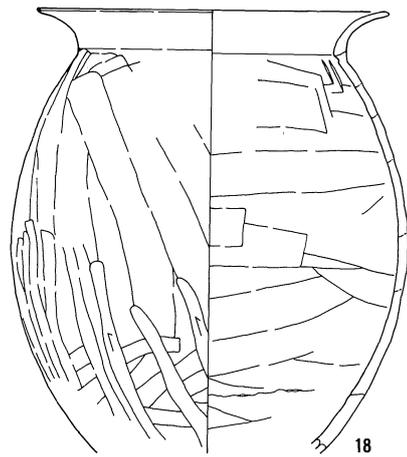
15



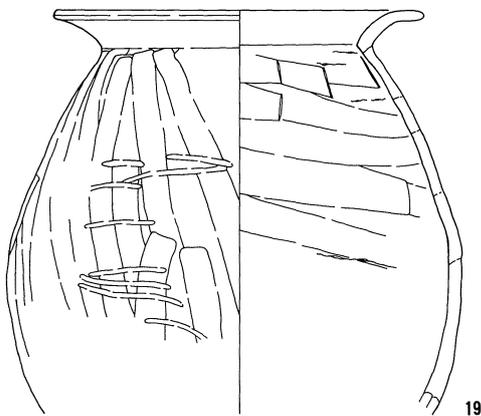
16



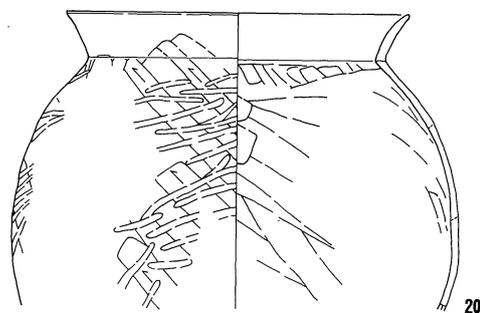
17



18



19



20

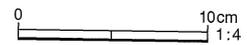


图 133 ST-51 出土土器 (2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土師器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.1	口縁部は体部との境に弱い稜を持ち、わずかに外傾して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	2/3。
4	土師器 坏	口径 13.4 底径 — 器高 5.3	口縁部は体部との境に弱い稜を持ち、わずかに内傾して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
5	土師器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 6.1	内斜口縁。体部は丸みを持つ。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	黒色粒・チャート 内外－にぶい黄褐色	2/3。
6	土師器 坏	口径 13.6 底径 — 器高 (5.9)	体部は丸みを持ち、口縁部はわずかに湾曲して開く。底部は一部欠損するが丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－にぶい赤褐色	底部一部欠損。
7	土師器 坏	口径 14.4 底径 — 器高 5.9	体部は丸みを持ち、口縁部は外反気味に開く。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、体部上側ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内－にぶい赤褐色 外－明赤褐色	5/6。
8	土師器 坏	口径 14.9 底径 — 器高 5.7	体部は丸みを持ち、口縁部は直線的に開く。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、体部中位～底部ヘラケズリ。内面－口縁部木口状工具ナデ、体部ヘラナデ、底部ナデ。	赤褐色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	5/6。
9	土師器 高坏	口径 17.2 底径 — 器高 —	坏部下位に稜を持ち、口縁部は外反気味に開く。脚部は柱状で、裾部に向かって広がる。	外面－口縁部ヨコナデ、坏部中位～脚部木口状工具ナデ。内面－坏部木口状工具ナデ、坏底部ナデ、脚部上位絞り目、下位ナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	脚裾部欠損。
10	土師器 罎	口径 (11.8) 底径 — 器高 13.3	粘土紐巻き上げ成形。体部は上位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、体部上側をナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	4/5。
11	土師器 小型甕	口径 14.1 底径 7.0 器高 14.6	中位に膨らみを持つ胴部、口縁部は直線的に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリと思われるが摩耗のため不明瞭、底部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内－にぶい橙色 外－にぶい赤褐色	5/6。
12	土師器 小型甕	口径 (13.4) 底径 — 器高 —	粘土紐巻き上げ整形。膨らみを持つ胴部。口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ナデ・指頭圧痕、胴部上位ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	1/5。
13	土師器 鉢	口径 17.7 底径 — 器高 —	体部は丸みを持って立ち上がり、上位に膨らみを持つ。口縁部はわずかに湾曲して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ後弱いミガキ。	雲母・チャート 内外－明赤褐色	底部欠損。 外面に煤付着。
14	土師器 鉢	口径 (28.8) 底径 7.6 器高 10.3	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。	外面－口縁部～体部ナデ、底部ナデ。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－にぶい赤褐色	1/2。 外面一部黒色。
15	土師器 甕	口径 20.7 底径 6.8 器高 29.0	粘土紐巻き上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部は中央部が窪む。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ後ナデ、胴部下位ヘラケズリ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ・指ナデ。	黒色粒・チャート 内外－にぶい橙色	2/3。
16	土師器 甕	口径 19.2 底径 (9.4) 器高 31.2	胴部は中位下側に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ後ナデ、胴部下位ヘラケズリ後部分的にナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外－にぶい赤褐色	2/3。
17	土師器 甕	口径 (22.4) 底径 7.4 器高 30.1	粘土紐巻き上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内－にぶい赤褐色 外－にぶい黄橙色	3/4。
18	土師器 甕	口径 (18.4) 底径 — 器高 —	粘土紐巻き上げ成形。胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	1/3。

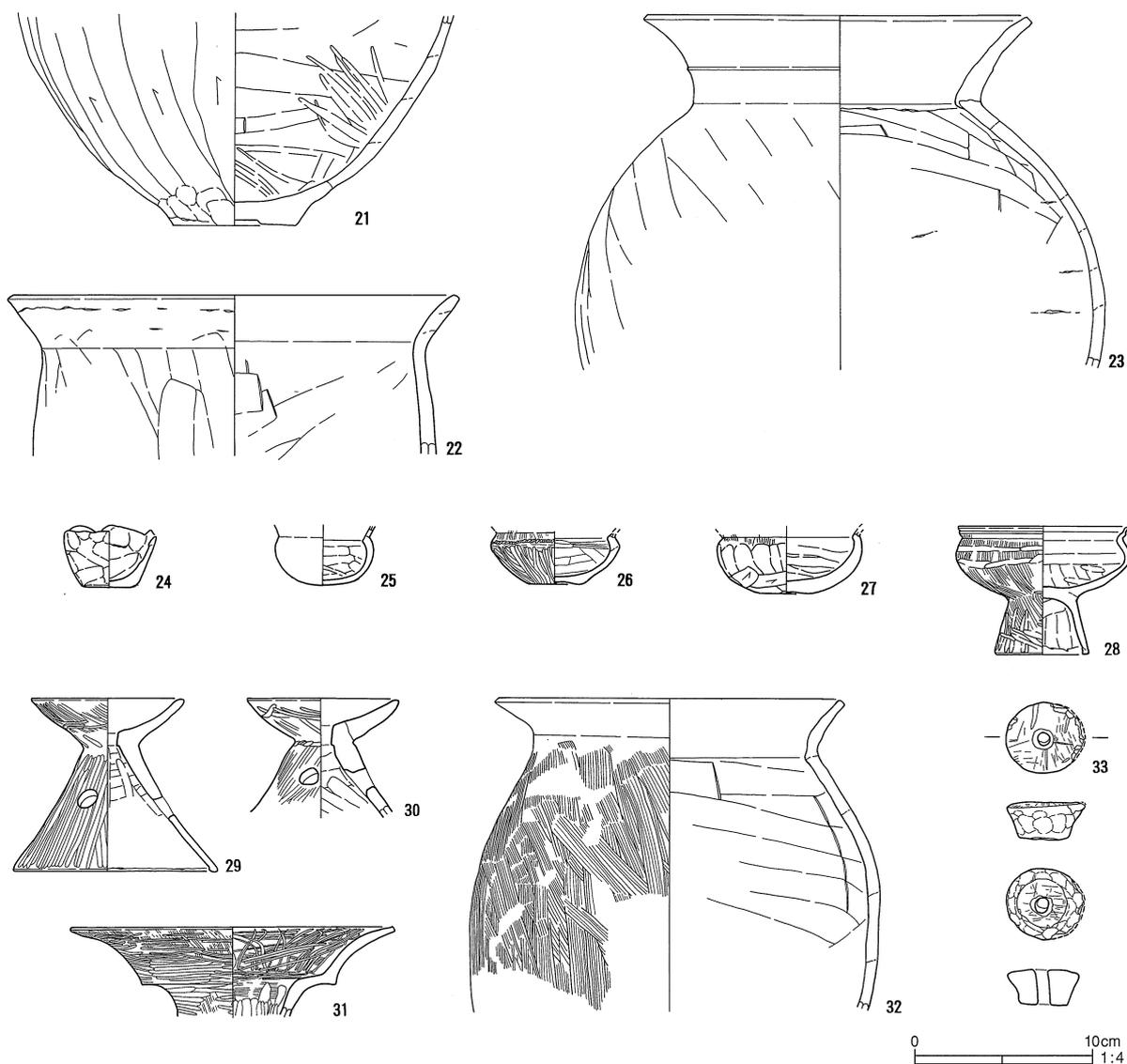


図 134 ST-51 出土土器 (3)・紡錘車

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
19	土師器 甕	口径 19.4 底径 — 器高 —	粘土紐巻き上げ成形。膨らみを持つ胴部。口縁部は大きく外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内—灰黄褐色 外—ぶい橙色	2/3。
20	土師器 甕	口径 (18.0) 底径 — 器高 —	膨らみを持つ胴部。口縁部は外反気味に開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後部分的にナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内—ぶい黄褐色 外—ぶい黄褐色	口縁部～胴部 上位1/3残存。
21	土師器 甕	口径 — 底径 7.0 器高 —	膨らみを持つ胴部。底部は中央部が窪む。	外面—胴部ヘラケズリ、底部ナデ。内面—胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内—ぶい橙色 外—ぶい赤褐色	胴部下位～底部 2/3残存。
22	土師器 甕	口径 (25.4) 底径 — 器高 —	わずかに膨らみを持つ胴部。口縁部は外反気味に開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外—明赤褐色	口縁部～胴部 上位1/3残存。
23	土師器 壺	口径 21.8 底径 — 器高 —	大きく膨らむ胴部。口縁部は中位に弱い段差を有し、外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外—橙色	口縁部～胴部 上位2/3残存。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
24	土師器 ミニチュア 土器	口径 5.2 底径 3.0 器高 3.6	手捏ね。体部は直線的に開く。底部は平底。	外面－口縁部～体部ナデ・指頭圧痕、底部ナデ。内面－口縁部～底部指ナデ・指頭圧痕。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
25	土師器 埴	口径 － 底径 － 器高 －	埴型。体部は上位に膨らみを持ち、口縁部は直線的に開く。底部は丸底。	外面－口縁部～底部ナデ。内面－口縁部ナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	口縁部上位欠損。
26	土師器 埴	口径 － 底径 － 器高 －	体部は丸みを持って立ち上がり、上位で内側に屈曲する。底部は上げ底。	外面－体部上位ハケ、中位以下ミガキ、底部ナデ。内面－体部～底部ヘラケズリ。	黒色粒・チャート 内－明赤褐色 外－にぶい赤褐色・黒色	口縁部欠損。
27	土師器 埴	口径 － 底径 2.8 器高 －	体部は上位に膨らみを持ち、口縁部は外方に開き始める。底部は小さな上げ底。	外面－頸部ハケ、体部上位ナデ、体部下位ヘラケズリ、底部ナデ。内面－体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内－にぶい黄褐色 外－橙色	口縁部欠損。
28	土師器 小型 S字甕	口径 (9.6) 底径 5.3 器高 7.3	S字状口縁台付甕。扁平な胴部。台部はハの字状に開き、端部は内側に折り返される。	外面－口縁部ヨコナデ、体部タテハケ・中位ナデ、台部上位ナメハケ、台部下位ナデ・ミガキ。内面－口縁部～体部上位ヨコナデ、体部下位ヘラナデ・ナデ、台部ナデ。	片岩・チャート 内外－明赤褐色。	2/3。
29	土師器 小型器台	口径 8.6 底径 (11.5) 器高 9.8	器受部は湾曲して開き、底部を穿孔。脚部は外反気味に開き、中位に3孔。	外面－器受部～脚部ミガキ。内面－器受部ミガキあるが剥離、脚部上位ヘラケズリ後ナデ、下位ヨコナデ。	黒色粒・チャート 内外－橙色	3/4。
30	土師器 小型器台	口径 8.5 底径 － 器高 －	器受部は湾曲気味に開き、底部に穿孔。脚部は外反気味に開き、中位に3孔。	外面－器受部～脚部摩耗するがミガキの痕跡あり。内面－器受部摩耗のため調整不明瞭、脚部ナデ。	片岩・赤褐色粒 内外－明赤褐色	脚部下位欠損。
31	土師器 壺	口径 18.2 底径 － 器高 －	口縁部は中位下側に屈曲部を有する二重口縁で、外反して開く。	外面－口縁部細いハケ後ミガキ。内面－口縁部細いハケ後ミガキ。	黒色粒・チャート 内外－明赤褐色	口縁部2/3残存。
32	土師器 甕	口径 19.5 底径 － 器高 －	膨らみを持つ胴部。口縁部は外反気味に開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハケ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	黒色粒・チャート 内外－にぶい褐色	口縁部～胴部上位4/5残存。
No.	種類	法量・胎土・色調 (cm・g)				備考
33	土製紡錘車	上面径：4.0×4.4 下面径：2.8×2.8 厚さ：2.1 孔径：0.7 重さ：32.7 黒色粒・チャート 明褐色				ほぼ完形。

ST-52

(1) 遺構 (図135・136、写真7)

位置：調査区の西端にあって、1Z-17・18、2A-18グリッドに位置する。

形状：北西側2/3程が調査区外にあり、全形を確認できないが、残存する部分から、墳丘平面形ははやや東西に長い円形を呈するものと推測される。周堀の幅には広狭があり、周堀底面は各所に段差を生じている。周堀覆土にはロームブロックと白色パミスを含む黒色土の堆積を認める。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径10.4 m、周堀は幅1.0～1.5 m、深さ10～50 cmを測る。

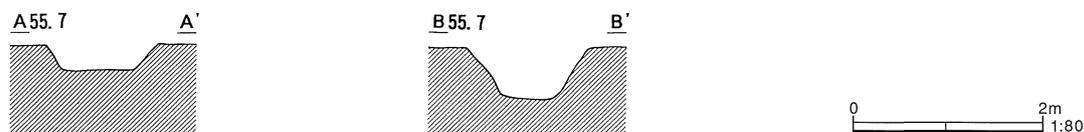


図135 ST-52周堀断面

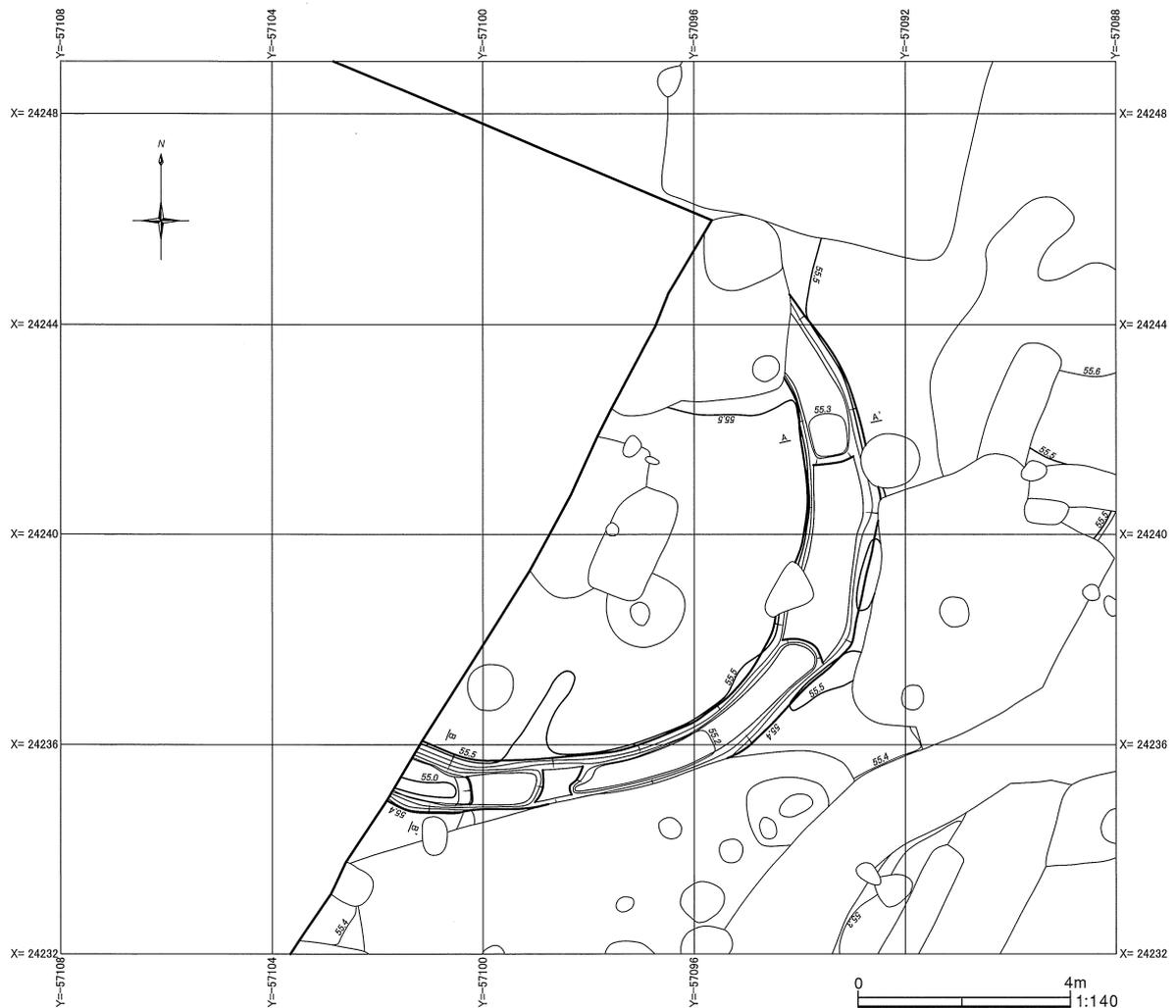


図 136 ST-52 平面

(2) 遺物

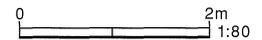
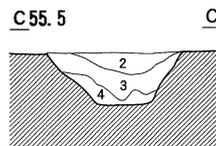
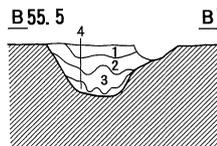
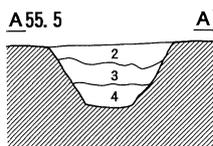
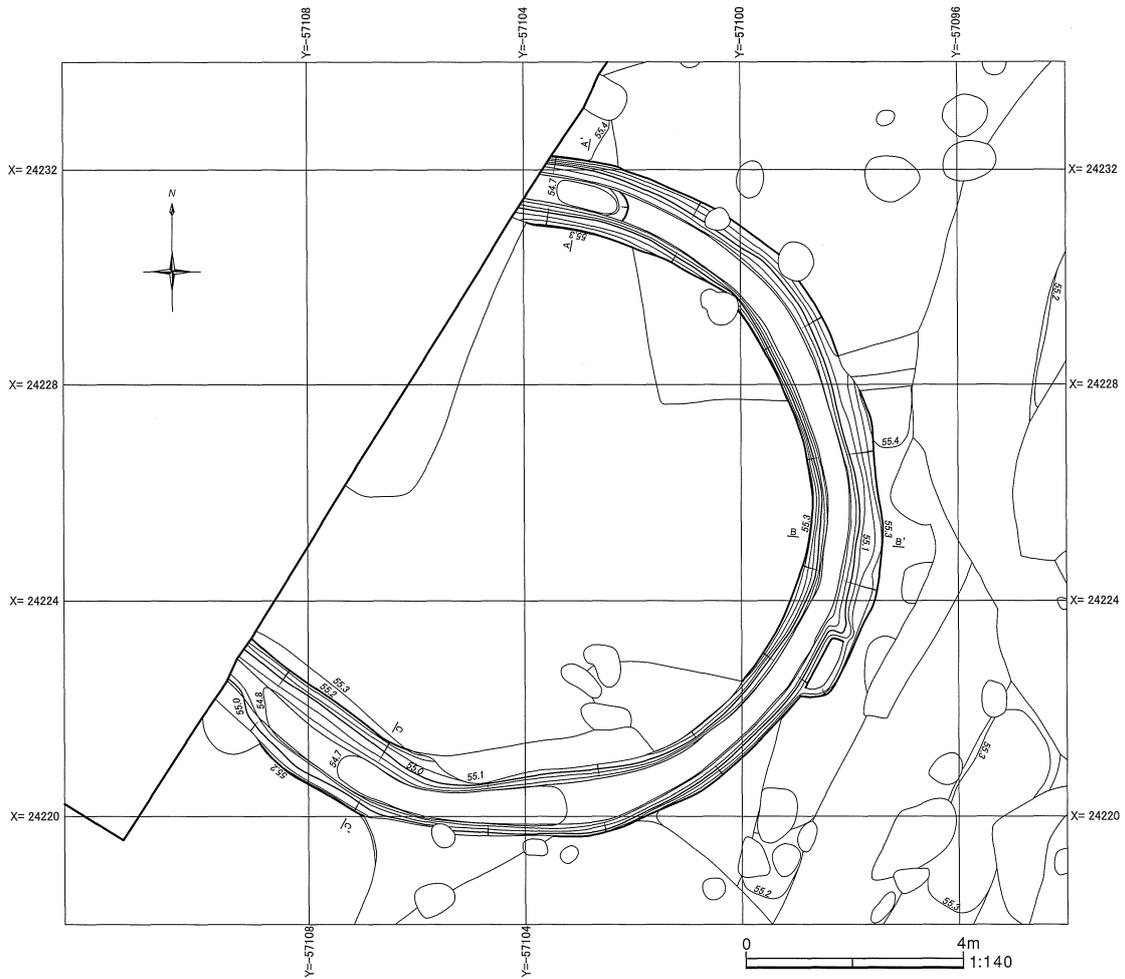
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-53

(1) 遺構 (図 137、写真 7)

位置：調査区の西端にあって、1Z-18・19，2A-18・19 グリッドに位置する。東側で ST-51 と、南側で ST-55 と近接している。

形状：北西側 1 / 4 程が調査区外にあり、全形を確認できない。墳丘平面形は北側から東側にかけて正確な円弧を描くが、南側では直線的になっている。周堀の幅も、北側から東側にかけてが広く、南側は狭い。東側では外方へ大きく屈曲して広がっている箇所があり、この部分には外側立ち上りの中位を削り出してステップが形成されている。周堀底は北側に 1 箇所の段差を認める以外はおおよそ平坦である。周堀覆土は 4 層に区分される。下層にロームブロックと白色粘質土ブロックを多量に含む暗褐色土、中層にロームブロックを含む黒褐色土、上層には白色パミスを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。



ST-53 土層説明

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|---|
| 1 黒色土 | 白色パミス (径 1mm±) を少量含む。しまり欠。粘性欠。 | 3 黒褐色土 | ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む。しまり欠。粘性普通。 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり欠。粘性欠。 | 4 暗褐色土 | ロームブロック (径 1~10mm)、白色粘質土ブロック (径 1~10mm) を多量に含む。粘性強。 |

図 137 ST-53 平面および周堀土層断面

規模：墳丘規模は、北東-南西方向で径 11.5 m、南-北方向で径 11.0 m、周堀は幅 0.6 ~ 1.0 m、深さ 30 ~ 60 cm を測る。

(2) 遺物

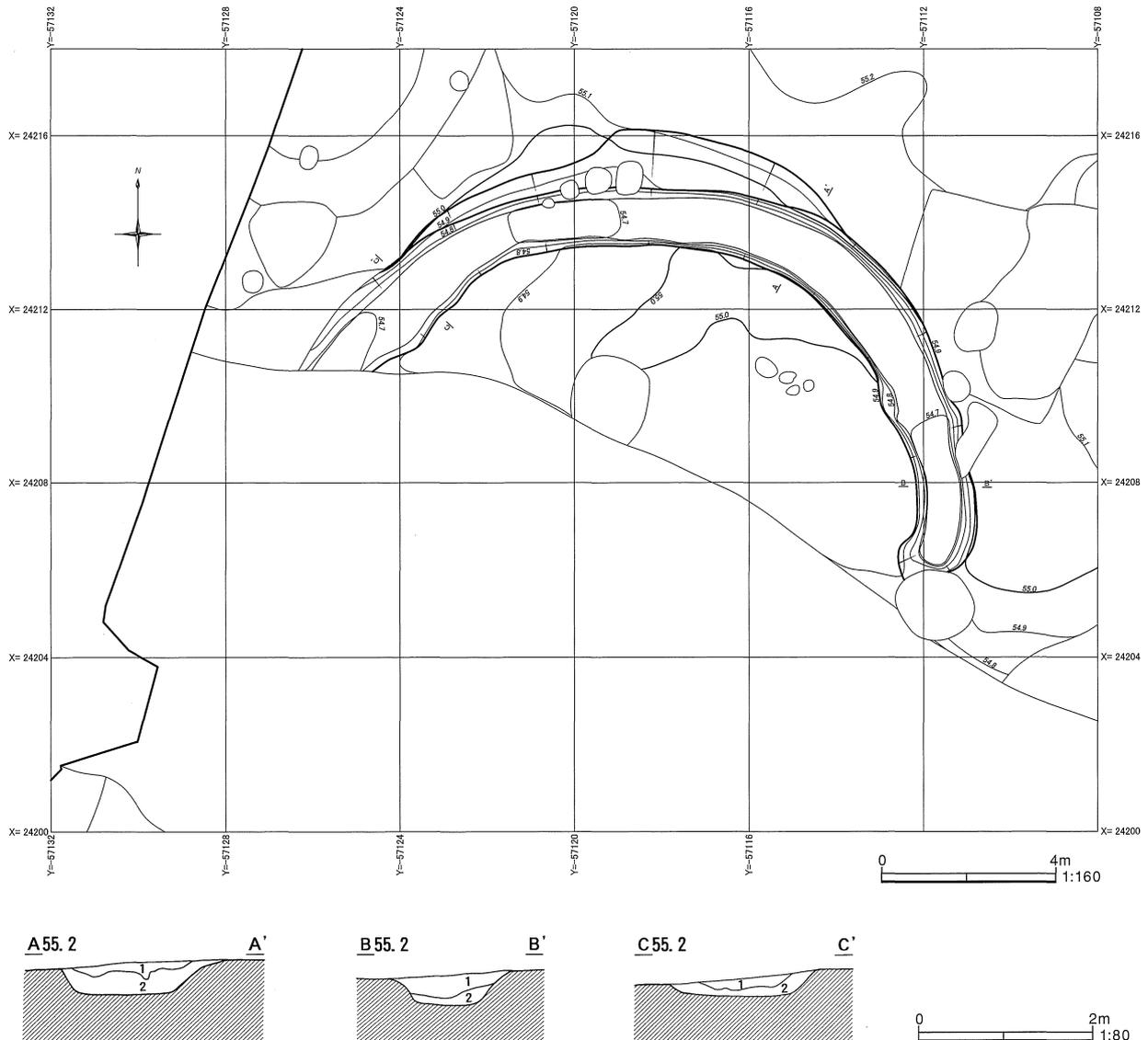
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-54

(1) 遺構 (図138、写真7)

位置：2B-20、2B-21、2C-20、2C-21 グリッドに位置する。北東側でST-55 と近接している。

形状：南半が浸食によりローム層ごと流失している。台地の南縁近くにあつて、確認面は北から南へ緩やかに傾斜している。周堀は北側で外方の上端が崩れて、外側へ大きく広がっている。また、攪乱により明確ではないが、東側では周堀がいったん立ち上がるらしく、この部分に陸橋をもつ可能性がある。周堀底面は、ほぼ平坦で、わずかな起伏が見られる。周堀覆土は2層に区分される。下層ににぶい黄褐色粘質土ブロックを多量に含む褐色土、上層に白色パミスを含む黒褐色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。



ST-54 土層説明

- 1 黒褐色土 白色パミス (径 1mm以下) を少量含む。しまり欠。粘性欠。
- 2 褐色土 にぶい黄褐色粘質土 (径 1～5mm) を多量に含む。粘性強。

図138 ST-54 平面および周堀土層断面

規模：墳丘規模は、推定径 13.6 m、周堀は幅 1.7～2.7 m、深さ 10～30 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は埴輪片・土師器片・ミニチュア土器をごく少量検出している。いずれもが、他所からのなれこみと判断される。埴輪片も含まれているが、いずれも小片で、ST-54には埴輪は樹立されていなかったと推定される。

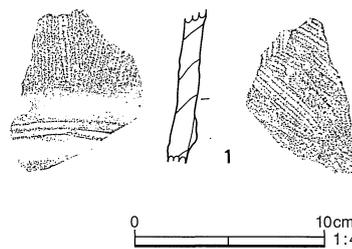


図 139 ST-54 出土円筒埴輪

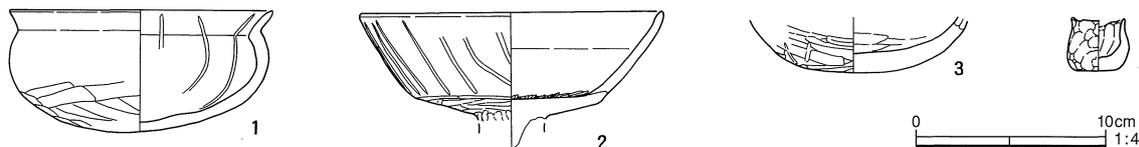


図 140 ST-54 出土土器

ST-54 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 6.5	体部は丸みを持ち、口縁部は外反気味に開く。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ・疎らな縦位ミガキ。	雲母・チャート 内—橙色 外—明赤褐色	1/2。
2	土師器 高坏	口径 (16.1) 底径 — 器高 —	坏部下位にわずかな稜を持つ。口縁部は直線的に立ち上がり、端部はわずかに内湾する。脚部との接合部は突起状。	外面—口縁部ヨコナデ・疎らなミガキ、坏部下位ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、坏底部ミガキ。	雲母・黒色粒 内外—赤褐色	坏部4/5残存。
3	土師器 碗	口径 — 底径 — 器高 —	丸みを持って立ち上がる体部。底部は丸底。	外面—体部下位～底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面—体部下位～底部ヘラナデ。	白色粒・チャート 内外—明赤褐色	体部下位～底部残存。
4	土師器 ミニチュア 土器	口径 2.8 底径 2.2 器高 2.8	手捏ね。丸みを持つ体部。口縁部は外反して開く。底部は平底。	外面—口縁部～体部ナデ・指頭圧痕、底部ナデ。内面—口縁部～底部指ナデ。	黒色粒・白色粒 内外—にぶい橙色	ほぼ完形。

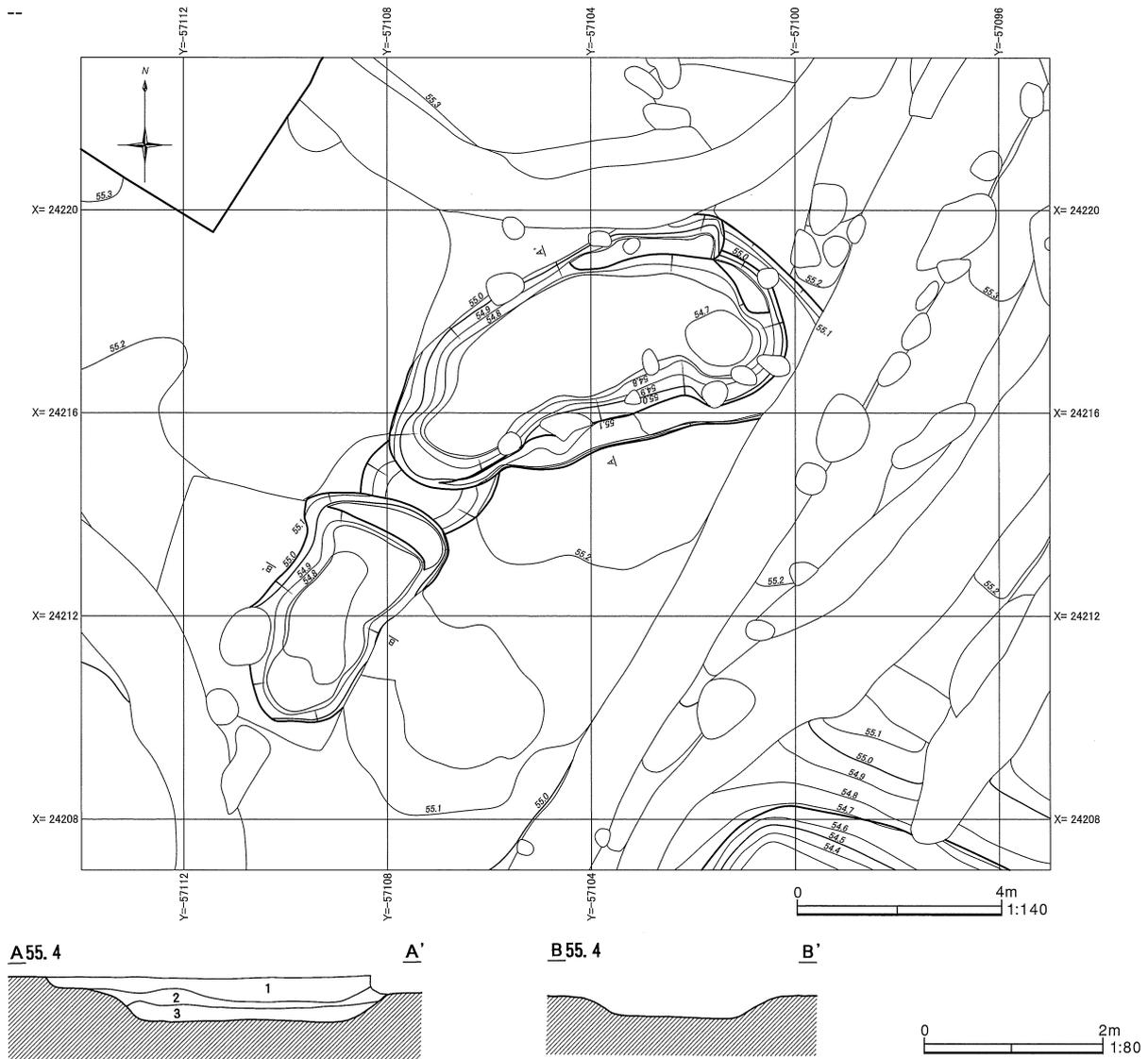
ST-55

(1) 遺構 (図 141、写真 8)

位置：1Z-20、2A-20、2B-20 グリッドに位置する。

形状：北西側の周堀のみが残る。ST-53・54・56 に三方を囲まれ、古墳 1 基を配置するには狭い空間にあり、周堀も連続する土坑状の落ち込みとなっているが、平面形が円弧を描くこと、覆土の堆積状態が他の古墳の周堀と同様であることを根拠として古墳と認定した。北東側の周堀はST-56と重複する位置にあり、当初から開削されていない可能性が高い。南半の周堀の位置・形状も、ローム層の流失により不明である。周堀は真北側が最も幅が広く、深さもある。周堀覆土は3層に区分される。下層にロームブロックと白色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色土、中層に白色パミス・ロームブロックを含む黒色土、上層には白色パミスのみを含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：周堀は幅 2.4～4.2 m、深さ 10～50 cmを測る。墳丘規模は不明である。



ST-55 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス (径 1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 白色パミス (径 1mm±)、ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10mm)、白色粘質土ブロック (径 1~10mm) を多量に含む。粘性強。

図 141 ST-55 平面および周堀土層断面

(2) 遺物

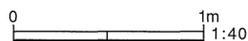
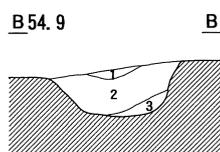
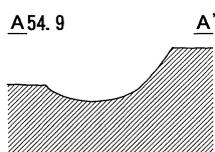
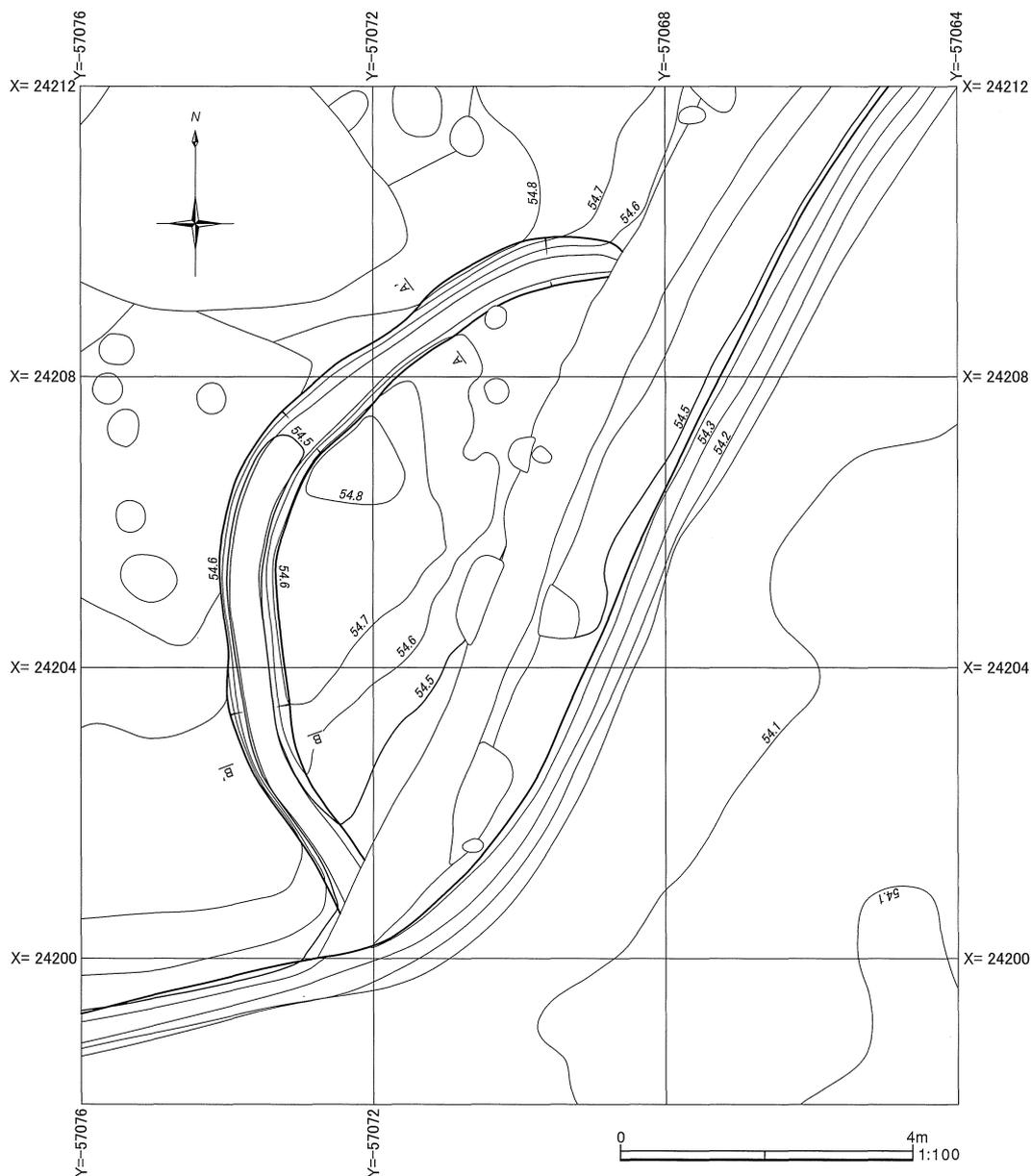
表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-56

(1) 遺構 (図 142、写真 8)

位置：1W-21、1X-21 グリッドに位置する。

形状：南東側 3/4 程が浸食によりローム層ごと流失し、確認面は北西から南東へ緩やかに傾斜している。周堀底面は、ほぼ平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土は 3 層に区分さ



ST-56 土層説明

- 1 黒褐色土 しまり・粘性とも欠。
- 2 暗褐色土 しまり・粘性とも欠。
- 3 暗褐色土 白色粘質土ブロック（径 1～5mm）を多量に含む。
しまり欠。粘性強。

図 142 ST-56 平面および周堀土層断面

れる。下層に白色粘質土ブロックを多量に含む暗褐色土、中層に暗褐色土、上層に黒褐色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径 10.4 m、周堀は幅 0.5～0.8 m、深さ 10～30 cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-57

(1) 遺 構 (図 143、写真 8)

位置：1X-19・20・21、1Y-19・20・21 グリッドに位置する。北西側でST-51と近接している。

形状：円墳と推測される。他の遺構や攪乱との重複が激しく、断続的に周堀を確認するのみである。墳丘平面形は不整な円形を呈し、西側から南側にかけては円弧を描かず、著しく歪んでいる。東側で周堀の途切れる箇所が存在するようである。周堀覆土にはロームブロック・白色粘質土ブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径 11.2 m、周堀は幅 1.0 ~ 1.5 m、深さ 10 ~ 30 cm を測る。

(2) 遺 物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

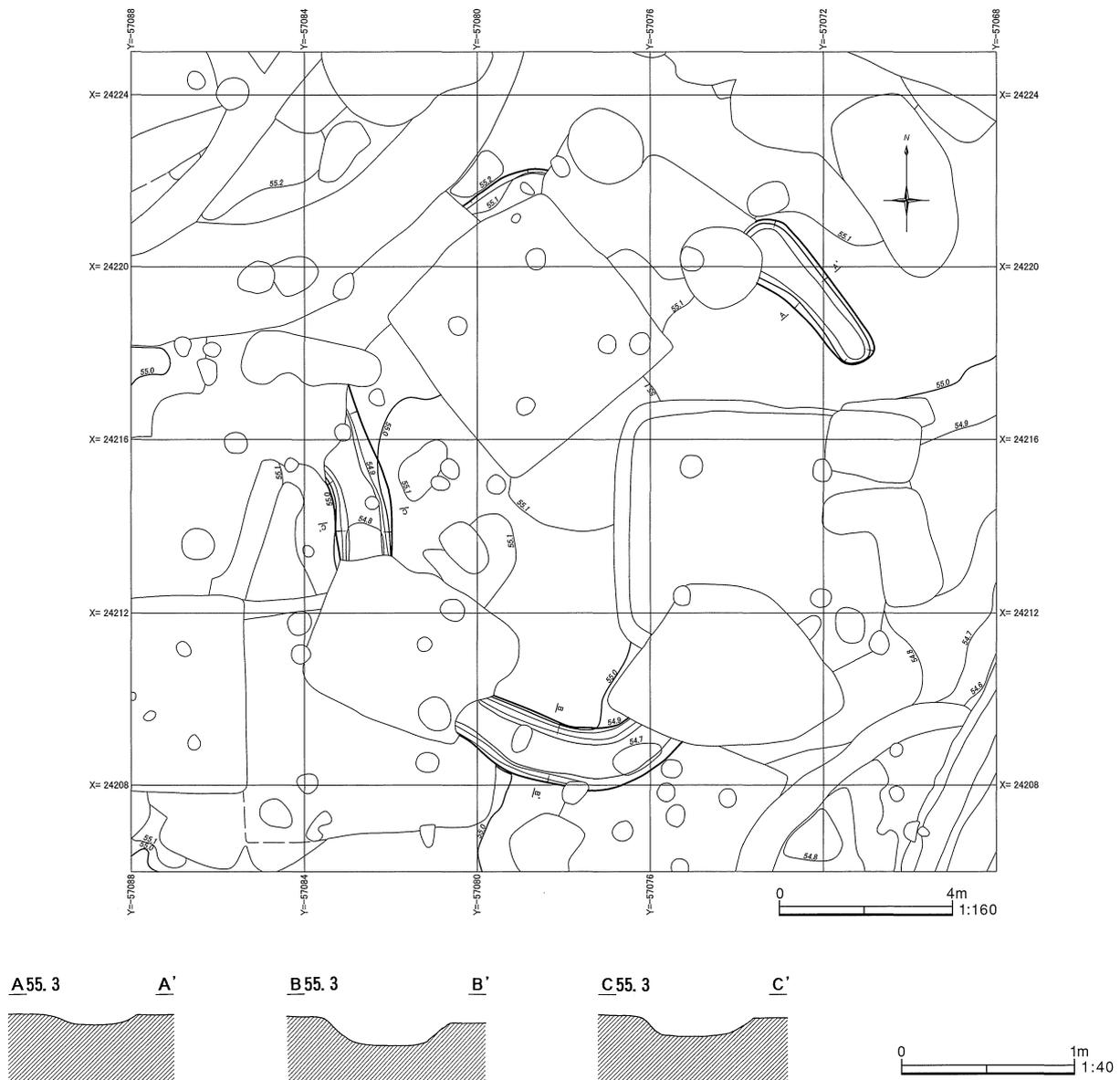


図 143 ST-57 平面および周堀断面

ST-58

(1) 遺 構 (図 144、写真 8)

位置：1Y-20・21、1Z-20・21 グリッドに位置する。

形状：円墳と推測される。南西側 1 / 5 程が浸食によりローム層ごと流失し、確認面は北東から南西へ緩やかに傾斜している。また、各所で他の遺構や攪乱と重複し、滅失している部分も多い。墳丘平面形はほぼ整円形を呈している。周堀の幅は、東側でやや広く、北側・南側で狭くなっている。周堀底面は全体に平坦であるが、北側に土坑状の落ち込みが見られる。周堀覆土にはロームブロック・白色粘質土ブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径 8.6 m、周堀は幅 0.7 ~ 1.2 m、深さ 10 ~ 40 cm を測る。

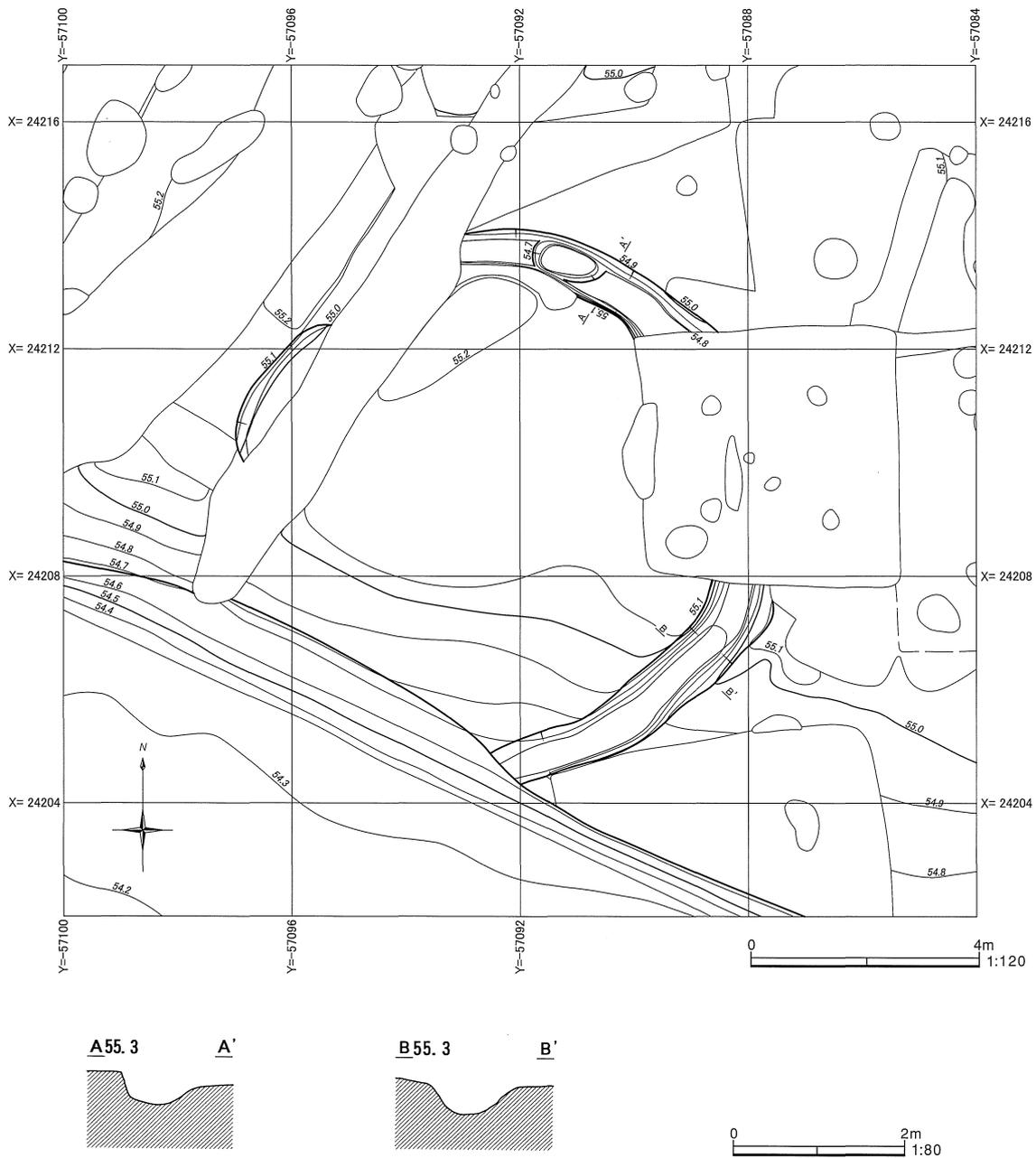


図 144 ST-58 平面および周堀断面

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-59

(1) 遺構 (図145、写真8)

位置：1J-12グリッドに位置する。

形状：台地の南端部にあつて、墳丘南側3/4ほどを台地端部の浸食により失っている。確認面は西から東へ緩やかに傾斜している。周堀底面は、ほぼ平坦で、起伏はほとんどなく、段差も存在しない。周堀覆土にはロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径10.4 m、周堀は幅0.4～0.8 m、深さ10～50 cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

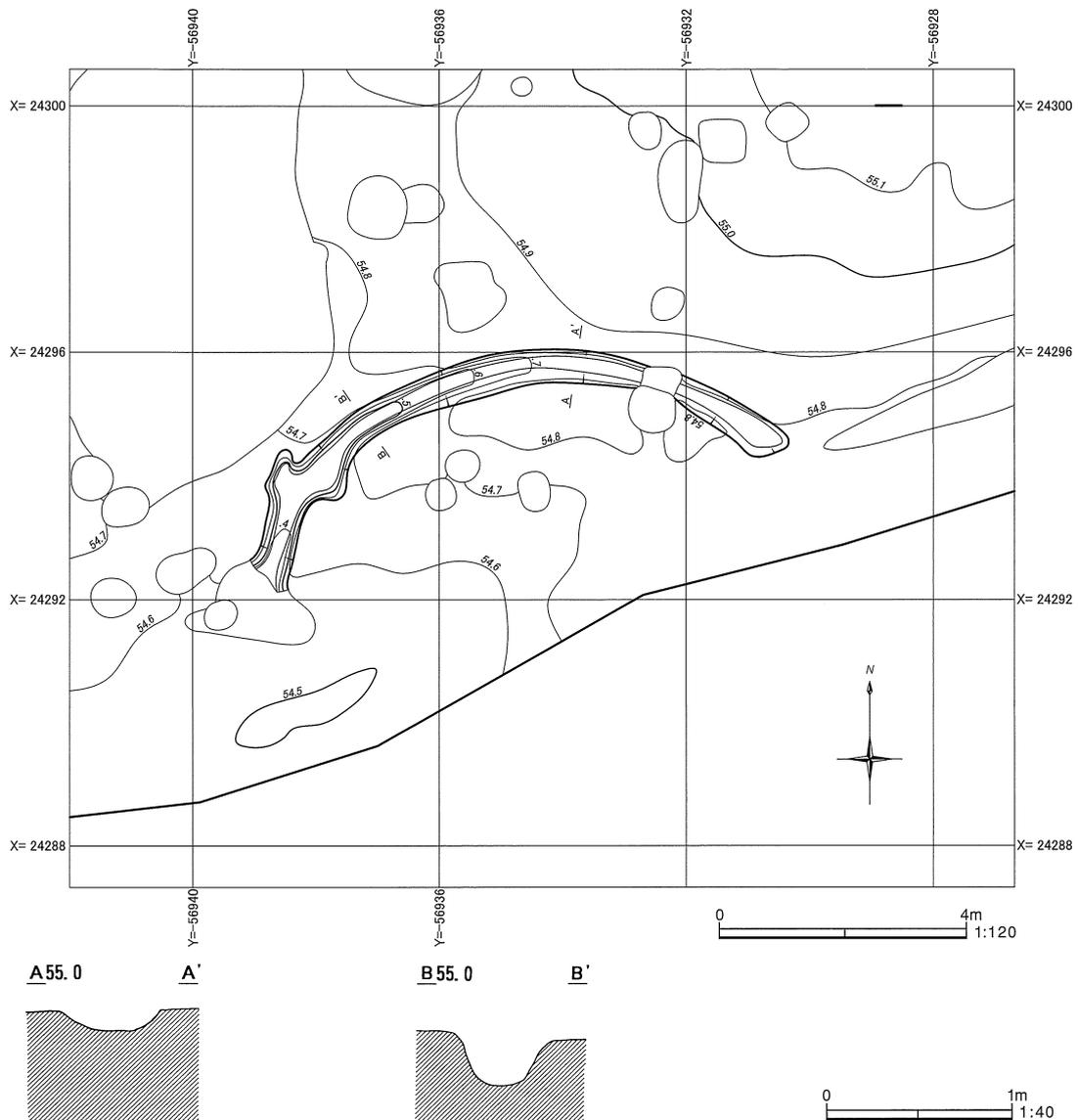


図145 ST-59平面および周堀断面

ST-60

(1) 遺 構 (図146・147、写真8)

位置：1M8・9・10、1N-7・8・9・10、10-7・8・9・10、1P-9グリッドに位置する。

形状：北西側の周堀のみが残る。周囲をST-12・30・31・33・61に囲まれた狭い空間に配置されている。周堀も不整形であるが、平面形が円弧を描くこと、覆土の堆積状態が他の古墳の周堀と同様であることを根拠として古墳と認定した。その他の部分の周堀については、浅い掘り込みの存在した可能性は否定できないものの、周囲の古墳との位置関係から、墳丘を全周するものではなかったと推測される。周堀は北西側から北側にかけてが広く、いったん外側へ大きく張り出したのち、北東側では急激に幅を減じている。周堀覆土は2層に大別され、下層に風化ロームブロックを多量に含む褐色系の覆土が堆積し、上層には白色パミスを含む黒色土が発達する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径19.6 m、周堀は幅1.4～7.4 m、深さ20～60 cmを測る。

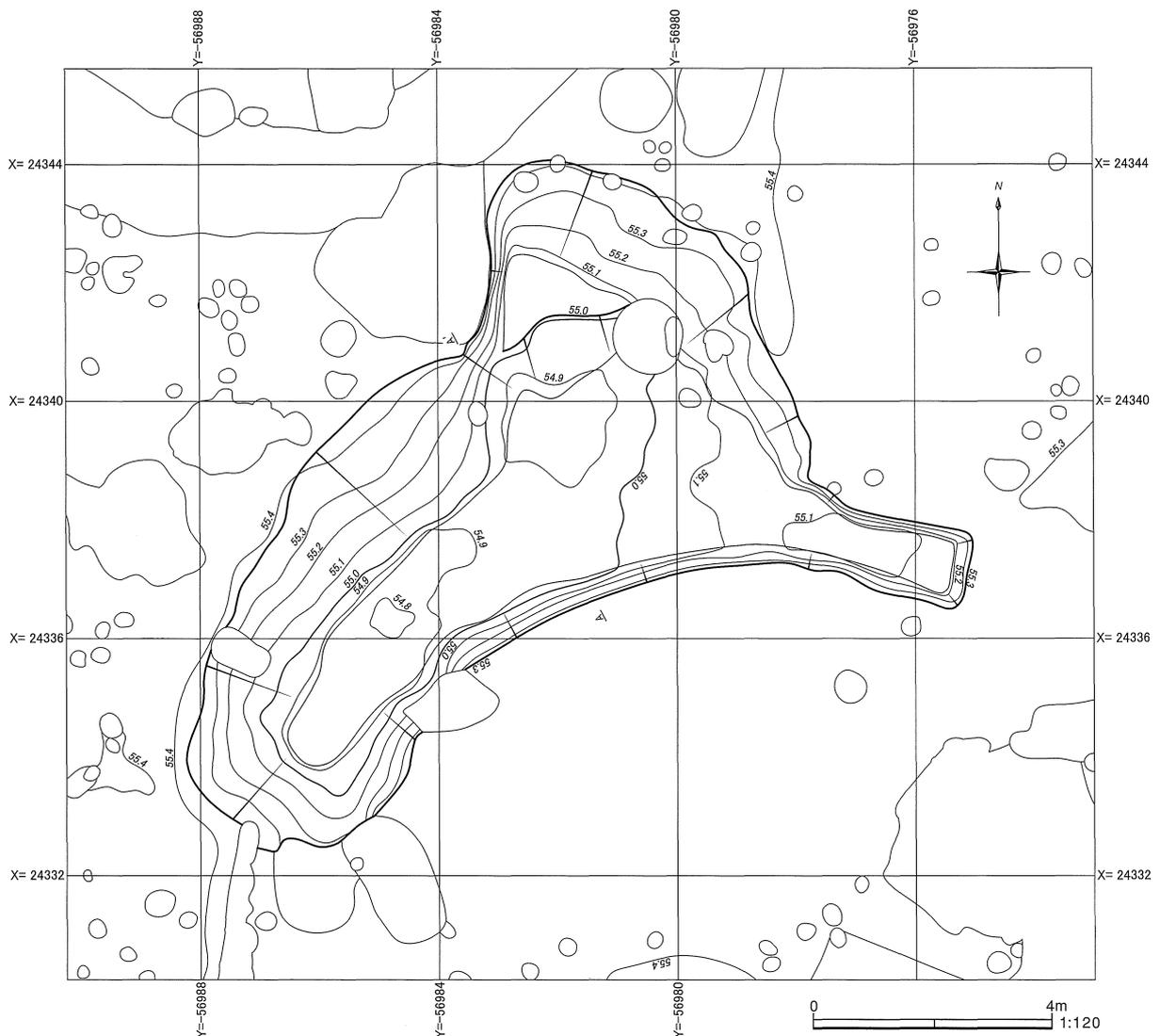
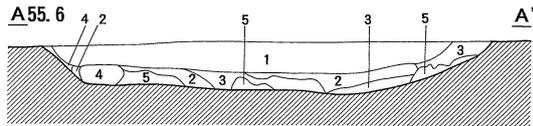


図146 ST-60平面



ST-60 土層説明

1 黒色土 白色パミス（径 1mm以下）を少量含む。しまり・粘性とも欠。

- 2 黒褐色土 ロームブロック（径 1～10mm）を多量に含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 暗褐色土 ロームブロック（径 1～20mm）を多量に含み斑状に堆積する。しまりやや強。
- 4 黒褐色土 ロームブロック（径 1～50mm）を少量含む。しまりやや強。粘性欠。
- 5 褐色土 風化ロームを主体に若干の有機物を含む。しまり強。粘性やや強。

図 147 ST-60 周堀土層断面

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-61

(1) 遺構（図 148・149、写真 9）

位置：1M-10・11・12、1N-10・11・12、10-10・11・12 グリッドに位置する。

形状：円墳である。北側から東側にかけての周堀のみが残る。周囲を ST-28・32・62 に囲まれた狭い空間に配置されている。墳丘平面形は不整な整円形を呈し、とくに北側は円弧を描かず直線的になっている。周堀は幅が各所で異なり、北側から北東側にかけては大きく広がって、北側の周堀底面には不整形の土坑が掘り込まれている。東側では ST-28 を避けるようにして大きく幅を減じている。ST-32・62 の手前では周堀が途切れ、この 2 古墳を回避していることが明らかである。ST-32 と ST-62 の間には空間が存在するが、この部分に周堀は見られず、ST-61 の南西半の周堀はもともと開削されていたと推測される

規模：墳丘規模は、推定径 18.8 m、周堀は幅 1.4～8.5 m、深さ 10～130 cm を測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土の上層から少量の土師器片が出土しているのみで、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

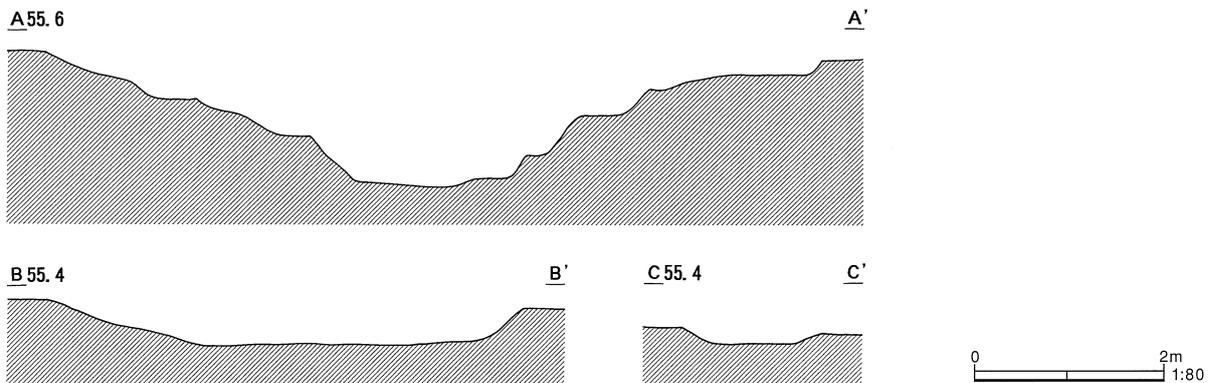


図 148 ST-61 周堀断面

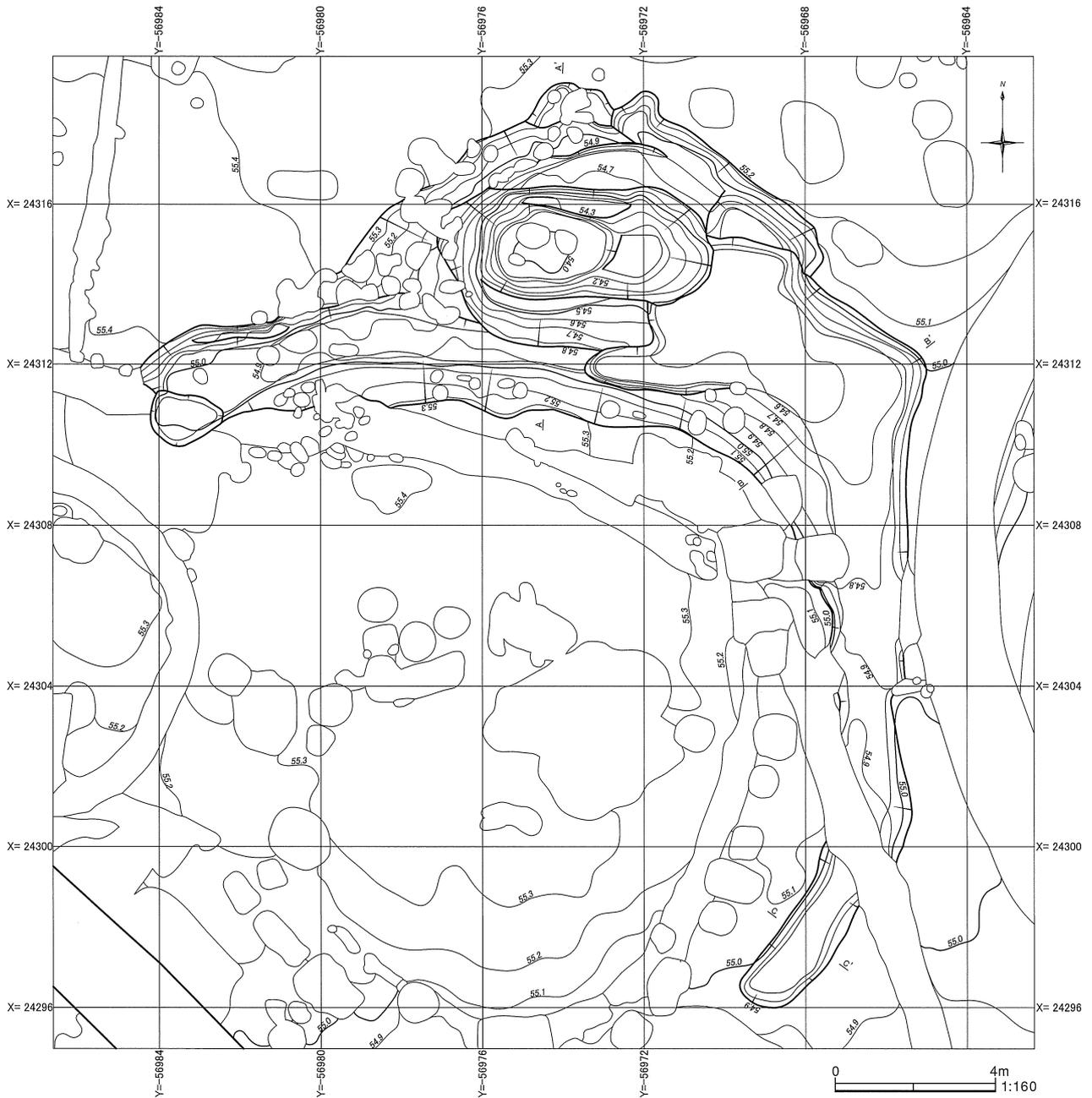


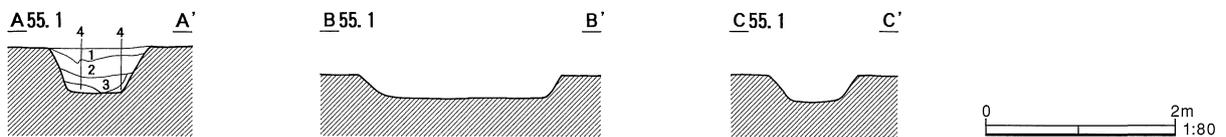
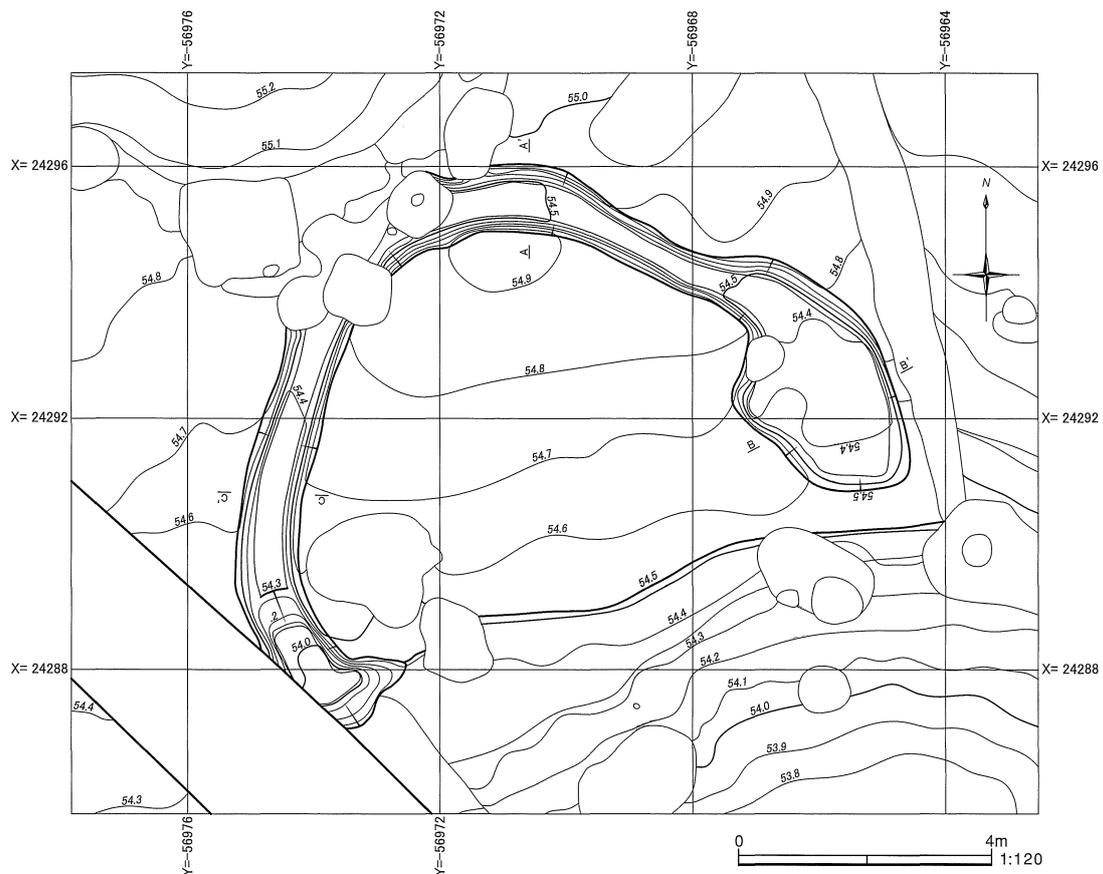
図 149 ST-61 平面

ST-62

(1) 遺 構 (図 150、写真 9)

位置：1M-12・13、1N-12・13グリッドに位置する。

形状：円墳である。台地の南端部にあって、墳丘南側1/3ほどを台地端部の浸食により失っている。確認面は北から南へ緩やかに傾斜している。墳丘平面形は不整な整円形を呈し、正確な円弧を描かない。周堀は幅が各所で異なり、東側では内外へ広がっている。周堀底面はほぼ平坦であるが、南西側には一段と深くなっている箇所が存在する。周堀覆土は2層に大別される。下層に黒褐色土ブロックを多量に含む褐色土およびロームブロックを多量に含む暗褐色土ないし黒褐色土、上層に白色パミ



ST-62 土層説明 [A-A']

- | | |
|--|---|
| <p>1 黒色土 白色パミス、ロームブロック（共に径1mm以下）を少量含み、暗褐色土ブロックを多量に含む。しまり欠。粘性欠。</p> <p>2 黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。しまり欠。粘性欠。</p> | <p>3 暗褐色土 ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。しまり欠。粘性欠。</p> <p>4 褐色土 黒褐色土ブロック（径10～20mm）を多量に含む。しまり欠。粘性欠。</p> |
|--|---|

図 150 ST-62 平面および周堀土層断面

ス・ロームブロックを少量含み、暗褐色土ブロックを多量に含む黒色土が堆積する。火山噴出物の層状堆積は観察されない。

規模：墳丘規模は、推定径8.8m、周堀は幅0.6～1.1m、深さ10～50cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

ST-63

(1) 遺構 (図 151・152、写真 9)

位置：調査区の西端にあって、1S-12、1T-12・13・14、1U-12・13・14・15・16、1V-12・13・14・15・16、

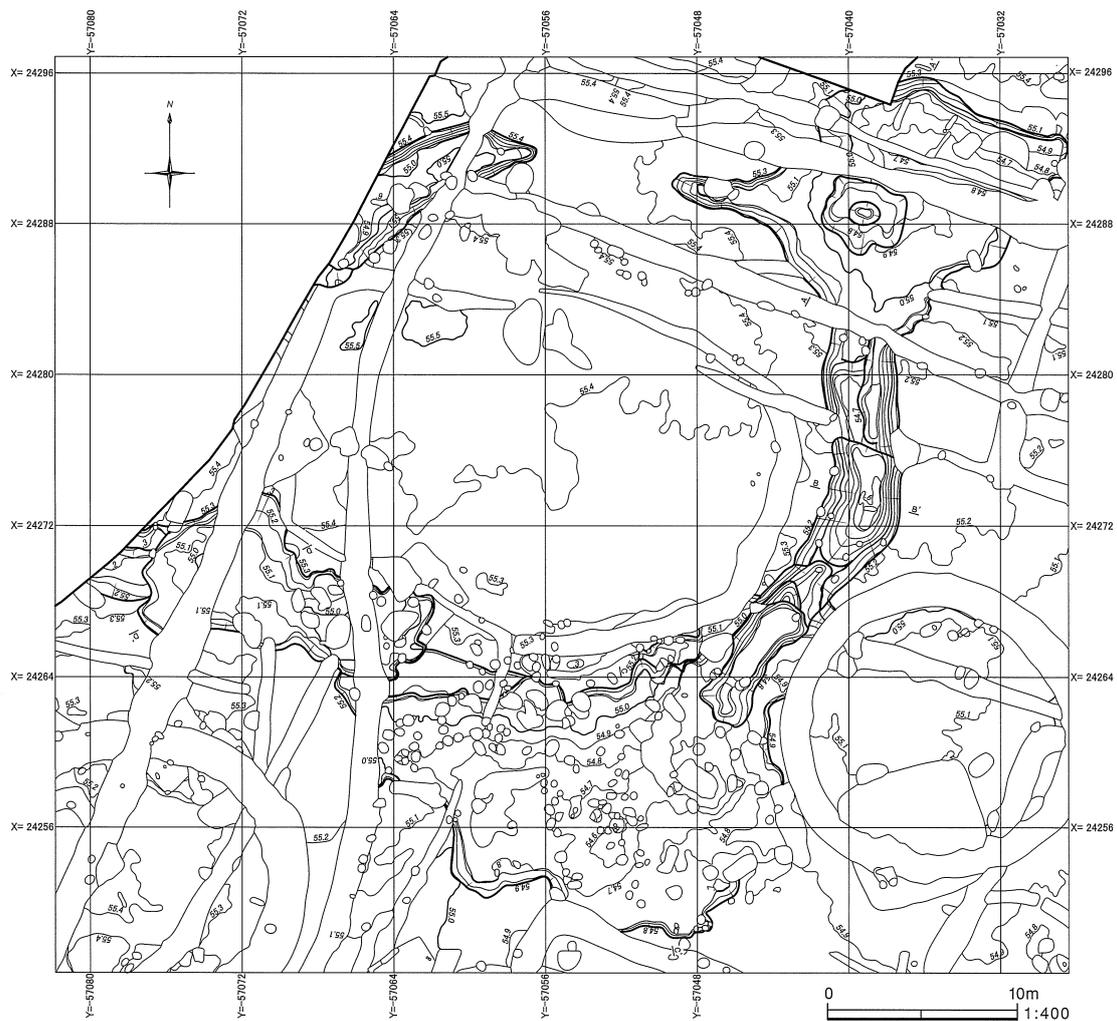


図 151 ST-63 平面

1W-12・13・14・15・16、1X-14・15グリッドに位置する。北側でST-40、南東側でST-43と近接している。形態：墳丘平面形は各所に歪みがあり、整円を描かない。周堀は著しい不整形で、とくに北東側および南東側では外方大きく広がっている。また、北側ではST-40を避けるようにしていったん途切れて、南東側でもST-43との重複を避けて幅を減じている。さらに、西側においても周堀の巡らない部分が存在するようである。周堀底面は起伏・段差が激しく、土坑状の落ち込みも各所に見られる。北東側に拡張された周堀内の土坑は深く、坑底はローム層下の白色粘土層を掘り抜いている。周堀覆土には白色パミスとロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。火山噴出物の層状堆積は観察されない。規模：墳丘規模は、北東-南西方向で径32.4 m、南-北方向で径28.4 m、周堀幅1.6～13.8 m、深さ30～70 cmを測る。

(2) 遺物

表土・周堀覆土からの遺物の出土はなく、埴輪は樹立されていなかったと推定される。

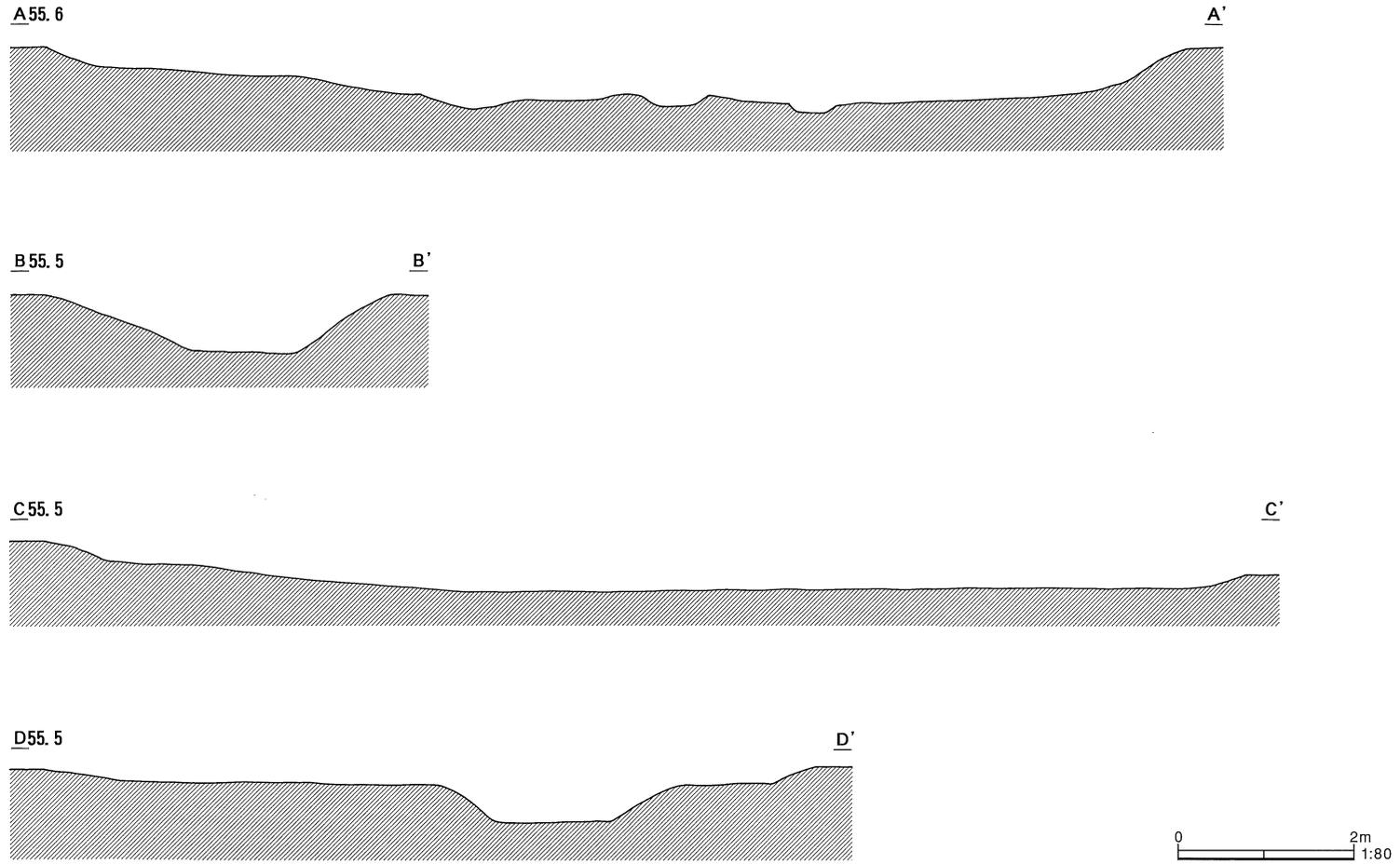


图 152 ST-63 周堀断面

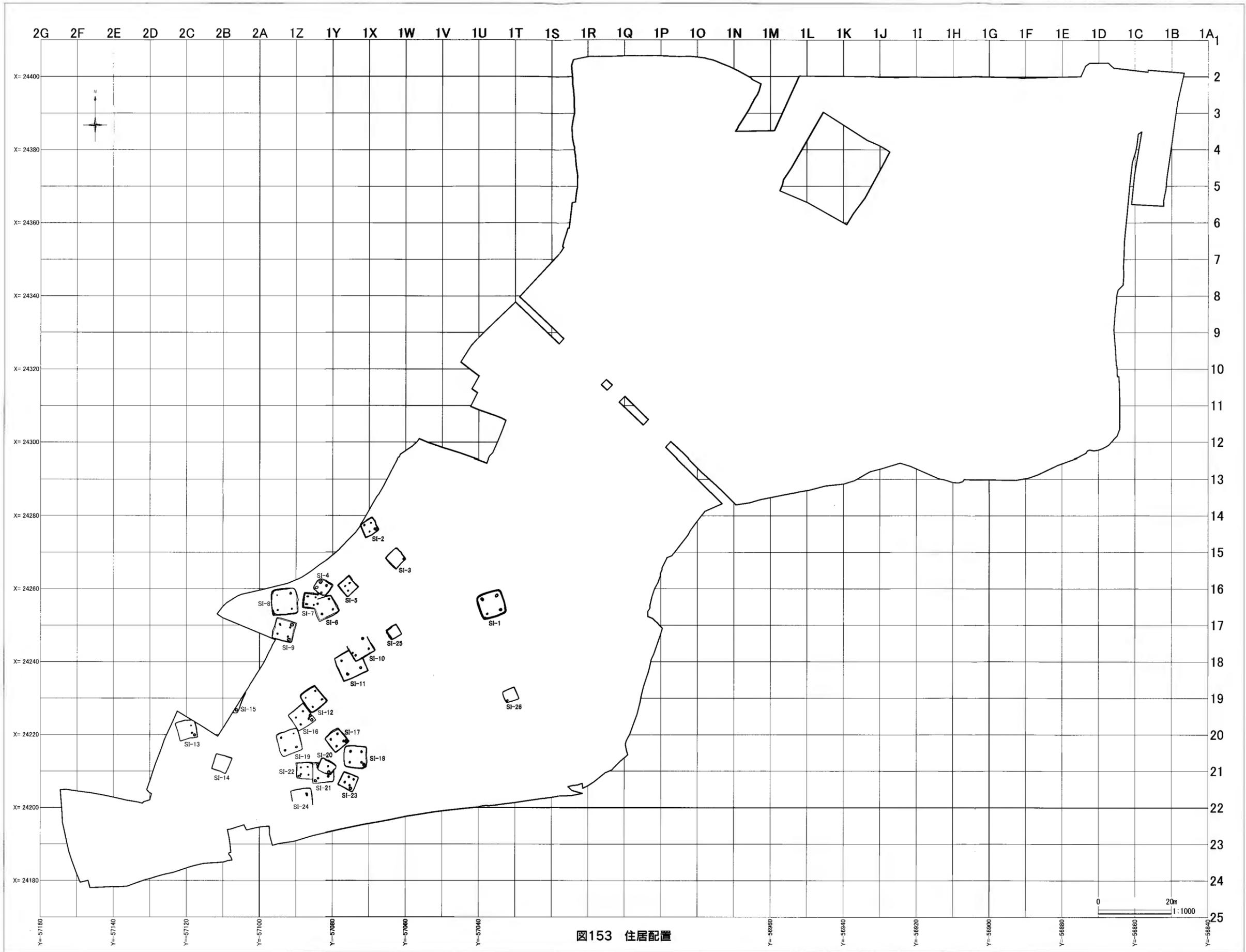


図153 住居配置

3 住居

住居は26基を検出した。26基すべてが調査区中央を走る谷の南側に分布している。調査区外の西方の畑地には濃密な土師器片の散布を認める地点があり、また南縁に所在するSI-24のように、部分的に地山のローム層ともども流失している遺構も存在することから、本来の分布域は西方および南方へさらに拡大することは確実である。

古墳周堀や攪乱との重複が顕著で、状態の良好な遺構は少ない。また、耕作による削平も進行していて、全体に確認面から床面までが浅い。さらには完全に覆土を失い、床面以下のみが残る住居も見られることなどから、すでに消滅している住居も少なくないと推測される。

出土遺物から所属時期の判明する住居は以下のとおりである。

五領式期 SI-1・10・11・18

和泉式期 SI-7・8・15・16・17・24

鬼高式期 SI-9・21

なお、SI-20は覆土の切り合い関係から鬼高式期の住居SI-21より新しく、出土遺物の確認できない住居の中には真間式期以降の時期に帰属ものが含まれる可能性がある。

五領式期には大型の住居が多い。とくにSI-11は長辺7.4mを測る大型住居で、分厚い貼床をもち、床面で完形品を含む小型器台とミニチュア土器の一括を検出している。また、東方に離れて存在するSI-1では、多数の台付甕片がまとまって出土している。和泉式期の住居は最も数が多く、時期も和泉式後半期に集中する傾向にある。SI-16は竈が付設している。鬼高式期の住居は2基のみで、和泉式期に比べ数は明らかに減少している。土器型式のうえでは周辺に展開する古式群集墳の造営時期と重複する。SI-9は廃絶後に土器捨て場として利用され、多量の土師器を検出している。遺構の残存状態は比較的良好であるにもかかわらず、竈の付設が確認できないことから古墳造営に関係する建物であった可能性も考えられる。

SI-1

(1) 遺構 (図154・155、写真15)

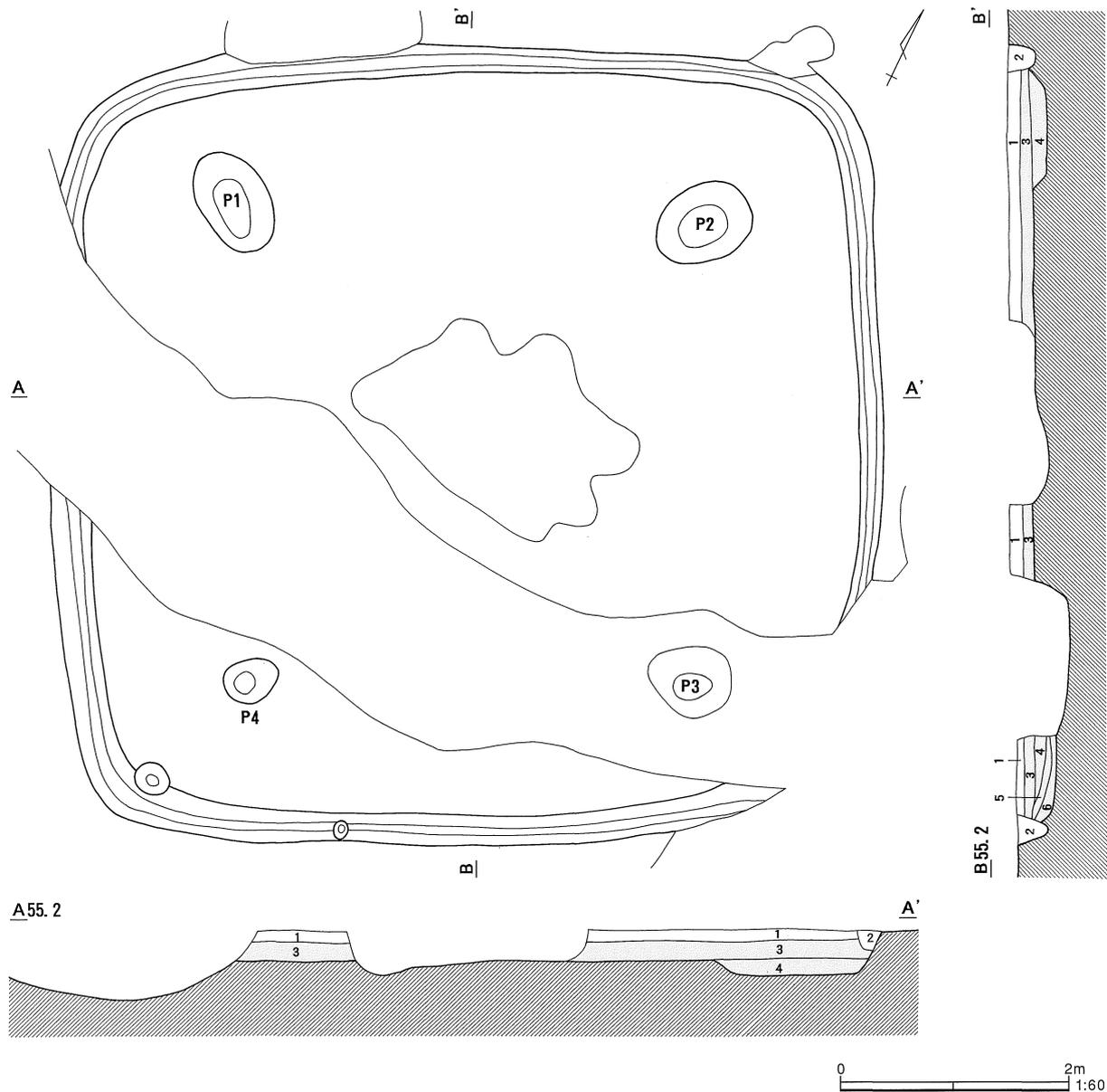
IT-16グリッドに位置する。西壁中央から、南東隅にかけてST-43に切られ、中央部分にも攪乱が存在する。

平面形は隅丸方形で、主軸の方位はN-60°Eを示す。覆土にはロームブロックと黒色土ブロックを含む黒褐色土が堆積している。

ロームブロックを含む黒褐色土を敷いて全面に貼床を施している。床面は平坦で、硬くしまっている。

壁際には壁溝が全周する。貯蔵穴は存在しない。炉も確認できないが、床面中央の攪乱部分に存在した可能性がある。床面で確認したピットはP1・2・4の3基で、さらにST-43の周堀底面で検出のP3を加えた4基が支柱穴である。いずれも不整な円形もしくは楕円形を呈し、P4のみは径が小さい。

掘り方は床面の四周を掘り込んで中央部分の地山を不整形に高く掘り残している。



SI-1 土層説明

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 1 黒褐色土 | ロームブロック（径 1～5mm）黒色土ブロック（径 1～10mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | 4 黒色土 | ロームブロック（径 1～2mm）を少量含む。しまりやや強。粘性欠。貼床層。 |
| 2 黒色土 | ロームブロック（径 1～10mm）を少量含む。しまり極めて強。粘性欠。 | 5 黒色土 | ロームブロック（径 1～15mm）を多量に含み、斑状を呈する。しまり普通。粘性弱。貼床層。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロック（径 1～5mm）を少量含む。しまりやや強。粘性欠。貼床層。 | 6 暗褐色土 | ロームブロック（径 1～2mm）を多量に含む。しまり欠。粘性欠。貼床層。 |

図 154 SI-1 床面平面および断面

規模は長軸 7.4 m、短軸 7.0 m、確認面から床面までの深さ 10 cm を測る。ピットの深さは、P1 が 72 cm、P2 が 69 cm、P4 が 42 cm を測る。

(2) 遺物 (図 157、写真 48)

遺物はほとんどが古墳時代前期の土師器である。いずれも床面からやや浮いた状態で出土している。S 字甕の台部が多く含まれる。台付埴以外に完形品がなく、多くは SI-1 の絶後に遺棄された遺物と考えられる。

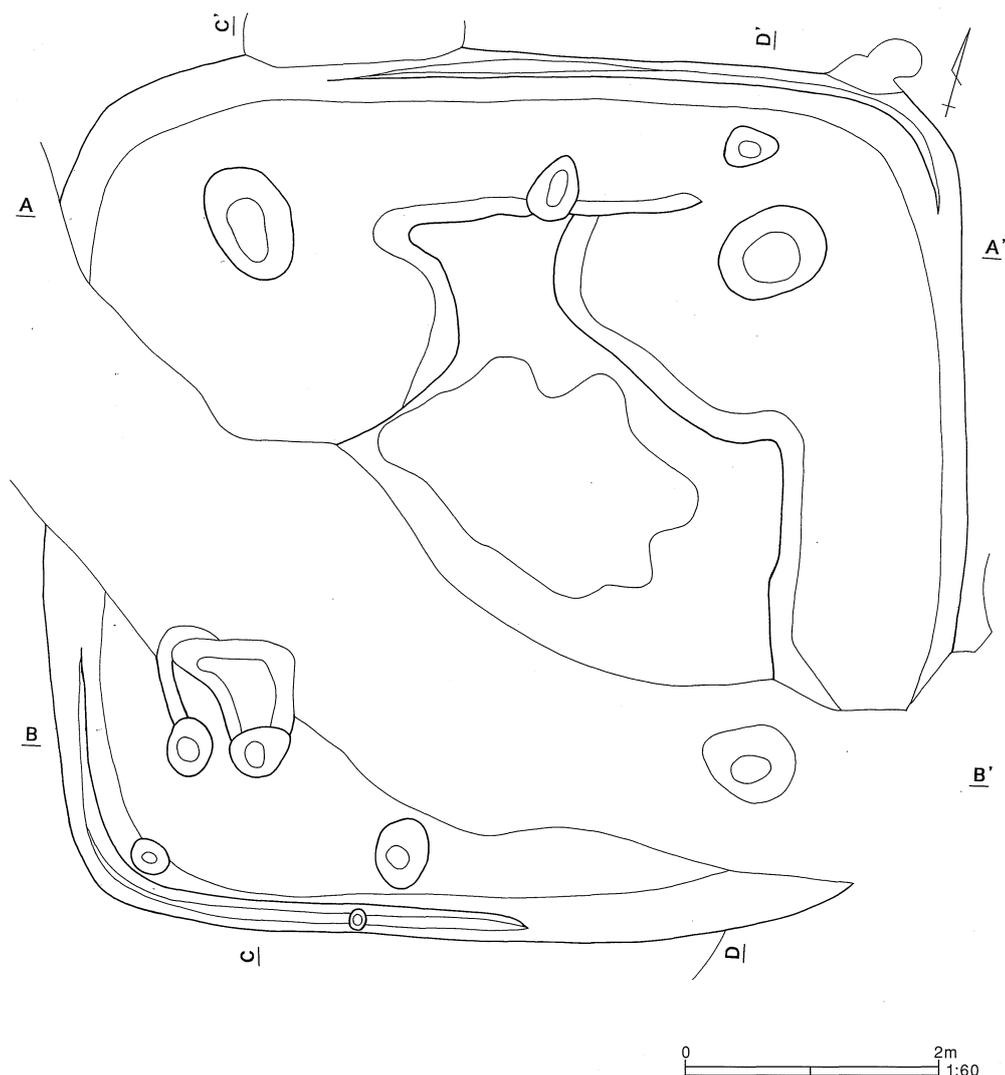


図 155 SI-1 掘り方平面

SI-1 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 ミニチュア 土器	口径 4.6 底径 (2.6) 器高 (3.9)	手捏ね。体部は直立気味に立ち上がり、口縁部は短く外折する。底部は平底。	外面-口縁部~底部指ナデ。内面-口縁部~底部指ナデ。	白色粒 内外-オリブ 黒色	体部~底部一部欠損。
2	土師器 ミニチュア 土器	口径 (6.2) 底径 (3.4) 器高 (3.0)	手捏ね。体部は底部との境にくびれを持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は平底。	外面-口縁部~体部ヘラケズリ、底部ナデ。内面-口縁部~底部ヘラナデ。	チャート・黒色粒 内外-にぶい黄褐色	2/3 残存。
3	土師器 ミニチュア 土器	口径 9.0 底径 3.5 器高 (7.4)	手捏ね。体部はわずかに膨らみを持って立ち上がり、口縁部は短く外折する。底部は平底。	外面-体部上位指ナデ、下位ヘラケズリ。内面-体部~底部指ナデ。	チャート・黒色粒・褐色粒 内外-明褐色	体部~底部一部欠損。
4	土師器 小型鉢	口径 - 底径 2.0 器高 -	体部は湾曲して立ち上がる。底部は平底。	外面-体部ミガキ、底部ナデ。内面-体部~底部ナデ。	黒色粒・白色粒 内-赤色 外-にぶい黄褐色	体部~底部3/4 残存。 内外面赤彩。
5	土師器 器台	口径 (9.2) 底径 - 器高 -	器受部は直線的に開く。	外面-器受部ミガキ。内面-器受部ミガキ。	黒色粒・白色粒 内外-明赤褐色	器受部1/2 残存。
6	土師器 (台付鉢)	口径 - 底径 - 器高 -	台部は外反気味に開く。	外面-台部ミガキ。内面-台部木口状工具ナデ。	チャート・白色粒 内-にぶい褐色 外-にぶい黄褐色	台部1/3 残存。

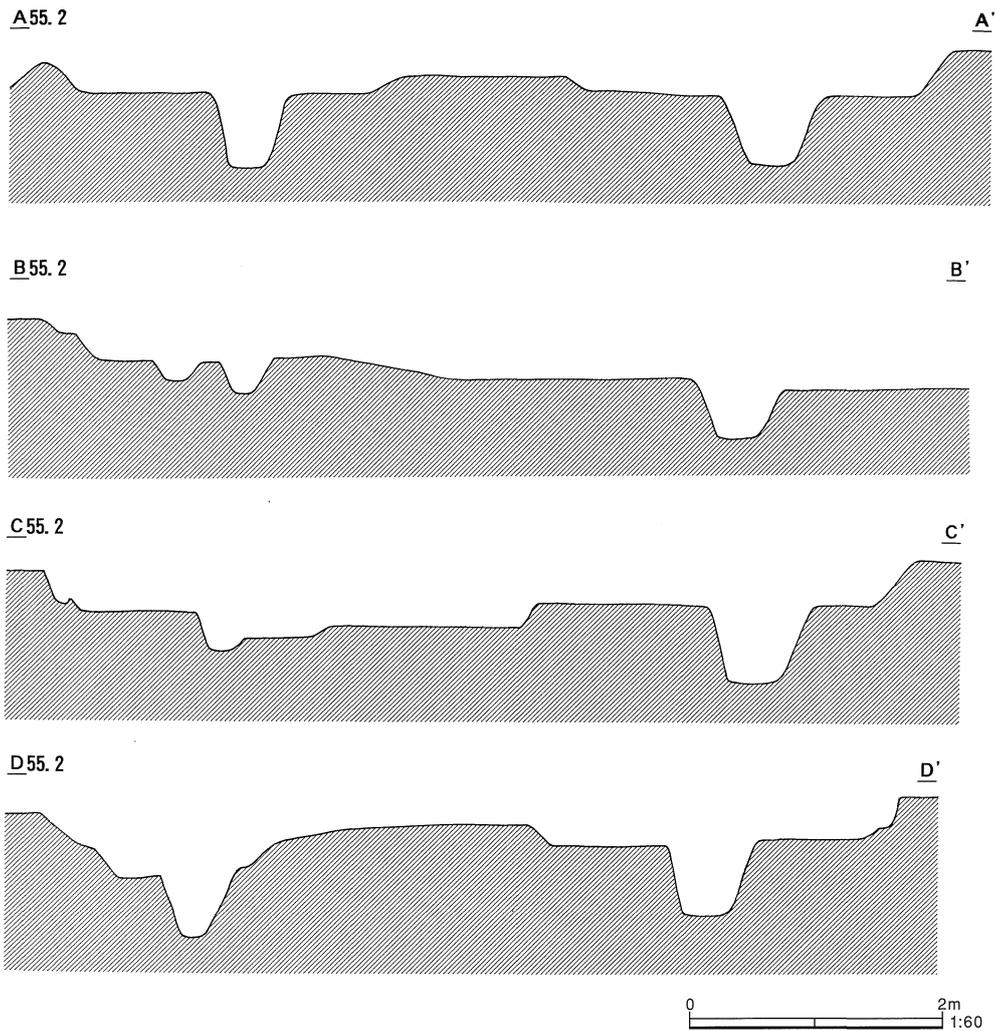


図 156 SI-1掘り方平面

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
7	土師器 台付埴	口径 13.1 底径 7.8 器高 10.3	体部は丸みを持つ。口縁部は外反気味に開き、上位で直立し、端部はわずかに外傾する。台部は外反して開く。	外面－口縁部上位ヨコナデ、口縁部中位～台部ミガキ。内面－口縁部～鉢底部ミガキ、台部上～中位ヘラナデ、下位ヨコナデ。	雲母・白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
8	土師器 埴	口径 － 底径 3.5 器高 －	体部は膨らみを持つ。底部は平底。	外面－体部ミガキ・一部木口状工具ナデ、体部下端～底部ナデ。内面－体部～底部ヘラナデ。	チャート・角閃石 内－にぶい黄橙色 外－明黄褐色	体部～底部 2/3残存。
9	土師器 小型高坏	口径 (12.0) 底径 － 器高 －	坏部は内湾気味に開き、口縁部に至る。	外面－口縁部～坏部ミガキ。内面－口縁部～坏底部ミガキ。	チャート・黒色粒 内－明赤褐色 外－にぶい褐色	坏部1/4残存。
10	土師器 小型高坏	口径 (13.2) 底径 － 器高 －	坏部は内湾気味に開き、口縁部に至る。	外面－口縁部～坏部ミガキ、坏部下端ナデ。内面－口縁部～坏底部ミガキ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	坏部1/2残存。
11	土師器 小型高坏	口径 － 底径 8.3 器高 －	台部は内湾気味に開く。	外面－台部上位木口状工具ナデ、中～下位ミガキ。内面－坏底部・台部木口状工具ナデ。	雲母 内－にぶい褐色 外－にぶい黄褐色	台部残存。
12	土師器 高坏	口径 (23.2) 底径 (12.9) 器高 13.1	坏部は直線的に開いて口縁部に至る。脚部との接合部は突起状。脚部は外反気味に広がる。6孔。	外面－口縁部～裾部ミガキ。内面－口縁部～坏底部ミガキ、脚部～裾部ヘラナデ。	片岩・チャート ・黒色粒 内外－橙色	2/3 残存。

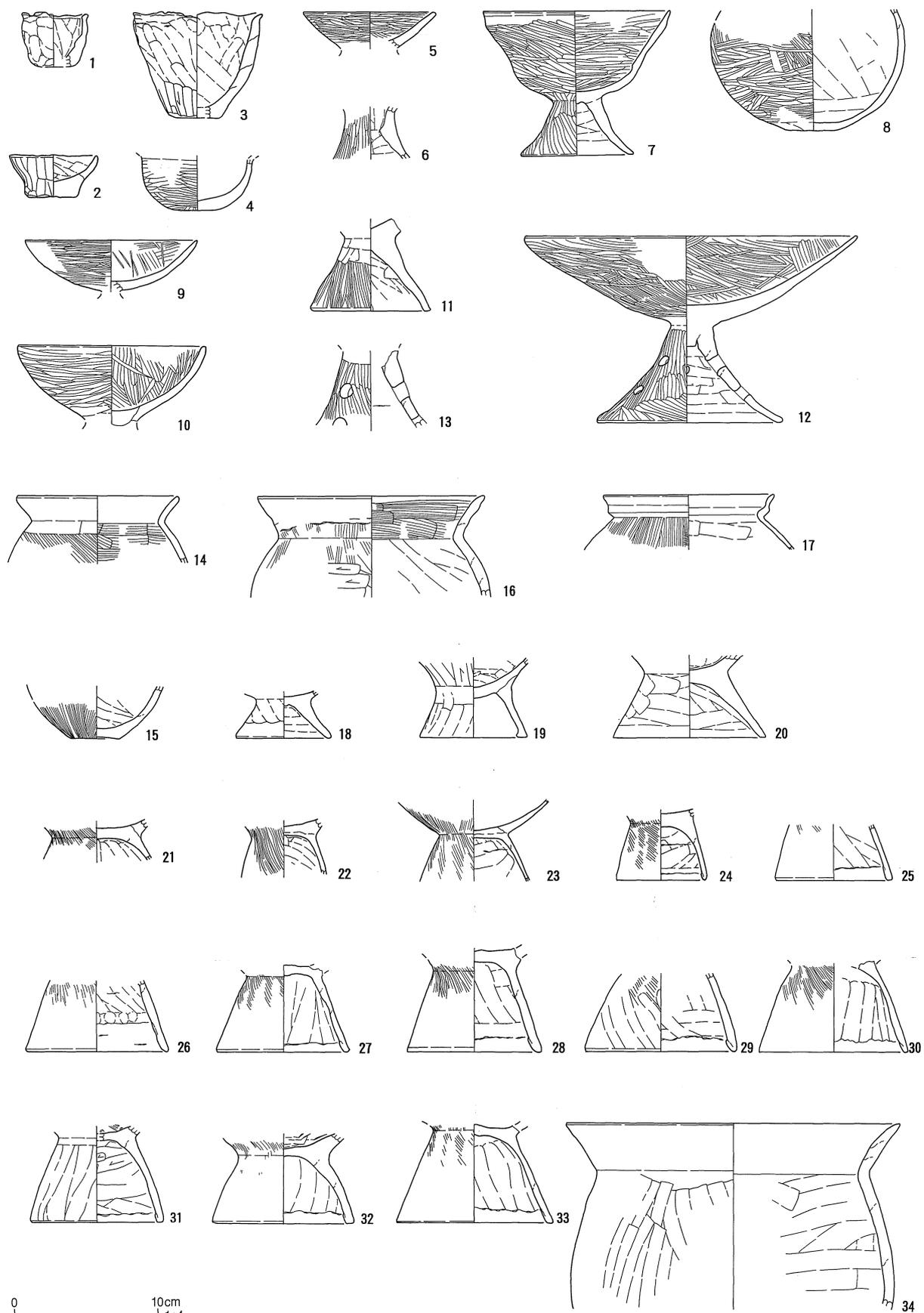


图 157 SI-1出土土器

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
13	土師器 高坏	口径 — 底径 — 器高 —	脚部は外反気味開く。6孔。	外面—脚部ミガキ、上端ナデ。内面—脚部ナデ。	片岩・白色粒 内外—明赤褐色	脚部1/2残存。
14	土師器 小型甕	口径(11.2) 底径 — 器高 —	口縁部は外傾して開く。	外面—口縁部～頸部ヨコナデ、胴部上位ハケ目。内面—口縁部ヨコナデ、胴部上位ハケ目。	角閃石・白色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部上位1/4残存。
15	土師器 小型甕	口径 — 底径 3.4 器高 —	胴部は丸みを持って立ち上がる。底部は平底。	外面—胴部下位ハケ目、底部ナデ。内面—胴部～底部ヘラナデ。	チャート・黒色粒 内—にぶい黄褐色 外—明黄褐色	底部残存。
16	土師器 甕	口径(15.8) 底径 — 器高 —	口縁部は外反して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、頸部ハケ目、胴部上位ヘラケズリ。内面—口縁部ハケ目、胴部上位ヘラナデ。	チャート・黒色粒 内外—褐色	口縁部1/2残存。
17	土師器 台付甕	口径(11.8) 底径 — 器高 —	S字状口縁。胴部は膨らみを持つ。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位ハケ目。内面—口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	石英・黒色粒 内外—にぶい黄褐色	口縁部～胴部上位1/4残存。
18	土師器 (台付甕)	口径 — 底径(6.6) 器高 —	台部は直線的に開く。	外面—台部上位木口状工具ナデ、下位ヨコナデ。内面—台部木口状工具ナデ。	黒色粒・白色粒 内—褐灰色 外—黄灰色	台部1/2残存。
19	土師器 台付甕	口径 — 底径(7.5) 器高 —	台部は外反気味に開き、端部はわずかに内折する。	外面—胴部下位ヘラケズリ、台部ヘラナデ後、上端ヨコナデ。内面—甕底部ヘラナデ、台部ナデ。	黒色粒・白色粒・褐色粒 内—明赤褐色 外—にぶい褐色	台部1/3残存。
20	土師器 台付甕	口径 — 底径 10.6 器高 —	直線的な台部。	外面—台部ヘラナデ、下端ヨコナデ。内面—甕底部・台部ヘラナデ、台部下端ヨコナデ。	チャート・角閃石 内外—にぶい褐色	台部一部欠損。
21	土師器 S字甕	口径 — 底径 — 器高 —	内湾気味の台部。	外面—台部ハケ目後ナデ。内面—甕底部・台部ナデ。	白色粒 内外—にぶい黄褐色	台部1/5残存。
22	土師器 S字甕	口径 — 底径 — 器高 —	内湾気味の台部。	外面—台部ハケ目。内面—甕底部・台部ナデ。	石英・褐色粒 内外—にぶい黄褐色	台部1/3残存。
23	土師器 S字甕	口径 — 底径 — 器高 —	胴部は湾曲気味に開く。直線的な台部。	外面—胴部下位ハケ目、台部ハケ目後ナデ。内面—甕底部ナデ、台部ナデ。	片岩・石英 内外—にぶい黄褐色	胴部下位～台部3/4残存。
24	土師器 S字甕	口径 — 底径 6.2 器高 —	内湾気味の台部。端部折り返し。	外面—台部ハケ目後ナデ。内面—台部ナデ。	石英・黒色粒 内外—にぶい黄褐色	台部一部欠損。
25	土師器 S字甕	口径 — 底径(8.2) 器高 —	直線的な台部。端部折り返し。	外面—台部ハケ目後ナデ。内面—台部ナデ。	片岩・白色粒 内外—にぶい黄褐色	台部1/2残存。
26	土師器 S字甕	口径 — 底径(10.0) 器高 —	直線的な台部。中位で折り返し。	外面—台部ハケ目後ナデ。内面—台部上位指ナデ・指押え、下位ヨコナデ。	片岩・黒色粒 内外—にぶい赤褐色	台部1/3残存。
27	土師器 S字甕	口径 — 底径 9.3 器高 —	直線的な台部。端部折り返し。	外面—台部ハケ目後ナデ。内面—台部ナデ。	片岩・チャート 内外—にぶい黄褐色	台部残存。
28	土師器 S字甕	口径 — 底径(9.3) 器高 —	直線的な台部。端部折り返し。	外面—台部上位ハケ目、中～下位ナデ。内面—台部上～中位ヘラナデ、下位ヨコナデ。	片岩・チャート 内—橙色 外—にぶい黄褐色	台部1/2残存。
29	土師器 S字甕	口径 — 底径(10.5) 器高 —	内湾気味の台部。端部折り返し。	外面—台部ハケ目後ナデ。内面—台部ナデ。	黒色粒・白色粒 内外—にぶい黄褐色	台部1/2残存。
30	土師器 S字甕	口径 — 底径(10.4) 器高 —	直線的な台部。端部折り返し。	外面—台部ハケ目後ナデ。内面—台部ナデ。	石英・黒色粒 内外—にぶい黄褐色	台部1/3残存。
31	土師器 S字甕	口径 — 底径(9.4) 器高 —	内湾気味の台部。端部折り返し。	外面—台部ヘラナデ。内面—甕底部ハケ目、台部ヘラケズリ後、下端ヘラナデ。	片岩・チャート 内外—明黄褐色	台部1/2残存。

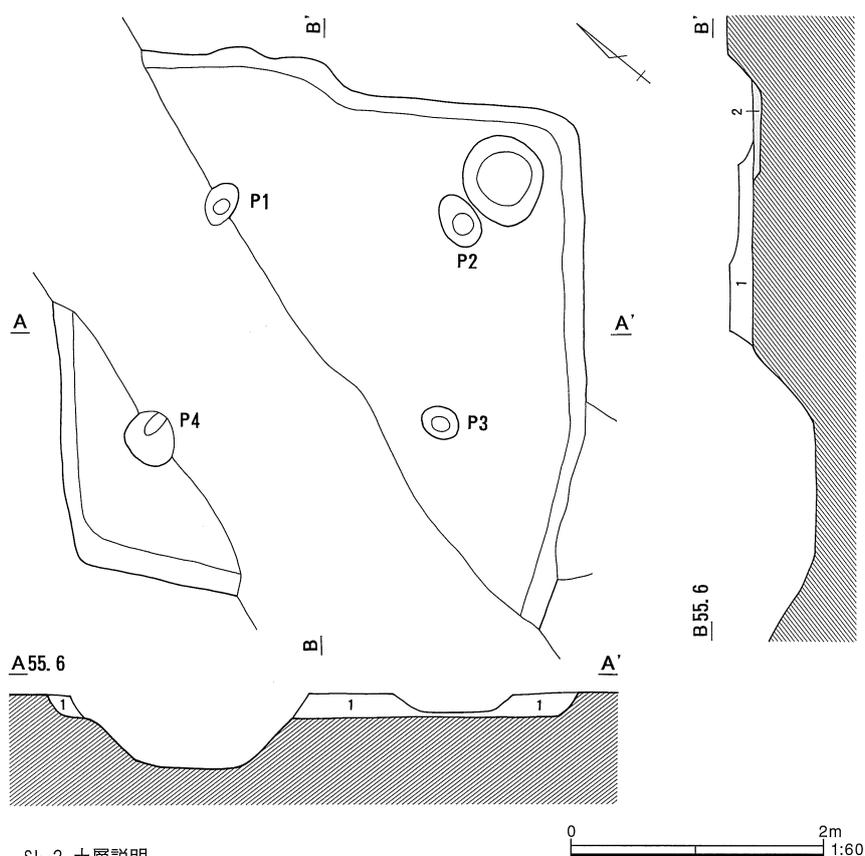
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
32	土師器 S字甕	口径 - 底径 (9.9) 器高 -	内湾気味の台部。端部折り返し。	外面-台部ハケ目後ナデ。内面-甕底部ヘラナデ、台部ナデ。	片岩・チャート 内-赤褐色 外-にぶい褐色	台部1/2残存。
33	土師器 S字甕	口径 - 底径 11.0 器高 -	直線的な台部。端部折り返し。	外面-台部ハケ目後ナデ。内面-台部指ナデ。	片岩・黒色粒・白色粒 内外-にぶい黄橙色	台部2/3残存。
34	土師器 甕	口径 (23.4) 底径 - 器高 -	胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は外反して開く。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内-にぶい黄褐色 外-黄褐色	口縁部~胴部片。

SI-2

(1) 遺構 (図158・159、写真15)

1W-14、1X-14グリッドに位置する。中央から西よりを南北方向に走行するSD-34によって切られている。

平面形は不整な長方形を呈し、四壁の規格も直線をなさず、とくに北東側の一辺は鍵の手状に屈曲している。主軸の方位はN-53°-Eを示す。覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。北東側の壁沿いと南隅の周辺にロームブロックと暗褐色土ブロックを含む黒褐色土を敷いて貼床をおこなっている。その他の部分は、地山をそのまま床面としている。床面は平坦で、貼床部分は硬くしまっている。



SI-2 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5 mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 30~50 mm) を主体に暗褐色土ブロック (径 20~30 mm) を少量含む。しまり極めて強。粘性欠。貼床層。

図 158 SI-2 床面平面および断面

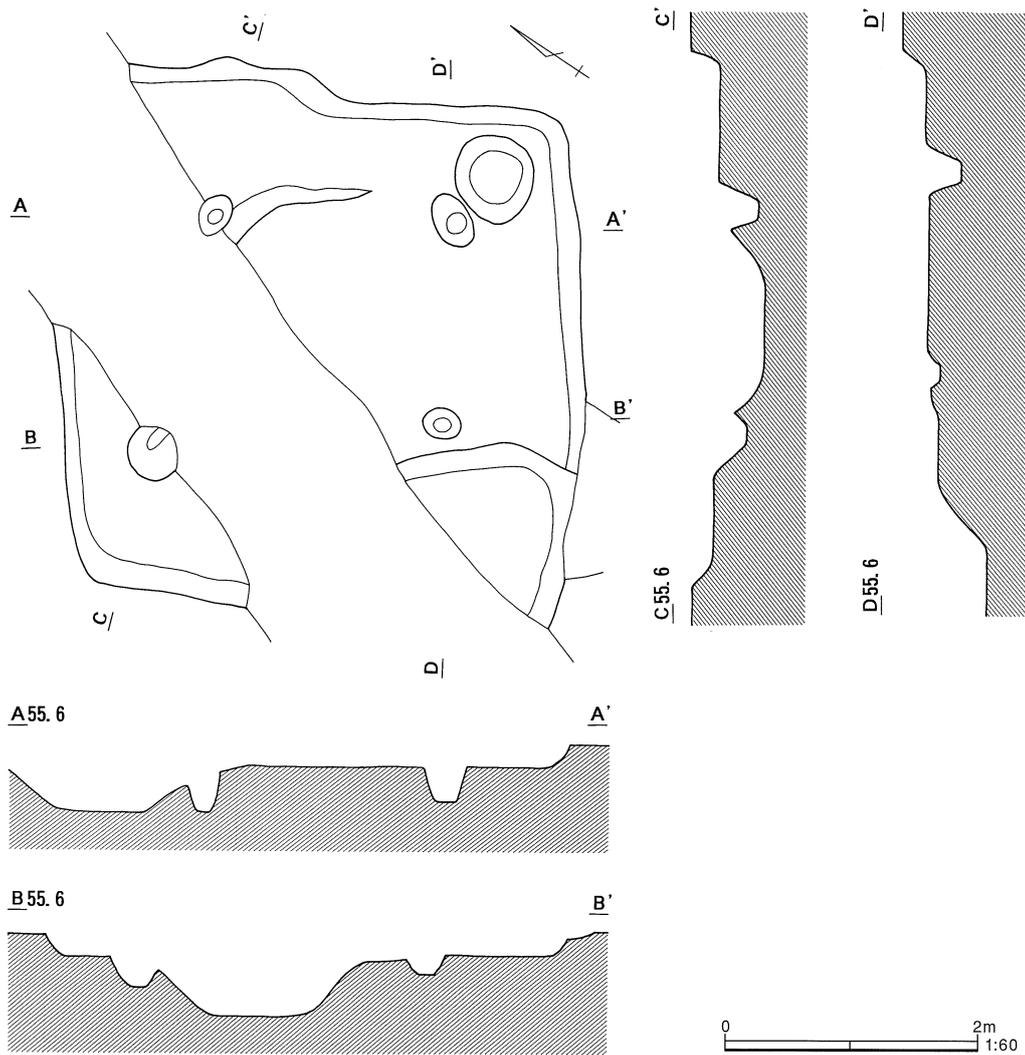


図 159 SI-2 掘り方平面および断面

壁溝は存在しない。東隅に貯蔵穴を設けている。不整な円形を呈し、広く平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットは4基で、いずれも支柱穴である。P2のみが円形で、他は楕円形を呈する。

掘り方は不整形で南北両隅を中心に土坑状に掘り込まれている。

規模は一辺4.1m、確認面からの深さ18cmを測る。貯蔵穴は、上端長径70cm、底径45cmで、床面からの深さは60cmあり、やや深い。ピットの深さは、P1が38cm、P2が28cm、P3が16cm、P4が26cmである。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実にSI-2に伴う遺物は検出されなかった。貯蔵穴においても遺物の出土は皆無であった。

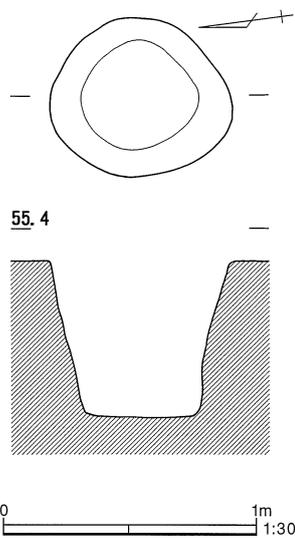


図 160 SI-2 貯蔵穴平面および断面

SI-3

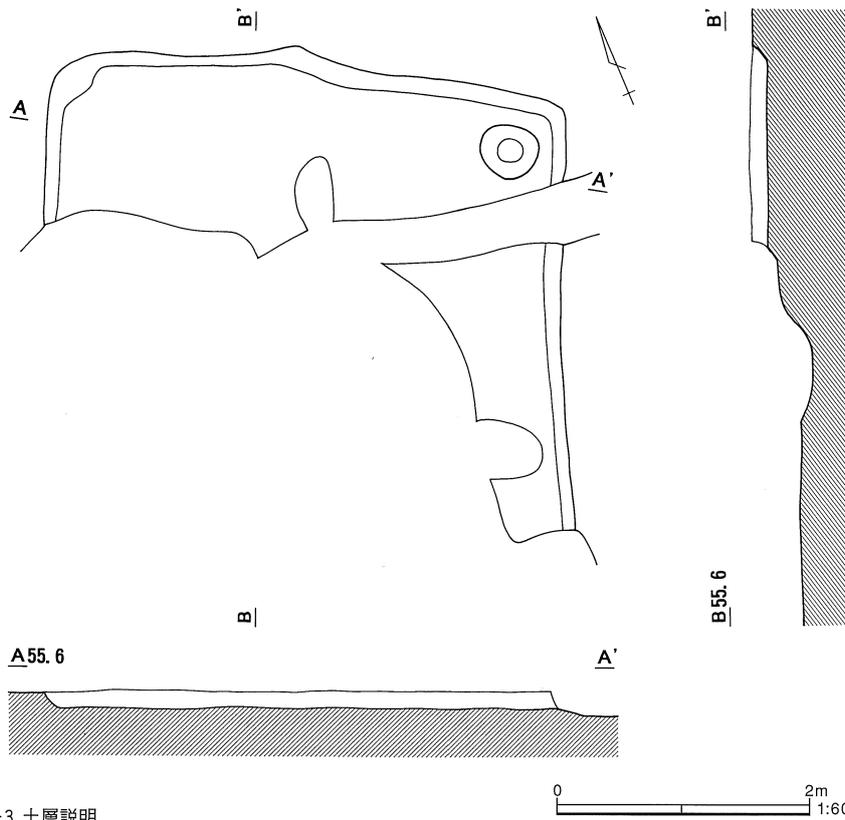
(1) 遺 構 (図 161)

1W-14、1W-15グリッドに位置する。中央部分から西側にかけてをST-63によって大きく切られている。

平面形は不整な方形で、主軸の方位はN-25°-Eを示す。覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。床面には緩やかな起伏がみられる。

壁溝は存在しない。東隅に貯蔵穴を設けている。上端・下端ともに南北方向に長い楕円形を呈し、



SI-3 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。

図 161 SI-3 平面および断面

平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。ピットは検出されていない。

規模は北東壁で 4.1 m、確認面からの深さ 12 cm を測る。貯蔵穴は、上端の長径 48 cm、底径 20 cm、床面からの深さ 15 cm を測る。

(2) 遺 物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-3 に伴う遺物は検出されなかった。貯蔵穴においても遺物の出土は皆無であった。

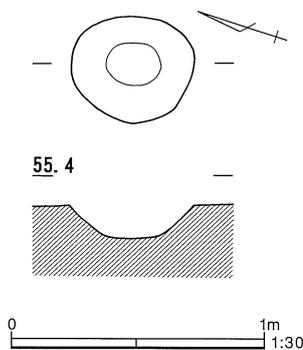


図 162 SI-3 貯蔵穴平面および断面

SI-4

(1) 遺 構 (図 163、写真 15)

1Y-15、1Y-16 グリッドに位置する。南東側でST-44 と重複し、ST-44 の周堀と覆土を大きく切っている。

平面形は不整な隅丸方形で、立ち上がりの傾斜が緩い。長軸の方位はN-40°-Eを示す。覆土は2層に分かれ、下層にロームブロックと炭化物ブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックのみを含む黒褐色土が堆積している。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。ST-44 と重複する部分にもとくに貼床を施していない。床面には緩やかな起伏がみられる。

壁溝は存在せず、ST-44 との重複により明確ではないが、貯蔵穴も設けられていなかったようである。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP1・4の2基で、さらにST-44 の周堀底面でP2・3を検出している。P1・4の2基は大きな楕円形を呈する土坑状の落ち込みとなっており、とくにP4は極度に浅く通常の柱穴と比べ異質である。

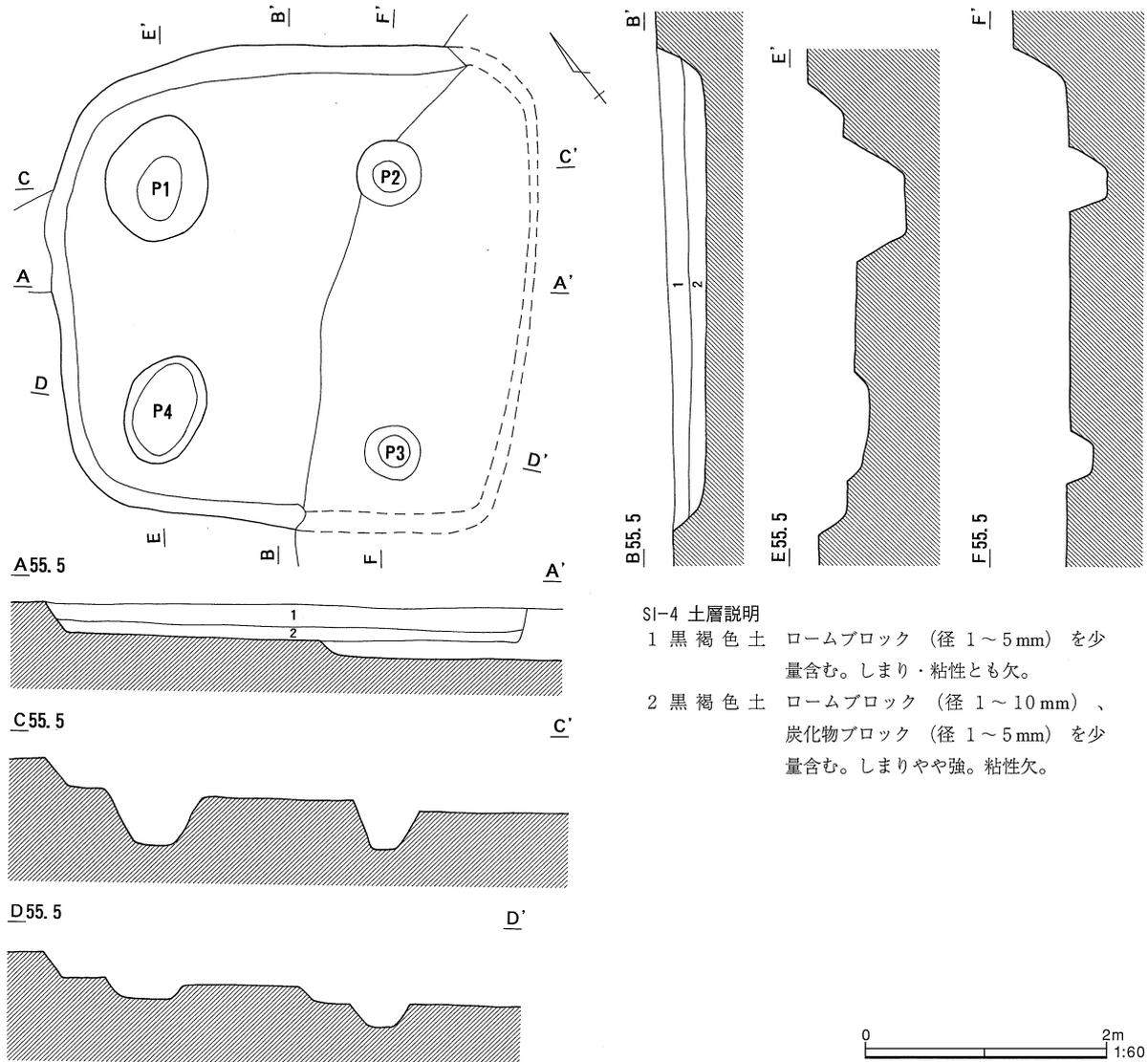


図 163 SI-4 平面および断面

規模は北西壁で3.9 m、確認面からの深さ36 cmを測る。ピットの深さはP1が42 cm、P4が14 cmを測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器・埴輪の小片を若干量出土したのみで、確実にSI-4に伴う遺物は検出されなかった。

SI-5

(1) 遺構 (図164)

1X-15、1X-16グリッドに位置する。中央を南北に走行するSD-34によって切られ、さらに西側をST-44との重複により失っている。

平面形はやや不整な方形を呈するようである。主軸の方位はN-60°-Eを示す。覆土にはロームブロックと焼土ブロックを含む黒褐色土が堆積している。

ロームブロックを多量に含む黒褐色土を敷いて全面に貼床を施している。床面は平坦で、硬くしま

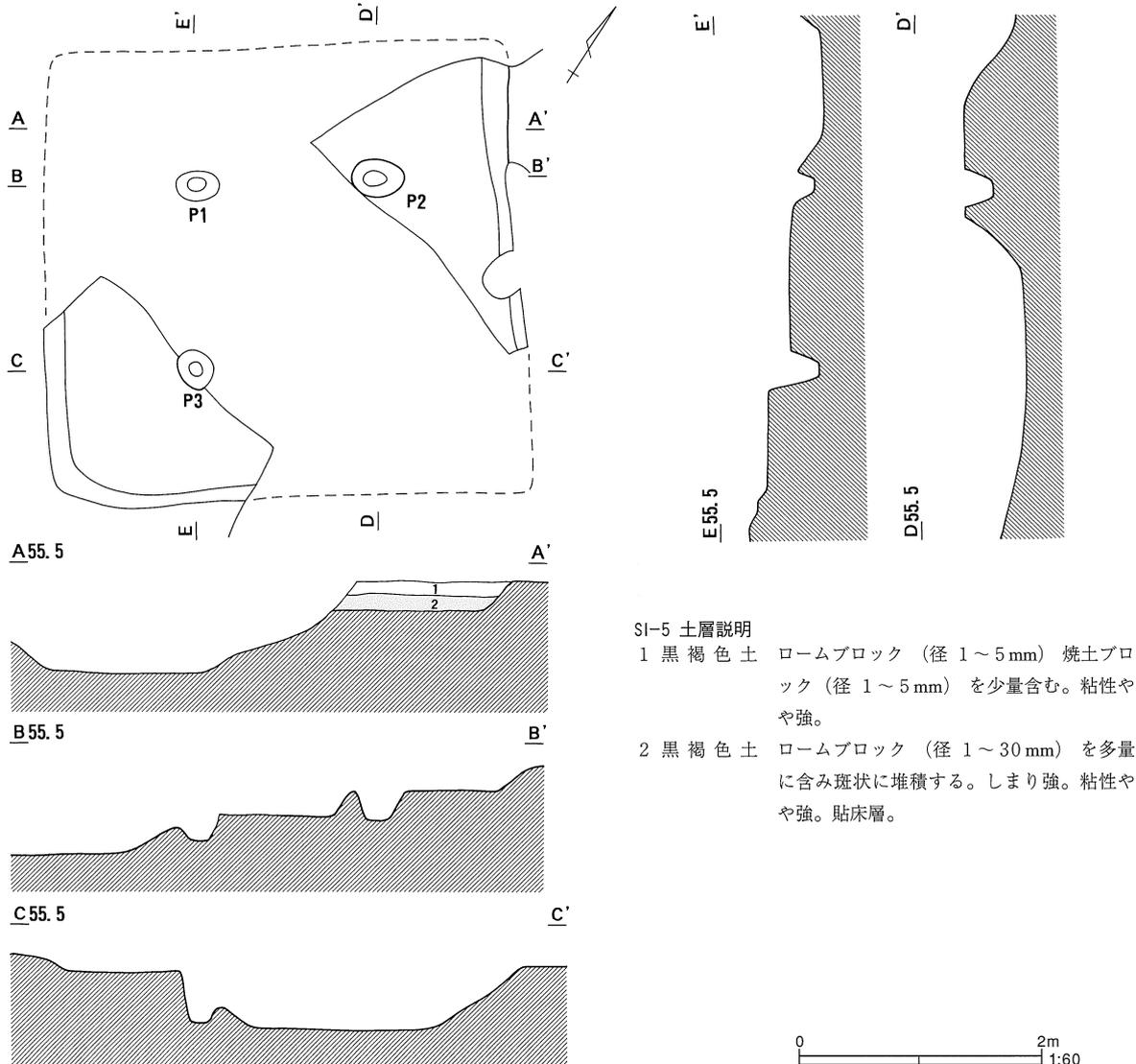


図164 SI-5平面および断面

っている。

確認の範囲で、壁溝は認められない。SD-34 や ST-44 との重複により明確ではないが、貯蔵穴も設けられていなかったようである。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットは P2・3 の 2 基で、さらに SD-34 の内部で検出の P1 を加えた 3 基が主柱穴である。いずれも不整な円形もしくは楕円形を呈する。

規模は東南壁で 4.0 m、確認面からの深さ 12 cm を測る。ピットの深さは、P2 が 24 cm、P3 が 44 cm を測る。

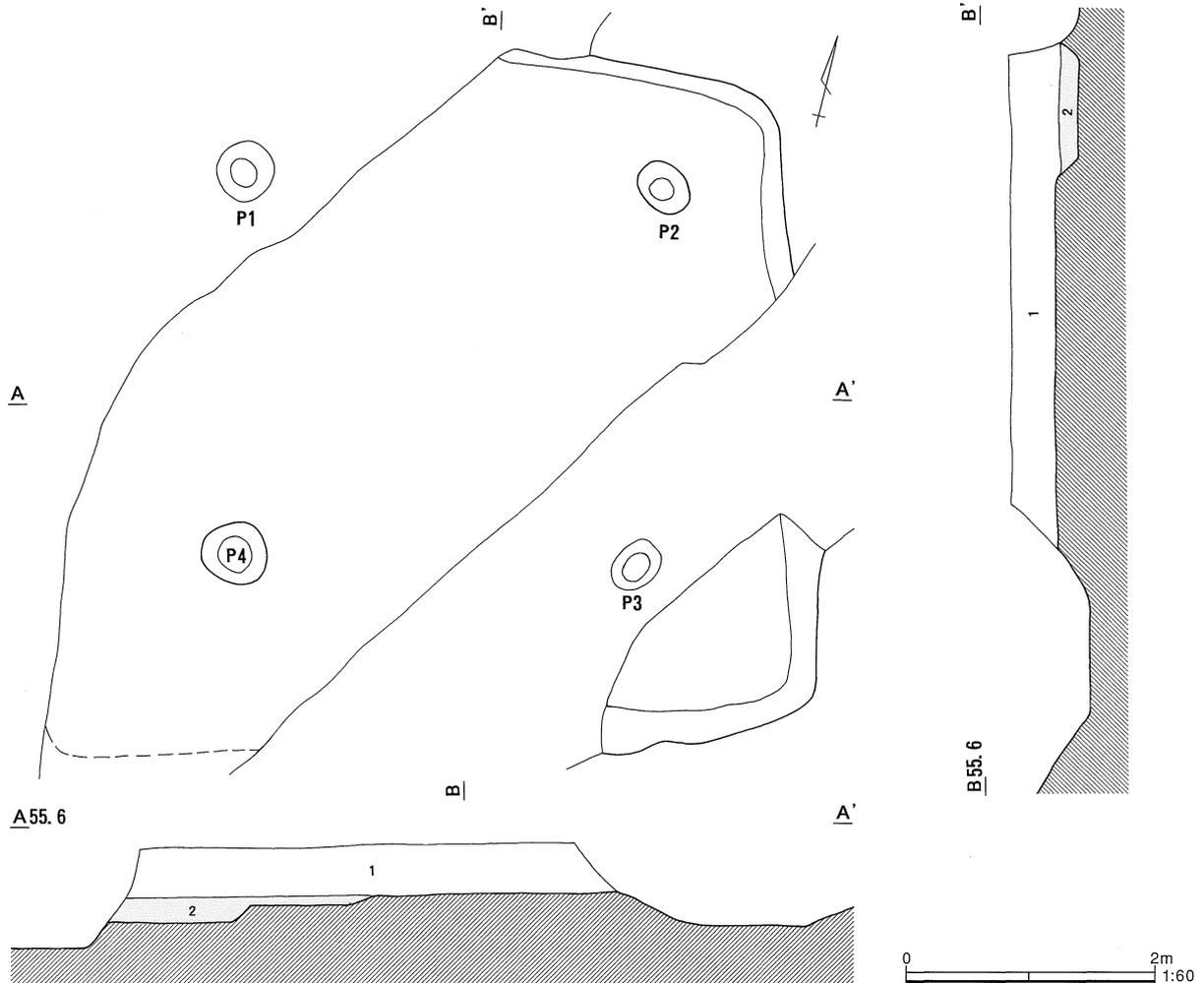
(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-5 に伴う遺物は検出されなかった。

SI-6

(1) 遺構 (図 165・166、写真 15)

1X-16、1Y-16 グリッドに位置する。東壁の中央から南壁にかけてを SD-34 により失い、北西隅か



SI-6 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5 mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック (径 1~10 mm) を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。

図 165 SI-6 床面平面および断面

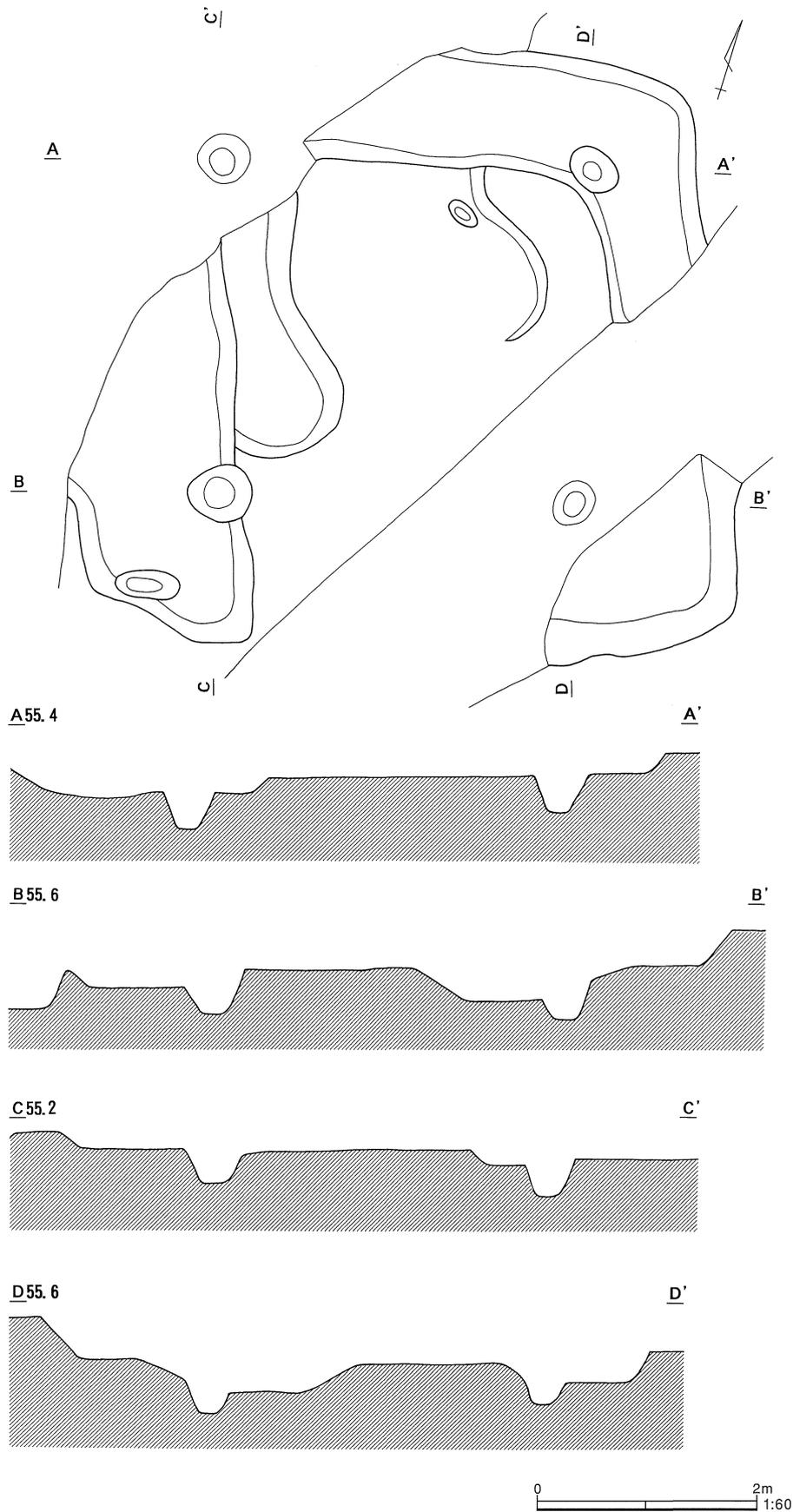


図 166 SI-6 掘り方平面および断面

ら西壁はST-44 によって切られている。

平面形は不整な隅丸方形で、主軸の方位はN-63°-Eを示す。覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。

床は四周にロームブロックを多量に含む黒色土を敷いて貼床を施し、中央部分は貼床をもたず、地山をそのまま床面としている。床面は平坦で、貼床部分は硬くしまっている。

確認の範囲で、壁溝は認められない。SD-34 やST-44 との重複により明確ではないが、貯蔵穴も設けられていなかったようである。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP2・4の2基で、さらにST-44 の周堀底面で検出のP1とSD-34 の内部で検出のP3を加えた4基が支柱穴である。いずれも不整な円形もしくは楕円形を呈する。

掘り方は床面の四周を掘り込んで中央部分の地山を方形に高く掘り残している。

規模は北東壁で5.5 m、確認面からの深さ28 cmを測る。ピットの深さはP2が34 cm、P4が42 cmを測る。

(2) 遺 物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実にSI-6に伴う遺物は検出されなかった。

SI-7

(1) 遺 構 (図167・168、写真16)

1Y-16 グリッドに位置する。北東隅から東壁全体および南壁東半にかけてをST-44 によって切られ

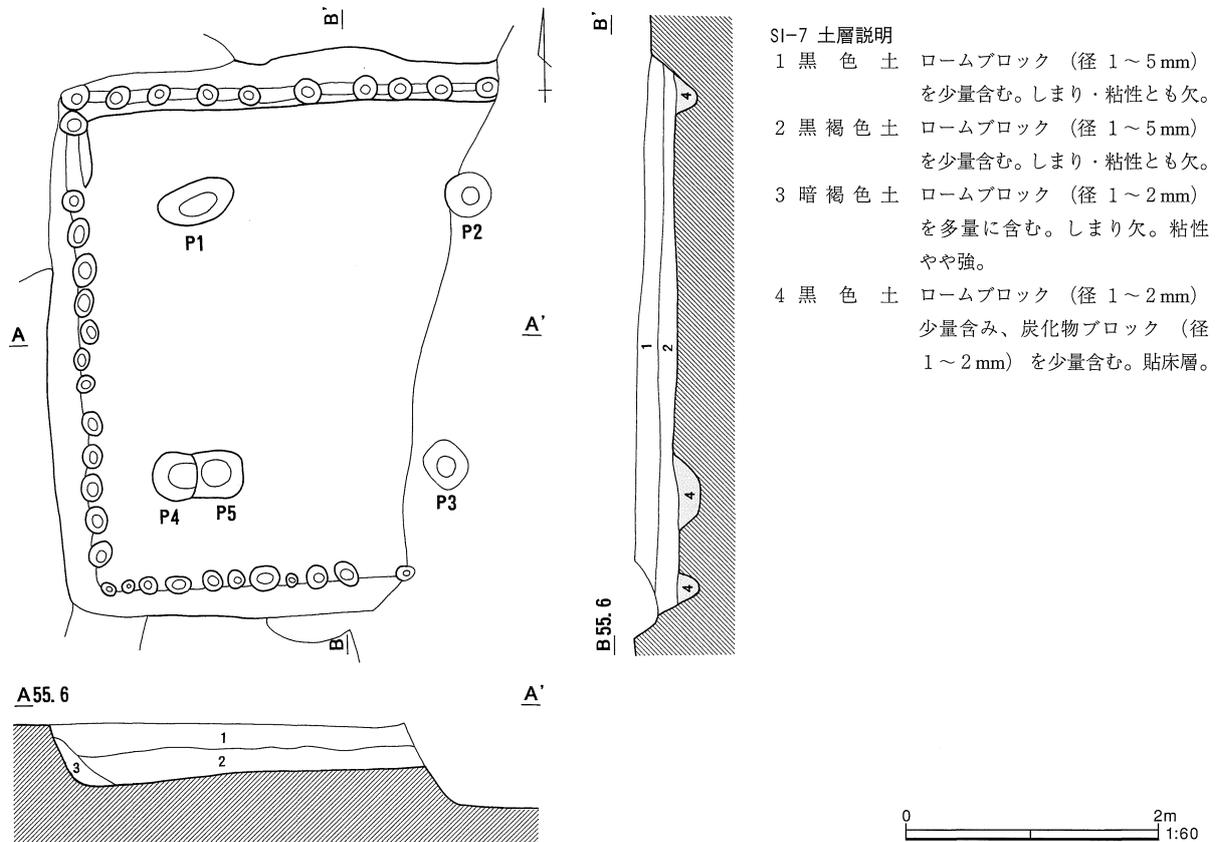


図167 SI-7床面平面および断面

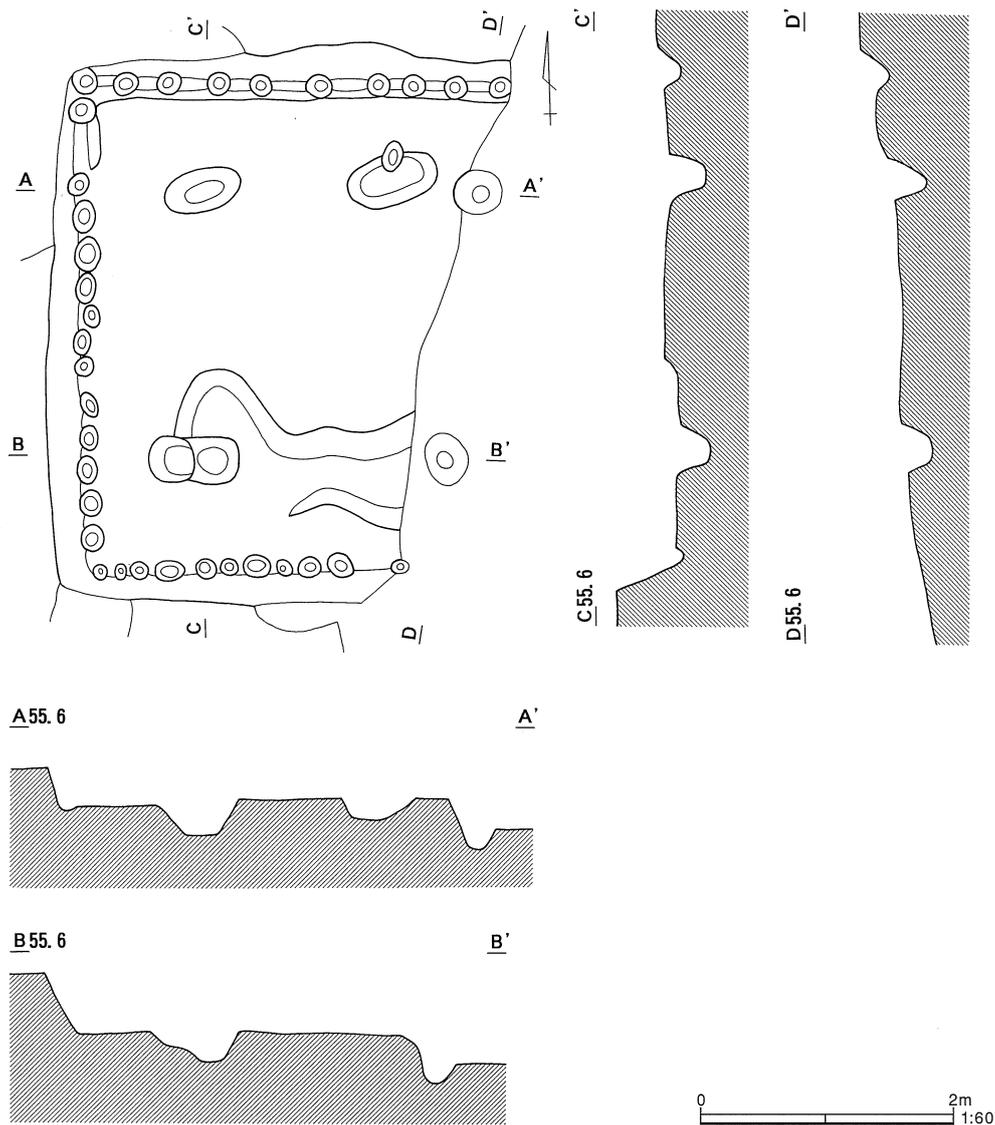


図 168 SI-7 掘り方平面および断面

ている。

平面形は正方形で、主軸の方位はN-70°-Eを示す。覆土は2層に大別され、下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土が堆積している。また、壁際には部分的にロームブロックを多量に含む暗褐色土の堆積する箇所がある。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としているが、南壁側に東西方向に不整形の掘り込みがみられ、この部分にロームブロックと炭化物ブロックを含む黒色土が充填されている。床面は中央部分が若干高く、西壁および南壁側がやや低い。黒色土が充填された箇所は硬くしまっている。

北壁から北西隅にかけて壁溝が巡り、壁際には連続する小ピットがあって、確認の範囲でを全周している。ST-44との重複により明確ではないが、貯蔵穴は設けられていなかったようである。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP1・4・5の3基で、さらにST-44の周堀内部でP2・3を検出している。いずれも不整な円形もしくは楕円形を呈する。すべて支柱穴と判断されるが、隣接するP4・5の前後関係は不明で、住居廃絶時の支柱穴の配置は判然としない。

掘り方は南壁側に存在する不整形の掘り込みのほか、P1・2の間に楕円形の浅い落ち込みが存在する。

規模は西壁で4.3 m、確認面からの深さ50 cmを測る。ピットの深さはP1が25 cm、P4が27 cm、P5が14 cmを測る。

(2) 遺物 (図169、写真49)

遺物は床面直上で土師器甕1点を検出したほか、いずれも床面からやや浮いた状態で古墳時代中期の土師器高坏・甕の破片が出土している。また、ピットの内部や覆土上層にも古墳時代前・中期の小片がわずかに含まれる。

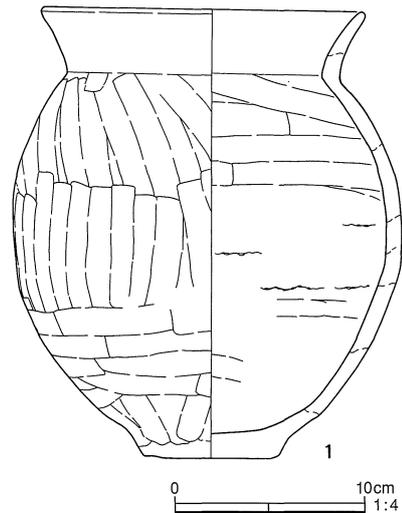


図169 SI-7出土土器

SI-7出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器甕	口径(17.1) 底径 7.1 器高 23.9	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部は台状。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ後中央部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	チャート・角閃石 内-明褐色 外-明赤褐色	4/5残存。

SI-8

(1) 遺構 (図170・171、写真16)

1Y-16、1Z-16グリッドに位置する。北西隅から床面北半、東壁にかけてをST-45によって切られている。

平面形は東西方向にやや長い隅丸長方形で、主軸の方位はN-6°-Eを示す。覆土は2層に大別され、下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックと焼土ブロックを含む黒色土が堆積している。

床は四周にロームブロックを含む黒色土を敷いて貼床を施し、中央部分は貼床をもたず、地山をそのまま床面としている。床面は北壁および東壁側がやや高く、南壁および西壁側が若干低い。貼床部分は硬くしまっている。

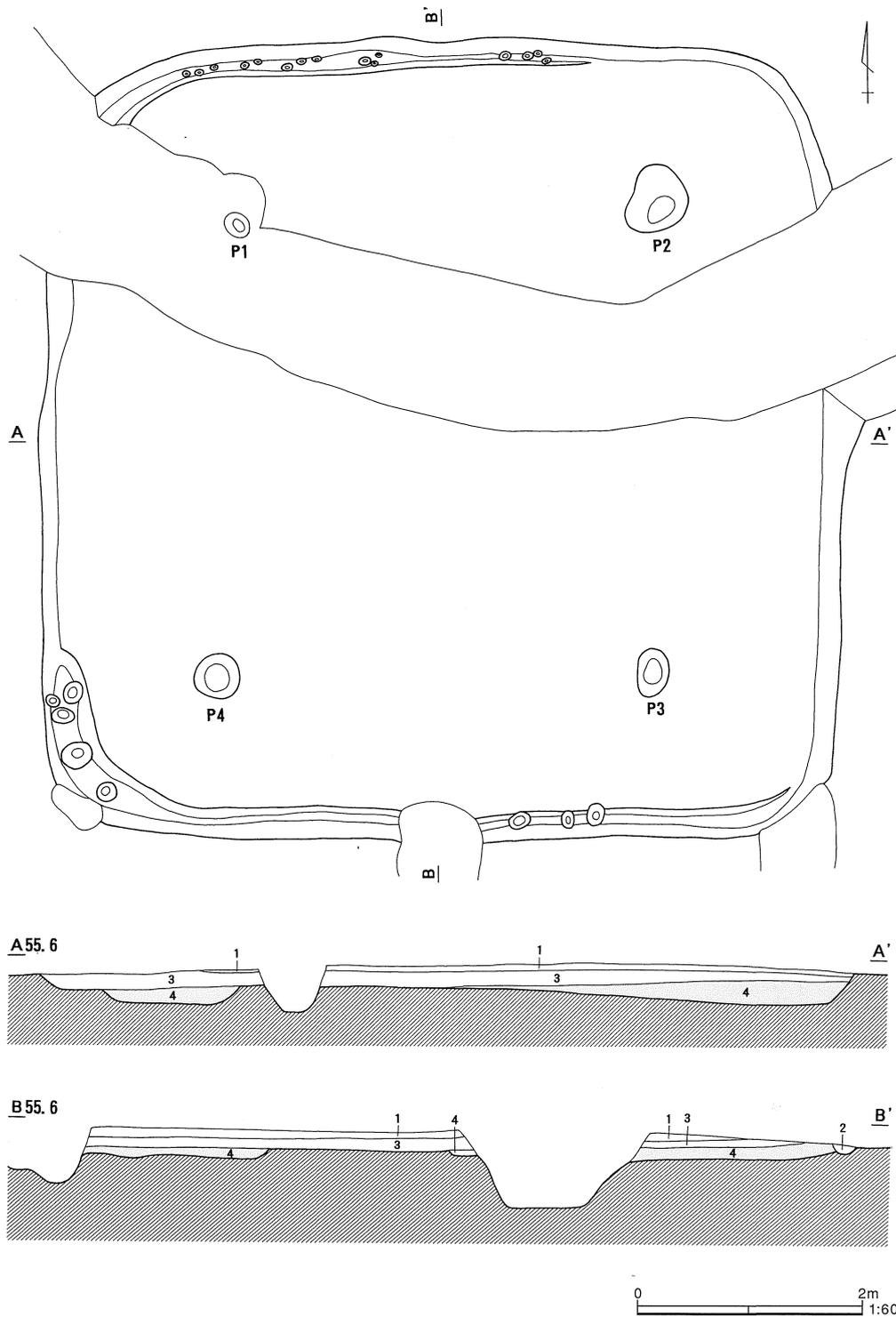
北西隅から北壁の一部にかけてと南西隅から南壁全体には壁溝が巡り、壁溝内には小ピットが断続的にみられる。貯蔵穴は存在せず、炉・竈も確認できない。床面で確認したピットはP2・3・4の3基で、さらにST-45の周堀底面で検出のP1を加えた4基が支柱穴である。いずれも不整な円形もしくは楕円形を呈する。

掘り方は床面の四周を掘り込んで中央部分の地山を方形に高く掘り残している。掘り方面には不整形のピットが各所にみられる。

規模は長軸7.4 m、短軸7.1 m、確認面からの深さ14 cmを測る。ピットの深さはP2が30 cm、P3が22 cm、P4が32 cmを測る。

(2) 遺物 (図172、写真49)

遺物はいずれも床面からやや浮いた状態で土師器甕、小型甕および砥石・薦編石が出土している。



SI-8 土層説明

- | | | | |
|--------|---|-------|---|
| 1 黒褐色土 | ロームブロック (径 1~5mm) 焼土ブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | 3 黒色土 | ロームブロック (径 1~10mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 |
| 2 黒色土 | ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | 4 黒色土 | ロームブロック (径 1~10mm) を少量含む。しまり極めて強。粘性欠。貼床層。 |

図 170 SI-8 床面平面および断面

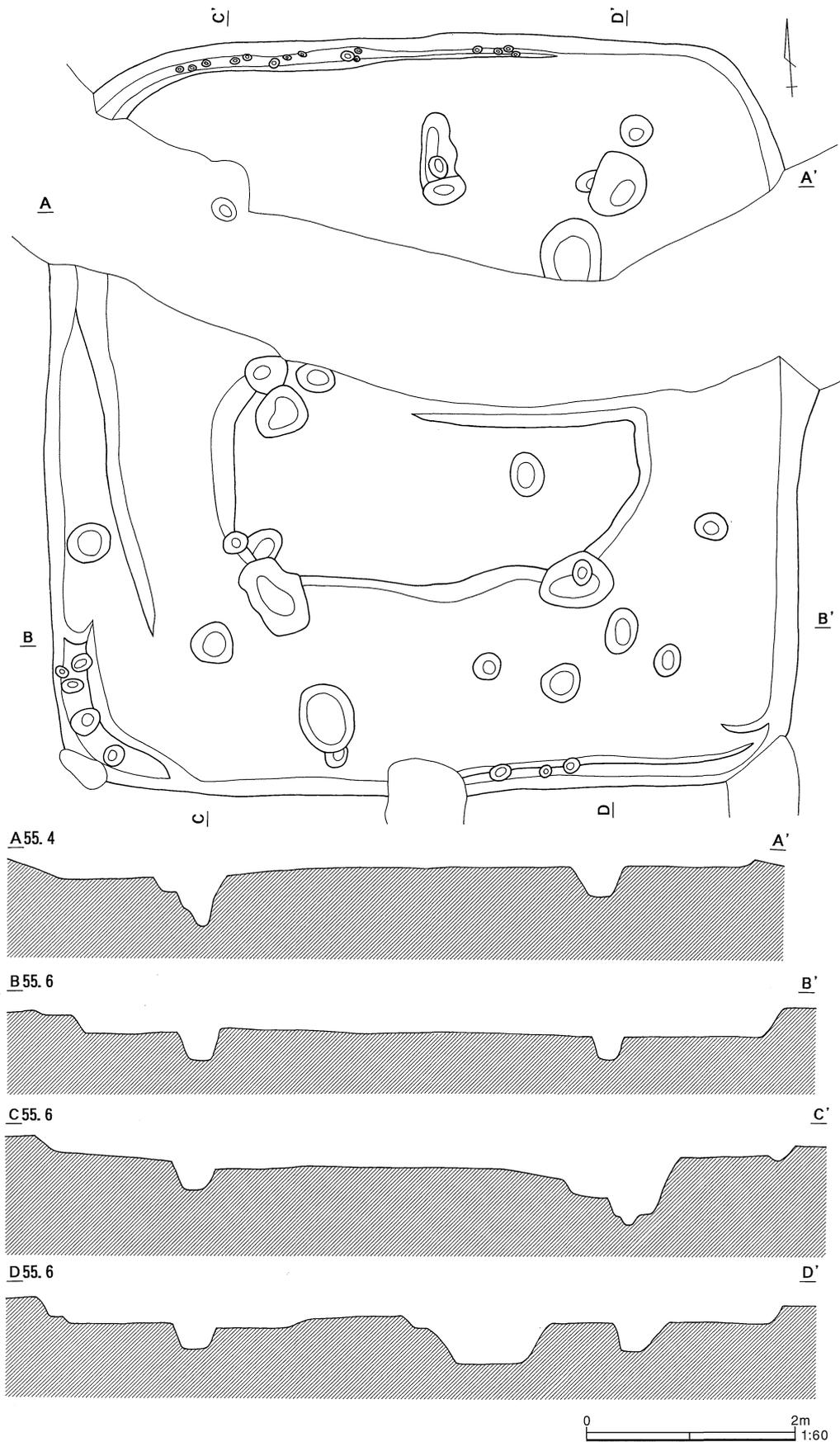


図 171 SI-8 床面平面および断面

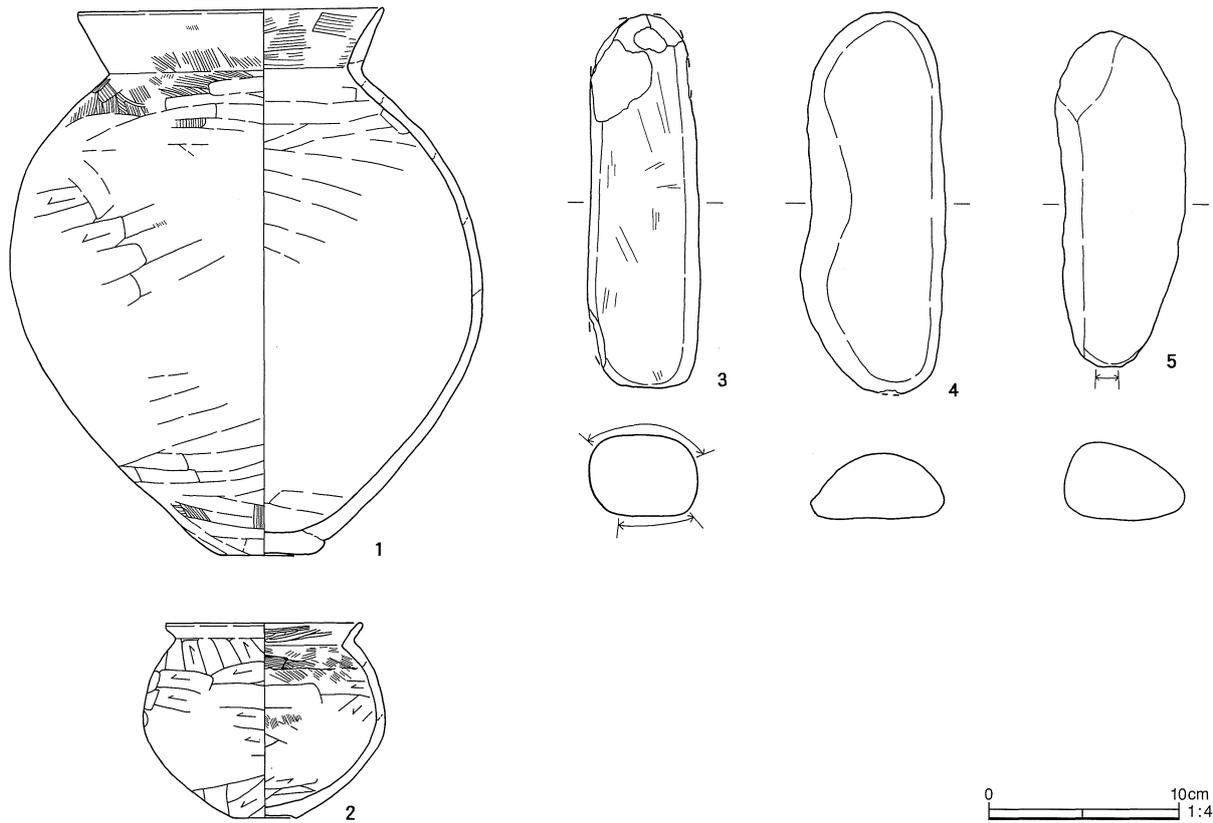


図 172 SI-8 出土土器・砥石・蔦編石

SI-8 出土土器・砥石・蔦編石観察表

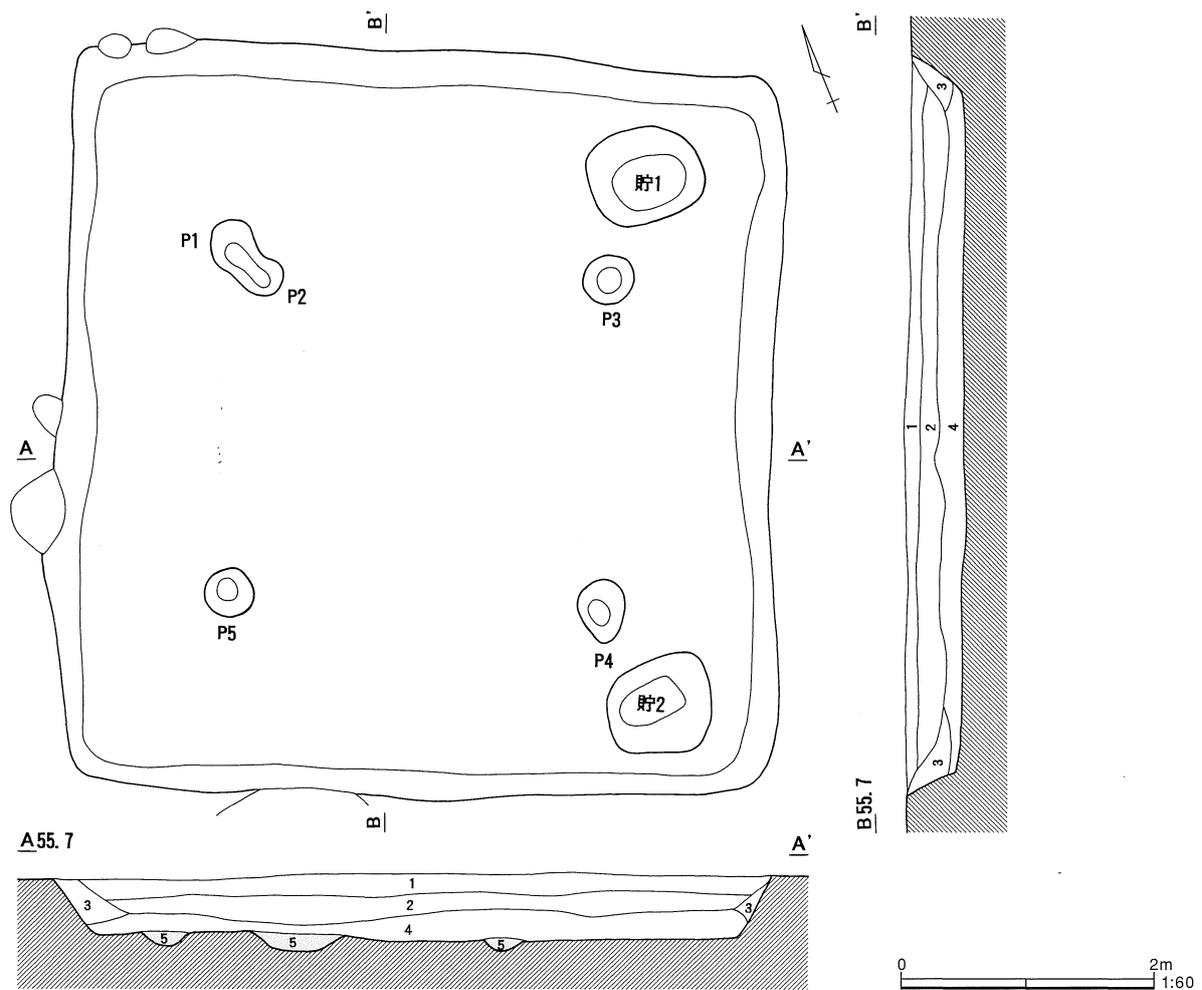
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 16.3 底径 4.9 器高 29.1	胴部は上～中位に大きく膨らみを持ち、口縁部は外傾して開く。底部は平底。	外面－口縁部ハケ目後ヨコナデ、胴部ハケ目後、上・下位ヘラナデ、中位ヘラケズリ、底部指ナデ。内面－口縁部ハケ目、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート・褐色粒 内外－橙色	1/3残存。
2	土師器 小型甕	口径 (10.4) 底径 3.4 器高 10.3	胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は短く外傾する。底部は上げ底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ミガキ、胴部上位ハケ目後ヘラケズリ、下位～底部ヘラケズリ。	片岩・黒色粒・白色粒 内外－橙色	2/5残存。
No.	器種	法量 (cm・g) ・ 材質 ・ 特徴				備考
3	砥石	長さ：19.9 最大幅：5.9 最大厚：4.3 残重：1005.75 輝石安山岩 上下面平滑でわずかに擦痕あり				一部欠損。
4	蔦編石	長さ：23.0 最大幅：7.5 最大厚：3.4 重さ：929.79 輝石安山岩				ほぼ完形。
5	蔦編石	長さ：17.9 最大幅：6.6 最大厚：4.0 重さ：760.31 輝石安山岩 端部敲打痕あり				完形。

SI-9

(1) 遺構 (図 173・174、写真 16)

1Z-16、1Z-17グリッドに位置する。

平面形は南北方向にやや長い方形で、主軸の方位はN-25°-Eを示す。覆土は3層に大別され、下層にロームブロックを含む黒褐色土、中層に白色パミスとロームブロックを含む黒色土、上層に同じく白色パミスとロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。



SI-9 土層説明

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 黒褐色土 | 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | 4 黒褐色土 | しまり・粘性とも欠。ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 |
| 2 黒色土 | 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | 5 黒褐色土 | しまり・粘性とも欠。ロームブロック (径 1~15mm) を多量に含む。しまり・粘性とも強。貼床層。 |
| 3 黒色土 | ロームブロック (径 1~5mm) を多量に含む。 | | |

図 173 SI-9床面平面および断面

床は各所にピット状の落ち込みがあり、ロームブロックを多量に含む黒褐色土が充填されている。その他の部分は地山をそのまま床面としている。床面は南壁および西壁側がやや高く、北壁および東壁側が低い。黒褐色土が充填された部分は硬くしまっている。

壁溝は存在しない。貯蔵穴は北東隅および南東隅に1箇所ずつ存在する。上端・下端ともに不整な円形を呈し、平坦な底面をもつ。炉・竈も確認できない。

床面で確認したピットはP1~5の5基で、いずれも円形ないし不整円形を呈する。隣接するP1・2は一部が重複している。すべて支柱穴と判断されるが、P1・2の前後関係は不明で、住居廃絶時の支柱穴の配置は判然としない。

規模は長軸 5.9 m、短軸 5.6 m、確認面からの深さ 50 cmを測る。貯蔵穴 1 は長径 90 cm、底径 56 cm、床面からの深さ 39 cm、貯蔵穴 2 は長径 81 cm、底径 50 cm、床面からの深さ 36 cmを測る。ピットの深さはP1が 22 cm、P2が 20 cm、P3が 30 cm、P4が 32 cm、P5が 34 cmを測る。

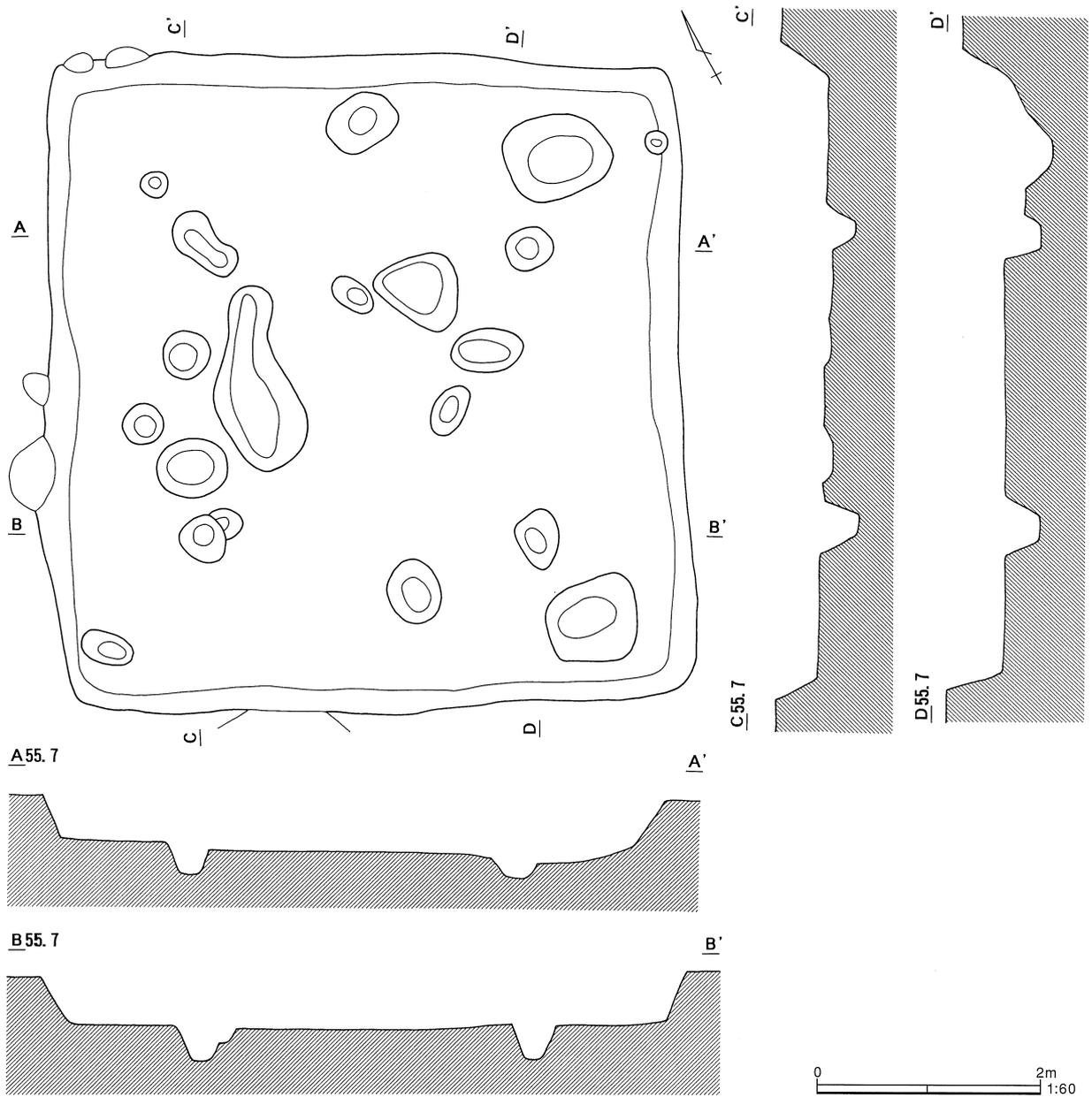


図 174 SI-9 掘り方平面および断面

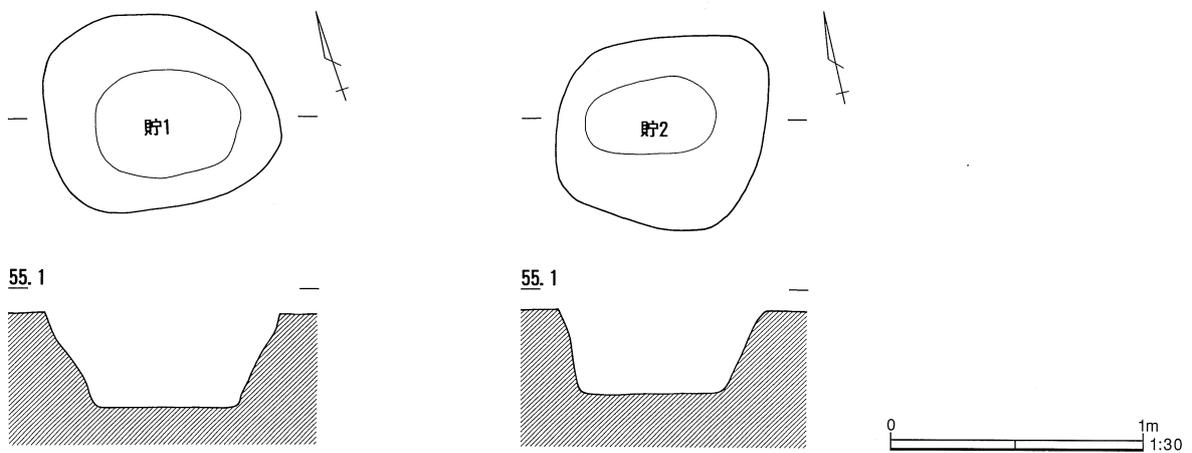


図 175 SI-9 貯蔵穴平面および断面

(2) 遺物 (図 176 ~ 182、写真 49 ~ 56)

遺物は覆土上層から床面近くにかけて多種多量の土師器と少数の須恵器を検出している。出土状況からSI-9の廃絶後に土器捨て場として利用されたことにより、大量の土器類が集積されたものと推測される。これらの土器類は主に北西隅の方向から連続的に投棄されたらしく、この部分を扇頂として扇状地状に堆積している状態であった。

SI-9 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 10.6 底径 6.4 器高 5.4	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内傾して立ち上がる。底部は上底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケンマ。	雲母・チャート・角閃石 内外-赤褐色	口縁部1/3欠損。
2	土師器 坏	口径 13.2 底径 5.6 器高 5.7	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外傾する。底部は上底。	外面-口縁部ヨコナデと指頭痕、体部~底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・赤褐色粒 内外-にぶい褐色	口縁部~底部2/3。
3	土師器 坏	口径(13.0) 底径 - 器高 5.5	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外傾して開く。底部は平底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	雲母 内外-にぶい褐色	口縁部~底部1/2。
4	土師器 坏	口径 12.8 底径 - 器高 5.4	体部は内湾して立ち上がり、口縁部との境にわずかな稜線を有する。底部は平底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・チャート 内-赤褐色 外-明赤褐色	ほぼ完形。底部外面に「十」字の線刻。
5	土師器 坏	口径 13.7 底径 - 器高 (5.0)	体部~口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は平底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外-橙色	口縁部~底部3/4。外面に黒斑。
6	土師器 坏	口径 13.5 底径 - 器高 5.0	体部~口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・石英 内-明赤褐色 外-橙色	口縁部4/5欠損。
7	土師器 坏	口径 15.2 底径 5.5 器高 5.6	体部~口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は上底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部指頭痕と筧先状工具痕、底部筧先状工具痕。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・チャート・赤褐色粒 内外-明赤褐色	口縁部~底部5/6。口縁部に棒状圧痕。
8	土師器 坏	口径(13.0) 底径 - 器高 6.0	体部~口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	雲母・褐色粒 内外-にぶい褐色	口縁部~底部1/2。外面に黒斑。
9	土師器 坏	口径 12.4 底径 - 器高 5.5	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	雲母・チャート・赤褐色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
10	土師器 坏	口径 12.8 底径 - 器高 5.5	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部摩滅。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・石英 内-明赤褐色 外-橙色	口縁部~底部ほぼ完形。
11	土師器 坏	口径 12.8 底径 - 器高 5.9	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内傾して立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・赤褐色粒 内-明赤褐色 外-にぶい橙色	口縁部~底部1/2。
12	土師器 坏	口径 13.2 底径 - 器高 4.8	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は平底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・石英 内外-明赤褐色	ほぼ完形。
13	土師器 坏	口径 13.4 底径 - 器高 5.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。底部は平底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・片岩 内外-にぶい赤褐色	口縁部1/3欠損。
14	土師器 坏	口径 14.0 底径 - 器高 6.1	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	雲母・石英 内-にぶい黄褐色 外-にぶい褐色	ほぼ完形。

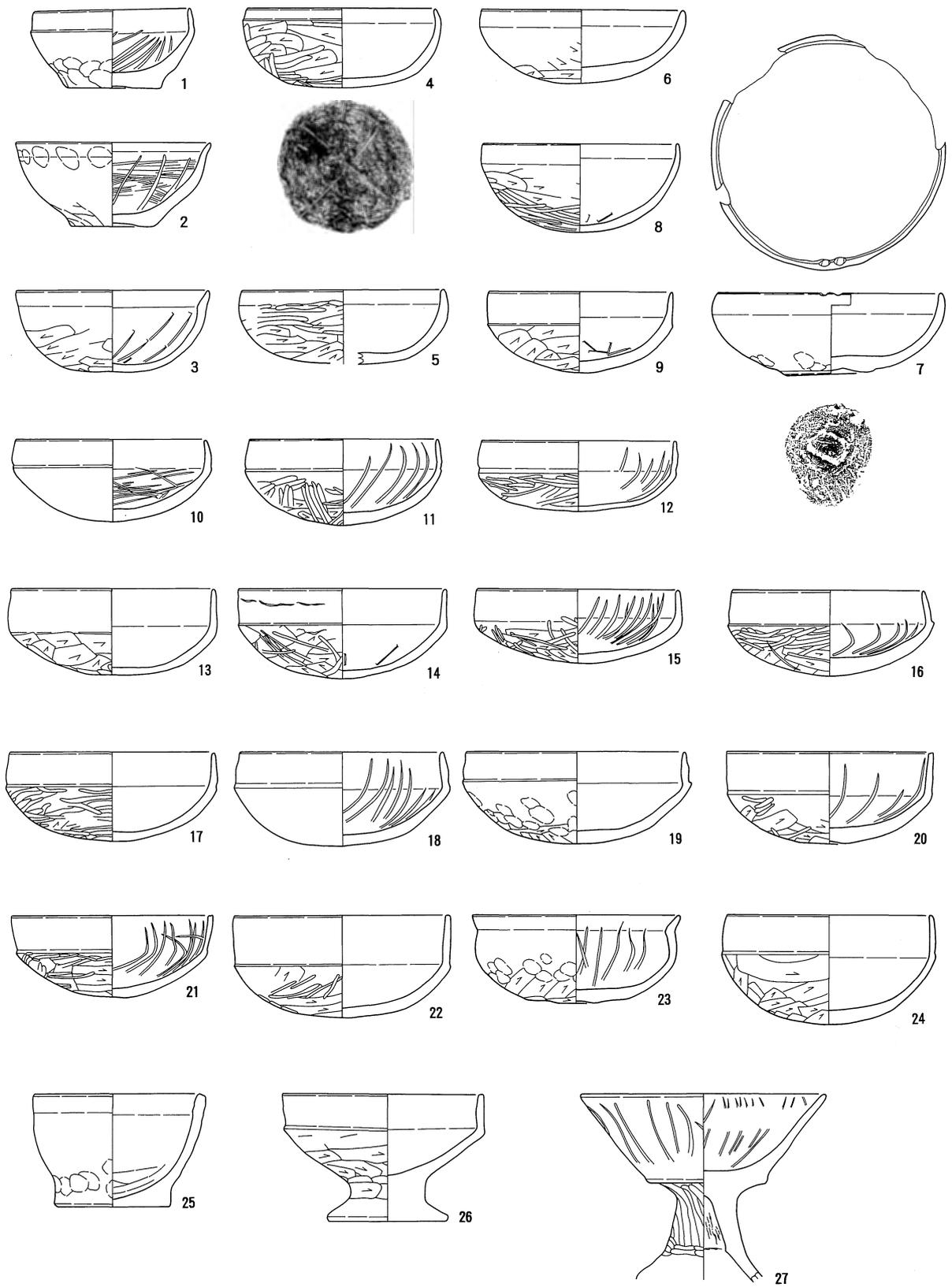


图 176 SI-9 出土土器 (1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
15	土師器 坏	口径 13.6 底径 — 器高 5.0	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・石英・赤褐色粒 内外—にぶい赤褐色	口縁部1/4欠損。 外面に黒斑。
16	土師器 坏	口径 12.9 底径 — 器高 5.8	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内傾して立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・赤褐色粒 内外—橙色	ほぼ完形。
17	土師器 坏	口径 13.8 底径 — 器高 6.0	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部コピナデ。	雲母・角閃石・赤褐色粒 内外—赤褐色	完形。
18	土師器 坏	口径 13.7 底径 — 器高 6.4	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内傾して立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマだが摩滅。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・赤褐色粒 内—にぶい赤褐色 外—赤褐色	口縁部1/3欠損。 外面に黒斑。
19	土師器 坏	口径 14.8 底径 — 器高 6.2	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内傾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・石英・角閃石 内外—赤褐色	ほぼ完形。
20	土師器 坏	口径 13.9 底径 2.9 器高 6.2	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は上底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母 内—赤褐色 外—にぶい赤褐色	口縁部1/2欠損。
21	土師器 坏	口径 (13.5) 底径 — 器高 5.4	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は外傾気味に立ち上がる。口唇部に窪み。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ヘラケンマ。	緻密、石英・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～底部 1/2。
22	土師器 坏	口径 (14.6) 底径 — 器高 6.9	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部コピナデ。	雲母・チャート 内外—にぶい黄橙色	口縁部～底部 1/2。
23	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 2.5 器高 6.0	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外傾する。底部は上底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ後ヘラケンマ。	雲母・チャート 内外—にぶい赤褐色	口縁部～底部 1/3。
24	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 — 器高 7.3	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内—赤褐色 外—にぶい褐色	口縁部～底部 1/2。
25	土師器 鉢	口径 (11.2) 底径 (7.8) 器高 (7.7)	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	石英・角閃石・赤褐色粒 内外—灰黄褐色	ほぼ完形。
26	土師器 高坏	口径 (13.5) 底径 (8.0) 器高 (8.7)	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。脚部は短い台状を呈する。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラケンマ、脚部摩滅、底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	雲母・赤褐色粒 内—にぶい赤褐色 外—にぶい褐色	口縁部～底部 1/4欠損。
27	土師器 高坏	口径 (16.5) 底径 — 器高 —	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は外傾して立ち上がる。脚部絞り成形。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～脚部ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケンマ、脚部絞り痕。	雲母・チャート 内—明赤褐色 外—にぶい褐色	ほぼ完形。
28	土師器 小型甕	口径 (8.2) 底径 — 器高 —	胴部は丸みを持ち、口縁部は外傾して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・チャート 内—灰黄褐色 外—にぶい黄褐色	口縁部・胴部 1/8。
29	土師器 小型甕	口径 11.2 底径 7.0 器高 8.3	胴部上位に膨らみを持ち、口縁部は短く外傾する。底部は平底で、器壁薄い。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、胴部下端～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・赤褐色粒 内—赤褐色 外—明赤褐色	胴部1/3欠損。 底部中央は円形に欠損。

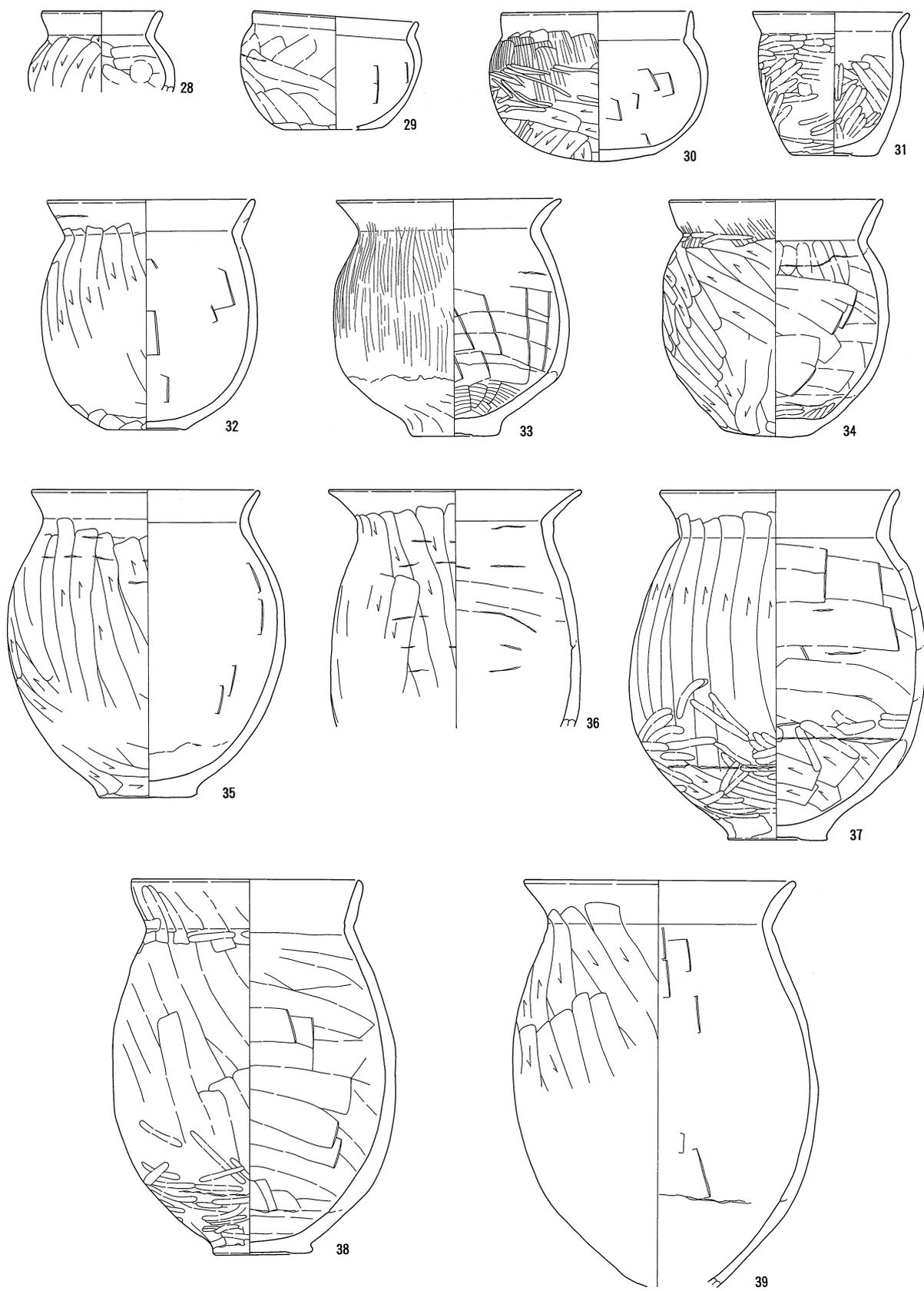
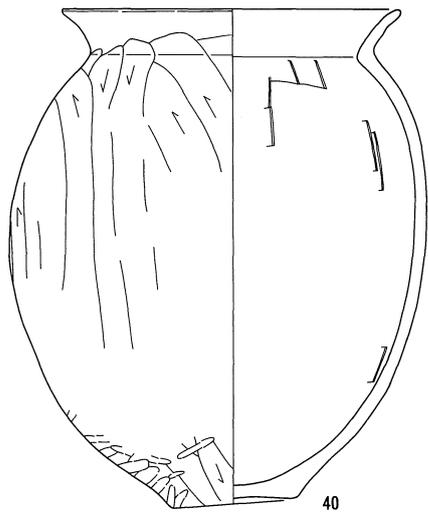
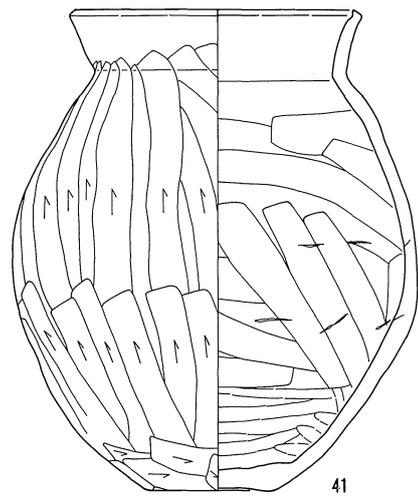


图 177 SI-9 出土土器 (2)

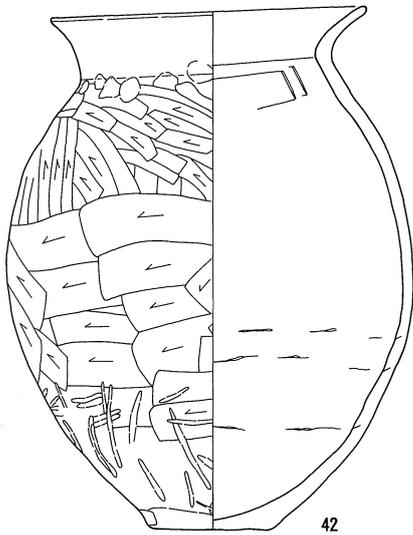
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
30	土師器 小型甕	口径 13.1 底径 — 器高 10.4	胴部中位に膨らみを持ち、口縁部は直立して立ち上がる。底部は丸底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ハケメ後ヘラケンマ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内外—明褐色	完形。外面に黒斑。底部外面に粘土屑付着。
31	土師器 小型甕	口径 (10.7) 底径 (5.8) 器高 (10.0)	胴部上位にわずかな膨らみを持ち、口縁部は外反する。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、底部棒状圧痕。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外—にぶい褐色	口縁部1/2欠損。胴部一部欠損。
32	土師器 小型甕	口径 (14.2) 底径 (5.6) 器高 (16.0)	胴部中位にわずかな膨らみを持ち、口縁部は外傾して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—にぶい赤褐色	口縁部1/3欠損。胴部1/6欠損。
33	土師器 小型甕	口径 (15.4) 底径 (6.0) 器高 (16.4)	粘土紐積み上げ成形（底部別作り）。胴部下位で器形大きく変化。口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位～中位ハケメ・下位ナデ、底部棒状圧痕。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、底部ハケメ。	石英・片岩・褐色粒 内—にぶい黄褐色 外—にぶい橙色	口縁部・胴部1/4欠損。
34	土師器 小型甕	口径 14.6 底径 5.7 器高 16.3	粘土紐積み上げ成形。胴部中位にわずかな膨らみを持ち、口縁部は外傾して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ、胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、頸部コビナデ、胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内—にぶい褐色 外—にぶい黄褐色	口縁部～胴部1/4欠損。
35	土師器 小型甕	口径 (15.7) 底径 6.7 器高 21.2	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に膨らみを持ち、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	石英・チャート・赤褐色粒 内—にぶい黄褐色 外—橙色	口縁部～胴部2/5欠損。
36	土師器 小型甕	口径 (17.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 内—にぶい褐色 外—にぶい赤褐色	口縁部～胴部1/3。
37	土師器 甕	口径 16.5 底径 6.9 器高 24.1	粘土紐積み上げ成形（底部別作り）。胴部下位で器形大きく変化。口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後下半ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ・下半ヘラケズリ後ナデ。	雲母・チャート・赤褐色粒 内—橙色 外—にぶい橙色～灰褐色	完形。
38	土師器 甕	口径 15.9 底径 6.8 器高 25.9	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外傾して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、頸部～胴部中位ヘラナデ、胴部下位ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	雲母・石英 内—にぶい黄褐色 外—にぶい黄褐色	完形。
39	土師器 甕	口径 18.7 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・赤褐色粒 内外—橙色	胴部1/2欠損。底部なし。
40	土師器 甕	口径 18.0 底径 6.7 器高 26.5	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後下半ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内—灰褐色 外—灰黄褐色	口縁部～底部1/2。
41	土師器 甕	口径 15.5 底径 6.4 器高 25.6	粘土紐積み上げ成形。胴部中位で大きく膨らむ。口縁部は外反し、端面取り。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラケズリ、胴部下半～底部ナデ。	チャート・角閃石 内—にぶい褐色 外—にぶい黄褐色	完形。底部外面に粘土屑付着。
42	土師器 甕	口径 16.7 底径 6.5 器高 28.0	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、頸部指頭痕、胴部ヘラケズリ後下半ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・赤褐色粒 内—灰黄褐色 外—にぶい橙色	口縁部～底部2/3。
43	土師器 甕	口径 18.1 底径 6.6 器高 27.5	粘土紐積み上げ成形。胴部下位で器形大きく変化。口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後中位ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内—赤褐色 外—にぶい黄褐色	ほぼ完形。外面に黒斑。



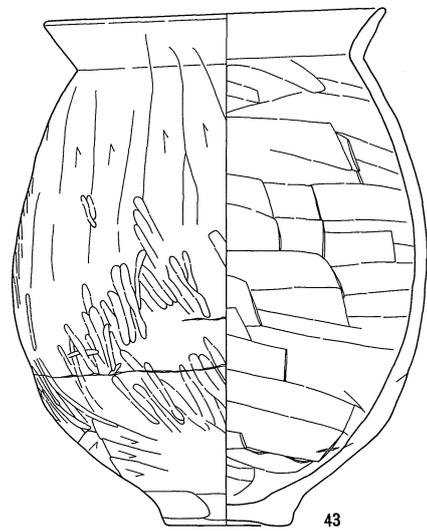
40



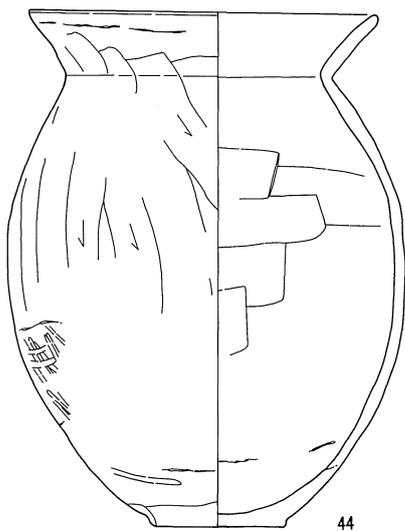
41



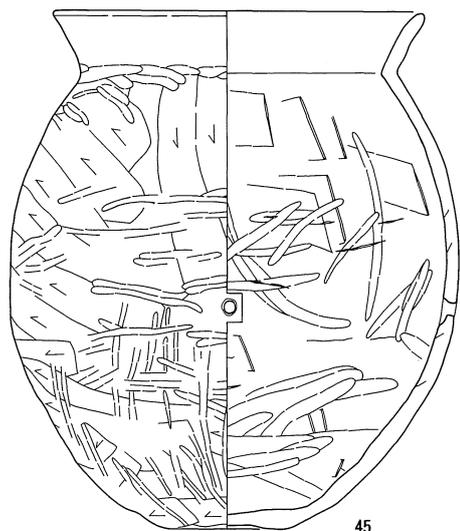
42



43



44



45

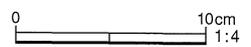
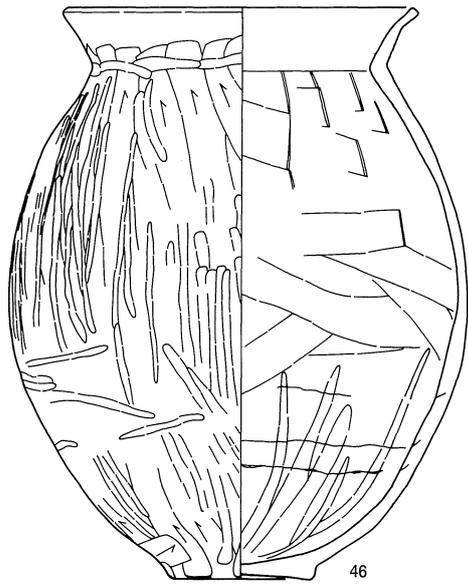
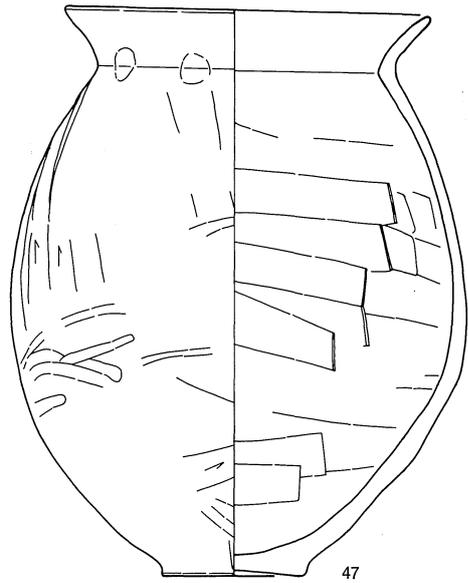


图 178 SI-9 出土土器 (3)

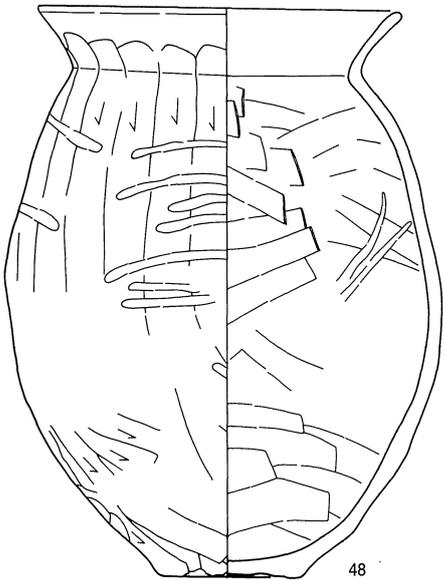
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
44	土師器 甕	口径(18.4) 底径 7.2 器高 27.5	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ後下半ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	雲母・石英・赤褐色粒 内外－にぶい赤褐色	口縁部～胴部 1/3欠損。底部 1/2欠損。
45	土師器 甕	口径 19.6 底径 6.5 器高 27.5	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、胴部ハラケズリ後ナデ、底部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデとユビナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内－にぶい黄橙色 外－にぶい橙色	ほぼ完形。胴部 中位に焼成後の 穿孔1ヶ所。
46	土師器 甕	口径 18.8 底径 7.5 器高 30.2	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らむ。口縁部は外反し、端面取り。	外面－口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、胴部ハラケズリ後ナデ、底部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデとユビナデ。	片岩・石英 内－にぶい赤褐色 外－にぶい橙色	完形。
47	土師器 甕	口径 19.3 底径 7.7 器高 30.0	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ後下半ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	片岩・角閃石・赤褐色粒 内－にぶい橙色 外－橙色	口縁部～底部 3/4。底部外面 木葉痕。
48	土師器 甕	口径(19.2) 底径(7.5) 器高(30.1)	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデとユビナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内－にぶい橙色 外－にぶい黄橙色	口縁部1/3。 胴部一部欠損。
49	土師器 甕	口径 18.7 底径 6.5 器高 28.2	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ後ナデ、底部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	片岩・石英・赤褐色粒 内－にぶい赤褐色 外－橙色～灰褐色	ほぼ完形。
50	土師器 甕	口径－ 底径 6.9 器高－	粘土紐積み上げ成形(底部別作り)。胴部やや膨らむ。	外面－胴部ハラケズリ後中位ナデ。内面－胴部ハラナデとユビナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい橙色	胴部上位～底部 2/3。
51	土師器 甕	口径 18.0 底径 8.0 器高 30.2	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデと指頭痕。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	片岩・チャート・褐色粒 内外－にぶい黄橙色	完形。
52	土師器 甕	口径 18.2 底径 7.5 器高 32.5	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、胴部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内外－にぶい黄橙色	口縁部一部欠損。
53	土師器 甕	口径(18.0) 底径－ 器高－	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、頸部指頭痕、胴部ハラケズリ後下半ハラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ後ハラケンマ。	片岩・赤褐色粒 内－灰黄褐色 外－灰褐色	口縁部1/2・ 胴部1/5。
54	土師器 甕	口径(18.4) 底径－ 器高－	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ。	片岩・角閃石・赤褐色粒 内－橙色 外－にぶい褐色	口縁部～胴部 上位1/8。
55	土師器 甕	口径 23.0 底径－ 器高－	粘土紐積み上げ成形。胴部膨らみを持ち、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内外－にぶい橙色	口縁部～胴部 中位2/3。
56	土師器 甕	口径 19.0 底径－ 器高－	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ハラナデ。	片岩・赤褐色粒 内－灰褐色 外－にぶい黄橙色	口縁部～胴部 中位1/3。
57	土師器 甕	口径－ 底径(7.7) 器高－	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らむ。	外面－胴部ハラケズリ後上半ハラナデ、底部ハラケズリ。内面－胴部～底部ハラナデ。	片岩・角閃石・赤褐色粒 内－にぶい赤褐色 外－灰褐色	口縁部・胴部 上位欠損。



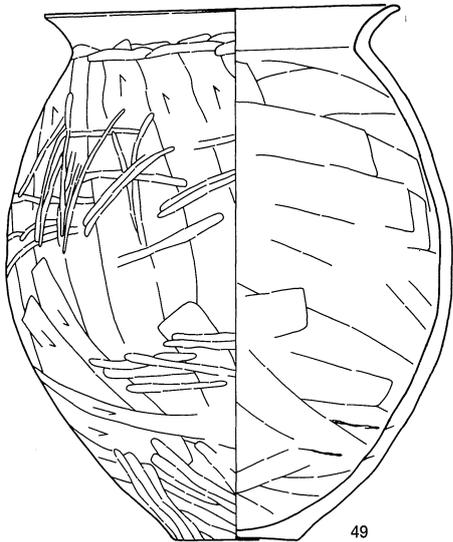
46



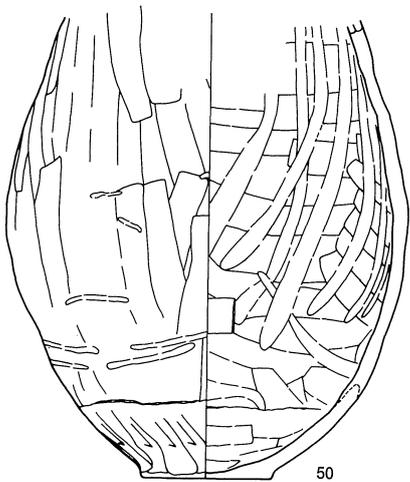
47



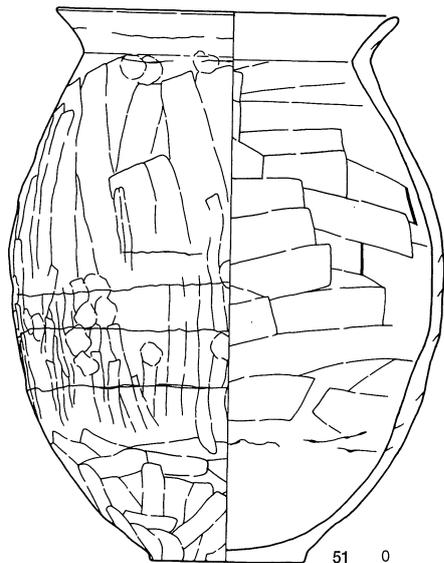
48



49



50



51

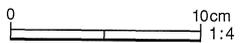
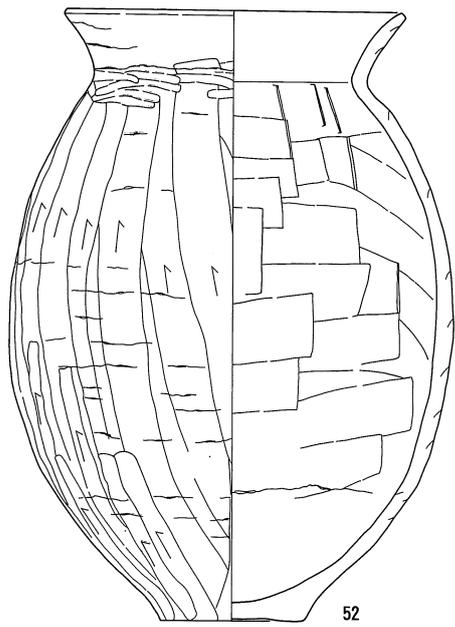
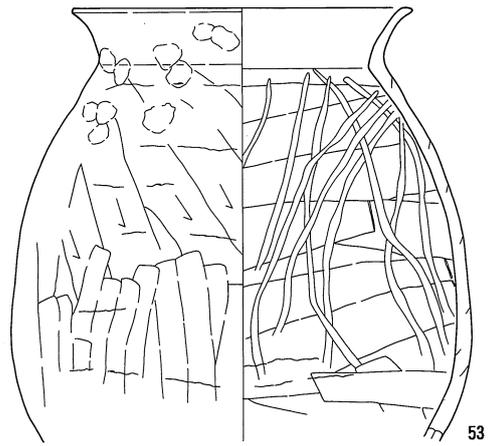


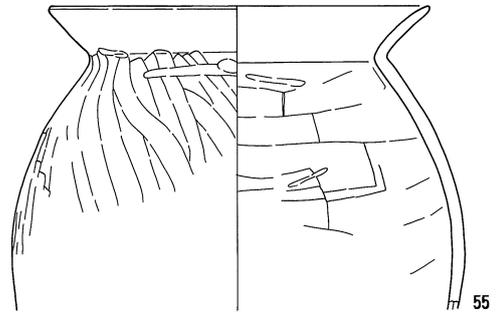
图 179 SI-9 出土土器 (4)



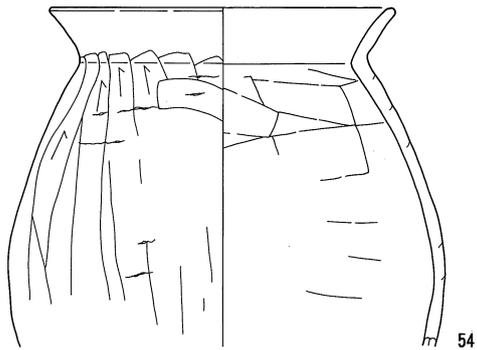
52



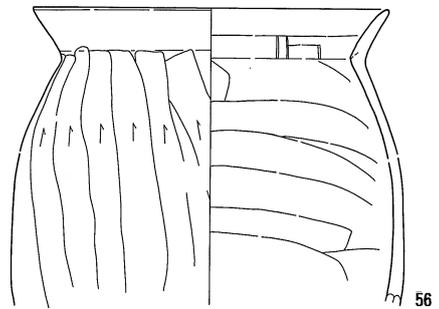
53



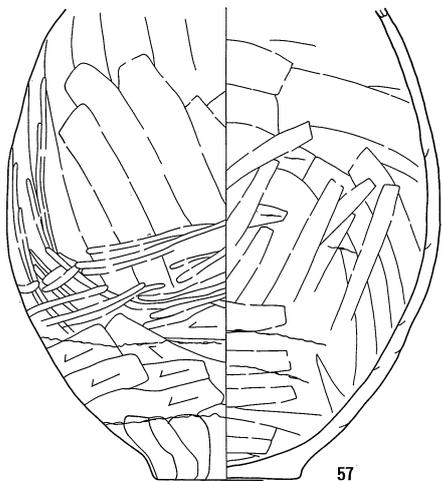
55



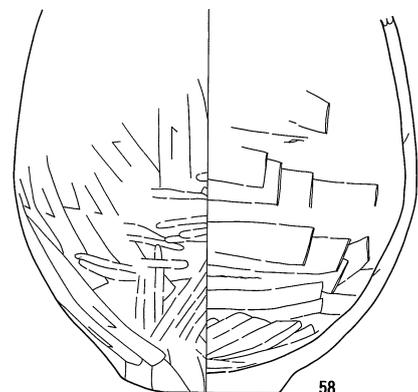
54



56



57



58

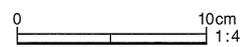


图 180 SI-9 出土土器 (5)

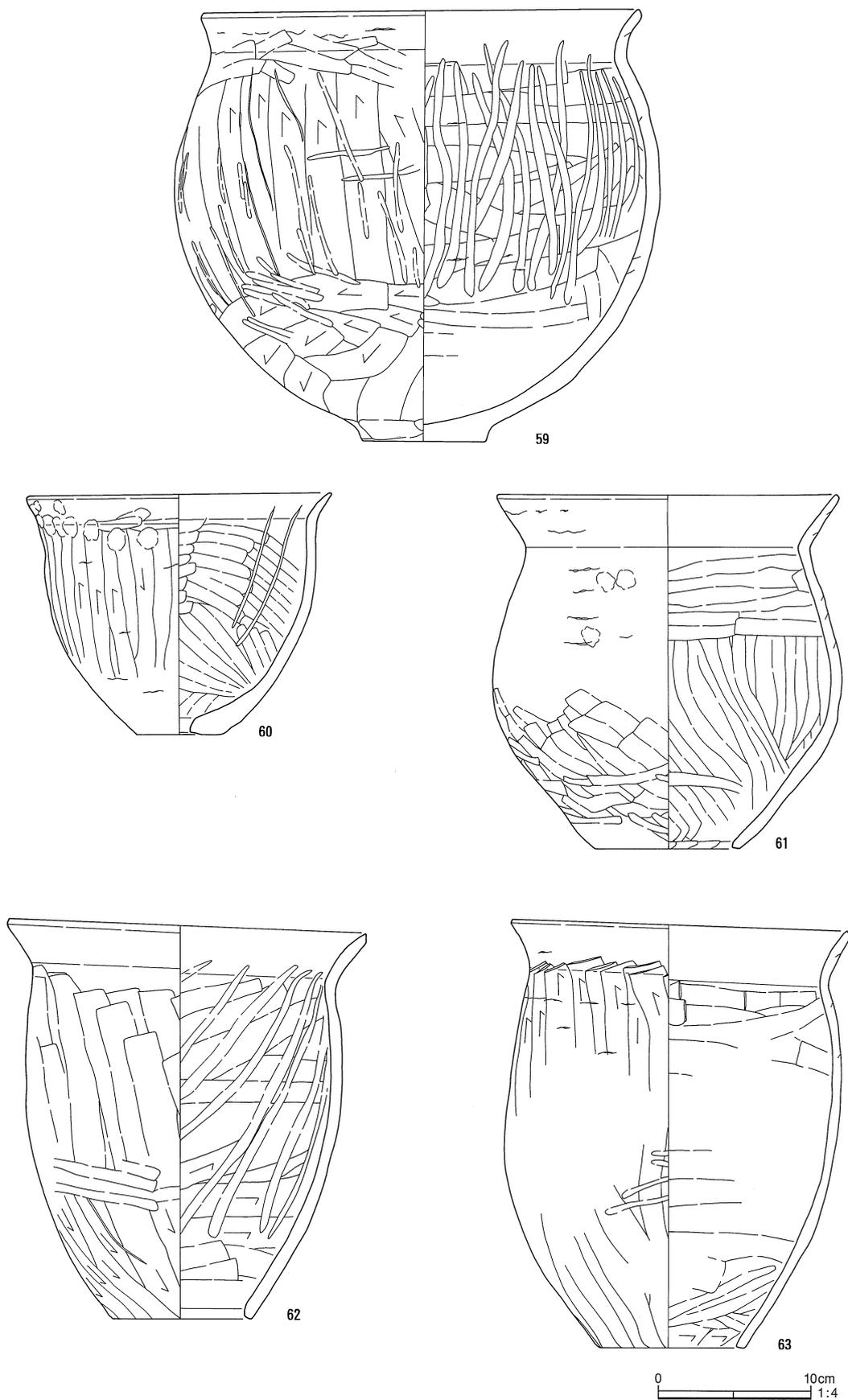


图 181 SI-9 出土土器 (6)

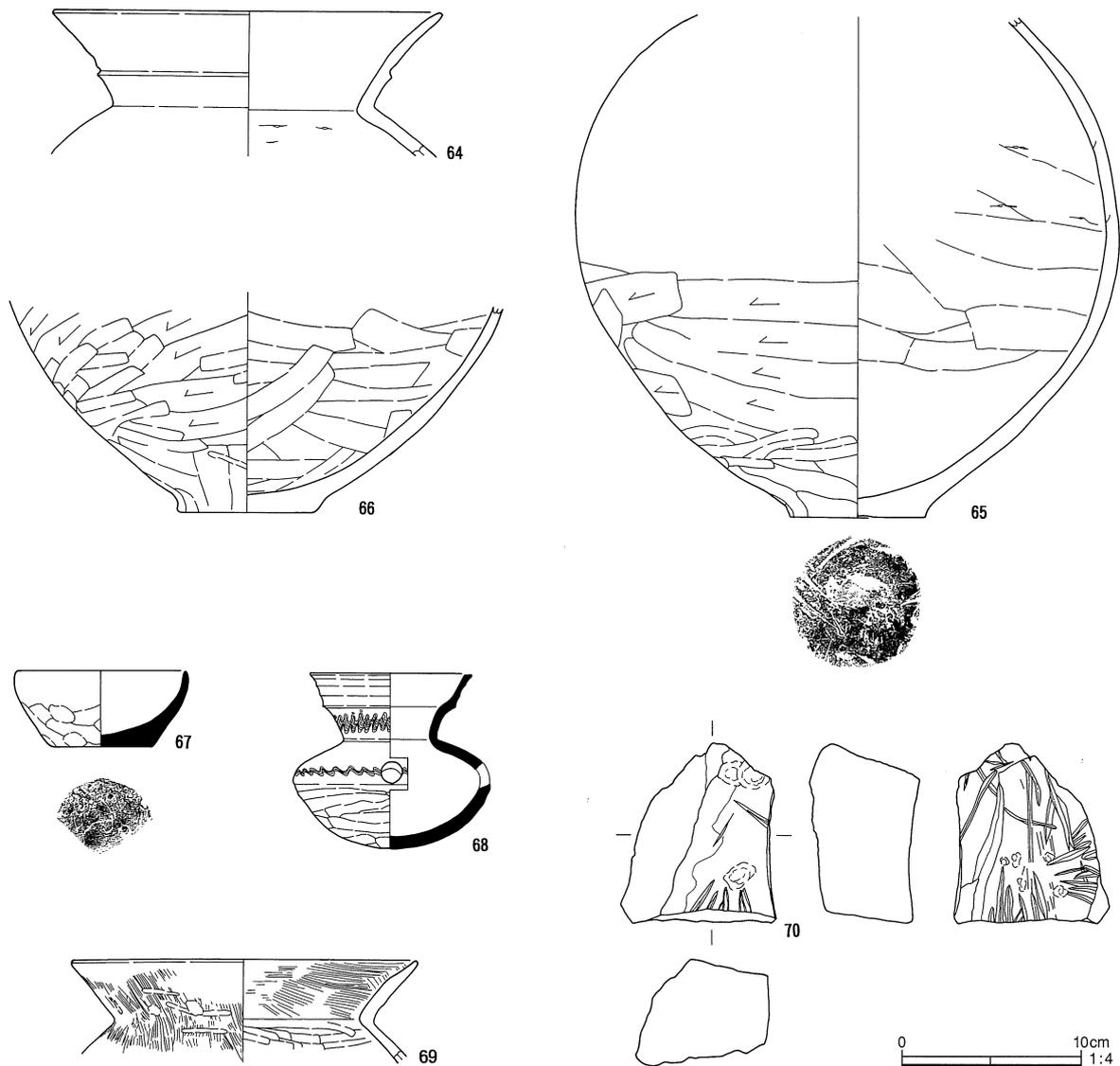


図 182 SI-9 出土土器 (7)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
58	土師器 甕	口径 — 底径 8.4 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らむ。	外面—胴部ヘラケズリ後半ナデ。 内面—胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・チャート 内外—にぶい赤褐色	胴部～底部 2/3。
59	土師器 甕	口径 28.8 底径 8.0 器高 28.5	粘土紐積み上げ成形。胴部は球形に膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラケンマ。底部摩滅。	片岩・白色粒・赤褐色粒 内外—にぶい褐色	ほぼ完形。
60	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 (5.5) 器高 (16.0)	粘土紐積み上げ成形。頸部わずかに括れ、口縁部は外傾する。	外面—口縁部ヨコナデ、頸部ナデと指頭痕、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラケンマ。	チャート・白色粒 内—褐色 外—灰黄褐色	ほぼ完形。焼成前の穿孔。
61	土師器 甕	口径 (22.5) 底径 (9.5) 器高 (23.4)	粘土紐積み上げ成形。胴部中位で器形大きく変化。口縁部は外傾して開き、端部面取り。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下端ヘラケズリ。	片岩・石英 内外—にぶい黄褐色	口縁部～胴部 1/2。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
62	土師器 甌	口径 23.4 底径 9.0 器高 26.4	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らむ。口縁部は外反し、端部面取り。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデとユビナデ、胴部下端ヘラケズリ後ヘラケンマ。	片岩・石英・赤褐色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
63	土師器 甌	口径(22.2) 底径(9.5) 器高(28.2)	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らむ。口縁部は外反し、端部面取り。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後中位ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、胴部下端ヘラケズリ。	片岩・白色粒・赤褐色粒 内外－橙色	胴部2/5欠損。
64	土師器 壺	口径(21.8) 底径－ 器高－	粘土紐積み上げ成形。口縁部は二重口縁で、端部面取り。	外面－口縁部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。	雲母・褐色粒 内外－にぶい赤褐色	口縁部1/3。
65	土師器 壺	口径－ 底径(7.5) 器高－	粘土紐積み上げ成形。胴部は球形に膨らむ。	外面－胴部ヘラケズリ後ナデ、底部棒状圧痕。内面－胴部～底部ヘラナデ。	片岩・赤褐色粒 内－にぶい褐色 外－にぶい黄褐色	胴部～底部残存。
66	土師器 壺	口径－ 底径 7.6 器高－	粘土紐積み上げ成形。胴部大きく膨らむ。	外面－胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面－胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・赤褐色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい黄褐色	胴部下位～底部一部欠損。
67	須恵器 坏	口径(9.4) 底径(5.5) 器高 4.3	平底。手捏ね成形。内外面とも口縁部は還元焰、底部は酸化焰の焼成、体部に煤が付着する。	外面－口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外－黄灰色～にぶい黄褐色～にぶい赤褐色	口縁部～底部1/2。
68	須恵器 甌	口径(9.0) 底径－ 器高 9.9	ロクロ成形。口縁部は外反し、端部面取り。底部は丸底。	外面－頸部と胴部に櫛描波状文、胴部下半～底部ナデ。内面－頸部ユビナデ。	白色粒 内外－黄色～灰白色	口縁部2/3欠損。口縁部内面と胴部上半の外面に自然釉。
69	土師器 甕	口径 19.5 底径－ 器高－	口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ後ハケメ。内面－口縁部ヨコナデ後ハケメ、頸部ヘラナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内外－にぶい褐色	口縁部2/3。
No.	種類	器種	法量 (cm・g) ・ 特徴 ・ 材質			備考
70	石製品	砥石	長さ10.2 幅8.8 厚さ6.1 重さ348.41 5面使用。安山岩。			

SI-10

(1) 遺構 (図 183～186、写真 17)

1W-17、1X-17グリッドに位置する。西側壁をST-44によって切られ、さらにウドを栽培するために掘られた大規模な溝が縦横にあり、床面部分が大きく失われている。また、南側隅はSI-11と重複している。

平面形は北東－南西方向にやや長い不整形で、主軸の方位はN-56°-Eを示す。覆土にはロームブロックと炭化物ブロック・焼土ブロックを含む黒色土が堆積している。

床には全面的にロームブロックを多量に含む黒色土を敷いて貼床を施し、床面は硬くしまっている。壁溝は存在しないが、残存する三方の壁際に小ピットが連続している。貯蔵穴は存在しない。床面中央にウド栽培用の大規模な溝が走り、炉の存在は確認できない。床面で確認したピットはP1・2の2基で、さらにウド栽培用の溝の底面でP3を検出している。これら3基のピットはいずれも支柱穴である。いずれも円形もしくは楕円形を呈する。P3は隣接するSI-11のP2と重複している。なお、西側隅にはピットを確認できなかった。

貼床層下の掘り方には緩やかな起伏が認められる。

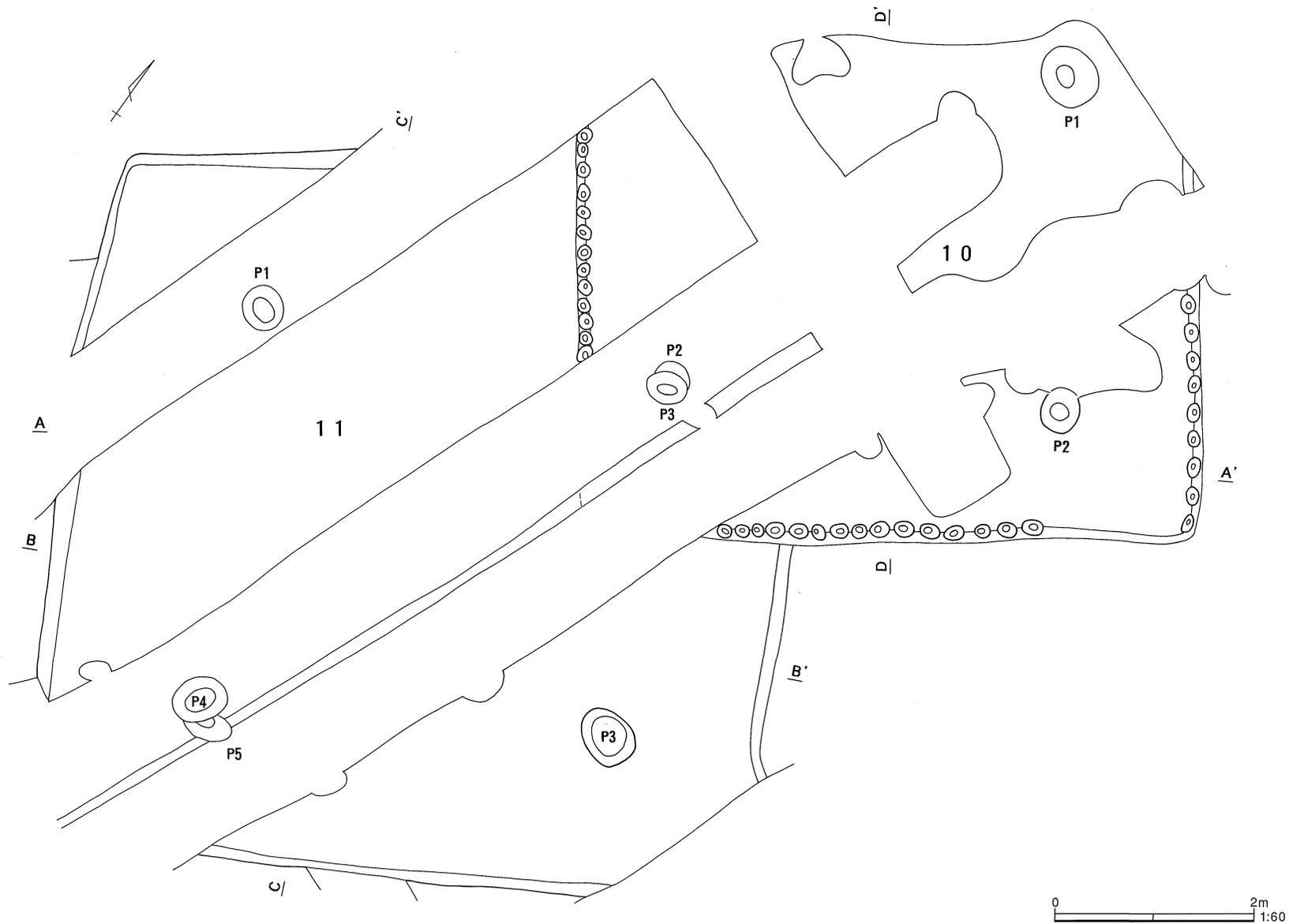
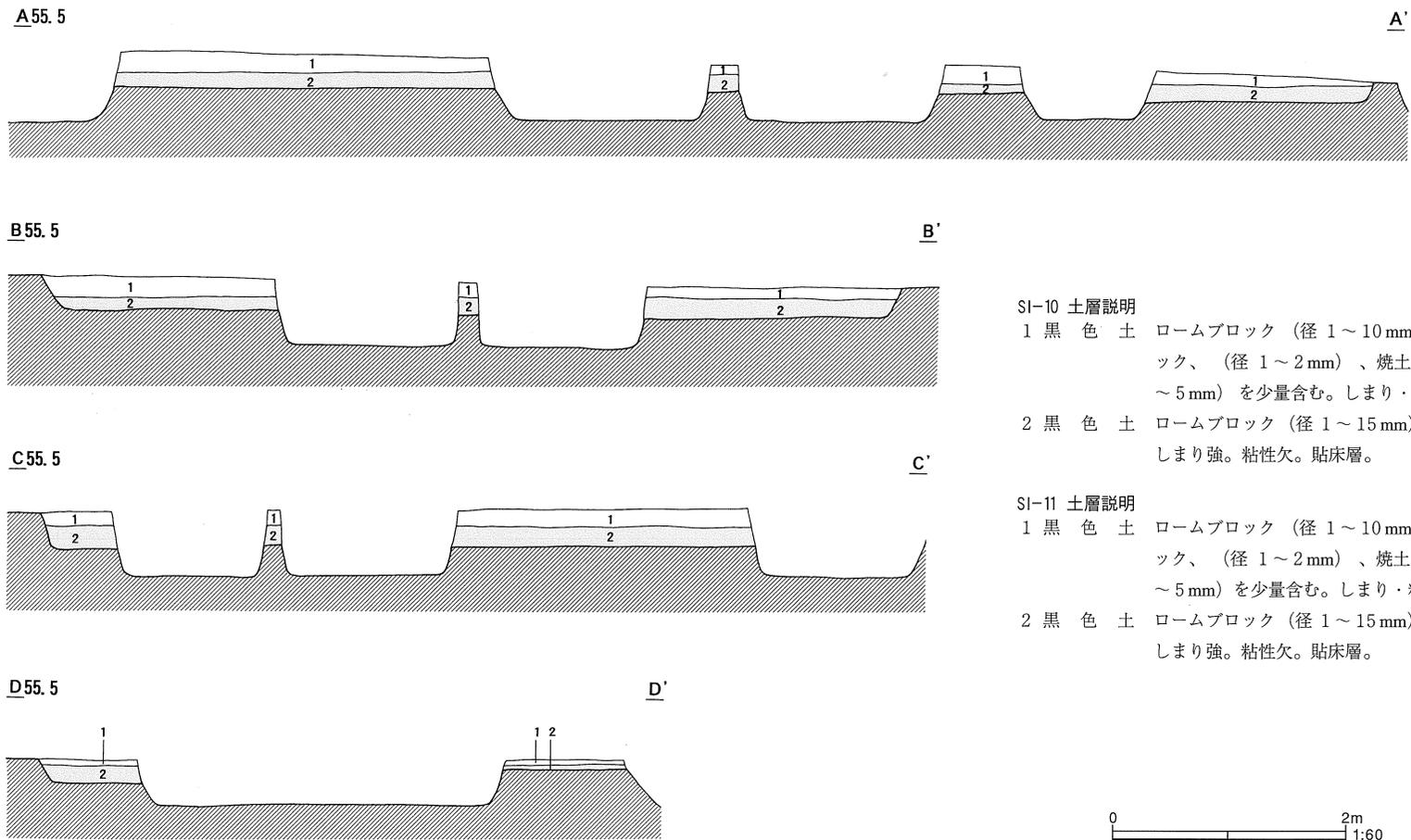


图 183 SI-10·11 床面平面



SI-10 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径 1～10mm）、炭化物ブロック、（径 1～2mm）、焼土ブロック（径 1～5mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック（径 1～15mm）を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。

SI-11 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径 1～10mm）、炭化物ブロック、（径 1～2mm）、焼土ブロック（径 1～5mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック（径 1～15mm）を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。

図 184 SI-10・11 床面平面

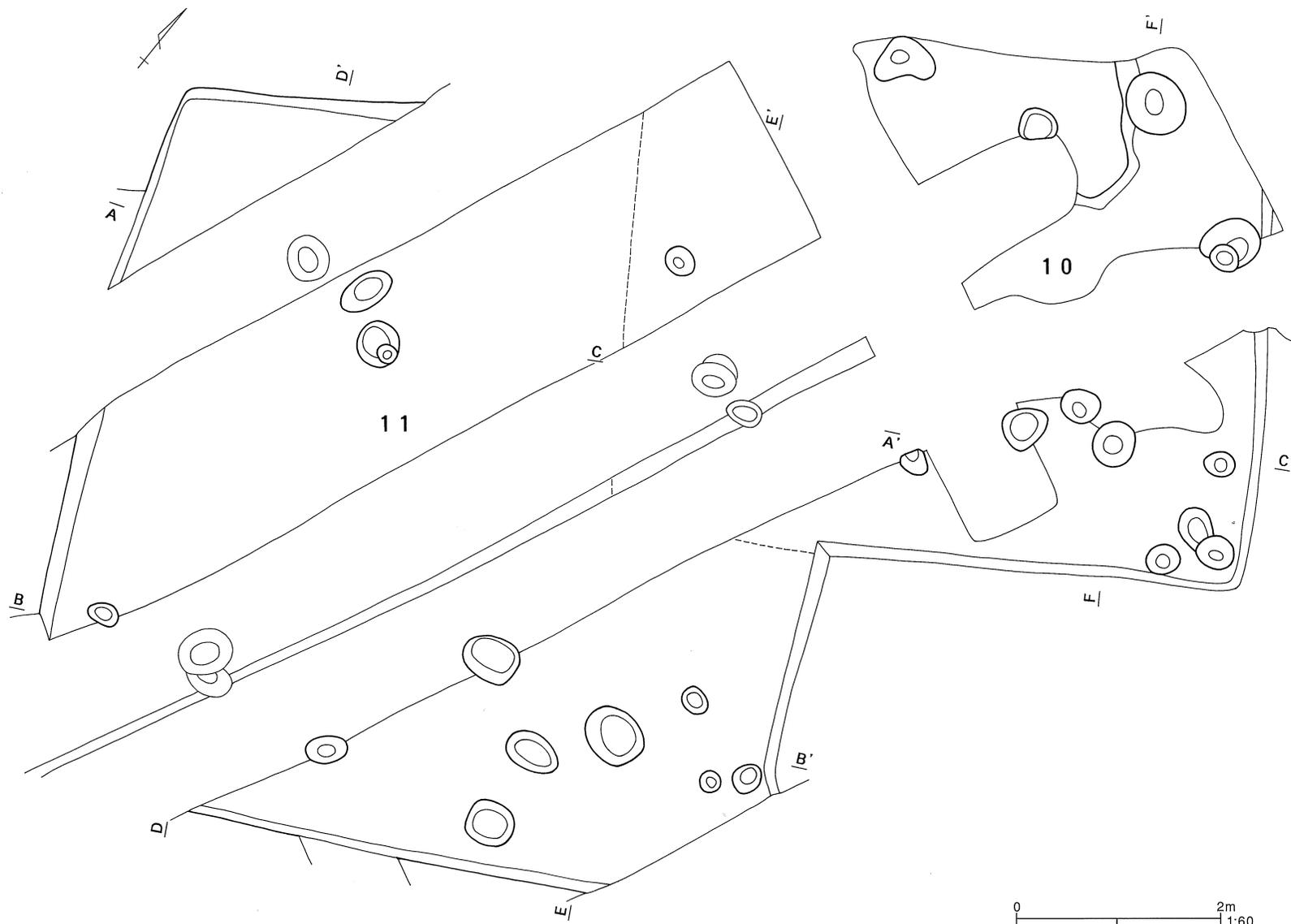


图 185 SI-10·11 掘り方平面

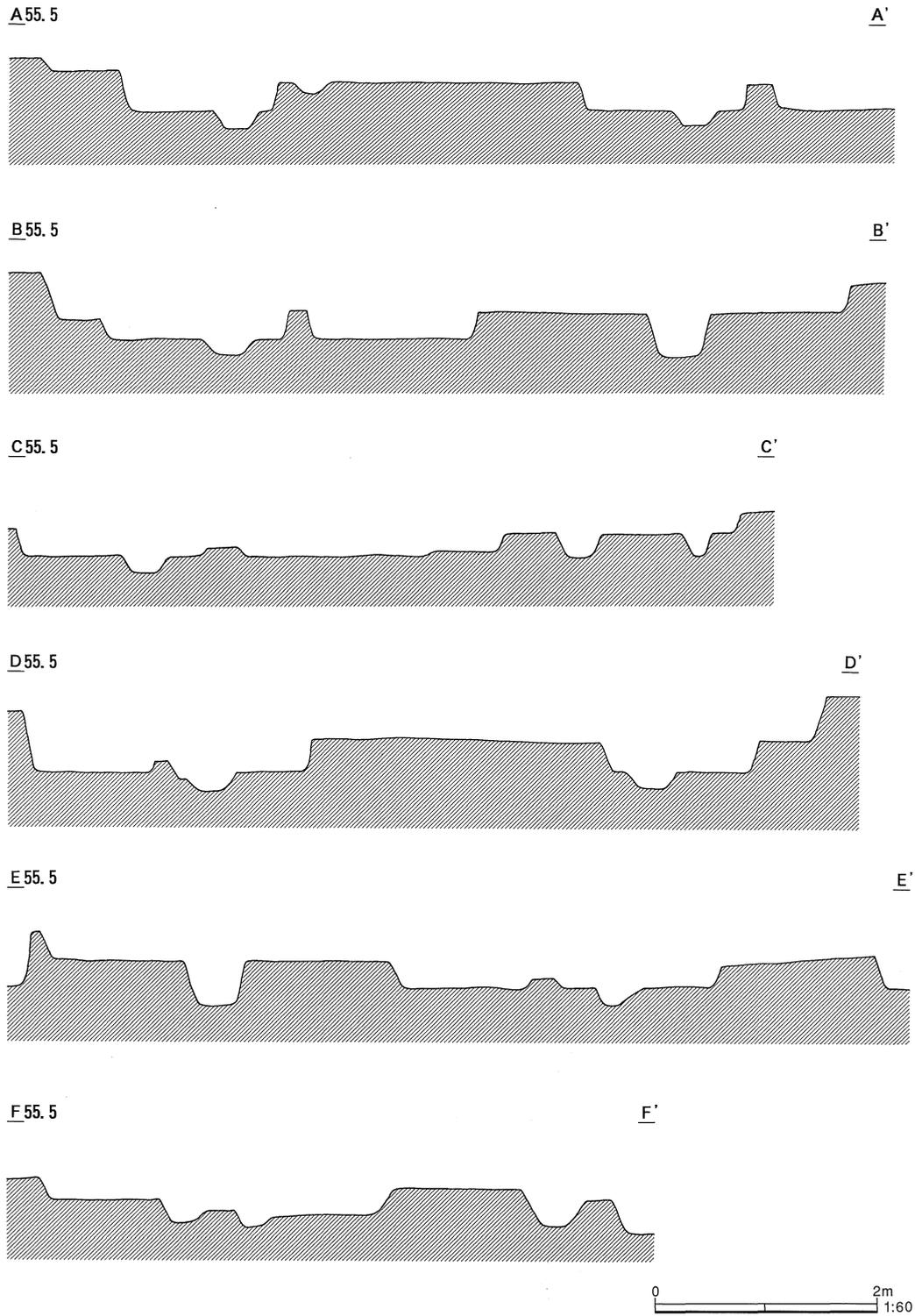


図 186 SI-10・11 掘り方平面

SI-10 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 S字甕	口径(14.0) 底径 - 器高 -	胴部は球形に膨らみ、口縁部は「S」 字状を呈する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ハラ ケズリ後頸部～胴部ハケメ。内面 —口縁部ヨコナデ、頸部ユビナ デ、胴部ハラナデ。	白色粒・黒色粒 内—灰黄褐色 外—にぶい黄褐色	口縁部～胴部 1/3。

規模は南東壁で長さ4.1 m、確認面からの深さ5 cmを測る。
ピットの深さは、P1が40 cm、P2が35 cmを測る。

(2) 遺物 (図187、写真56)

遺物は床面からやや浮いた状態で土師器甕・S字甕などの破片を検出している。いずれもSI-10の廃絶後に遺棄された遺物と考えられる。

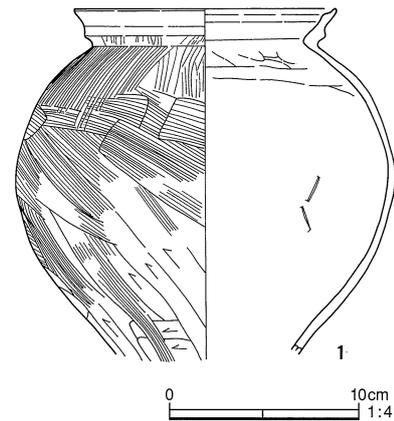


図187 SI-10出土土器

SI-11

(1) 遺構 (図183～186、写真17)

1X-17、1X-18グリッドに位置する。ウドを栽培するために掘られた大規模な溝が南北方向に走り、各所で大規模な攪乱を受けている。北側隅はSI-10と重複している。

平面形は北東-南西方向にやや長い不整形で、長軸の方位はN-58°-Eを示す。覆土にはロームブロックと炭化物ブロック・焼土ブロックを含む黒色土が堆積している。

床には全面的にロームブロックを多量に含む黒色土を敷いて貼床を施し、床面は硬くしまっている。壁溝は存在しない。床面中央にウドを栽培するために掘られた大規模な溝があり、炉の存在は確認できない。床面で確認したピットはP3の1基のみであるが、さらにウド栽培用の溝の底面でP1・2・4・5を検出している。いずれも楕円形ないし不整形円形を呈する。P4・5は一部が重複している。すべて支柱穴と判断されるが、P4・5の前後関係は不明で、住居廃絶時の支柱穴の配置は判然としない。

貼床層下の掘り方には緩やかな起伏が認められる。

規模は長軸7.4 m、短軸7.1 m、確認面からの深さ15 cmを測る。ピットの深さは、P4が55 cmを測る。

(2) 遺物 (図188、写真56・57)

遺物は床面直上で完形品を含む土師器ミニチュア土器・器台のほか碗・高坏・埴・S字甕を検出している。また、床面からやや浮いた状態でS字甕を中心とする土師器の細片が出土している。

SI-11出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 ミニチュア 土器	口径 6.8 底径 4.8 器高 4.2	手捏ね成形。体部膨らみを持ち、口縁部は内湾する。平底。体部に不整形楕円形の線刻2ヶ所と横方向に全周する線刻がある。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ユビナデと一部ハラケンマ。内面-口縁部~体部ユビナデ後ヨコナデ。	片岩・赤褐色粒 内-黄褐色 外-にぶい黄褐色	ほぼ完形。
2	土師器 ミニチュア 土器	口径 (8.6) 底径 - 器高 -	手捏ね成形。体部は直線的に開き、口縁部は直立気味に立ち上がる。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ナデ後ハラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ハラケンマ。	雲母・白色粒 内外-黄褐色	2/5。
3	土師器 碗	口径 12.7 底径 3.3 器高 5.4	体部~口縁部は直線的に立ち上がる。底部は上底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ハラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ハラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外-明褐色	口縁部1/4欠損。
4	土師器 器台	口径 8.2 底径 12.5 器高 9.4	口縁部はわずかに内湾して立ち上がる。脚部は直線的に開き、4方向に透孔を有する。	外面-口縁部ハケメ後ヨコナデ、脚部ハケメ、裾部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ、脚部ナデ後ハケメ、裾部ヨコナデ。	片岩・チャート 内外-橙色	口縁部一部欠損。 脚部~裾部一部欠損。

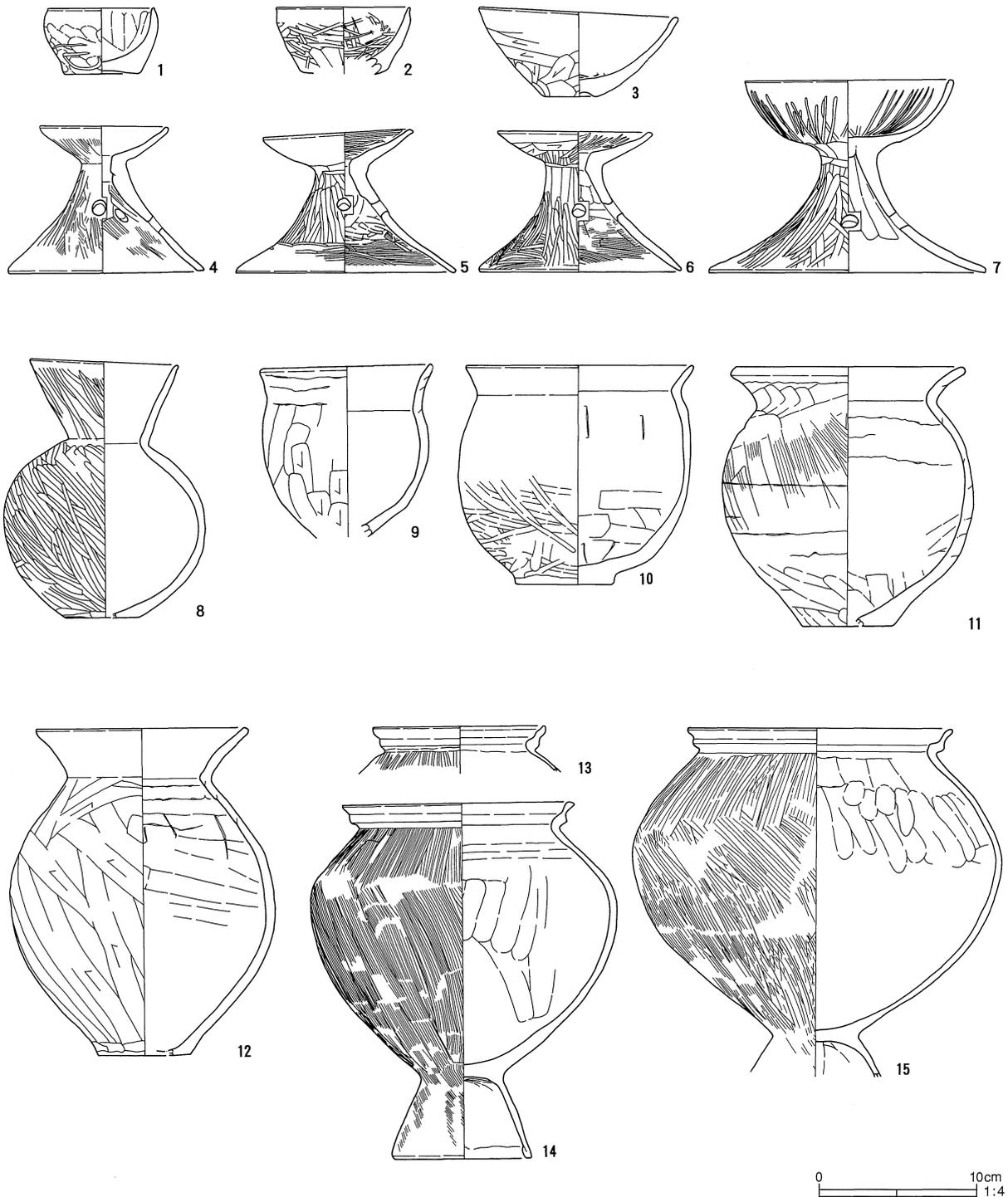


図 188 SI-11 出土土器

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
5	土師器 器台	口径 9.6 底径 14.1 器高 9.2	口縁部は直線的に立ち上がり、端部わずかに外反する。脚部は外反して開き、4方向に透孔を有する。	外面-口縁部ヨコナデ後ハラケンマ、脚部ハラケズリ後ハラケンマ。内面-口縁部ハケメ後ハラケンマ、脚部ハラナデ後ハケメ。	片岩・白色粒・赤褐色粒 内外-橙色～にぶい橙色	完形。
6	土師器 器台	口径 (9.9) 底径 13.0 器高 (9.15)	口縁部はわずかに内湾して立ち上がる。脚部は外反して開き、4方向に透孔を有する。	外面-口縁部～脚部ハラケズリ後ハラケンマ。内面-口縁部ハラケンマ、脚部ナデ後ハケメ。	雲母・チャート 内-橙色～にぶい橙色 外-明赤褐色～橙色	一部欠損。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
7	土師器 高杯	口径 13.3 底径 17.7 器高 12.4	口縁部は内湾気味に立ち上がる。脚部は外反して開き、4方向に透孔を有する。	外面－口縁部～脚部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面－口縁部ヨコナデ後ヘラケンマ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ。	雲母・白色粒・赤褐色粒 内外－橙色	口縁部一部欠損。
8	土師器 埴	口径 9.4 底径 4.5 器高 16.6	胴部は球形を呈し、口縁部は直線的に開く。底部は平底で、器壁薄い。	外面－口縁部～胴部ヘラケズリ後ヘラケンマ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ後ヘラケンマ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外－橙色	口縁部1/4欠損。 胴部～底部一部欠損。
9	土師器 小型甕	口径 11.0 底径 2.7 器高 11.2	胴部わずかに膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・石英 内外－にぶい赤褐色	口縁部1/3・胴部1/2・底部1/6。
10	土師器 小型甕	口径 14.5 底径 6.3 器高 14.0	粘土紐積み上げ成形。胴部わずかに膨らみ、口縁部は外傾する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内－褐色 外－にぶい褐色	口縁部1/3欠損。 胴部～底部1/8欠損。
11	土師器 甕	口径 15.0 底径 5.8 器高 16.5	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、胴部上半ハケメ・下半ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・白色粒 内外－明褐色	口縁部1/8欠損。 胴部～底部一部欠損。
12	土師器 甕	口径 (13.5) 底径 (5.8) 器高 (20.9)	粘土紐積み上げ成形。胴部は球形に膨らむ。口縁部は外反し、端面取り。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・赤褐色粒 内－明赤褐色 外－明赤褐色～にぶい黄褐色	口縁部～底部1/2。
13	土師器 S字甕	口径 (11.0) 底径 － 器高 －	口縁部は「S」字状を呈する。	外面－口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、胴部ハケメ。内面－口縁部ヨコナデ、頸部ナデ。	雲母・褐色粒 内－橙色 外－にぶい褐色	口縁部～頸部1/3。
14	土師器 S字甕	口径 (14.8) 底径 8.8 器高 22.7	胴部は膨らみを持ち、口縁部は「S」字状を呈する。台部は直線的に開き、端部を折り返す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、台部ハケメ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデとコビナデ、台部コビナデ。	白色粒・褐色粒 内－にぶい黄褐色～灰黄褐色 外－にぶい橙色	3/4。
15	土師器 S字甕	口径 (17.0) 底径 － 器高 －	胴部は膨らみを持ち、口縁部は「S」字状を呈する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～台部ハケメ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデとコビナデ。	片岩・白色粒・赤褐色粒 内－暗灰黄色 外－にぶい黄色	1/2。

SI-12

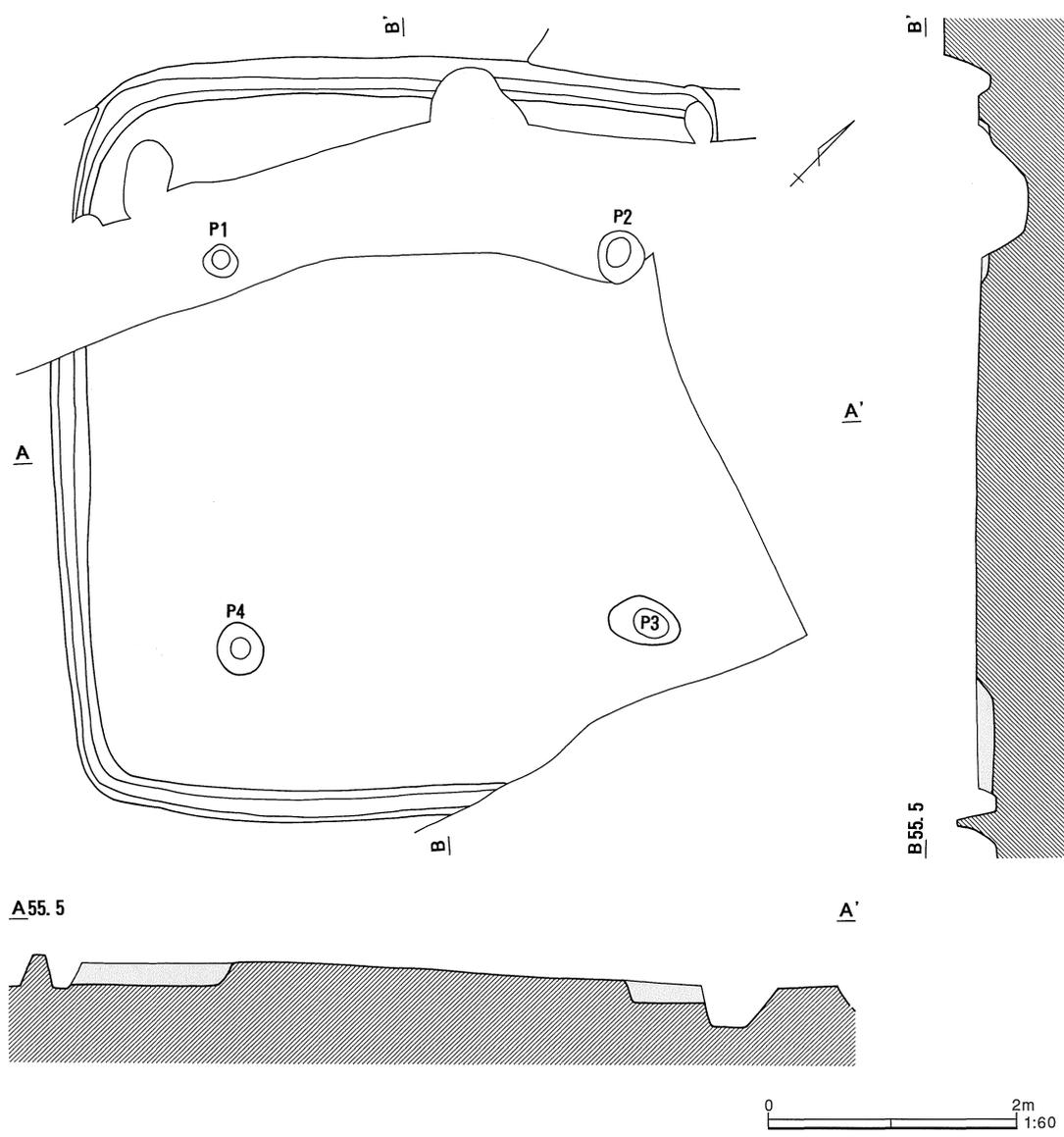
(1) 遺構 (図 189・190)

1Y-18、1Y-19グリッドに位置する。SD-32・36・47など縦横には走行する後代の溝によって各所で切られている。

平面形は隅丸方形で、主軸の方位はN-45°-Eを示す。覆土はまったく残存しておらず、床面が遺構確認面となっている。

床は四周にロームブロックを含む黒褐色土を敷いて貼床を施し、中央部分は貼床をもたず、地山をそのまま床面としている。床面は南半が高く、中央部からは北方へ向かって緩やかに傾斜している。貼床部分は硬くしまっている。

確認の範囲で、壁溝が全周する。溝との重複により明確ではないが、貯蔵穴は設けられていなかったようである。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP3・4の2基で、さらに溝4の内部でP1・2を検出している。いずれも円形もしくは不整な楕円形を呈する。すべて支柱穴と判断される。



SI-12 土層説明
 黒褐色土 ロームブロック（径 1～15 mm）を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。

図 189 SI-12 床面平面および断面

掘り方は床面の四周を掘り込んで中央部分の地山を方形に高く掘り残している。北半にはピット状の浅い落ち込みが散在している。

規模は南西側壁で 6.2 m を測る。ピットの深さは、P3 が 54 cm、P4 が 40 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は出土していない。

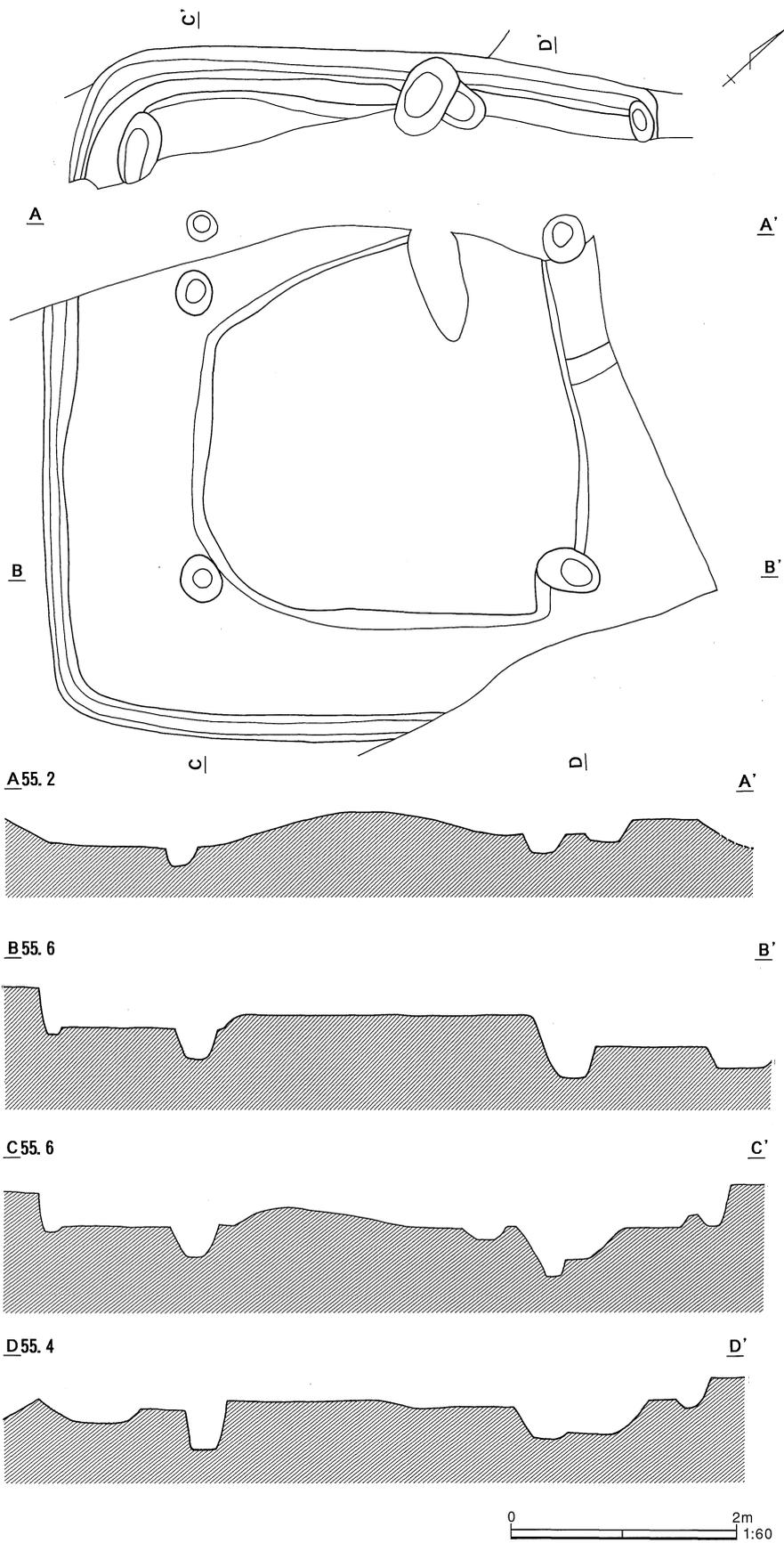


図 190 SI-12 掘り方平面および断面

SI-13

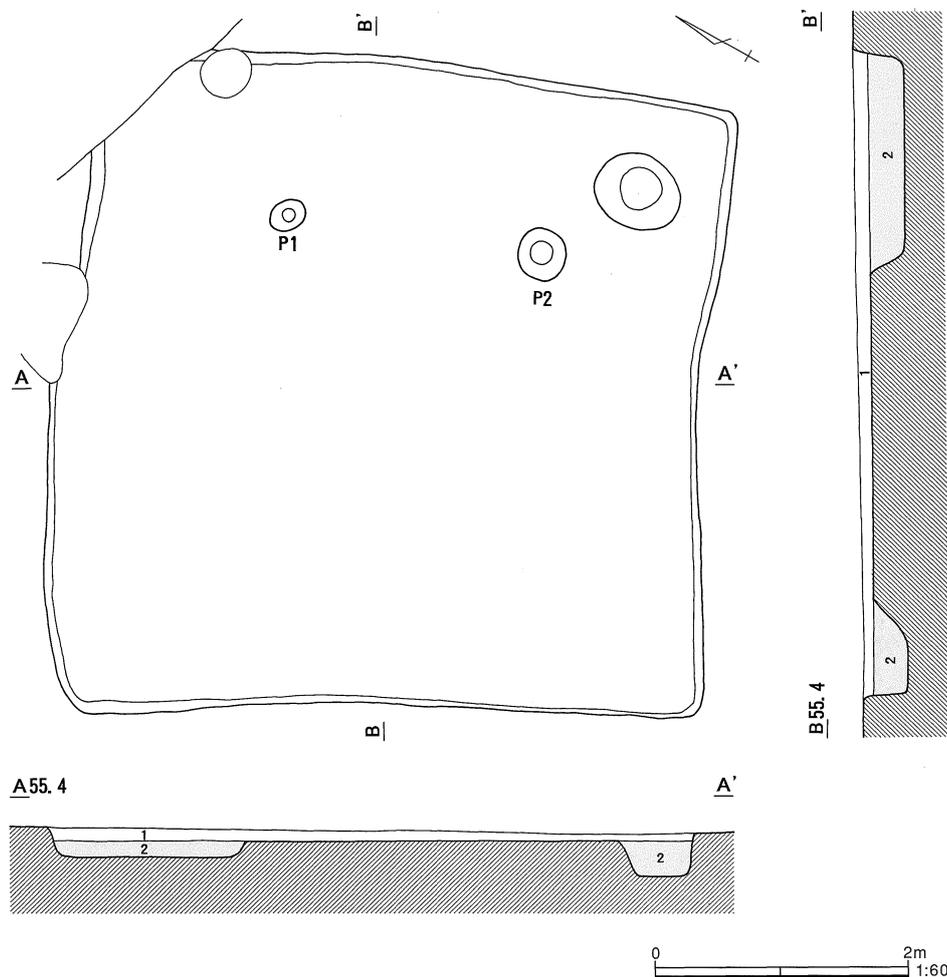
(1) 遺構 (図 191・192)

2B-19、2B-20、2C-19、2C-20グリッドに位置する。北東隅周辺が調査区外にある。

平面形は不整な方形で、北壁と南壁は中間で緩やかに屈曲し、東壁と西壁も平行していない。主軸の方位はN-60°-Eを示す。覆土の残りはわずかで、ロームブロックを含む黒褐色土が堆積が認められる。

床は四周にロームブロックを多量に含む黒色土を敷いて貼床を施し、中央部分は貼床をもたず、地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で、貼床部分は硬くしまっている。

壁溝は存在しない。東隅に貯蔵穴を設けている。貯蔵穴は上端・下端ともに不整な円形を呈し、平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP1・2の2基のみで、不整な楕円形を呈し、いずれも支柱穴と判断される。西半側のピットは確認できなかった。



SI-13 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。

図 191 SI-13 床面平面および断面

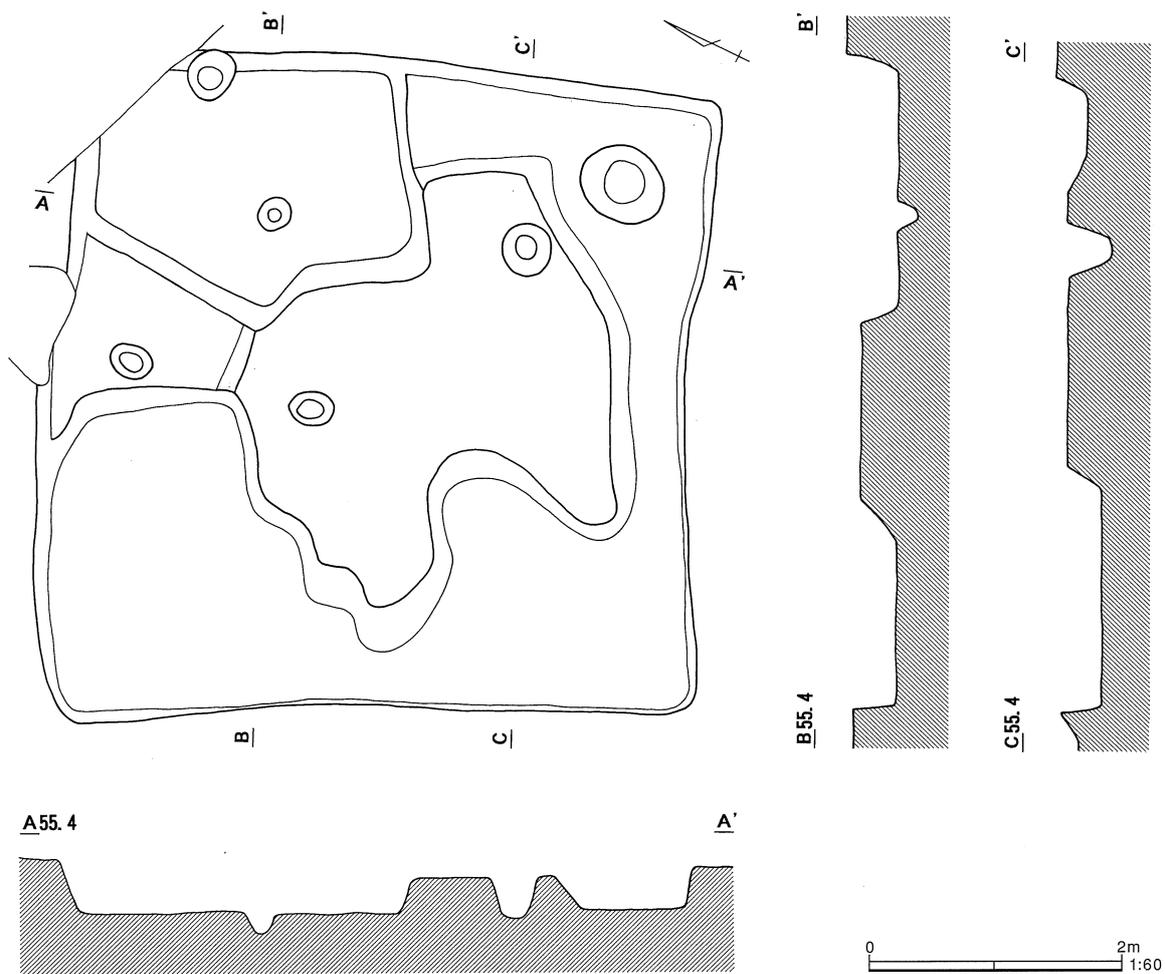


図 192 SI-13 掘り方平面および断面

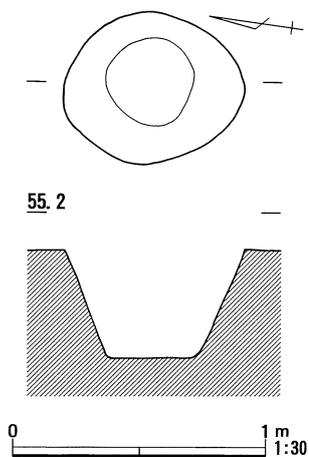


図 193 SI-13 貯蔵穴平面および断面

掘り方は床面の四周を掘り込んで中央部分の地山を不整形に高く掘り残している。東半にはピット状の浅い落ち込みがみられる。

規模は一辺 5.2 m、確認面からの深さ 10 cm を測る。貯蔵穴は、長径 70 cm、底径 35 cm、床面からの深さ 41 cm を測る。ピットの深さは P1 が 44 cm、P2 が 32 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-13 に伴う遺物は検出されなかった。

SI-14

(1) 遺 構 (図 194)

2A-20、2A-21、2B-20 グリッドに位置する。東半をST-55によって大きく切られ、西隅周辺もST-54との重複で失っている。

平面形は不整な方形で、対面する各壁は平行しない。主軸の方位はN-24°-Eを示す。覆土にはロームブロックを多量に含む黒褐色土が堆積している。

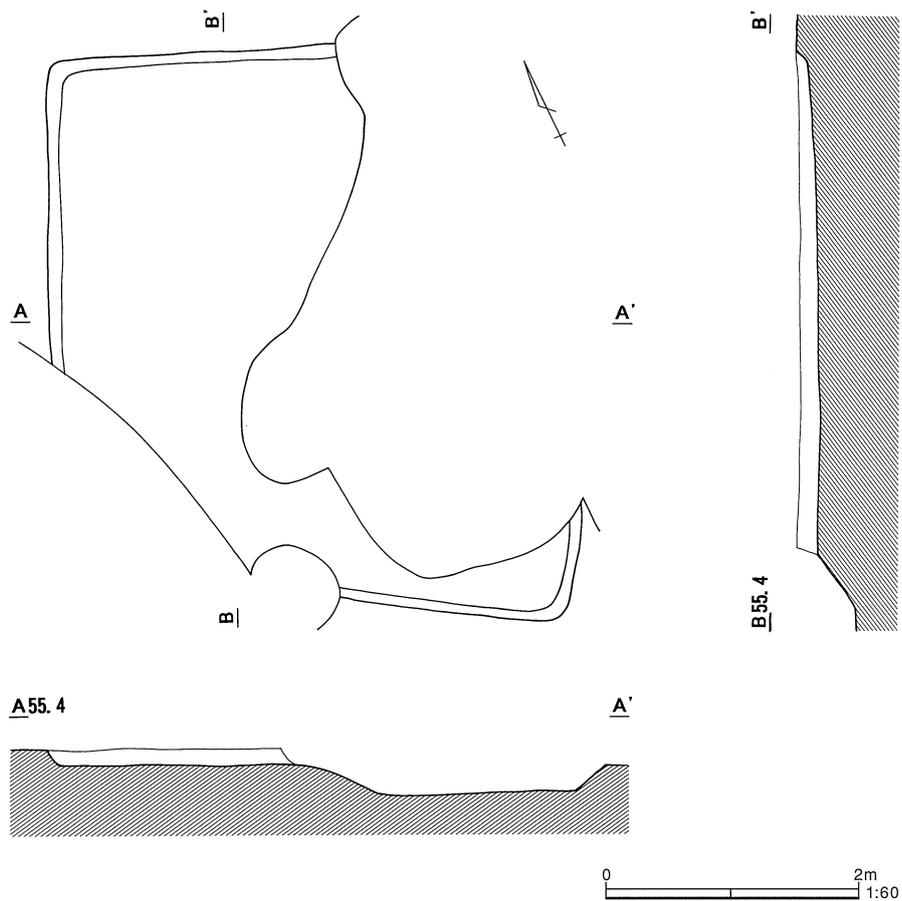
床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。床面の北半は中央から壁側へ向かって緩やかに高くなっている。

ST-54・55との重複により明確ではないが、壁溝・貯蔵穴・炉・竈などの施設は確認できない。また、ピットもまったくみられない。

規模は一辺 4.4 m、確認面からの深さ 12 cmを測る。

(2) 遺 物

遺物はまったく出土していない。



SI-14 土層説明
黒褐色土 ロームブロック (径 1~15 mm) を多量に含む。しまり強。粘性欠。

図 194 SI-14平面および断面

SI-15

(1) 遺 構 (図 195)

2A-18、2A-19グリッドに位置する。大半が調査区外にあって、南隅周辺から南東壁の一部を検出したにとどまる。

平面形は隅丸方形となるようで、主軸の方位はN-20°-Eを示す。覆土にはロームブロックを多量に含む黒褐色土の堆積が認められる。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。

壁溝は存在しない。南隅に貯蔵穴を設けている。貯蔵穴は上端・下端ともに比較的整った円形を呈し、平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。ピットもまったくみられない。

規模は一辺 6.0 m 以上あり、確認面からの深さは 12 cm を測る。貯蔵穴は、長径 75 cm、底径 48 cm、床面からの深さ 32 cm を測る。

規模は一辺 6.0 m 以上あり、確認面からの深さは 12 cm を測る。貯蔵穴は、長径 75 cm、底径 48 cm、床面からの深さ 32 cm を測る。

(2) 遺 物 (図 197、写真 57・58)

遺物は貯蔵穴から完形の土師器 5 点のほか土師器鉢・高坏を検出している。そのほか、床面から浮いた状態で土師器の細片が出土しているが、いずれも他所からの流れ込みと判断される。

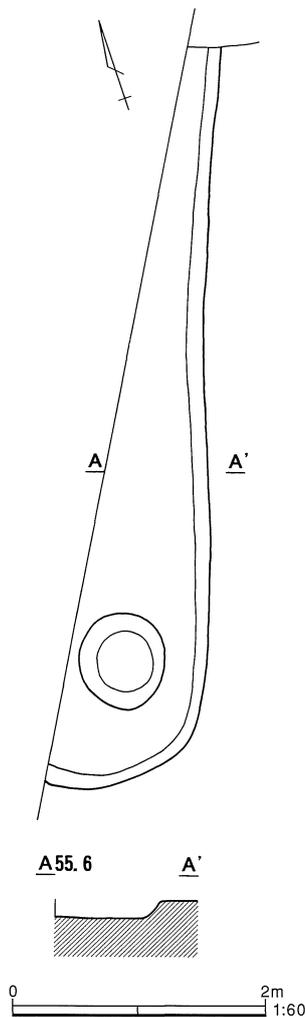


図 195 SI-15 平面および断面

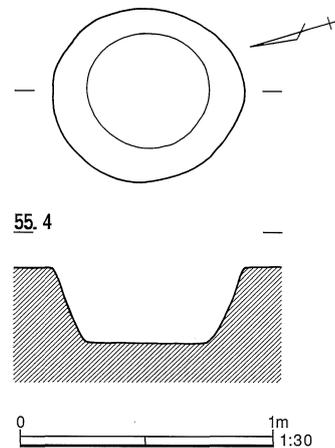


図 196 SI-15 貯蔵穴平面および断面

SI-15 出土土器観察表

No.	器 種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 師 器 鉢	口径 8.8 底径 3.1 器高 6.7	胴部上位に膨らみを持ち、口縁部は短く外反する。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ナデ。	雲母・褐色粒 内外-明赤褐色	完形。
2	土 師 器 坏	口径 13.1 底径 2.9 器高 4.9	体部~口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	雲母 内外-明赤褐色	完形。

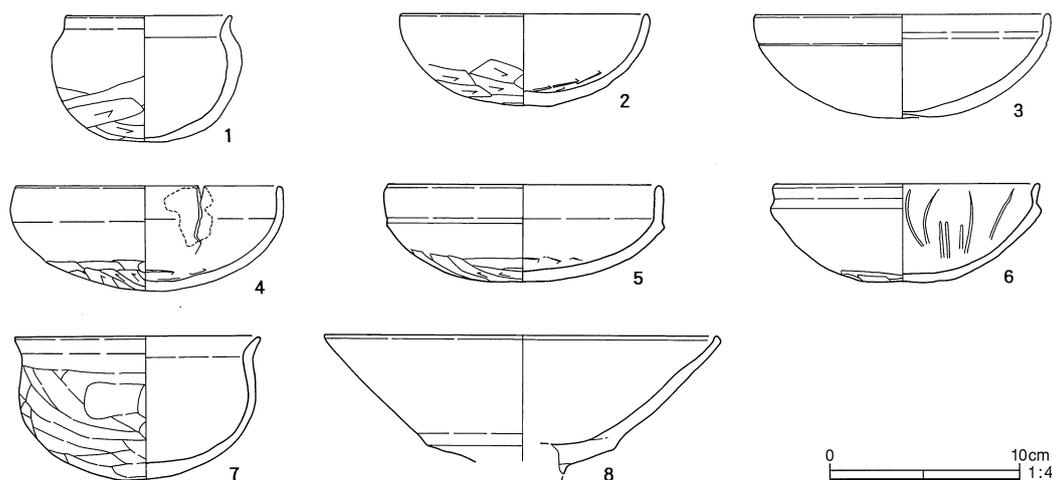


図197 SI-15 出土土器

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
3	土師器 坏	口径 15.6 底径 2.4 器高 5.5	体部と口縁部を画すわずかな稜線を内外面に施す。口縁部は直立して立ち上がる。底部は上底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	チャート・赤褐色粒 内－灰黄褐色 外－明赤褐色	ほぼ完形。
4	土師器 坏	口径 14.0 底径 — 器高 5.6	体部～口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。口縁部にヒビ割れを粘土で補修した痕跡が1ヶ所ある。	外面－口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
5	土師器 坏	口径 14.4 底径 — 器高 5.2	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・褐色粒 内外－明赤褐色	完形。
6	土師器 坏	口径 14.0 底径 — 器高 5.3	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は平底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・石英・赤褐色粒 内－にぶい赤褐色 外－赤褐色	ほぼ完形。
7	土師器 鉢	口径 (13.0) 底径 — 器高 7.6	胴部はやや膨らみ、口縁部は外反する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外－にぶい赤褐色	1/2。底部外面に粘土屑付着。
8	土師器 高坏	口径 20.9 底径 — 器高 —	口縁部は直線的に開き、端面取りし、わずかに内傾する。	外面－口縁部ヨコナデ。 内面－口縁部ヨコナデ。	雲母・赤褐色粒 内－明褐色 外－明赤褐色	坏部4/5。

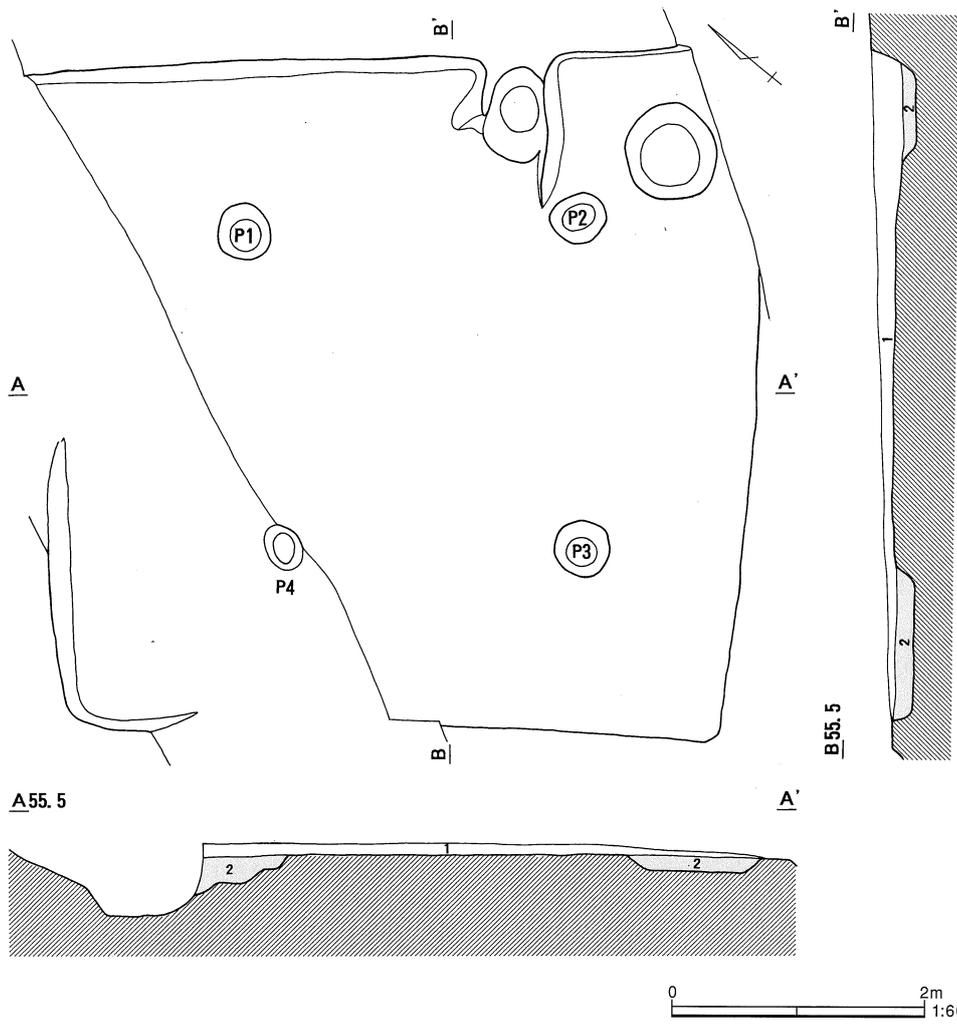
SI-16

(1) 遺構 (図198・200、写真18)

1Y-19、1Z-19グリッドに位置する。東隅をSD-32によって切られ。北隅から西隅周辺にかけてをSD-36との重複によって失っている。

平面形はやや不整な方形を呈し、主軸の方位はN-50°-Eを示す。確認面は北から南に向かって傾斜している。遺構上面の削平が著しく、南半では壁の立ち上がりが消滅し、表土が直接床面を被覆している。覆土にはロームブロックを多量に含む黒褐色土が堆積している。

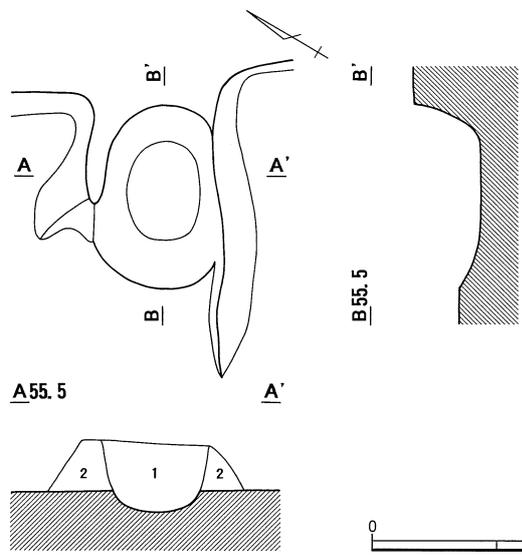
床は四周にロームブロックを多量に含む黒色土を敷いて貼床を施し、中央部分は貼床をもたず、地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で、貼床部分は硬くしまっている。



SI-16 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径 1～5mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック（径 1～10mm）を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。

図 198 SI-16 床面平面および断面



SI-16 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径 1～2mm）、炭化物ブロック（径 1～10mm）、焼土ブロック（径 1～10mm）を多量に含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径 1～5mm）、白色粘質土ブロック（径 1～5mm）、焼土ブロック（径 1～2mm）を多量に含む。しまり強。粘性欠。かまど構築土。

図 199 SI-16 カマド平面および断面

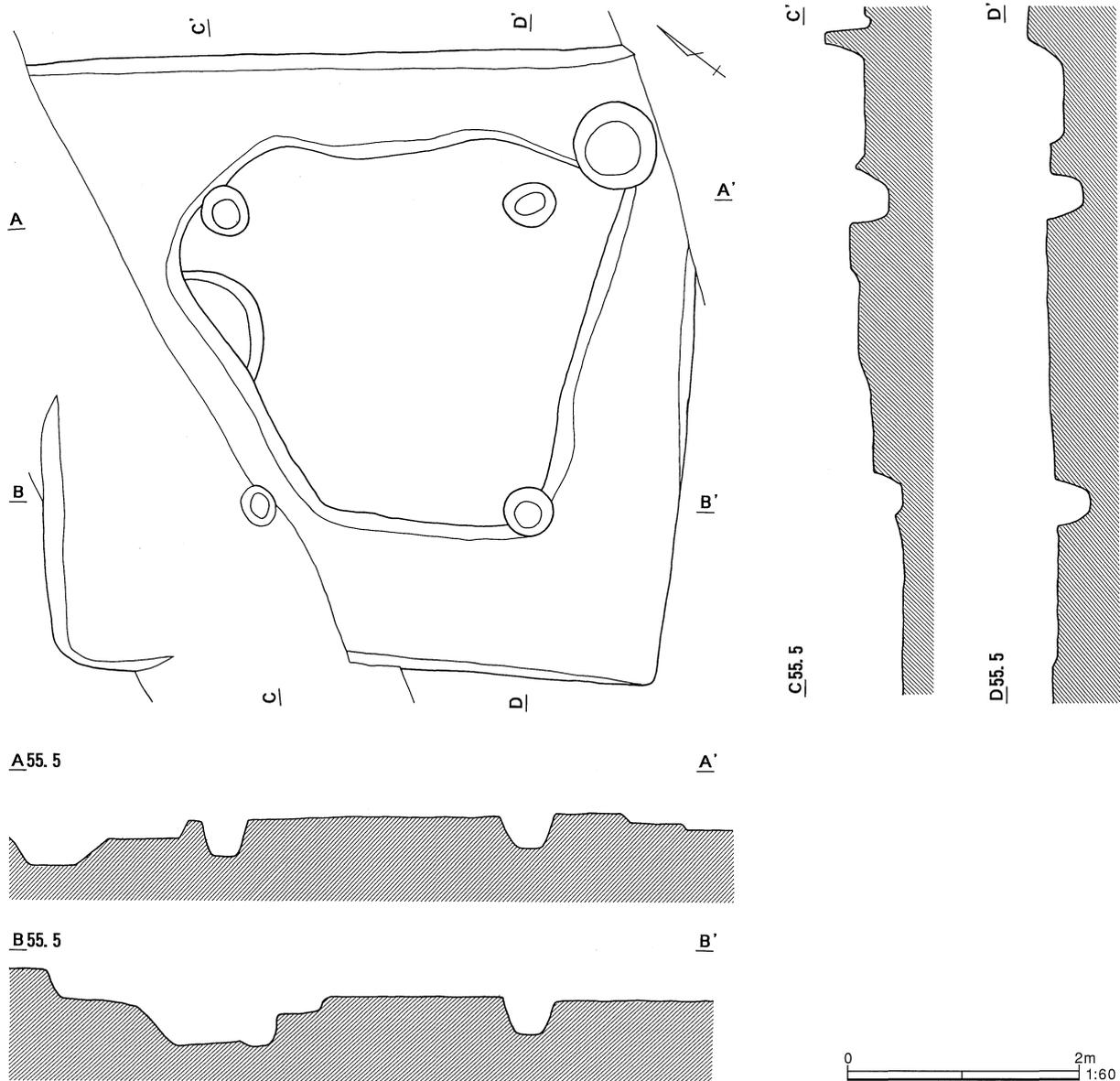


図 200 SI-16 掘り方平面および断面

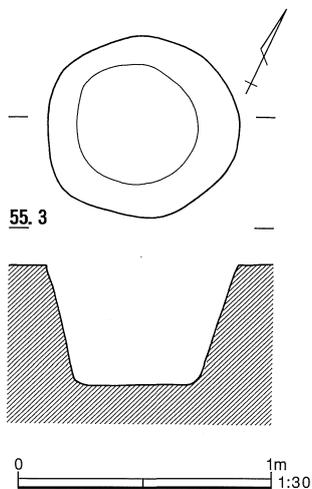


図 201 SI-16 貯蔵穴平面および断面

壁溝は存在しない。東隅に貯蔵穴を設けている。貯蔵穴は上端・下端ともにやや不整な円形を呈し、平坦な底面をもつ。北東壁には竈を付設している。竈本体はロームブロック・白色粘質土ブロック・焼土ブロックを多量に含む黒褐色土によって構築され、燃烧部は浅い土坑状の落ち込みとなっている。煙道部はすべて失っている。床面で確認したピットはP1・2・3の3基で、さらにSD-36の内部で検出のP4を加えた4基が支柱穴である。いずれも不整な円形もしくは楕円形を呈する。

掘り方は床面の四周を掘り込んで中央部分の地山を不整形に高く掘り残している。

規模は一辺 5.5 m、確認面からの深さは最大で 20 cm を測る。貯蔵穴は、長径 75 cm、底径 46 cm、床面からの深さ 46 cm を測る。ピットの深さは P1 が 32 cm、P2 が 28 cm、P3 が 30 cm を測る。

(2) 遺物 (図 202・203、写真 58～60)

遺物は竈周辺から貯蔵穴付近を中心に土師器坏・小型甕・甕・甑・壺などが出土している。大半が床面から浮いた状態で出土し、完形品もまったく含まないことから、SI-16 の廃絶後に遺棄されたり、他所から流れ込んだものと推測される。

SI-16 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 (15.6) 底径 — 器高 —	体部と口縁部を画すわずかな稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内外—明赤褐色	2/5。
2	土師器坏	口径 (15.2) 底径 3.3 器高 5.2	体部～口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は上底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ	雲母・赤褐色粒 内外—にぶい褐色	口縁部～底部 1/4。
3	土師器小型甕	口径 (10.0) 底径 — 器高 —	胴部はわずかに膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ユビナデと指頭痕。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。	雲母・チャート 内—明褐色 外—橙色	口縁部～胴部 2/5。
4	土師器小型甕	口径 (11.6) 底径 — 器高 —	胴部は膨らみを持ち、口縁部は外傾する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリだが摩滅。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部 1/2。
5	土師器甕	口径 (15.4) 底径 5.3 器高 19.6	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位が膨らむ。口縁部はやや湾曲して開く。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ・下半ユビナデ。	チャート・白色粒 内—にぶい橙色 外—橙色	3/4。
6	土師器甕	口径 14.7 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は下半に膨らみを持ち、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後上半ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・石英・チャート・赤褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部一部欠損。
7	土師器甕	口径 17.9 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は上位にやや膨らみを持ち、口縁部は外傾する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内—褐色 外—明褐色	口縁部～胴部一部欠損。
8	土師器甕	口径 (16.1) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形 (底部別作り)。胴部下位で器形大きく変化。口縁部は外傾する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・赤褐色粒 内外—明褐色	口縁部～胴部 3/4。
9	土師器甕	口径 (16.7) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位で膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリだが摩滅。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・チャート 内—にぶい黄褐色 外—明赤褐色	口縁部～胴部 2/3。
10	土師器甕	口径 18.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位で膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内—明赤褐色 外—明褐色	口縁部～胴部 3/4。
11	土師器甕	口径 18.3 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部はやや膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・赤褐色粒 内—褐灰色 外—にぶい褐色	口縁部～胴部 4/5。
12	土師器甕	口径 18.5 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部はやや膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ハケメ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内—明赤褐色 外—明褐色	口縁部～胴部 2/3。
13	土師器甕	口径 17.6 底径 6.8 器高 26.6	粘土紐積み上げ成形 (底部別作り)。胴部は下半に膨らみがあり、口縁部は外反する。底部は上底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後上半ハケメ・下半ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、頸部指頭痕、胴部上半ヘラナデ・下半ハケメ後ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外—明褐色	3/4。
14	土師器甕	口径 (17.9) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位で膨らみ、口縁部は外反する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後木口状工具ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内—にぶい褐色 外—橙色	口縁部～胴部 1/4。

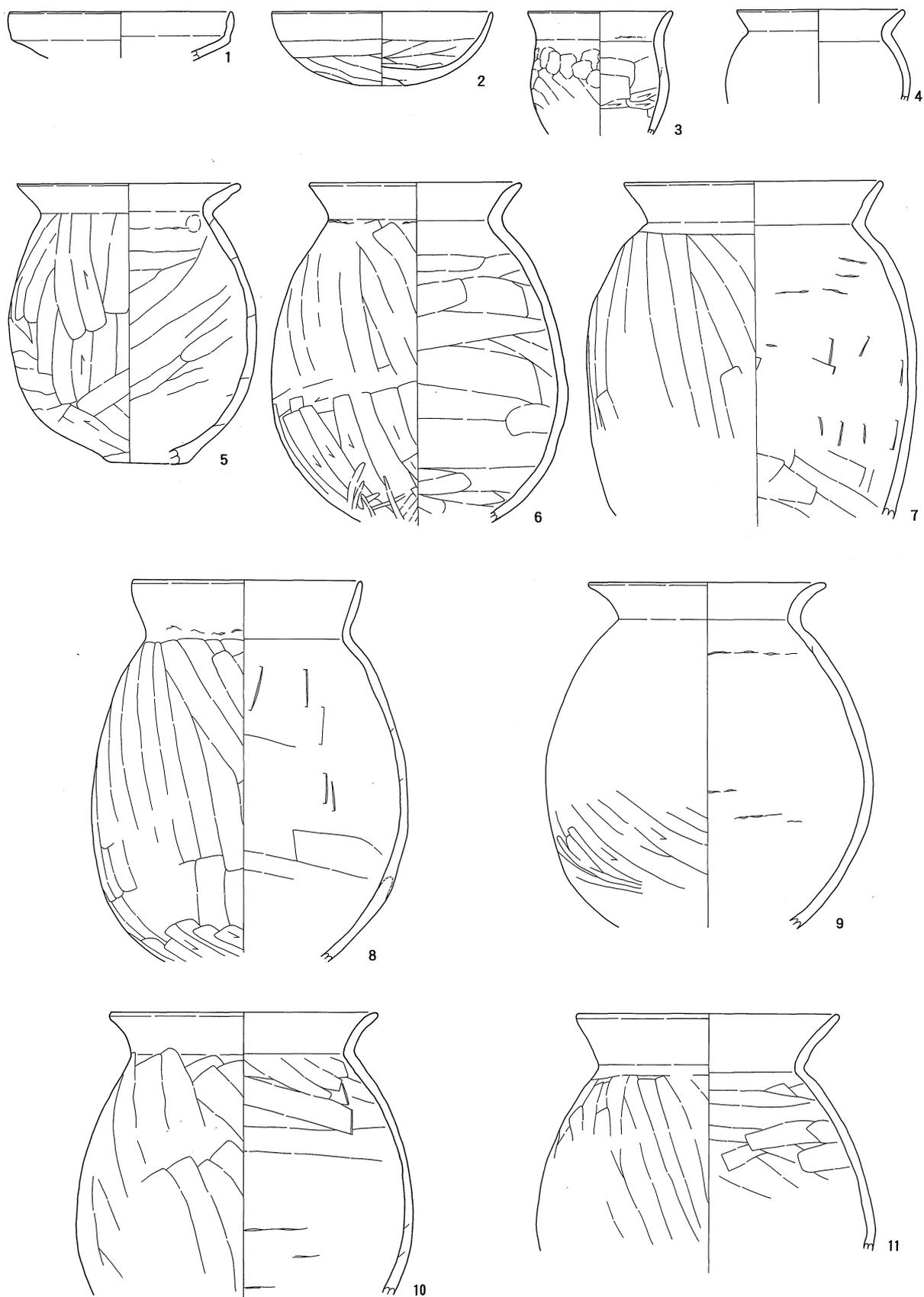


图 202 SI-16 出土土器 (1)

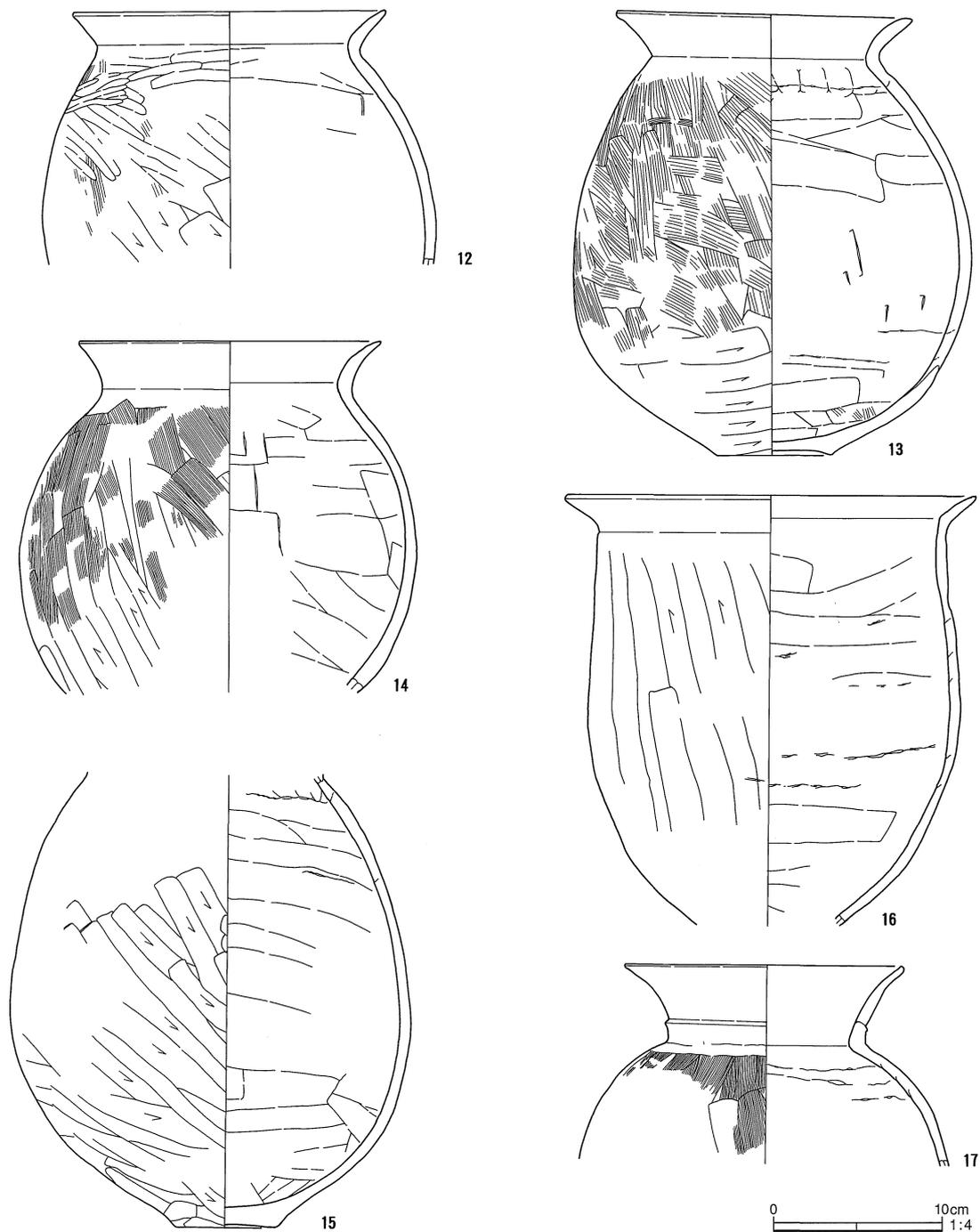


図 203 SI-16 出土土器 (2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
15	土師器 甕	口径 - 底径 (6.2) 器高 -	粘土紐積み上げ成形。胴部は下半に膨らみを持つ。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後上半ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・石英・赤褐色粒 内-にぶい褐色 外-明褐色	胴部～底部 1/2。
16	土師器 甗	口径 (24.5) 底径 - 器高 -	粘土紐積み上げ成形。胴部はわずかに膨らみ、口縁部は外傾する。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内-明褐色 外-明赤褐色	口縁部～胴部 1/3。
17	土師器 壺	口径 (16.5) 底径 - 器高 -	粘土紐積み上げ成形。胴部はやや膨らみ、口縁部は二重口縁を呈する。	外面-口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、胴部木口状工具ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、頸部指頭痕、胴部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内-橙色～黒褐色 外-橙色	口縁部～頸部残存。

SI-17

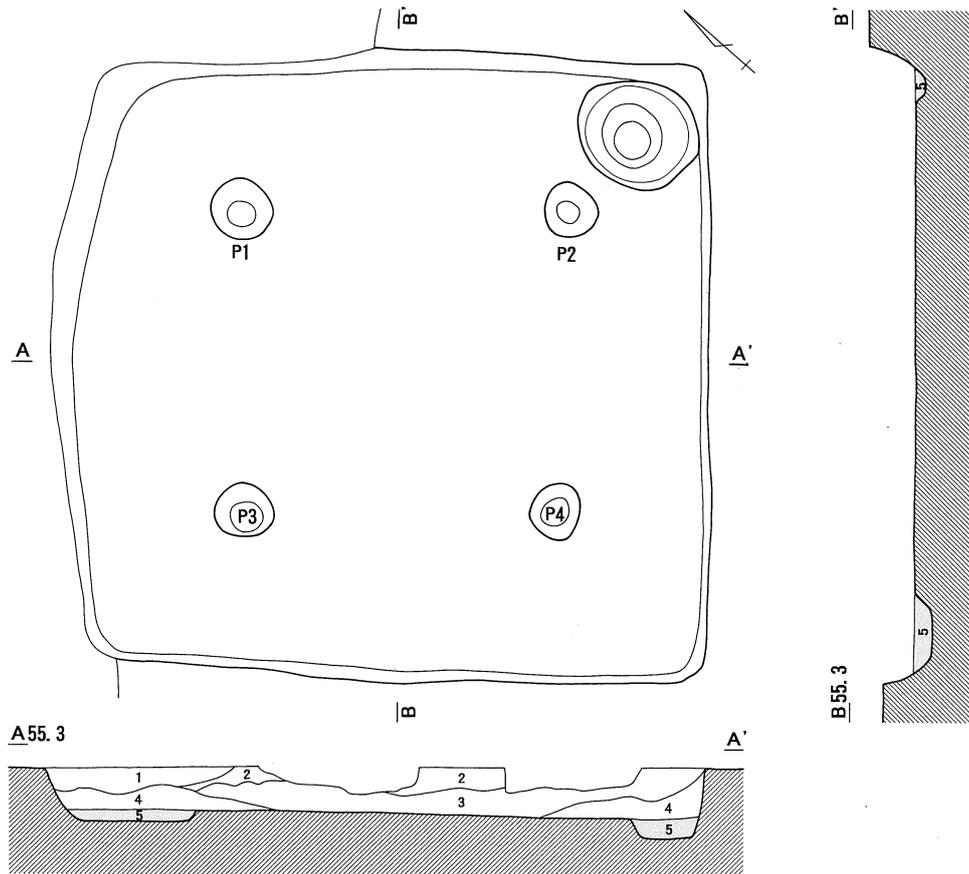
(1) 遺 構 (図 204・205、写真 18)

1X-19、1X-20、1Y-19、1Y-20 グリッドに位置する。

平面形は正方形に近いが、北西壁がやや外側に膨らみ、その分だけ北西-南東方向に長い。主軸の方位はN-48°-Eを示す。覆土は、まず、四周の壁際に粒径の小さなロームブロックを含む黒褐色土が堆積し、その後粒径のやや大きなロームブロックを含む黒褐色土が積もり、その上をロームブロックや白色パミスを含む黒色土が被覆している。

床は四壁の際にロームブロックを多量に含む黒色土を敷いて貼床を施し、中央部分は貼床をもたず、地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で、貼床部分は硬くしまっている。

壁溝は存在しない。東隅に貯蔵穴を設けている。貯蔵穴は平坦な底面の中央に、さらにもう1段の落ち込みをもつ特殊な構造となっている。上端は不整な円形を呈するが、中端・下端はともに比較的整った円形をなしている。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP1・2・3・4の4基で、いずれも支柱穴である。平面形はP1は整った円形をしているが、他はいずれも不整な円形を呈する。



SI-17 土層説明

- | | | | |
|-----------|--|------------|---|
| 1 黒 色 土 | 白色パミス (径 1mm以下) ロームブロック (径 1~15mm) を少量含む。しまり強。粘性欠。 | しまり・粘性とも欠。 | |
| 2 黒 色 土 | ロームブロック (径 1mm以下) を少量含む。しまり・粘性とも欠。 | 4 黒 褐 色 土 | ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。粘性欠。 |
| 3 黒 褐 色 土 | ロームブロック (径 1~10mm) を少量含む。 | 5 黒 色 土 | ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。 |

図 204 SI-17 床面平面および断面

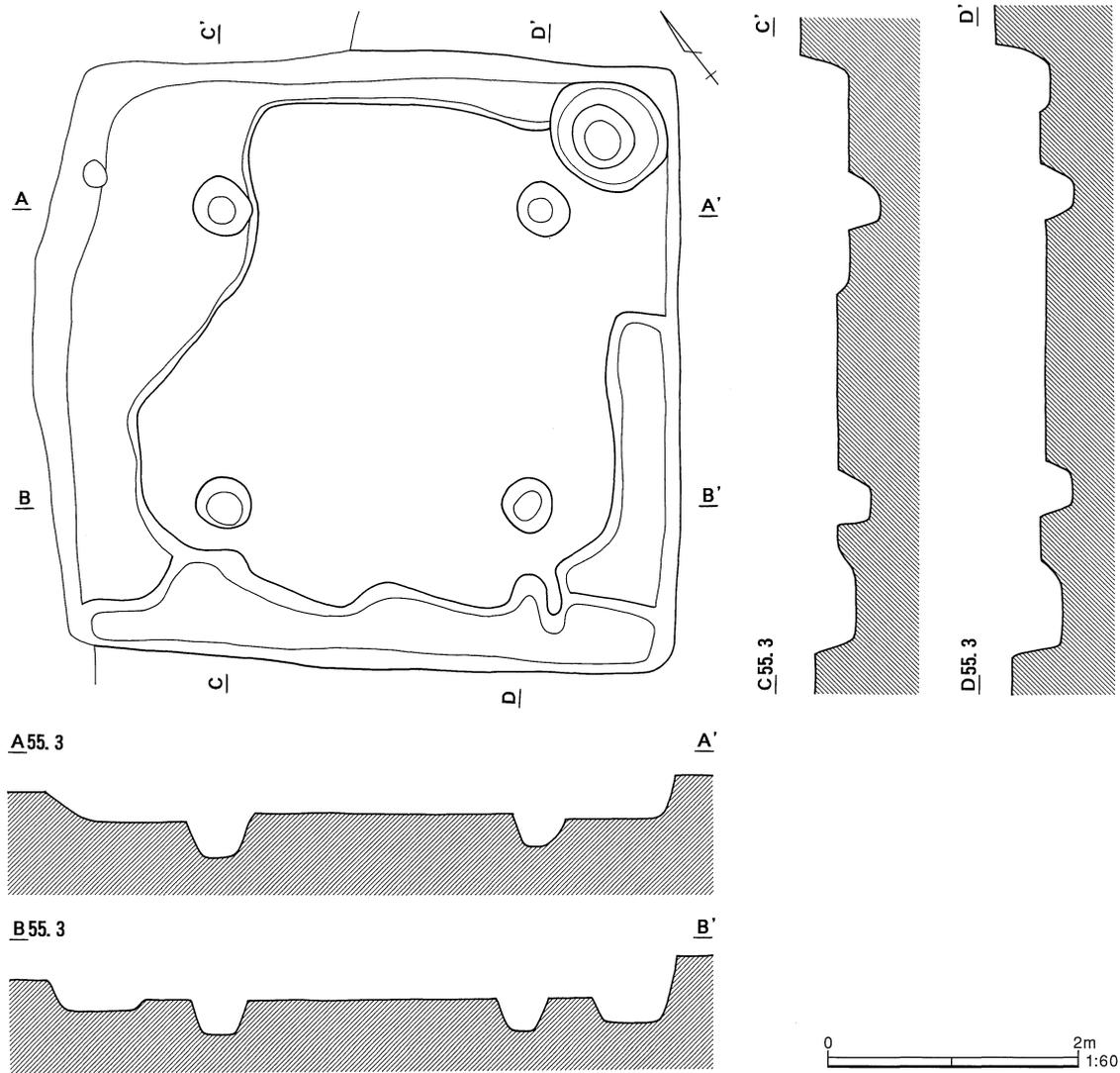


図 205 SI-17 掘り方平面および断面

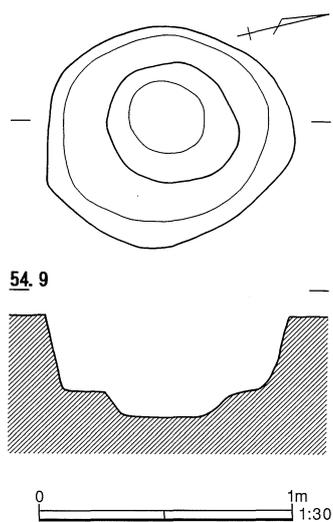


図 206 SI-17 貯蔵穴平面および断面

掘り方は床面の四周を掘り込んで中央部分の地山を不整形に高く掘り残している。

規模は長軸 5.3 m、短軸 5.0 m、確認面からの深さ 36 cm を測る。貯蔵穴は、長径 95 cm、底径 30 cm、床面からの深さ 40 cm を測る。ピットの深さは P1 が 36 cm、P2 が 24 cm、P3 が 24 cm、P4 が 28 cm を測る。

(2) 遺物 (図 207、写真 60)

遺物は土師器坏・高坏・小型甕・甕などが出土しているが、完形は含まれない。出土状態は散漫で、とくに有意なまとまりはなく、貯蔵穴付近にも遺物の集中は認められない。また、大半が床面から浮いた状態で出土していることから、SI-17 の廃絶後に遺棄されたり、他所から流れ込んだものと推測される。

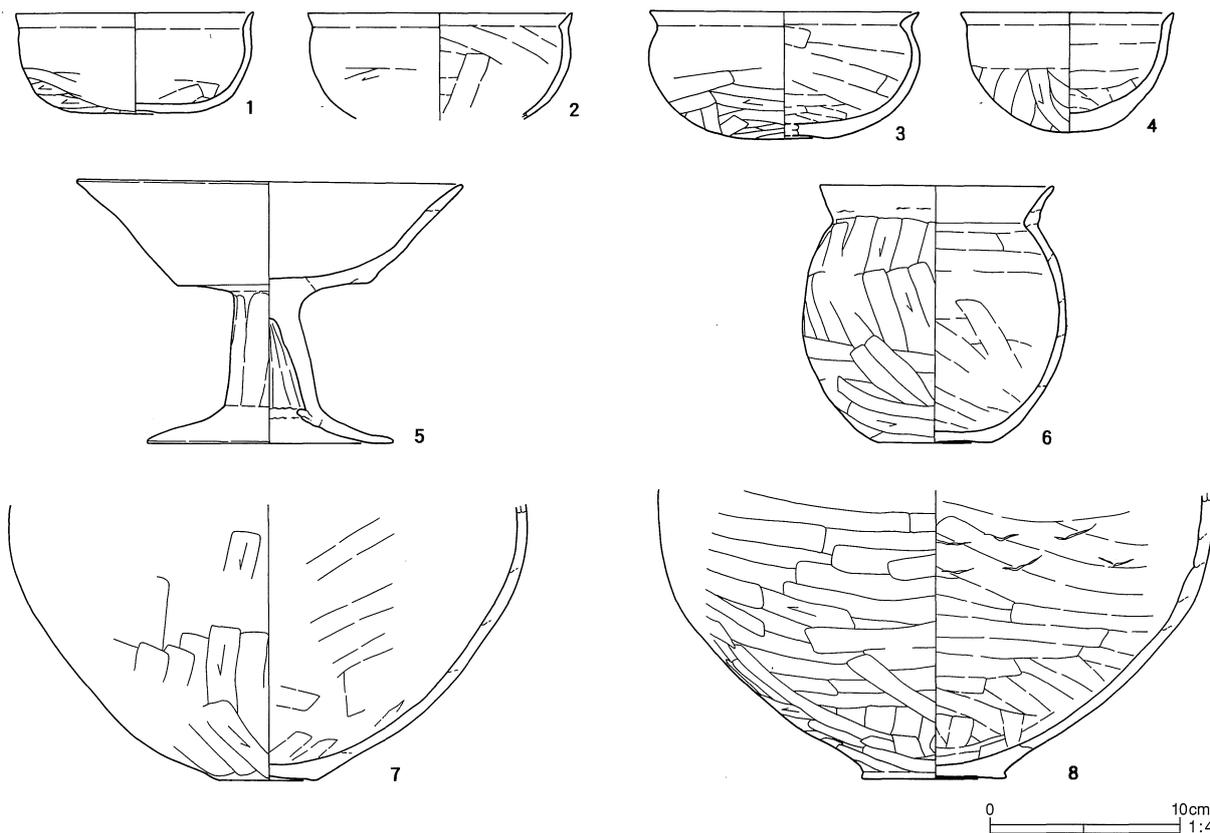


図 207 SI-17 出土土器

SI-17 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (12.5) 底径 — 器高 (5.5)	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く外反する。底部は丸底気味。	外面-口縁部~体部上半ヨコナデ、体部下半~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内-にぶい赤褐色 外-にぶい褐色	1/2残存。
2	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 —	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く外反する。	外面-口縁部ヨコナデ、体部-ヘラケズリ後上位ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	石英・黒色粒 内外-明赤褐色	口縁部~体部 1/4残存。
3	土師器 坏	口径 (14.2) 底径 (4.4) 器高 (6.8)	体部は湾曲し、口縁部は短く外反する。底部は上げ底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、上位ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内-赤褐色 外-にぶい褐色	1/2残存。
4	土師器 坏	口径 (11.3) 底径 — 器高 (6.4)	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く外反する。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後、体部上位ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外-にぶい褐色	2/3残存。
5	土師器 高坏	口径 (20.4) 底径 12.9 器高 14.1	坏部は平底から外反気味に立ち上がり、口縁部は直線的に開く。脚部は中位でわずかに膨らみを持ち、裾部は広がる。	外面-口縁部~坏部磨耗、脚部ナデ、裾部磨耗。内面-口縁部~坏底部磨耗、脚部ナデ、裾部磨耗。	片岩・チャート・褐色粒 内-橙色 外-明赤褐色・明褐色	2/3残存。
6	土師器 小型甕	口径 (12.2) 底径 (6.1) 器高 (13.7)	胴部は中位でわずかな膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ。	片岩・黒色粒・白色粒 内外-にぶい黄褐色	1/2残存。
7	土師器 甕	口径 — 底径 5.5 器高 —	胴部は下位に膨らみを持って立ち上がる。底部は上げ底。	外面-胴部下位ヘラケズリ、底部ナデ。内面-胴部下位~底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内-にぶい黄褐色 外-明赤褐色	胴部下位~底部 1/2残存。
8	土師器 甕	口径 — 底径 7.6 器高 —	胴部は下位に膨らみを持つ。底部は台状。	外面-胴部下位ヘラケズリ、底部ナデ。内面-胴部下位~底部ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内-灰褐色 外-にぶい黄褐色	胴部~底部 1/3残存。

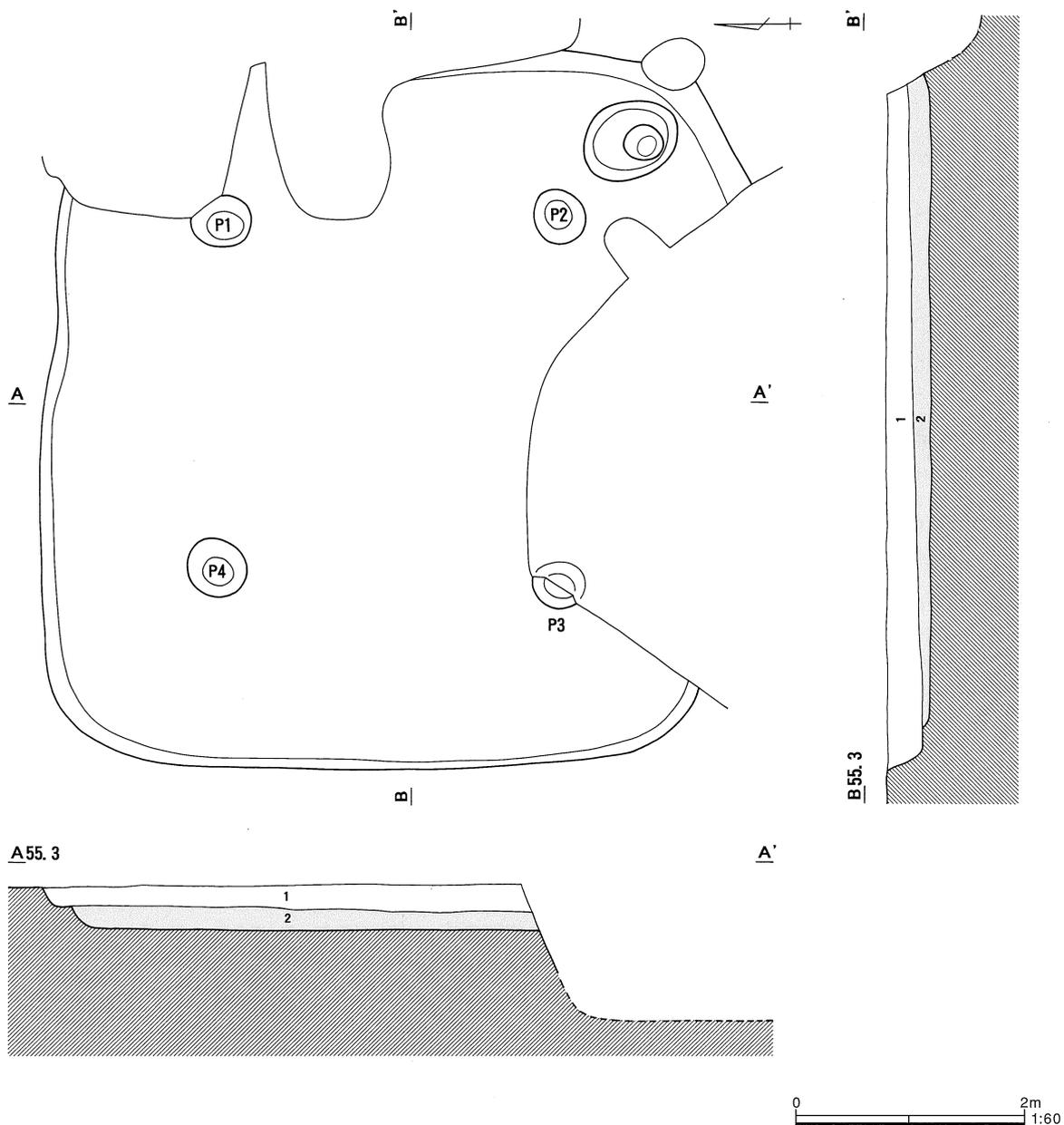
SI-18

(1) 遺構 (図 208・209、写真 18)

IX-20 グリッドに位置する。北隅をSK-406、東側と南側の壁を攪乱によって切られている。

平面形は隅丸方形で、南東壁がやや外側に膨らんでいる。主軸の方位はN-0°-Eを示す。覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。

床は西壁および北壁際の地山を帯状に残し、それ以外の範囲は一定の深さで全面的に掘り込んだのちロームブロックを多量に含む黒褐色土を敷いて貼床を施している。床面は東から西へ向かい緩やかに傾斜している。貼床部分は硬くしまっている。



SI-18 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5 mm) を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10 mm) を多量に含む。しまり強。粘性欠。貼床層。

図 208 SI-18 床面平面および断面

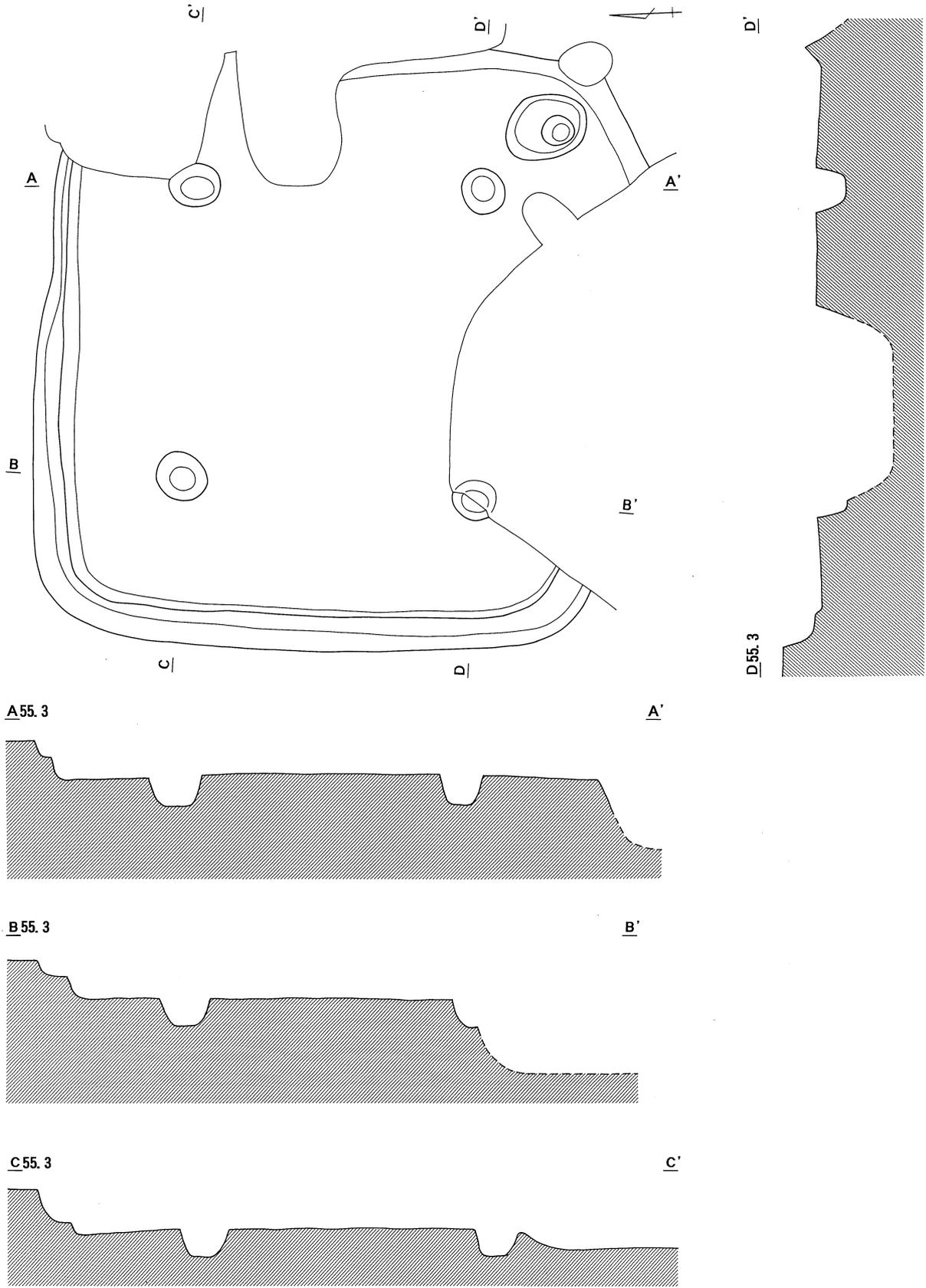


図 209 SI-18 掘り方平面および断面

壁溝は存在しない。東隅に貯蔵穴を設けている。貯蔵穴は平坦な底面の南寄りに、さらにもう1段の落ち込みをもつ特殊な構造となっている。上端・下端はともに楕円形をなす。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP1・2・3・4の4基で、いずれも支柱穴である。平面形は比較的整った円形を呈する。

掘り方の底面は、平坦で、起伏もなく、丁寧に削平されている。

規模は一辺短軸6.3m、確認面からの深さ25cmを測る。貯蔵穴は、長径80cm、底径15cm、床面からの深さ60cmを測る。ピットの深さはP1が30cm、P2が30cm、P3が30cm、P4が30cmを測る。

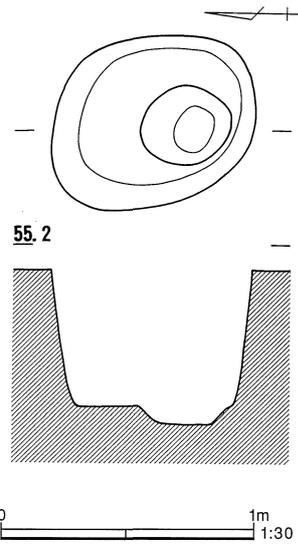


図210 SI-18 貯蔵穴平面および断面

(2) 遺物 (図211、写真60)

遺物は土師器台付甕が床面で出土しているが、遺存状態は良好ではない。また、覆土中にはS字甕の細片が多いものの、接合する個体はわずかであった。貯蔵穴付近にも遺物の集中は認められない。覆土中の遺物の大半が、SI-18の廃絶後の遺棄あるいは他所から流れ込みによるものと推測される。

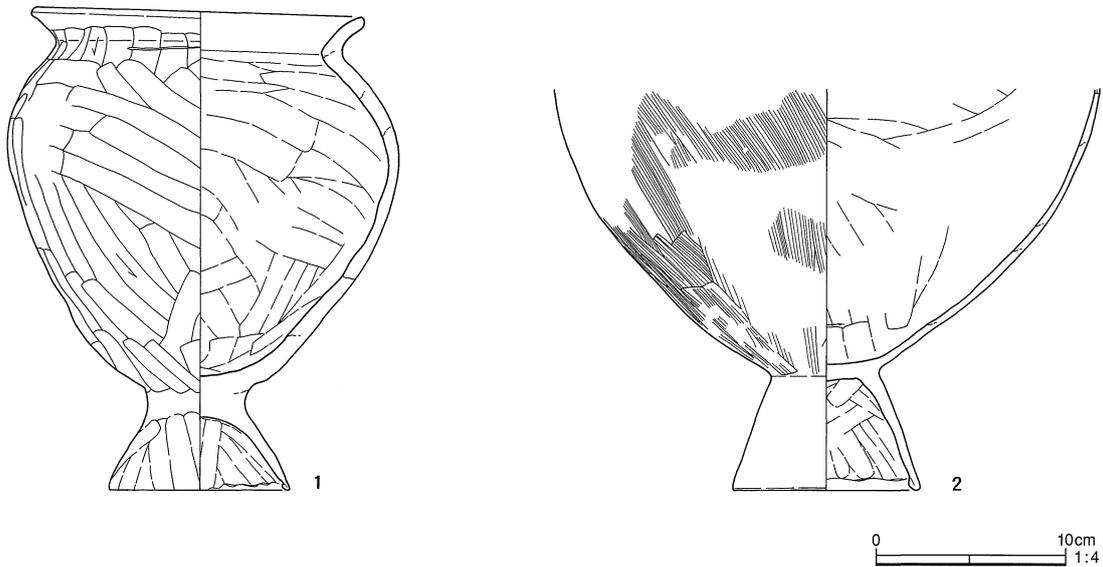


図211 SI-18 出土土器

SI-18 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 台付甕	口径 (17.7) 底径 (9.6) 器高 25.5	胴部上位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。台部は内湾気味に開く。端部一部折り返し。	外面-口縁部上位ヨコナデ、口縁部下位~胴部ヘラケズリ、台部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ヘラナデ、台部ナデ。	片岩・チャート・黒色粒 内-にぶい黄橙色 外-にぶい橙色	2/3残存。
2	土師器 S字甕	口径 - 底径 (9.8) 器高 -	胴部は中位に膨らみを持つ。台部は直線的に開く。端部折り返し。	外面-胴部中~下位ハケ目、台部ナデ。内面-胴部中~底部ヘラナデ、台部ナデ。	黒色粒 内-にぶい黄褐色 外-暗灰黄色・にぶい黄橙色	胴部中位~底部 1/2残存。

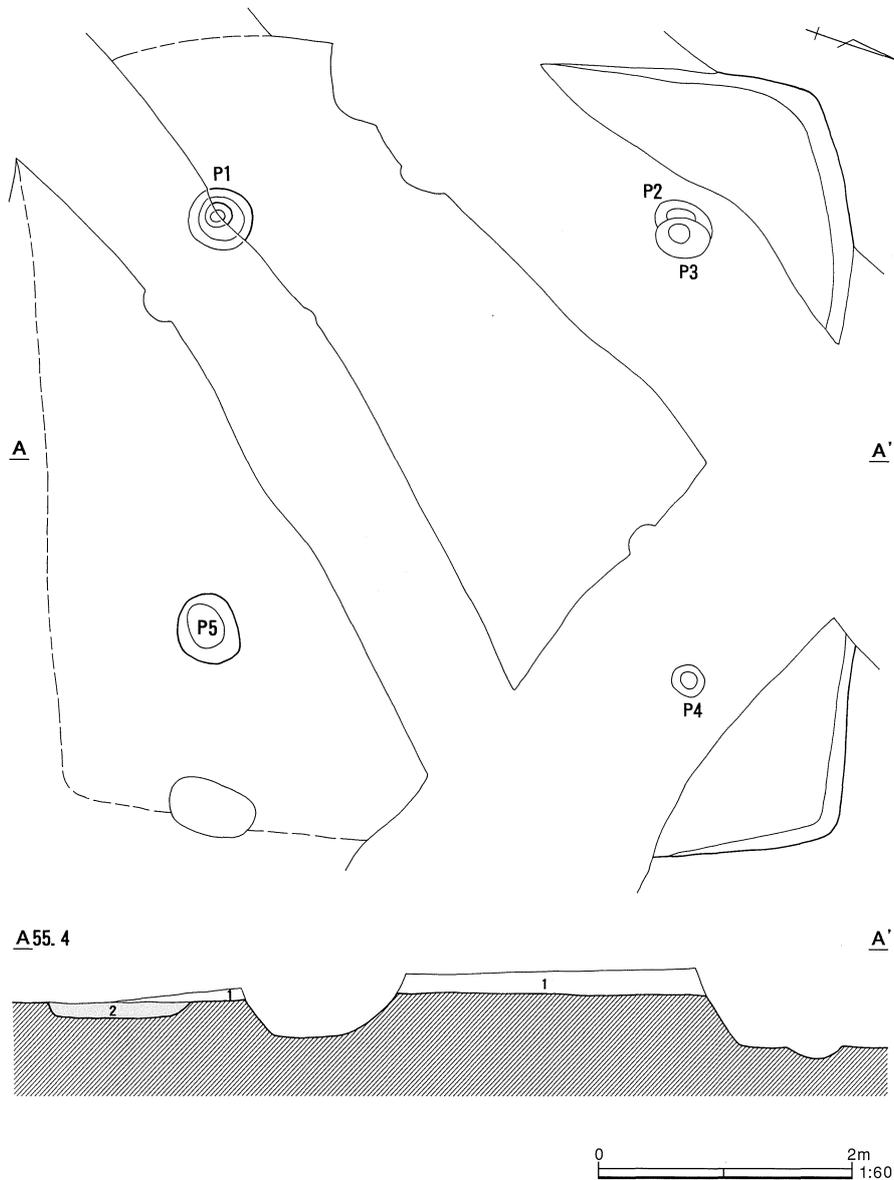
SI-19

(1) 遺 構 (図 212・213、写真 19)

1Y-19、1Y-20、1Z-19、1Z-20 グリッドに位置する。ST-51、SD-32・36 によって縦横に切られている。

平面形はやや不整な方形を呈し、主軸の方位はN-75°-Eを示す。確認面は北から南に向かって傾斜している。遺構上面の削平が著しく、南半では壁の立ち上がりが消滅し、表土が直接床面を被覆している。覆土にはロームブロックを多量に含む黒褐色土が堆積している。

床は東側・南側・西側それぞれの壁際に溝状に掘り込み、ロームブロックを多量に含む黒褐色土を敷いて貼床を施している。床面は平坦で、貼床部分は硬くしまっている。



SI-19 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1mm±) を多量に含む。しまり欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10mm) を多量に含む斑状に堆積する。貼床層。

図 212 SI-19 床面平面および断面

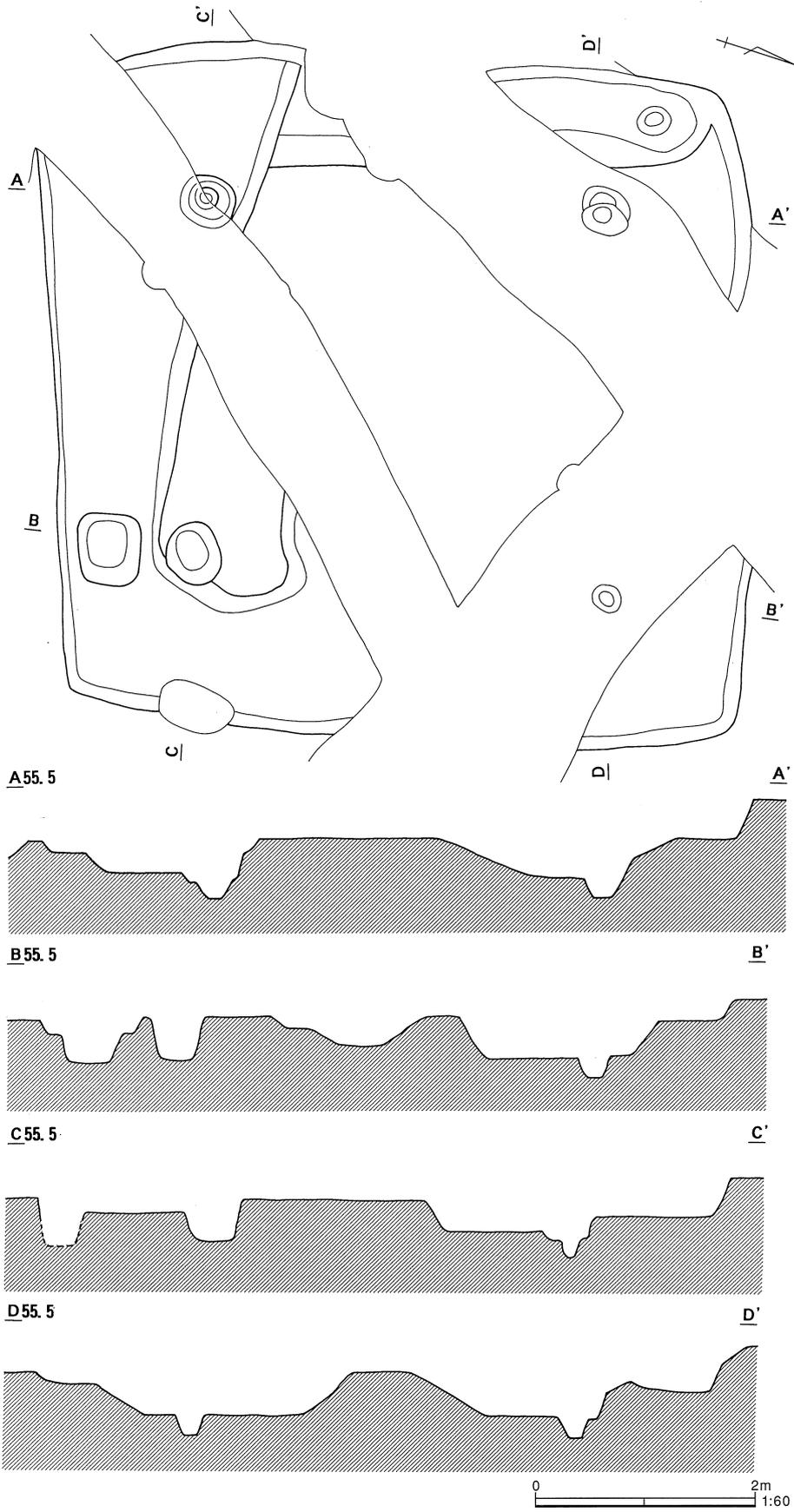


図 213 SI-19 掘り方平面および断面

壁溝は存在しない。貯蔵穴・炉・竈も設けられていなかったようである。床面で確認したピットは P1・5 の 2 基であるが、さらに SD-36 の内部で検出の P2・3、ST-51 周堀内の P4 を加えた 5 基が 主柱穴である。いずれも不整な円形もしくは楕円形を呈する。P1 は 2 段に落ち込んでいる。

規模は 1 辺 6.9 m、確認面からの深さ 20 cm を測る。ピットの深さは P1 が 48 cm、P5 が 40 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-19 に伴う資料は検出されなかった。

SI-20

(1) 遺構 (図 214・215、写真 19)

1X-20、1Y-20、1Y-21 グリッドに位置する。重複する SI-21 を切っている。また、壁の一部が ST-57 により切られている。

平面形は不整な長方形を呈し、主軸の方位は N-26°-E を示す。覆土は 3 層に大別され、下層にロームブロックを含む黒色土、中層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックと炭化物をブロック含む黒褐色土が堆積している。

床にはロームブロックを多量に含む黒褐色土を敷いて全面に貼床を施している。床面はほぼ平坦で、貼床面は硬くしまっている。

壁溝は存在しない。南隅に貯蔵穴を設けている。貯蔵穴は隅丸方形に近い円形を呈し、平坦な底面をもつ。炉・竈は確認されず、ピットもまったく検出されていない。

貼床層下の掘り方は平坦で、土坑やピット状の落ち込みは存在しない。

規模は長軸 4.6 m、短軸 3.8 m、確認面からの深さ 34 cm を測る。貯蔵穴は長径 81 cm、底径 60 cm、床面からの深さ 27 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-20 に伴う資料は検出されなかった。

SI-21

(1) 遺構 (図 214・215、写真 19)

1X-21、1Y-20、1Y-21 グリッドに位置する。北東隅から床中央にかけてを SI-20 と ST-57 によって切られている。西壁周辺でも SI-22 と重複しているが、切り合い関係は明確ではない。それぞれに確認面は北から南側へ向かって緩やかに傾斜し、とくに南西隅周辺の壁は消滅している。

東西方向に長い長方形を呈し、主軸の方位は N-94°-E を示す。覆土にはロームブロックを含む黒褐色土が堆積している。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。

壁溝は存在しない。南西隅に貯蔵穴を設けている。貯蔵穴の上端は卵形に近い楕円形を呈し、平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットは 5 基で、このうち北壁際に検出の 1 基を除く P2・3・4 の 3 基と、さらに SI-20 の内部で検出の P1 を加えた 4 基が主柱穴である。P2 以

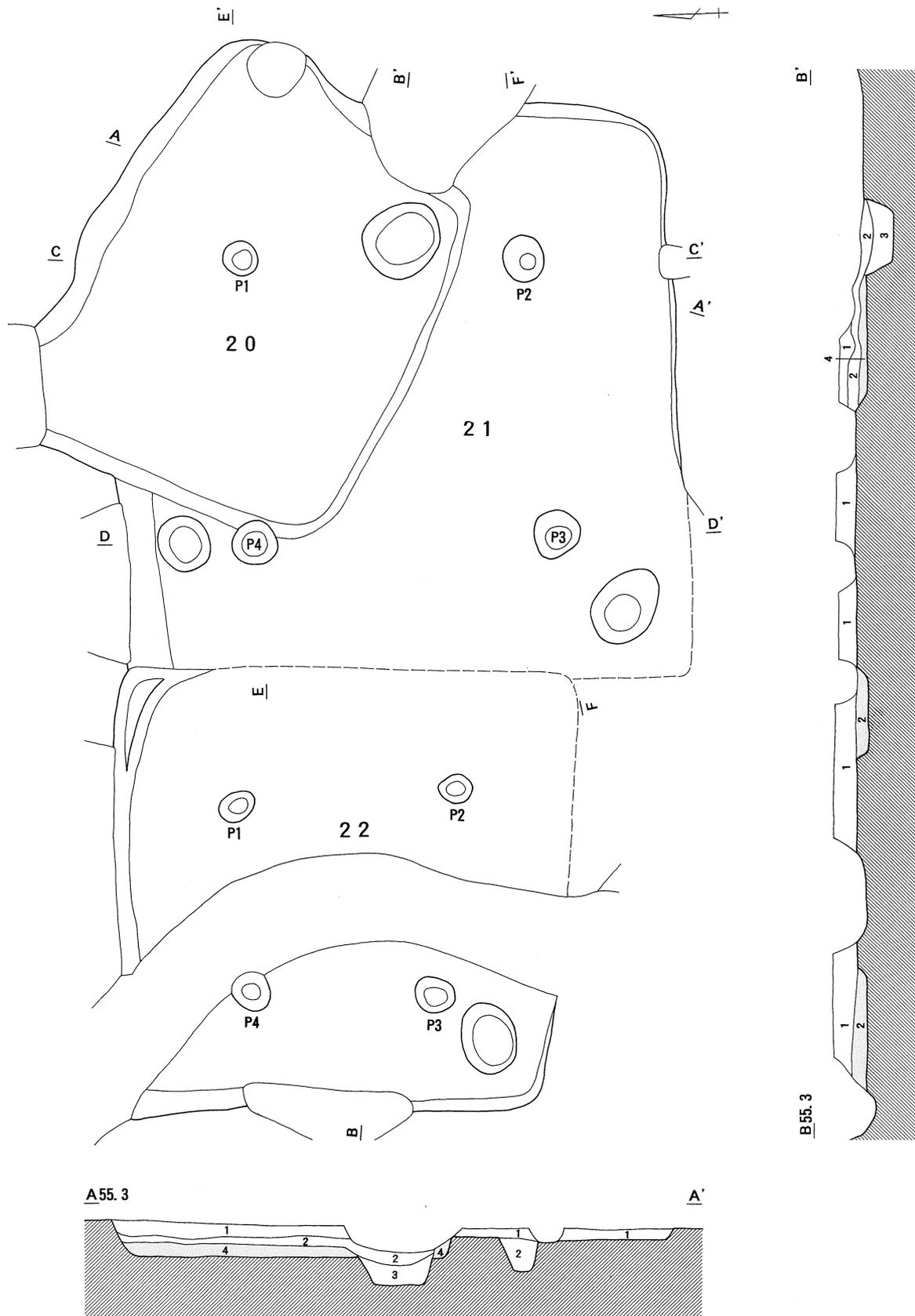
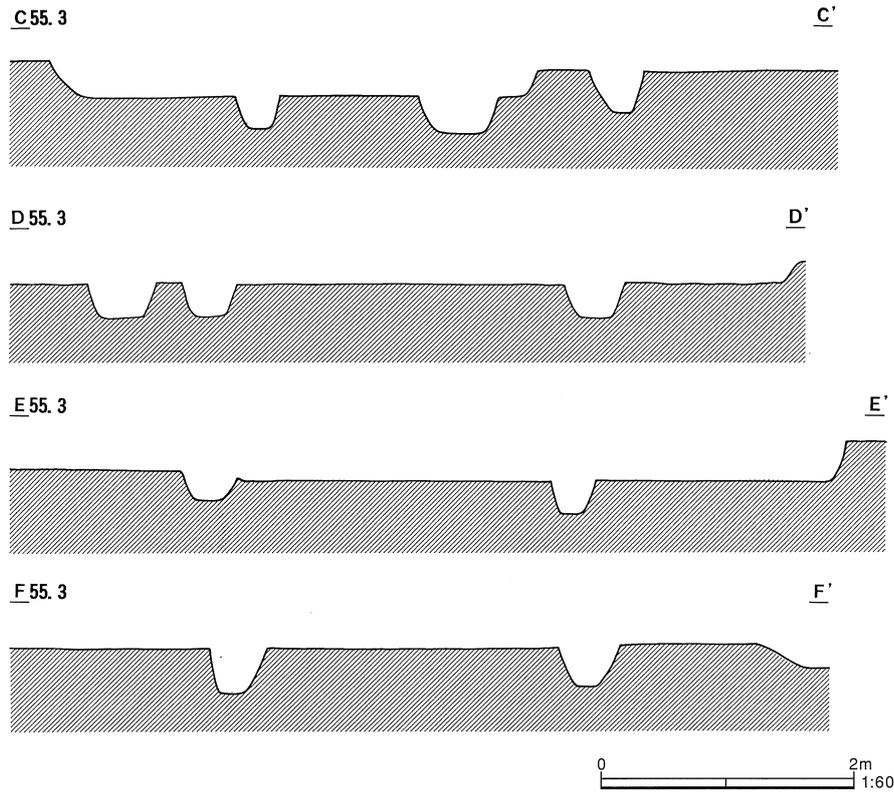


図 214 SI-20・21・22 床面平面および断面



SI-20 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径 1～5 mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径 1～5 mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径 1～2 mm）、炭化物ブロック（径 1～10 mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 4 黒褐色土 ロームブロック（径 1～10 mm）を多量に含み、焼土ブロック（径 1～2 mm）を少量含む。しまり強。貼床層。

SI-21 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径 1～2 mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック（径 1～2 mm）、炭化物ブロック（径 1～10 mm）を少量含む。しまり・粘性とも欠。

SI-22 土層説明

- 1 黒色土 白色パミス（径 1 mm±）ロームブロック（径 1 mm以下）を少量含む。しまり・粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 白色粘質土ブロック（径 1～30 mm）を多量に含む。しまり・粘性とも強。貼床層。

図 215 SI-20・21・22 床面断面

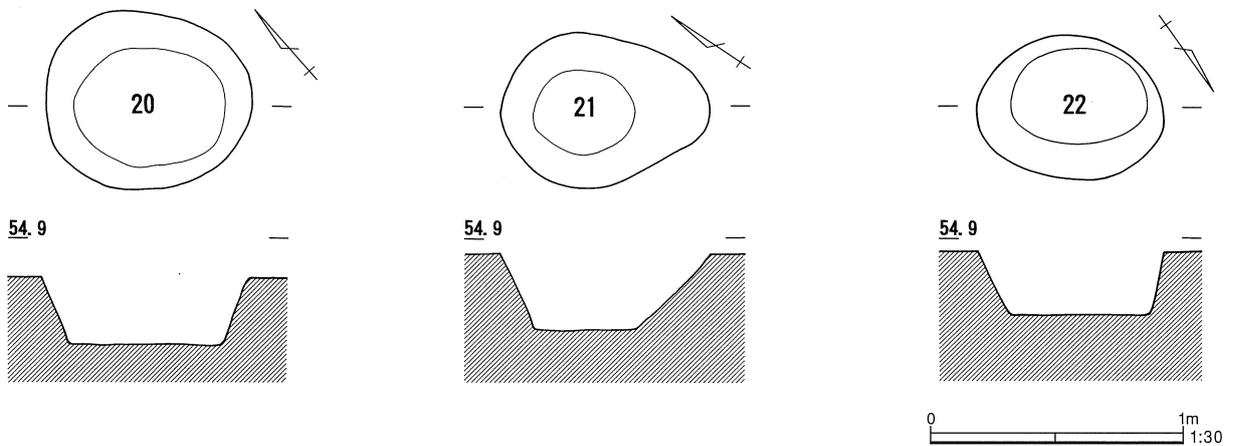


図 216 SI-20・21・22 貯蔵穴平面および断面

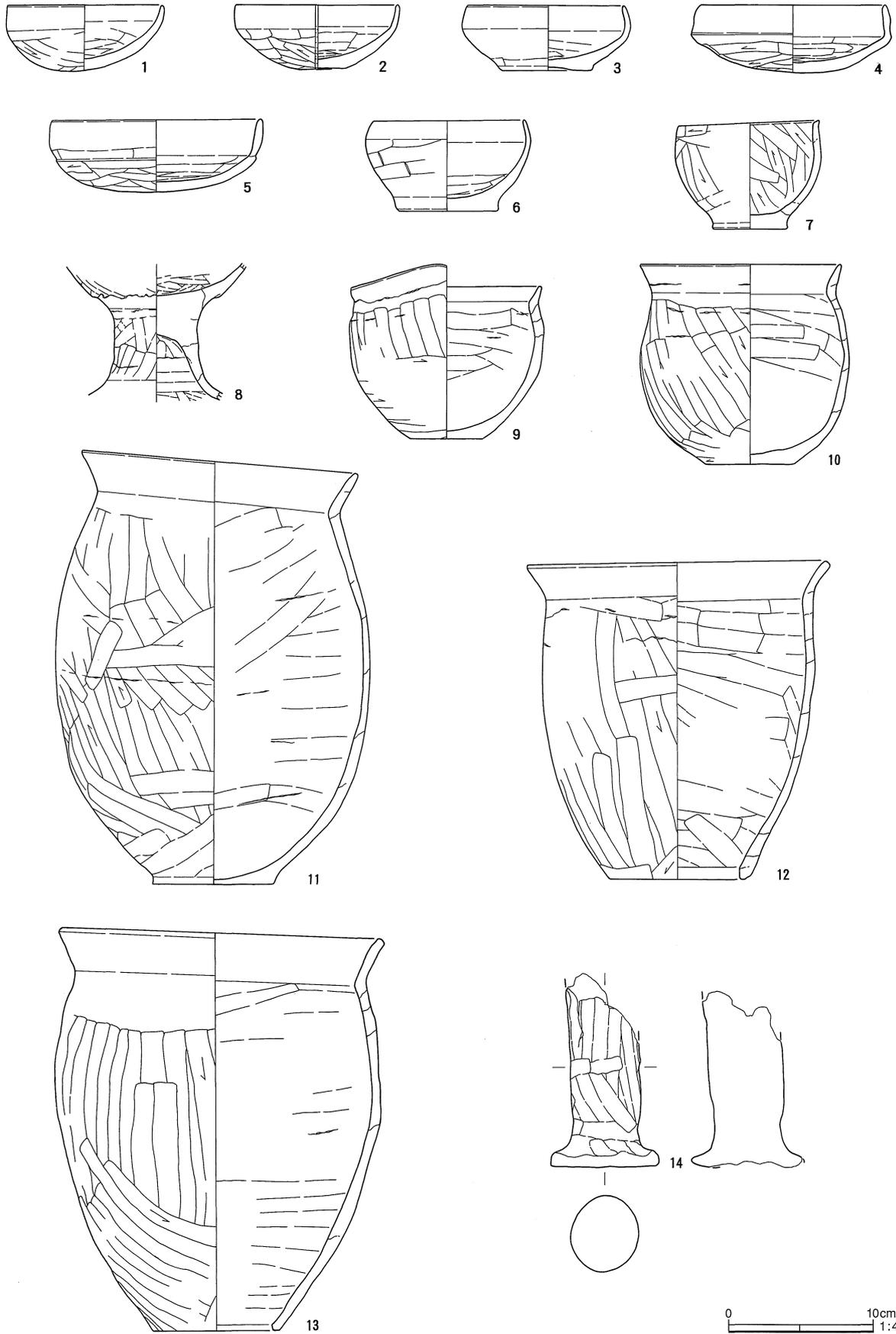


图 217 SI-21 出土土器

SI-21 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 4.6	体部は丸みを持ち、口縁部は直立する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	片岩・黒色粒 内外－にぶい橙色	1/2残存。
2	土師器 坏	口径 11.1 底径 3.0 器高 4.5	体部は丸みを持ち、口縁部は直立する。底部は上げ底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・片岩・チャート 内－にぶい赤褐色 外－にぶい赤褐色・にぶい黄橙色	完形。
3	土師器 坏	口径 10.9 底径 6.2 器高 4.5	体部は丸みを持って開き、口縁部は内傾して立ち上がる。底部は台状。	外面－口縁部ヨコナデ、体部磨耗、下端ヘラナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・赤褐色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
4	土師器 坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.7	口縁部は体部との境に稜を持ち、内傾して立ち上がる。底部は丸底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・片岩・白色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい橙色	完形。
5	土師器 坏	口径 14.5 底径 — 器高 5.0	口縁部は体部との境に稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外－にぶい赤褐色	3/4残存。
6	土師器 坏	口径 10.6 底径 7.0 器高 6.3	体部は上位に丸みを持ち、口縁部は内湾して立ち上がる。底部は台状。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・片岩・白色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい黄橙色	3/4残存。
7	土師器 坏	口径 (9.8) 底径 (5.2) 器高 7.6	体部は中位に丸みを持って立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は部分的に短く外折する。底部は台状。	外面－口縁部～体部ヘラケズリ後一部ナデ、底部ナデ。内面－口縁部～底部ヘラケズリ後一部ナデ。	片岩・チャート 内－灰黄褐色・にぶい赤褐色 外－黒褐色・にぶい黄橙色	1/2残存。
8	土師器 高坏	口径 — 底径 — 器高 —	坏部は平底から内湾気味に立ち上がる。脚部は円筒状、裾部は外反気味に広がり始める。	外面－坏部下位～脚部上位ナデ、脚部下位ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。内面－坏底部ヘラナデ、脚部上位ナデ、脚部下位～裾部上位ヘラナデ。	片岩・チャート・黒色粒 内外－にぶい黄橙色	坏底部～脚部 2/3残存。
9	土師器 小型甕	口径 (13.2) 底径 5.0 器高 12.1	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は短く外反する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・黒色粒・赤褐色粒 内－にぶい黄褐色 外－灰褐色	1/3残存。
10	土師器 小型甕	口径 14.0 底径 6.0 器高 13.9	胴部は中～下位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英 内－にぶい赤褐色 外－灰黄褐色	2/3残存。
11	土師器 甕	口径 19.2 底径 8.4 器高 30.0	胴部は中～下位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後下位ナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内－にぶい赤褐色 外－にぶい赤褐色・にぶい褐色	2/3残存。
12	土師器 甕	口径 21.1 底径 9.5 器高 22.1	胴部は中位にわずかな膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部に径8.6cmの孔。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	金雲母・チャート・白色粒 内外－明赤褐色	胴部一部欠損。
13	土師器 甕	口径 22.6 底径 8.6 器高 28.0	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部に径7.9cmの孔。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後上位ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－にぶい赤褐色	口縁部・胴部一部欠損。
No.	種類	器種	法量 (cm・g) ・ 材質 ・ 特徴			備考
14	土製品	支脚	残長：13.6 最大幅：7.8 最大厚：5.2 重さ：378.73 外面－ヘラナデ 片岩・チャート 橙色・明黄褐色			上部欠損。

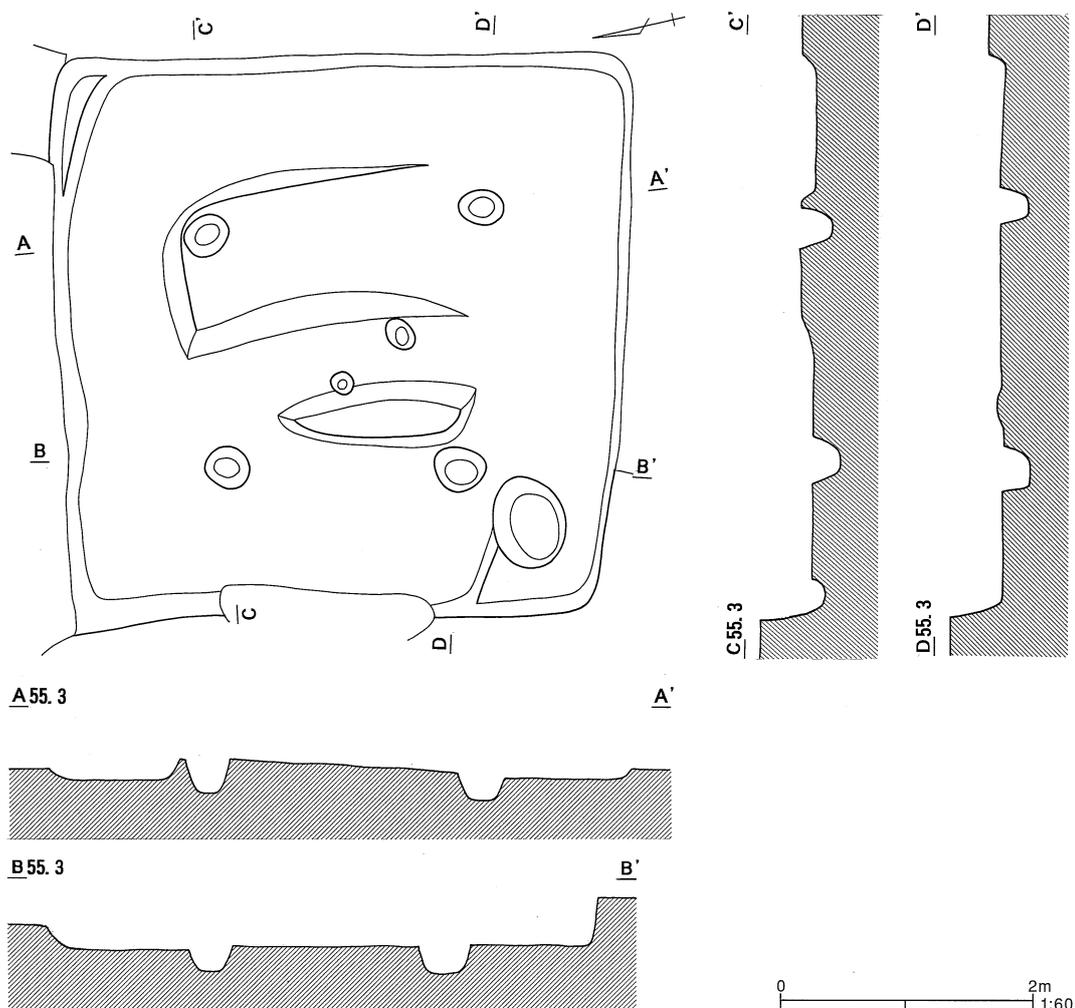


図 218 SI-22 掘り方平面および断面

外の平面形は比較的整った円形を呈する。

規模は長軸 5.9 m、短軸 5.7 m、確認面からの深さ 12 cm を測る。貯蔵穴は長径 81 cm、底径 40 cm、床面からの深さ 30 cm を測る。ピットの深さは P2 が 32 cm、P3 が 26 cm、P4 が 25 cm を測る。

(2) 遺物 (図 217、写真 61)

遺物は床面直上で完形品を含む土師器坏を検出している。このほか、床面から若干浮いた状態で坏・高坏・甕・甑が出土しているが、これらの大半は SI-21 の廃絶後の遺棄あるいは他所から流れ込みによるものと推測される。

SI-22

(1) 遺構 (図 214・215・218、写真 19)

1Y-20、1Y-21 グリッドに位置する。中央を ST-58 によって切られている。東壁周辺でも SI-21 と重複しているが、切り合い関係は明確ではない。確認面は北から南側へ向かって緩やかに傾斜し、とくに南東隅周辺の壁は消滅している。

平面形はほぼ正方形を呈し、主軸の方位は N-83°-E を示す。覆土にはロームブロックを含む黒色土が堆積している。

床は四周に白色粘質土ロームブロックを多量に含む黒色土を敷いて貼床を施し、中央部分は貼床をもたず、地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で、貼床部分は硬くしまっている。

壁溝は存在しない。南西隅に貯蔵穴を設けている。上端は不整な楕円形を呈し、平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP1・2・3・4の4基で、いずれも支柱穴である。平面形はいずれも不整な円形を呈する。

規模は一辺4.5m、確認面からの深さ25cmを測る。貯蔵穴は長径75cm、底径54cm、床面からの深さ25cmを測る。ピットの深さはP1が28cm、P2が18cm、P3が22cm、P4が20cmを測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実にSI-22に伴う資料は検出されなかった。

SI-23

(1) 遺構 (図219・220、写真19・20)

IX-21グリッドに位置する。

平面形は南東-北西方向にやや長いもののほぼ正方形を呈し、主軸の方位はN-114°-Sを示す。覆土にはロームブロックを多量に含む黒褐色土が堆積している。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。

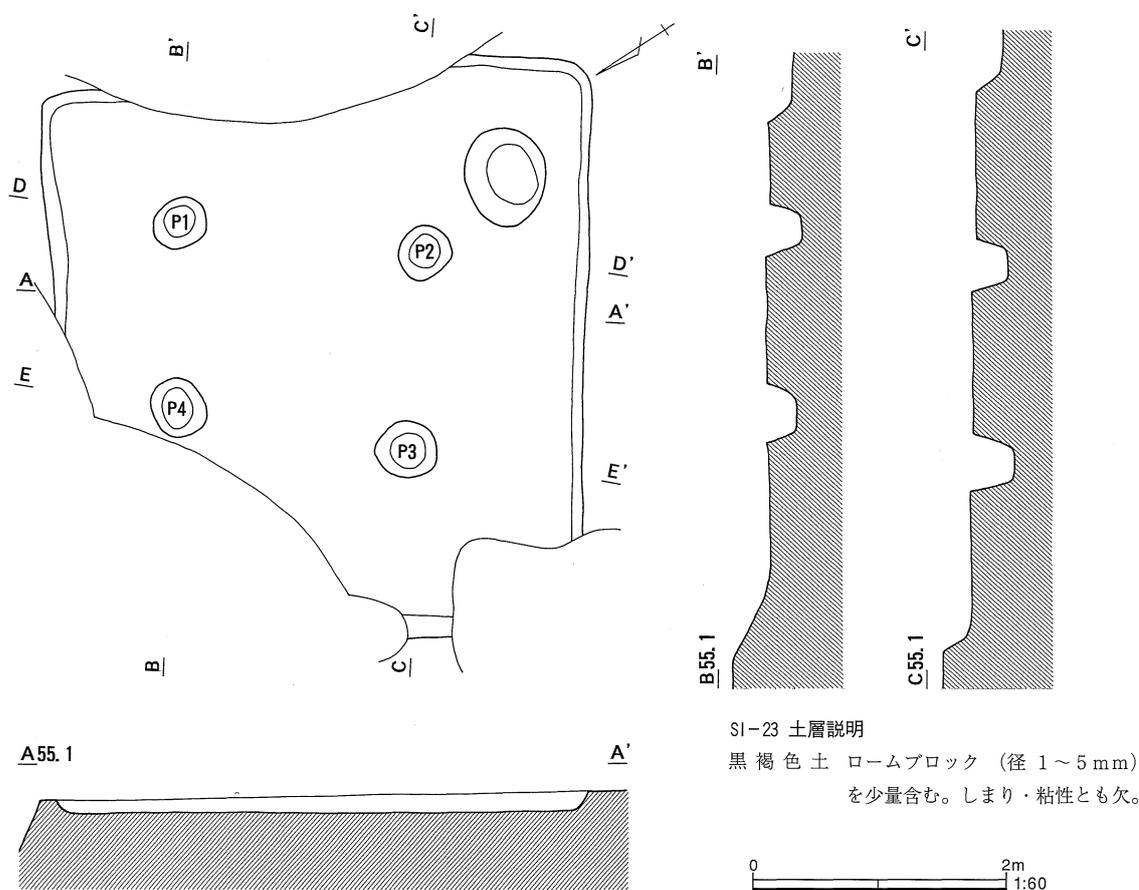


図219 SI-23 平面および断面 (1)

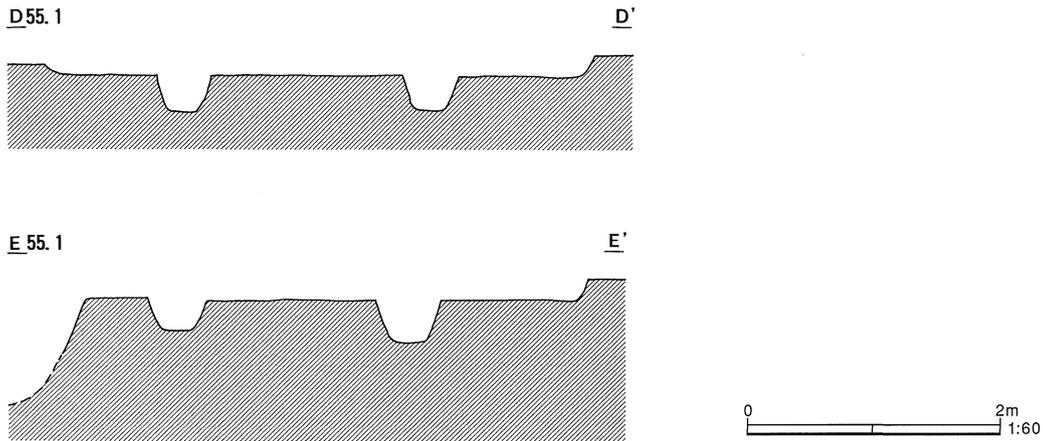


図 220 SI-23 平面および断面 (2)

壁溝は存在しない。南隅に貯蔵穴を設けている。上端・下端はともに楕円形を呈し、広く平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。床面で確認したピットはP1・2・3・4の4基で、いずれも支柱穴である。平面形は比較的整った円形を呈する。

規模は長軸 4.6 m、短軸 4.3 m、確認面からの深さ 18 cm を測る。貯蔵穴は、長径 77 cm、底径 50 cm、床面からの深さ 42 cm を測る。ピットの深さは P1 が 28 cm、P2 が 26 cm、P3 が 32 cm、P4 が 24 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-23 に伴う資料は検出されなかった。

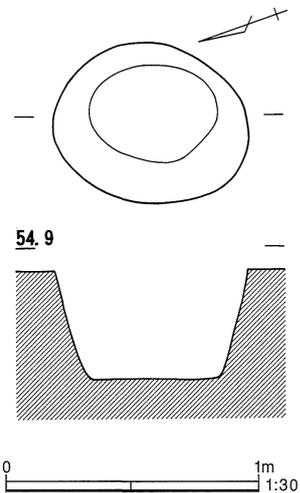


図 221 SI-23 貯蔵穴平面および断面

SI-24

(1) 遺構 (図 222、写真 20)

1Y-21、1Z-21 グリッドに位置する。南半は浸食のためローム層とともに流失している。

平面形は不明であるが、北・東壁は直線的で、隅も明瞭であり、比較的整然とした規格であったと推測される。主軸の方位はN-89°-Eを示す。覆土にはロームブロックを多量に含む黒褐色土が堆積している。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。東半の床面は北から南に向かってわずかに傾斜している。

壁溝は存在せず、貯蔵穴・炉・竈も確認できない。

規模は北壁で 5.6 m、確認面からの深さ 20 cm を測る。

(2) 遺物 (図 223、写真 62)

遺物は床面直上で完形品を含む土師器坏や鉢・甑を検出したほか、床面から若干浮いた状態でも鉢・甕・甑が出土している。

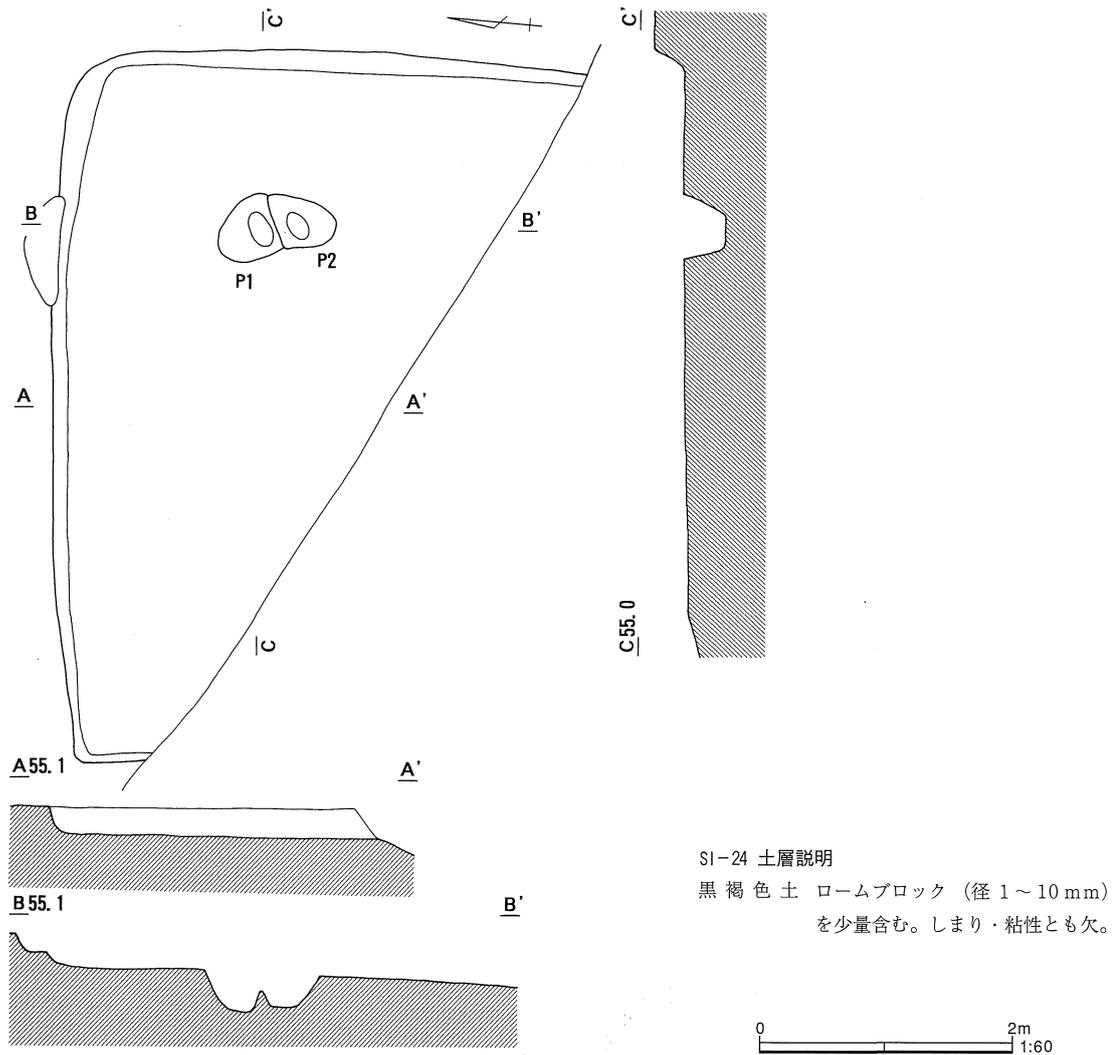


図 222 SI-24 平面および断面

SI-24 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 14.0 底径 4.0 器高 6.5	体部〜口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平底。	外面―口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、体部下端〜底部ヘラケズリ。内面―口縁部ヨコナデ、体部〜底部ナデ。	片岩・角閃石・赤褐色粒 内外―橙色	口縁部一部欠損。
2	土師器 坏	口径 13.8 底径 — 器高 5.7	体部は内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。底部は平底気味。	外面―口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、体部下端〜底部ヘラケズリ。内面―口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	雲母・石英 内外―橙色	口縁部一部欠損。
3	土師器 坏	口径 14.0 底径 7.5 器高 5.2	体部〜口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平底。	外面―口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部篋先状工具痕。内面―口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外―にぶい赤褐色	口縁部〜底部 4/5。
4	土師器 坏	口径 13.4 底径 — 器高 5.7	体部〜口縁部は内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面―口縁部ヨコナデ、体部指頭痕と輪積み痕、底部ヘラケズリ。内面―口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外―赤褐色	ほぼ完形。
5	土師器 坏	口径 13.0 底径 — 器高 5.9	体部〜口縁部は内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面―口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ヘラケズリ。内面―口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	雲母・白色パミス・赤褐色粒 内外―赤褐色	完形。
6	土師器 坏	口径 12.8 底径 6.2 器高 5.8	体部は内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。底部は平底。	外面―口縁部ヨコナデ、体部指頭痕。内面―口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	雲母・石英・赤褐色粒 内―にぶい褐色 外―にぶい黄褐色	口縁部一部欠損。

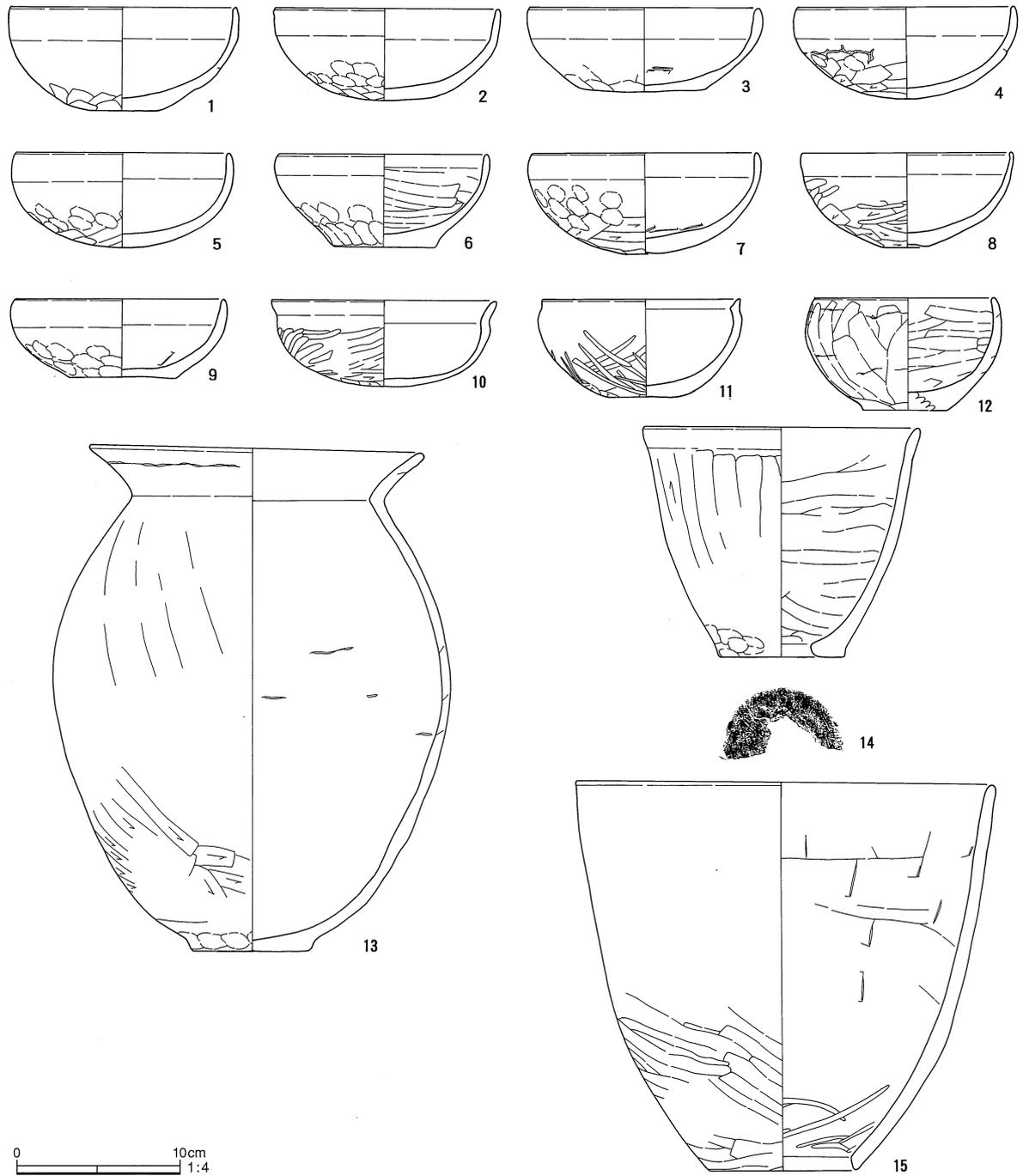


図 223 SI-24 出土土器

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
7	土師器 杯	口径 13.8 底径 2.0 器高 6.2	体部～口縁部は内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・石英・赤褐色粒 内外-にぶい橙色	口縁部～底部 2/3。
8	土師器 杯	口径 12.8 底径 2.2 器高 5.9	体部～口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内-明赤褐色 外-赤褐色	口縁部～底部 2/3。
9	土師器 杯	口径 12.7 底径 6.4 器高 4.9	体部～口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部指頭痕、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート ・赤褐色粒 内-赤褐色 外-明赤褐色	完形。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
10	土師器 坏	口径 13.7 底径 - 器高 5.4	体部と口縁部を面すわずかな稜線から、口縁部は外反して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内外－赤褐色	口縁部～底部 2/3。
11	土師器 鉢	口径 12.1 底径 4.0 器高 6.1	体部は内湾して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後篦先状工具痕。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ユビナデ。	雲母 内外－にぶい赤褐色	口縁部一部欠損。
12	土師器 鉢	口径 11.0 底径 5.0 器高 7.0	体部～口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ユビナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・赤褐色粒 内－暗赤褐色 外－暗赤褐色～にぶい褐色	底部一部欠損。
13	土師器 甕	口径 20.4 底径 7.4 器高 31.1	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位で膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後下端指頭痕。内面－口縁部ヨコナデ、頸部指頭痕、胴部ヘラナデだが摩滅。	片岩・赤褐色粒 内－暗赤褐色 外－にぶい褐色	口縁部～底部 1/2。
14	土師器 甕	口径 (17.0) 底径 (7.6) 器高 14.3	粘土紐積み上げ成形。胴部～口縁部は直線的に立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラケンマ、胴部下端ヘラケズリ。	雲母・白色粒・赤褐色粒 内－灰褐色 外－黒褐色～にぶい赤褐色	口縁部～底部 1/2。
15	土師器 甕	口径 25.8 底径 8.9 器高 24.1	粘土紐積み上げ成形。胴部～口縁部は直線的に立ち上がる。底部に不整形の焼成前穿孔。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリと指頭痕。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母 内外－明赤褐色	完形。

SI-25

(1) 遺構 (図 224、写真 20)

1W-17 グリッドに位置する。東隅周辺を攪乱で切られている。

平面形は北東－南西方向にやや長い長方形を呈し、主軸の方位はN-58°-Eを示す。覆土にはロームブロックを多量に含む黒色土が堆積している。

床には貼床を施さず、地山をそのまま床面としている。

南西壁から北西壁の一部にかけて壁溝が存在する。貯蔵穴の有無は不明である。炉・竈は確認され

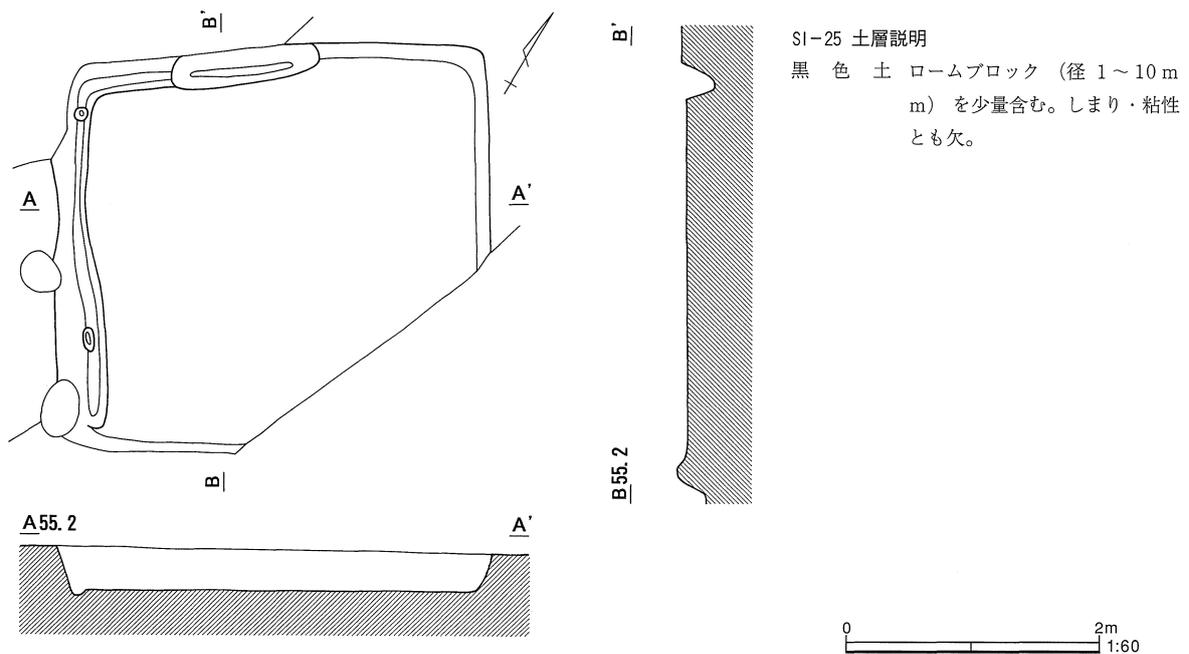


図 224 SI-25 平面および断面

ず、ピットもまったく検出されていない。

規模は長軸 3.4 m、短軸 3.1 m、確認面からの深さ 30 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-25 に伴うは資料は検出されなかった。

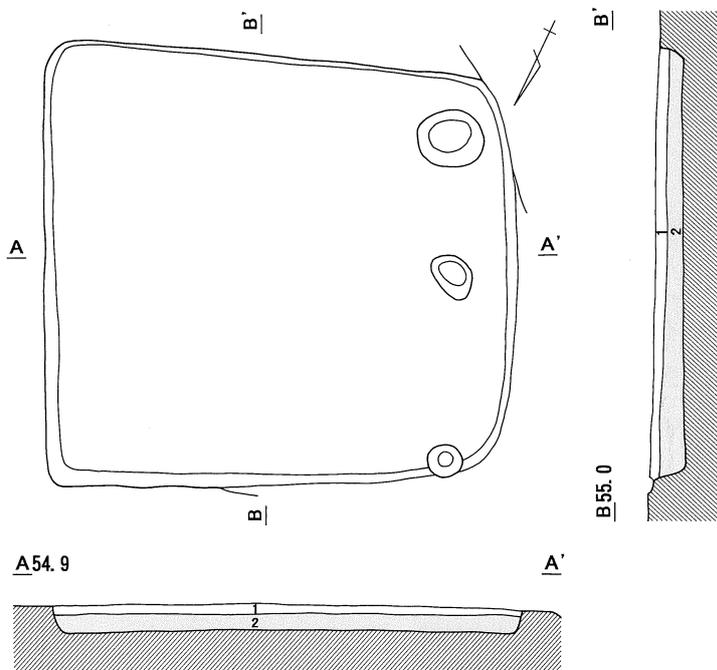
SI-26

(1) 遺構 (図 225、写真 20)

1S-18、1S-19、1T-18、1T-19 グリッドに位置する。

平面形は不正な方形を呈し、とくに南壁と北壁は平行しない。主軸の方位は N-67°-E を示す。

床には白色粘質土ブロックを多量に含む黒色土を敷いて全面に貼床を施している。床面はほぼ平坦で、貼床面は硬くしまっている。



SI-26 土層説明

- 1 黒色土 白色バミス (径 1 mm 土) を少量含む。しまり欠。
- 2 黒褐色土 白色粘質土ブロック (径 1~20 mm) を多量に含む。しまり・粘性とも強。貼床層。

図 225 SI-26 平面および断面

壁溝は存在しない。南西隅に貯蔵穴を設けている。上端・下端はともに楕円形をなし、広く平坦な底面をもつ。炉・竈は確認できない。

貼床層下の掘り方は平坦で、土坑やピット状の落ち込みは存在しない。

規模は長軸 3.8 m、短軸 3.4 m、確認面からの深さ 8 cm を測る。貯蔵穴は、長径 50 cm、底径 31 cm、床面からの深さ 33 cm を測る。

(2) 遺物

遺物は覆土から土師器の小片を若干量出土したのみで、確実に SI-26 に伴うは資料は検出されなかった。

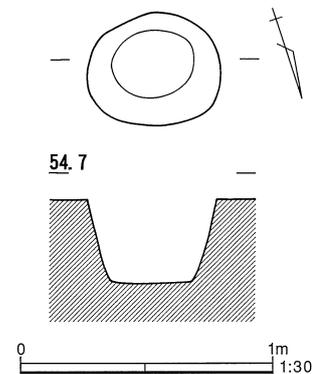


図 226 SI-26 貯蔵穴平面および断面

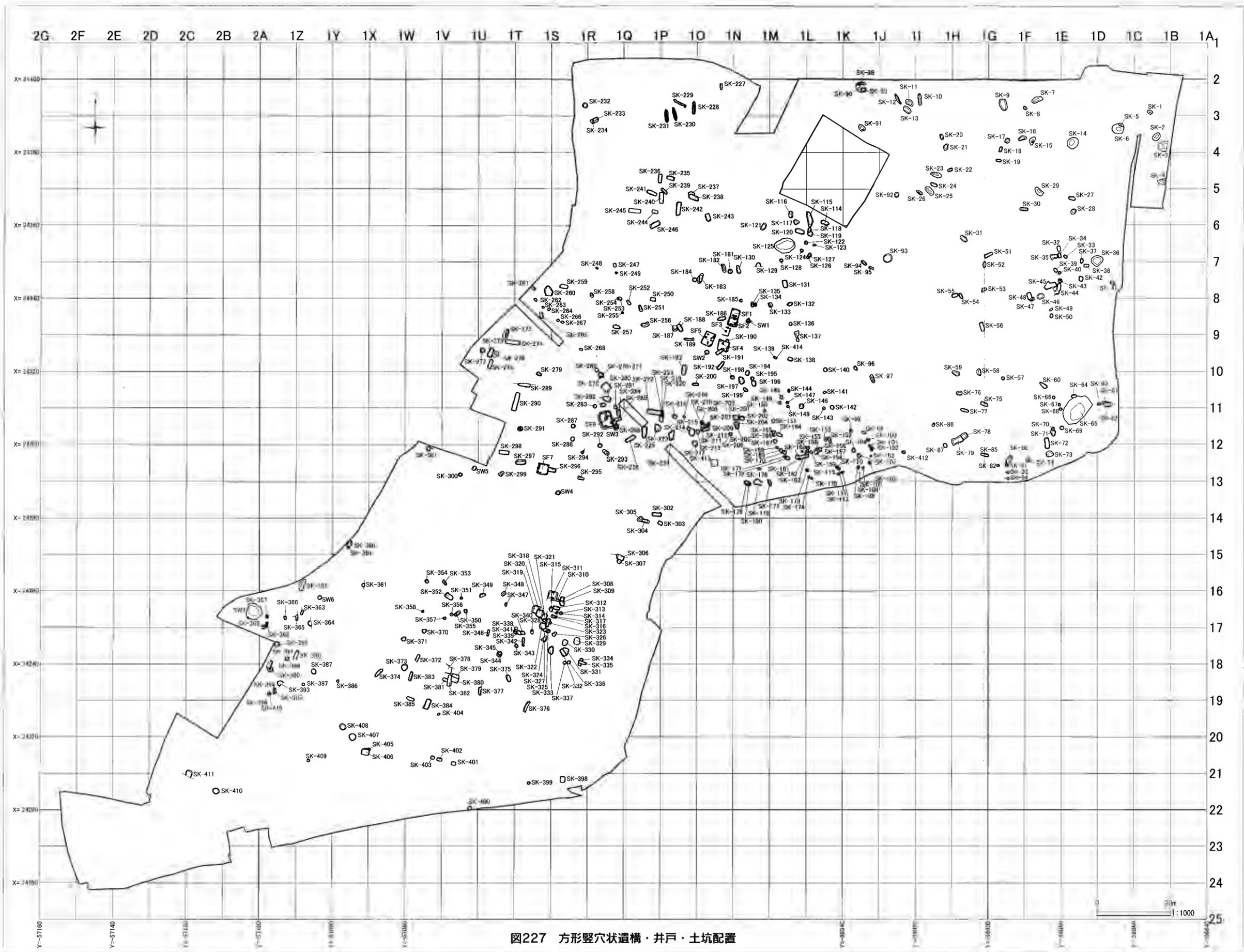


図227 方形竅穴状遺構・井戸・土坑配置

4 方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構は、7基を検出した。ここで方形竪穴状遺構として扱った遺構には、個々においては以下のすべての要素を満たすものではないが、おおよそその特徴として、

- 1) 比較的大型の方形を呈する土坑状の遺構で、長楕円形を呈する一般的な土坑とは性格が異なると推定される。
- 2) 四壁の立上がりが急激である。
- 3) 床面が平坦で一定の面積を有する。
- 4) 床面の四隅及び壁際に柱穴を有し、何らかの上屋構造が存在したことが想定できる。
- 5) 覆土は単純で分層不可能な堆積状態を示し、人為的な埋め戻しを推測できるものがある。

分布は調査区中央に集中し、相互に切り合い関係にある遺構もみられる。とくにSF-1～SF-5は1M-8・9、1N-8・9グリッドにまとまっている。全体に上層の削平が著しく、確認面から床面までが極端に浅いものが多い。

平面形は小型の方形竪穴状遺構が正方形、大型が長方形となる傾向がみられる。四隅は明瞭な直角をなすものが多く、一部の大型方形竪穴状遺構は隅丸長方形となっている。ほとんどの遺構に柱穴を認め、何らかの上屋構造の存在が想定できる。柱穴は四隅の4箇所にあるもの、四壁に多数が連なるもの、また、これらのうちの一部を欠くもの、さらに明瞭な柱穴を全く認めないものがある。壁溝をめぐらせる例も存在する。床面は広く平坦に成形され、不規則に浅いピットが配されている。規模は小型の遺構でも一辺2m以上を測る。

所属時期は、覆土に埴輪や土師器の小片を含む遺構もあるが、多くは中世陶器やかわらけの小片を出土すること、古墳時代の遺構とは異なり暗褐色ないし黒褐色を呈する覆土を主体とする出土遺物が主体を占めることから、ほとんどが中世に属するものと考えられる。

SF-1 (図228)

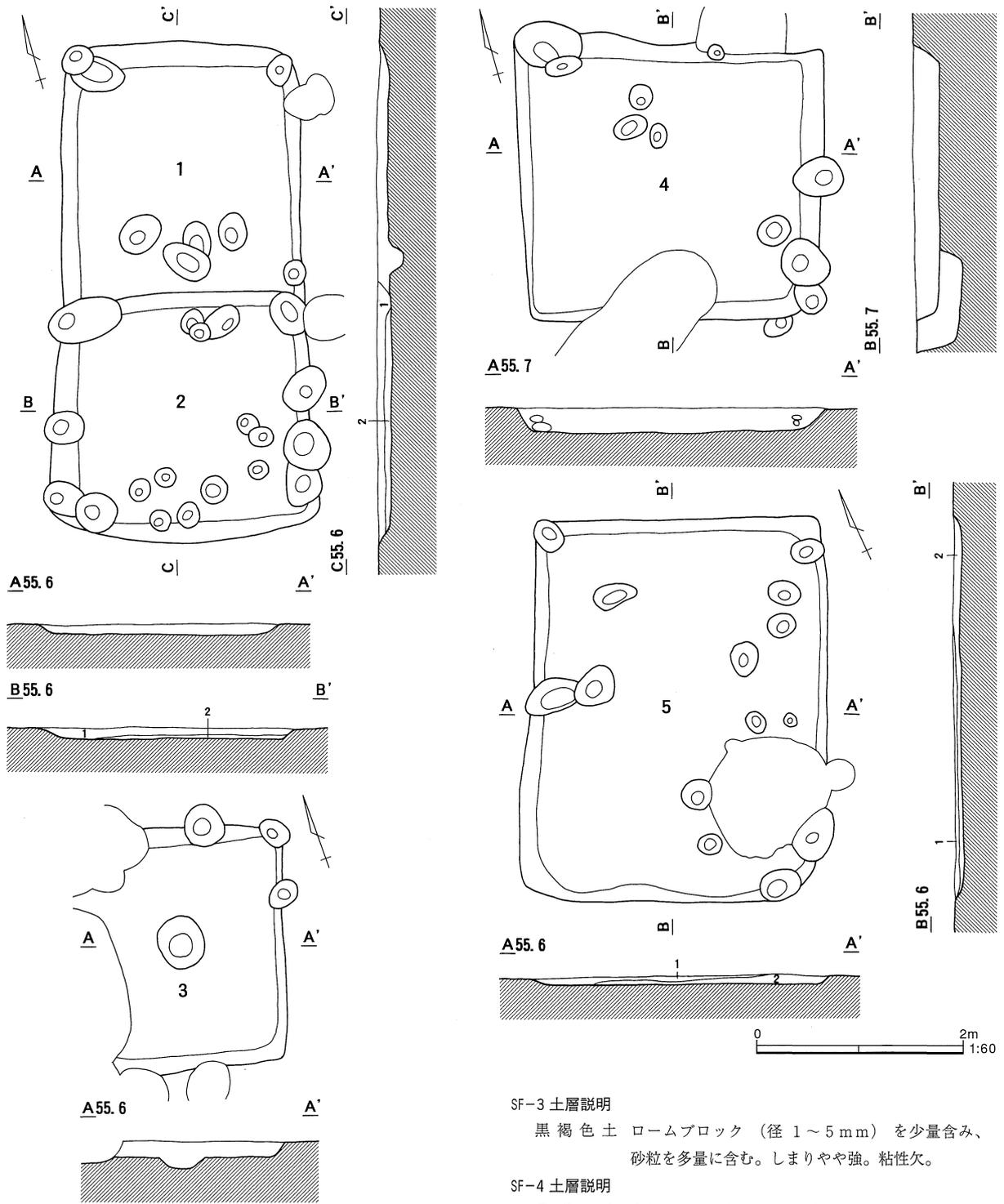
1M-8、1N-8グリッドに位置する。南壁をSF-2に切られている。平面形は南北に長い長方形を呈すると推測される。覆土には砂粒を多量に含む黒褐色土が堆積している。北西および北東隅に柱穴を配するほか、東壁の南隅近くにも1基の柱穴が設けられている。床面は平坦で南半には複数の浅いピットがみられる。壁溝は伴わない。規模は東西2.31m、確認面からの深さ10cmを測る。遺物はかわらけの小片数点を出土している。

SF-2 (図228)

1M-8、1N-8グリッドに位置する。北壁がSF-1を切っている。平面形は南北に長い長方形を呈する。覆土は2層に分かれ、下層に風化ロームである黄褐色土、上層にロームブロックと砂粒を多量に含む黒褐色土が堆積している。四隅に柱穴を配するほか、不規則ながら、東・南・西の各壁にも柱穴を設けている。床面は平坦で、各所に浅いピットがみられる。壁溝は伴わない。規模は長径2.51m、短径2.45m、確認面からの深さ10cmを測る。遺物はかわらけの小片が少量出土しているほか、若干の埴輪片が混入している。

SF-3 (図228)

1N-8グリッドに位置する。北西側を攪乱により失っている。平面形は正方形もしくは東西方向に



SF-1 土層説明

黒褐色土 ロームブロック（径 1～5 mm）を少量含み、砂粒を多量に含む。しまりやや強。粘性欠。

SF-2 土層説明

1 黒褐色土 ロームブロック（径 1～20 mm）砂粒を多量に含む。しまりやや強。粘性欠。
2 黄褐色土 風化ロームの堆積層。しまり欠。粘性やや強。

SF-3 土層説明

黒褐色土 ロームブロック（径 1～5 mm）を少量含み、砂粒を多量に含む。しまりやや強。粘性欠。

SF-4 土層説明

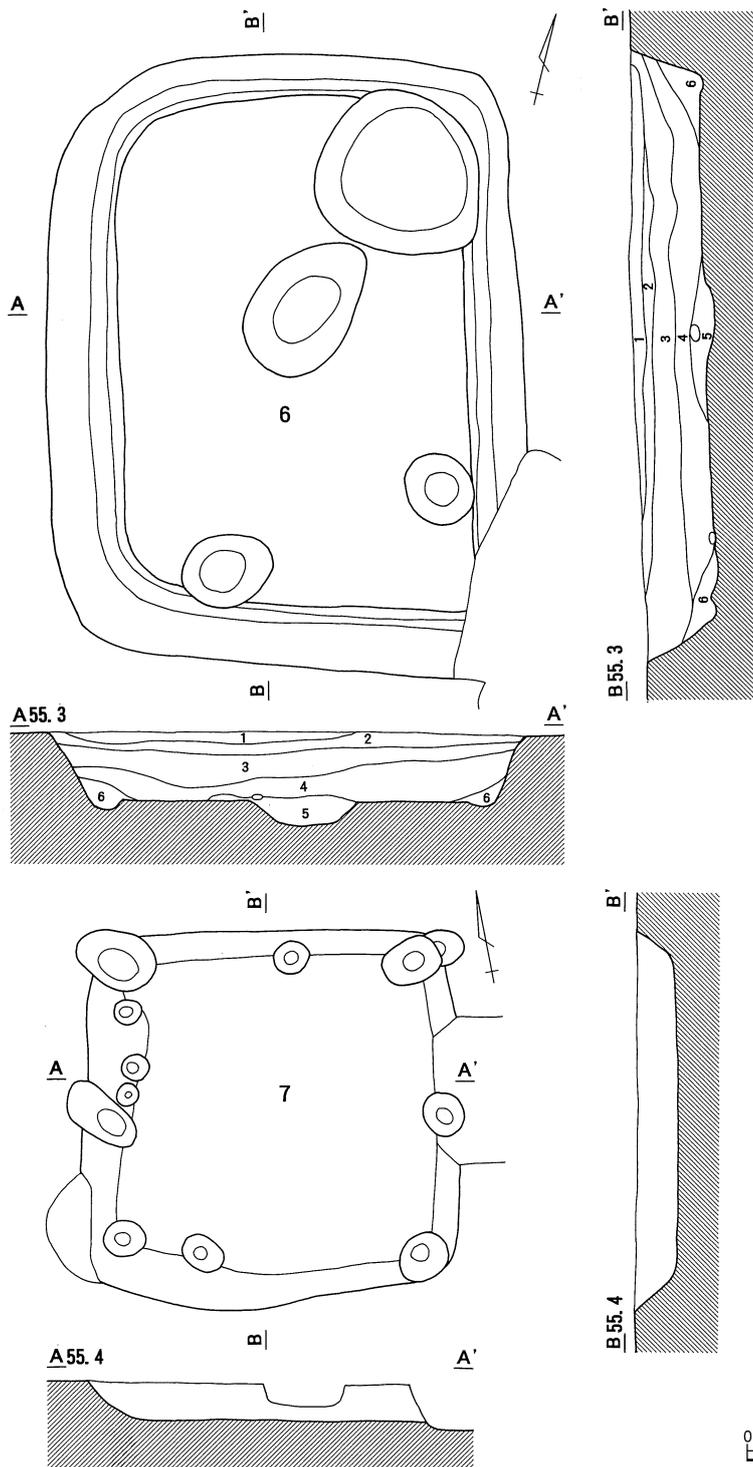
黒褐色土 白色バミス（径 1 mm±）ロームブロック（径 1～3 mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

SF-5 土層説明

1 黒褐色土 白色バミス（径 1 mm±）ロームブロック（径 1 mm±）を多量に含む。砂粒を含む。しまり強。粘性欠。

2 暗褐色土 白色バミス（径 1 mm±）ロームブロック（径 1～3 mm）を多量に含む。砂粒を含む。しまりやや強。粘性欠。

図 228 SF 平面および断面 (1)



SF-6 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径 1~2 mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 灰黄褐色粘質土ブロック (径 10~20 mm) を少量含む。砂粒を含む。粘性やや強。
- 3 暗褐色土 灰黄褐色粘質土ブロック (径 10~30 mm) を多量に含み、斑状に堆積する。しまり強。粘性やや強。

- 4 暗褐色土 灰黄褐色粘質土ブロック (径 10~20 mm) を少量含む。
- 5 黒褐色土 炭化物を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- 6 暗褐色土 灰黄褐色粘質土ブロック (径 50~80 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも強。

SF-7 土層説明

- 黒褐色土 白色バミス (径 1 mm 以下) ロームブロック (径 1~5 mm) を少量含む。粘性欠。

図 229 SF 平面および断面 (2)

長い長方形を呈すると推測される。覆土には砂粒を多量に含む黒褐色土が堆積している。北東隅および北壁・東壁に1箇所づつ柱穴を配している。床面は平坦で、中央にやや径の大きく浅いピットが1基存在する。壁溝は伴わない。規模は北東壁で2.38 m、確認面からの深さ15 cmを測る。遺物は瓦質陶器・かわらけの小片が少量出土している。

SF-4 (図228)

1N-9グリッドに位置する。北壁の一部をSK-190によって切られ、南壁がSK-191を切っている。平面形は東西方向にやや長いもののほぼ正方形を呈する。覆土にはロームブロックと白色パミスを含む黒褐色土が堆積している。南東および北西隅に柱穴を配するほか東壁にも2基の柱穴を設けている。床面は平坦で、北半の中央に複数の浅いピットがみられる。壁溝は伴わない。規模は長径3.0 m、短径2.8 m、確認面からの深さ25 cmを測る。遺物はかわらけの小片が少量出土している。

SF-5 (図228)

1N-8、1N-9グリッドに位置する。南東隅寄りの一部を攪乱によって切られている。平面形は南北方向に長い長方形を呈する。南東および南西側の隅は丸くなっている。覆土は2層に分かれ、下層に多量のロームブロックと白色パミスとともに砂粒を含む黒褐色土、上層に硬くしまり、ロームブロックと白色パミスを含む黒褐色土が堆積している。北東・南東・北西の各隅に柱穴を配するほか東壁および西壁中央にも柱穴を設けている。床面は平坦で、不規則に浅いピットが存在する。壁溝は伴わない。規模は長径3.72 m、短径2.84 m、確認面からの深さ10 cmを測る。遺物は瓦質陶器・かわらけの小片が少量出土しているほか、若干の埴輪・土師器片が混入している。

SF-06 (図229)

1Q-11グリッドに位置する。南東隅をSW-3、SK-286によって切られている。平面形は南北方向に長い隅丸長方形である。覆土は4層に分かれるが、大部分が灰黄褐色粘質土ブロックを含む暗褐色土または黒褐色土で占められる。柱穴は存在しない。床面は平坦で、北東隅に大型の土坑を配し、中央にも長楕円形の土坑がみられる。さらに東壁と南壁に接して1基ずつ浅いピットが存在する。壁際には壁溝が全周する。規模は長径4.4 m、短径3.8 m、確認面からの深さ58 cmを測り、他の方形竪穴状遺構に比べ格段に深い。遺物は鉄製曲刃鎌1点のほか瓦質陶器・かわらけの小片が少量出土している。

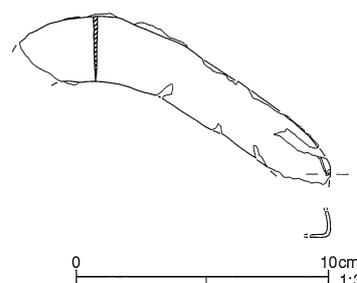


図230 SF-6 出土鉄鎌

SF-6 出土鉄鎌観察表

No.	種類	法 量・(単位cm)	備 考
1	鉄製鎌	残存長12.4 最大幅2.5 厚さ0.1 重さ23.07g	曲刃鎌。

SF-7 (図229、写真22)

1S-12グリッドに位置する。東壁中央をSK-296によって切られている。平面形は南壁がやや膨らむもののほぼ正方形を呈する。覆土にはロームブロックと白色パミスを含む黒褐色土が堆積している。四隅に柱穴を配するほか、やや不規則ながら四壁にも柱穴を設けている。床面は平坦で、ピットは存在せず壁溝も伴わない。規模は一辺3.0 m、確認面からの深さ32 cmを測る。遺物はかわらけの小片が少量出土しているほか、若干の土師器片が混入している。

5 井戸

井戸は7基を検出した。分布は調査区の中央と調査区西寄りの 1Y-16 から 2A-16 グリッドにかけてにまとまっている。とくに調査区の中央では方形竪穴状遺構に近接し、両者の有機的関係が推測される。確認面での規模は、大小に差があるが、直径 1.0 ~ 1.5 m のものが多数を占める。覆土は他の遺構に比べ、礫・砂粒を多量に含むものが多い。深さはいずれも 1.0 m を超え、井戸底までの調査が及んでいない。井戸内には木柵や石組みの痕跡がなく、多くは素掘りの井戸であったと推測される。かわらけの破片を出土するものもあり、所属時期はほとんどが中世以降に属するものと考えられる。

SW-1 (図 231)

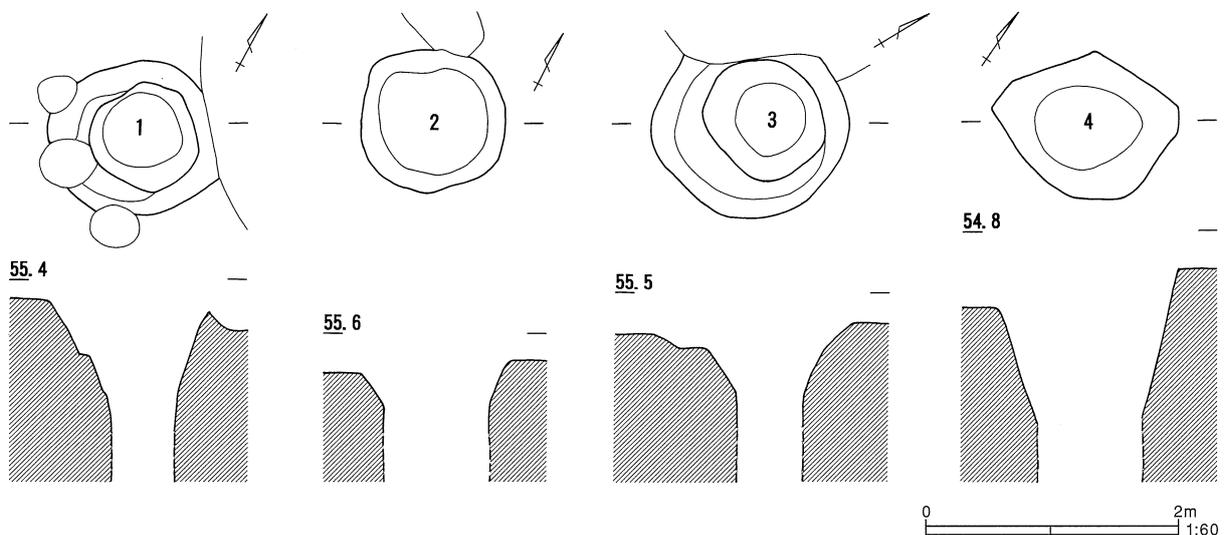
1M-8 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。覆土はロームブロック・砂礫を多量に含む黒灰褐色で、硬くしまっている。直径 1.25 ~ 1.30 m を測る。遺物は皆無である。

SW-2 (図 231)

1N-2 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。覆土はロームブロック・砂礫を多量に含む黒灰褐色で、硬くしまっている。直径 1.10 ~ 1.15 m を測る。遺物はかわらけの細片を少量検出している。

SW-3 (図 231)

1Q-11 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。覆土はロームブロック・砂礫を黒褐色土が堆積し、硬くしまっている。直径 1.50 ~ 1.60 m を測る。遺物はかわらけの細片を少量検出している。



SW-1 土層説明

黒灰褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) 砂礫 (径 1 ~ 15 mm) を多量に含み、炭化物ブロック (径 1 ~ 10 mm) を少量に含む。しまり強。粘性欠。

SW-2 土層説明

黒灰褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 10 mm) 砂礫 (径 1 ~ 15 mm) を多量に含み、炭化物ブロック (径 1 ~ 10 mm)、焼土ブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。しまり強。粘性欠。

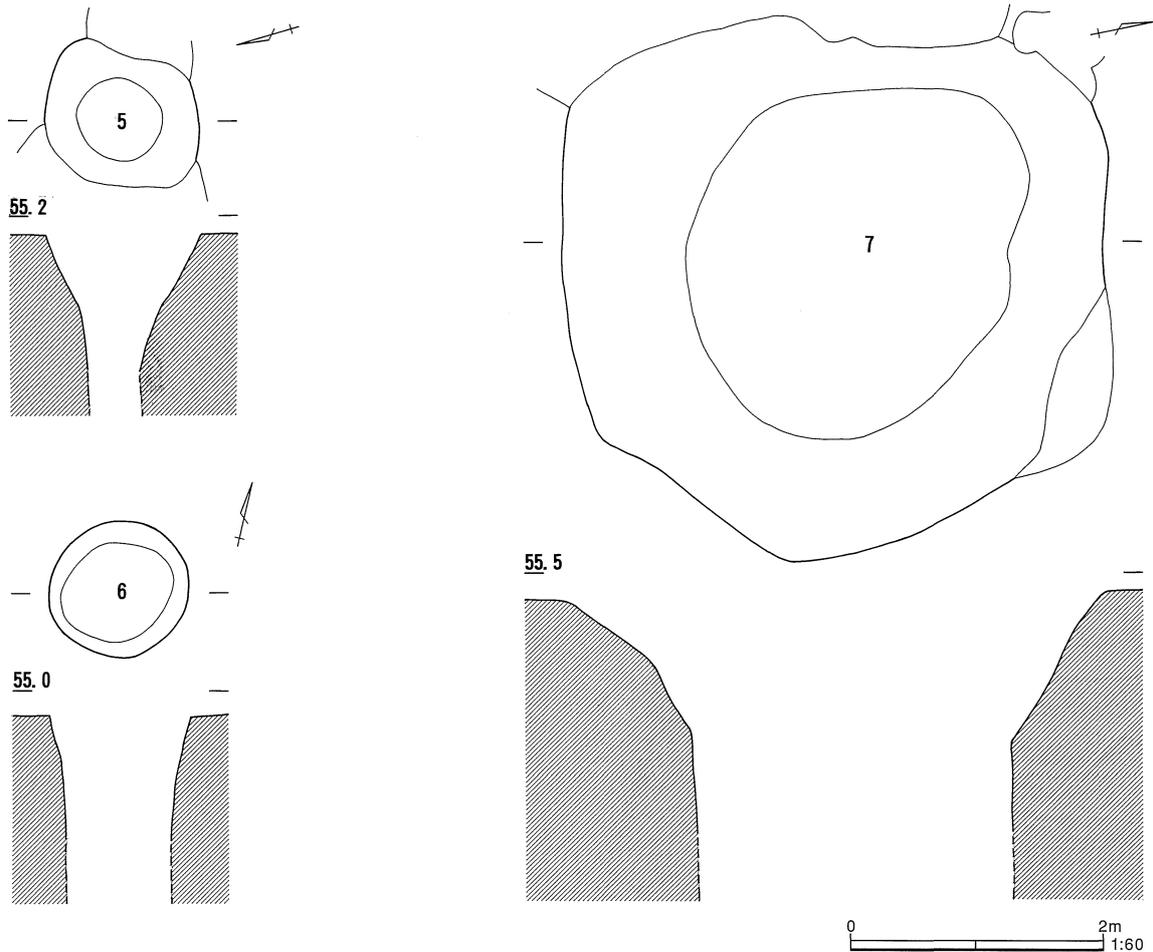
SW-3 土層説明

黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) 砂礫 (径 1 ~ 10 mm) 少量に含む。しまり、粘性とも強。

SW-4 土層説明

黒灰褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) 砂礫 (径 1 ~ 10 mm) 炭化物ブロック (径 1 ~ 5 mm)、焼土ブロック (径 1 ~ 5 mm)、黒色土ブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。しまり、粘性とも強。

図 231 SW 平面および断面 (1)



SW-5 土層説明

黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）砂礫（径1～10mm）少量に含む。しまり、粘性とも強。

SW-6 土層説明

黒灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）砂礫（径1～25mm）を多量に含む、摩耗した微細な土器

片を少量含む。しまり強。粘性欠。

SW-7 土層説明

黒褐色土 ロームブロック（径1～100mm）、砂礫（径1～15mm）を多量に含む、かわらけの小片を少量含む。しまり強。粘性欠。

図 232 SW 平面および断面 (2)

SW-4 (図 231)

1R-13 グリッドに位置する。壁が崩落し不整形を呈する。覆土はロームブロック・砂礫その他などを含む黒灰褐色土が堆積し、硬くしまっている。直径1.15m～長径1.50mを測る。遺物は皆無である。

SW-5 (図 232)

1U-12 グリッドに位置する。切り合いにより不整形を呈する。覆土はロームブロック・砂礫を含む黒灰褐色土が堆積し、硬くしまっている。直径1.25～1.40mを測る。遺物は皆無である。

SW-6 (図 232)

1Y-16 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。覆土はロームブロック・砂礫を多量に含む黒灰褐色土が堆積している。直径1.05～1.15mを測る。遺物はかわらけ・土師器の細片を検出している。

SW-7 (図 232)

1Z-16 2A-16 グリッドに位置する。平面形は不整な円形を呈する。覆土はロームブロック・砂を多量に含む黒褐色土が堆積し、硬くしまっている。直径4.25～4.60mを測る。遺物はかわらけの細片を少量検出している。

6 土 坑

土坑は総計415基を確認した。調査区内の各所に分散し、特定の箇所に集中する傾向は認めない。調査区内には攪乱坑が多数存在するが、平面形・覆土の色調・含有物などの相違から両者の識別は比較的容易である。遺物の伴う土坑はごくわずかで、このため多くの土坑は所属時期が不明である。出土遺物は土師器・鉄刀・鉄鎌などのほか江戸時代の銅製錫杖・銅製輪宝形飾金具・灰釉陶器・猪口・かわらけなどがあり、年代も特定の時期に集中するわけではない。

以下に形状・出土遺物などの点において特徴的な土坑を取り上げて概略を述べる。

調査区北端に2群に分かれて分布するSK-10・12とSK-228・230・231は落とし穴である。いずれも平面形が狭長で確認面からの深さ80cm以上を測る。遺物は皆無で所属時期は不明である。

SK-24からは古墳時代の鉄製直刀1振が出土している。SK-24はST-7の西方に接近して所在することから、従属的な墓坑であり、直刀はその副葬品であった可能性がある。

SK-191では鉄鎌が出土している。一見、直刃鎌に映るが、鋒を欠失し、刃部の摩耗が著しいことから曲刃鎌の可能性もある。SK-24と同様に、SK-191も周辺の所在する古墳の従属的な墓坑で、鉄鎌はその副葬品であった可能性がある。

SK-355では鉄製環状鏡板付轡・鞍座金具・鉸具の一部が出土している。鉄製環状鏡板付轡は鉸具造りとなっている。馬匹殉葬坑と人体用の墓坑の双方の可能性が考えられるが、馬歯骨を検出していない。

SK-376・389・404では土師器が出土している。完形品は含まれないが、壺類は一部を欠損する程度の遺存状態で、他に小片を含まないことから、単純な投棄や自然流入ではなく、意図的に用いられた可能性が高い。SK-376の3やSK-389の2の壺は須恵器甕の模倣形態であり、同種の土師器が古墳からも出土していることから、これらの土坑は古墳に付随する遺構であった可能性も考えられる。

1N-11 10-11グリッドには、SK-207～209、215・216など近世陶器・かわらけ・寛永通宝など江戸時代の遺物を出土する整形円土坑が集中している。墓石など地上における標識はみられないが、周辺には当該期の墓地が存在したと推測される。とくに、SK-207および209では錫杖、数珠、金銅製輪宝形飾金具など希少な遺物を伴うことが特記される。このうち金銅製輪宝形飾金具は、当山派修験の行者が帯びる磨紫金袈裟の飾金具であり、錫杖や数珠とともに修験者が修験の装束をまとった状態で埋葬された事実を示すものである。

土坑一覧表

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物	番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物
1	1B-2	(不整形円形)	(1.3)	1.1	0.3		14	1D-3	不整形円形	3.21	2.85	0.89	
2	1B-3	不整形円形	2.4	1.72	0.65		15	1E-3	不整形	2.4	1.32	0.78	
3	1B-3	不明	(2.55)	2.95	1.05		16	1E-3・1F-3	不整形	2.25	1.15	0.48	
4	1B-4	不明	(2.15)	1.52	0.25		17	1F-3	不整形	1.52	1.21	0.36	
5	1C-3	不明	(0.78)		0.48		18	1F-3	隅丸長方形	1.52	0.79	0.21	
6	1C-3	不明	(2.26)	3.18	0.95		19	1F-4	隅丸長方形	1.51	0.75	0.34	
7	1E-3	不整形円形	3.12	1.48	0.75		20	1H-3	隅丸長方形	1.56	0.89	0.36	
8	1E-2・1F-2	楕円形	1.1	0.82	0.18		21	1H-3	不整形	1.98	1.41	0.3	
9	1F-2	楕円形	3.19	2.02	0.29		22	1H-4	楕円形	1.5	0.84	0.19	
10	1H-2	楕円形	3.16	0.84	0.79		23	1H-4	不整形	3.1	1.34	0.84	
11	1I-2	不整形円形	2.42	1.45	0.41		24	1H-4	楕円形	2.0	0.92	0.41	鉄刀
12	1I-2	不整形円形	3.19	0.79	0.7		25	1H-4・5	楕円形	2.8	1.42	0.61	
13	1I-2	不明	(2.5)	(1.45)	0.41		26	1H-5	不整形	1.92	0.86	0.51	

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物	番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物
27	1D-5	不整形	1.99	1.05	0.18		92	1I-5	隅丸方形	1.32	1.16	0.35	
28	1D-5	不整円形	1.58	1.42	0.49		93	1I-6	円形	2.28	2.46	0.38	
29	1E-4-5	不明	(2.69)	(1.5)	0.72		94	1J-6・7	橢円形	0.82	1.76	0.21	
30	1E-5・1F-5	橢円形	2.32	0.85	0.22		95	1J-7	(橢円形)	(1.25)	0.58	0.12	
31	1G-6	(橢円形)	(1.49)	1.24	0.35		96	1J-9	不整形	1.32	0.85	0.34	
32	1E-6	隅丸長方形	1.98	0.95	0.26		97	1J-10	橢円形	2.26	0.99	0.35	
33	1D-6	橢円形	1.14	0.76	0.28		98	1J-11	不整形	1.05	0.64	0.38	
34	1E-6	隅丸長方形	1.44	0.81	0.29		99	1J-11	(円形)	0.75	0.86	0.32	
35	1E-6	不明	(2.12)	1.08	0.36		100	1J-11	橢円形	0.65	1.08	0.5	
36	1C-6・7・1D-6・7	不整円形	2.75	3.04	0.81		101	1J-12	橢円形	0.64	0.65	0.48	
37	1D-6・7	橢円形	1.36	0.84	0.22		102	1J-12	橢円形	1.32	0.79	0.59	
38	1D-7	隅丸長方形	1.89	0.78	0.12		103	1J-12	円形	0.54	0.5	0.38	
39	1E-7	橢円形	1.28	0.88	0.39		104	1J-12	円形	1.08	1.06	0.18	
40	1E-7	不整円形	0.9	0.81	0.22		105	1J-12	不整形	1.01	1.22	0.16	
41	1C-7	不整形	1.42	0.89	0.18		106	1J-12	円形	0.69	0.66	0.5	
42	1D-7	隅丸長方形	1.12	1.38	0.15		107	1J-12	橢円形	0.66	0.48	0.24	
43	1D-7・1F-7	隅丸方形	1.05	1.18	0.36		108	1J-12	円形	0.56	0.56	0.42	
44	1E-7	(不整形)	3.48	1.19	0.22		109	1J-12	円形	0.52	0.51	0.34	
45	1E-7	(不整形)	3.12	2.08	0.35		110	1K-12	円形	0.7	0.71	0.35	
46	1E-7・8	橢円形	(1.22)	1.52	0.21		111	1K-12	橢円形	0.8	0.65	0.37	
47	1E-7・8	(隅丸長方形)	1.32	0.84	0.12		112	1J-12・1K-12	不整形	1.0	0.61	0.28	
48	1E-7・8	(隅丸長方形)	2.01	1.22	0.54		113	1K-12	円形	0.72	0.7	0.32	
49	1E-8	橢円形	0.99	0.51	0.18		114	1K-12	不整形	2.33	1.12	0.26	
50	1E-8	橢円形	1.01	0.84	0.24		115	1K-5・6	不整形	4.22	1.46	0.26	
51	1F-6・1G-6	隅丸長方形	2.44	0.92	0.28		116	1L-5	隅丸長方形	1.84	1.08	0.16	
52	1G-7	橢円形	1.61	0.92	0.18		117	1L-5	不整形	1.36	1.38	0.14	
53	1G-7	不明	(1.42)	(1.18)	0.38		118	1K-6	(隅丸長方形)	(1.24)	0.82	0.12	
54	1G-7	橢円形	1.68	0.86	0.23		119	1K-6	不整形	1.32	1.41	0.18	
55	1G-7・1H-7	隅丸長方形	1.81	0.98	0.16		120	1L-6	隅丸長方形	2.62	1.38	0.18	
56	1G-8	隅丸長方形	2.5	1.06	0.18		121	1K-5・6	橢円形	2.08	(1.14)	0.25	
57	1F-10	隅丸方形	0.86	0.86	0.19		122	1K-6・1L-6	不整形	1.02	0.84	0.19	
58	1G-9・10	不整形	1.94	1.16	0.56		123	1K-6	不明	(0.52)	0.89	0.16	
59	1G-9・10	不整形	2.25	1.18	0.58		124	1L-6	橢円形	0.81	0.94	0.19	
60	1E-10	不整形	2.4	1.05	0.11		125	1L-6	橢円形	5.6	3.98	0.94	
61	1C-10	不明			0.39		126	1K-6	(橢円形)	(0.56)	0.82	0.8	
62	1C-10	不整形	2.31	1.31	0.46		127	1K-6	不整形	1.22	0.9	0.38	
63	1C-10	不整形	1.25	0.72	0.24		128	1L-6	円形	0.85	0.98	0.32	
64	1D-10	(橢円形)	1.45	(0.88)	0.12		129	1M-7	不明	(1.38)	1.35	0.19	
65	1D-10・11	(橢円形)	8.7	(5.86)	0.42		130	1M-7	不明	2.32	(0.98)	0.28	
66	1E-10	円形	0.79	0.81	0.16		131	1L-7	隅丸長方形	2.09	1.35	0.42	
67	1E-10	円形	0.7	0.79	0.14		132	1L-8	橢円形	(1.68)	0.98	0.99	
68	1D-11・1E-11	円形	0.84	0.82	0.44		133	1L-8・1M-8	不整形	1.35	0.96	0.31	
69	1D-11・1E-11	円形	1.11	1.14	0.58		134	1M-8	橢円形	1.02	0.66	0.31	
70	1E-11	不明		0.89	0.09		135	1M-8	橢円形	1.38	0.73	0.29	
71	1E-11	不整形	1.71	1.48	0.48		136	1L-8	不整円形	0.88	0.91	0.15	
72	1E-11・12	隅丸長方形	2.95	1.23	0.28		137	1L-8・9	不明	(1.15)	3.04	0.68	
73	1E-12	不明		2.04	0.54		138	1L-9	(隅丸長方形)	(1.42)	1.02	0.19	
74	1E-12	不明		1.19	0.45		139	1L-9	橢円形	0.86	0.56	0.24	
75	1G-10	隅長方形形	2.15	0.98	0.26		140	1K-9	円形	1.14	1.13	0.36	
76	1G-10	橢円形	1.55	1.11	0.22		141	1K-10	不整形	0.91	0.66	0.22	
77	1G-11	橢円形	2.31	0.76	0.2		142	1K-10・11	不整円形	1.08	1.12	0.12	
78	1G-11	(隅丸長方形)	(1.68)	1.62	0.58		143	1K-10・11	円形	0.74	0.78	0.15	
79	1G-11・12	(隅丸長方形)	(3.24)	1.72	0.82		144	1L-10	不整形	0.99	0.6	0.26	
80	1F-12	(橢円形)	(2.38)	1.12	0.36		145	1L-10	橢円形	0.84	1.08	0.24	
81	1F-12	不明		0.88	0.29		146	1L-10	隅丸方形	1.26	1.14	0.58	
82	1F-12	不明		0.8	0.32		147	1L-10	不整円形	0.78	0.76	0.18	
83	1F-12	不明		0.96	0.28		148	1L-10	橢円形	0.71	0.81	0.19	
84	1F-12	橢円形	0.82	0.64	0.43		149	1L-10	不整形	0.75	0.64	0.36	
85	1G-12	橢円形	2.27	0.78	0.31		150	1M-11	隅丸方形	0.63	0.63	0.28	
86	1H-11	橢円形	1.05	0.68	0.15		151	1L-11	円形	0.91	0.94	0.18	
87	1H-11・12	橢円形	0.97	1.25	0.19		152	1K-11	隅丸長方形	1.71	0.66	0.15	
88	1J-2	不明	(2.53)	0.7	0.29		153	1K-11	不明	(0.92)	0.82	0.32	
89	1J-2	不整形	2.52	1.18	0.29		154	1K-12	(隅丸長方形)	1.21	(1.09)	0.32	
90	1J-2	(橢円形)	(1.26)	1.1	0.46		155	1K-12	(橢円形)	(0.52)	0.56	0.48	
91	1J-3	不整形	2.03	1.44	0.47		156	1K-12	(隅丸方形)	(0.98)	1.15	0.49	

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物	番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物
157	1K-12	楕円形	0.7	1.0	0.63		222	1P-1	整長方形	4.06	1.46	0.41	
158	1K-12	隅丸方形	0.86	0.84	0.16		223	10・1P-11	不整形	1.58	2.16	0.35	
159	1K-12	不整円形	0.78	0.84	0.18		224	10V-11	不整形	1.46	2.62	0.34	
160	1L-12	不整円形	1.16	1.09	0.38		225	1P-11	不整形	3.22	1.25	0.3	
161	1K・1L-12	(隅丸長方形)	3.15	0.96	0.25		226	1P-11	隅丸長方形	2.98	1.1	0.22	
162	1K・1L-12	(不整形)	1.02	(1.14)	0.32		227	1N-2	長方形	1.55	0.55	0.28	
163	1K-12	不整円形	0.74	0.7	0.35		228	10-2	不整形	3.5	0.8	0.88	
164	1L-11	楕円形	1.79	0.88	0.15		229	10-2	不整形	0.53	3.79	0.36	
165	1L-11	不整形	1.1	0.94	0.19		230	10-2・3	不整形	3.7	0.88	0.86	
166	1L-11	不整形	0.76	0.48	0.14		231	10-2・3	不整形	3.59	0.96	1.12	
167	1L-11	不整形	1.19	1.08	0.26		232	1R-2	不整円形	1.39	1.39	0.15	
168	1L-12	不整円形	0.84	0.72	0.12		233	1Q-3	(不整形)	(1.58)	1.25	0.18	
169	1L-12	不整円形	1.14	0.92	0.29		234	1Q-3	不整形	0.28	1.28	0.34	
170	1L-12	不整円形	1.02	1.08	0.22		235	10-4	不整長方形	2.12	1.01	0.35	
171	1L-12	(不整方形)	0.61	0.69	0.16		236	10・1P-4	隅丸長方形	2.45	0.98	0.36	
172	1L-12	不整形	1.33	1.05	0.45		237	10-5	不明	1.41	(0.86)	0.95	
173	1K・1L-12	不明	0.98	(0.82)	0.19		238	1N・10-5	不整形	2.88	1.36	0.45	
174	1K-12	不整円形	0.64	0.56	0.4		239	10-4・5	隅丸長方形	2.19	0.8	0.35	
175	1K-12	楕円形	0.59	0.48	0.34		240	10・1P-5	不整長方形	1.18	3.06	0.24	
176	1M-12	(楕円形)	0.91	0.45	0.15		241	1P-5	不整長方形	2.79	1.16	0.28	
177	1K・1L-12	不整形	1.98	0.82	0.34		242	10-5	不整長方形	3.82	1.42	0.18	
178	1M-12・13	不明	(2.2)	1.64	0.68		243	1N-5	不整長方形	2.06	1.21	0.25	
179	1M-12・13	楕円形	1.98	1.15	0.26		244	1P-5	隅丸長方形	1.59	0.86	0.44	
180	1M-13	不整円形	0.82	0.75	0.48		245	1P-5	隅丸長方形	3.25	1.08	0.55	
181	1N-7	不整円形	1.22	1.18	0.32		246	1P-5・6	不整長方形	2.95	1.28	0.38	
182	1N-7	不整長方形	2.34	0.95	0.59		247	1Q-7	隅丸長方形	1.04	0.76	0.12	
183	1N-7	不整形	2.94	1.35	0.49		248	1Q-7	不整形	0.76	0.52	0.13	
184	10-7	不整円形	1.26	1.06	0.22		249	1Q-7	不整円形	0.66	0.6	0.2	
185	1M-8	不明	0.76		0.14		250	1P-7・8	不整長方形	1.42	0.98	0.2	
186	1N-8	不整形	2.32	1.02	0.38		251	1P-8	不整形	1.77	0.86	0.42	
187	10-8	不明	(1.44)	1.35	0.15		252	1P-8	不整形	1.54	0.79	0.21	
188	10-8	不整長方形	2.22	1.21	0.29		253	1Q-7・8	不整形	1.16	0.86	0.99	
189	10-9	不整長方形	2.75	0.58	0.29		254	1Q-7・8	不明		0.59	0.39	
190	1N-9	不明	0.89	(0.86)	0.25		255	1Q-8	円形	0.62	0.58	0.28	
191	1N-9	不整長方形	2.54	0.92	0.42	鉄鎌	256	1P-8	不整形	2.22	1.08	0.26	
192	1N-9	不整形	2.84	0.95	0.4		257	1Q-8	不整形	2.06	1.12	0.28	
193	10-12・13	(不整長方形)	2.82	1.24	0.35		258	1Q-7	不整形	1.24	0.85	0.54	
194	1M-9・10	楕円形	1.42	1.09	0.22		259	1R-7	(不整形)	(1.89)	1.08	0.1	
195	1M-10	不整円形	0.94	0.98	0.36		260	1R・1S-7	不明	(2.8)	2.42	0.32	
196	1M-10	不整長方形	1.72	1.15	0.4		261	1S-7	(隅丸長方形)	(0.75)	(1.36)	0.25	
197	1M-10	不整形	2.15	1.45	0.55		262	1S-7・8	不整形	1.0	0.66	0.18	
198	1M・1N-10	不整円形	1.12	1.02	0.41		263	1S-8	楕円形	0.65	0.52	0.24	
199	1M-10	不整形	1.42	0.85	0.22		264	1S-8	楕円形	0.92	0.65	0.19	
200	1N-10-10	隅丸長方形	1.75	0.71	0.48		265	1S-8	長方形	1.65	0.82	0.17	
201	1M-11	不明		1.05	0.42		266	1R-8	不整方形	0.68	0.61	0.12	
202	1M-11	隅丸方形	1.28	1.22	0.35		267	1R-8	不整形	0.89	0.58	0.14	
203	1M-11	不整方形	1.45	1.5	0.84		268	1R-9	不明		0.75	0.26	
204	1M-11	不明	(0.79)	1.52	0.19		269	1Q-9・10	不明	(1.02)	0.95	0.19	
205	1M-11	不整方形	1.12	0.95	0.62		270	1Q-10	不整円形	0.88	0.82	0.21	
206	1N-11	不整円形	0.98	0.89	0.24		271	1Q-10	不整方形	1.35	1.18	0.45	
207	1N-11	円形	0.88	0.82	0.48	錫杖、他	272	1Q-10	不明		1.44	0.1	
208	1N-11	不整円形	0.99	0.92	0.65	かわらけ	273	1T-8・9	不整形	2.26	1.43	0.83	
209	1N-11	不整円形	0.89	1.02	0.48	袈裟金具他	274	1S・1T-9	隅丸長方形	4.19	1.16	0.43	
210	1N-11	(隅丸長方形)	0.88	(0.98)	0.15		275	1T-9	不整長方形	1.38	2.79	0.29	
211	1N-11	(不整円形)	1.0	1.21	0.22		276	1T-9	不整形	1.76	1.75	0.65	
212	1N-11	(不整形)	2.08	0.82	0.36		277	1T-9	不整形	1.44	1.39	0.41	
213	1N・10-11	不整円形	1.1	1.1	0.6		278	1T-9	隅丸長方形	2.74	1.02	0.11	
214	10-11	不整長方形	2.11	1.58	0.25		279	1S-10	不整形	1.44	1.01	0.32	
215	10-11	不整円形	1.02	0.94	0.6	鉄釉陶器	280	1Q-10	不明	2.56	(1.56)	0.35	
216	10-11	(不整円形)	0.92	(0.68)	0.28	灰釉陶器	281	1Q-10・11	不整円形	1.06	1.02	0.12	
217	1N・10-11・12	不整円形	1.61	1.38	0.66		282	1Q-10	楕円形	1.5	1.1	0.41	
218	10-11	不整形	1.3	1.06	0.55	かわらけ	283	1Q-10	円形	1.01	1.01	0.20	
219	10・1P-1	不明	1.21		0.35		284	1Q-11	隅丸長方形	1.86	1.01	0.36	
220	10・1P-11	隅丸長方形	1.15	1.5	0.36		285	1Q-11	不整長方形	2.0	0.88	0.26	
221	10・1P-11	(隅丸方形)	(0.76)	1.21	0.31		286	1Q-11	不明	(0.85)	0.95	0.34	

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物	番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物
287	IR-11	不整円形	1.16	1.09	0.35		352	IU-16	不整長方形	2.42	1.32	0.19	
288	IR-11	不整円形	1.12	1.24	0.18		221	10・IP-11 (隅丸方形)	(0.76)	1.21	0.31		
289	IS-10	不明	3.46	(0.95)	0.18		353	IU-15	不整形	1.62	0.78	0.38	
290	IS・IT-10・1	不整長方形	5.16	1.35	0.16		354	IV-15	不整円形	1.08	0.88	0.32	
291	IS-11	不整円形	1.42	1.21	0.28		355	IU-16	隅丸長方形	1.96	0.93	0.58	馬具
292	IQ-11・12	不整円形	1.21	1.08	0.25		356	IU-16	不整円形	0.78	0.8	0.28	
293	IQ-12	不整形	2.05	1.06	0.48		357	IU-16	不整形	0.78	0.74	0.46	
294	IR-12	(隅丸長方形)	(0.96)	0.64	0.14		358	IV-16	不整形	0.68	0.62	0.25	
295	IR-12	不明	(1.76)	0.92	0.54		359	IX-14	不明		0.64	0.06	
296	IR・IS-12	(隅丸長方形)	(2.21)	1.2	0.26		360	IX-14	隅丸長方形	1.92	1.02	0.32	
297	IS-12	隅丸長方形	2.91	1.16	0.24		361	IX-15	不明		1.04	0.18	
298	IT-12	不整長方形	2.74	1.06	0.24		362	IY-15	不整形	1.45	3.42	0.26	
299	IT-12	不整形	1.55	1.1	0.15		363	IY-16	隅丸長方形	1.38	0.64	0.12	
300	IU-12	不整円形	0.96	1.08	0.64		364	IY-16	不明		1.6	0.48	
301	IV-12	不整円形	1.18	1.02	0.20		365	IY・IZ-16	不明	(1.6)	0.66	0.06	
302	10・IP-13	不整長方形	2.72	1.15	0.26		366	IZ-16	不整形	0.99	0.74	0.48	
303	10・IP-14	不整長方形	1.36	0.91	0.32		367	IZ-16	不整形	1.0	0.75	0.42	
304	IP-14	不整長方形	(2.25)	0.96	0.58		368	IZ-16	隅丸長方形	1.5	0.65	0.44	
305	IP-13・14	不整形	1.52	1.25	0.59		369	IZ-16・17	不整形	1.09	0.95	0.25	
306	IQ-14・15	不明	2.03	(1.31)	0.18		370	IV-17	不整形	1.24	1.05	0.16	
307	IQ-15	不整円形	1.31	(1.05)	0.11		371	IV・IW-17	不整円形	1.12	1.32	0.34	
308	IR-16	(不整長方形)	1.52	1.12	0.12		372	IV-17	隅丸長方形	1.98	0.72	0.16	
309	IR-16	不整円形	1.26	1.59	0.22		373	IV・IW-18	不整円形	1.69	1.9	0.24	
310	IR-16	(隅丸長方形)	(0.97)	0.79	0.15		374	IW-18	不整形	2.85	0.9	0.22	
311	IR・IS-16・1	隅丸方形	2.42	2.49	0.55		375	IT-18	不整形	2.0	1.14	0.45	
312	IR-16	隅丸長方形	1.88	0.92	0.3		376	IS-19	不明		3.22	0.5	土師器
313	IR-16	不整円形	0.96	0.88	0.11		377	IT-18	不明	2.24	0.73	0.16	
314	IR-16	(長方形)	(0.79)	0.45	0.15		378	IU-18	不明	(1.58)	(2.18)	0.12	
315	IR・IS-16	(不整長方形)	(1.28)	1.0	0.24		379	IU-18	不明	2.12	(0.95)	0.02	
316	IR・IS-16	不明	(0.95)	(0.82)	0.22		380	IU-18	隅丸長方形	(2.15)	1.26	0.02	
317	IR-16	不整円形	0.65	0.86	0.26		381	IU-18	(隅丸長方形)	(1.44)	0.86	0.11	
318	IS-16	不明		0.19			382	IU-18	隅丸長方形	1.11	3.11	0.12	
319	IS-16	(隅丸長方形)	1.96	2.34	0.19		383	IV-18	隅丸長方形	2.62	0.82	0.44	
320	IS-16	隅丸方形	1.88	2.02	0.19		384	IV-18・19	不整長方形	2.88	1.38	0.22	
321	IS-6	隅丸長方形	2.58	0.88	0.42		385	IV-18	隅丸長方形	2.22	0.92	0.12	
322	IS-16・17	隅丸方形	1.88	1.75	0.38		386	IX-18	円形	0.72	0.72	0.52	
323	IS-16	不整長方形	1.16	2.32	0.42		387	IY-18	不整円形	1.25	1.52	0.4	
324	IS-17	隅丸長方形	1.98	0.9	0.48		388	IY・IZ-17	(隅丸長方形)	(2.45)	0.95	0.18	
325	IS-17	隅丸長方形	1.07	0.66	0.46		389	IZ-17	円形	1.12	1.05	0.38	土師器
326	IR-17	不整形	1.42	1.05	0.12		390	IZ-18	不整円形	1.42	1.44	0.48	
327	IS-17	不明	(1.65)	(1.38)	0.38		391	IZ-17・18	隅丸長方形	2.22	1.12	0.32	
328	IS-17	隅丸長方形	1.26	0.64	0.16		392	IZ-17	(不整方形)	1.52	1.36	0.32	
329	IR-17	不整形	2.0	1.8	0.2		393	IZ-18	隅丸長方形	1.28	1.54	0.26	
330	IR-17	不整形	1.75	1.42	0.2		394	IZ-18	不整円形	0.85	0.81	0.48	
331	IR-17	(隅丸方形)	(1.84)	1.24	0.18		395	IZ-18	不整円形	0.94	0.76	0.64	
332	IR-17	長方形	1.1	2.24	0.36		396	IZ-18	不整円形	0.76	0.85	0.46	
333	IR・IS-17	不整形	2.31	1.35	0.52		397	IY-18	不整円形	0.78	0.72	0.32	
334	IR-17	隅丸長方形	0.86	2.15	0.34		398	IR-21	隅丸方形	1.7	1.38	0.26	
335	IR-17・18	隅丸長方形	2.35	0.68	0.31		399	IS-21	不整円形	0.79	0.85	0.22	
336	IR-17	不整円形	0.94	0.96	0.19		400	IU-21	不整円形	1.15	(1.1)	0.2	
337	IR-17	円形	0.84	0.88	0.2		401	IU-20	隅丸方形	1.28	0.98	0.15	
338	IS-17	不整形	0.98	0.73	0.32		402	IU・IV-20	隅丸長方形	1.42	0.9	0.12	
339	IS-17	(楕円形)	(1.54)	1.05	0.24		403	IV-20	隅丸方形	1.06	0.91	0.14	
340	IS-17	不整形	1.3	0.96	0.28		404	IV-19					土師器
341	IS・IT-17	不整形	1.0	0.72	0.36		405	IW・IX-20	(隅丸長方形)	2.02	0.72	0.38	
342	IS-17	不整長方形	(2.45)	0.66	0.35		406	IW・IX-20	隅丸長方形	2.16	1.1	0.42	
343	IS-17	不整円形	1.01	0.96	0.16		407	IX-19・20	不整円形	1.9	1.8	0.38	
344	IT-17	(隅丸方形)	(1.08)	1.3	0.15		408	IX-19	不整円形	1.82	1.66	0.35	
345	IT-17	不整方形	1.12	0.98	0.34		409	IY-20	円形	0.76	0.75	0.26	
346	IT-17	隅丸長方形	1.9	0.48	0.25		410	2B-21	不整円形	1.86	1.65	0.2	
347	IT-16	不明	1.14	0.25			411	2B-20・21	不明	(1.78)	1.82	0.16	
348	IT-15・16	楕円形	1.48	0.94	0.37		412	1-12	不整形	1.06	0.9	0.32	
347	IT-16	(不整方形)	1.72	0.24			413	IN-12	不整形	1.52	1.92	0.36	
350	IU-16	不整円形	0.92	1.02	0.44		414	IL-9	不明		(0.48)	(0.18)	
351	IU-16	不整円形	0.71	0.76	0.38		415	IZ-18	不明		(0.62)	(0.22)	

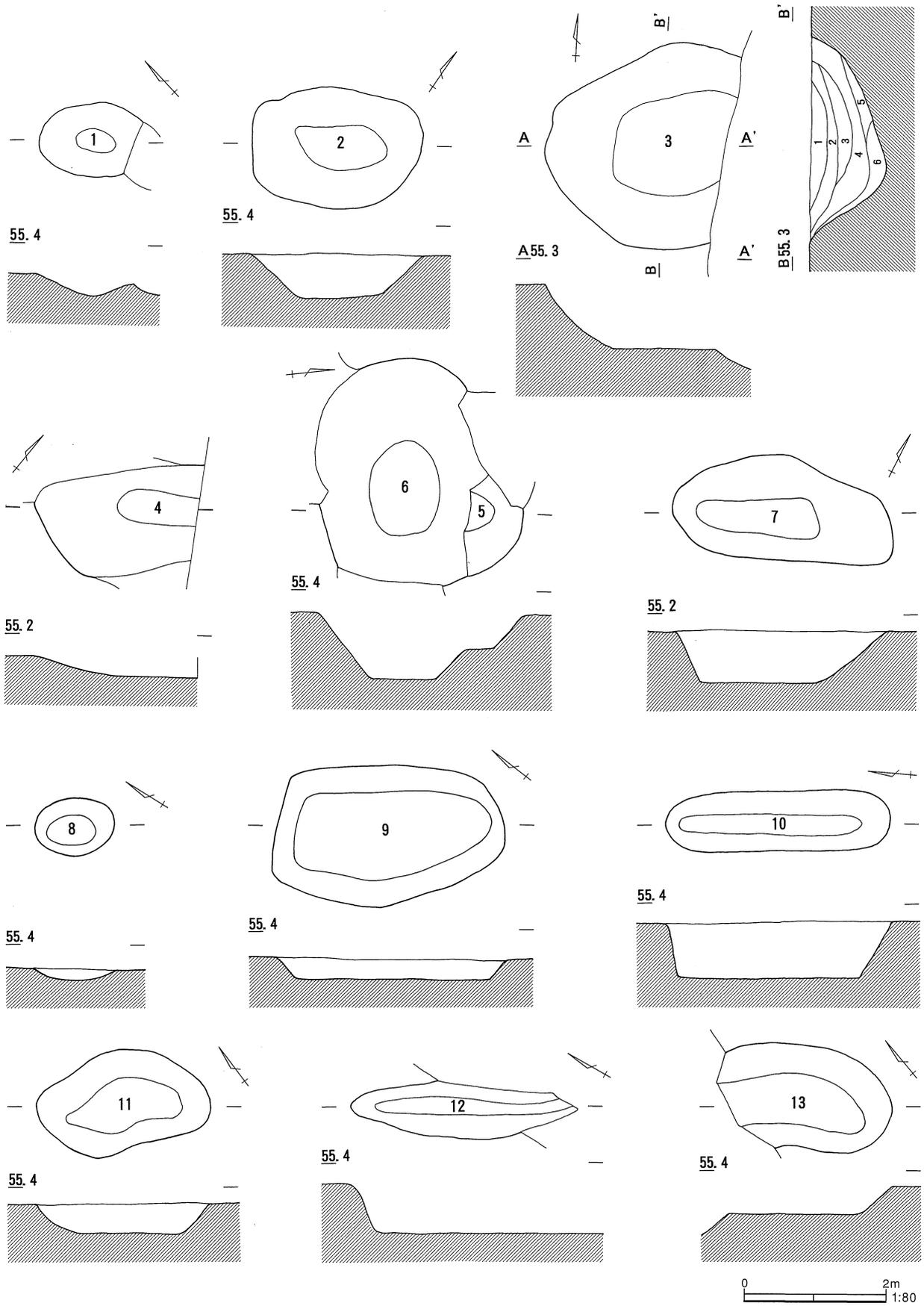


図 233 SK平面および断面 (1)

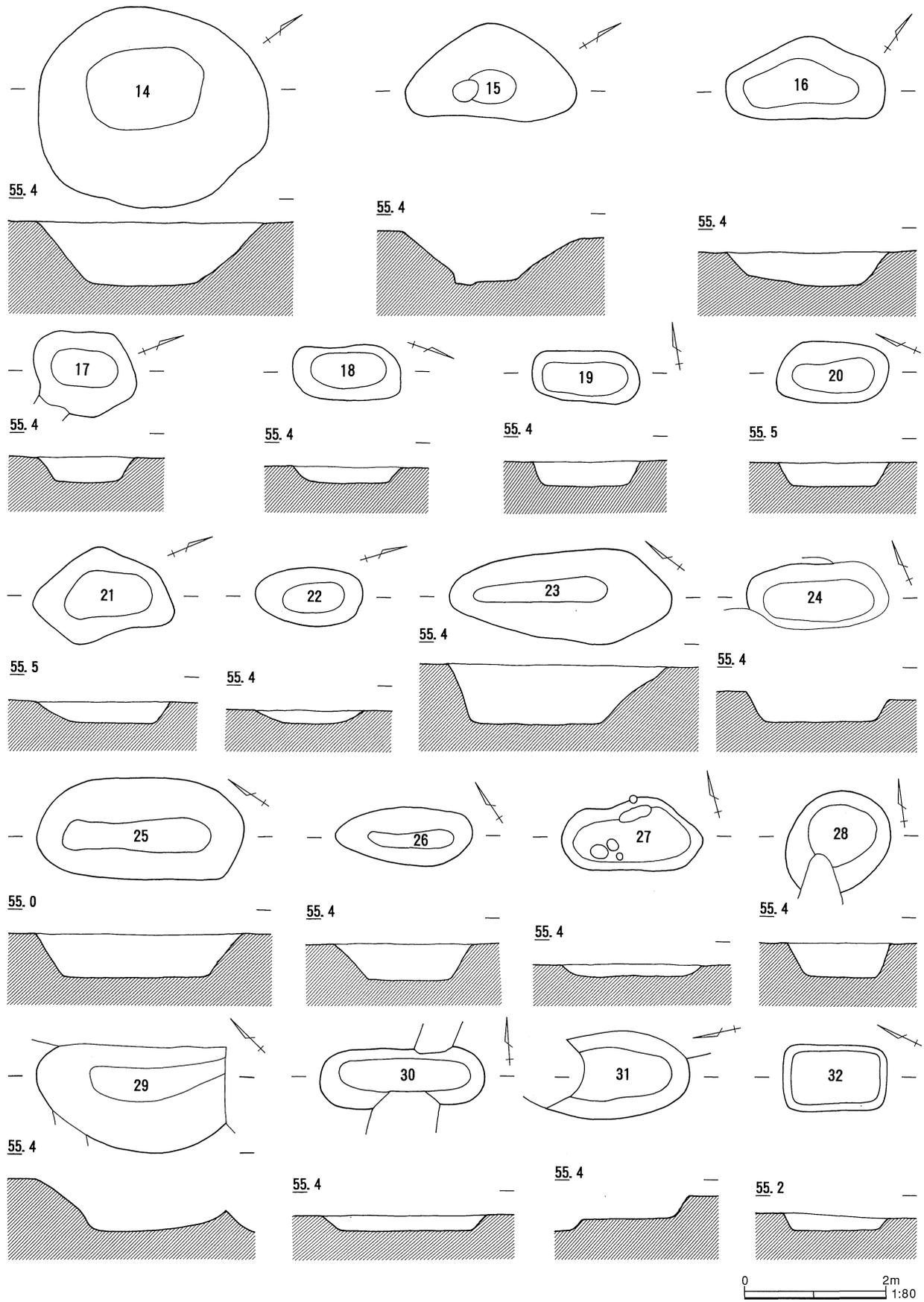


図 234 SK平面および断面 (2)

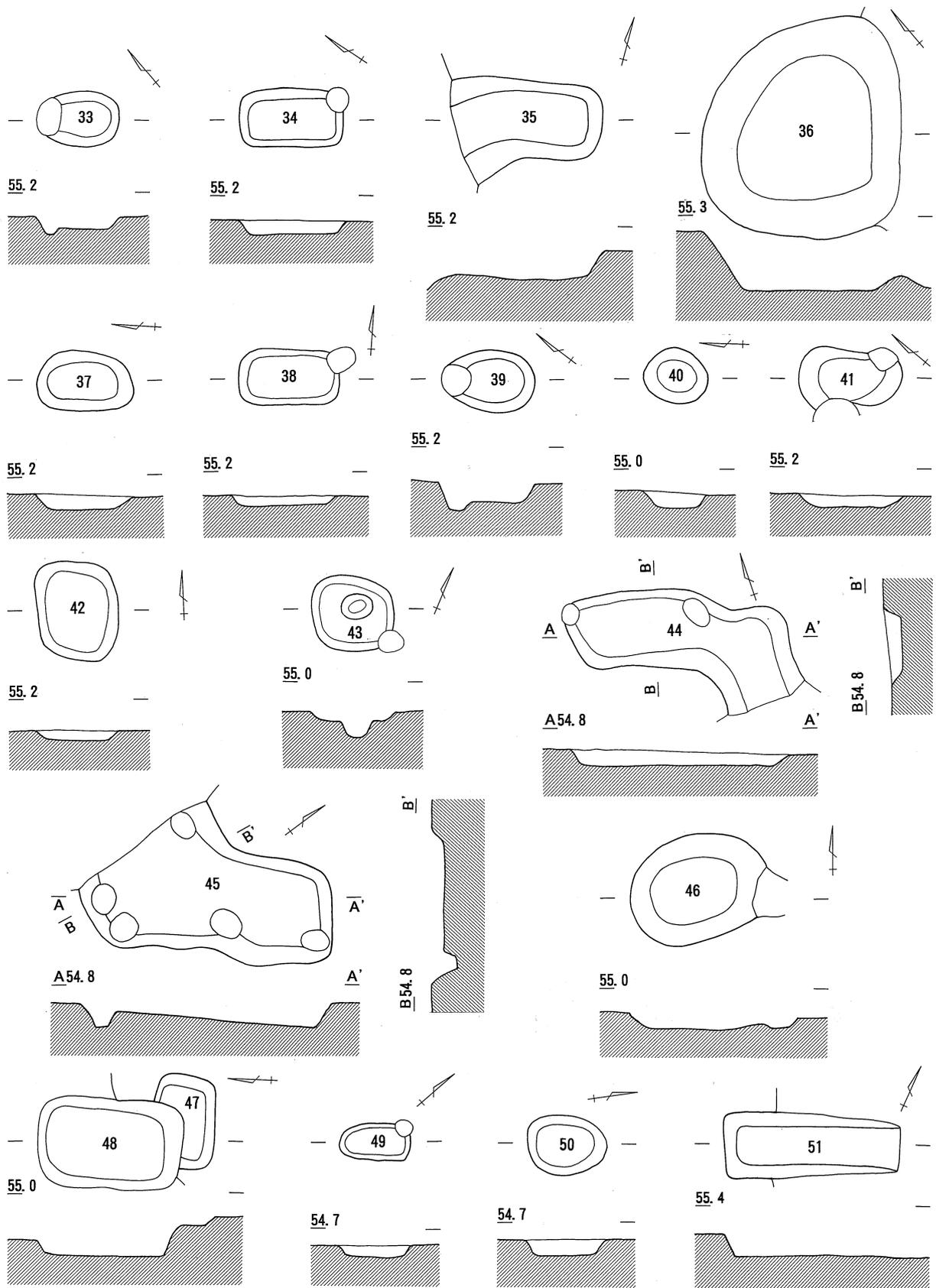


図 235 SK 平面および断面 (3)

SK-2	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-20	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-3	1 黒色土	白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり弱。粘性欠。	SK-21	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
	2 黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり強。粘性欠。	SK-22	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
	3 黒色土	ロームブロック (径1mm±)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-23	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	4 黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-25	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	4 黒褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含み斑状に堆積する。しまり、粘性とも欠。	SK-26	黒色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
	6 褐色土	白色粘土ブロック (径10~20mm) 黒色土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。粘性弱。	SK-27	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-7	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-28	黒色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-8	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-30	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-9	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-32	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-10	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-34	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-11	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-37	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-14	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-38	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-16	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-40	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-17	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-41	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-18	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。			
SK-19	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。			

- SK-42
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-44
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-49
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-50
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-52
1 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
2 褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり欠。粘性弱。
3 黄褐色土 ロームブロック
- SK-54
1 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
2 褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。粘性弱。しまり欠。
- SK-55
黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。粘性欠。
- SK-56
黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。粘性欠。
- SK-57
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-58
1 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり欠。粘性弱。
- SK-59
1 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり欠。粘性弱。
- SK-60
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-61
1 暗褐色土 ロームブロック (径1~20mm) 黒色土ブロック (径5~20mm) を多量に含む。しまり弱。
2 黒色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり弱。粘性ふつう。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を少量、黒色土ブロック (径5~30mm) を多量に含む。しまり弱。
4 褐色土 風化ロームの堆積層。しまり弱。粘性やや強。
- SK-62
1 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、礫 (径50~100mm) を多量に含む。粘性弱。
2 黒色土 ロームブロック (径1mm±)、暗褐色土ブロック (径20~40mm) を少量含む。しまり弱。
3 黒色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり弱。
4 暗褐色土 黒色土と風化ロームブロックの混合層。斑状を呈する。しまり弱。
- SK-63
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-65
1 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。粘性欠。
- SK-66
暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- SK-67
暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- SK-68
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-72
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-75
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-76
1 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。粘性欠。
- SK-77
黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-80
黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-84
黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

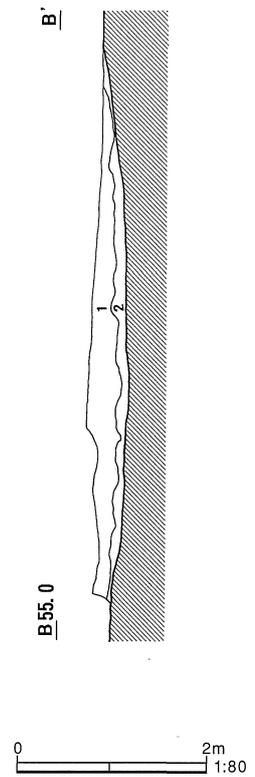
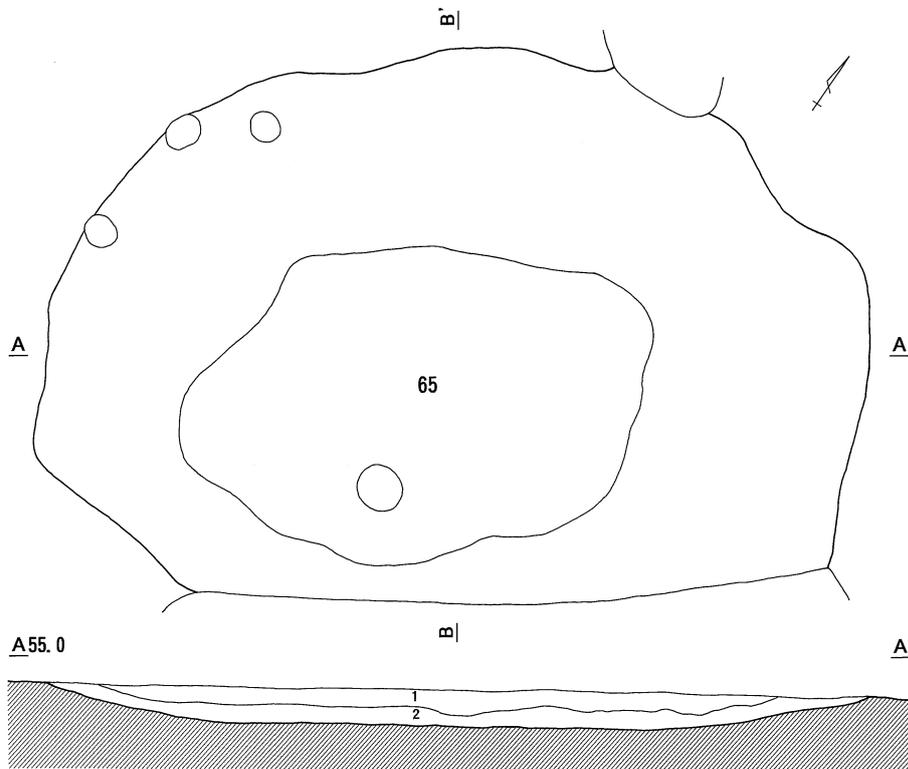
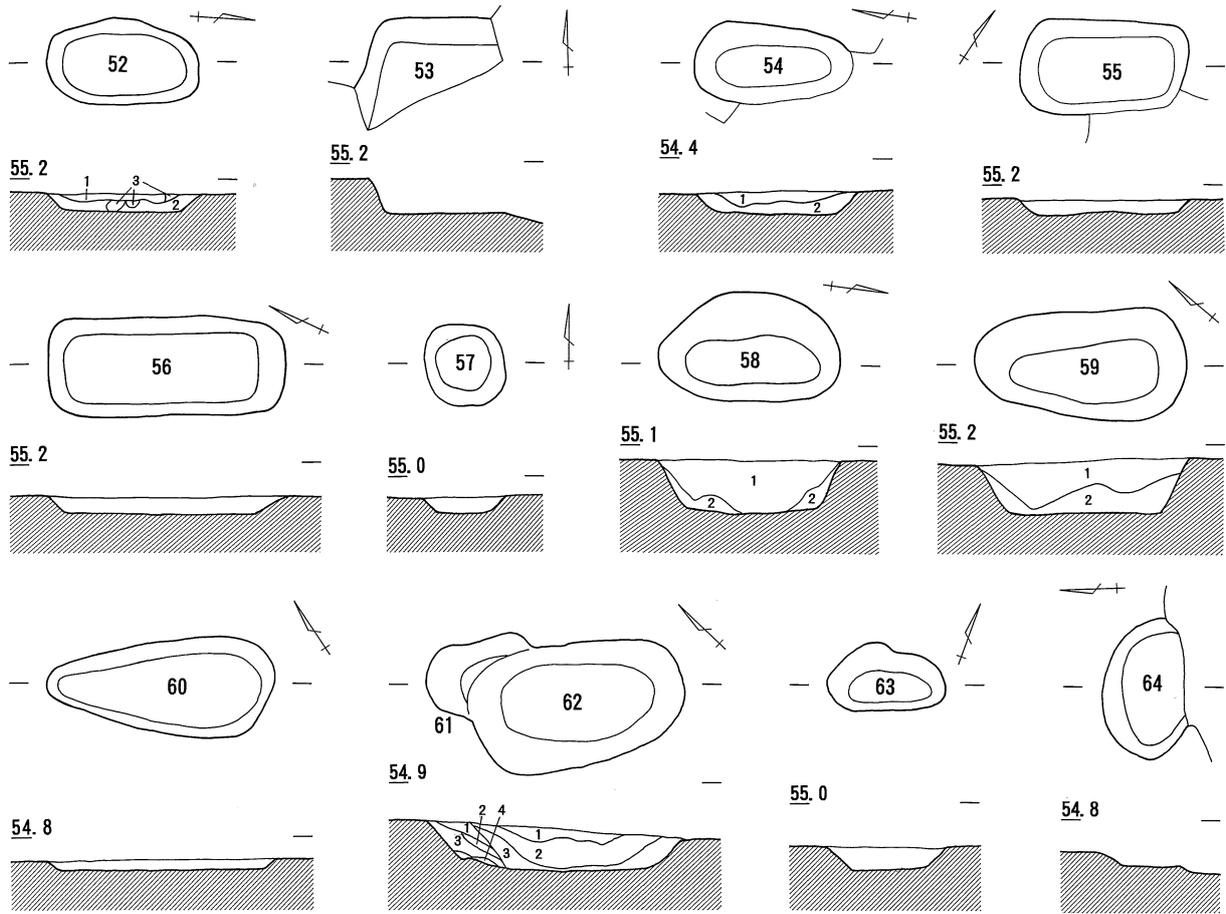


図 236 SK 平面および断面 (4)

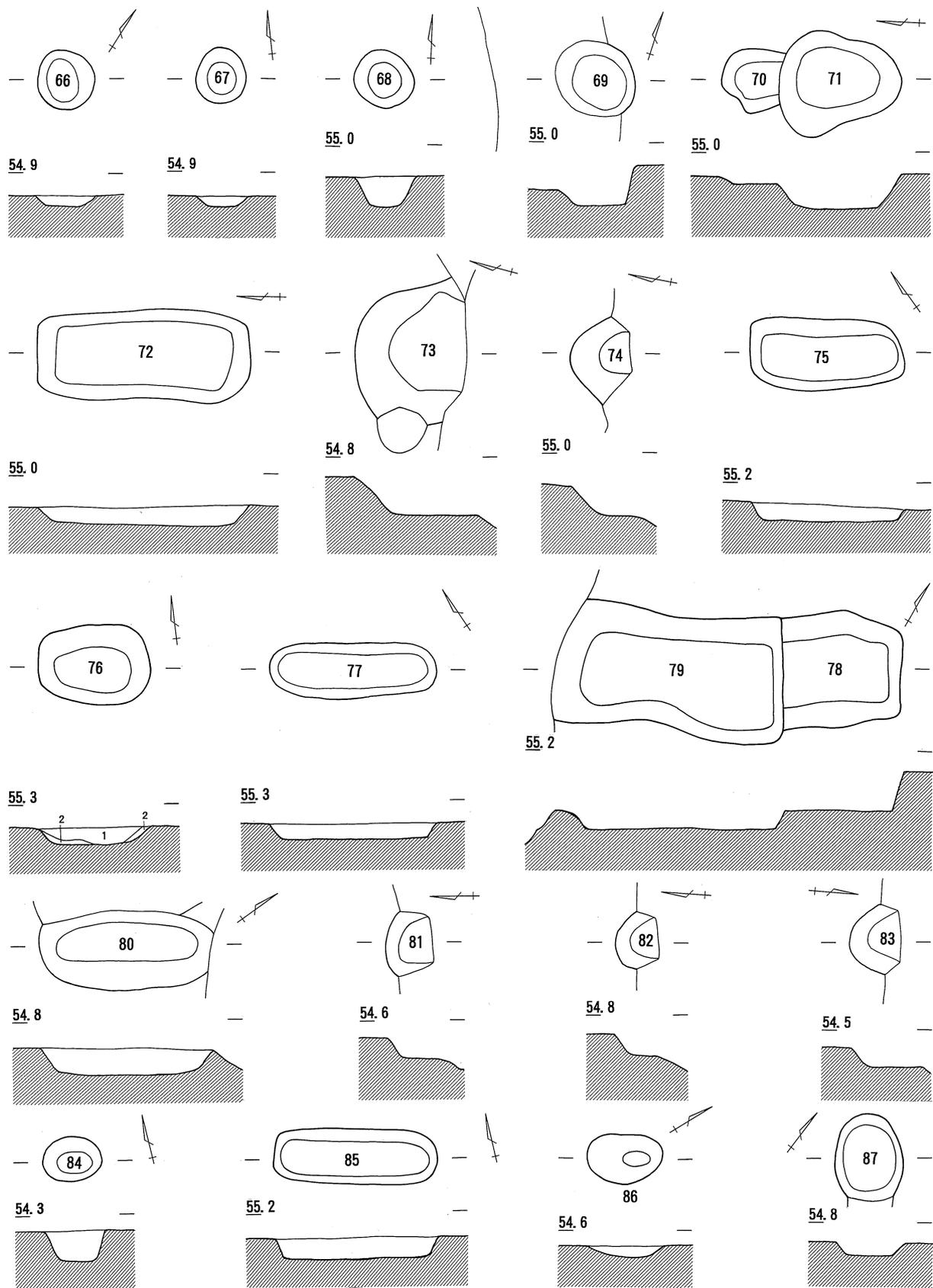


図 237 SK平面および断面 (5)

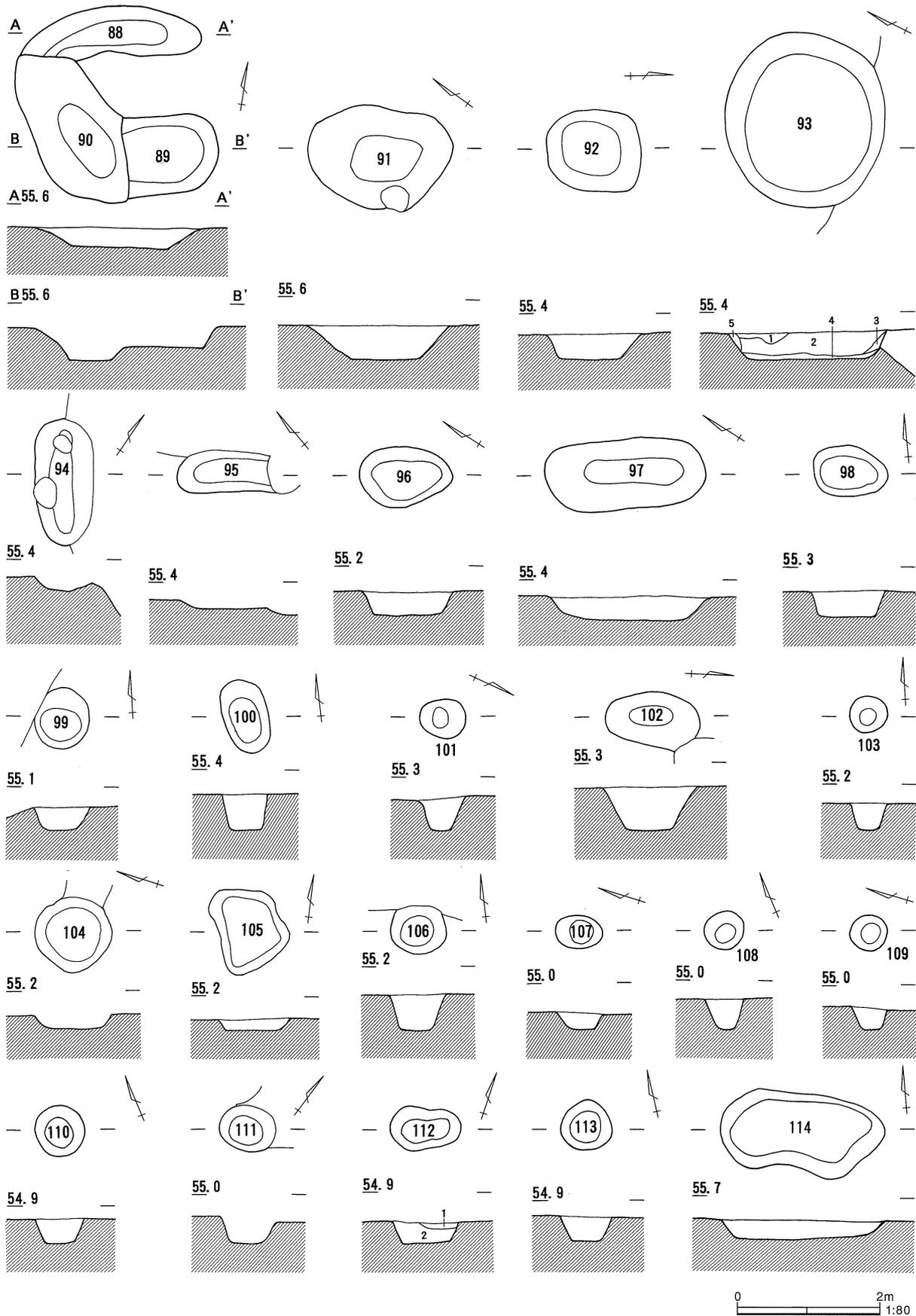


図 238 SK平面および断面 (6)

SK-85	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-103	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm)、礫 (径5~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-86	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-105	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-88	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-106	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-91	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-107	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-92	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-108	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-93	1 黒灰褐色土	ロームブロック (径1~5mm)、炭化物ブロック (径1~10mm) を多量に含む。粘性欠。	SK-109	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
	2 黒色土	ロームブロック (径1mm±)、暗褐色土ブロック (径20~40mm) を少量含む。しまり弱。	SK-110	黒褐色土	ロームブロック (径1~15mm) を多量に含み、斑状に堆積する。しまり、粘性とも欠。
	3 暗褐色土	黒色土と風化ロームブロックの混合層。斑状を呈する。しまり弱。	SK-112	1 暗褐色土	ロームブロック (径1~25mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	4 黒色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。		2 黒褐色土	ロームブロック (径1~15mm) を多量に含み、斑状に堆積する。しまり、粘性とも欠。
	5 褐色土	風化ロームブロックの堆積層。しまり弱。	SK-113	黒褐色土	ロームブロック (径1~15mm) を多量に含み、斑状に堆積する。しまり、粘性とも欠。
SK-96	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-114	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-97	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-115	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-98	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-116	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-99	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-117	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-100	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-120	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-101	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-121	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-102	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。			

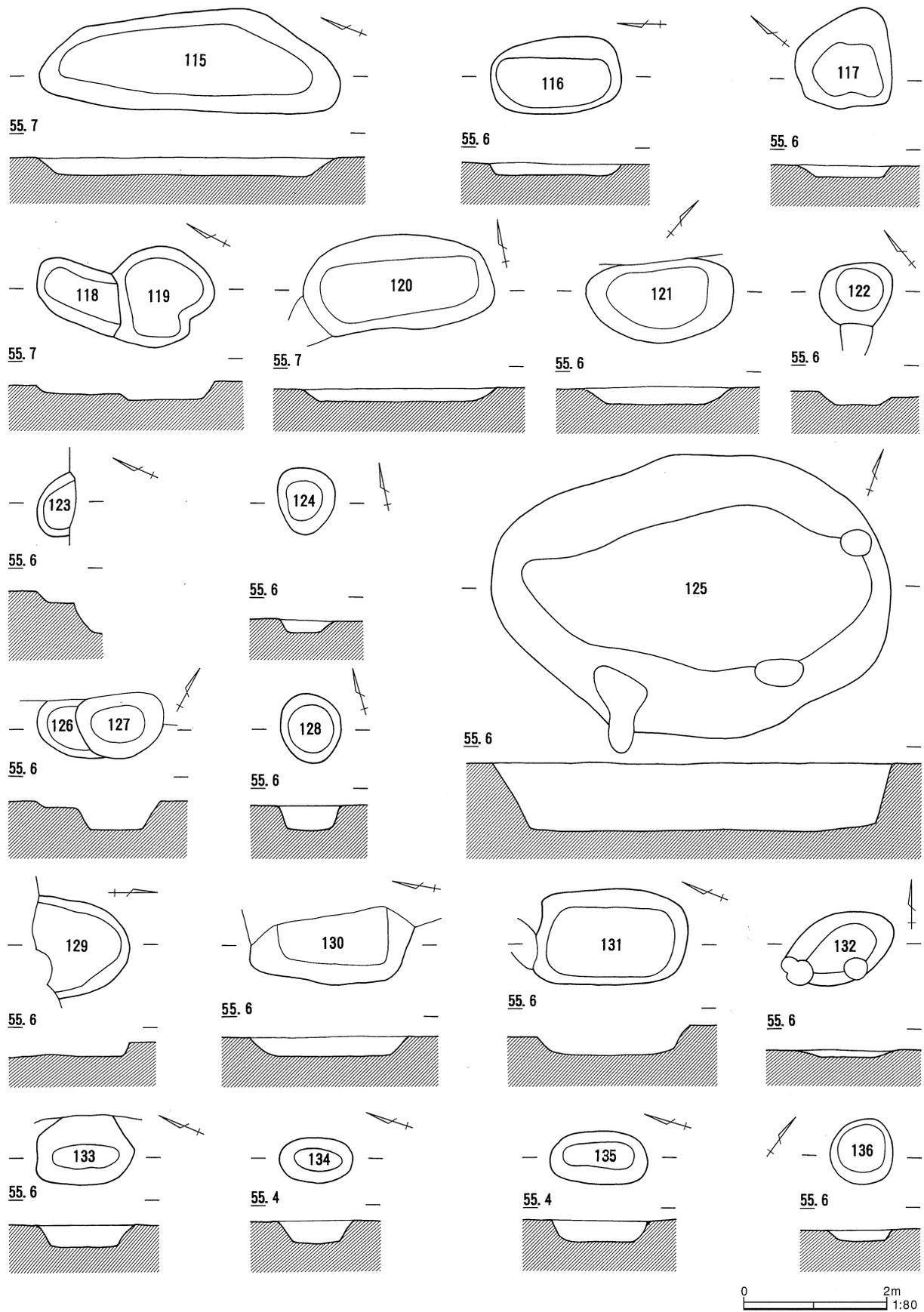


図 239 SK平面および断面 (7)

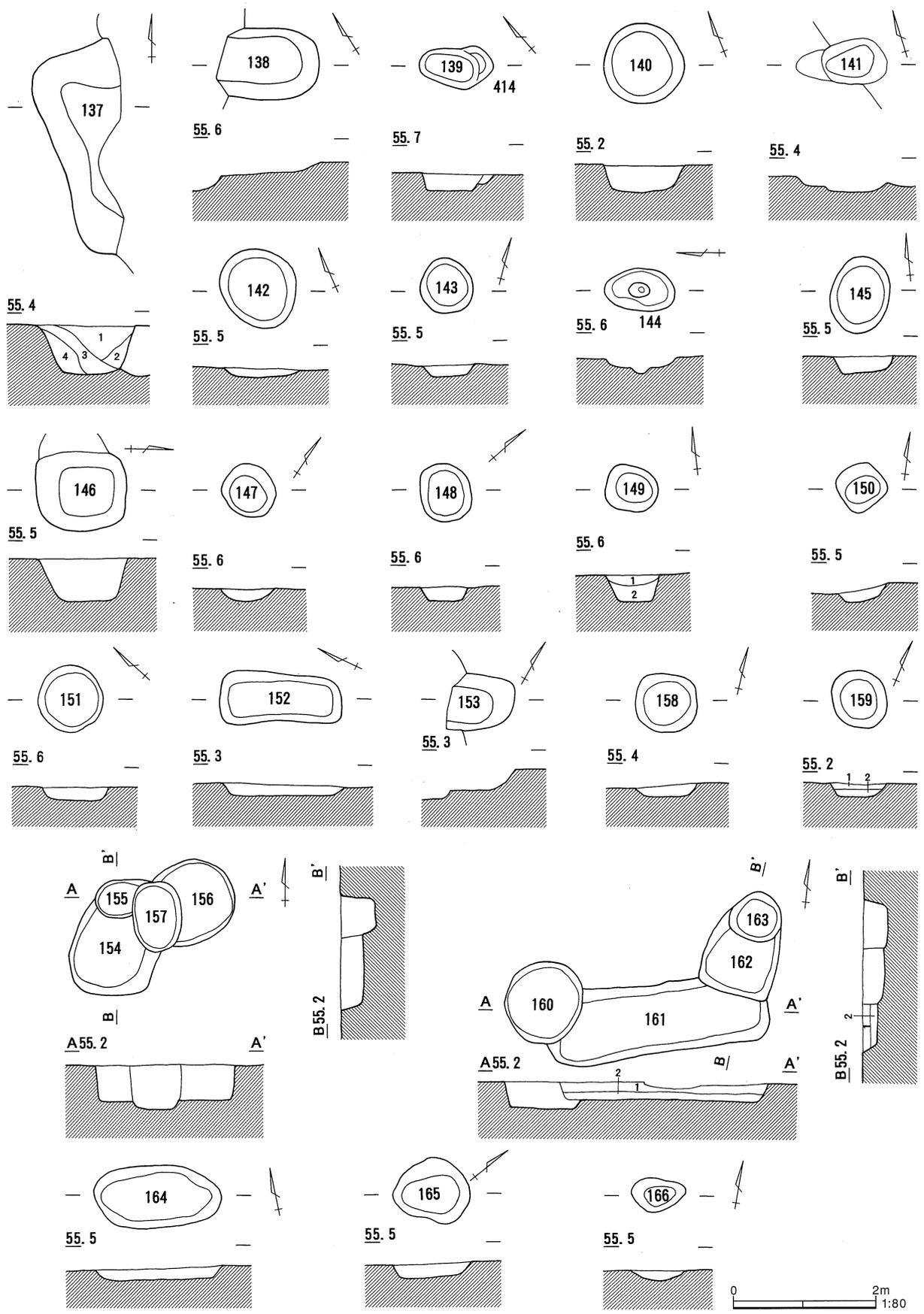


図 240 SK平面および断面 (8)

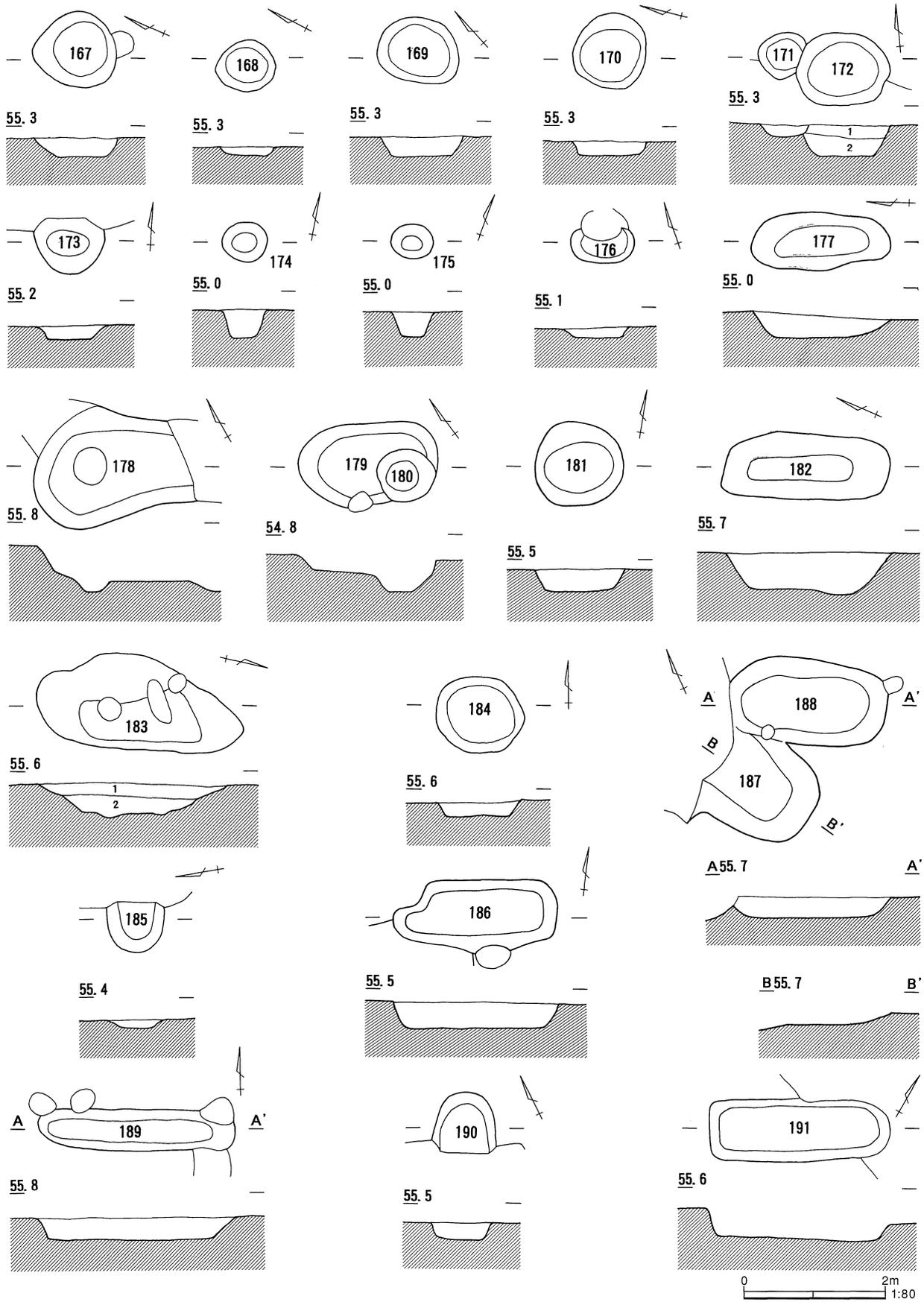


図 241 SK平面および断面 (9)

SK-124	黒色土	ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-146	黒褐色土	ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-125	黒褐色土	ロームブロック（径1～15mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-147	黒色土	ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-128	黒褐色土	ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-148	黒褐色土	ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-130	黒褐色土	ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-149	1 黒褐色土	ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性欠。しまり欠。
SK-132	黒色土	ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	2 黒褐色土	ロームブロック（径1～20mm）を少量含む。粘性欠。しまり欠。	
SK-133	黒褐色土	ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-150	黒褐色土	ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-134	黒褐色土	ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-151	黒褐色土	ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-135	黒褐色土	ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-152	黒色土	ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-136	黒色土	ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-154	黒灰色土	ロームブロック（径1～15mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-137	1 暗灰褐色土	ロームブロック（径1～5mm）、砂礫（径1～10mm）を多量に含む。粘性欠。	SK-155	黒褐色土	ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。
	2 黒色土	ロームブロック（径1mm±）、暗灰褐色土ブロック（径5～20mm）を少量含む。	SK-156	暗灰褐色土	ロームブロック（径1～15mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	3 黒褐色土	ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。	SK-157	黒灰褐色土	ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	4 暗褐色土	ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。	SK-158	黒色土	ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-139	黒褐色土	ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-159	1 黒色土	ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。
SK-140	黒褐色土	ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	2 黒褐色土	ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。	
SK-142	黒褐色土	ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-160	黒褐色土	ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-143	黒褐色土	ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-161	1 黒褐色土	ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。
SK-145	黒褐色土	ロームブロック（径1～25mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。	2 黒褐色土	ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。	
			SK-162	黒灰褐色土	ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
			SK-163	黒灰褐色土	ロームブロック（径1～15mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
			SK-164	黒色土	ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

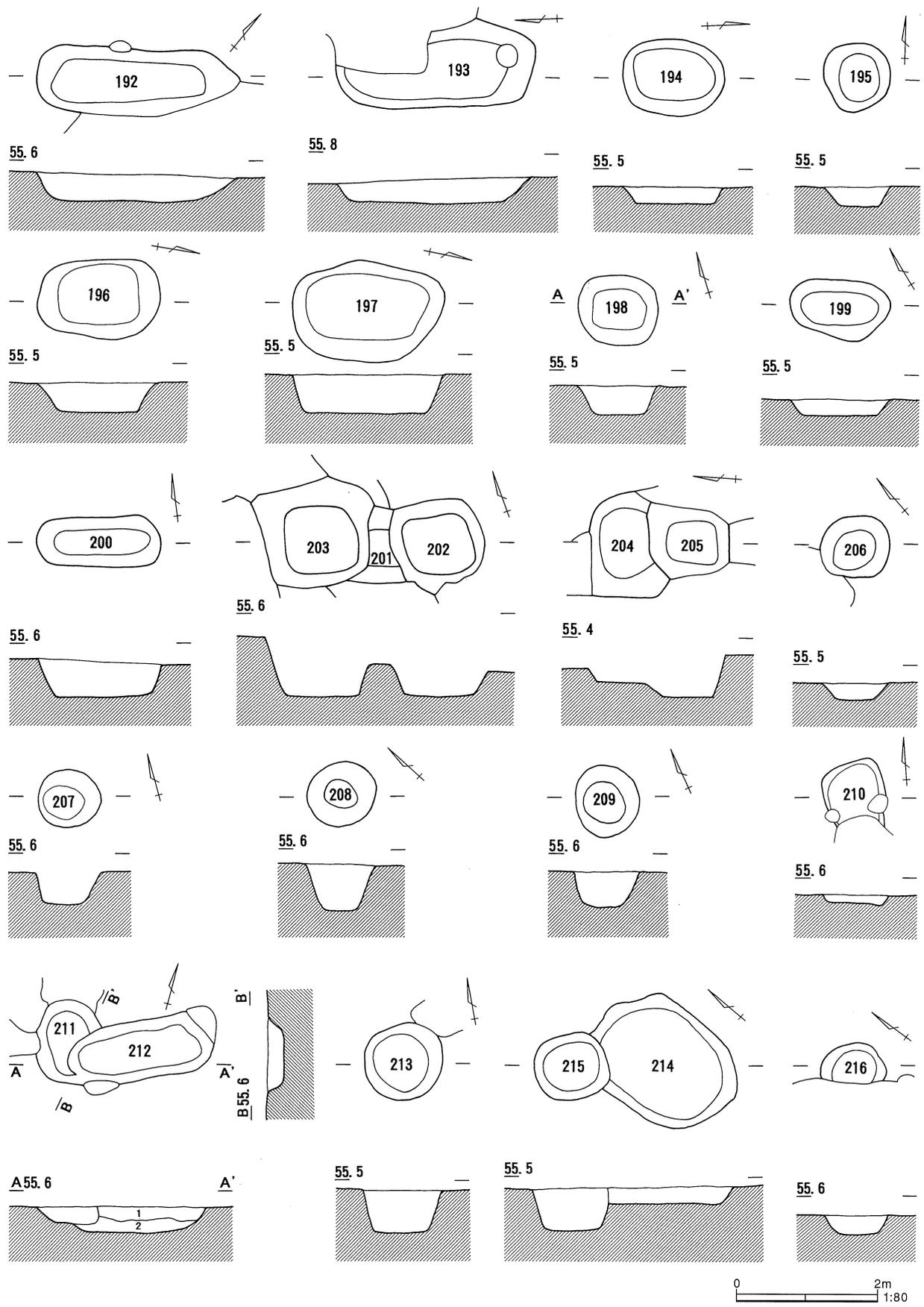


図 242 SK 平面および断面 (10)

SK-165	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	2 黒色土	ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	
SK-166	黒色土	ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-184	黒色土	白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-167	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-185	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-168	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-186	黒褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-169	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-188	黒色土	白色パミス (径1mm以下) を少量含む。粘性欠。しまりやや強。
SK-170	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-189	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。
SK-171	黒色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-190	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-172	1 黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-192	黒色土	ロームブロック (径1mm±) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	2 黒褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-193	黒色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-173	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-194	黒褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。粘性欠。
SK-174	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-195	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。粘性欠。
SK-175	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-196	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-176	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-197	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-177	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-198	黒褐色土	ロームブロック (径1mm±) を多量に含む。粘性欠。
SK-181	黒色土	白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。	SK-199	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-182	黒色土	白色パミス (径1mm以下) ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-200	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含み、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-183	1 黒色土	白色パミス (径1mm以下) を少量含む。粘性欠。しまり欠。	SK-206	黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

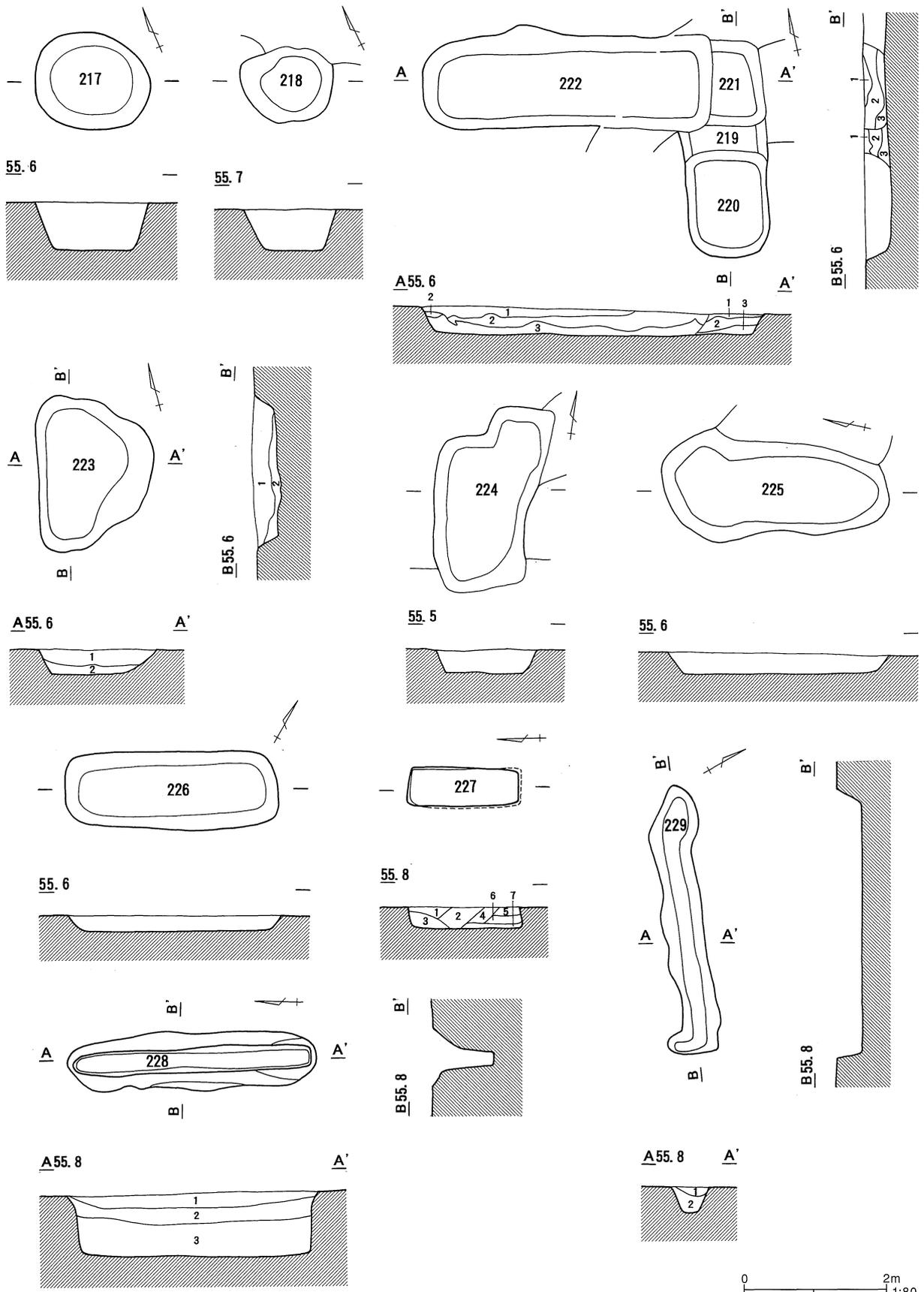


図 243 SK平面および断面 (11)

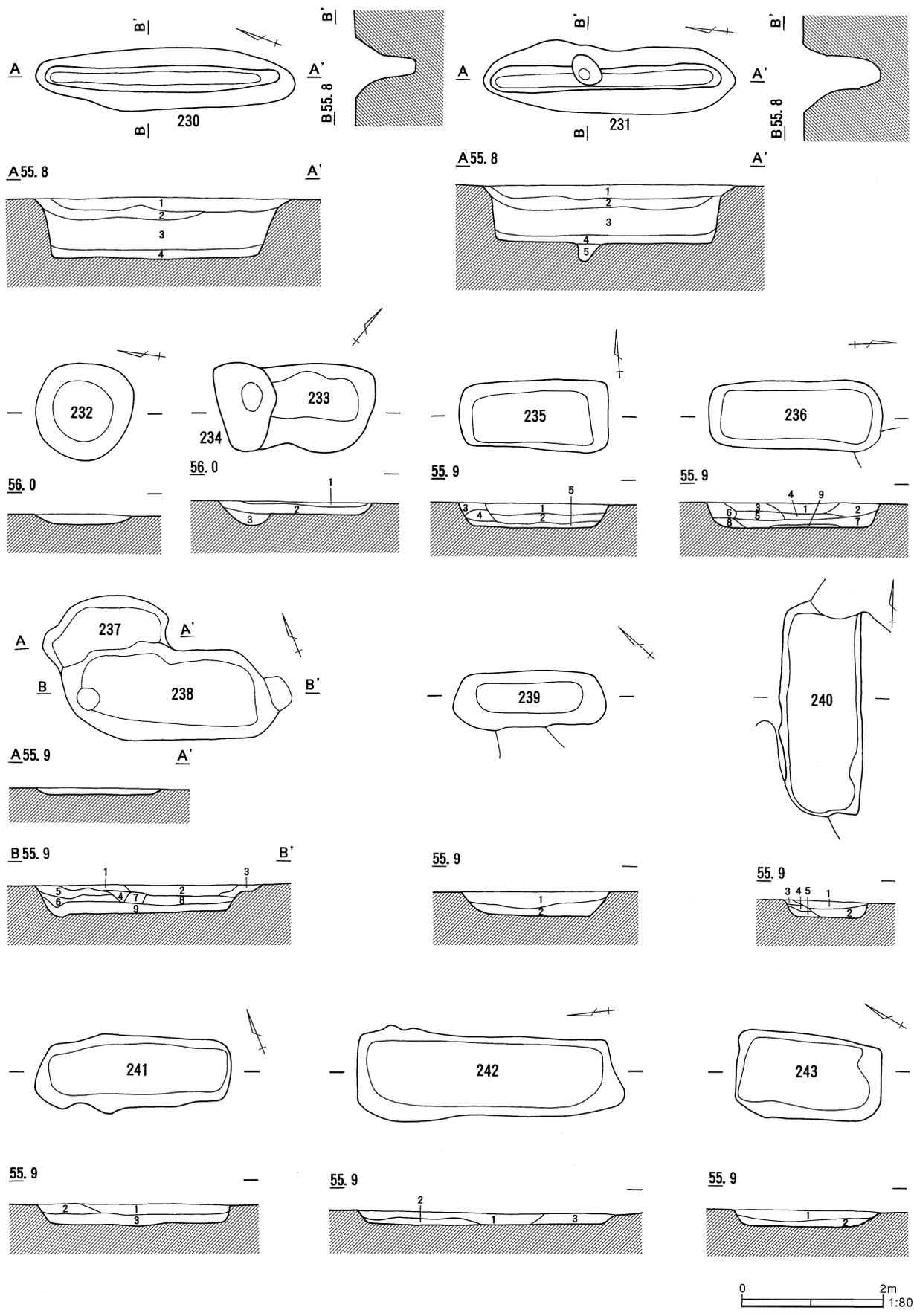


図 244 SK 平面および断面 (12)

SK-208	黒褐色土	ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。粘性欠。	SK-223	1 黒褐色土	ロームブロック (径1~50mm) を少量含む。粘性欠。
SK-209	黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。		2 黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-210	黒褐色土	ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。	SK-224	黒褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。粘性欠。
SK-211	黒色土	ロームブロック (径1~20mm) を少量含む。粘性欠。	SK-225	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-212	黒色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり欠。	SK-226	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
	暗褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。粘性やや強。	SK-227	1 黒灰褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-213	黒褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり欠。		2 黒灰褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-214	黒褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。		3 暗灰褐色土	ロームブロック (径1~25mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-215	黒灰褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。		4 暗灰褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-216	黒褐色土	ロームブロック (径1mm±)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり強。粘性欠。		5 暗灰褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-217	黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。		6 暗褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-218	黒褐色土	礫 (径10~80mm) を含む。しまり、粘性とも欠。		7 暗褐色土	ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-219	1 黒褐色土	ロームブロック (径1~20mm) 黒色土ブロック (径10mm±) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-228	1 黒色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
	2 黒色土	ロームブロック (径10mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。		2 黒色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	3 黒色土	ロームブロック (径1~30mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。		3 黒褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
SK-220	黒褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-229	1 黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
SK-221	1 黒褐色土	ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。		2 黒褐色土	ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
	2 黒褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。	SK-230	1 黒灰褐色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を多量に含む。しまり強。
	3 黒色土	ロームブロック (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。		2 暗褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む、黒色土ブロック (径5~10mm) を少量含む。
SK-222	1 黒褐色土	ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。		3 褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む、黒色土ブロック (径5~10mm) を少量含む。粘性強。
	2 黒褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。		4 黄褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。粘性強。
	3 暗黒褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。	SK-231	1 黒灰褐色土	ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を多量に含む。しまり強。
				2 暗褐色土	ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む、黒色土ブロック (径5~10mm) を少量含む。

3 褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径5～10mm）を少量含む。粘性強。粘性強。

4 暗褐色土 粘性強。

5 黄褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性強。

SK-232

黒色土 ロームブロック（径1～2mm）を少量含み、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。粘性欠。

SK-233・234

1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。[233覆土]

2 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。[233覆土]

3 黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）を多量に含み、白色パミス（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。[234覆土]

SK-235

1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。

2 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。

3 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

4 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

5 褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径5～10mm）を少量含む。粘性強。

SK-236

1 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。

2 黒色土 ロームブロック（径1～2mm）を少量含む。

3 黒色土 ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。

4 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、黒色土ブロック（径5～10mm）を多量に含む。

5 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、黒色土ブロック（径5～10mm）を多量に含む。

6 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径5～10mm）を少量含む。

7 褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。

8 暗褐色土 ロームブロック（径1～2mm）を多量に含む。

9 黒色土 ロームブロック（径1～2mm）、砂粒（径1～2mm）を少量含む。粘性欠。

SK-237

暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。

SK-238

1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～2mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

2 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

3 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

4 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性とも欠。

5 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径5～10mm）を少量含む。粘性とも欠。

6 暗黄褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径5～10mm）を少量含む。

7 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

8 黄褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり、粘性ともやや強。

9 黄褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、黒色土ブロック（径5～10mm）を少量含む。粘性やや強。

SK-239

1 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

2 暗褐色土 ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。

SK-240

1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

2 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

3 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

4 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性欠。

5 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を少量含む。

SK-241

1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

2 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性とも欠。

3 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み黒色土ブロック（径5～10mm）を少量含む。粘性やや強。

SK-242

1 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

2 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～25mm）を多量に含む。

3 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。粘性やや強。

SK-243

1 黒灰褐色土 白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり粘性とも欠。

2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-244

1 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

2 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

3 黒褐色土 ロームブロック（径1～15mm）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

4 黒褐色土 ロームブロック（径1～15mm）を多量に含む。粘性欠。

5 暗褐色土 ロームブロック（径1～15mm）を多量に含む。

6 暗褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。

7 暗褐色土 ロームブロック（径1～30mm）を多量に含む。

8 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～30mm）を多量に含む。粘性欠。

9 褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む粘性欠。

10 褐色土 ロームブロック（径1～30mm）を多量に含む。

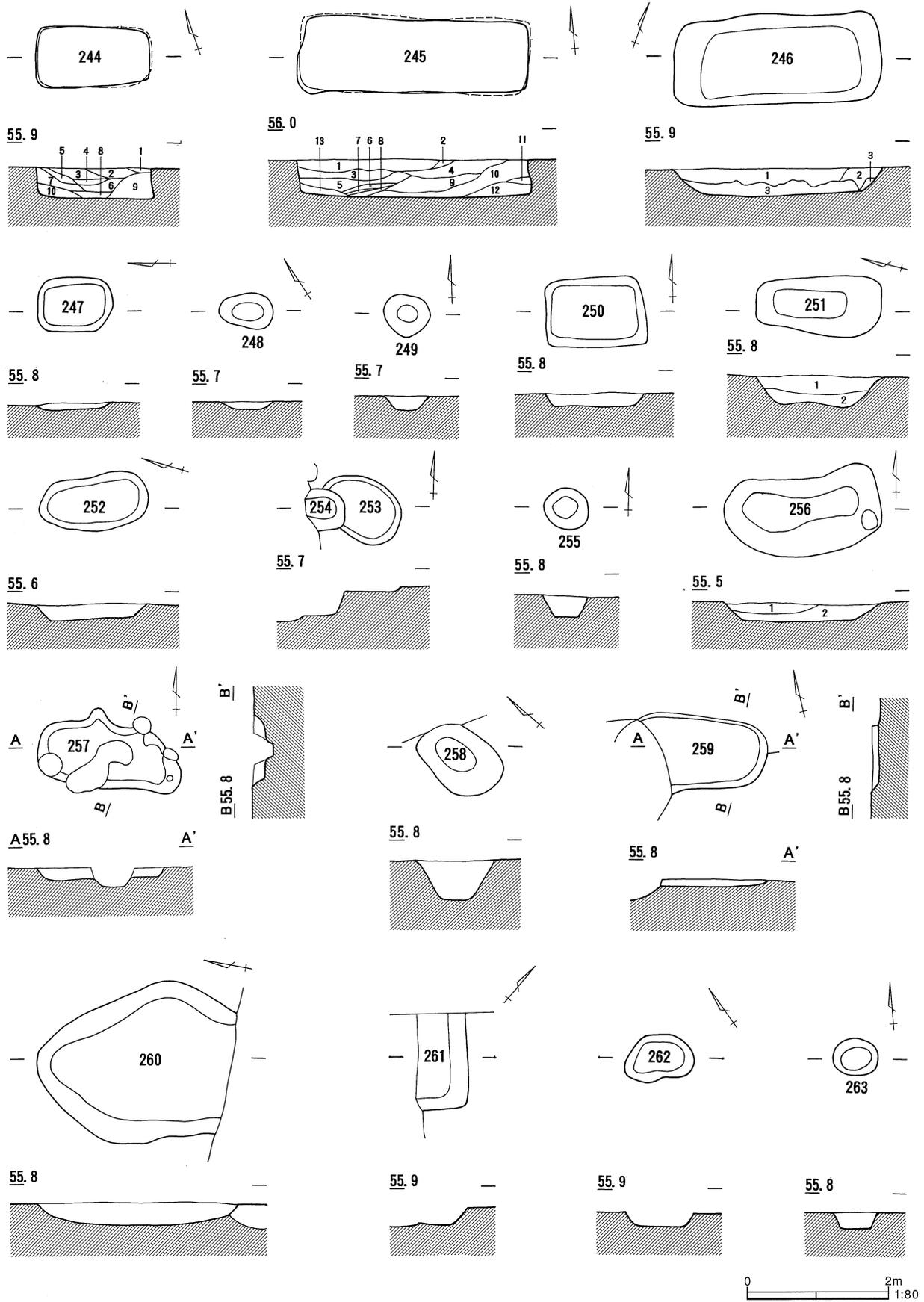


図 245 SK 平面および断面 (13)

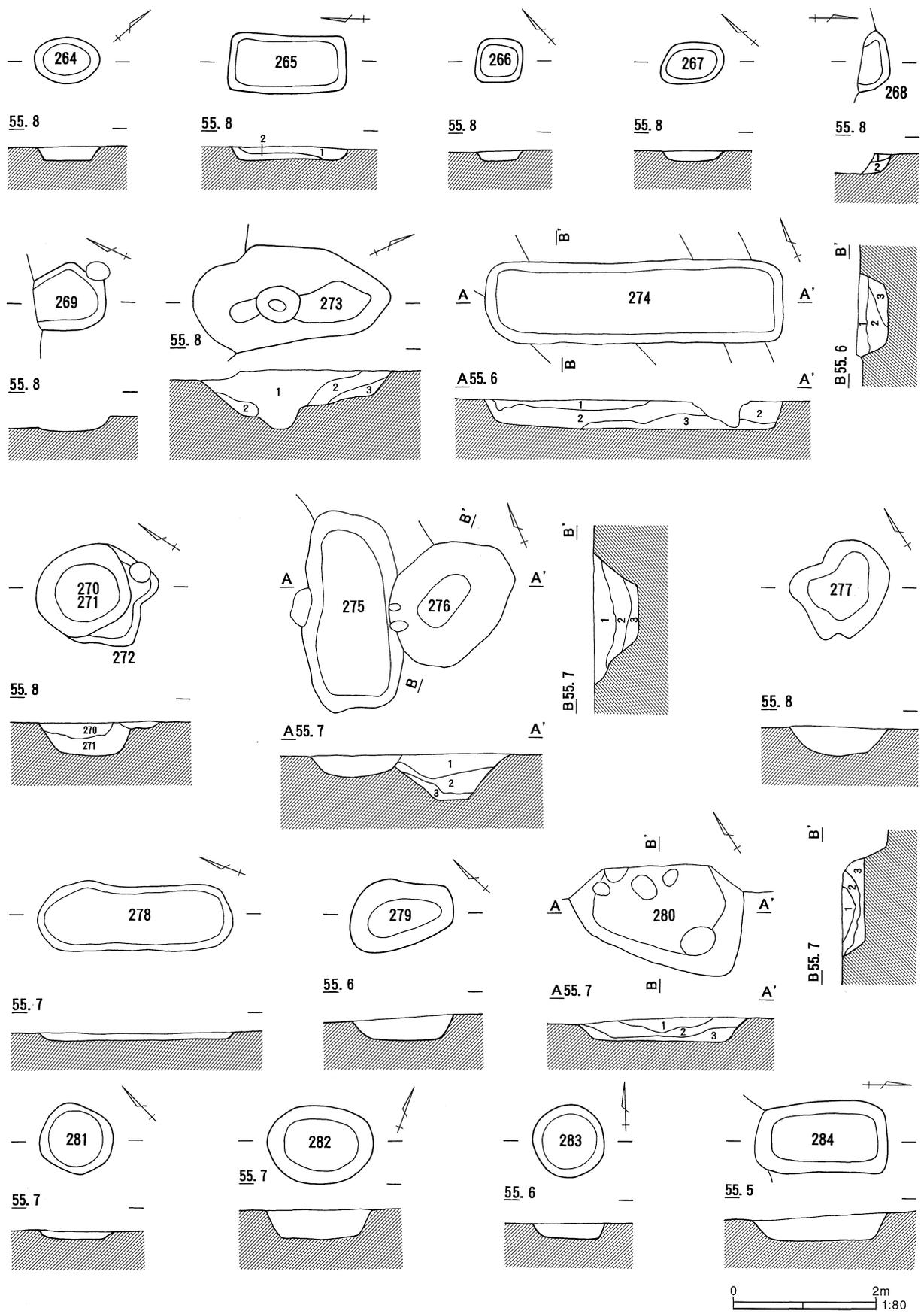


図 246 SK平面および断面 (14)

- SK-245
- 1 灰褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 3 灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を少量含む。
 - 5 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む粘性欠。
 - 6 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む
 - 7 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む
 - 8 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む
 - 9 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。
 - 10 黒色土 しまり欠。
 - 11 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む
 - 12 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり欠。
 - 13 黒色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり欠。
- SK-246
- 1 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。粘性欠。
 - 3 暗灰褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。
- SK-247
- 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-248
- 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-249
- 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-250
- 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり強。粘性欠。
- SK-251
- 1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) を少量含む。
 - 2 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-252
- 暗褐色土 ロームブロック (径1~50mm) を多量に含む、斑状に堆積する。しまりやや強。粘性欠。
- SK-255
- 1 黒色土 白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-256
- 1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。しまりやや強。粘性欠。
- SK-257
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、斑状に堆積する。しまり、粘性とも欠。
- SK-258
- 黒色土 白色パミス (径1mm±) を少量含む、ロームブロック少量含む。しまり強。粘性欠。
- SK-259
- 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を含む。しまりやや強粘性欠。
- SK-260
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~50mm) 多量に含む、斑状に堆積する。しまり強。粘性欠。
- SK-263
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-264
- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-265
- 1 黒色土 白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~50mm) を多量に含む、斑状に堆積する。しまり、粘性とも欠。
- SK-266
- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-267
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-268
- 1 黒色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-270
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-271
- 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-272
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~30mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまりやや強。粘性欠。
- SK-273
- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 黒褐色土 黒色土ブロック (径10mm±) を少量含む。しまりやや強。粘性欠。
 - 3 暗褐色土 黒色土ブロック (径10mm±) を少量含む。しまりやや強。粘性欠。

- SK-274
 1 黒褐色土 ロームブロック (径 20 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
 3 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 30 mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-275
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-276
 1 黒褐色土 ロームブロック (径 20 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
 3 褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 30 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-277
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-278
 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 30 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-279
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-280
 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 3 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 30 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-281
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 2 mm)、白色パミス (径 1 mm±) を少量含む。しまりやや強。粘性欠。
- SK-282
 暗褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) 黒色土ブロック (径 5 ~ 20 mm) を多量に含む。粘性欠。
- SK-283
 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 2 mm)、白色パミス (径 1 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-284
 暗褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 15 mm) を多量に含む。粘性欠。
- SK-287
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-288
 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 2 mm)、白色パミス (径 1 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-289
 黒色土 白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-290
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-292
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-293
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-296
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-297
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-298
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 10 mm) を多量に含み、白色パミス (径 1 mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-299
 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 2 mm)、白色パミス (径 1 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-301
 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 2 mm)、白色パミス (径 1 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-302
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-303
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 20 mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-306
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 2 mm) 白色粘質土ブロックを少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-307
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-308
 暗褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-309
 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 15 mm) を多量に含む。粘性欠。
- SK-310
 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 2 mm)、白色パミス (径 1 mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

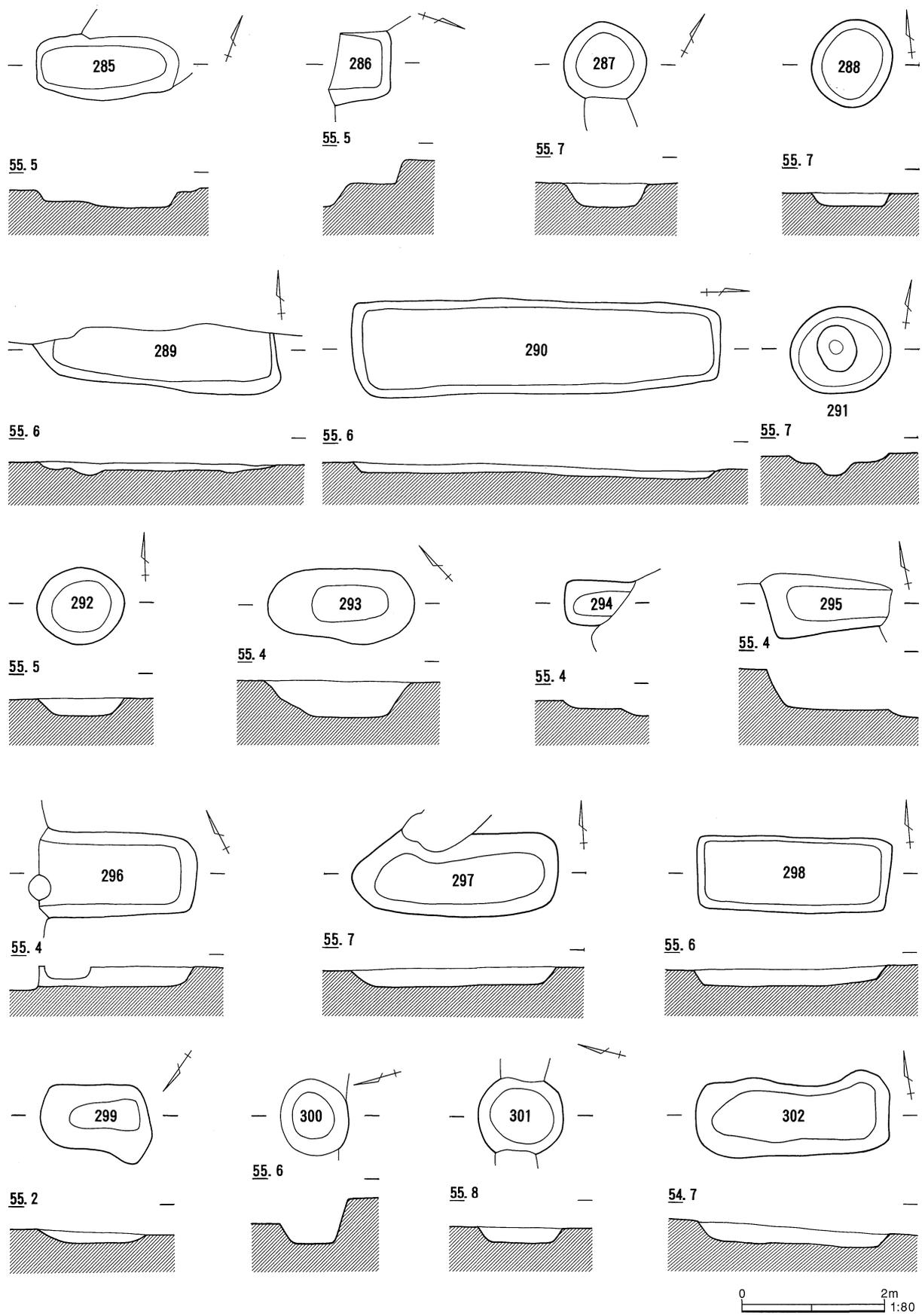


図 247 SK平面および断面 (15)

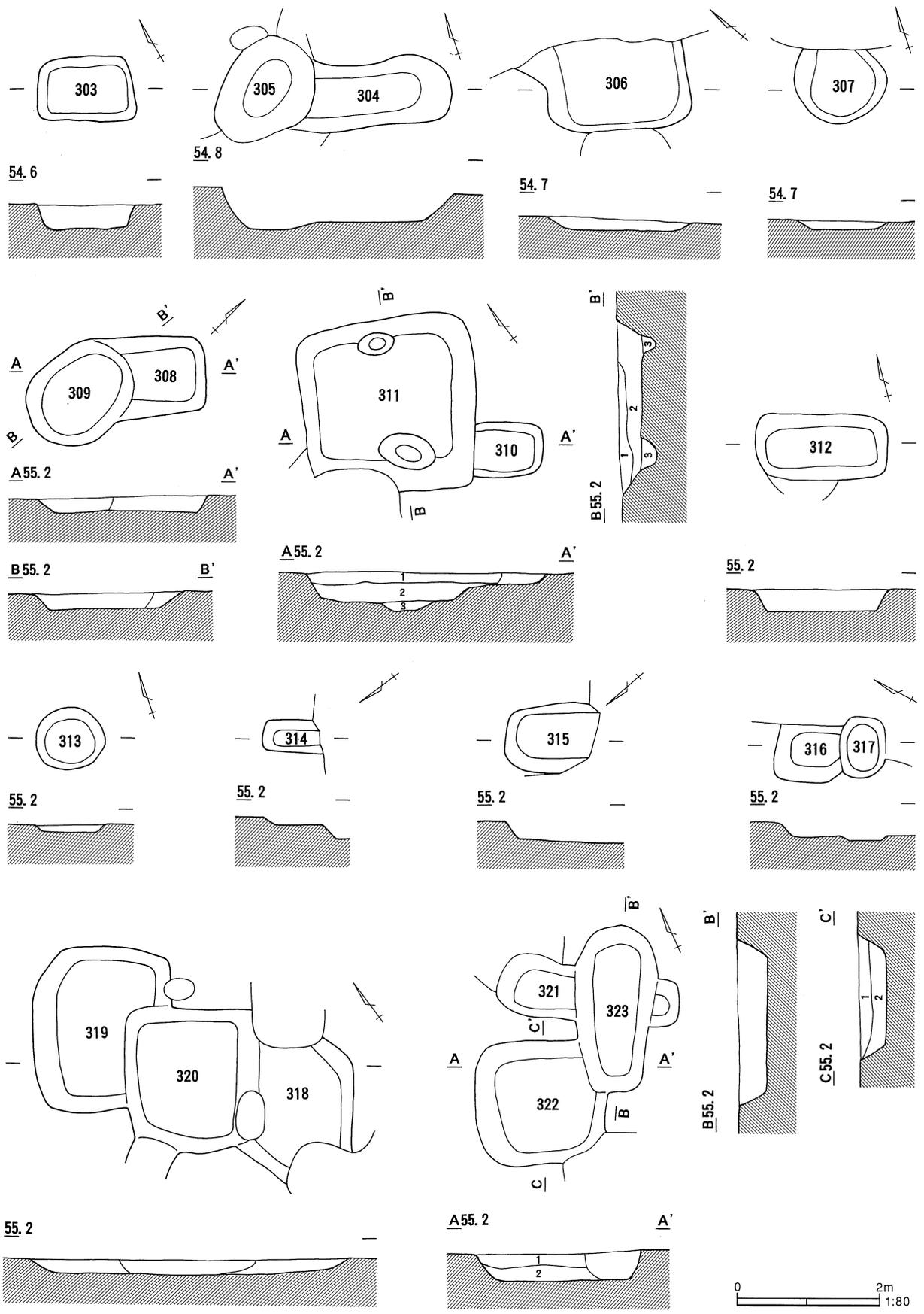


図 248 SK平面および断面 (16)

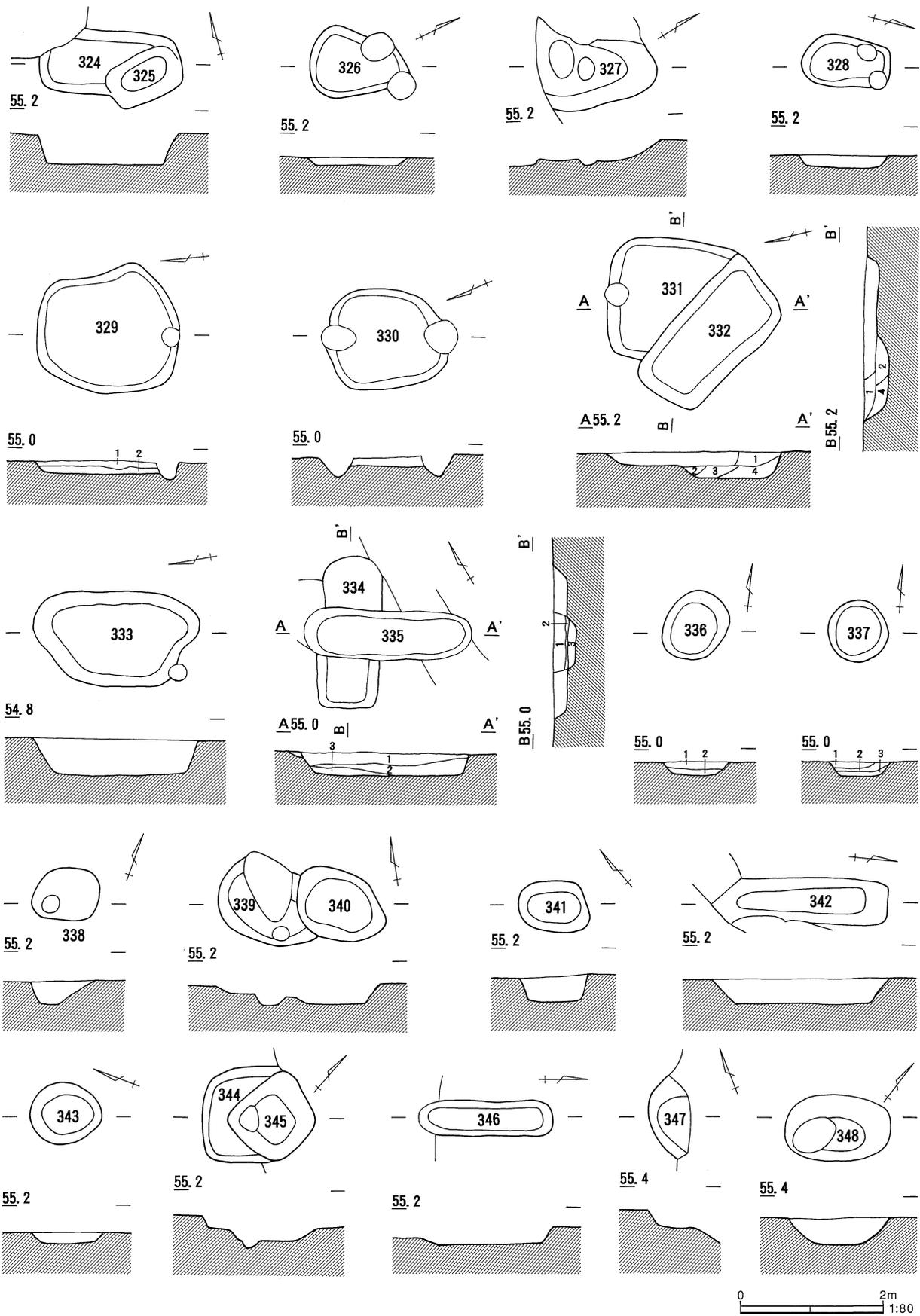


図 249 SK平面および断面 (17)

- SK-311
- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。粘性欠。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-312
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-313
- 暗褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-318
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-319
- 暗褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-320
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-321
- 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。粘性欠。
- SK-322
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-323
- 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-326
- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-328
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-329
- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-330
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-331
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、鈍い暗褐色土ブロック (径5~20mm) を多量に含む。しまり弱。
- SK-332
- 1 黒褐色土 鈍黄褐色土ブロック (径5~20mm) を多量に含む。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。しまり欠。粘性強。
- 3 褐色土 黒色土ブロック (径1~10mm) を少量含む。しまり欠。粘性強。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- SK-333
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-334
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-335
- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、鈍い暗褐色土ブロック (径5~20mm) を多量に含む。しまり弱。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) 多量に含む。
 - 3 黒色土 ロームブロック (径1~15mm) 多量に含む。粘性強い。
- SK-336
- 1 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 黒色土 ロームブロック (径1~10mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-337
- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 2 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
 - 3 黒色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含み、斑状に堆積する。しまり欠。
- SK-338
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-341
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-342
- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-343
- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-348
- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。粘性欠。しまり欠。

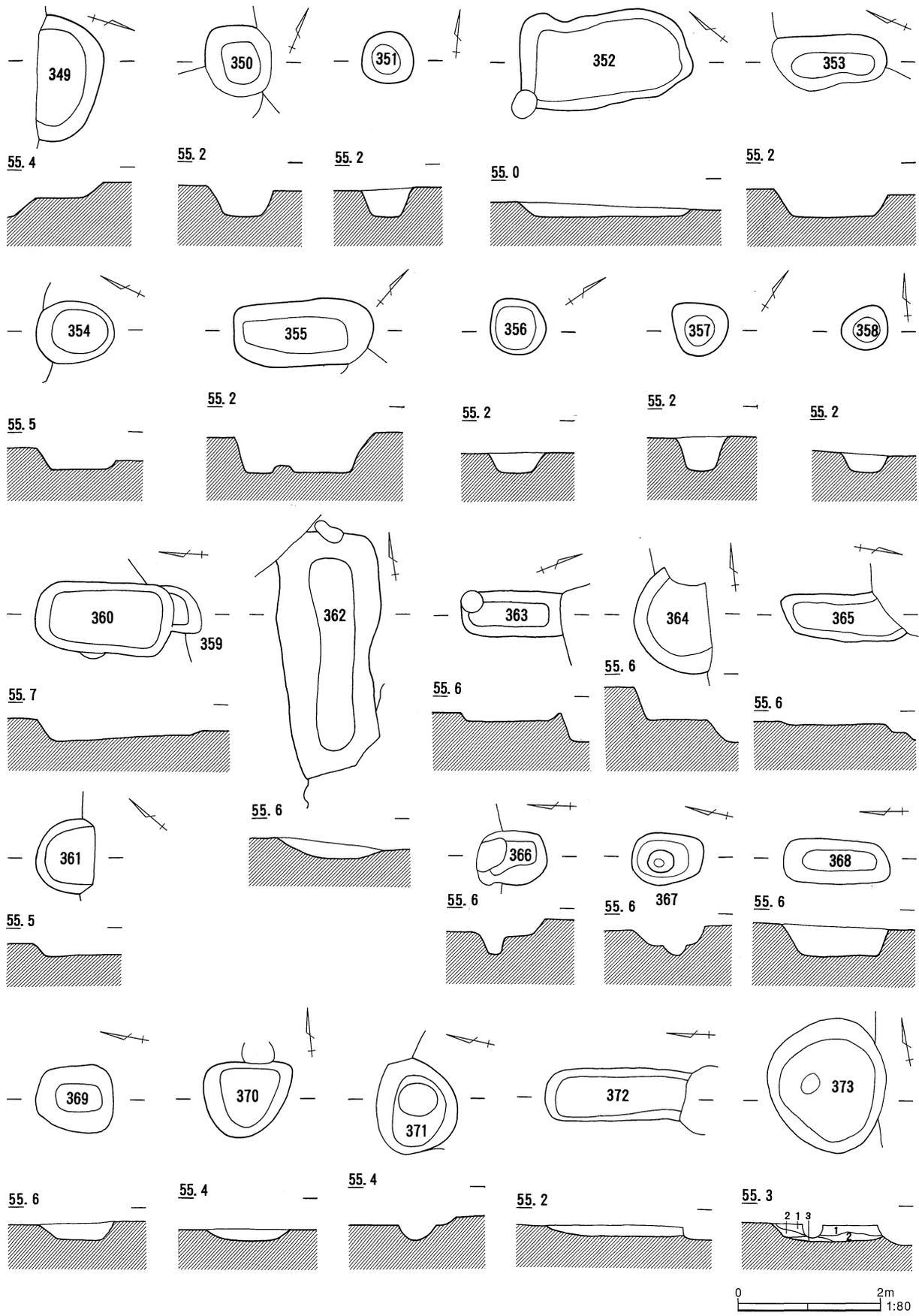


図 250 SK平面および断面 (18)

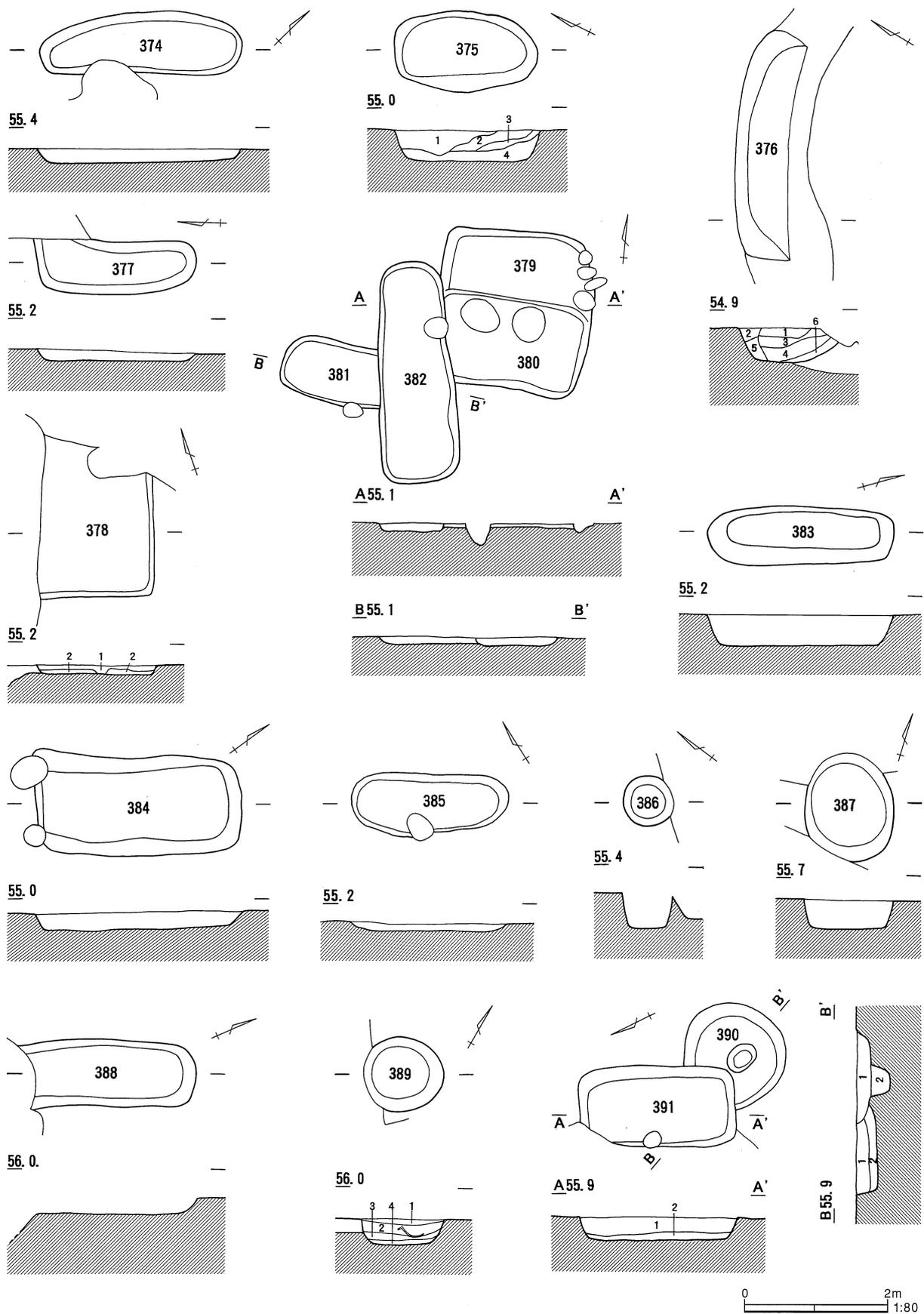


図 251 SK 平面および断面 (19)

- SK-351
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-352
黒色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-356
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-357
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-358
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-362
黒色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-368
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-369
黒色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-370
黒色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-372
黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり欠。
- SK-373
1 黒色土 白色パミス（径1mm以下）少量含む。しまり、粘性とも欠。
2 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）少量含む。しまり、粘性とも欠。
3 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、白色粘質土ブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり欠。
- SK-374
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-375
1 黒褐色土 灰黄褐色粘質土（径1～15mm）を多量に含み、斑状に堆積する。しまり、粘性とも強。
2 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。粘性欠。
3 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性欠。
- 4 鈍黄褐色土 灰黄褐色粘質土（径1～10mm）、黒色土ブロック（径1～20mm）を多量に含み、斑状に堆積する。しまり、粘性とも強。
- SK-376
1 黒色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）、暗灰黄色土ブロック（径5mm±）少量含む。しまり、粘性とも欠。
2 鈍黄褐色土 黒色土ブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり、粘性とも強。
3 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
4 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
5 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。
6 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）、灰黄褐色土ブロック（径1～10mm）を多量に含む。
- SK-377
黒色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-378
黒色土 ロームブロック（径1～5mm）少量含む。しまり、粘性とも欠。
灰黄褐色土 黒色土ブロック（径1～10mm）少量含む。しまり欠。
- SK-379
黒褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を少量含む。しまり欠。
- SK-380
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり欠。
- SK-381
黒褐色土 ロームブロック（径1～30mm）を少量含む。しまり欠。
- SK-382
黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、黒色土ブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり欠。
- SK-383
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-384
黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）多量に含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-385
黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）少量含む。しまり、粘性とも欠。
- SK-387
黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm以下）を少量含む。しまり、粘性とも欠。

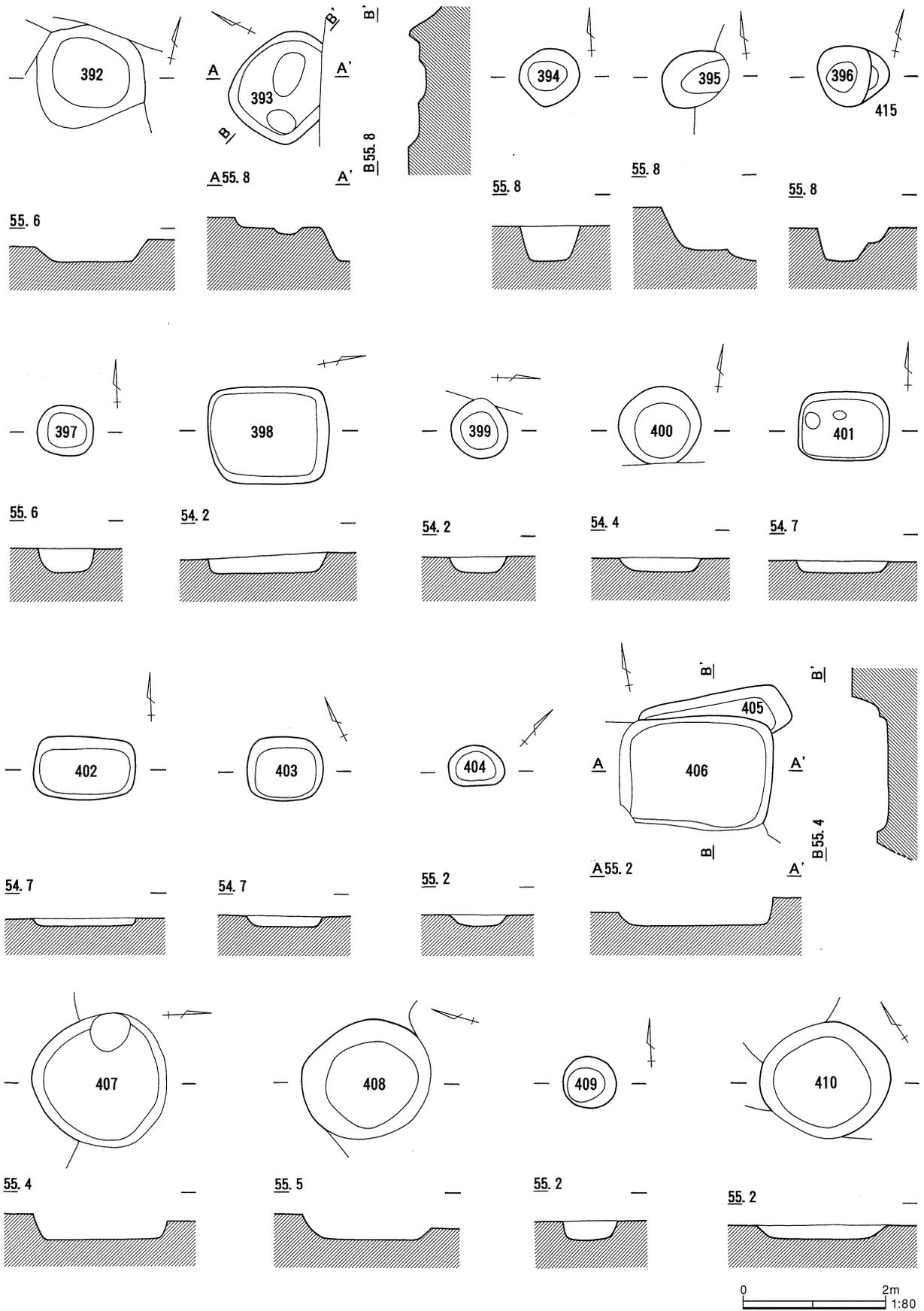


図 252 SK平面および断面 (20)

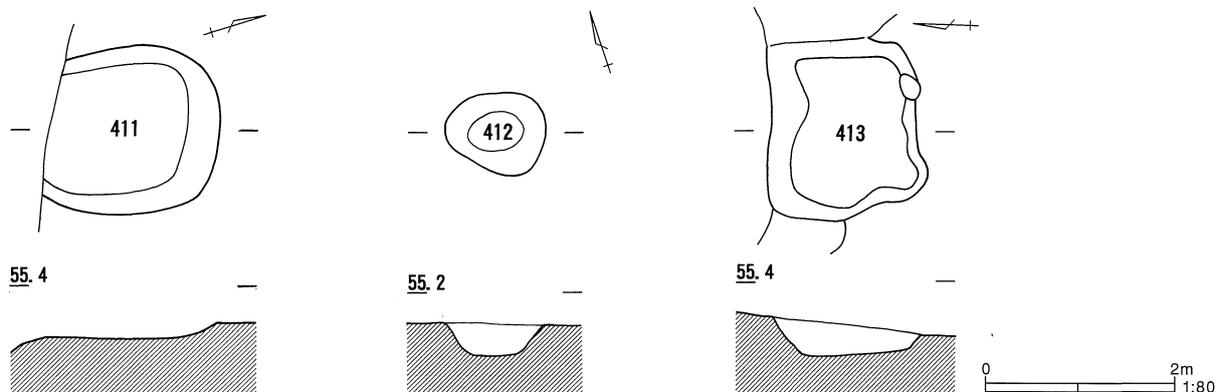


図 253 SK平面および断面 (21)

SK-389

- 1 暗褐色土 耕作土。しまり欠。
- 2 黒褐色土 しまり、粘性とも欠。
- 3 黒色土 粘性欠。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~3mm) を少量含む。粘性欠。

SK-390

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。しまり、粘性とも欠。

SK-391

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~3mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-394

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-397

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-398

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-399

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-400

- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-401

- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-402

- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-403

- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-404

- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-409

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-410

- 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-412

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-413

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含み、白色パミス (径1mm以下) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

SK-414

- 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。しまり、粘性とも欠。

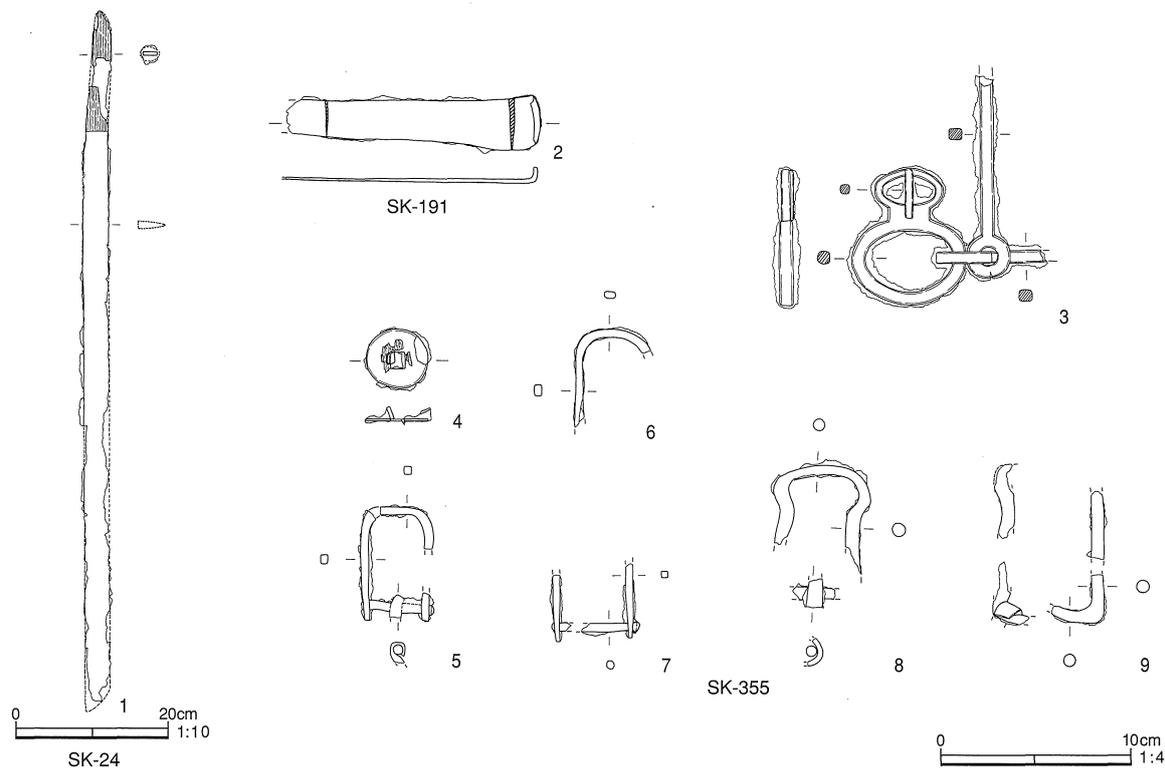


図 254 SK出土鉄刀・鉄鎌・鏡板付轡・鉸具・鞍

SK 出土鉄刀・鉄鎌・鏡板付轡・鉸具・鞍観察表

No.	種 類	法 量・(単位cm)	備 考
1	鉄 刀	残存全長90.8 刃部残長75.0 茎部残長15.8 刃部幅3.5 茎部幅1.9 重さ822.6g 錆による劣化が著しい。切先は不明で、刃部も大半が失われている。関形状も不明瞭。茎部に断面楕円形の木質が残存する。	
2	鉄 鎌	残存長13.4 最大幅2.9 厚さ0.1~0.3 重さ43.28g	直刃鎌。
3	鏡板付轡	鏡板長軸6.1 幅7.4 立開長軸3.3 引手残長10.7 重さ108.67g 鉸具造りの立開を持つ環状鏡板。銜先環に鏡板の環と引手端環を共に連結している。	
4	鞍	径3.2 方形孔径0.8 厚さ0.1 重さ7.78g 鞍の座金具。	
5	鉸 具	幅3.8 重さ11.47g	
6	鉸 具	残長5.1 重さ6.17g	
7	鉸 具	残長4.0 重さ7.43g	
8	鉸 具	上部幅5.1 重さ17.37g	
9	鉸 具	重さ16.59g 小片4点を図上復元したもので詳細不明。	

SK-376 出土土器観察表

No.	器 種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備 考
1	土 師 器 罎	口径 — 底径 — 器高 —	体部は上~中位に膨らみを持つ。	外面-体部ミガキ。内面-頸部ナデ、体部ミガキ。	黒色粒・白色粒 内外-明褐色	体部片。
2	土 師 器 壺	口径 15.4 底径 — 器高 —	胴部は中位に大きな膨らみを持つ。口縁部は外反して開き、端部は短く外折する。	外面-口縁部ヨコナデ後下位ナデ、胴部ハラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ後下位ハケ目・ナデ、胴部ハラナデ。	黒色粒・白色粒 内外-赤褐色	口縁部~胴部 1/2残存。
3	土 師 器 壺	口径 19.8 底径 8.2 器高 34.0	胴部は中位に大きな膨らみを持つ。口縁部は強く外反して開き、端部はわずかに内湾する。中位に段を有す。底部は台状。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ後、上~中位ナデ、底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、胴部~底部ナデ。	雲母・白色粒 内-にぶい赤褐色 外-明赤褐色・ 褐灰色	胴部下位1/5欠 損。 外面黒斑。

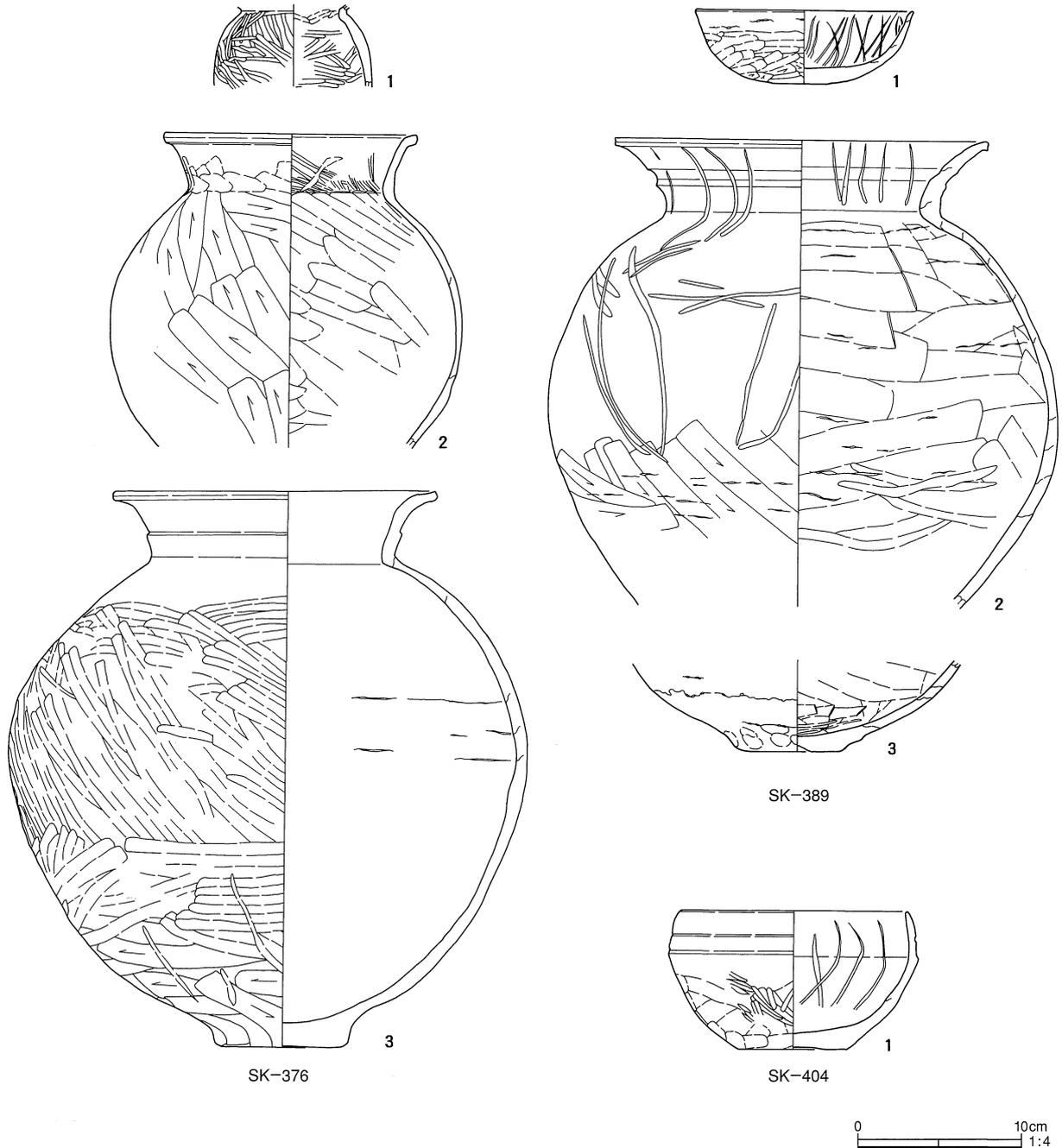


図 255 SK-376・389・404 出土土器

SK-389 出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 罎	口径 (13.3) 底径 — 器高 4.5	体部は丸みを持って立ち上がり、短い外反気味の口縁部に至る。底部は丸底気味。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、上~中位ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部~底部縦位ミガキ。	雲母・チャート 内-赤褐色 外-明赤褐色	2/3残存。
2	土師器 壺	口径 22.7 底径 — 器高 —	胴部は中位に大きな膨らみを持つ。口縁部は中位に段を有し、外反して開く。口唇部にナデによる凹線が1条廻る。	外面-口縁部縦位ミガキ、胴部中~上位ナデ後ミガキ、下位ヘラケズリ。内面-口縁部縦位ミガキ、胴部ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外-明赤褐色	口縁部~胴部 2/3残存。
3	土師器 壺	口径 — 底径 6.5 器高 —	胴部は丸みを持って立ち上がり始める。底部は台状で上げ底。	外面-胴部下位~底部ナデ、胴部下端指押え。内面-胴部下位~底部ヘラナデおよび指ナデ。	雲母・白色粒 内-にぶい黄褐色 外-橙色	胴部下位~底部 残存。

SK-404出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 13.8 底径 6.5 器高 8.5	体部はわずかに丸みを持って立ち上がる。口縁部は内傾し、体部との境に弱い稜を持つ。口縁部中位にヘラナデによる弱い凹線が廻る。底部は上げ底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ。体部中位にケズリの痕跡が残る。内面一口縁部～底部縦位ミガキ。	雲母・黒色粒 白色粒 内外赤褐色	4/5残存。

SK-207 出土銅製錫杖頭・金銅製袈裟金具・数珠・銅銭観察表

No.	器種	調整手法の特徴	備考
1	銅製錫杖頭	全長17.9 錫杖部15.1 柄部2.8 重さ131.43g 輪：幅5.5 高さ 5.2 遊環：径4.8 幅0.3厚さ0.2 手錫杖。輪は?文形で、断面は不整形な菱形である。頂部は五輪塔を表し、地輪部の表裏面には「×」印が彫り込まれている。左右に3連一對の遊環が付けられている。柄は断面八角形を呈し、下半には目釘穴が貫通している。表面は2段の線刻により区画され、稜を中心に蓮華文が刻まれている。木製の杖部が一部残存する。	
2	金銅製袈裟金具	径3.9 総高1.4 重さ9.56g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。台座・鋳一部欠損。	
3	金銅製袈裟金具	径3.9 総高1.3 重さ7.16g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。上部・台座・鋳一部欠損。	
4	金銅製袈裟金具	径3.85 総高1.3 重さ7.39g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。台座・鋳一部欠損。	
5	金銅製袈裟金具	径3.9 総高1.3 重さ5.79g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。台座2/5・鋳一部欠損。	
6	金銅製袈裟金具	径3.85 総高1.8 重さ7.00g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。台座2/5・鋳一部欠損。	
7	数珠	木製 径0.80 幅0.45 重さ0.14g	
8	数珠	木製 径0.82 幅0.50 重さ0.19g	
9	数珠	木製 径0.82 幅0.45 重さ0.13g	
10	数珠	木製 径0.85 幅0.50 重さ0.15g	
11	数珠	木製 径0.80 幅0.45 重さ0.11g	
12	数珠	木製 径0.85 幅0.45 重さ0.14g	
13	数珠	木製 径0.78 幅0.40 重さ0.10g	
14	数珠	木製 径0.85 幅0.45 重さ0.15g	
15	数珠	木製 径0.75 幅0.42 重さ0.09g	
16	数珠	木製 径0.81 幅0.50 重さ0.14g	
17	数珠	木製 径0.75 幅0.35 重さ0.08g	
18	数珠	木製 径0.83 幅0.43 重さ0.12g	
19	数珠	木製 径0.80 幅0.45 重さ0.08g	
20	数珠	木製 径0.83 幅0.50 重さ0.17g	
21	数珠	木製 径0.80 幅0.25 重さ0.10g	
22	数珠	木製 径0.81 幅0.45 重さ0.12g	
23	数珠	木製 径0.80 幅0.42 重さ0.11g	
24	数珠	木製 径0.85 幅0.50 重さ0.16g	
25	数珠	木製 径0.70 幅0.40 重さ0.07g	
26	数珠	木製 径0.83 幅0.49 重さ0.16g	
27	数珠	木製 径0.80 幅0.50 重さ0.14g	
28	数珠	木製 径0.80 幅0.45 重さ0.11g	
29	数珠	木製 径0.85 幅0.48 重さ0.13g	
30	数珠	木製 径0.85 幅0.47 重さ0.17g	
31	数珠	ガラス製 径0.78 幅0.66 重さ0.65g	
32	数珠	ガラス製 径0.84 幅0.70 重さ0.74g	
33	数珠	ガラス製 径0.73 幅0.61 重さ0.60g	
34	数珠	ガラス製 径0.72 幅0.60 重さ0.56g	
35	数珠	ガラス製 径0.70 幅0.55 重さ0.47g	
36	数珠	ガラス製 径0.59 幅0.40 重さ0.23g	
37	数珠	貝製 径1.10 幅1.00 重さ1.50g	
38	数珠	ガラス製 径0.69 幅0.55 重さ0.34g	

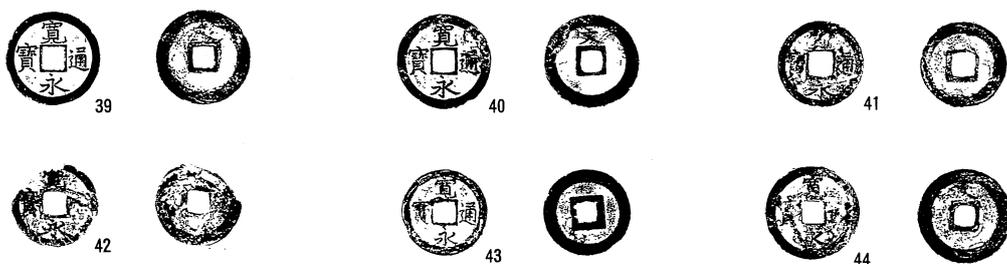
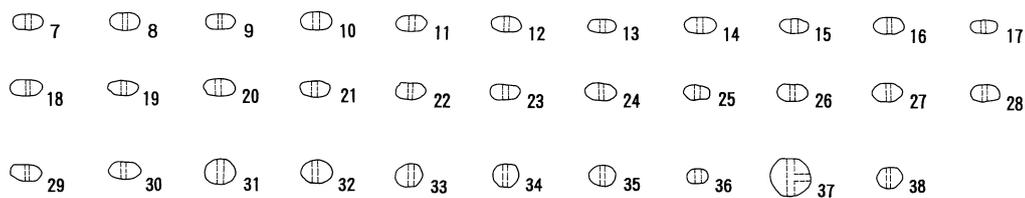
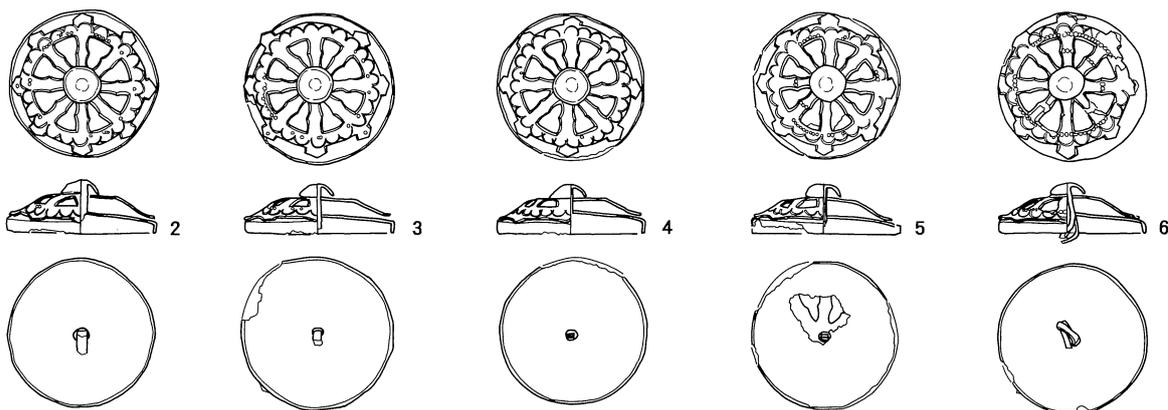
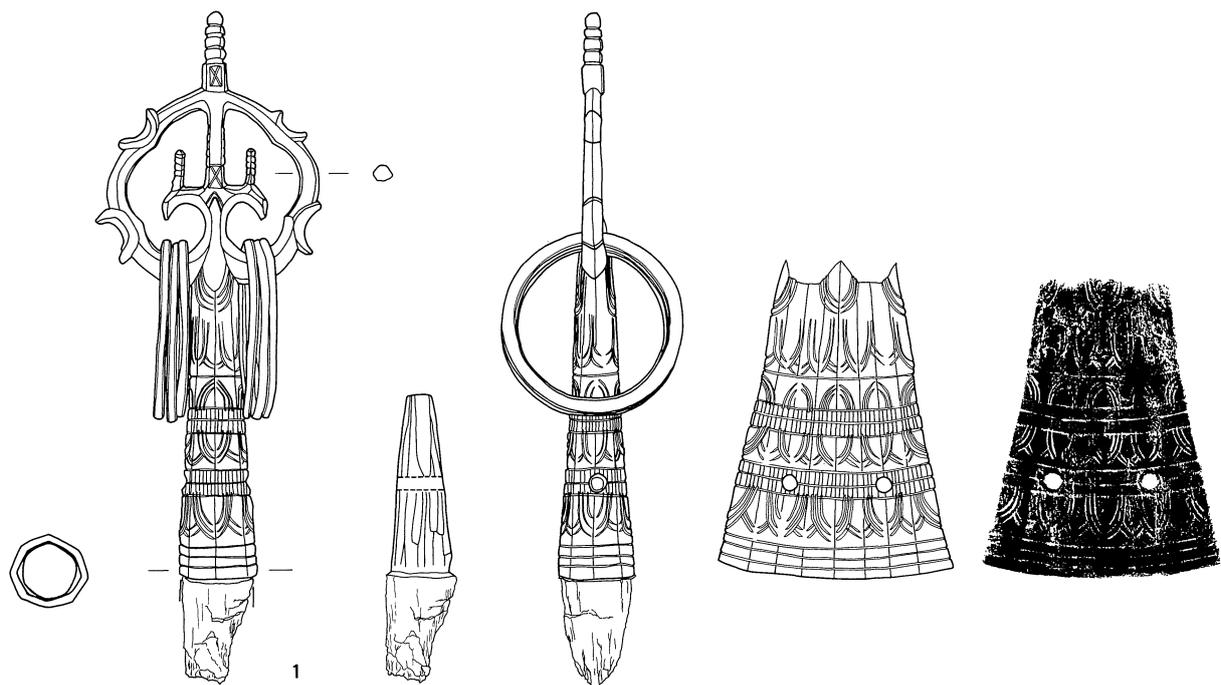


图256 SK-207出土銅製錫杖頭·金銅製袈裟金具·銅錢·數珠

No.	器種	法量 (cm) ・ 特徴	備考
39	古 銭	外径2.5 孔径0.6 厚さ0.12 重さ2.13g	寛永通宝。背文「文」
40	古 銭	外径2.5 孔径0.6 厚さ0.12 重さ2.91g	寛永通宝。背文「文」
41	古 銭	外径2.3 孔径0.6 厚さ0.10 重さ2.42g	寛永通宝
42	古 銭	外径2.3 孔径0.6 厚さ0.10 重さ2.13g	寛永通宝
43	古 銭	外径2.3 孔径0.6 厚さ0.13 重さ2.64g	寛永通宝
44	古 銭	外径2.5 孔径0.6 厚さ0.12 重さ3.70g	寛永通宝。背文「文」

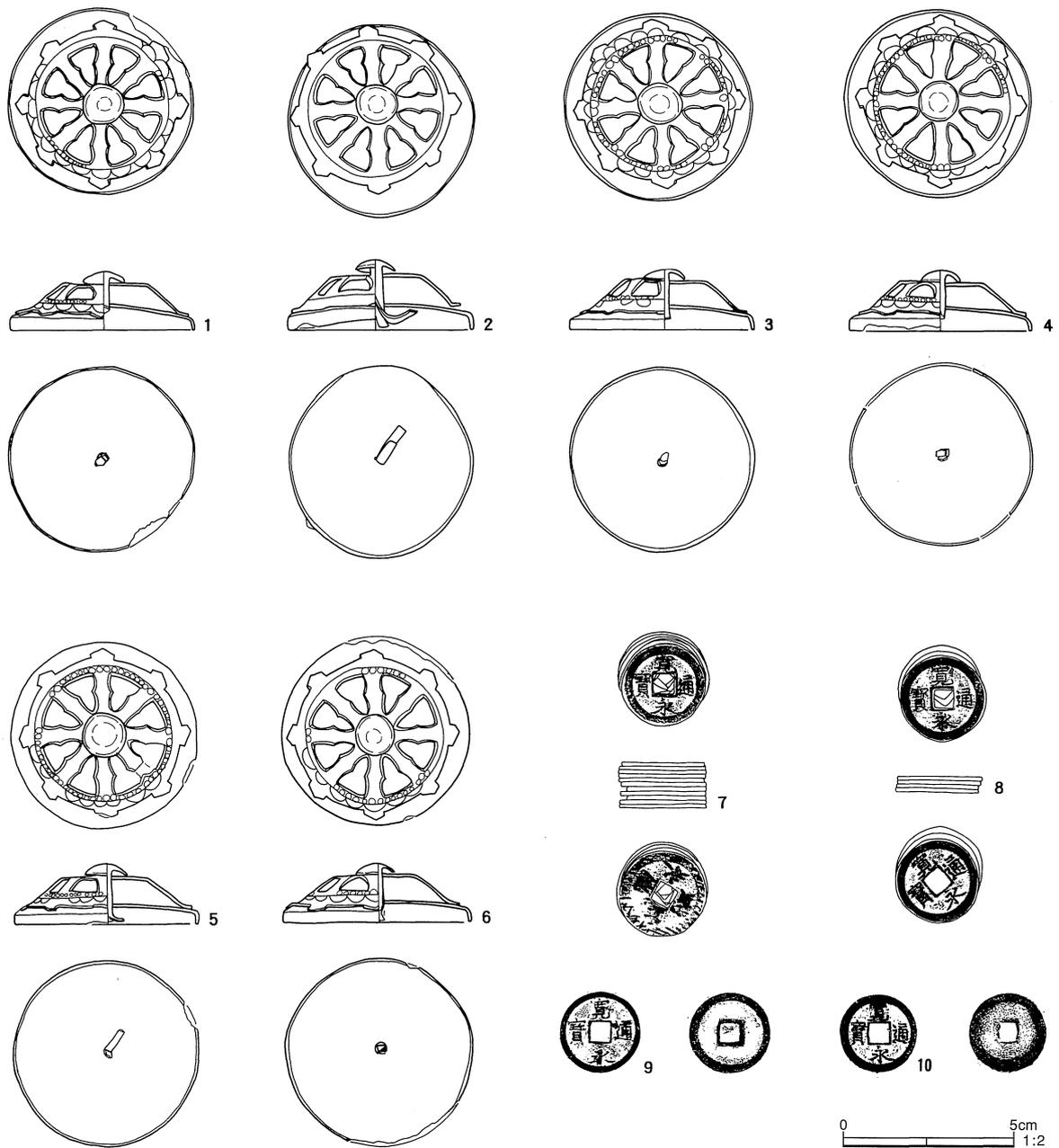


図257 SK-209出土金銅製袈裟金具・銅銭

SK-209出土金銅製袈裟金具・銅銭観察表

No.	器種	法量 (cm) ・ 特徴	備考
1	金銅製袈裟金具	径5.4 総高1.7 重さ16.78g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。台座・鋳一部欠損。	
2	金銅製袈裟金具	径5.5 総高2.1 重さ17.84g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。表面磨滅。台座一部欠損。	
3	金銅製袈裟金具	径5.5 総高1.7 重さ19.55g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。台座・鋳一部欠損。	
4	金銅製袈裟金具	径5.4 総高1.8 重さ16.90g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。上部・台座一部欠損。	
5	金銅製袈裟金具	径5.5 総高1.8 重さ16.64g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。上部・台座・鋳一部欠損。	
6	金銅製袈裟金具	径5.5 総高1.7 重さ15.78g 輪宝状の飾り金具の頂部を平坦にし、台座を重ねて、頭部半球状の鋳で留めている。表面に渡金の痕跡。台座・鋳一部欠損。	
7	古銭 (11枚)	外径2.4 孔径0.6 繊維付着 総厚1.35 総重量36.24g	寛永通宝。(古寛永)
8	古銭 (4枚)	外径2.5 孔径0.6 総厚0.40 総重量13.00g	寛永通宝。
9	古銭	外径2.4 孔径0.6 厚さ0.10 重さ2.50g	寛永通宝。
10	古銭	外径2.3 孔径0.6 厚さ0.10 重さ2.99g	寛永通宝。



SK-208



SK-215



SK-216



SK-218



図258 SK-208・215・216・218 出土土器

SK-208・215・216・218出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
208	かわらけ	口径 9.5 底径 6.0 器高 2.2	体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部ははわずかに肥厚するロクロ成形。	外面一回転ナデ。 底部一回転糸切り、無調整。	黒色粒・チャート 内外一にぶい橙褐色	完形。
215	鉄釉陶器 猪口	口径 8.4 底径 4.0 器高 3.8	体部は外側に膨らんで立ち上がり、椀状を呈する。口縁部は丸みを持って取められる。底部に高台が付く。ロクロ成形。	体部一回転ナデ。	黒色粒 施釉部一暗褐色 素地部一明黄灰色。	完形。
216	灰釉陶器 皿	口径 11.8 底径 5.7 器高 2.9	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。底部に高台が付く。ロクロ成形。	体部一回転ナデ。	黒色粒 内外一にぶい橙褐色	完形。
218	かわらけ	口径 9.5 底径 5.8 器高 2.4	体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部ははわずかに肥厚するロクロ成形。	体部一回転ナデ。 底部一回転糸切り、無調整。	黒色粒・チャート 内外一にぶい橙褐色	完形。

7 溝

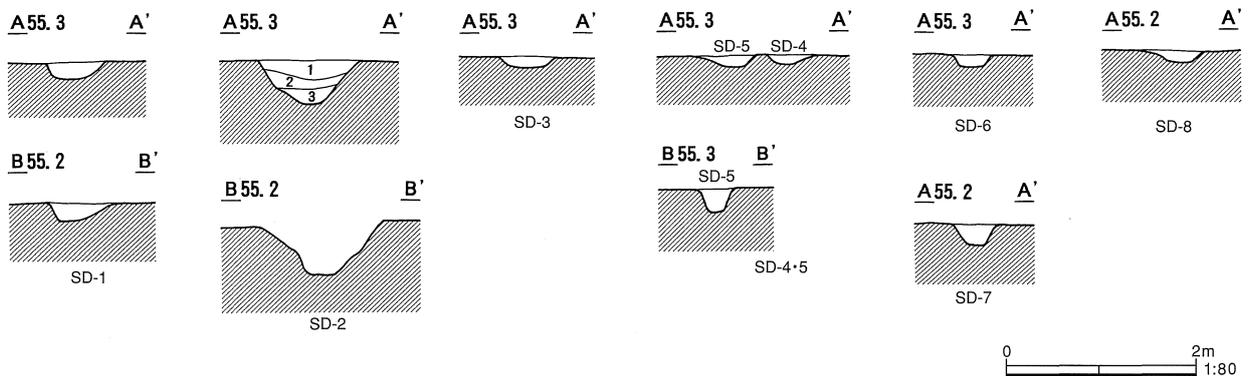
溝は総計49条を確認した。調査区のうちで特定の箇所に集中する傾向はない。一定の範囲を方形に囲繞したり、直交するなど、区画・防衛的機能を推測できる溝はなく、多くが耕作に伴う排水路や耕作地の境界に掘削された溝と考えられる（付図）。遺物は自然流入と考えられる埴輪や土師器の小片のみで、また遺物をまったく伴わない溝も多く、積極的に所属時期を示す資料は得られていない。覆土中に白色のパミスの含有が目立つ溝もあることから、近世以降に降下すると推定される溝も多い。なお、上記の人工的な溝以外に1Y-22から2C-21にかけて蛇行しながら走行する大溝を1条検出している。埋没自然河川であるが、内部からは多量の遺物が出土している。

SD-1

1D-4から1B-4グリッドにかけて位置する。断面は台形を呈し、覆土はロームブロックを少量含む暗灰褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-2

1C-5グリッドから西に延び、1E-6グリッドで南に湾曲して1E-7グリッドに至る。覆土は3層に分割され下層にロームブロックを少量含む黒褐色土、中層にロームブロックを少量含む極暗褐色土、上層にロームブロックを少量含む暗褐色土の堆積を認める。遺物は縄文土器・埴輪・土師器の小片を出土している。



SD-1

暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。

SD-2

- 1 暗褐色土 ロームブロック（径1～3mm）を少量含む。粘性欠。
- 2 極暗褐色土 ロームブロック（径1～3mm）を少量含む。粘性弱。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。

SD-3

黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

SD-4

黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

SD-5

黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

SD-6

黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

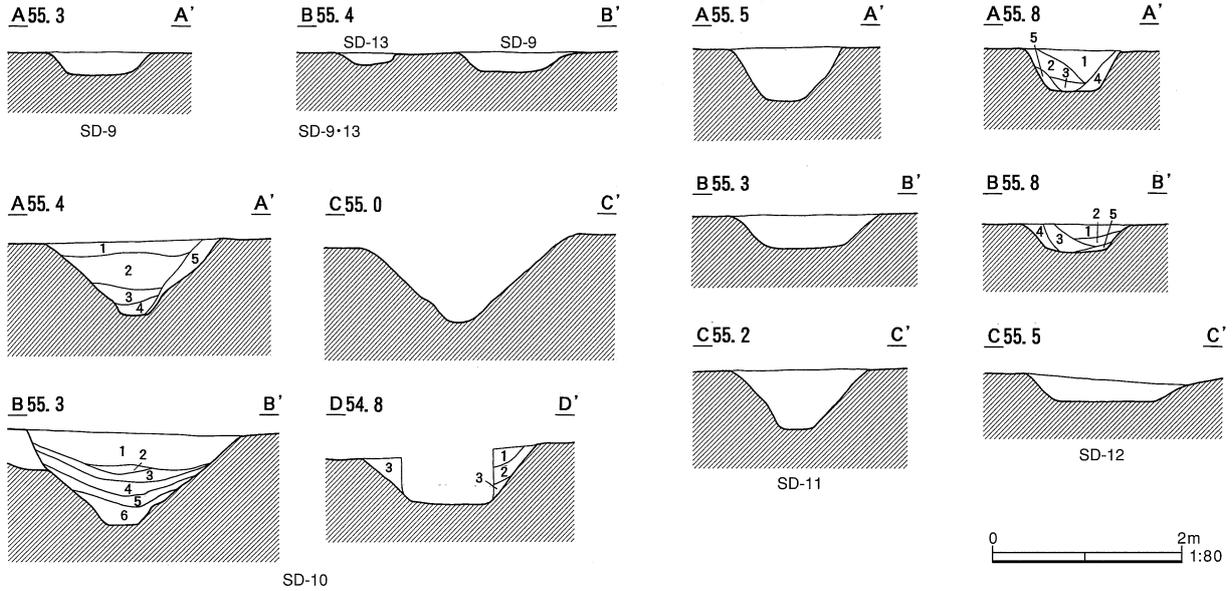
SD-7

黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

SD-8

黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

図 259 SD断面 (1)



SD-9

暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、礫（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。

SD-13

黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

SD-10

[A-A']

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。
- 3 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性強。
- 5 黄褐色土 風化ロームの堆積層。粘性やや強。しまり弱。

[B-B']

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む、炭化物ブロック（径1～2mm）を多量に含む。しまり弱。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。
- 4 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。
- 5 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。しまり弱。
- 6 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性強。

[D-D']

- 1 鈍黄褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。粘

性やや強。しまりやや強。

黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）及び黄灰色粘質土ブロック（径5～20mm）を多量に含む。粘性、しまりとも欠。

暗褐色土 ロームブロック（径1±mm）を少量含む。やや砂質。粘性欠。しまりやや強。

SD-11

暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、礫（径1～5mm）、炭化物ブロック（径1～10mm）、木灰を少量含む。粘性弱。

SD-12

[A-A']

- 黒色土
- 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。
- 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり弱。
- 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。
- 暗黄褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。粘性やや強。

[B-B']

- 黒灰褐色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。
- 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。しまり弱。
- 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。
- 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。
- 黄褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。粘性やや強。

図 260 SD断面 (2)

SD-3

1D-4 グリッドに位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-4

1E-4 から 1E-5 グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-5

1E-3 から 1E-5 グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-6

1E-4 グリッドでSD-5 から派生して南西へ延び、1F-5 グリッドに到る。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-7

1E-5 グリッドに位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-8

1E-5 から 1E-6 グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-9

1I-4 グリッドでSD-10 から派生して南東へ延び、1F-5 グリッドに到る。掘り込みが浅いのに比べ、底面が広い。覆土はロームブロック、礫を少量含む暗灰褐色土の堆積を認める。遺物は縄文土器・埴輪の小片を出土している。

SD-10

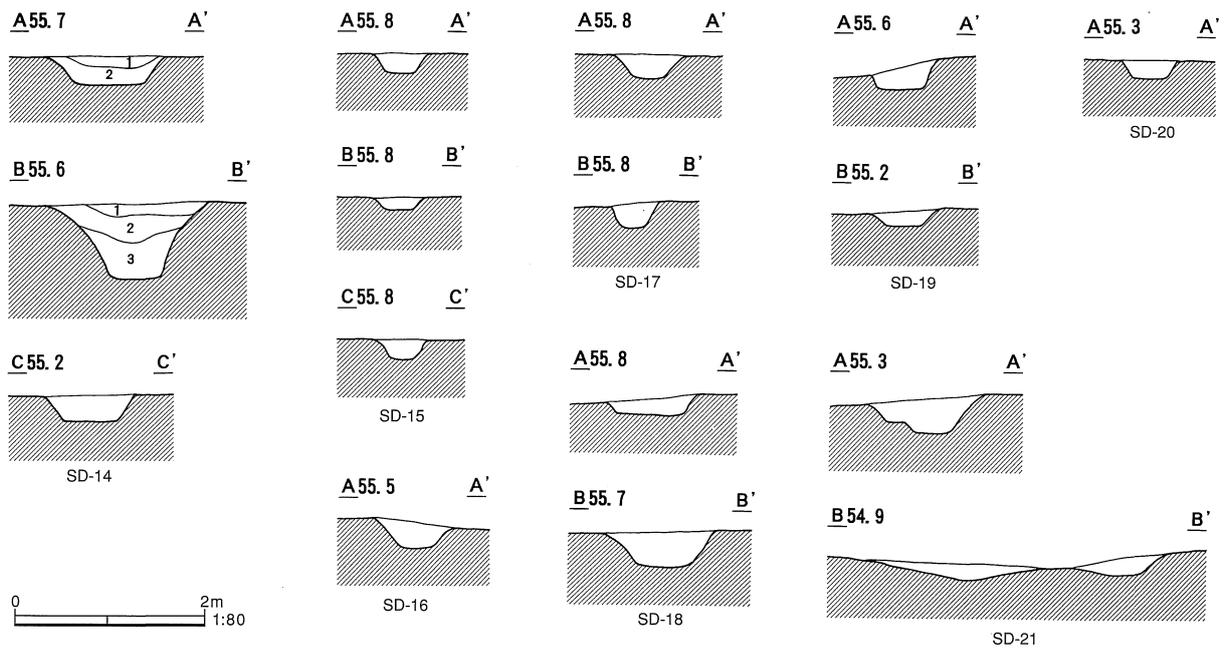
1I-2 グリッドから南へ直線的に延び、1G-12 グリッドで東に屈曲し、1D-12 グリッドに到る狭長な溝である。断面はV字状を呈する。覆土の堆積状況は地点により異なる。B-B' では3層に大別され、下層にロームブロックを含む暗褐色土、中層にロームブロックを少量含む暗灰褐色土、上層にロームブロックや炭化物ブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は縄文土器・埴輪・土師器・須恵器・かわらけの小片のほか、近現代の陶磁器片を少量出土している。

SD-11

1I-2 グリッドから南へ緩やかに蛇行しつつ延び、1H-12 グリッドで西へ屈曲し、1I-12 グリッドに到る。覆土はロームブロック、礫、炭化物ブロック、木灰を少量含む暗灰褐色土の堆積を認める。遺物は埴輪・土師器・須恵器・かわらけの小片のほか、古墳の石室材に用いられたと考えられる面取り加工を施した人頭大の角閃石安山岩の河原石、近現代の陶磁器片、錆化した銅銭の破片などを少量出土している。

SD-12

1R-5 グリッドから北東へ延び、1P-3 グリッドで東へ緩やかに湾曲し、1I-3 グリッドに到る。覆土はSD-11 と一連の堆積を認める。遺物はSD-11 に比べて少なく、土師器・須恵器の小片を少量出土している。



SD-14

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～3mm）を少量含む。粘性欠。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）を少量含み、砂粒（1±mm）を多量に含む。粘性欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）を多量に含む。粘性、しまりとも欠。

SD-15

- 黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。しまり弱。

SD-16

- 1 黒褐色土 白色パミス（径1mm±）ロームブロック（径1mm±）を多量に含む。粘性欠。
- 2 黒褐色土 白色パミス（径1mm±）ロームブロック（径1mm±）を少量含む。粘性、しまりとも欠。
- 3 暗褐色土 白色パミス（径1mm±）ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。粘性、しまりとも欠。

SD-17

- 1 暗褐色土 ロームブロック（径1～30mm）を多量に含む。粘性欠。

SD-18

- 黒色土 ロームブロック（径1～30mm）を少量含む。粘性、しまりとも欠。

SD-19

- 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、礫（径1～5mm）を少量含む。

SD-20

- 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。粘性、しまりとも欠。

SD-21

- 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、礫（径1～5mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり弱。

図 261 SD断面 (3)

SD-13

1I-4グリッドでSD-10から派生して南東へ延び、1H-5グリッドに到る。覆土はロームブロック、白色パミス少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-14

1U-9グリッドから東へ延び、1M-11グリッドで南東に湾曲し、1M-13グリッドに到る。覆土の堆積状況は地点により異なる。B-B'では3層に分割され、下層にロームブロックを多量に含む黒褐色土、中層にロームブロックを少量含み、砂粒を多量に含む黒褐色土、上層にロームブロックを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は縄文土器・埴輪・土師器・かわらけ・中世陶器の小片を少量出土している。

SD-15

1S-7グリッドから南東へ延び、1Q-7グリッドで屈曲して南へ延び、1Q-9グリッドで再び西へ屈曲して1S-9グリッドに至る。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-16

1M-11グリッドでSD-14から派生して南西へ湾曲しつつ延び、1N-12グリッドに到る。覆土は白色パミスを多量に含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-17

1T-8から1T-10グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロックを多量に含む暗褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-18

1T-8から1T-9グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロックを少量含む黒色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-19

1S-12から1P-13グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、礫を少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-20

1S-12から1Q-13グリッドにかけて位置する。1P-14グリッドから緩やかに蛇行しつつ北へ延び、1P-11グリッドで西に大きく湾曲して1R-11グリッドに至る。覆土はロームブロックを少量含む黒色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-21

1R-13から1N-13グリッドにかけて位置する。覆土は、ロームブロック、礫、炭化物ブロックを多量に含む暗灰褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-22

1S-14グリッドでSD-29から派生して東へ延び、1R-15グリッドに到る。覆土はロームブロック、白色パミスを多量に含む黒灰褐色土の堆積を認める。遺物は埴輪・土師器・かわらけの小片を少量出土している。

SD-23

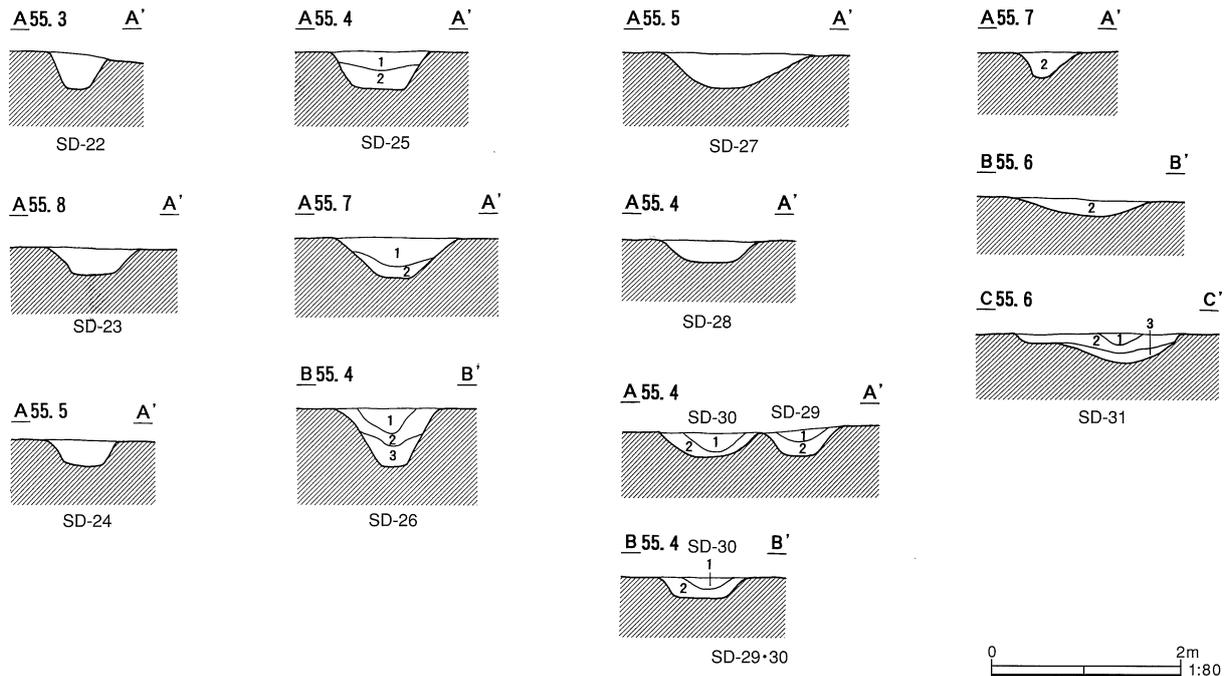
1W-13から1V-13グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを多量に含む黒灰褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-24

1X-15から1X-16グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロックを多量に含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-25

1U-13グリッドでSD-26から派生して東へ延び、1Q-14グリッドに到る。覆土は2層に大別され、下層にロームブロックを多量に含む黒褐色土、上層にロームブロックを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。



- SD-22
 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。しまり弱。
- SD-23
 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。しまり弱。
- SD-24
 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を多量に含む。粘性、しまりとも欠。
- SD-25
 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。粘性欠。
 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。粘性欠。
- SD-26
 [A-A']
 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、白色パミス (径1mm±)、を多量に含む。粘性やや強。
 [B-B']
 1 黒褐色土 暗褐色土ブロック (径10~20mm) を多量に含む。粘性弱。
 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- SD-27
 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。粘性やや強。
- SD-28
 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、礫 (径1~5mm) を少量含む。
- SD-29
 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~3mm) を少量含む。粘性欠。しまり普通。
 2 褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。粘性やや強。しまり欠。
- SD-30
 1 A_s-Aの純層。
 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。粘性弱。
- SD-31
 1 A_s-Aの純層。
 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。粘性弱。
 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む、白色パミス (径1mm±) を少量含む。

図 262 SD断面 (4)

SD-26

IW-13グリッドでSD-32から派生して南東へ延び、1R-14グリッドに到る。覆土の堆積状況は地点により異なる。B-B'では3層に分割され、下層にロームブロック・白色パミス を多量に含む暗褐色土、中層にロームブロック・白色パミス を少量含む暗灰褐色土、上層に暗褐色土ブロックを多量に含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-27

1S-13 から 1T-14 グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、砂礫、炭化物ブロック、焼土ブロック、木灰を少量含む黒灰褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。遺物は埴輪・かわらけの小片を少量出土している。

SD-28

1U-15 から 1S-15 グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、礫を少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は、皆無であった。

SD-29

1S-14 グリッドで南西へ延び、1S-15 グリッドで西へ屈曲して、すぐに南西へ屈曲して 1T-17 グリッドに至る。覆土は 2 層に分割され、下層にロームブロックを多量に含む褐色土、上層にロームブロックを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-30

1U-13 グリッドで南東へ延び、1S-14 グリッドで屈曲して南西へ延び、1S-15 グリッドで西へ屈曲して、すぐに南西へ屈曲し 1T-17 グリッドに至る。覆土は 2 層に分割され、下層にロームブロックを少量含む黒褐色土の堆積を認め、上層には As-A の純層が発達している。遺物は皆無である。

SD-31

1V-13 グリッドから南東へ延び、1M-14 グリッドで南に湾曲し、1V-15 グリッドに到る。覆土は 2 層に大別され、下層にロームブロック多量に含み、白色パミスを少量含む暗褐色土、上層にロームブロック・白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認め、上層中には As-A の純層が発達している箇所がある。遺物は皆無である。

SD-32

1V-11 から 1Z-21 グリッドにかけて位置し、北東から南西に緩やかに蛇行しつつ延びる。覆土は 2 層に大別され、下層にロームブロック多量に含み、白色パミスを少量含む暗褐色土、上層にロームブロック・白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-33

1W-13 から 2A-22 にかけて位置し、北東から南西に直線的に延びる。覆土はロームブロックを多量に含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は縄文土器・埴輪・土師器の小片を少量出土している。

SD-34

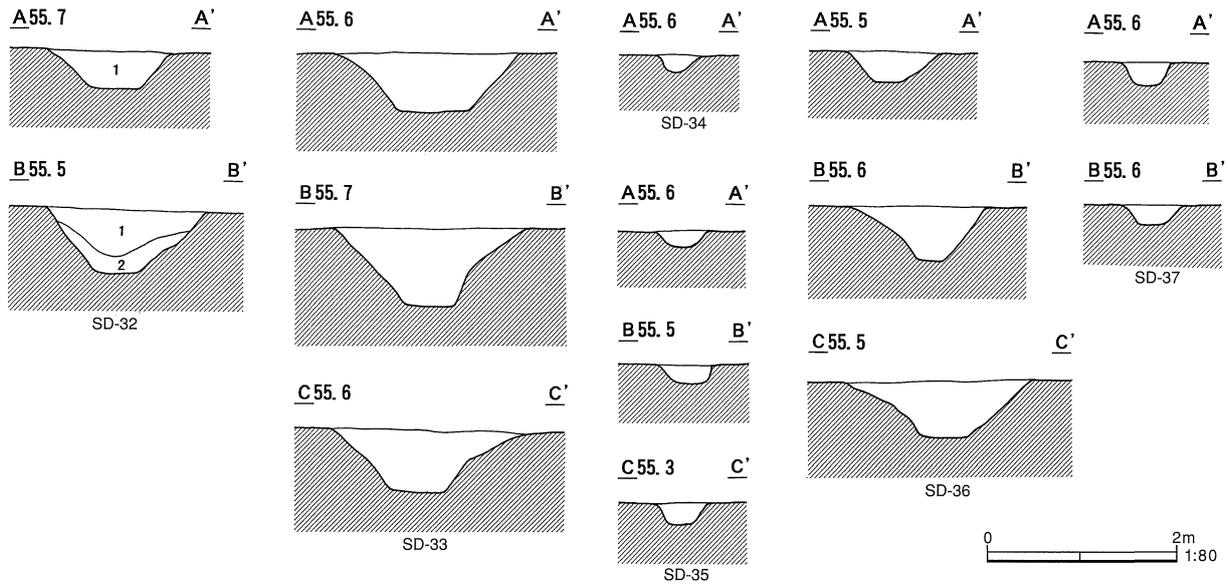
1X-14 グリッドから南へ延び、すぐに南東へ屈曲して 1W-14 グリッドに至る。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-35

1W-15 グリッドから南東へ延び、1V-15 グリッドで屈曲し南西へ延び、再び西へ屈曲して 1W-17 グリッドに至る。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-36

1W-15 から 2A-22 グリッドにかけて位置し、北東から南西に緩やかに蛇行しつつ延びる。覆土はロームブロック、白色パミス、砂礫を少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。



SD-32

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。粘性弱。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm±）を少量含む。

SD-33

黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。粘性欠。

SD-34

黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。粘性欠。

SD-35

黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。粘性欠。

SD-36

黒褐色土 ロームブロック（径1mm±）、白色パミス（径1mm±）、砂礫（径1～15mm）を少量含む。粘性欠。

SD-37

黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm±）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。粘性弱。

図 263 SD断面 (5)

SD-37

1Y-15から1X-15グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-38

1U-17から1T-17グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-39

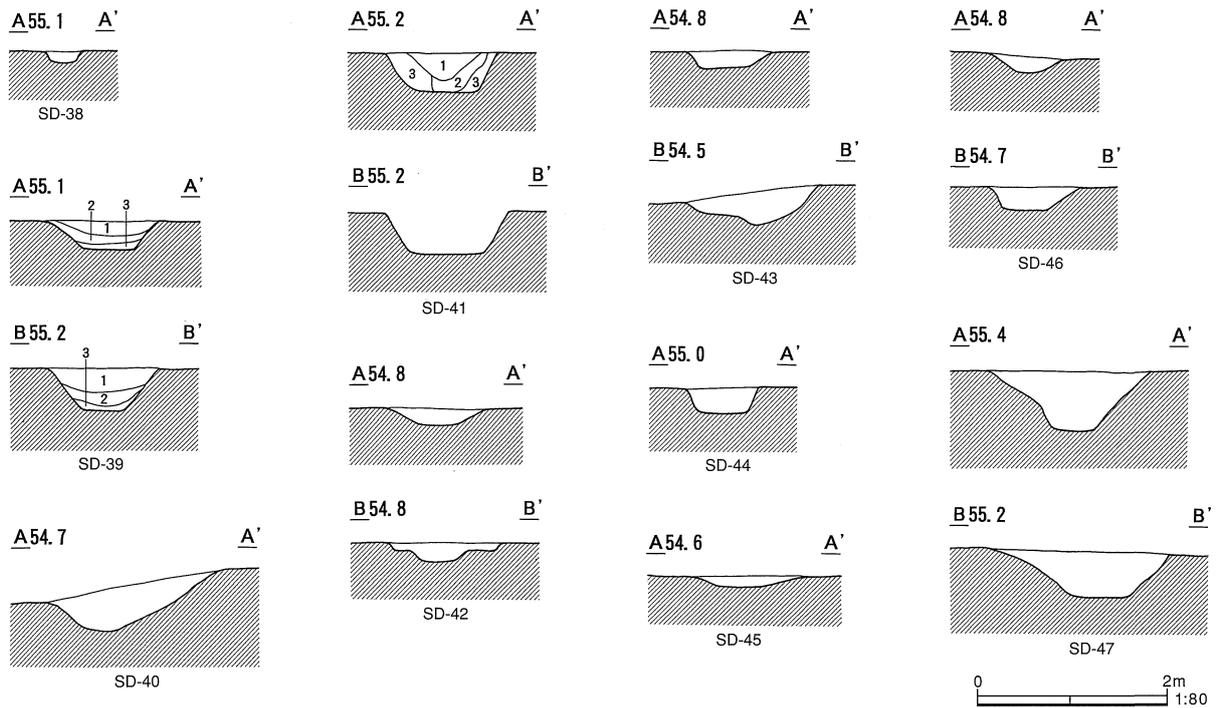
1T-17グリッドから北西へ延び、1V-16グリッドで屈曲して南西へ延び、1V-17グリッドで再び南東へ屈曲して1T-18グリッドに至る。覆土は3層に分割され、下層に白色粘質土ブロックを少量含む暗褐色土、中層に白色パミス・白色粘質土ブロックを少量含む黒褐色土、上層に白色パミスを少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は土師器・かわらけの小片を少量出土している。

SD-40

2D-21から2A-21グリッドにかけて位置する。大溝北岸に沿い、SD-33に直交する。覆土はロームブロック、砂礫、炭化物ブロック、木炭を多量に含む黒灰褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-41

1V-18グリッドから北西へ延び、すぐに南西へ屈曲して1W-19グリッドに至る。覆土は黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。



SD-38

黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。粘性欠。

SD-39

- 1 黒褐色土 白色パミス（径1mm±）を少量含む。粘性欠。
- 2 黒褐色土 白色パミス（径1mm±）、白色粘質土ブロック（径1～5mm）を少量含む。粘性欠。
- 3 暗褐色土 白色粘質土ブロック（径1～10mm）を少量含む。

SD-40

黒灰褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、砂礫（径1～10mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）、木灰を多量に含む。粘性欠。

SD-41

- 1 黒褐色土 粘性欠。
- 2 黒褐色土 粘性欠。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

SD-42

暗褐色土 白色パミス（径1mm±）を多量に含む。粘性欠。

SD-43

暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm±）、砂礫（径1～5mm）を少量含む。

SD-44

黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。粘性欠。

SD-45

黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

SD-46

暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、黄白灰色粘質土ブロック（径2～15mm）、礫（径5～10mm）を少量含む。

SD-47

黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含み、白色パミス（径1mm±）、砂礫（径1～5mm）を少量含む。

図 264 SD断面 (6)

SD-42

1W-20 から 1X-22 グリッドにかけて位置する。覆土は白色パミスが多量に含む暗褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-43

1V-18 から 1Q-20 グリッドにかけて位置し、北西から東に緩やかに蛇行しつつ延びる。覆土はロームブロック、白色パミス少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-44

1S-17 から 1S-18 グリッドにかけて位置する。覆土はロームブロック、白色パミス少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-45

2D-21 から 2D-22 グリッドにかけて位置する。SD-46 に直交する。覆土はロームブロックを多量に含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-46

2E-22 から 2B-22 グリッドにかけて位置し、西から南東に緩やかに湾曲しつつ延びる。覆土はロームブロック、黄白灰色粘質土ブロック、礫を少量含む暗灰褐色土の堆積を認める。遺物は皆無である。

SD-47

1Y-18 グリッドでSD-36 から派生して南東へ延び、1W-20 グリッドに到る。覆土は、ロームブロックを多量に含み、白色パミス、砂礫を少量含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は縄文土器・土師器の小片を少量出土している。

大 溝

(1) 遺 構

東方へ流下することが明らかで、調査区の南側を東流する男堀川の旧流路のひとつであろう。

(2) 遺 物

遺物は覆土上層から溝底付近まで、ほぼまんべんなく含まれている。遺物の種類は埴輪・土師器・須恵器・かわらけ・青磁・中世陶器などで、器種・所属年代も、基本的に本遺跡内所在の遺構から出土するものとかわらない。大溝出土の遺物は、本来周辺の遺構に帰属していた遺物が、後代の投棄・流れ込みなどにより覆土中に混入したものであろう。

a. 埴輪

円筒埴輪（図 265～267、写真 63～65）

全形の判明する資料はないものの、径の大きさからしてほとんどが 2 条突帯 3 段構成品と推測されるが、7 のみは他と比べやや径が大きく、3 条突帯 4 段構成品となる可能性がある。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は円形または半円形で、7 は方形となる可能性がある。突帯は総じて貧弱で、断面は崩れた M 字形や三角形となっている。8・12 の第 3 段外面に横 1 条ないし 2 条の直線的な刻線を認める。胎土には片岩・チャート・角閃石の混入が目立つ。焼成はすべて窯焼成で、42 は還元焼成となっている。色調は橙色を呈する個体が多く、ほかにおい橙色・明黄褐色・明赤褐色を示す個体がある。還元焼成の 42 は灰褐色を呈する。

朝顔形埴輪（図 267、写真 65）

胴部は段構成の判明する資料がないが、胴径との比から 2 突帯 3 段構成になると推定される。外面調整は一次タテハケのみである。突帯断面は 45 が三角形、46 が崩れた台形となっている。45 では第 3 段に半円形透孔が一对穿たれ、肩部外面に「ハ」字状の刻線が観察される。胎土には 2 点とも角閃石安山岩が含まれる。焼成は窯焼成で、45 は一部が還元化している。色調は橙色を呈する。

形象埴輪（図 268～270、写真 66・67）

家 [1～4]

1・2 は屋根本体から脱落した堅魚木である。中実成形で調整は全面にナデを加えている。胎土には片岩・チャートを含み、2 には角閃石の混入が観察される。色調は橙色を呈する。

3・4 は壁体部隅周辺の破片である。3 の調整は内外面ともナデで、縦横に突帯が貼付されている。

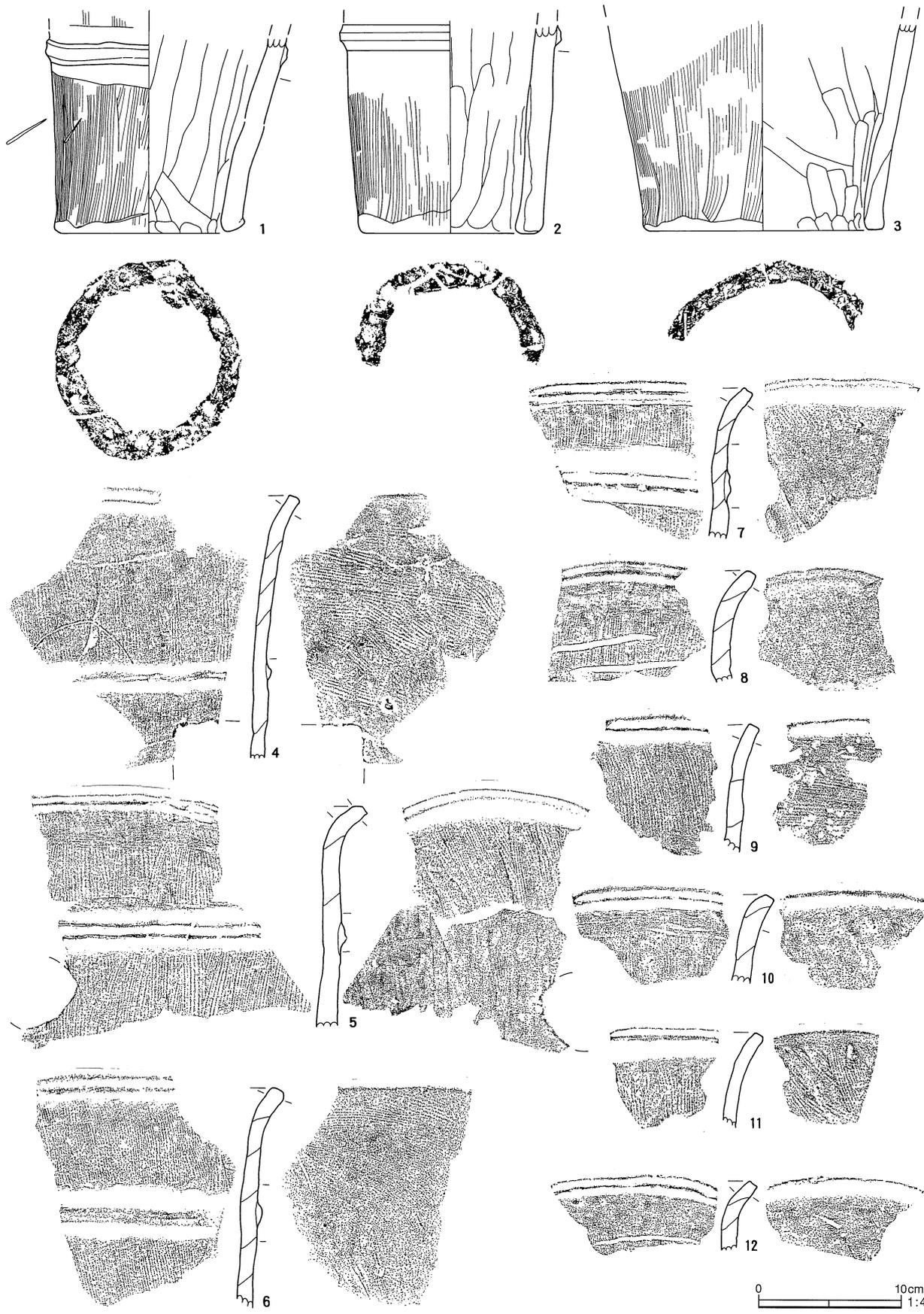


图 265 大溝出土円筒・朝顔型埴輪 (1)

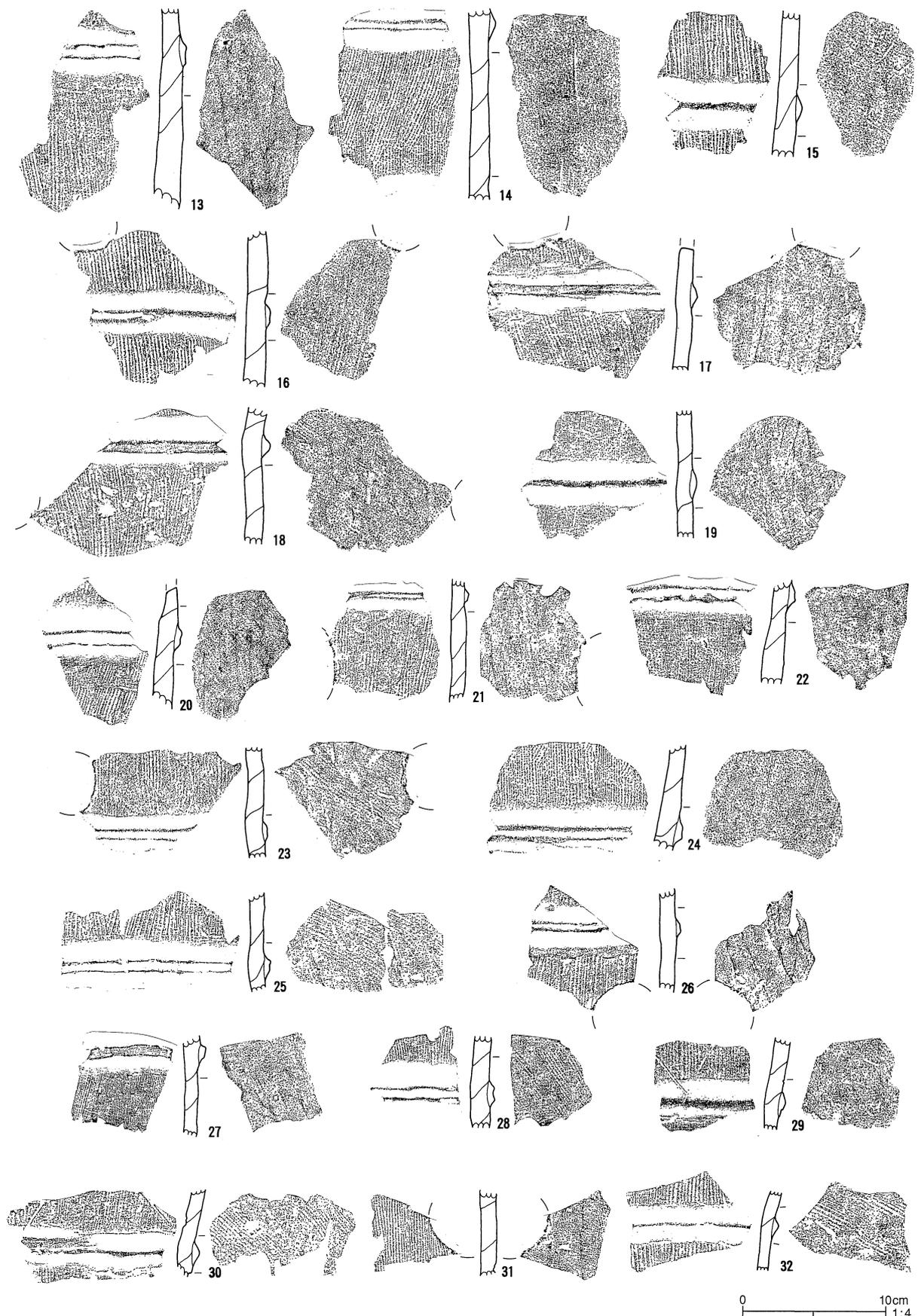


图 266 大溝出土円筒・朝顔型埴輪 (2)

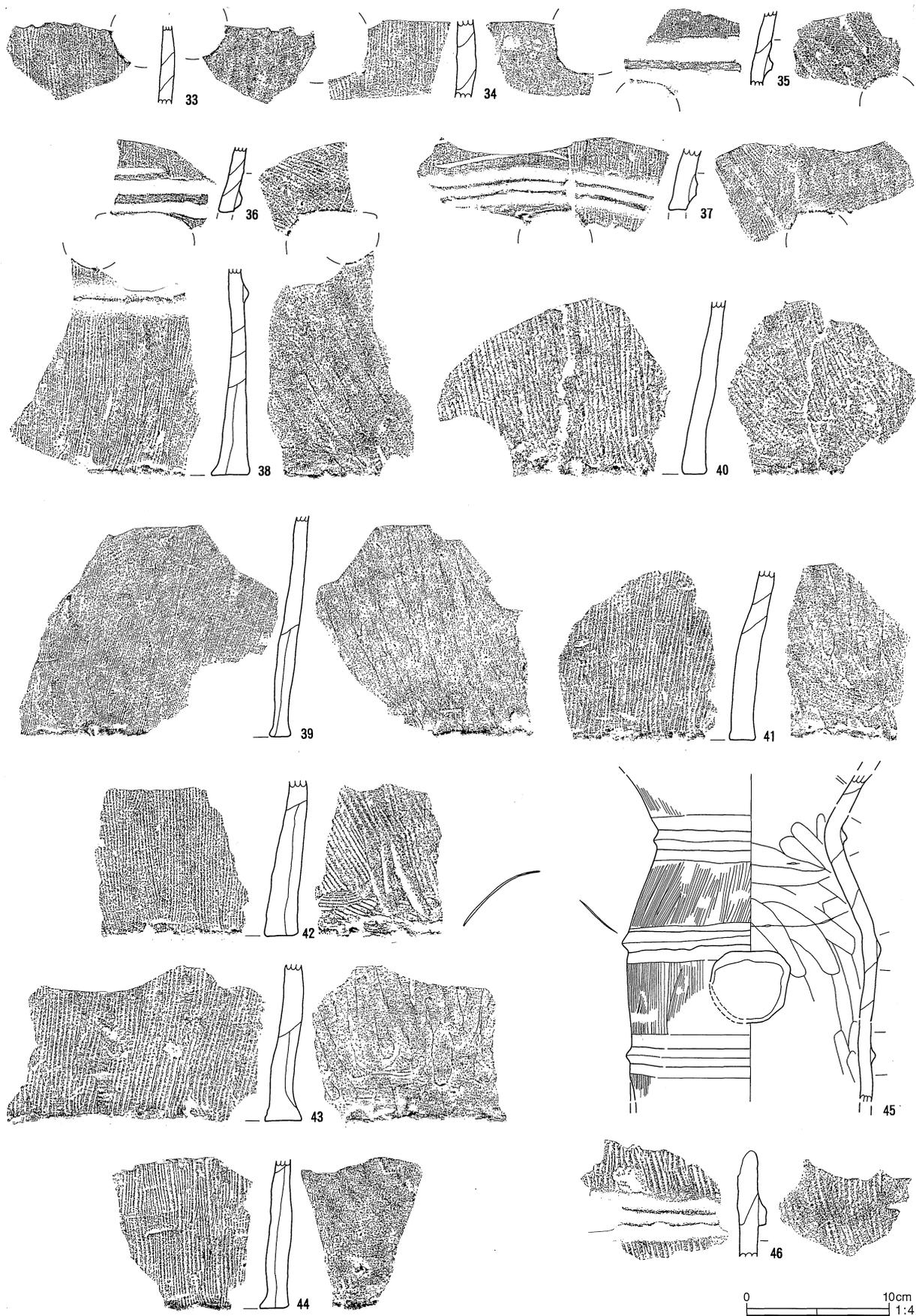


图 267 大溝出土陶筒·朝顔型埴輪 (3)

胎土にチャートを含み、色調は橙色を呈する。4は外面調整がハケおよびナデ、内面調整がナデで、隅に縦位の突帯が貼付されている。胎土にチャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

大刀 [5]

倭装大刀を模した埴輪の柄頭から柄部上半にかけての破片である。柄部は中空で、柄頭の中央には柄の内部へ抜ける不整形の小孔が穿たれる。調整はハケ後ナデで、胎土に角閃石・チャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

人物 [6～9]

6は男子人物の顔面部周辺の破片である。顔面は円筒状の頭部本体を内側から押し出し、顎の周辺に若干の粘土を貼り足して成形している。耳は穿孔により表現する。美豆良は下げ美豆良で、端部が欠損する。粘土紐によって額部に鉢巻き状の帯を表現し、わずか残る頭部は上方に立ち上がることから、天冠を装着していると推測される。外面には丁寧なナデが施され、内面は粗い不定方向のナデで、粘土紐接合痕が残る。胎土に雲母・角閃石・チャートを含み、焼成は良好で、色調は橙色を呈する。

7は人物の顔面左頬部の破片である。性別は判らない。調整は内外面ともナデで、内面には粘土紐接合痕が残る。胎土に雲母・角閃石・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

8は女子人物の髻である。粘土板1枚で成形し、結び緒は粘土帯を2段に積んで表現している。裏面には頭部との接合痕が明瞭に残る。胎土に雲母・角閃石・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

9は人物の腕である。指先を欠失している。性別は判らない。中実成形で、肩との接合部には臍を成形している。調整は全体にやや粗いナデで、胎土にチャートを含み、色調は橙色を呈する。

馬 [10～15]

10・11は頭部の破片である。10は右側頭部のにあたり、f字形鏡板を付け、鏡板の上面には円形の粘土粒と貼付して鋳を表している。面繫の頬綱と手綱は粘土紐で表現している。手綱には押圧による段差がみられる。調整は外面がハケのちナデ、内面がナデで、胎土にチャートを含み、色調は橙色を呈する。11は左側頭部の破片で、手綱の剥離痕が観察される。調整・胎土・色調は10と同様である。12は胴部本体から剥離した後輪の破片である。上端面に円形の粘土粒と貼付して鋳を表している。調整は前後面ともハケで、端部周辺と基部にはナデを加えている。

13は障泥の破片である。粘土板を表裏に2枚合わせて成形し、縁辺部に粘土紐を貼付して縁金具を表現している。表面には刻線、下端面には棒状圧痕が観察される。調整は表面がハケ、裏面がナデで、胎土に雲母・チャートを含む。色調は表面が灰褐色、裏面が橙色を呈し、表面には黒斑が観察される。

14は尻部上面の破片である。尻繫が脱落し、剥離痕のみが残る。尻繫は中央に円形の雲珠を置き、4本の繫と左右一対の杏葉が接続している。杏葉は二股の帯状に表され、外側の先端近くに各々1個の鈴を表現する。調整は外面がハケ、内面がナデで、胎土にチャートを含み、色調は橙色を呈する。

15は脚部の破片である。切開再接合成形をおこない、後方に三角形の切り込みを入れ蹄を表現する。調整は外面がハケのちナデ、内面がナデで、胎土にチャートを含み、色調はにぶい黄橙色を呈する。

器種不明 [16～19]

16・17はともに板状の破片で。16は下端に突帯を貼付し、表面に不定形の刻線がある。胎土に雲母・チャートを含み、色調は橙色を呈する。17には裏面に杉綾に似た刻線が観察される。胎土にチャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

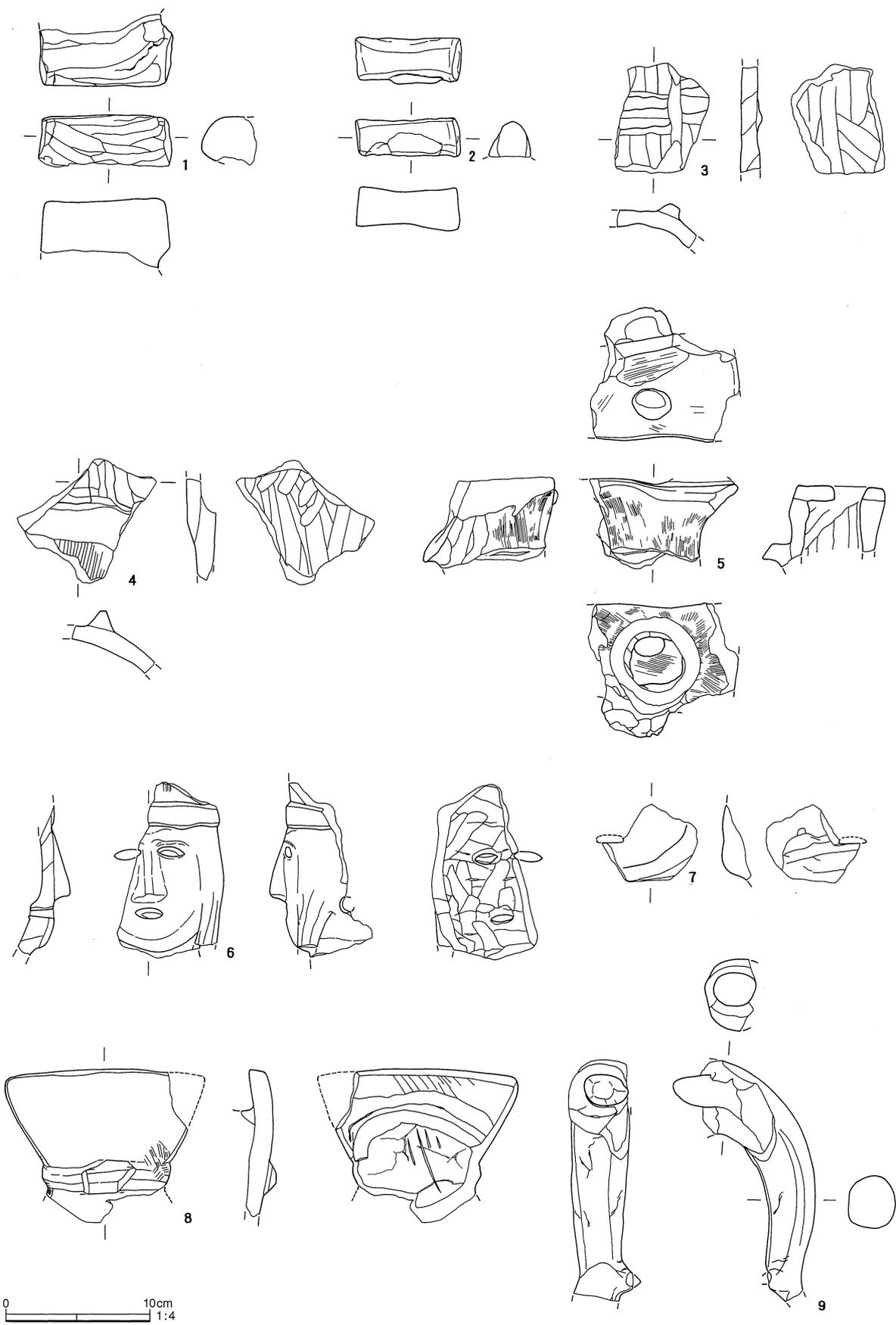


图 268 大溝出土形象埴輪 (1)

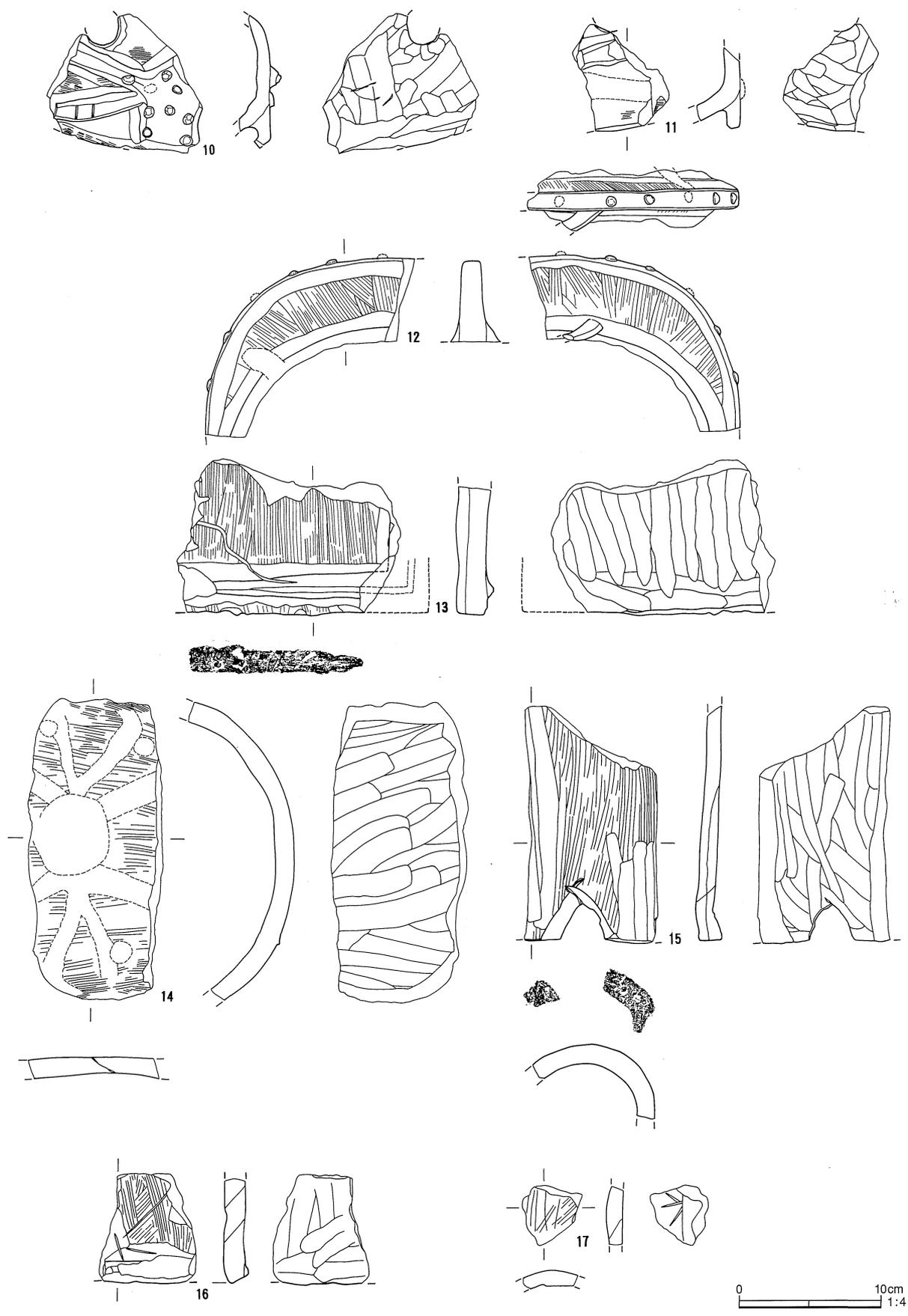


图 269 大溝出土形象埴輪 (2)

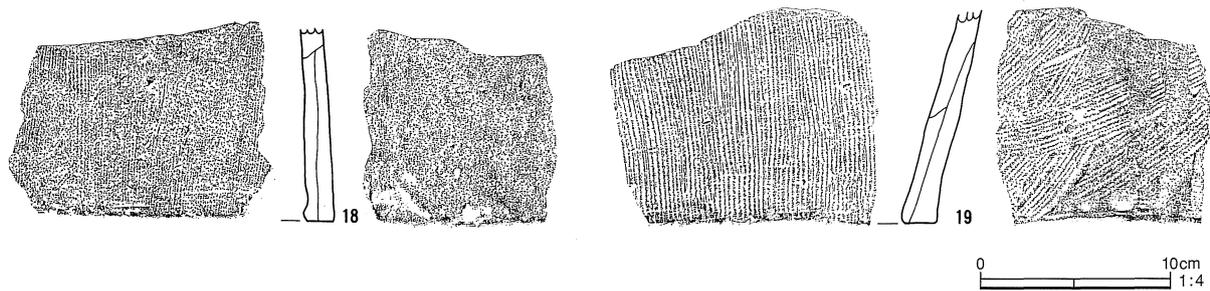


図 270 大溝出土形象埴輪 (3)

18・19は形象埴輪の台部である。どちらも薄く丁寧に成形されている。18はほぼ直立し、調整は外面がハケで、目の細かな工具を用いて丁寧に施している。内面はナデにより滑らかに仕上げられている。19は開き気味に立ち上がり、調整は内外面ともハケを施している。18・19とも胎土にチャートを含み、焼成は良好で、色調は橙色を呈する。

b. 土器

土師器 (図 271～273、写真 67・68)

1～3の器台は、いずれも受け部のみの破片で、胎土は精良であるが、全体に摩耗が進んでいる。1は口唇部外面に稜を形成し、3は受け部が直線的に開く。4は小型鉢で、底部外面が窪み、体部から口縁部にかけての器壁はきわめて薄くつくっている。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は短く外反する。5・6は埴で、5は下脹れの胴部下半に焼成後に穿たれた不整形な孔をもつ。6は比較的開きの小さな口縁部で、器壁が薄く、直線的に立ち上がっている。やや粗いヘラミガキを施している。7は小型高坏の坏部の破片で、内湾して立ち上がり、内面にはわずかにヘラミガキが観察される。口唇部は薄くつくられている。8・9の坏はいずれも定型化以前の須恵器坏蓋模倣坏である。9は底部の器壁が厚く削り残されている。10は碗状の体部をもち、頸部で強く屈曲し、口縁部は短く、外反して立ち上がる。11～14は高坏で、12は脚付の内斜口縁坏となっている。脚部内面には明瞭な粘土紐積上痕を残す。13は脚の裾部まで器壁が厚く、端面を形成している。14は有稜脚の裾部で、湾曲せずに直線的に端部へ至る。15は鉢、16・17は甕で、いずれも外面調整にヘラケズリを用いている。18はS字甕の台部で、外面調整はハケが先行し、あとからナデを加えて、ハケを等間隔に消している。全体に摩耗が進行している。19の壺は受け口状の口縁部と撫で肩で下脹れの胴部をもつ土師器としては希有な大型品である。内面には粘土紐積上痕を明瞭に残さないが、全面に緩やかな凹凸が観察される。

須恵器 (図 272、写真 68)

20の坏は体部外面下半に手持ちヘラケズリを施し、口唇端部は面取りされている。21・22は臚で、ともに体部のみの破片である。21の外面には2条の凹線の櫛歯状工具による連続刺突文がめぐる。22の内面には頸部へ連続する絞り痕が観察される。ともに外面には自然釉がかかる。23は高坏で、坏部の見込みが広く、三方透の脚が付く。脚部外面にはカキメを施す。24～29はいずれも甕の口縁部の破片である。24には粘土紐積上痕が観察される。外面に凹線・櫛描波状文を施す。

中世土器・磁器 (図 273、写真 68)

34～39はかわらけで、すべてがロクロ成形による。体部は、34～36が外反して直線的に、37～39が内湾気味に立ち上がる。底部外面は回転糸切り離し無調整で、34～36は左回転、39は右回転である。

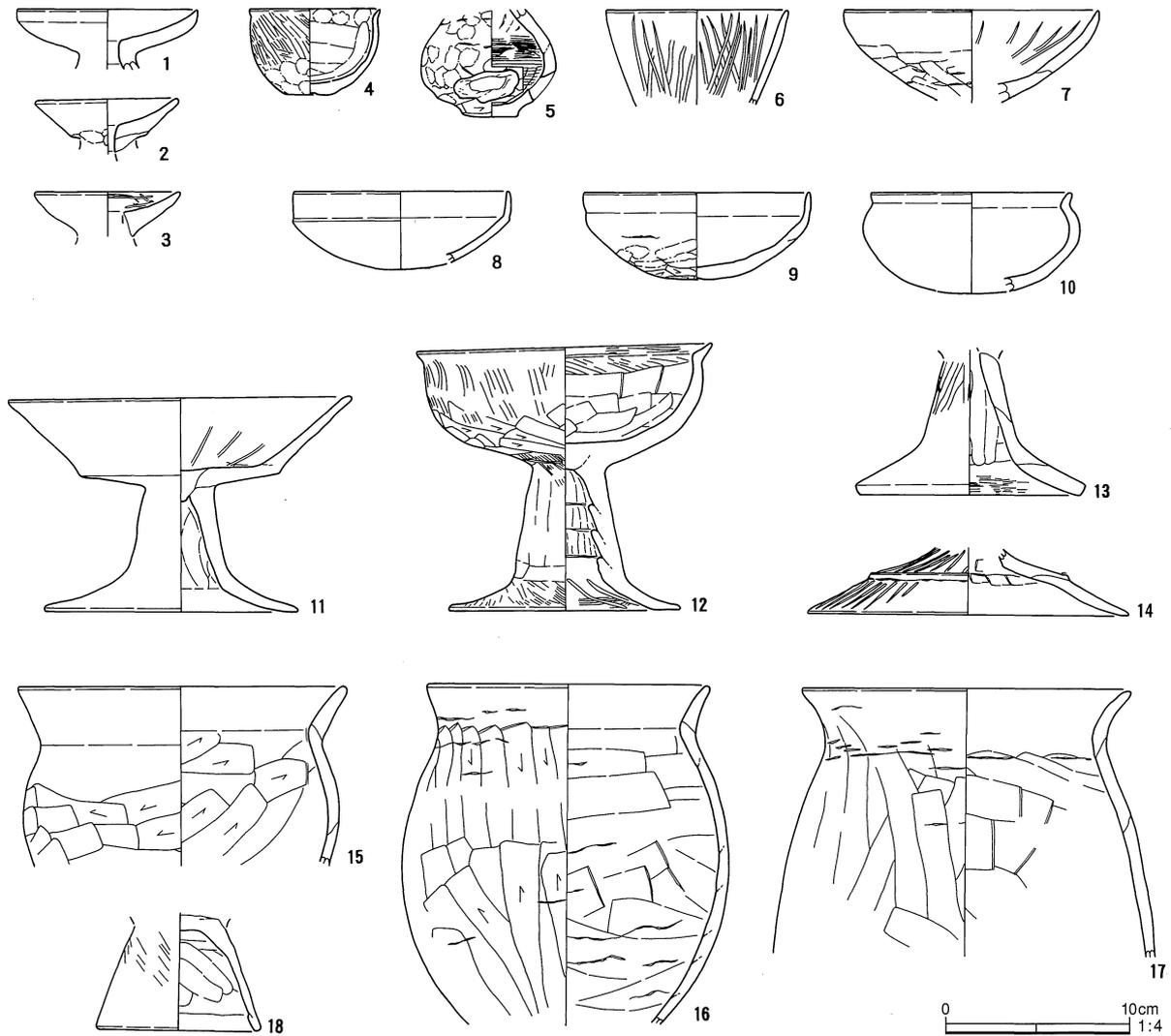
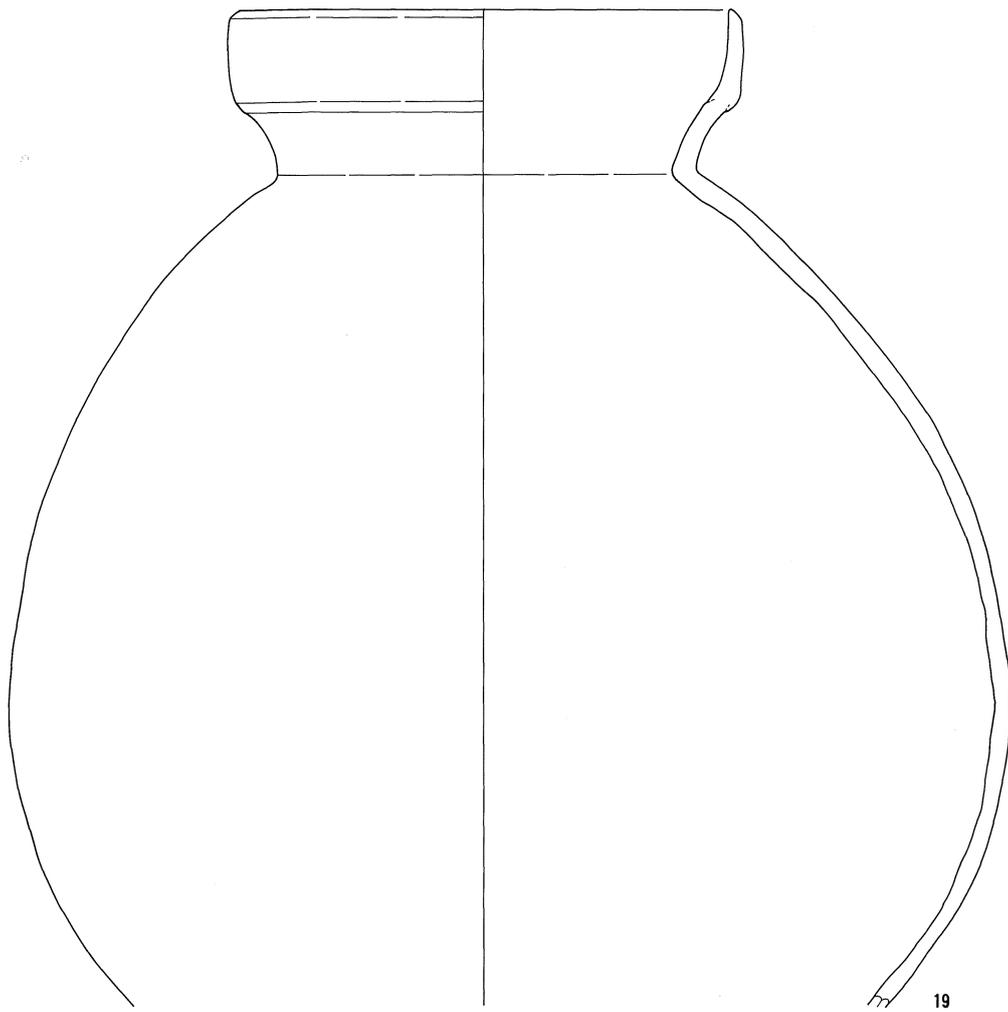


図 271 大溝出土土器 (1)

大溝出土土器観察表

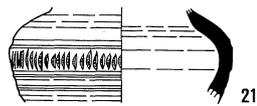
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 器台	口径 (10.0) 底径 — 器高 —	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	内外面—摩擦。	雲母・角閃石・褐色粒 内—にぶい黄橙色 外—橙色	受部1/6。
2	土師器 器台	口径 (8.0) 底径 — 器高 —	口縁部は外傾して開く。脚部との接合部はホゾ状。	外面—口縁部ヘラミガキだが摩擦、脚部との接合部に指頭痕。内面—口縁部ヘラミガキだが摩擦。	雲母・チャート 内外—にぶい赤褐色	受部1/3。
3	土師器 器台	口径 8.0 底径 — 器高 —	口縁部は外傾して開くが、歪み大きい。脚部剥落。	外面—口縁部ヘラミガキだが摩擦。内面—口縁部ヘラミガキ。	雲母・角閃石・白色粒・褐色粒 内外—にぶい黄橙色	脚部欠損。
4	土師器 小型鉢	口径 7.1 底径 2.5 器高 4.8	体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は器壁薄く、短く外傾する。底部は上底気味。	外面—体部上半ハケメ・下半指頭痕。内面—口縁部指頭痕、体部～底部ユビナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部～体部1/4欠損。
5	土師器 罎	口径 — 底径 3.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は大きく膨らむ。底部は平底。胴部下半に焼成後の人為的穿孔。	外面—胴部ヘラケズリ後指頭痕。内面—頸部絞り痕、胴部ハケメ。	雲母・褐色粒 内外—にぶい黄橙色	胴部～底部4/5。



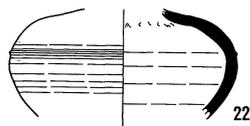
19



20



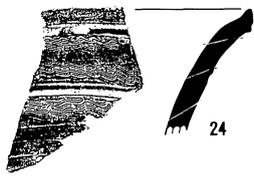
21



22



23



24



25



26



27



28



29

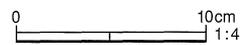


图 272 大溝出土土器 (2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
6	土師器 罎	口径(10.0) 底径 — 器高 —	口縁部は外傾して立ち上がる。	外面－口縁部ヘラミガキ。 内面－口縁部ヘラミガキ。	雲母・石英・赤褐色粒 内外－にぶい橙色	口縁部1/4。
7	土師器 小型高坏	口径(14.0) 底径 — 器高 —	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ。 内面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケンマ。	雲母・赤褐色粒 内外－明赤褐色	坏部1/4。
8	土師器 坏	口径 11.8 底径 — 器高 (4.2)	体部と口縁部を画すわずかな稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリだが摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外－明赤褐色	口縁部1/5・底部欠損。 1/2。
9	土師器 坏	口径(12.4) 底径 2.0 器高 4.7	体部と口縁部を画すわずかな稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ・下半ヘラケズリ、底部ナデ。 内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・石英・赤褐色粒 内外－明赤褐色	
10	土師器 坏	口径(11.0) 底径 — 器高 (5.6)	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリだが摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外－にぶい黄橙色	1/6。
11	土師器 高坏	口径(18.8) 底径 13.8 器高 11.7	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は外傾して立ち上がる。脚部から裾部は屈折して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～裾部摩滅。内面－口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、坏部ヘラナデ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデ。	雲母・赤褐色粒 内外－にぶい赤褐色	坏部1/2・裾部1/2欠損。
12	土師器 高坏	口径 16.1 底径 12.7 器高 14.6	坏部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外傾する。脚部から裾部は屈折して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、坏部ヘラケズリ後ハケメ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ後ハケメ。内面－口縁部ヨコナデ後ハケメ、坏部ヘラナデ、脚部ナデ、裾部ハケメ後ヘラミガキ。	雲母・石英 内－橙色 外－明赤褐色	裾部一部欠損。
13	土師器 高坏	口径 — 底径(12.0) 器高 —	脚部から裾部は大きく屈折して開く。	外面－脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。内面－脚部ナデ、裾部ヨコナデ後ハケメ。	雲母・赤褐色粒 内外－橙色	脚部1/2。
14	土師器 高坏	口径 — 底径(17.5) 器高 —	裾部は外反して開くが、中位に段を有する。	外面－裾部ヨコナデ後ハケメ。内面－裾部ヨコナデとヘラナデ。	雲母・チャート・赤褐色粒 内外－明赤褐色	裾部1/3。
15	土師器 鉢	口径(18.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は膨らみを持ち、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・角閃石・白色粒・赤褐色粒 内－にぶい褐色 外－明赤褐色	口縁部～胴部1/3。
16	土師器 甕	口径(15.5) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内－にぶい橙色 外－にぶい褐色	口縁部～胴部1/3。
17	土師器 甕	口径(18.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・片岩・赤褐色粒 内－にぶい褐色 外－にぶい黄橙色	口縁部～胴部1/3。
18	土師器 台付甕	口径 — 底径(9.0) 器高 —	台部は外傾して開き、端部折り返し。	外面－台部ハケメ後ナデ、裾部ヨコナデ。内面－台部ハケメ後ユビナデ、裾部ヨコナデ。	雲母・チャート・白色粒 内外－にぶい黄褐色	台部1/2。
19	土師器 壺	口径(25.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位で丸く膨らみ、口縁部は二重口縁を呈する。	外面－摩滅。 内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・チャート・赤褐色粒 内外－にぶい赤褐色	口縁部～胴部下位2/3。胴部外面に黒斑。
20	須恵器 坏	口径(11.0) 底径 — 器高 —	ロクロ成形。体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内径して立ち上がる。口唇部面取り。	外面－体部下半手持ちヘラケズリ。	白色粒 内外－灰色	口縁部～体部1/4。
21	須恵器 甗	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。体部は丸く膨らむ。	外面－体部2条の凹線間に櫛歯状工具による刺突文。	白色粒・黒色粒 内外－灰色 釉－灰オリーブ色	体部1/3。 肩外面に自然釉。
22	須恵器 甗	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。	外面－体部下半手持ちヘラケズリ。 内面－頸部絞り痕。	白色粒・黒色粒 内外－黄灰色 釉－オリーブ色	体部2/5。 肩外面に自然釉。

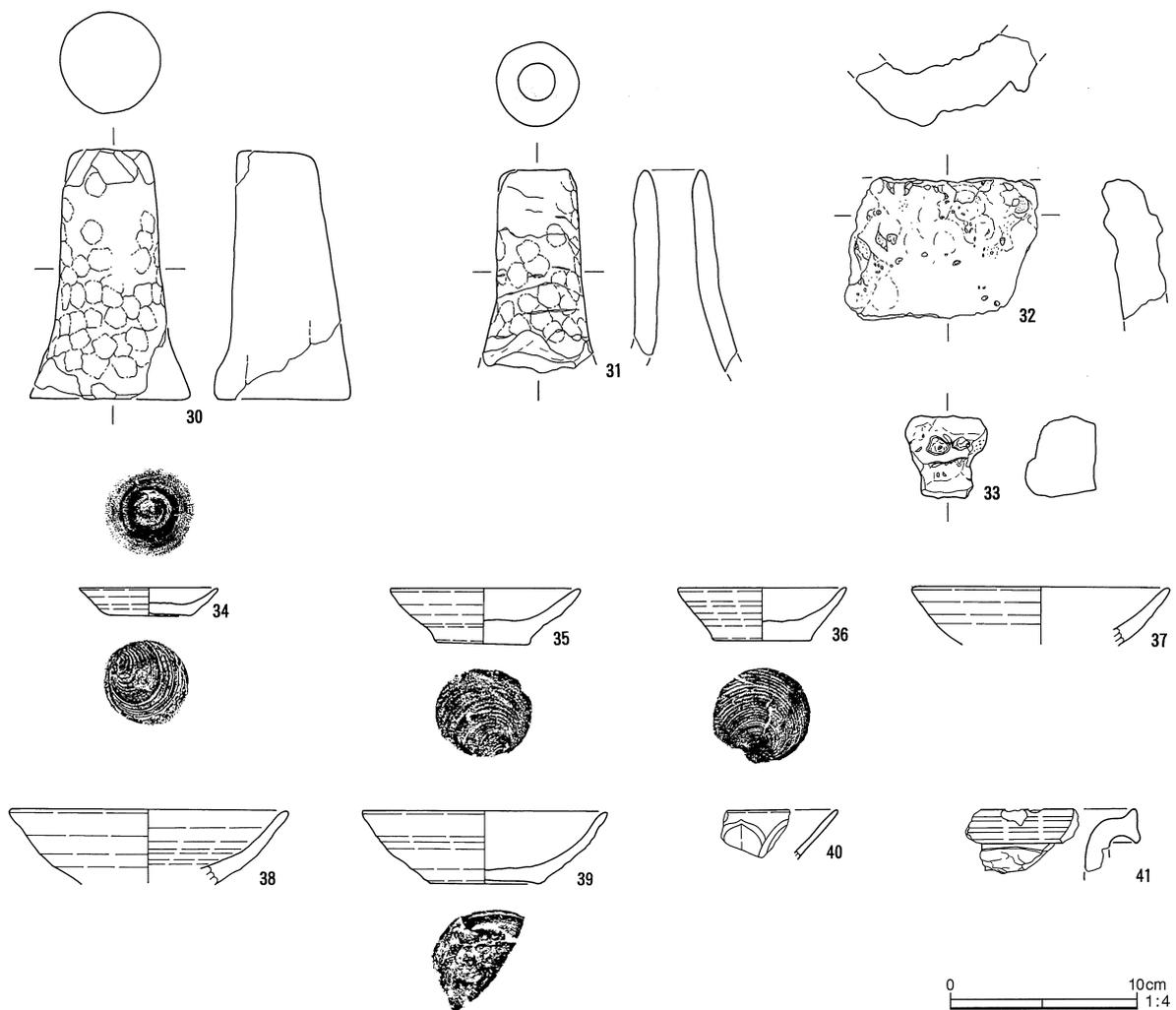


図 273 大溝出土土器 (3)

34・36は見込みに螺旋状のロクロ目が観察される。40は青磁碗で、体部はごく緩やかに内湾して立ち上がり、口唇部は鋭利に納められている。外面に幅広の鎬連弁文をもつ。41は常滑甕で、上方に立ち上がる頸部から大きく外湾して口縁部に移行し、口唇部は上下に突出して、口唇端面は緩やかに窪んでいる。内面には自然釉がかかる。

c. 支脚・罎羽口・鉄滓

支脚 (図 273、写真 68)

30は中実式、31は中空式の罎支脚である。片岩・チャートあるいは石英その他の砂礫を多く含む。鉄分も多く赤褐色を呈する。31の外面には黒斑が観察される。

罎羽口 (図 273、写真 68)

32・33ともに大口径の罎羽口で、器壁が厚く、先端部は溶融して発泡が目立つ。外面はガラス質化し、黒色を呈して光沢を有する。断面は灰色、内面は被熱してにぶい赤褐色を示す。

鉄滓 (図 273、写真 68)

33は破断した鉄滓で、破断面以外は摩耗が進行している。内部に砂粒・小礫を多く含む。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
23	須恵器 高杯	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。脚部の三方に透孔。	外面—坏部手持ちヘラケズリ後下端ユビナデ、脚部カキメ。内面—坏部底部ナデ、脚部ヘラナデ。	石英・白色パミス 内外—灰色	坏部～脚部 2/3。
24	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。口縁部は外反する。	ロクロ整形。外面—口縁部凹線後に櫛描波状文。内面—口縁部ナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—灰色	
25	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。口縁部は外反する。	外面—口縁部凹線後に櫛描波状文。内面—口縁部ナデ。	白色パミス 内外—灰色	口縁部小片。
26	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。口縁部は外反する。	外面—口縁部凹線後に櫛描波状文。内面—口縁部ナデ。	白色パミス 内外—灰色	口縁部小片。
27	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。口縁部は外反する。	外面—口縁部凹線後に櫛描波状文。内面—口縁部ナデ。	白色パミス 内外—灰色	口縁部小片。 25と同一個体。
28	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。口縁部は外反する。	外面—口縁部凹線後に櫛描波状文。内面—口縁部ナデ。	白色パミス 内外—灰色	口縁部小片。 25と同一個体。
29	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。口縁部は外反する。	外面—口縁部凹線後に櫛描波状文。内面—口縁部ナデ。	白色パミス 内外—灰色	口縁部小片。 25と同一個体。
30	土製品 支脚	高さ 13.5 上端径(4.0) 下端径 8.4	下方に向かって緩やかに開く。上面・下面とも平坦。	外面—指頭痕後ナデ。	片岩・石英・赤褐色粒 外—にぶい褐色	口縁部小片。 25と同一個体。
31	土製品 支脚	残存高 11.0 上端径 3.0 孔径 1.9	粘土紐巻き上げ成形。下方に向かって緩やかに開く。	外面—指頭痕後ナデ。 内面—ナデ。	片岩・石英・赤褐色粒 外—にぶい橙色	
32	羽口	残存長 7.7 外径(16.0) 内径(11.0)	先端部ガラス質化。		石英・すざ 断面—灰色	外面に黒斑。 内面被熱。
33	鉄滓	長さ 4.4 幅 4.4 厚さ 3.7			小礫含む。	重さ110.31g。
34	中世土器 かわらけ	口径 7.4 底径 4.6 器高 1.5	口縁部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。見込み螺旋状ロクロ目。	雲母・白色粒・褐色粒 内外—にぶい黄褐色	口縁部一部欠損。
35	中世土器 かわらけ	口径 10.2 底径 5.1 器高 3.0	口縁部は直線的に立ち上がる。底部は台状を呈する。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	雲母・角閃石・赤褐色粒 内—にぶい黄褐色 外—にぶい黄褐色	2/3。
36	中世土器 かわらけ	口径(9.1) 底径 5.3 器高 2.8	口縁部は直線的に立ち上がる。糸切り痕周縁部は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。見込み螺旋状ロクロ目。	雲母・赤褐色粒 内外—にぶい黄色	2/3。
37	中世土器 かわらけ	口径(14.0) 底径 — 器高 —	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	ロクロ整形。	雲母・赤褐色粒 内外—にぶい黄褐色	口縁部～体部 1/6。
38	中世土器 かわらけ	口径(15.0) 底径 — 器高 —	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。	雲母・赤褐色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～体部 1/3。
39	中世土器 かわらけ	口径(13.2) 底径(6.0) 器高 3.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。底部右回転糸切り。内面摩滅。	雲母・赤褐色粒 内外—にぶい黄褐色	1/4。
40	青磁 碗	口径 — 底径 — 器高 —		鑄蓮弁。	断面—灰色 釉—灰オリーブ色	口縁部小片。
41	常滑 甕	口径 — 底径 — 器高 —	口縁端部は上下に突出する。	ロクロ整形。	内外—灰褐色 釉—灰オリーブ色	口縁部小片。内面に自然釉。

8 埴輪集中

1Y-17グリッドでは、複数個体の円筒埴輪による埴輪集中を検出している（図274、写真22）。ほぼ完形の円筒埴輪2個体の口縁部を合わせ口状に配置し、他の円筒埴輪2/3個体分の破片を周囲に配置している。円筒埴輪棺の可能性が高いと考えられるが、内部からは人骨・副葬品ともに検出されていない。また、ローム層への掘り込みはなく、土坑に伴うことは確認できない。

円筒埴輪は3個体とも2条突帯3段構成で、法量も周辺の高塚にみられる2条突帯の円筒埴輪と変わらない。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔はすべて半円形で、第2段に1対を対向して配置している。突帯は全体に貧弱で、断面が三角形となっている。1の第3段内面には斜行する3条に直線の刻線が存在する。また、3には第3段外面に「×」形の刻線がある。2にも第3段外面に「×」形と思われる刻線が認められる。胎土には片岩・チャートの混入が目立ち、角閃石・白色針状粒は観察されない。焼成は窖窯焼成で、色調は1・2がにぶい橙色、3は橙色を呈する。

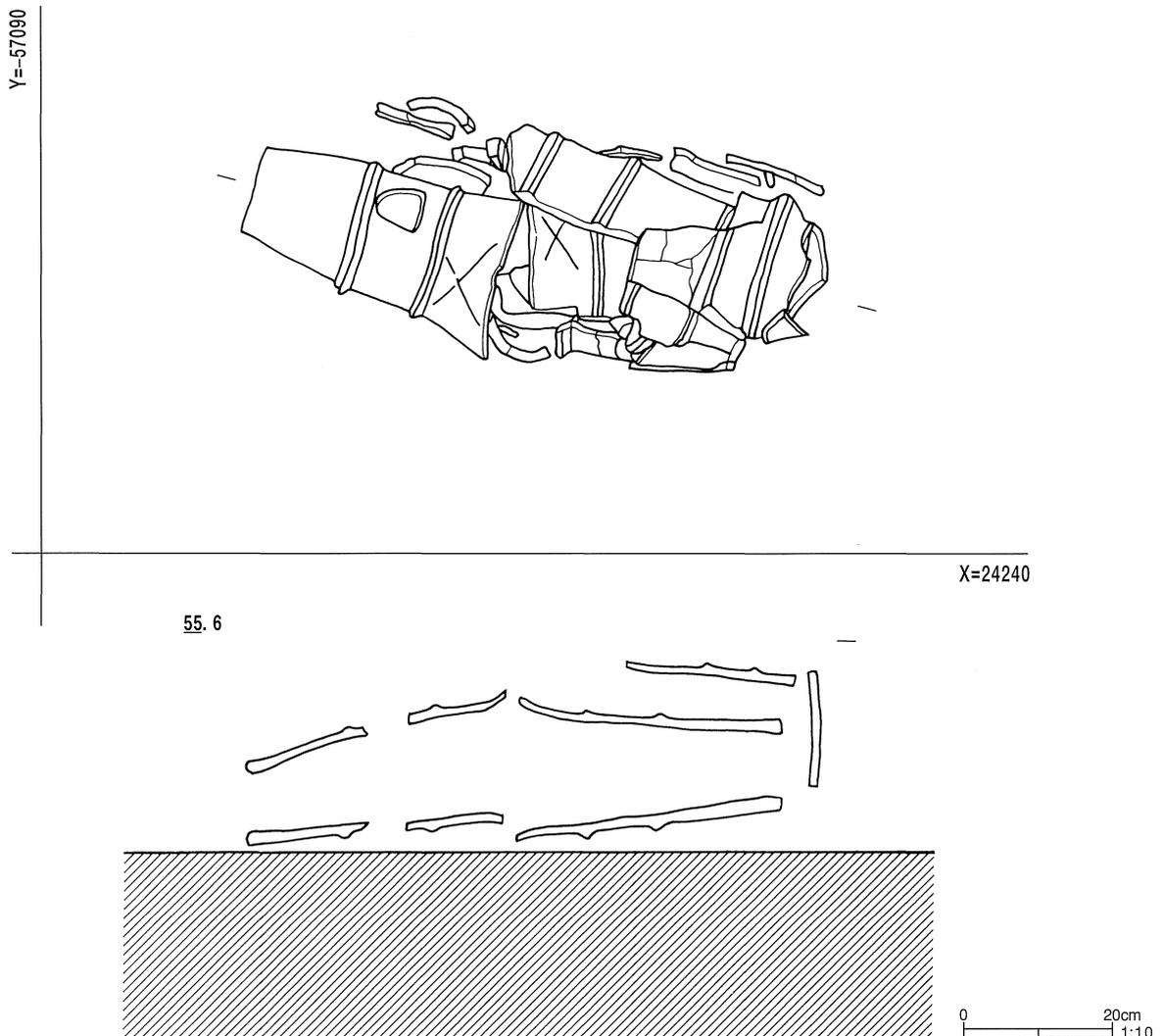


図274 検出状況

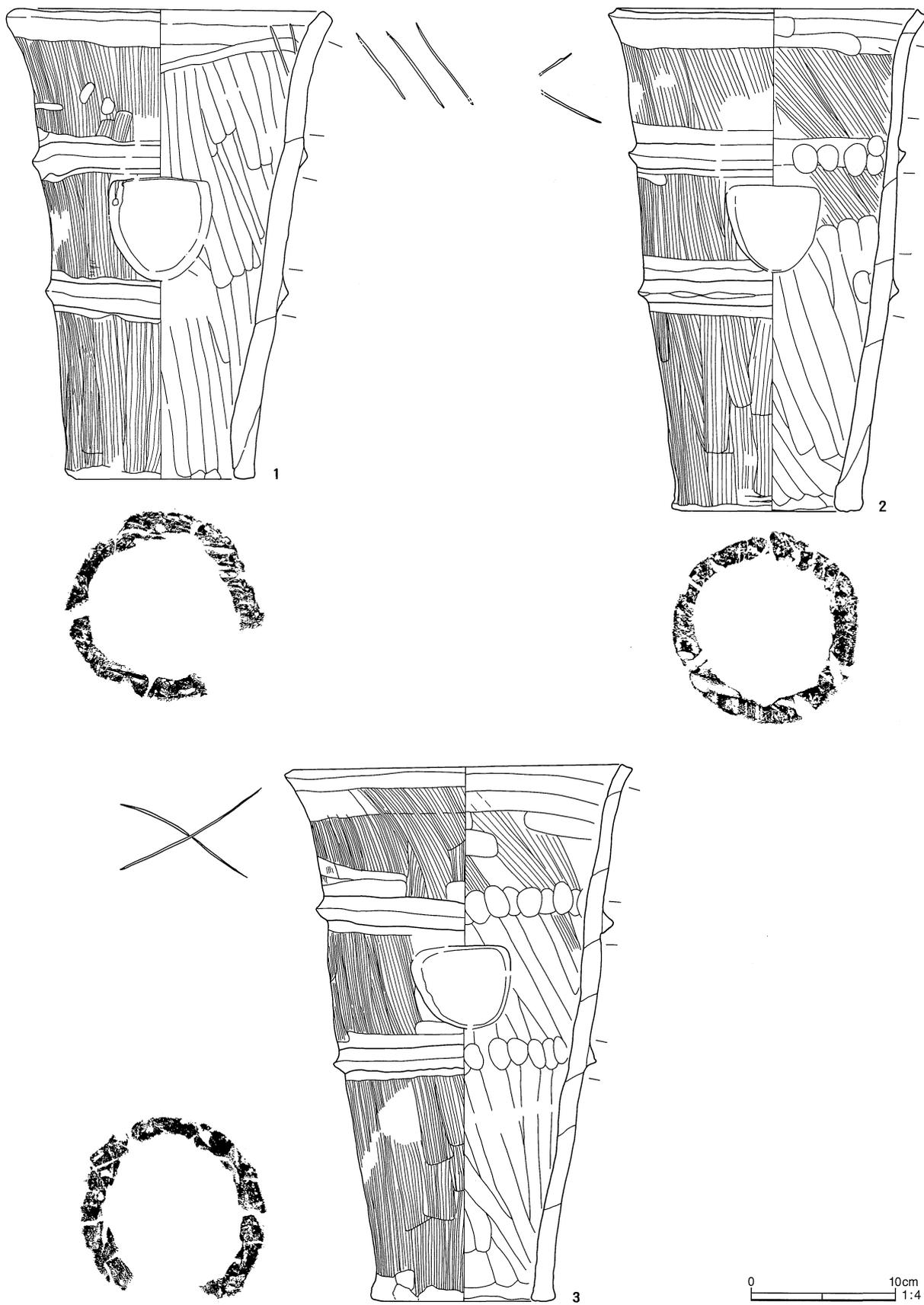


图 275 1Y-17G 出土円筒埴輪

9 土器集中

1Y-20 グリッドでは多数の完形品を含む土師器の一括を検出している（図 276、写真 22）。この地点では、住居跡などの明瞭な遺構を確認できなかったものの、ローム層への掘り込みをもたない浅い竪穴状の遺構が存在した可能性が考えられる。

器種は多量の坏を中心として、少数の高坏・小型埴・鉢・甕・甑・壺が加わる組成である（図 277～279、写真 71～73）。このうち、坏・小型埴・高坏・鉢などの小型品は完形品や一部が欠損する程度の個体がほとんどで、残存状態がおおむね良好であるのに対し、甕・壺などの大型品は中位以上の部分のみが出土している。通常の住居跡における土器組成の様相とは明らかに異なり、祭祀的性格をもった土器集積の可能性も考えられる。

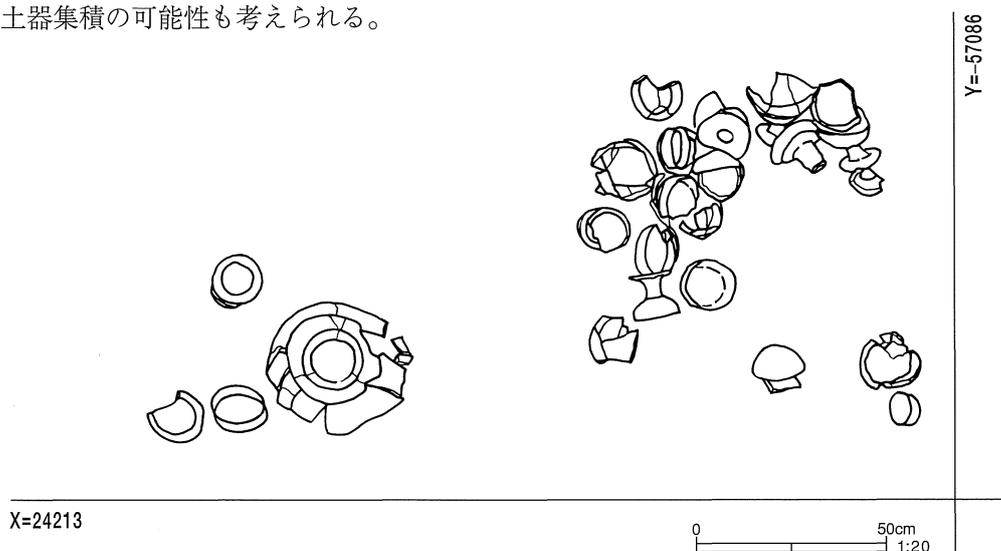


図 276 検出状況

1Y-20 グリッド出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 碗	口径 7.6 底径 4.5 器高 5.1	手捏ね。体部は湾曲し、口縁部は短く内屈する。底部は平底。	外面－指ナデ。内面－ナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－にぶい褐色	完形。
2	土師器 碗	口径 9.1 底径 5.6 器高 6.1	手捏ね。体部は底部との境にくびれを持ち、内湾気味に立ち上がり口縁部に至る。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ後指ナデ、体部指ナデ、底部ナデ。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外－にぶい橙色	口縁部一部欠損。
3	土師器 鉢	口径 10.5 底径 4.5 器高 6.2	手捏ね。体部はわずかに丸みを持って開き、口縁部は直立する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部指ナデ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート 内－明赤褐色 外－にぶい赤褐色	口縁部一部欠損。
4	土師器 埴	口径 (7.6) 底径 3.5 器高 7.6	体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反気味に大きく開く。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、上位指ナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部指ナデ。	角閃石・白色粒 内外－にぶい褐色	口縁部1/4残存。
5	土師器 埴	口径 (8.0) 底径 5.3 器高 7.9	体部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。底部はわずかな上げ底。	外面－口縁部ナデ、体部指ナデ、底部ナデ。内面－口縁部ナデ、体部～底部指ナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明褐色	口縁部～体部1/3欠損。
6	土師器 碗	口径 — 底径 — 器高 —	体部は丸みを持ち、口縁部は短く外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	雲母・白色粒 内－明赤褐色 外－にぶい褐色	体部1/4残存。
7	土師器 坏	口径 12.3 底径 4.3 器高 5.0	体部～口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・赤褐色粒 内－にぶい褐色 外－にぶい黄褐色	完形。口縁部外面に黒斑。

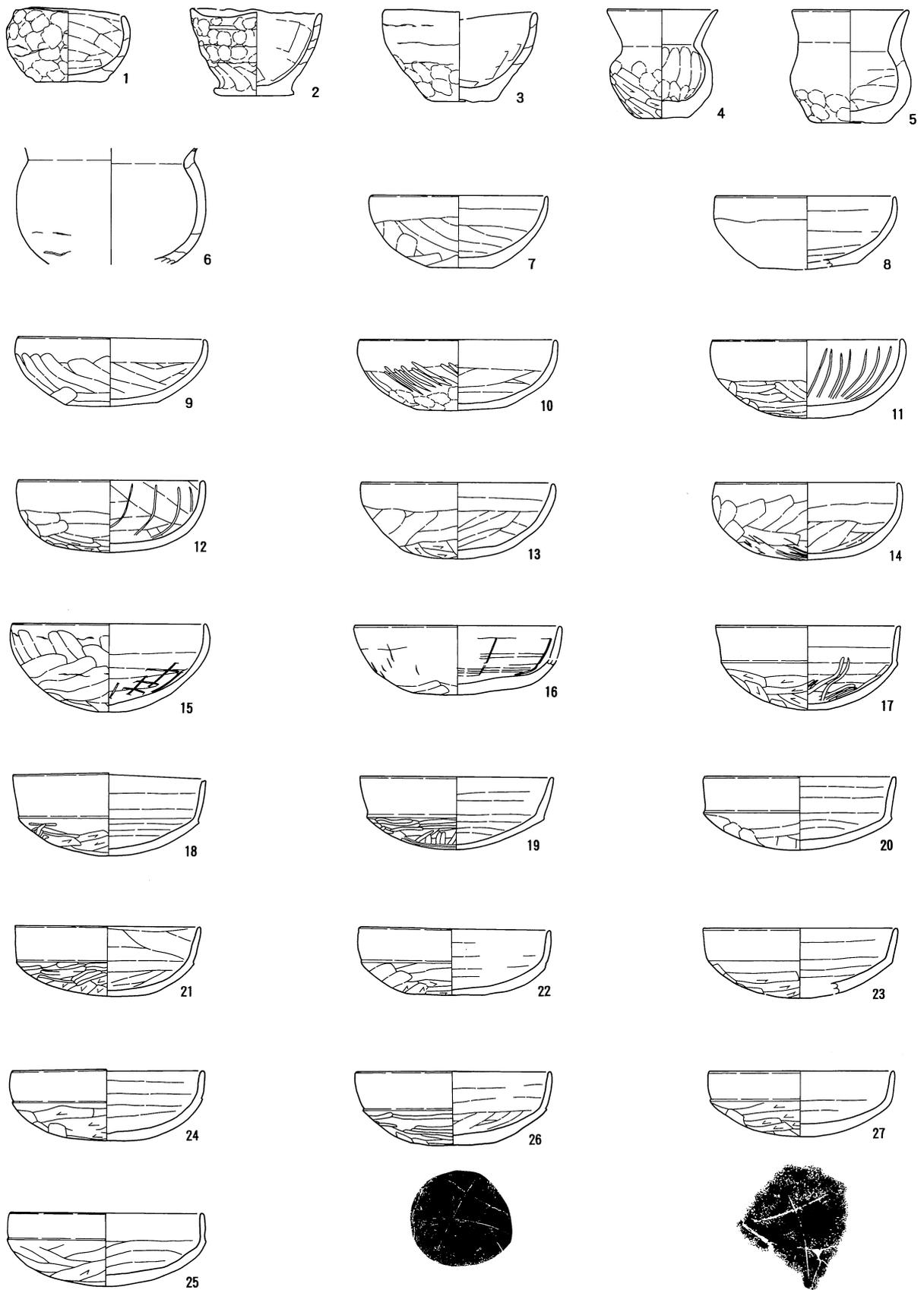


图 277 1Y-20G 出土土器 (1)

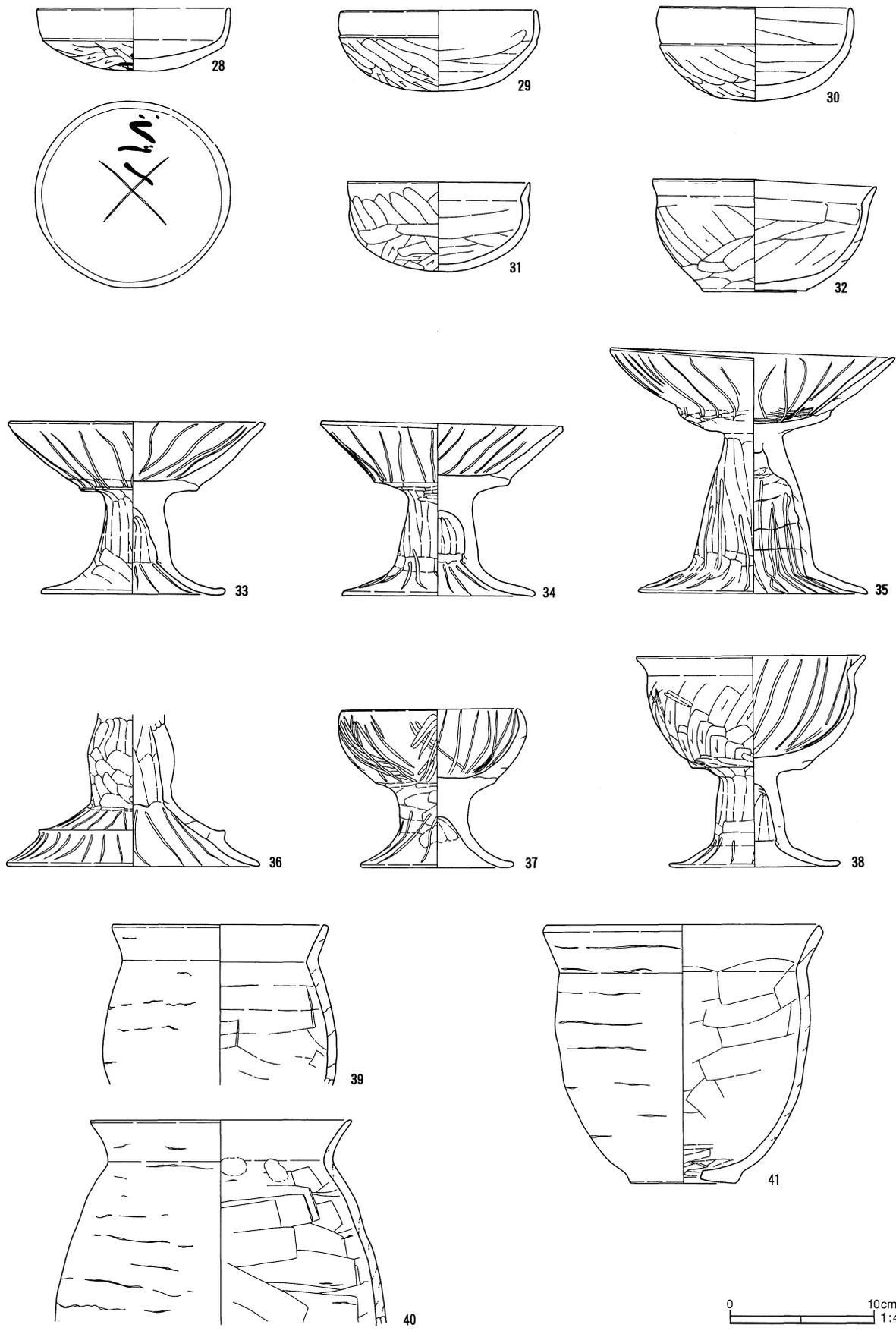


图 278 1Y-20G 出土土器 (2)

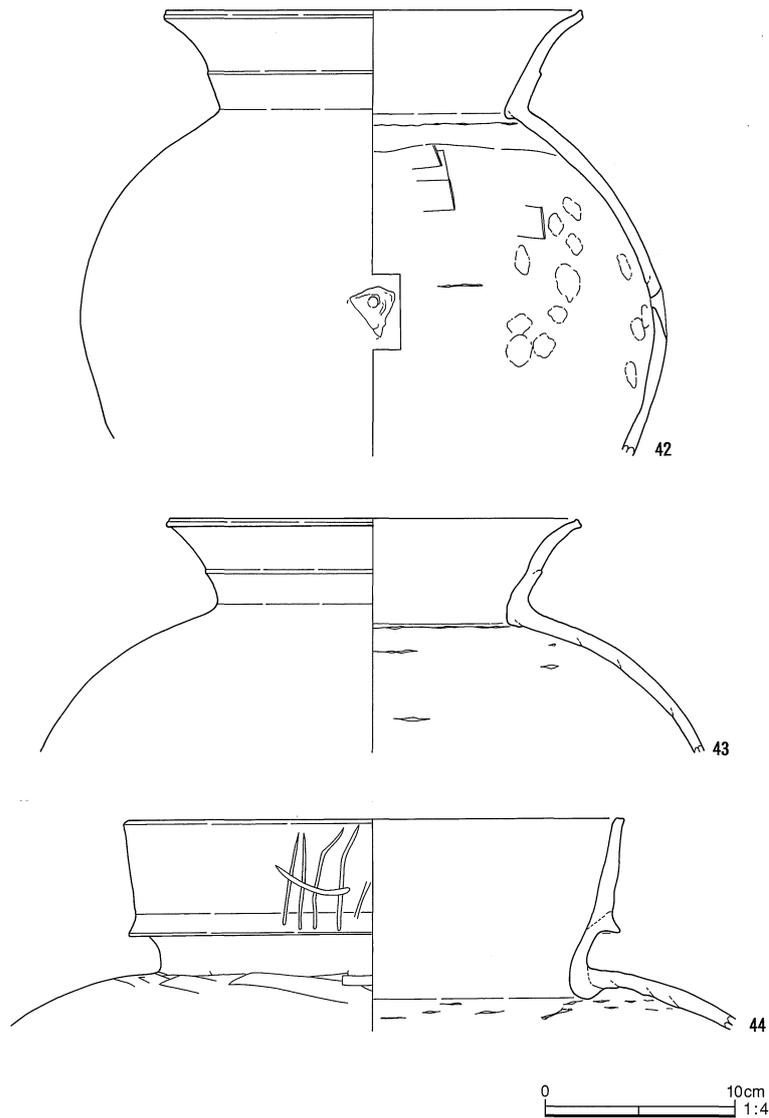


図 279 1Y-20G 出土土器 (3)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
8	土師器 坏	口径 12.5 底径 7.0 器高 5.2	わずかに窪む体部から、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・白色粒 内-にぶい赤褐色 外-にぶい褐色	口縁部と底部の一部欠損。
9	土師器 坏	口径 13.0 底径 6.4 器高 4.9	体部~口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・チャート 内外-にぶい褐色	完形。
10	土師器 坏	口径 13.5 底径 6.3 器高 5.0	わずかに窪む体部から、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は平底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデと篋先痕、底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・チャート・白色粒 内外-明赤褐色	完形。
11	土師器 坏	口径 13.2 底径 - 器高 5.5	わずかに窪む体部から、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ後ヘラケンマ。	石英・チャート 内外-にぶい褐色	完形。
12	土師器 坏	口径 12.7 底径 - 器高 5.1	体部~口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ後ヘラケンマ。	雲母・片岩 内外-にぶい褐色	完形。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
13	土師器 坏	口径 13.3 底径 — 器高 5.4	わずかに窪む体部から、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・石英 内－橙色 外－にぶい黄褐色	完形。底部外面に黒斑。
14	土師器 坏	口径 12.7 底径 — 器高 5.5	体部～口縁部は内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ナデと底部篋先痕。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・チャート 内－にぶい黄褐色 外－にぶい赤褐色	5/6。口縁部～体部の内外面に黒斑。
15	土師器 坏	口径 13.4 底径 — 器高 6.2	体部～口縁部は内湾して立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・チャート・白色粒 内外－にぶい黄褐色	完形。
16	土師器 坏	口径 (14.4) 底径 — 器高 4.9	体部～口縁部は外傾気味に立ち上がる。底部は平底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・石英 内外－にぶい褐色	1/2。底部外面に黒斑。
17	土師器 坏	口径 12.8 底径 — 器高 5.9	口縁部は体部との境に稜を持ち、やや外傾する。口唇部わずかに窪む。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ後にヘラケンマ。	雲母・赤褐色粒・白色粒 内外－橙色	完形。
18	土師器 坏	口径 13.4 底径 — 器高 5.8	口縁部は体部との境に稜を持ち、やや外傾する。口唇部わずかに窪む。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
19	土師器 坏	口径 13.3 底径 — 器高 5.1	口縁部は体部との境に稜を持ち、外傾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ヘラケンマと底部篋先痕。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・白色粒・褐色粒 内外－にぶい橙色	5/6。
20	土師器 坏	口径 13.3 底径 — 器高 5.2	口縁部は体部との境に稜を持ち、外傾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・白色パミス・赤褐色粒 内外－橙色	ほぼ完形。
21	土師器 坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.9	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、直立気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ヘラケンマ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母 内外－にぶい赤褐色	口縁部一部欠損。
22	土師器 坏	口径 13.4 底径 — 器高 4.7	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は平底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・赤褐色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい黄褐色	5/6。底部外面に黒斑。
23	土師器 坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 4.9	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、外傾する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・チャート・白色粒 内外－にぶい褐色	1/4。
24	土師器 坏	口径 13.3 底径 — 器高 5.0	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、内湾する。底部は平底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・チャート 内－明赤褐色 外－にぶい褐色	3/4。底部外面に黒斑。
25	土師器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.1	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	片岩・チャート 内－明赤褐色 外－にぶい赤褐色	5/6。
26	土師器 坏	口径 13.6 底径 — 器高 5.2	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、外傾気味に立ち上がる。底部は平底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ヘラケンマと底部篋先痕。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・チャート 内－にぶい褐色 外－褐色～にぶい褐色	ほぼ完形。
27	土師器 坏	口径 12.8 底径 — 器高 4.6	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、外傾する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	チャート・白色パミス・赤褐色粒 内－褐色 外－橙色	5/6。底部外面に線刻「十」。
28	土師器 坏	口径 13.3 底径 — 器高 4.5	口縁部は体部との境に稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部摩滅。	チャート・白色パミス・赤褐色粒 内－にぶい黄褐色 外－橙色	4/5。外面体部～底部に赤彩と線刻「十」。
29	土師器 坏	口径 13.5 底径 — 器高 5.8	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・白色粒 内－にぶい褐色 外－にぶい赤褐色	4/5。

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
30	土師器 坏	口径 13.1 底径 — 器高 5.6	口縁部は体部との境に稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・白色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい黄褐色	ほぼ完形。底部外面に棒状の圧痕。
31	土師器 坏	口径 12.6 底径 — 器高 5.3	内湾する体部から、口縁部は短く外傾する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ後に体部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	雲母・チャート 内－にぶい赤褐色 外－にぶい褐色	ほぼ完形。
32	土師器 鉢	口径 15.4 底径 7.2 器高 7.9	内湾する体部から、口縁部は短く外傾する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	片岩・チャート 内－明赤褐色 外－橙色	5/6。
33	土師器 高坏	口径 17.7 底径 12.5 器高 12.1	坏部は下位に弱い稜を持ち、口縁部は外傾して開く。脚部は中位にわずかな膨らみを持ち、裾部は外反気味に広がる。	外面－口縁部～坏部ミガキ、坏底部ヘラケズリ、坏部下端・脚部木口状工具ナデ、裾部ヨコナデ。内面－口縁部～坏底部ミガキ、脚部木口状工具ナデ、裾部ミガキ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
34	土師器 高坏	口径 16.6 底径 13.4 器高 12.2	坏部は下位に弱い稜を持ち、口縁部は外傾して開く。脚部は中～下位に膨らみを持ち、裾部は外反気味に広がる。	外面－口縁部～坏部ミガキ、坏底部～脚部木口状工具ナデ、脚部下端ヘラナデ、裾部ミガキ。内面－口縁部～坏底部ミガキ、脚部指ナデ、裾部ミガキ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形。
35	土師器 高坏	口径 (19.7) 底径 (15.8) 器高 17.1	坏底部の突起を筒状の脚部に差し込んで接合。坏部は下位に稜を持ち、口縁部は外傾して開く。脚部は中～下位に膨らみを持ち、裾部は広がる。	外面－口縁部～坏部ミガキ、脚部ナデ・裾部ヨコナデ後ミガキ。内面－口縁部ミガキ、坏底部ハケ目後ミガキ、脚部ナデ・裾部ヨコナデ後ミガキ。	雲母・黒色粒 内－黒褐色・明赤褐色 外－明赤褐色・にぶい黄褐色	2/3。
36	土師器 高坏	口径 — 底径 17.5 器高 —	脚部は中位に膨らみを持つ。裾部は中位に段を有し、外反気味に広がる。	外面－脚部ナデ、裾部縦位ミガキ。内面－脚部ナデ、裾部縦位ミガキ。	雲母・白色粒 内－明赤褐色 外－明赤褐色・明黄褐色	脚部～裾部残存。
37	土師器 台付壙	口径 12.3 底径 10.6 器高 11.1	体部は湾曲し、口縁部は短く内湾する。台部上位は直線的で、下位は短く外反して広がる。	外面－口縁部～体部ミガキ、体部下端木口状工具ナデ、台部ナデ後ミガキ。内面－口縁部～体部ミガキ、台部上位指ナデ、下位ヨコナデ。	片岩・角閃石・チャート 内－橙色 外－にぶい黄褐色・明赤褐色	ほぼ完形。
38	土師器 台付壙	口径 15.8 底径 11.8 器高 14.8	体部は下位に稜を持ち、湾曲して立ち上がる。口縁部は短く外反する。台部は中位にわずかに膨らむ。下位は広がり、端部がわずかに外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後上・下位ナデ、台部上位ナデ、下位縦位ミガキ。内面－口縁部～体部縦位ミガキ、台部上位ナデ、下位ヨコナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	口縁部～体部1/4欠損。
39	土師器 甕	口径 (15.0) 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外傾して開く。	外面－口縁部～胴部中位ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	チャート・黒色粒 内外－橙色	口縁部～胴部中位1/2残存。
40	土師器 甕	口径 (18.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部やや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデだが摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、頸部指頭痕、胴部ヘラナデ。	雲母・白色粒・赤褐色粒 内外－橙色	口縁部～胴部中位1/3。
41	土師器 甕	口径 (19.0) 底径 7.4 器高 (18.0)	粘土紐積み上げ成形。胴部は上位でわずかに膨らむ。口縁部は外傾して立ち上がり、端部面取り。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデだが摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート・赤褐色粒 内－にぶい橙色 外－にぶい黄褐色	口縁部～胴部中位1/2。胴部下位～底部。焼成前の穿孔。
42	土師器 甕	口径 22.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は丸く膨らみ、口縁部は二重口縁を呈する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリだが摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、胴部指頭痕とヘラナデ。	雲母・白色粒・赤褐色粒 内－灰黄褐色 外－橙色	口縁部～胴部中位。胴部中位に焼成後の穿孔。
43	土師器 甕	口径 21.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。口縁部は二重口縁を呈する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデだが摩滅。	片岩・白色粒 内－灰黄褐色 外－にぶい黄褐色	口縁部～胴部上位2/3。
44	土師器 大甕	口径 26.5 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。口縁部は二重口縁を呈する。	外面－口縁部ヨコナデ後一部ヘラケナメ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	片岩・雲母・白色粒 内外－橙色	口縁部～胴部上位3/4。

10 グリッド出土遺物

昭和63～平成3年度にかけての発掘用調査にともない表土を掘削した際に、時に表土・攪乱など遺構に伴わない状態で検出されたものをグリッド出土遺物として一括した。検出地点は、調査区の各所に及んでいる。器種は埴輪・土師器・須恵器・中世土器など遺構出土遺物の内容と同様である。調査区内には桑の根・ブタの死骸・野菜くずの投棄やウドの栽培ともなう攪乱が存在したが、これらに投棄された遺物のうちには、比較的良好な状態のものも多い。

a. 埴輪

円筒埴輪（図280～283、写真73～76）

全形の判明する資料はないものの、径の大きさからしてほとんどが2条突帯3段構成品と推測される。外面調整は一次タテハケのみで、二次調整が加えられる個体は含まれない。透孔は円形または半

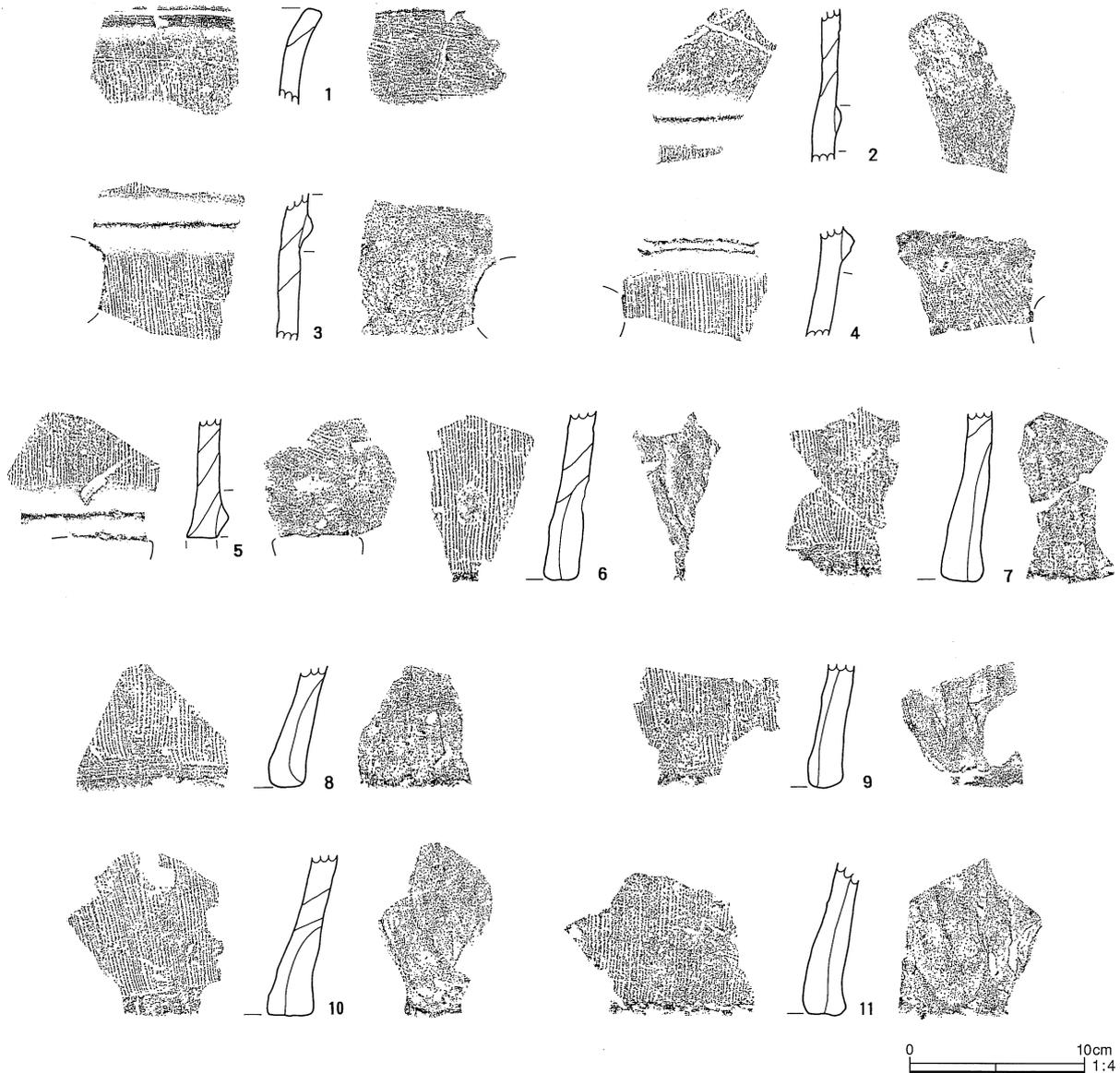


図280 グリッド出土円筒埴輪（1）

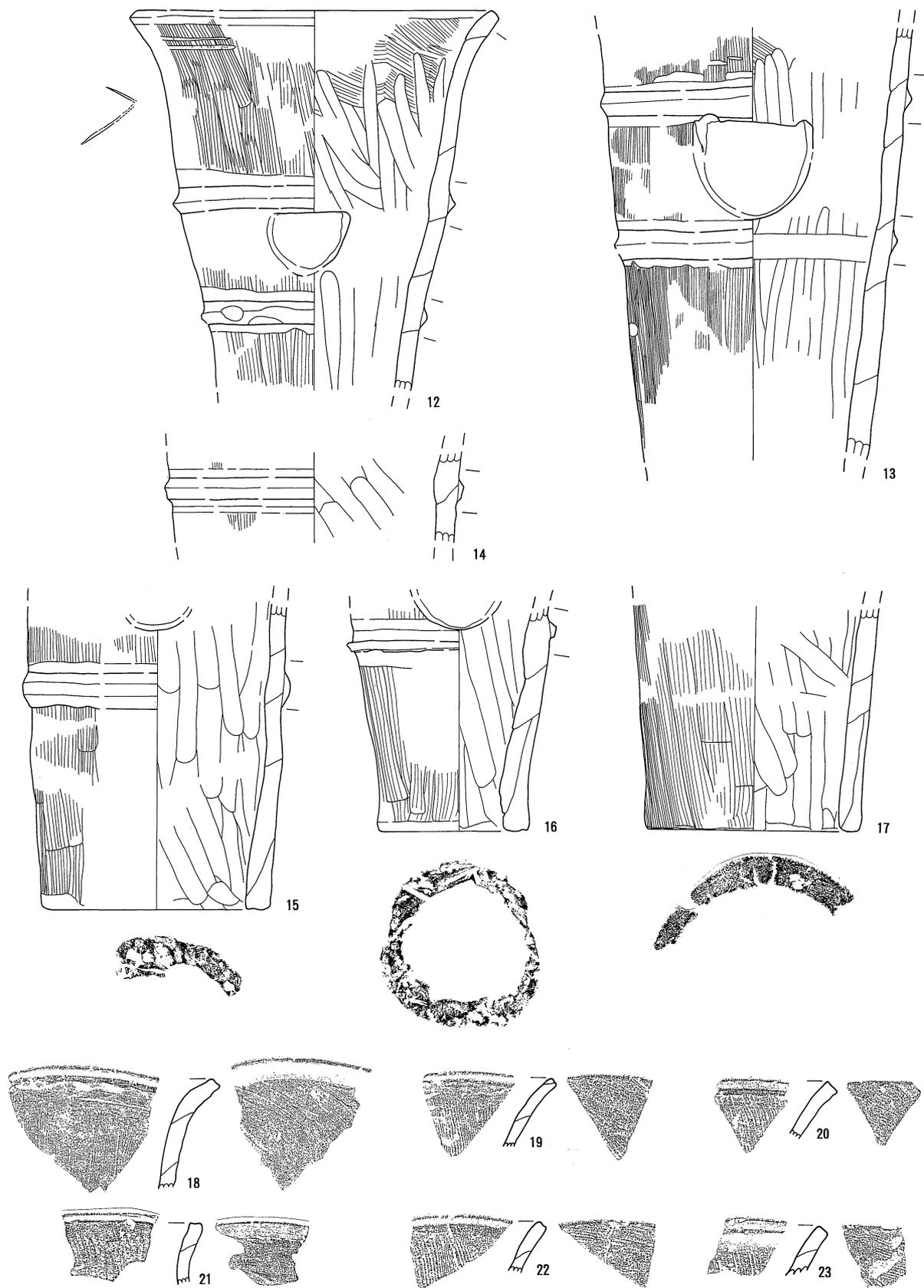


図 281 グリッド出土円筒埴輪 (2)

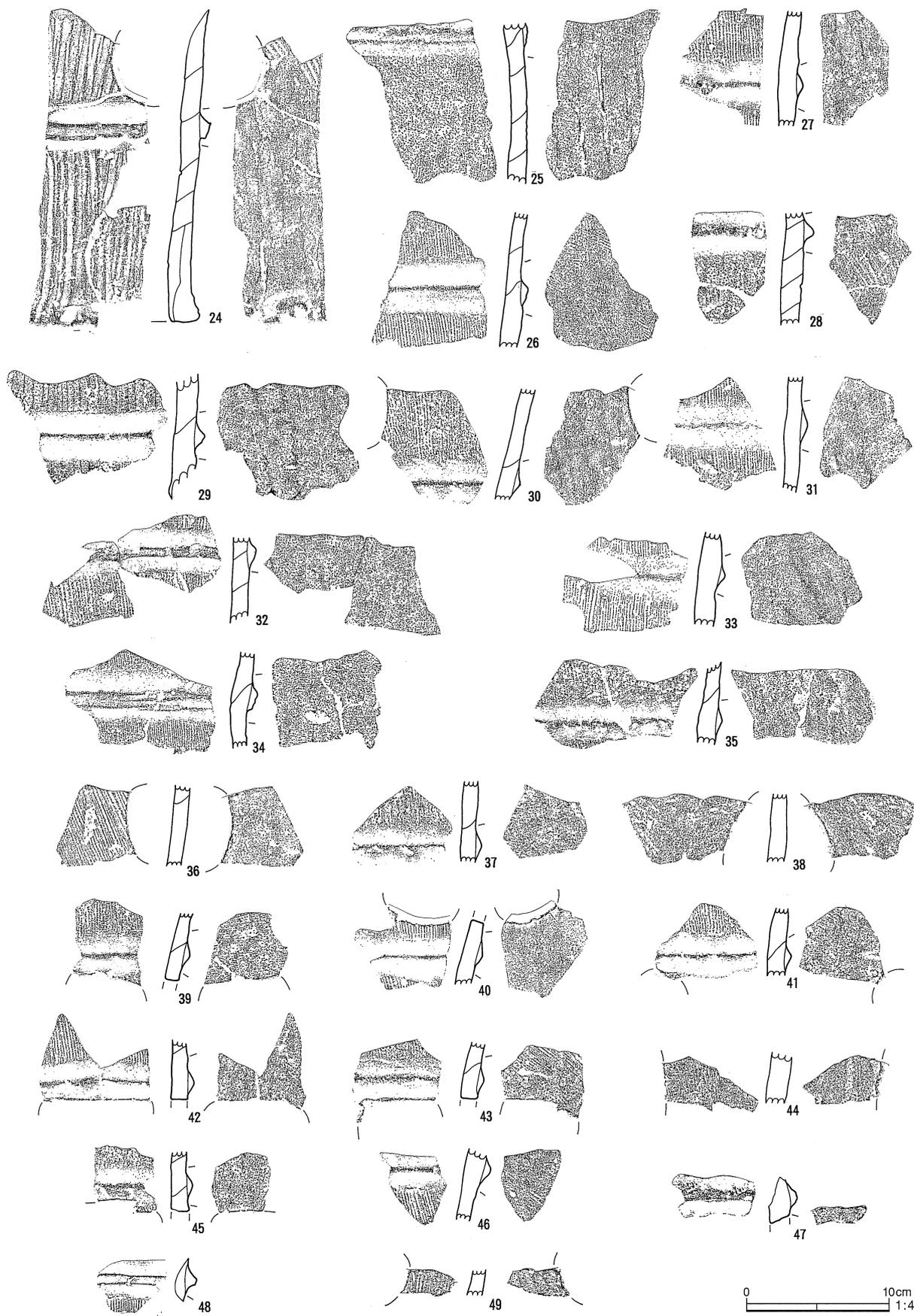


図 282 グリッド出土円筒埴輪 (3)

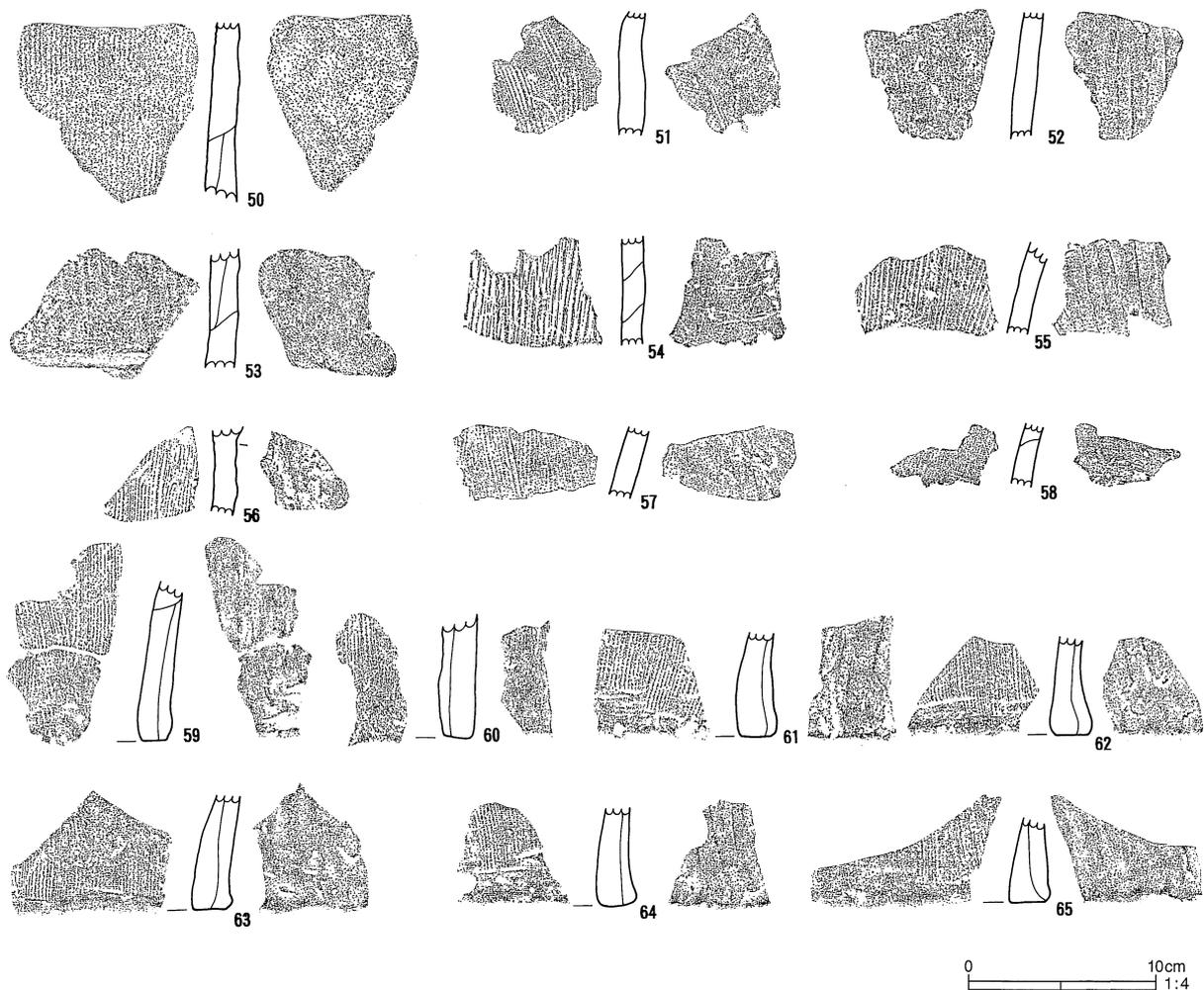


図 283 グリッド出土円筒埴輪 (4)

円形で、7は方形となる可能性がある。突帯は総じて貧弱で、断面は崩れたM字形や三角形となっている。2の外表面および12の第3段外表面には「×」形と思われる刻線が観察される。また58にも波形の線刻が存在する。胎土には片岩・チャートの混入が目立ち、角閃石・白色針状粒を含む個体もみられる。焼成はすべて窖窯焼成で55・56は還元焼成となっている。色調は橙色を呈する個体が多く、ほかににぶい橙色・明赤褐色・明褐色を示す個体がある。還元焼成の55・56は灰褐色を呈する。

なお、1～11はⅡ-12、Ⅳ-12グリッドに集中することから、ST-40に帰属する可能性が高い。
 形象埴輪 (図 284・285、写真 76)

家 [1]

家の壁体隅部の破片で、突帯を格子状に貼付している。調整は外面が縦位のハケ、内面にはナデを施している。胎土にチャートを含み、色調は橙色を呈する。

靱 [2～3]

2は靱本体の側面部、3は2と同一固定と判断される台部である。2の調整は外面が縦位のハケおよびナデ、3は縦位のハケのみ、内面は2・3ともにナデを施している。胎土には石英・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

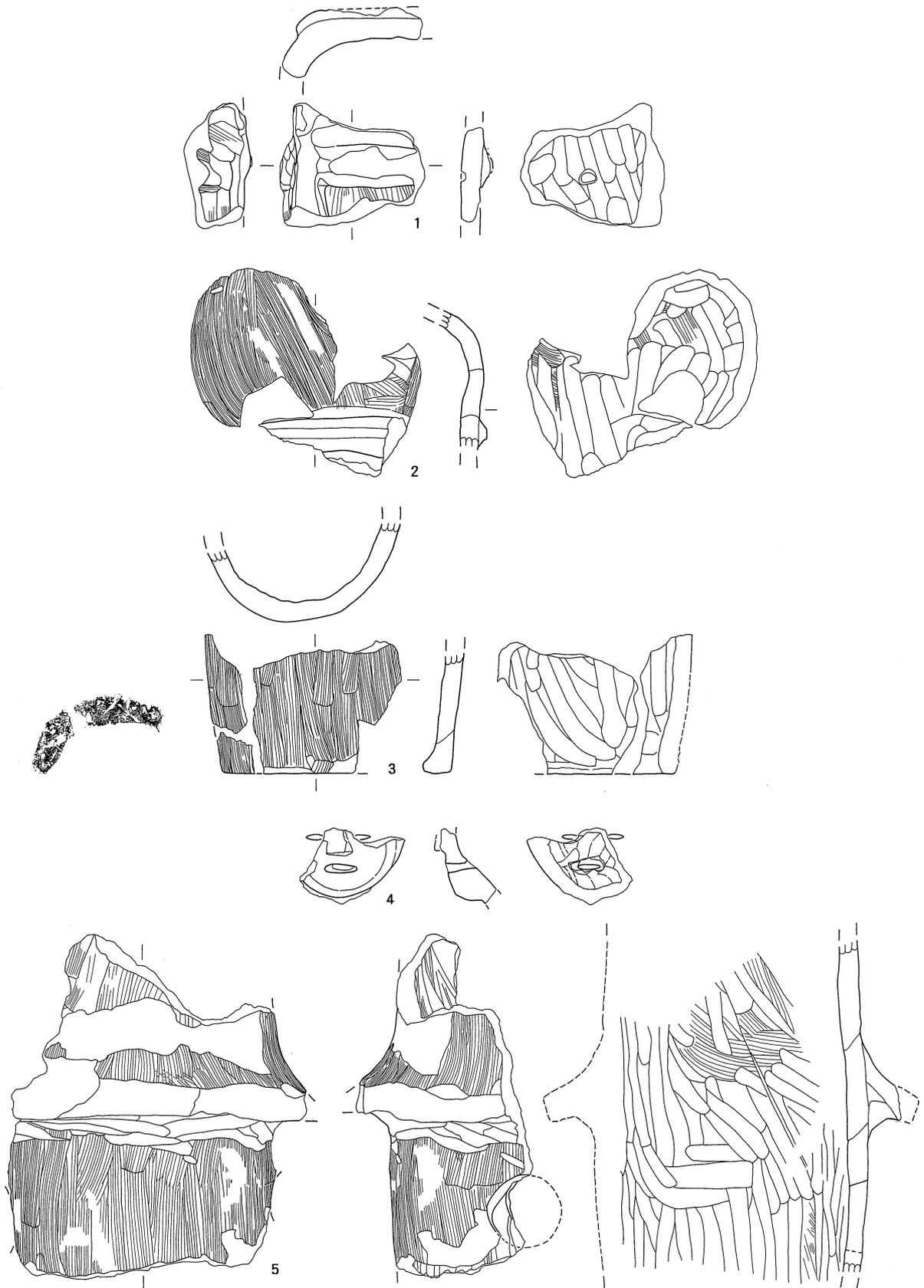


図 284 グリッド出土形象埴輪 (1)

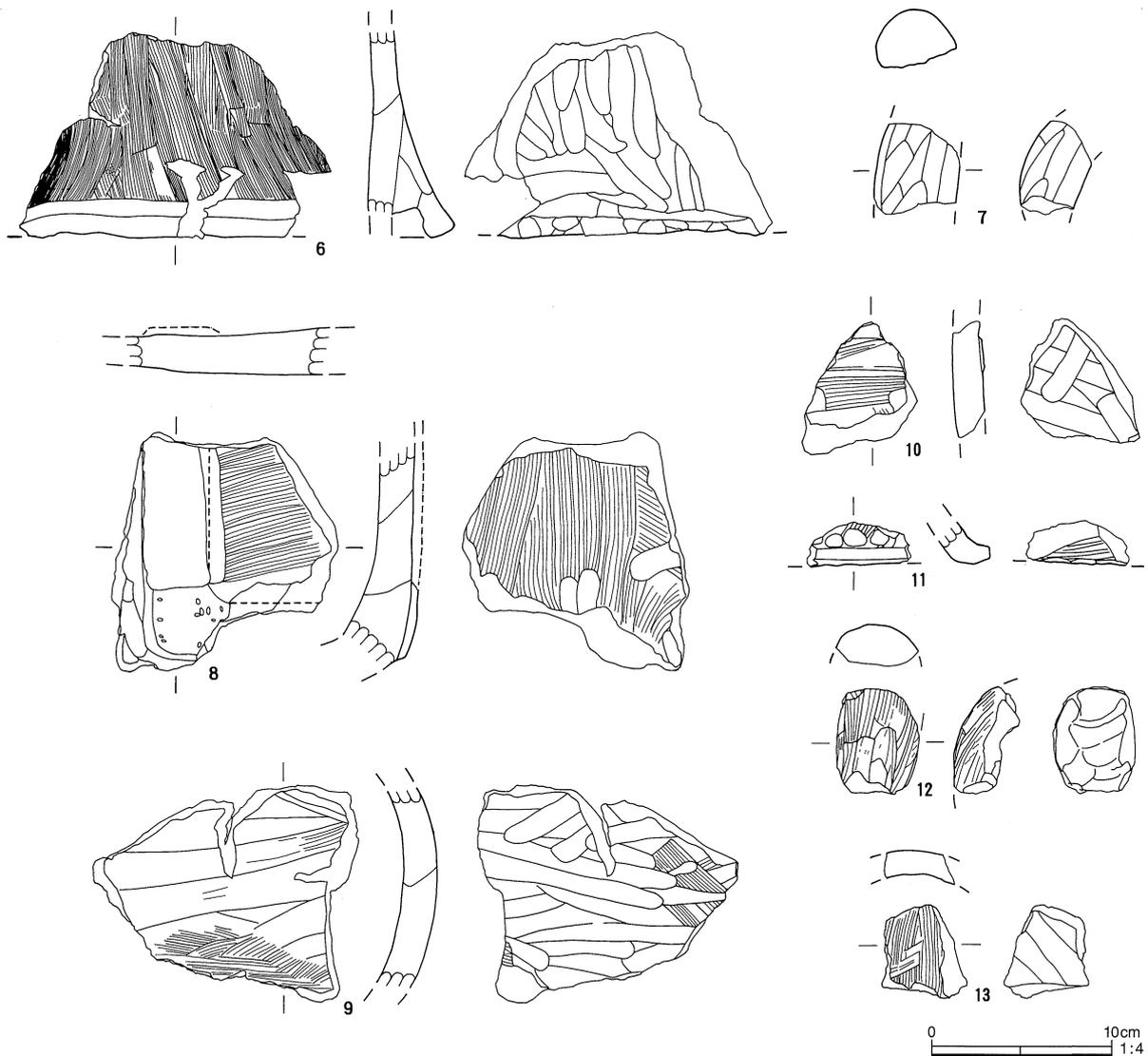


図 285 グリッド出土形象埴輪 (2)

人物 [4～7]

4 は人物の顔面部下半である。

5 は人物の衣裾部から台部上半かけての破片である。円筒状の胴部本体に粘土帯を貼り足して衣の裾部を表現しているが、先端部を欠損している。台部には円形透孔を穿っている。調整は外面が縦位のハケ、内面が斜位ハケののち縦位および斜位のナデを加えている。胎土にチャートを含み、色調はにぶい赤褐色を呈する。

6 も人物の衣裾部である。円筒状の胴部本体に幅広の粘土帯を貼付し、衣の裾部を表現している。調整は外面が縦位のハケで、裾部にヨコナデを加え、内面はナデを施している。胎土に石英・チャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

7 は中実成形による腕の一部である。調整はやや粗いナデで、胎土に片岩・チャートを含み、色調は橙色を呈する。

馬 [8]

障泥部分の破片である。縁辺部に幅広の粘土帯を貼付し、表面に刺突を加えて、縁金を表現する。調整は外面がハケ、内面がハケおよびナデで、胎土にチャートを含み、色調はにぶい橙色を呈する。

器種不明 [9～13]

9は緩やかに湾曲する破片で、動物の胴部の可能性が考えられる。調整は外面がハケ、内面がハケのちナデで、胎土にチャートを含み、色調は明赤褐色を呈する。

10は平板な破片で、幅2cm程の薄い粘土帯を貼付している。調整は外面がハケおよびナデ、内面がナデで、胎土にチャートを含み、色調は橙色を呈する。

11は本体から剥離した人物の衣裾の一部と考えられる。調整は外面がハケで、指頭圧痕がみられ、内面がハケおよびナデ、色調はにぶい赤褐色を呈する。

12は人物腕部の破片の可能性はある。中実成形で、表面の調整はハケおよびナデで、色調は赤褐色を呈する。

13は器壁が薄く、比較的強く湾曲している。器財の一部の可能性が考えられる。調整は外面がハケ、内面がナデで、色調はにぶい橙色を呈する。

b. 土器

土師器 (図286～290、写真77～79)

ミニチュア土器・埴・坏・高坏・鉢・S字甕・台付甕・甕・甑・甗・壺などがある。ほとんどの器種の年代は古墳時代に帰属するが、甕のみは平安時代の資料がかなりの割合を占めている。

4～6の坏の内面には放射状の暗文が観察される。13は中実式の脚をもつ高坏で、14とともに脚部内面に暗文をもつ。16・17の埴はともに大型品で粗いヘラミガキを施している。51は無頸壺と思われる資料でやや特異な器形である。

須恵器 (図290、写真79)

55の坏には焼成前の穿孔が存在する。56の甕は、曲線的に外反する頸部と張りの緩い肩部もつ。

土錘 (図290、写真79)

57・58ともに紡錘形の土錘である。調査区ではこのほかにも、紡錘形土錘の小片がいくつか出土しているが、遺構にともなう資料がなく、帰属時期の詳細は不明である。

中世土器・磁器 (図291・292、写真80)

大小のかわらけと碗・高台付碗・片口鉢・鍋・播鉢・捏鉢・甕などの陶器のほか染付磁器などがある。59～65のかわらけはいずれもロクロ成形で、体部は外反して直線的に立ち上がり、底部外面は回転糸切り離し無調整である。高台付碗には67・70の天目茶碗、69の山茶碗が含まれる。鍋・播鉢は軟質陶器で、播鉢の内面には同心円状のすり目がみられる。

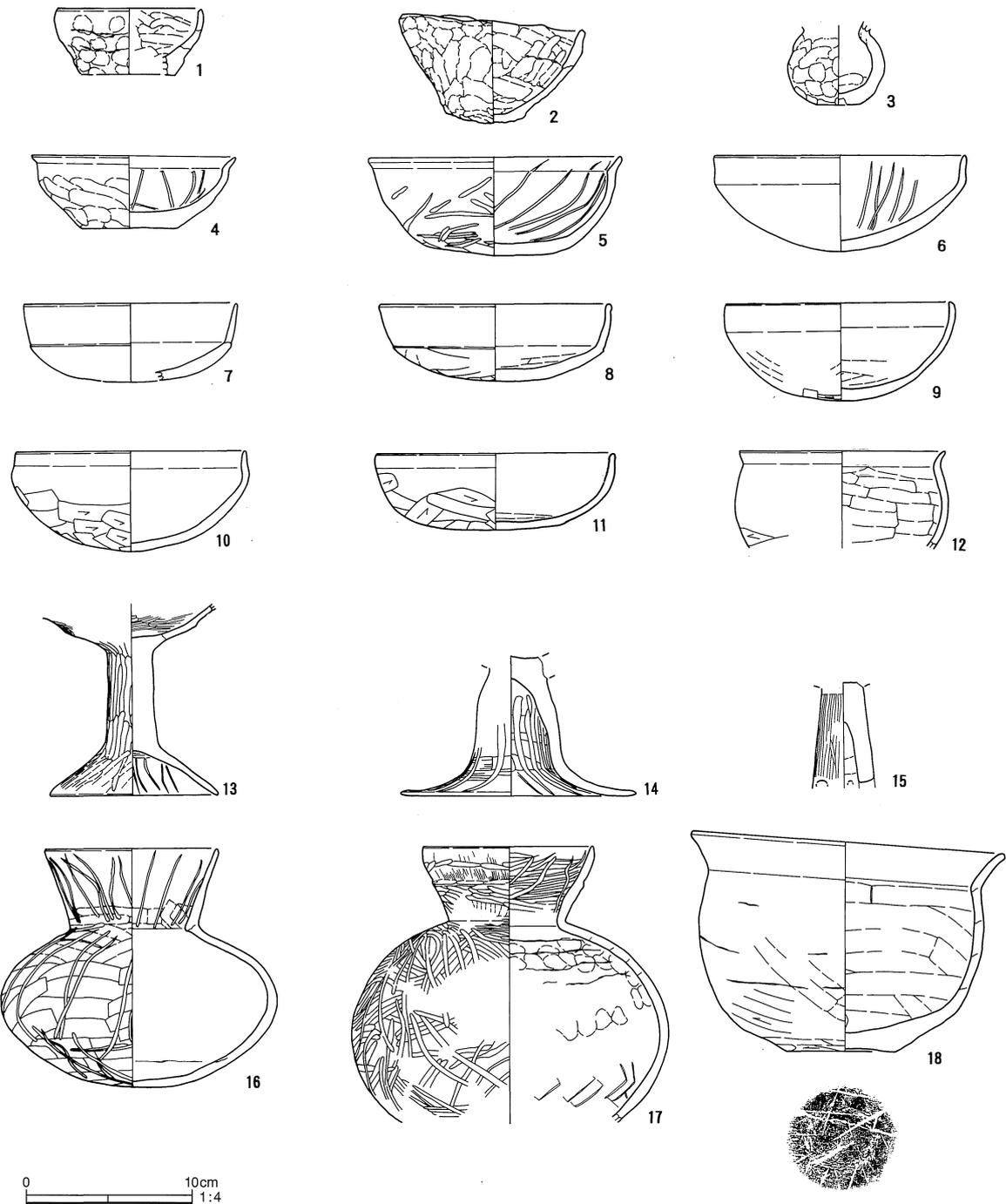


図 286 グリッド出土土器 (1)

グリッド出土土器観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 ミニチュア 土器	口径 (8.7) 底径 (5.7) 器高 (4.1)	手捏ね。体部は下位にくびれを持ち、上位で内湾して口縁部に至る。底部は平底。	外面-口縁部~体部木口状工具ナデ後指押え、底部ナデ。内面-口縁部~底部木口状工具ナデ。	白色粒・褐色粒 内-にぶい赤褐色 外-赤褐色	1/5。 1Y-20G
2	土師器 ミニチュア 土器	口径 11.2 底径 4.9 器高 6.6	手捏ね。体部は底部との境にくびれを持ち、丸みを持って開く。口縁部は内傾気味に短く立ち上がる。底部は平底で、丸みを帯びる。	外面-口縁部~底部指ナデ。内面-口縁部~底部木口状工具ナデ・指ナデ。	雲母・白色粒 内-にぶい黄褐色 外-にぶい褐色	完形。 1Y-20G
3	土師器 ミニチュア 土器	口径 - 底径 2.6 器高 -	粘土紐積み上げ成形。底部は平底だが一部剥落。	外面-胴部指頭痕、底部ヘラケズリ。内面-胴部~底部ユビナデ。	雲母・赤褐色粒 内外-にぶい赤褐色	口縁部欠損。 2A-20G

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
4	土師器 坏	口径(12.4) 底径 5.6 器高 4.5	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外傾する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ユビナデと一部ハケメ、底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母 内－にぶい黄橙色 外－明赤褐色	口縁部1/2欠損。 2A-20G
5	土師器 坏	口径 15.4 底径 — 器高 6.0	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く外傾する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ミガキ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部～底部縦位ミガキ。	チャート・黒色粒 内－明赤褐色 外－橙色・オリーブ黒色	2/3。 1D-9G
6	土師器 坏	口径(15.4) 底径 — 器高 5.8	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、やや外反する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリだが摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケンマ	雲母・石英・白色粒 内内外－明赤褐色	1/3。 2A-20G
7	土師器 坏	口径(13.0) 底径 — 器高 —	口縁部は体部との境にわずかな稜を持ち、外傾して立ち上がる。底部は平底気味。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリだが摩滅。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデだが摩滅。	白色粒・赤褐色粒 内外－橙色	2/5。 2B-20G
8	土師器 坏	口径(14.2) 底径 — 器高 4.7	口縁部は浅い体部との境に弱い稜を持ち、内湾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	1/2。 1X-21G
9	土師器 壺	口径(13.7) 底径 — 器高 6.0	体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は短く内湾する。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内－にぶい赤褐色 外－にぶい黄褐色・黒褐色	1/3。 1X-21G
10	土師器 碗	口径(14.0) 底径 — 器高 6.1	口縁部は体部との境に緩やかな稜を持ち、内傾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 赤褐色粒 内外－にぶい黄褐色	1/2。 1Z-17G
11	土師器 壺	口径 14.4 底径 8.2 器高 4.7	体部はわずかな丸みを持ち、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は平底で、やや丸みを帯びる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後上位ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	チャート・黒色粒 内－にぶい黄褐色 外－にぶい赤褐色・にぶい黄褐色	1/2。 1R-13G
12	土師器 坏	口径(12.1) 底径 — 器高 —	体部は丸みを持ち、口縁部は短く外反して立ち上がる。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後、上～中位ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	口縁部～体部 1/4残存。 1Y-17G
13	土師器 高坏	口径 — 底径(10.2) 器高 —	坏部は下位にわずかな稜を持って開く。脚部は直線的で、裾部は内湾気味に広がる。	外面－坏部～脚部ミガキ、裾部ナデ。内面－坏底部・裾部ミガキ、裾部上端にハケ目。	黒色粒・白色粒 内外－橙色・明赤褐色	1/3残存。 1Y-20G
14	土師器 高坏	口径 — 底径(14.4) 器高 —	脚部は上位に膨らみを持ち、裾部は外反気味に広がる。	外面－脚部摩滅、脚部下端～裾部上端ハケ目後ミガキ。内面－脚部ヘラケズリ後、裾部までミガキ。	雲母・黒色粒 内外－赤褐色	脚部～裾部 1/2残存。 1Y-20G
15	土師器 高坏	口径 — 底径 — 器高 —	直線的にわずかに開く脚部。3孔。	外面－脚部ミガキ。内面－脚部中位ヨコナデ。	片岩・白色粒・褐色粒 内外－明赤褐色	脚部1/2残存。 1E-8G
16	土師器 埴	口径(10.6) 底径 — 器高(14.5)	体部は中位で大きく膨らむ。口縁部は直線的に開く。底部は丸底。	外面－口縁部縦位ミガキ、胴部上位ヘラナデおよび胴部中位～底部ヘラケズリ後、ミガキ。内面－口ヘラケズリ後、ミガキ。内面－口縁部縦位ミガキ、胴部～底部ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－にぶい赤 内外－にぶい赤褐色	体部1/5欠損。 1D-9G
17	土師器 埴	口径(10.3) 底径 — 器高 —	体部は中位に大きな膨らみを持つ。口縁部は外傾して開き、中位の稜から内湾気味となる。	外面－口縁部上位ハケ目後ミガキ、稜上部ナデ、下位ナデ後ミガキ、体部ミガキ。内面－口縁部ミガキ、体部ヘラケズリ後、上位指ナデ・指押え。	チャート・黒色粒 内外－明赤褐色	口縁部～体部 1/3残存。 1Y-20G
18	土師器 鉢	口径(19.1) 底径 6.5 器高 13.4	体部は下位に膨らみを持つ。口縁部は外反する。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、底部木葉痕。内面－口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	片岩・チャート 内－にぶい褐色 外－にぶい橙色	2/3。 1Y-21G

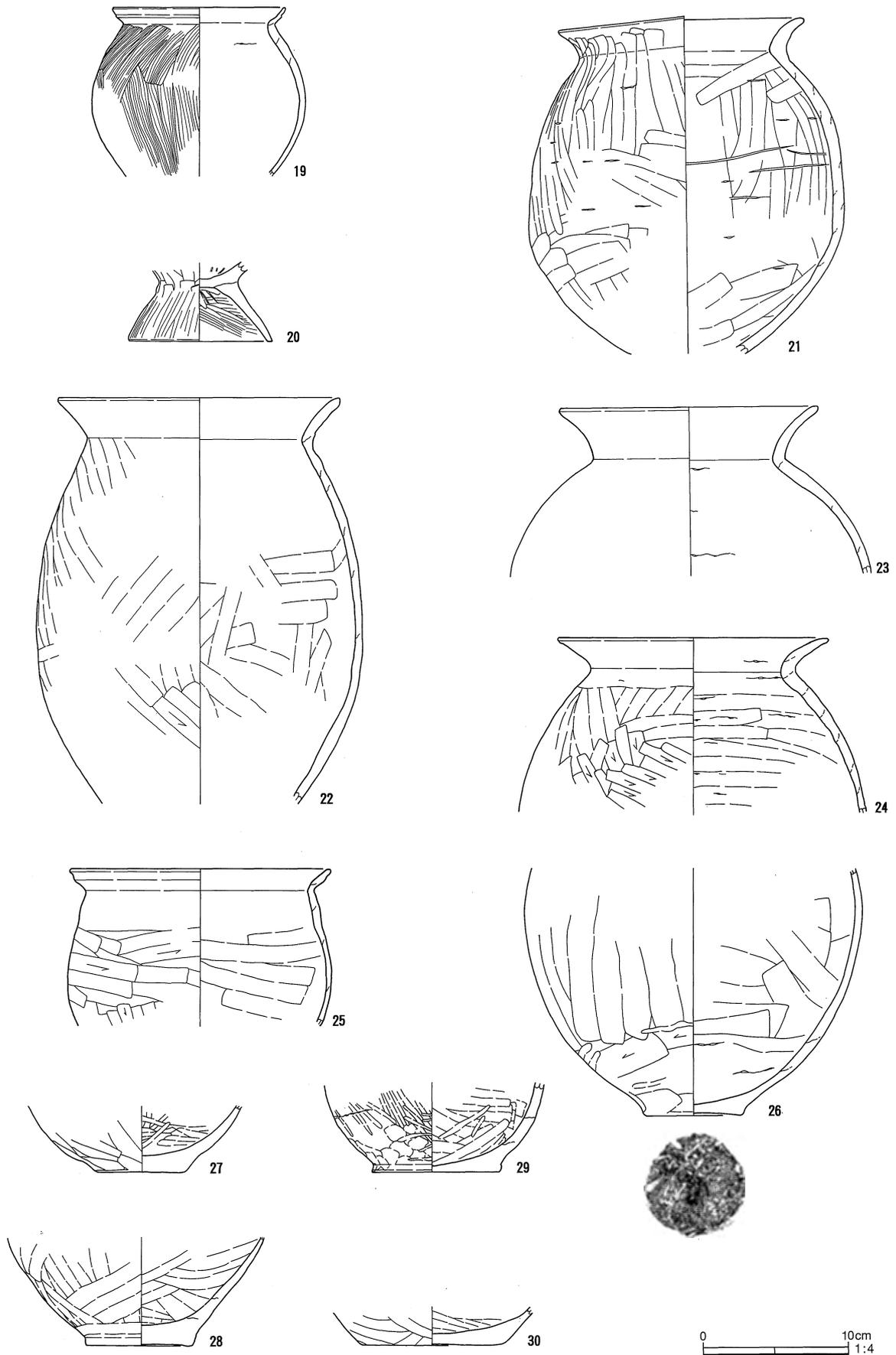
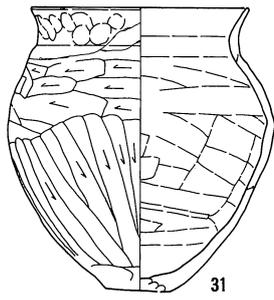
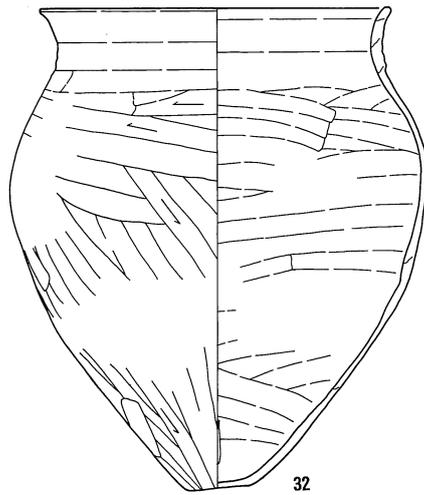


図 287 グリッド出土土器 (2)

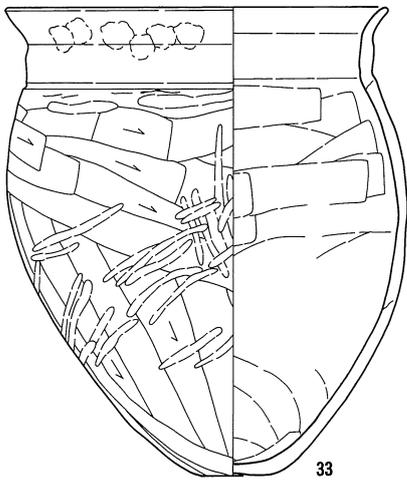
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
19	土師器 台付甕	口径(12.0) 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は弱いS字状を呈す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内－にぶい褐色 外－にぶい橙色	口縁部～胴部 1/3残存。 1X-16G
20	土師器 台坏甕	口径 — 底径 10.0 器高 —	台部はやや内湾気味に開き、端面取り。	外面－台部ハラケズリ後ハケメ。内面－台部ハケメ後に上部ユビナデ。	雲母・石英・赤褐色粒 内外－明赤褐色	裾部1/4欠損。 2A-20G
21	土師器 甕	口径 16.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は下位に膨らみを持ち、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデと中位に篦先痕。	雲母・チャート・赤褐色粒 内外－にぶい赤褐色	口縁部～胴部下 位4/5。 1Y-21G
22	土師器 甕	口径 19.6 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみを持ち、口縁部は外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラケズリ後ハラナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ。	片岩・白色粒・褐色粒 内外－にぶい橙色	口縁部～胴部 2/3残存。 1Y-19G
23	土師器 甕	口径(17.8) 底径 — 器高 —	胴部は上～中位に膨らみを持つ。口縁部は強く外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	チャート・黒色粒 内－にぶい黄色 外－橙色	口縁部～胴部上 位1/3残存。口 縁部内面に煤付 着。 1X-20G
24	土師器 甕	口径(18.8) 底径 — 器高 —	胴部は中位に大きな膨らみを持ち、口縁部は強く外反して開く。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ハラナデ、胴部中位ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ハラナデ。	雲母・白色粒 内外－にぶい褐色	口縁部一部欠損。 胴部上位 1/3残存。 1Y-19G
25	土師器 甕	口径(18.0) 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみを持つ。口縁部は短く外傾し、弱いS字状を呈す。	外面－口縁部～胴部上位ヨコナデ、胴部中位ハラケズリ。内面－口縁部～胴部上位ヨコナデ、胴部中位ハラナデ。	白色粒・褐色粒 内－褐色 外－暗灰黄色	口縁部～胴部 中位1/5残存。 1D-8G
26	土師器 甕	口径 — 底径 7.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位でやや膨らむ。	外面－胴部ハラケズリ後ナデ、底部篦先痕。内面－胴部～底部ハラナデ。	雲母・片岩・赤褐色粒 内外－にぶい黄橙色	胴部下半～底部 1/3。 2A-20G
27	土師器 甕	口径 — 底径 6.1 器高 —	粘土紐積み上げ成形。	外面－胴部ハラケズリ、底部ナデ。内面－胴部～底部ハラナデと篦先痕。	雲母・片岩・チャート 内－にぶい黄橙色 外－にぶい橙色	胴部下位～底部 4/5。 1Z-18G
28	土師器 甕	口径 — 底径 7.3 器高 —	胴部は膨らみを持って開く。底部は台状。	外面－胴部下位ハラナデ、底部ナデ。内面－胴部下位～底部ハラナデ。	片岩・チャート 内－明赤褐色 外－褐灰色	胴部下位～底部 3/4残存。 1Y-21G
29	土師器 甕	口径 — 底径 8.7 器高 —	胴部は下位から膨らみを持って立ち上がる。底部は台状。	外面－胴部下位～底部木口状工具ナデ、胴部下端指ナデ。内面－胴部下位～底部木口状工具ナデ。	チャート・黒色粒 内－明褐色 外－にぶい褐色	胴部下位～底部 3/4残存。 1Y-20G
30	土師器 甕	口径 — 底径 10.2 器高 —	底面は平底。	外面－胴部下端～底部ハラケズリ。内面－底部ハラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－にぶい赤褐色	底部のみ残存。 1C-8G
31	土師器 小型甕	口径(11.6) 底径(3.3) 器高(25.1)	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は「コ」字状に近く、外反して開く。底部は平底で、わずかに丸みを帯びる。	外面－口縁部ヨコナデ後指押え、胴部～底部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	黒色粒・白色粒 内－にぶい橙色 外－にぶい褐色 ・にぶい橙色	4/5残存。 1D-9G
32	土師器 甕	口径 18.5 底径 3.3 器高 25.6	胴部上位に膨らみを持ち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラケズリ後、胴部上位ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	雲母・片岩 内－赤褐色 外－にぶい橙色	6/7。 1D-9G
33	土師器 甕	口径(20.4) 底径 3.7 器高 24.8	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は「コ」字状を呈す。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ後指押え、胴部～底部ハラケズリ後弱いナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	片岩・チャート 内外－橙色	口縁部～胴部 1/4欠損。 1D-9G
34	土師器 甕	口径 20.0 底径 3.7 器高 25.9	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は「コ」字状を呈し、底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、頸部指頭痕、胴部～底部ハラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハラナデ。	片岩・チャート・白色パミス・赤褐色粒 内外－にぶい褐色	6/7。胴部下 半 外面に黒斑。 1D-9G



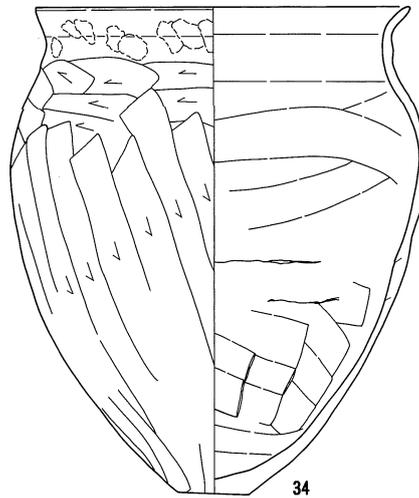
31



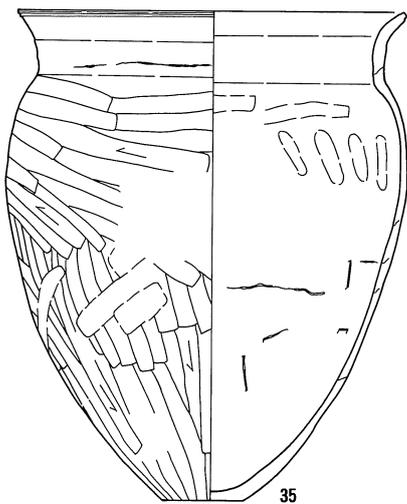
32



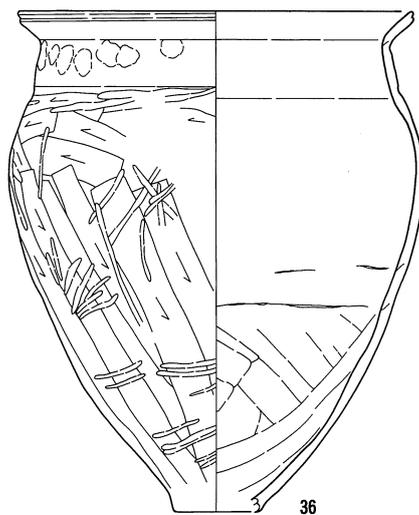
33



34



35



36

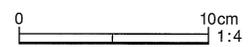


図 288 グリッド出土土器 (3)

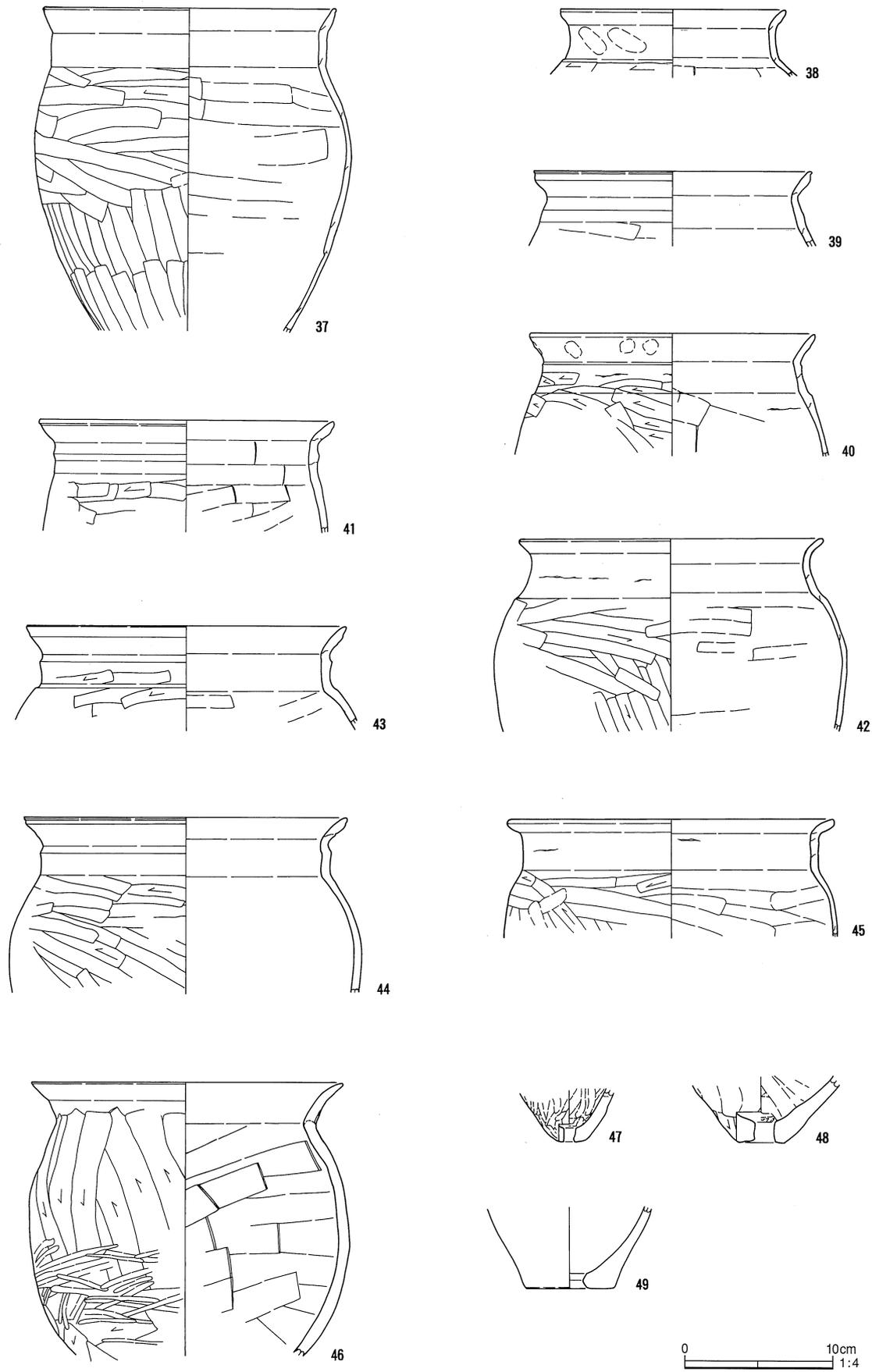


図 289 グリッド出土土器 (4)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
35	土師器 甕	口径 20.3 底径 4.3 器高 26.0	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は弱い「コ」字状を呈し、端部に凹線が巡る。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後一部ナデ、底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ・指ナデ。	チャート・黒色粒 内外－橙色	2/3。 1E-8G
36	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 (4.5) 器高 (26.5)	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は弱い「コ」字状を呈し、端部に凹線が廻る。底部は平底。	外面－口縁部ヨコナデ後指押え、胴部ヘラケズリ後弱いナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	片岩・チャート 内－明赤褐色 外－にぶい赤褐色	口縁部1/3および底部欠損。 1D-9G
37	土師器 甕	口径 19.9 底径 - 器高 -	胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後、一部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・片岩・白色粒 内－明赤褐色 外－橙色	口縁部～胴部1/2残存。 1E-8G
38	土師器 甕	口径 (15.3) 底径 - 器高 -	口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面－口縁部ヨコナデ後、一部指ナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－橙色	口縁部～胴部上位1/5残存。 1D-9G
39	土師器 甕	口径 (18.8) 底径 - 器高 -	口縁部は上位で強く外反し、「コ」字状に近い。中位にわずかな段を有す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	口縁部片。 1D-8G
40	土師器 甕	口径 (19.4) 底径 - 器高 -	口縁部は弱い「コ」字状を呈し、中位にわずかな段を有す。	外面－口縁部ヨコナデ後、上位指押え、胴部上位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	雲母・黒色粒・白色粒 内外－橙色	口縁部～胴部上位1/3残存。 1D-9G
41	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 - 器高 -	口縁部は「コ」字状に近く、中位に弱い段を有す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・黒色粒 内外－明赤褐色	口縁部片。 1D-8G
42	土師器 甕	口径 (20.6) 底径 - 器高 -	胴部は上位に膨らみを持ち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 内外－明赤褐色	口縁部～胴部上位1/4残存。 1D-8G
43	土師器 甕	口径 (21.6) 底径 - 器高 -	口縁部は「コ」字状を呈し、中位に段を有す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ。	チャート・黒色粒 内－橙色 外－にぶい褐色	口縁部片。 1D-8G
44	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 - 器高 -	胴部は上位に膨らみを持つ。口縁部は「コ」字状を呈し、中位に段を有す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ。	雲母・黒色粒・褐色粒 内－橙色 外－にぶい橙色	口縁部～胴部上位1/3残存。 1D-8G
45	土師器 甕	口径 (22.1) 底径 - 器高 -	口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ後、一部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラナデ。	雲母・片岩 内外－明赤褐色	口縁部～胴部上位1/5残存。 1F-8G
46	土師器 甕	口径 21.1 底径 - 器高 -	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位でやや膨らみ、口縁部は外反する。	外面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後に下半ナデ。内面－口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・片岩・白色粒 内外－橙色	口縁部～胴部中位1/2。 2A-20G
47	土師器 甗	口径 - 底径 1.9 器高 -	底部はわずかに丸みを帯びる。底部に径0.7cmの孔。	外面－木口状工具ナデ。内面－木口状工具ナデ。	雲母・白色粒 内外－にぶい黄褐色	底部3/4残存。 1Y-20G
48	土師器 甗	口径 - 底径 3.3 器高 -	胴部は底部から直線的に開く。底部に径1.4cmの孔。	外面－胴部下位ヘラナデ、下端～底部ヘラケズリ。内面－胴部下位～底部ヘラナデ。	雲母・チャート 内外－にぶい黄褐色	胴部下位～底部1/2残存。 1Y-20G
49	土師器 甗	口径 - 底径 6.0 器高 -	粘土紐積み上げ成形。底部に焼成前の穿孔。	外面－胴部ヘラケズリだが摩滅、底部ナデ。内面－胴部～底部ヘラナデだが摩滅。	雲母・赤褐色粒 内外－にぶい黄褐色	底部2/3。 孔径2.2cm。 2A-20G
50	土師器 壺	口径 (18.8) 底径 - 器高 -	口縁部は中位に段を有し、外反して開く。	外面－口縁部上位ヨコナデ、中位縦位ミガキ。内面－口縁部上位ヨコナデ、中～下位ミガキ。	黒色粒・白色粒 内－にぶい黄褐色 外－にぶい黄褐色・にぶい赤褐色	口縁部3/4残存。 1Y-21G
51	土師器 壺	口径 (10.6) 底径 - 器高 -	胴部は球体状に上～中位が大きく膨らむ。口縁部は短く外折して立ち上がる。	外面－口縁部指押え、胴部指ナデ・指押え。内面－口縁部～胴指ナデ。	雲母・白色粒 内－橙色 外－明黄褐色	口縁部～胴部片 1X-20G

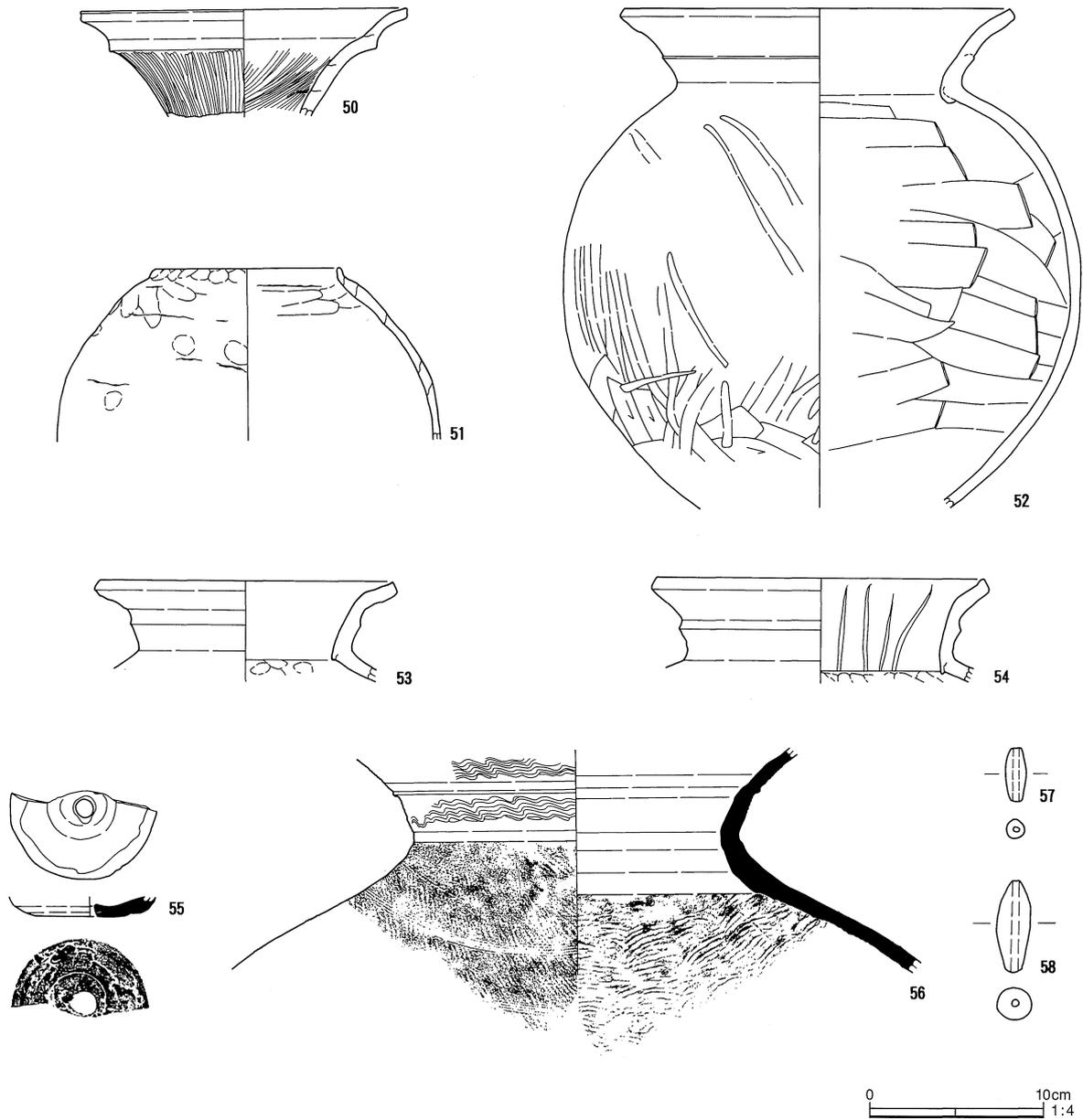
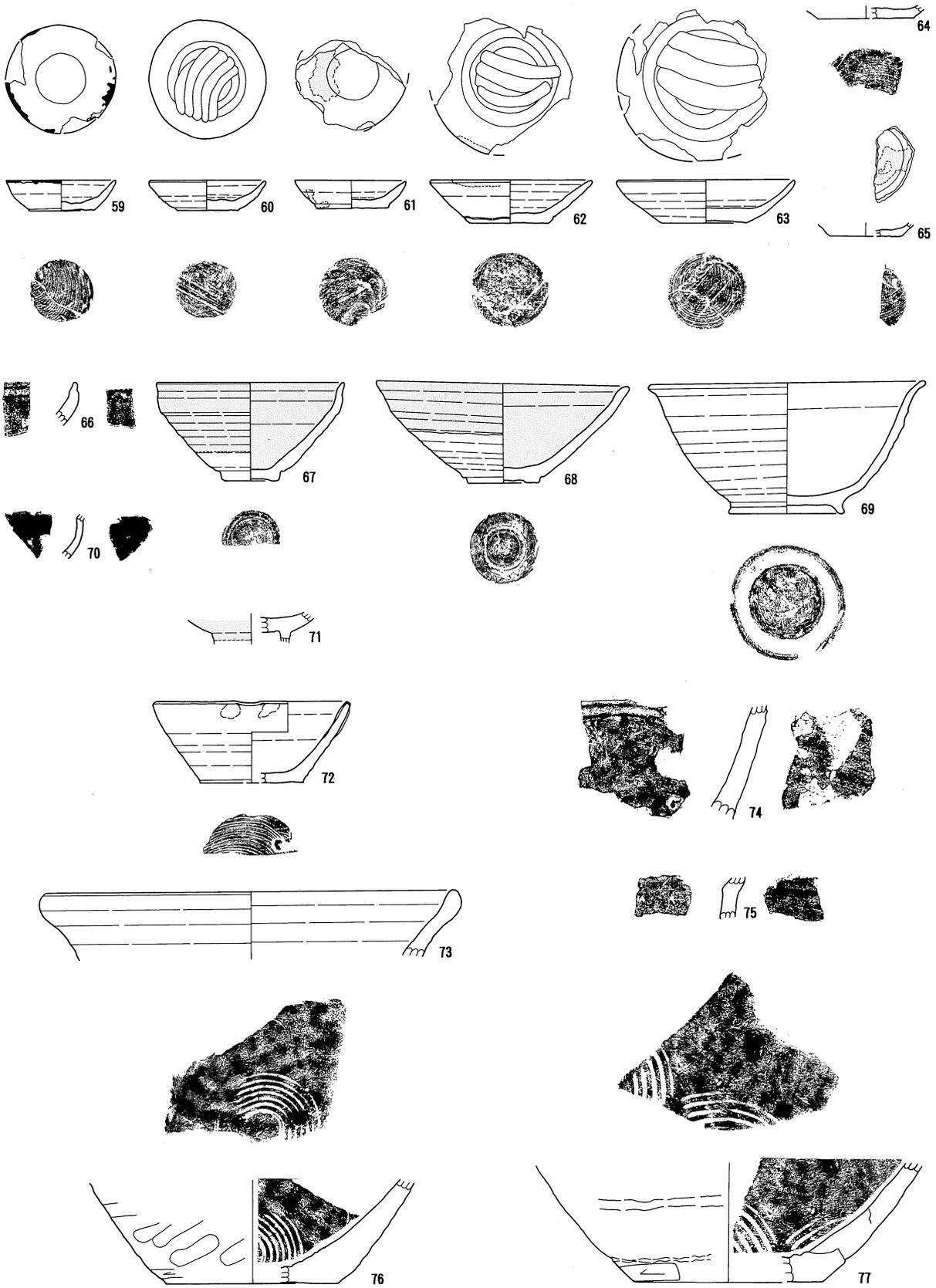


図 290 グリッド出土土器 (5)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
52	土師器壺	口径 (21.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は丸く膨らみ口縁部は二重口縁を呈する。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	雲母・片岩・チャート 内外—明赤褐色	口縁部～胴部下位2/3。 1A-20G
53	土師器壺	口径 (17.4) 底径 — 器高 —	口縁部はわずかに外傾して立ち上がり、上位で強く外反する。中位に段を有す。	外面—口縁部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部上端指押え。	角閃石・チャート 内外—明褐色	口縁部1/4残存。 1Y-20G
54	土師器壺	口径 (18.7) 底径 — 器高 —	口縁部は中位に段を有し、外反して開く。	外面—口縁部摩滅。内面—口縁部縦位ミガキ、胴部上端指ナデ。	黒色粒・白色粒 内—にぶい褐色 外—明褐色	口縁部2/3残存。 1Y-20G
55	須恵器坏	口径 — 底径 4.8 器高 —	底部粘土屑付着後、焼成前の穿孔。	体部ロクロ整形。	雲母・赤褐色粒 内外—にぶい黄褐色	底部1/2。 1Z-18G



0 10cm
1:4

図 291 グリッド出土土器 (6)

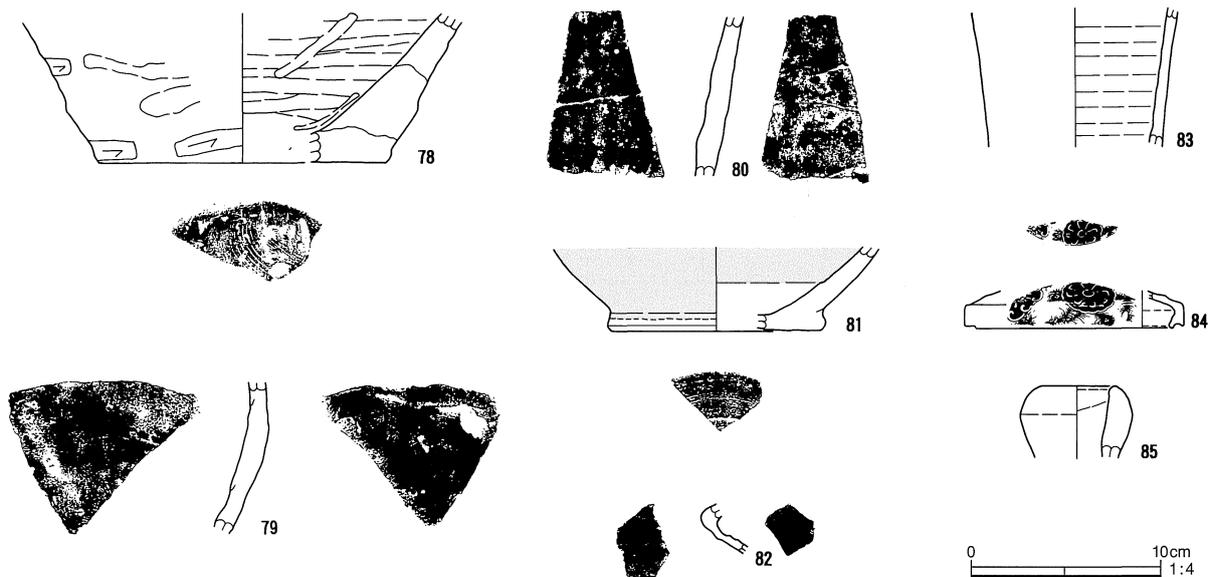


図 292 グリッド出土土器 (7)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
56	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	ロクロ成形。肩部は大きく張り出し、口頸部は外反して開く。	外面—口頸部中・下位に波状文、肩部平行叩き後横位条線。内面—肩部同心円当て具痕後、上端ナデ。	黒色粒・白色粒 内外—灰色	口頸部～肩部 1F-5G
No.	種類	器種	法 量 (cm・g) ・ 胎 土 ・ 色 調			備 考
57	土製品	土 錘	長さ：3.1 最大幅：1.1 孔径：0.3 重さ：3.46 白色粒 にぶい褐色			完形。1W-17G
58	土製品	土 錘	長さ：5.4 幅：1.9 孔径：0.4 重さ：16.20 白色粒 黄灰色			端部一部欠損。 1W-17G
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
59	中世土器 かわらけ	口径 7.6 底径 4.5 器高 2.1	口縁部は直線的に立ち上がる。糸切り痕周縁は、一部高台状にわずかに立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部右回転糸切り。	角閃石・赤褐色粒 内外—明赤褐色	ほぼ完形。 内外面に煤附着。 1G-20G
60	中世土器 かわらけ	口径 8.1 底径 4.3 器高 2.1	口縁部は直線的に立ち上がり、中でわずかに内屈する。見込み周縁部窪む。	体部ロクロ整形。底部右回転糸切り後、板状圧痕。見込み指ナデ。	黒色粒・赤褐色粒 内外—橙色	完形。 1M-12G
61	中世土器 かわらけ	口径 (7.7) 底径 4.9 器高 1.9	口縁部は直線的に立ち上がり、中で肥厚する。糸切り痕周縁は高台状に小さく立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部右回転糸切り。	黒色粒・赤褐色粒 内—にぶい黄褐色 外—にぶい黄褐色	2/3残存。 内外面および底部に煤附着。 1V-18G
62	中世土器 かわらけ	口径 (11.1) 底径 5.5 器高 3.0	口縁部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。外面に糸切り圧痕。底部右回転糸切り後、中央ナデ。見込み指ナデ。	雲母・黒色粒・赤褐色粒 内外—にぶい橙色	口縁部3/4欠損。 内外面に煤附着。 1T-18G
63	中世土器 かわらけ	口径 (12.2) 底径 5.7 器高 3.0	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り後、板状圧痕。見込み直線的な指ナデ。	黒色粒・赤褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部2/3欠損。 1M-12G
64	中世土器 かわらけ	口径 — 底径 (6.6) 器高 —	体部は直線的に立ち上がり始める。	内外面磨耗著しい。底部回転糸切り。	黒色粒・白色粒 内外—橙色	底部1/4残存。 1E-8G
65	中世土器 かわらけ	口径 — 底径 (5.0) 器高 —	体部は直線的に立ち上がり始める。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り。	チャート・褐色粒 内外—にぶい黄褐色	底部1/6残存。 内面に煤附着。 1E-8G
66	陶器 碗	口径 — 底径 — 器高 —	体部は丸みを持ち、口縁端部は外傾気味に立ち上がる。	ロクロ整形。内外面灰釉。	白色粒 内—暗オリーブ色 外—褐灰色	口縁部小片。 1Y-20G
67	陶器 高台付碗	口径 (12.8) 底径 4.0 器高 7.8	体部は、高台から直線的に開き、口縁部で直立する。口縁上端部はわずかに外反する。	ロクロ整形。底部回転ヘラ起し後、端部ナデ。内面から外面体部下位に鉄釉。	白色粒 内—にぶい褐色・黒色 外—黒色	1/6。 天目茶碗。 1V-18G

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
68	陶器 高台付碗	口径 17.3 底径 4.9 器高 7.1	体部は、高台から直線的に開き、上位でわずかに内屈する。	ロクロ整形。底部回転ヘラ起し後、周縁部ナデ。内面から外面体部中に灰釉。	チャート・黒色粒 内-にぶい黄色 外-浅黄色・オリブ黄色	ほぼ完形。 瀬戸茶碗。 1V-17G
69	陶器 高台付碗	口径 (19.0) 底径 7.9 器高 9.2	体部は、高台から内湾気味に立ち上がり、口縁部で外反する。高台はハの字状に開く。	ロクロ整形。底部左回転糸切り。高台貼り付け時に周縁部指ナデ。	雲母・チャート・黒色粒・褐色粒 内外-にぶい黄色	2 / 3。 山茶碗。 1E-8G
70	陶器 高台付碗	口径 - 底径 - 器高 -	口縁端部は外反する。	ロクロ整形。内外面鉄釉。	黒色粒 内外-黒色	体部小片。 天目茶碗。 1E-8G
71	陶器 高台付碗	口径 - 底径 - 器高 -	体部は、高台から丸みを帯びて立ち上がり始める。	ロクロ整形。内外面および高台内面に施釉。	白色粒 内外-黒褐色	体部下位～底部小片。 1Y-21G
72	軟質陶器 片口鉢	口径 (13.6) 底径 (7.2) 器高 5.6	体部は直線的に開き、口縁部でわずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。	黒色粒 内外-黄灰色	1 / 3。 1G-20G
73	軟質陶器 鍋	口径 (28.4) 底径 - 器高 -	口縁部は外反し、上端部で肥厚する。	ロクロ整形。	黒色粒・褐色粒 内-にぶい黄色 外-灰黄色	口縁部片。 1P-11G
74	軟質陶器 (鍋)	口径 - 底径 - 器高 -	上部に浅い凹線が1条横走する。	外面-ヘラナデ。 内面-ヘラナデ。	黒色粒・褐色粒 内外-灰黄色	体部小片。 1X-20G
75	軟質陶器 (鍋)	口径 - 底径 - 器高 -	上部はわずかに外反する。	外面-ヘラナデ。 内面-ヘラナデ。	黒色粒・白色粒 ・褐色粒 内- 灰色 外-オリ ブ黒色	体部小片。 1E-8G
76	軟質陶器 播鉢	口径 - 底径 (11.8) 器高 -	体部は内湾気味に立ち上がる。	外面-体部下位指ナデ、下端ヘラ削り、底部ナデ。内面-体部下位～底部ナデ、同心円状の播り目。	黒色粒・白色粒 内外-灰色	体部下位～底部片。 1N-12G
77	軟質陶器 播鉢	口径 - 底径 (13.0) 器高 -	体部は内湾気味に立ち上がる。	外面-体部下位ナデ、下端ヘラ削り、底部ナデ。内面-体部下位～底部ナデ、同心円状の播り目。	黒色粒・白色粒 内外-黄灰色	体部下位～底部片。 1T-12G
78	軟質陶器 捏鉢	口径 - 底径 (15.2) 器高 -	体部は直線的に開く。	外面-体部指ナデ、下端ヘラ削り、底部右回転糸切り後、周縁部ナデ。内面-体部下位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外-黄灰色	体部下位～底部片。 1G-20G
79	陶器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	胴部小片。	ロクロ整形。外面自然釉。	白色粒 内-に ぶい赤褐色 外- 黒褐色・明黄 褐色	胴部小片。 常滑。 1Y-20G
80	陶器 (甕)	口径 - 底径 - 器高 -	胴部小片。	ロクロ整形。外面灰釉。内面鉄釉。	白色粒 内外-褐色・オリ ブ灰色	胴部小片。 常滑。 1R-11G
81	陶器 (甕)	口径 - 底径 (11.0) 器高 -	胴部は、高台から丸みを帯びて開く。	ロクロ整形。底部回転ヘラ起しか。内面から外面胴部下位に灰釉。	黒色粒 内-オリ ブ灰色 外- にぶい褐色・ オリブ灰色	胴部下位～底部小片。 1F-7G
82	陶器 (甕)	口径 - 底径 - 器高 -	頸部は強く屈曲し、肩部は大きく張り出す。	ロクロ整形。内外面鉛釉。	白色粒 内外-暗赤褐色	頸部小片。 1Y-21G
83	陶器 (花瓶)	口径 - 底径 - 器高 -	外傾気味に直立する。	ロクロ整形。外面施釉。	黒色粒 内-にぶい黄橙 色 外-青灰色	体部小片。 1E-7G
84	磁器 染付蓋	口径 (11.6) 底径 - 器高 -	口縁部は直立し、天井部は湾曲気味。	ロクロ整形。型紙摺り。外面花文・孔雀羽文。	堅緻 内外-白色	口縁部～天井部下位小片。 1X-17G
85	土師器 (ミニチュア土器)	口径 (5.9) 底径 - 器高 -	塊か。厚手の造り。口縁部は内湾する。	外面-口縁部～体部ナデ。内面-口縁部～体部ナデ。	黒色粒・チャート 内-褐灰色 外-黄灰色	1/6。 1U-15G

c. 砥石・羽口・銅銭

砥石（図293、写真80）

1・2 残存する各面すべてが使用されている。帰属時期の詳細は不明である。

羽口（図293、写真80）

大口径の轆羽口で、器壁が厚く、先端部は溶融して発泡が目立つ。外面はガラス質化し、光沢を有する。

銅銭（図293、写真80）

4は天禧通宝、5は皇宋通宝で、初鑄年代はともに11世紀前半である。

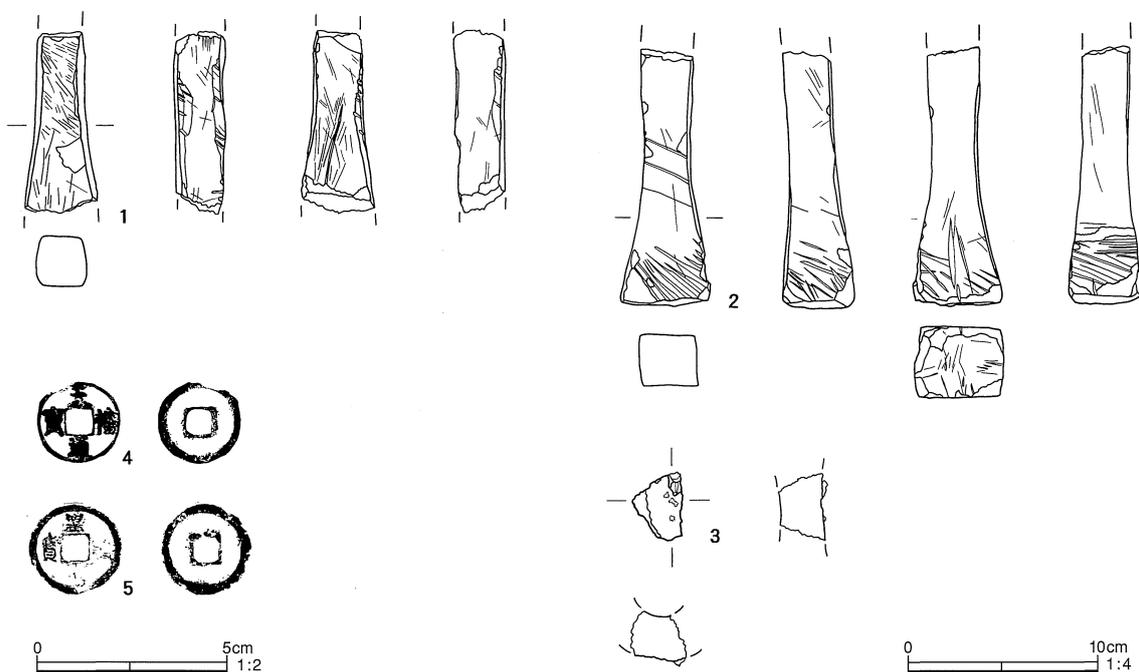


図293 グリッド出土砥石・羽口・銅銭

グリッド出土砥石・羽口・銅銭観察表

No.	器種	法	量 (cm・g)	備考
1	砥石	残長：9.7 最大幅：3.7 最大厚：2.6	残重：122.39 砥沢石 4面使用	両端部欠損。1W-17G
2	砥石	残長：8.7 最大幅：4.6 最大厚：3.7	残重：241.68 砥沢石 5面使用	端部欠損。1V-17G
3	羽口	直径：— 孔径：— 残長：3.6 最大厚：2.3	残重：18.55 外面ガラス質付着	小片。1E-8G
4	古銭	銅銭 外径：2.2 孔径：0.65 厚さ：0.1	重さ：2.08	天禧通宝。初鑄年 1017 1Q-12G
5	古銭	銅銭 外径：2.4 孔径：0.6 厚さ：0.1	重さ：2.10	皇宋通宝。初鑄年 1039 1P-9G

11 試掘調査出土遺物

昭和63年度に実施の試掘調査にともない表土を掘削した際に出土した遺物を一括した。埴輪・土師器・耳環など古墳時代の遺物とともに、中世のかわらけが比較的多く出土している。かわらけはいずれもロクロ成形・回転糸切り離し無調整である。直径4センチ台の小口径のものから、直径16cmを上回る大口径の製品までを含んでいることが特徴で、口径別に大小幾つかの群が存在するようである。見込みに指でヨコナデを加える個体が目立つ。

試掘調査出土土器・耳環観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
9	土師器 坏	口径 13.4 底径 - 器高 5.5	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直立して立ち上がる。口唇部面取り。底部は丸底。	外面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面-口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	雲母・白色粒 内外-橙色	1/3。
10	土師器 坏	口径 - 底径 - 器高 -	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は外反して立ち上がる。底部は丸底。	外面-体部~底部ヘラケズリだが摩滅。内面-体部~底部ナデだが摩滅。	雲母・チャート 内外-橙色	体部~底部 1/3。
No.	種類	法量 (cm)				備考
11	耳環	外径：2.8×3.1 内径：1.6×1.7 断面径：0.6×0.8 重さ：23.66g				銅芯。
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
12	中世土器 かわらけ	口径 (4.4) 底径 3.5 器高 1.0	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込みナデ。	石英・チャート 内外-にぶい黄 橙色	1/2。
13	中世土器 かわらけ	口径 4.9 底径 3.4 器高 1.1	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・チャート 内外-橙色	ほぼ完形。
14	中世土器 かわらけ	口径 4.9 底径 3.6 器高 1.3	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部手持ちヘラ削り。見込みヨコナデ。	雲母・黒色粒 内外-橙色	完形。
15	中世土器 かわらけ	口径 7.3 底径 4.2 器高 1.9	体部はわずかに内湾して立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込みヨコナデ。	雲母・チャート 内外-橙色	ほぼ完形。 煤付着。
16	中世土器 かわらけ	口径 7.1 底径 4.4 器高 2.1	体部は外反気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・黒色粒 内外-にぶい黄 橙色	完形。
17	中世土器 かわらけ	口径 7.2 底径 5.1 器高 1.6	体部は直線的に立ち上がり、口縁部わずかに外反する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・黒色粒 内外-にぶい橙 色	ほぼ完形。
18	中世土器 かわらけ	口径 8.3 底径 5.1 器高 1.5	体部は内湾気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・黒色粒 内外-橙色	ほぼ完形。
19	中世土器 かわらけ	口径 8.9 底径 5.2 器高 1.8	体部は内湾気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	黒色粒・チャート 内外-橙色	5/6。
20	中世土器 かわらけ	口径 9.3 底径 5.6 器高 2.4	体部は外反気味に立ち上がり、口縁部わずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込みヨコナデ。	雲母・黒色粒 内外-橙色	ほぼ完形。
21	中世土器 かわらけ	口径 9.1 底径 5.4 器高 2.0	体部は直線的に立ち上がる。口唇部尖る。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み螺旋状指ナデ。	雲母・チャート 内外-にぶい橙 色	ほぼ完形。
22	中世土器 かわらけ	口径 9.4 底径 5.5 器高 2.1	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・チャート 内外-にぶい黄 橙色	ほぼ完形。
23	中世土器 かわらけ	口径 10.0 底径 5.8 器高 2.0	体部は外反気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込みヨコナデ。	雲母・片岩 内外-橙色	5/6。 煤付着。

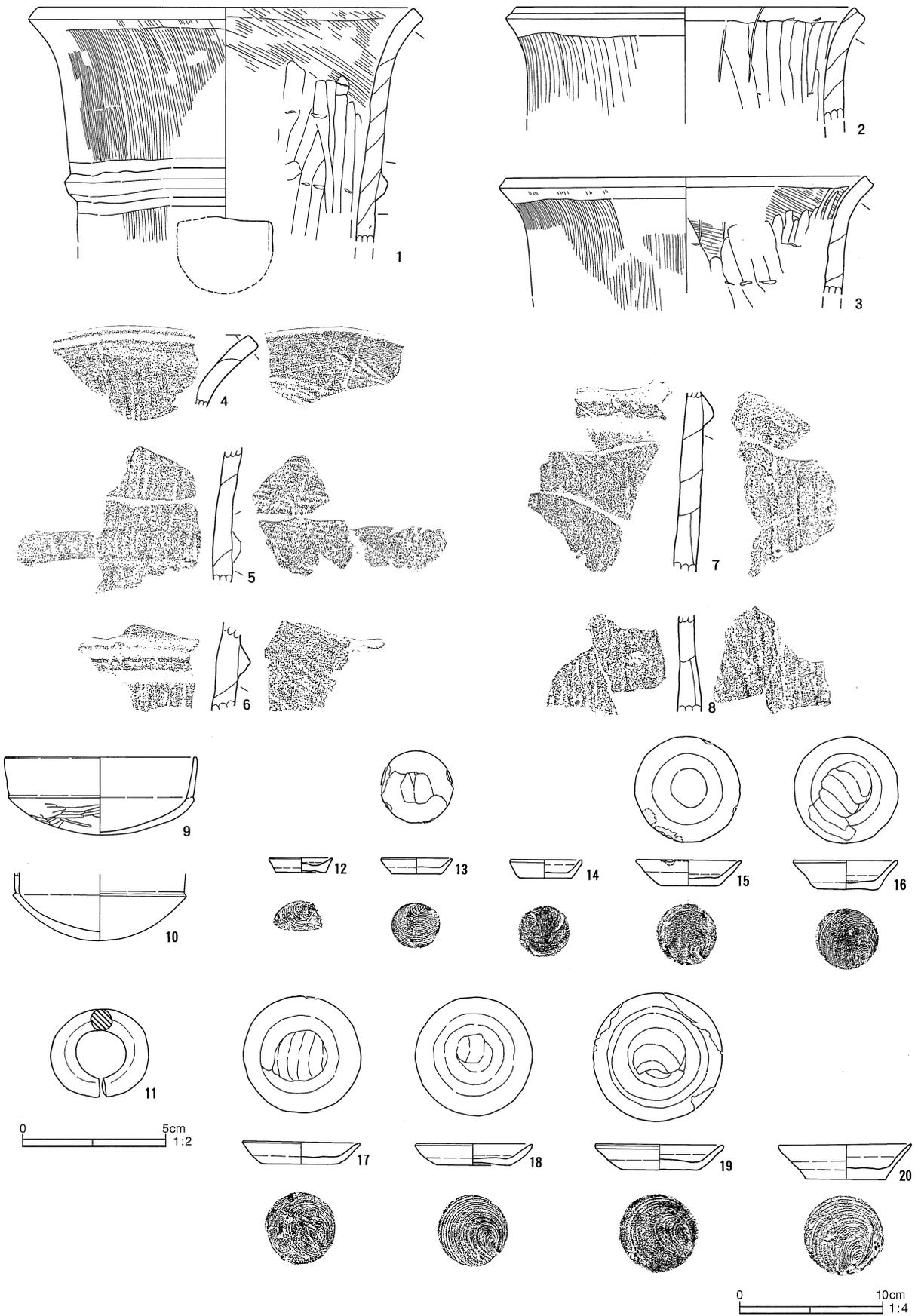
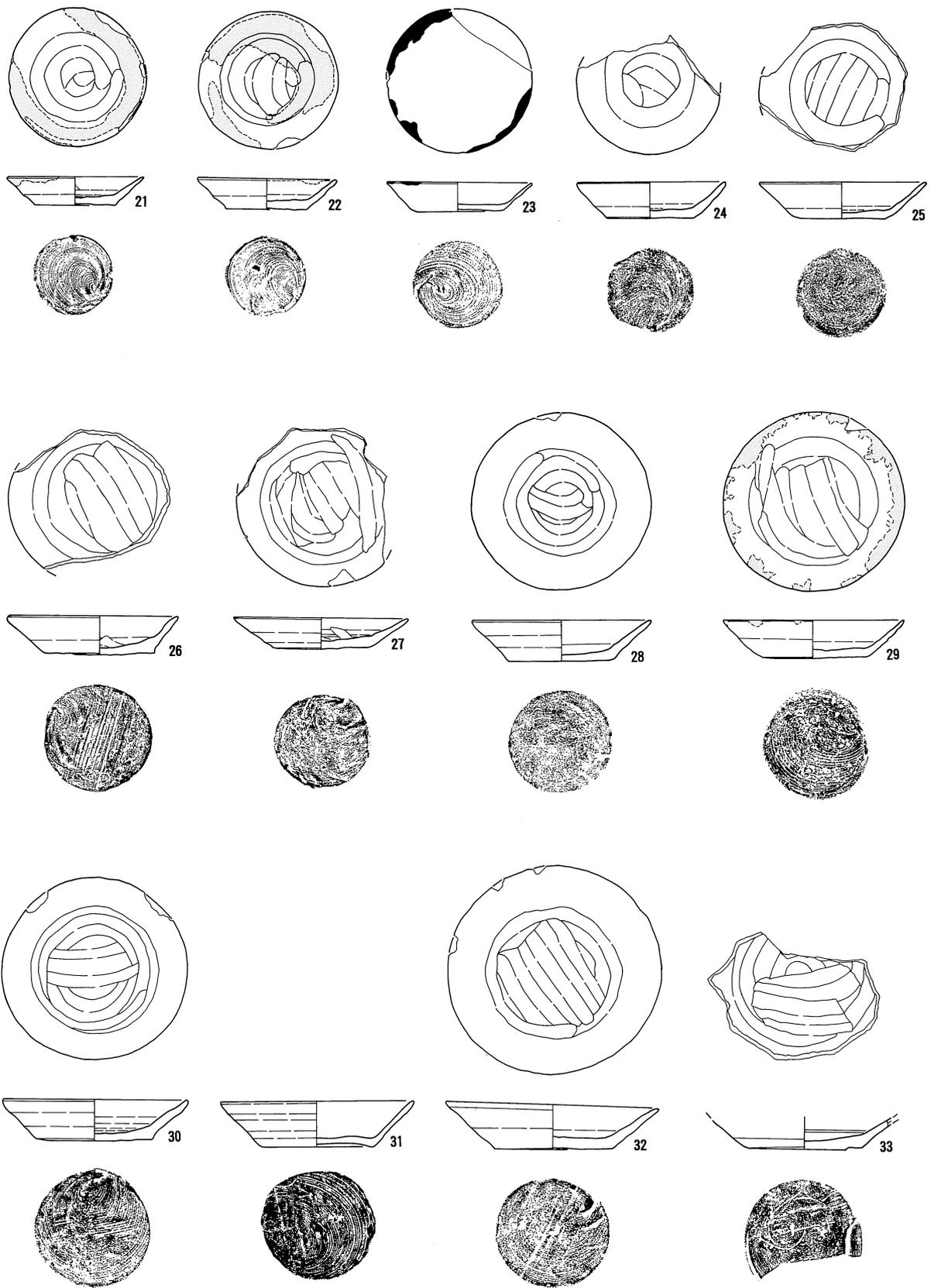


图 294 试掘调查出土遺物 (1)



0 10cm
1:4

图 295 试掘调查出土遗物 (2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
24	中世土器 かわらけ	口径(10.0) 底径 6.0 器高 2.5	体部は内湾気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り後ナデ。見込み指ナデ。	石英・黒色粒 内外-にぶい 橙色	2/3。
25	中世土器 かわらけ	口径(11.3) 底径 6.0 器高 2.5	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り後ナデ。見込み指ナデ。	黒色粒・チャート 内外-橙色	2/3。
26	中世土器 かわらけ	口径(11.6) 底径 7.4 器高 2.7	体部は外反気味に立ち上がり、口縁部わずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部木目圧痕、回転糸切り。見込み指ナデ。	黒色粒・白色粒 内外-にぶい 橙色	3/4。
27	中世土器 かわらけ	口径 11.8 底径 6.4 器高 2.1	体部は直線的に立ち上がり、口縁部わずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・黒色粒色 内外-にぶい 橙色	4/5。
28	中世土器 かわらけ	口径 12.1 底径 7.0 器高 2.8	体部は外反気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部ナデ。見込み指ナデ。	片岩・チャート 内外-にぶい 黄 橙色	ほぼ完形。
29	中世土器 かわらけ	口径 12.2 底径 7.1 器高 2.6	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・チャート 内外-にぶい 橙色	ほぼ完形。 煤付着。
30	中世土器 かわらけ	口径 12.4 底径 7.8 器高 2.9	体部は外反気味に立ち上がり、口縁部わずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・黒色粒 内外-にぶい 橙色	ほぼ完形。
31	中世土器 かわらけ	口径(13.2) 底径 7.5 器高 3.1	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。見込み周縁部窪む。	体部ロクロ整形。底部左回転糸切り後に、板状圧痕。	雲母・赤褐色粒 内外-橙色	2/3。
32	中世土器 かわらけ	口径 14.3 底径 8.0 器高 3.3	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部木目圧痕、回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外-橙色	ほぼ完形。
33	中世土器 かわらけ	口径 - 底径 8.0 器高 -	体部は外反気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り後、手持ちヘラ削り。見込み指ナデ。	雲母・チャート	1/2。
34	中世土器 かわらけ	口径 14.4 底径 7.9 器高 2.7	体部は外反気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外-橙色	4/5。
35	中世土器 かわらけ	口径(15.2) 底径 8.1 器高 3.2	体部は直線的に立ち上がり、口縁部わずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部木目圧痕、回転糸切り。見込み指ナデ。	石英・赤褐色粒 内外-橙色	3/4。
36	中世土器 かわらけ	口径(15.1) 底径 8.3 器高 3.5	体部は直線的に立ち上がり、口縁部わずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・チャート 内外-橙色	2/3。
37	中世土器 かわらけ	口径 13.8 底径 7.4 器高 3.1	体部は内湾気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り、木目状圧痕。見込み螺旋状指ナデ。	黒色粒・チャート 内外-にぶい 橙色	ほぼ完形。
38	中世土器 かわらけ	口径 14.7 底径 8.4 器高 3.1	体部は外反気味に立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・チャート 内外-にぶい 橙色	ほぼ完形。
39	中世土器 かわらけ	口径(14.3) 底径 7.8 器高 2.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部ロクロ整形。底部回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・チャート 内外-にぶい 橙色	4/5。
40	中世土器 かわらけ	口径 15.1 底径 8.0 器高 3.2	体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部外転移と切り後ナデ。見込み指ナデ。	片岩・チャート 内外-橙色	ほぼ完形。
41	中世土器 かわらけ	口径(16.2) 底径(9.0) 器高 3.6	体部は外反気味に立ち上がる。	体部ロクロ整形。底部木目状圧痕、回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・赤褐色粒 内外-にぶい 黄 橙色	2/5。
42	中世土器 かわらけ	口径 16.3 底径 9.0 器高 3.4	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する。	体部ロクロ整形。底部木目状圧痕、回転糸切り。見込み指ナデ。	雲母・チャート 内外-にぶい 橙色	ほぼ完形。

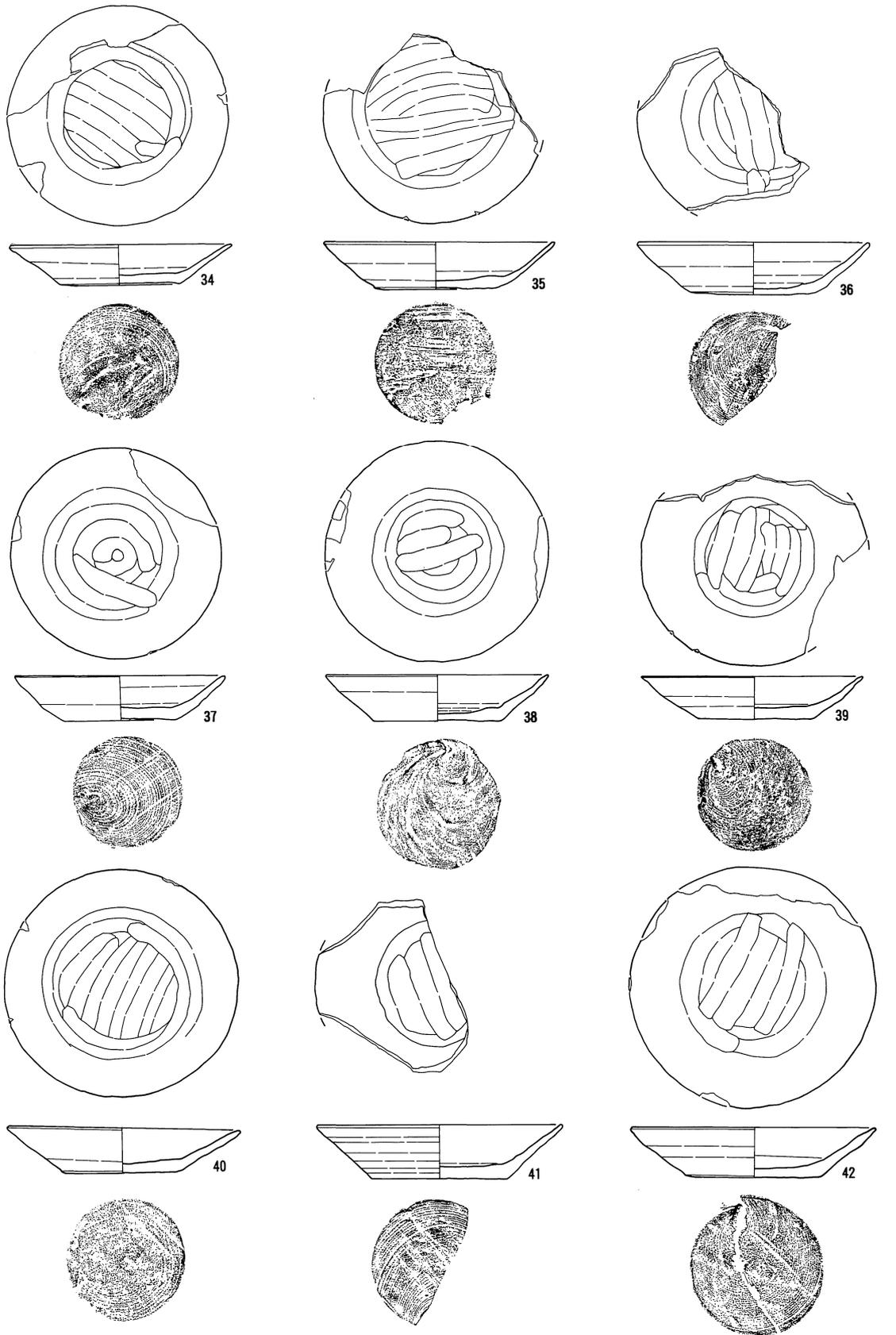


图 296 试掘调查出土遺物 (3)

12 調査区一括遺物

今回の調査で出土した縄文土器は、いずれも時期の新しい遺構や包含層から出土した破片資料で調査区一括遺物として扱う。古墳周堀・大溝を中心にかなりの量の破片が出土したが、その多くが磨耗、磨滅しており、残りのよいものを選別して、以下に記載した。時期的には著しい偏りが見られ、縄文時代中期後半、加曾利EⅡ式を中心にその前後の資料を多少交えた一群が大多数を占める。なお、記載にあたっては、以下の大区分を用い、原則的に時期を追って記載することとしたい。

I群：早期撚糸文系土器

Ⅱ群：前期前半の土器

Ⅲ群：中期後半の土器

Ⅳ群：後期の土器

V群：時期不明縄文土器

I群：早期撚糸文系土器（図297、写真82）

1～3は、撚糸文系土器の胴部片であろう。1は底部に近い部位の破片で、RLの単節縄文が縦位に施文されている。暗褐色を呈し、白色粒などの砂粒、赤みがかった小礫を含む。2にはRの無節縄文が縦回転斜位に施文されている。破片右半の無文部は研磨されており、かすかに光沢がある。明赤褐色を呈し、砂粒、小礫を含む。焼成良好で硬質の土器である。3にはLの撚糸文が縦位に施文されている。条間の広い節の大きな原体を用いているが、回転押圧が均一になされていないため、節に深淺、大小が見られる。にぶい褐色を呈し、大小の礫をかなり含む。比較的硬質の土器である。1・2は細片のため問題なしとはし得ないが、胎土の特徴などから本群と考えた。3は稻荷台式以降の撚糸文系土器であろうか。

Ⅱ群：前期前半の土器（図297、写真82）

4・5は、ともに繊維の混入の見られない縄文のみ施された胴部片である。4の破片上端には丸みのある太い隆帯が貼り付けられ、以下直前段合撚の縄文が施文されている。破片右端に他の条を切る左下がりの条の圧痕が見られるが、局所的でよく判らない。にぶい橙色を呈し、細かな砂粒、岩片を含む。5にはLR、RLの単節縄文が施文されている。全体の構成は判らないが、縄文は段ごとの規則正しい羽状をなすわけではないらしく、2つの撚りの縄文が交互に反復施文されているかに見える。器肉はにぶい黄橙色を呈するが、内外表面のほとんどが黒褐色みを帯びている。細かな砂粒を含む。

Ⅲ群：中期後半の土器（図297、写真82）

図297は、加曾利E式土器である。細かな類別は困難であるが、おおよそ胴部の縦位無文帯が発達する段階を中心に、その前後の時期の資料を多少含む内容と見てよいであろう。ただし、加曾利E式のやや新しい段階の資料も散見されるようである。6～20には、口縁部片をまとめた。6～9は、隆帯による渦文がめぐらされた口縁部片である。6・7は、隆帯と併走する沈線による凹凸のはっきりした渦文が施されており、8・9では隆帯とそれをなぞるような太い凹線により渦文が描出されている。9の破片下端の沈線下には、単節縄文が加えられている。6はにぶい黄橙色、7・8はにぶい褐色、9は橙色を呈し、いずれも大小砂礫を含む焼成のよい土器である。10の口縁部には、沈線による楕円区画内にLRの単節縄文が施され、以下RLの単節縄文と沈線が施されている。11も同種の楕円文であろう。



图 297 調查区一括遺物 (1)

沈線内には、RLの単節縄文が施されている。12は大きな突起を有する波状口縁の波頂部の破片である。太い凹線により楕円文の一種などが描かれているのであろうか。10・11はにぶい黄橙色、12はにぶい赤褐色を呈する。大小砂粒を含むも焼成良好である。11は他の2個体に比し、砂粒を多く含み、やや軟質である。13も波状口縁の波頂部片であろう。波頂部から短く垂下された隆帯に合する形でやや角張った隆帯による区画が設けられている。区画の下辺の隆帯に沿って沈線が施されており、以下縄文及び沈線が加えられている。縄文はRLの単節縄文に見えるが、胎土に砂粒を多く含み器面が荒れているため、あるいは異なった撚りの原体によるのかもしれない。にぶい黄橙色を呈するやや軟質の土器である。14は端部直下に1条の沈線を加える口縁部片である。沈線下にはRLの単節縄文が施されている。にぶい赤褐色を呈し、大小砂粒をかなり含む。15～19は、端部にほぼ平行する沈線の施された口縁部片である。区画内は、15がLの無節縄文、16・18にはRLの単節縄文が施され、17では断面三角形の隆帯と沈線が付されている。19は波状口縁で、2条の沈線で区画がなされ、LRの単節縄文が施されている。19の左端には、渦文の一部かと思われる沈線の痕跡が見られ、右縁は斜めの沈線に沿って欠失している。15はにぶい黄橙色、16は褐灰色、17～19はにぶい橙色を呈する。

20は口縁部の無文帯下端を微隆帯で画し、縄文を施した口縁部片である。縄文は単節縄文に見えるが、部分的に節が分れるようにも見え、あるいは複節などの縄文になるのかもしれない。にぶい橙色を呈する。21は渦文などが描かれた口縁部片である。斜線を介し渦文が結合した文様と思われるが、沈線間の一部に縄文の節らしき痕跡が見える。大小砂粒をかなり含む。明赤褐色を呈し、焼成良好である。22～40には、胴部片をまとめた。22～30は縦位の沈線により胴部が分割されるもの、31～37には縦位を主とする隆帯が施されている。38～40には、撚糸文が施されている。22～24は、縦位の磨消帯が見られない胴部片である。22では2条、23・24では3条の沈線が垂下されている。地文は、22が複節縄文、23・24は単節縄文である。23の破片左端には、蛇行する2条の沈線が痕跡的にみとめられる。22は明赤褐色、23は褐灰色、24はにぶい黄橙色を呈する。

25～28・30は縦位帯状の縄文帯間に無文帯が配される胴部片・底部片である。縄文はいずれも単節縄文である。28の磨消帯には列点を加えられ、縄文地に大きく蛇行する沈線が施されているようである。30は底面をなす粘土板が剥落したやや小型の深鉢底部片であろう。25～28はにぶい橙色を呈する。30は明赤褐色を呈し、硬い焼きの土器である。29は沈線によるU字・逆U字状文が胴部の上下に配される類であろう。区画内には、RLの単節縄文が加えられている。破片右半の沈線は、蕨手状の垂下文の一部になりそうである。浅黄橙色を呈する。31・32には、丸みをもったやや太めの隆帯が垂下されている。隆帯の両脇は強くなでつけられており、片側には単節縄文が施されている。33～35には、突出が弱く、先端が細くなった隆帯が付されている。摩耗しており、部分的にしか見えないが、いずれも単節縄文が施されているようである。36・37は2本の隆帯が併走、垂下された胴部片である。隆帯間は強くなでつけられ、凹んでいる。31は橙色、32は明赤褐色、33～35・37はにぶい橙色、36はにぶい黄橙色を呈する。33～35は、やや軟質の土器である。

38～40は、撚糸文を地文とし隆帯の付された胴部片である。40の隆帯は、垂下隆帯から横にのびる部分であろうか、39・40では、隆帯の両脇は強くなでつけられている。38は淡黄色、39・40は明赤褐色を呈する。

41～64には、いわゆる連弧文土器をまとめた。ただし、48は、連弧文土器ではないが、便宜的に本種

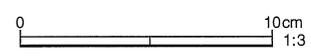
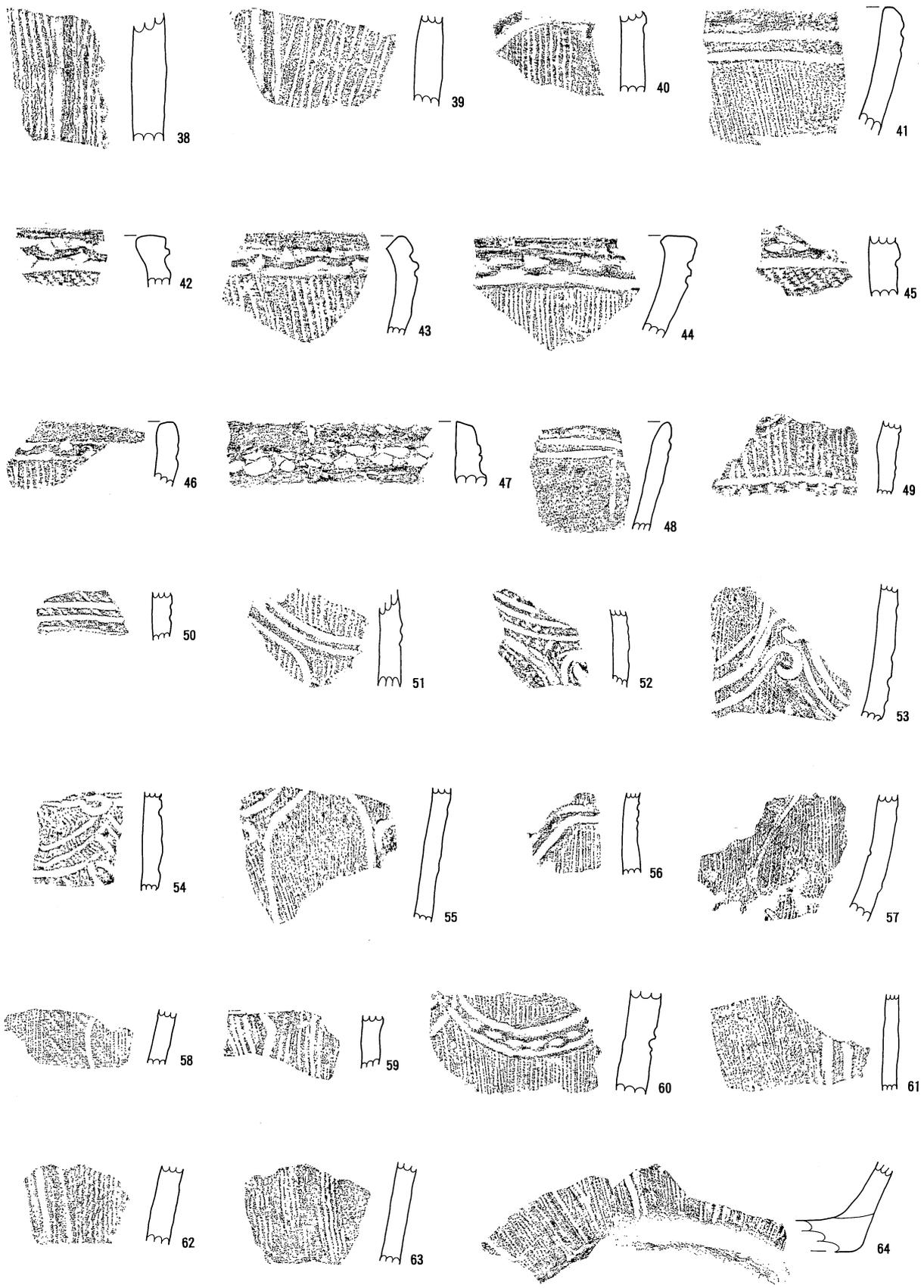


图 298 調查区一括遺物 (2)

に含め記載する。連弧文土器が多いことも、該期出土資料の、加曾利E式期の中での時期的な偏りと関係すると考えてよいであろう。41～47には、口縁部片をまとめた。

41は、条線を地文とし端部直下に2条の沈線が巡らされた口縁部片である。にぶい褐色を呈し、大小砂粒をかなり含む。やや軟質の土器である。42～46には、端部直下に交互刺突文が巡らされた口縁部片である。42～44は、端部が肥厚し、平坦面をもつ形態である。42・43は、交互刺突間の粘土の隆起が明瞭で波状隆帯の観を呈するもの、44以下は刺突間の隆帯様の部分が不明瞭なものである。42・43の場合、交互刺突文施文前あるいは施文時に沈線が深く施され、沈線間が隆帯様になるように造作されている。44・45では下端の沈線のみ、46では沈線は浅く不規則になり、47では刺突文のみとなる。地文は、42・45が単節縄文、43・44が撚糸文、46では条線である。42・45・47が明赤褐色、他はにぶい橙色を呈する。いずれも大小砂粒、小礫を含むも焼成の良い土器である。48は、緩やかに波打つ波状口縁の深鉢である。端部直下に2条の沈線が施され、下の沈線に直交する2条の沈線が加えられている。垂下された右側の沈線は痕跡的で、左側の沈線は、破片下端で一端途切れるように見える。連弧文土器と同様に頸部に2、3条の沈線を巡らし、沈線のみで比較的簡素な垂下文が描かれる類であろう。にぶい赤褐色を呈する硬質の土器である。49～59、61～63には、連弧文土器の胴部片と思われるものをまとめた。文様がわずかしか残らない胴部片には、連弧文土器に限定できないものも含まれるかと思う。49・50には、胴部中央を画す交互刺突文あるいは沈線が施されており、51～57には、連弧文や連結部の渦文、垂下文などがみとめられる。地文は、49・53～57が条線、50が単節縄文、51が撚糸文である。52は無節縄文のように見えるが、あるいは単節縄文になるのかもしれない。54の地文は、小波状を呈する条線である。浅黄橙色の54、灰褐色の57を除けば、いずれもにぶい橙色～明赤褐色系の色調で、焼成良好である。58・59も連弧文土器の胴部片であろうか。条線を地文として、垂下線や蛇行する沈線が描かれている。58では条線の上から、部分的に縦回転RLの単節縄文が施されている。60は条線を地文とし、2条の沈線による帯状の連弧文の施された胴部片である。沈線間は条線をなで消した後、やや密に連続刺突文が加えられている。器厚は14mm前後、かなり大型の深鉢となろう。にぶい赤褐色を呈し、大小砂粒を多量に含む。全体に密度の薄い、軽粗な感のあるやや軟質の胎土で、他の連弧文土器とはかなり異なる。61～63には、地文として撚糸文が施されている。さらに61・62には、縦位の沈線が加えられている。61はにぶい赤褐色、62・63はにぶい橙色を呈する。64は条線を地文とし、沈線が垂下された底部片である。底径8cm前後、明赤褐色を呈し、焼成良好である。

65～107には、曾利式土器及びいわゆる唐草文土器をまとめた。胴部片が多いこともあり、細かな類別が困難であるが、器厚が厚く径の大きな土器が多いことが特徴的である。65～75は、口縁部片あるいは口縁部の一部を含む破片である。65～74は、曾利式土器であろう。65～69は隆帯、70は沈線による区画文の施された口縁部片である。区画内には、縦位・斜位の沈線が施され、66・67では隆帯が垂下されている。胴部には、65では条線、66・67ではハの字状の沈線が施されている。いずれも橙色～にぶい橙色を呈し、焼成のよい厚手の土器である。70は沈線により横長の楕円区画の施された口縁部片である。区画は破片左端で丸みをもって閉じかかっており、区画内には斜位の沈線が施されている。区画文以下は無文帯となっている。にぶい橙色を呈する。71は突起を有する口縁部片、72は把手を有する口縁部片である。71は突起下に沈線による渦文が配され、破片右端には、楕円区画の一部がみとめられる。渦文下には、縦位の沈線が施されているようである。72・73は同一個体の可能性のある口縁部

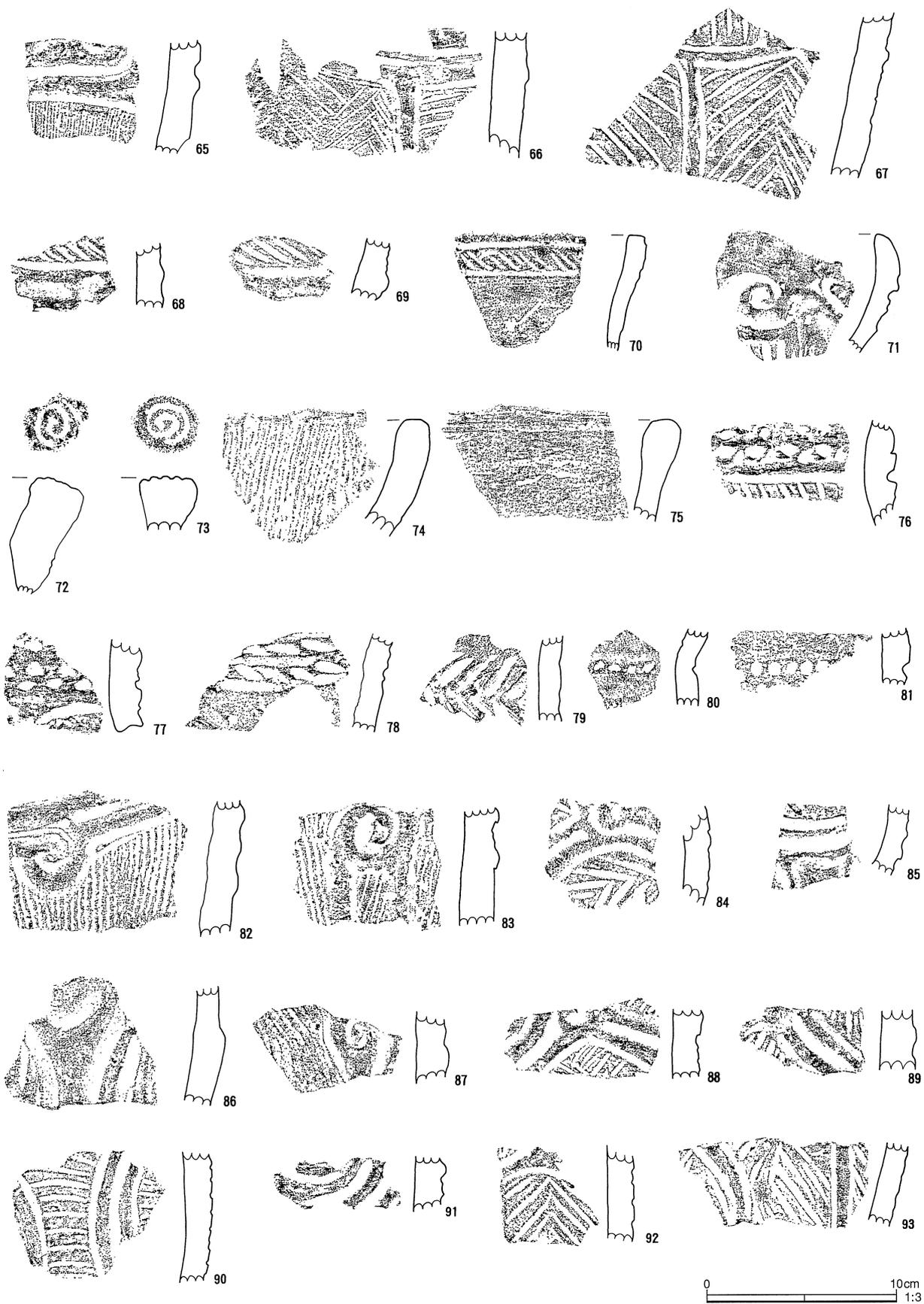


图 299 調査区一括遺物 (3)

および把手である。72には、先端がやや太い丸棒状の把手が付され、把手上面の平坦面には、渦文が施されている。把手正面及び側面から口縁部にかけて、沈線による区画がなされ、区画内にも沈線が加えられている。73は把手のみ残存する。ともににぶい橙色を呈する。74は条線のみ施された口縁部片である。頸部を有し、口縁部・胴部ともに丸みをもった形態の深鉢である。75は頸部以上を無文とし、胴部に唐草文などが施された深鉢口縁部片であろう。74はにぶい橙色、75は浅黄橙色を呈する。

76～81には、交互刺突文や沈線の施された頸部片をまとめた。口縁部が無文で胴部に唐草文などが施された大型深鉢の一部になろう。76・77には2段の交互刺突文が施されているが、76では刺突間が浮彫り様の波形を描き、77では単に刺突列と化している。78には紡錘形の刺突が連続して施され、79では矢羽状の沈線が施されている。80・81は円形あるいは半円形の刺突の施された胴部片である。80には半円形の刺突が1列、81には円形刺突が交互に施されている。いずれもにぶい橙色を呈する焼成のよい土器である。82～95には、隆帯により渦文などの曲線文の施された胴部片をまとめた。82・87などやや問題の残るものもあるが、おおむね唐草文などが施された胴部片としてよいであろう。地文としては、82が撚糸文、83が条線、他は皆沈線である。83の地文を条線としたが、部分的に条の底に筋があるようにも見え、あるいは撚糸文の一種なのかもしれない。なでつけられているのか、条がつぶれている。94・95には、地文として雨滴様の刺突が施されている。94・95は胎土が酷似しているが、刺突の形状がやや異なる。87はにぶい褐色、88は灰白色を呈する。その他は、にぶい橙色あるいは橙色系の色調である。96には、沈線により垂下線および蛇行線が施され、2本の垂下線間には円形の刺突が加えられている。地文は条線である。97は沈線により区画された縦位の条線帯と無文帯が配された胴部片である。96は明黄褐色、97はにぶい橙色を呈する。98～104は、ハの字状の沈線の施された胴部片である。102～104には、縦の隆帯が付されている。いずれもにぶい橙色を呈し、焼成良好の土器である。105～107は、条線あるいは沈線がやや不規則に施された胴部片である。105・106は、連弧文土器の胴部片の可能性もあるのかもしれない。105は橙色、106はにぶい褐色、107はにぶい黄橙色を呈する。

108・109は、浅鉢の口縁部片である。108は端部内外稜が突出し、幅広の端部上面に平坦面を有する形態である。端部の平坦面には、沈線が施されている。にぶい黄橙色を呈する硬質の土器である。109は口縁部が肥厚し端部に向かって先細りとなる形態である。橙色を呈する焼成のよい土器である。

Ⅳ群：後期の土器（図300、写真83）

110は突起の付された深鉢口縁部片である。突起は先端を欠失しているが、先端が前後に分かれ、刺突の痕跡らしき凹みが見られる。外面には突起を頂部として沈線が加えられている。磨耗が著しく、文様の細部、地文は分からない。にぶい黄橙色を呈するやや軟質の土器である。111は3条の沈線が垂下された胴部片である。器表全体縦位の研磨がなされている。にぶい褐色を呈する極めて堅い焼きの土器である。110・111ともに、後期初頭と考えたが、110に関してはやや遡る可能性もないではない。112は口頸部に幅広の無文帯を有する大型の深鉢の破片である。頸部には、2条の沈線が巡らされている。にぶい黄橙色を呈するやや軟質の土器である。113は直線的に開く形態の深鉢口縁部片である。端部には刺突の施された突起を有し、端部上面、端部直下の内面には、沈線が加えられている。外面には、細く低い隆帯が巡らされ、押捺が加えられている。隆帯下には、Lの無節縄文が極浅く施され、下端は沈線で区画されている。にぶい黄橙色を呈し、焼成は良好である。112は堀之内1式、11

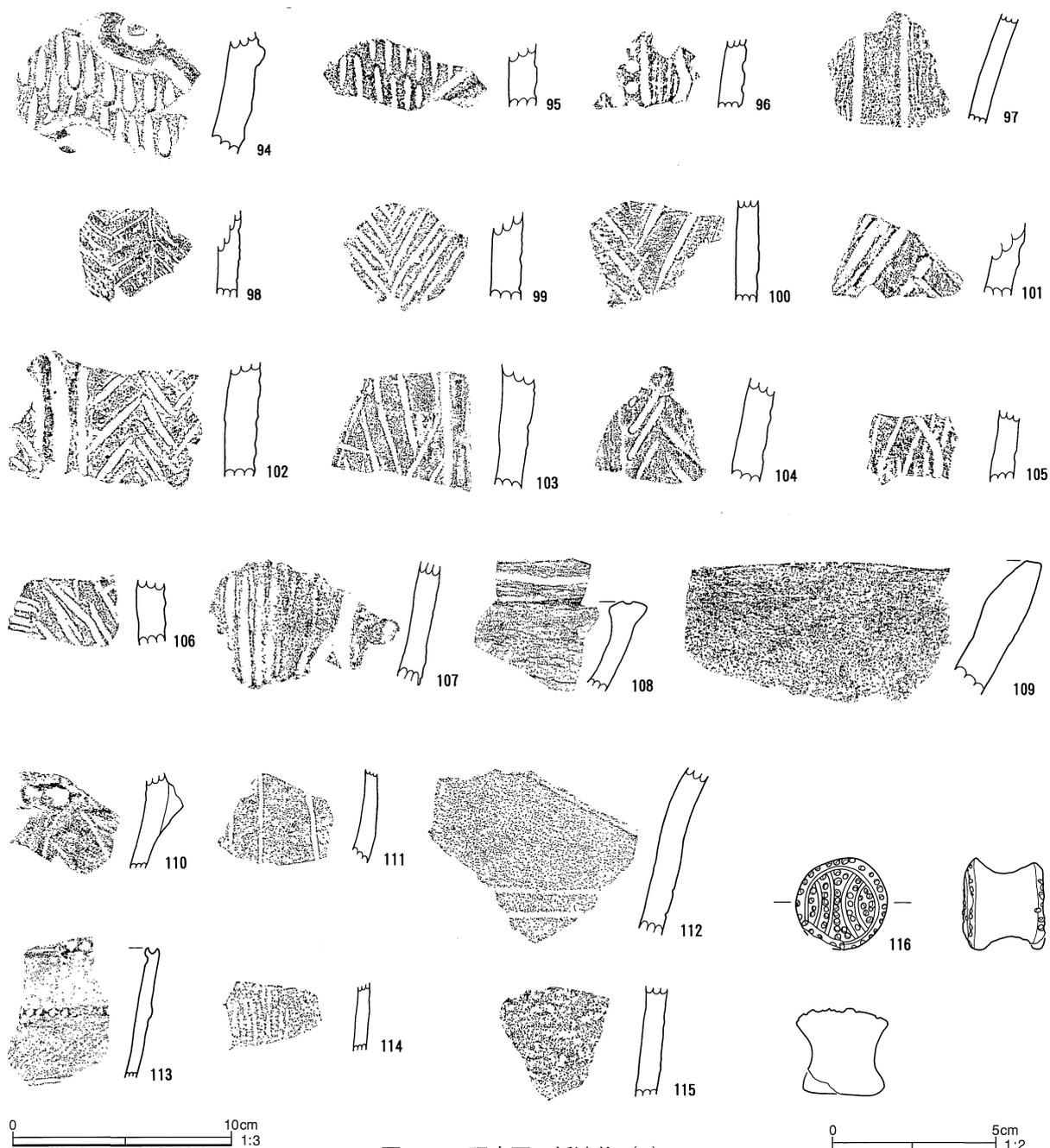


図 300 調査区一括遺物 (4)

3は堀之内2式末葉前後の土器であろうか。

V群：時期不明縄文土器 (図300、写真83)

114は、縄文土器以外の可能性もあるが、ひとまずここに掲げ記載する。114は、器厚6mm前後と薄手硬質の土器で、ほぼ縦走する無節縄文が施されている。縄文は施文自体が極浅いのか、あるいは縄文施文後研磨されているためか、圧痕がかすかに見える程度である。にぶい黄橙色を呈し、片岩片が点在する。焼成は良好である。115にも無節縄文が施文されている。114と同様に圧痕は極浅く辛うじて見える。褐灰色を呈し、焼成は良好ではない。

IV 結 語

西五十子古墳群では古墳・住居・方形堅穴状遺構・井戸・土坑・溝など性格の異なる遺構が重複している。これらの遺構のうち所属時期の確定できるものは古墳・古墳時代の住居・中世の方形堅穴状遺構および一部の土坑・溝などで、遺物を伴わず時期不詳の遺構も多い。以下、古墳・住居ならびに中世の遺構・遺物について若干の問題点を整理して結語としたい。

古墳は63基を数え、ほとんどが径20m以下の小型円墳で構成されている。築造時期の判明しないものが多いが、出土遺物から判断する限り、前方後円墳集成畿内編年（以下単に「集成編年」と略す）8期のうちに最初の古墳の築造があり、終末期前半の古墳が最も新しい。

周辺地域における群集墳造営の開始時期は、集成編年7期にあたる。外面二次調整にBc種ヨコハケを施す窖窯焼成の円筒埴輪、TK208段階の須恵器、典型的な坏蓋模倣坏出現以前の不定形な坏蓋模倣坏や内斜口縁坏に代表される和泉式後半期の土師器などの出土が指標となる。本庄市内では本庄台地北縁の旭・小島古墳群、大久保山丘陵の塚本山古墳群が知られ、利根川右岸の低地帯の展開する深谷市戸森松原古墳群においても、当該期の小型円墳の築造が認められる。これらの古墳群には古墳時代前・中期の円墳・方墳が伴う点が特徴で、前期以来の伝統的勢力、いち早く群集墳の造営を開始していたことが理解される。

集成編年8期に至って新たに造営を開始する群集墳も多い。外面二次調整を欠く円筒埴輪とTK23・47段階の須恵器、鬼高式期の典型的な土師器坏蓋模倣坏が指標となる。また、家形埴輪とともに、人物・馬形埴輪が、群集墳に導入されるのもこの段階である。周辺では本庄台地北東端に展開する東五十子古墳や小山川中流右岸の美里町後山王古墳群が知られ、やや離れるが元荒川右岸の鴻巣市新屋敷古墳群も同じ段階に造営を開始している。これらの古墳群では、小型円墳が比較的短期間のうちに集中的に築造される現象の見られることが特徴で、集成編年8期の段階は群集墳造営のひとつの盛期を成しているといえる。西五十子古墳群の造営開始期と古墳築造の高調期も集成編年8期にあり、群内に前・中期の円墳・方墳を伴わないこととあわせ、造営主体には、古墳時代中期後半に顕著な新規の開発に伴い、新たに獲得された耕地を生産基盤とする新興集落の有力世帯層が想定される。

こうした集成編年7・8期の動向に比べ、集成編年9期の段階は、一体に群集墳造営の低調な時期にあたっているようにみえる。西五十子古墳群では集成編年9期に該当する遺物を出土する古墳を確認できていないが、このことは東五十子古墳や後山王古墳群、さらにはこれらに先行して群集墳造営を開始している旭・小島古墳群や塚本山古墳群においても同様である。

これに対し、つづく集成編年10期に入ると、各古墳群で古墳の築造が再開されている。また、これとともに、この時期あらたに造営を開始する群集墳もみられる。この集成編年10期における群集墳造営は、須恵器TK43段階に画期が求められ、埋葬施設に横穴式石室を採用する円墳を主体に構成される広義の新式群集墳として成立する。従来的人物・馬形埴輪に器財埴輪を加えた豊富な形象埴輪群を伴うことも特徴のひとつである。そして、埴輪生産停止ののちも造営は継続し、終末期前半にかけて盛期を迎える。近隣では神川町青柳古墳群、南方の荒川流域では熊谷市三ヶ尻・深谷市鹿島古墳群など大規模な群集墳を形成する場合が多い。西五十子古墳群においても、周堀が整円を描かず、不整形の

落ち込みが断続するタイプの古墳は、すべて集成編年10期以降の築造と推測される。また、埴輪生産停止後も古墳の築造があったことは、西五十子古墳群ST-22における須恵器の年代からも理解されよう。

以上のように、集成編年8期に造営の盛期があり、集成編年9期中断もしくは減少期を経て、集成編年10期にふたたび造墓活動が活発化するパターンは多くの群集墳において一般的に認められるようである。新屋敷古墳群、後山王古墳群では、築造時期の判明する古墳の多くが、群集墳造営当初の集成編年8期に集中し、集成編年9期前半までに築造の該当する古墳を加えると全体の80%前後を占める。また、東五十子古墳群では31基中23基が集成編年8期に集中し、その後、断絶期間を経て、集成編年10期後半に造営を再開している。古く集成編年7期に造営を開始している旭・小島古墳群、塚本山古墳群においてもこのパターンは同様で、周辺地域の群集墳造営の盛期には、集成編年8期を中心とする段階と、集成編年10期後半から終末期前半にかけての前後二段階の時期があるといえる。集成編年7期から古墳時代終末期にかけて続く群集墳造営は、必ずしも等速的に進行したものではないことが理解される。

群集墳内の存在する各時期の小型古墳の造営主体を階層的性格の面から明確に区分することは難しい。実際、旭・小島古墳群、塚本山古墳群では、集成編年10期から終末期前半にかけても小型古墳の築造は継続し、古墳時代前・中期の方墳、集成編年7・8期の小型円墳とともに三段階の古墳がモザイク状に展開している。集成編年8期に造営を開始する西五十子古墳群の事例を含めた上記の群集墳形成のあり方は、特定の地域集団が自らの伝統的墓域を保持しつつ、長期にわたって断続的な古墳造営をおこなう場合があったことを示すもので、群集墓造営主体として、古墳時代を通じ、強固に存在した有力世帯層の姿を暗示するものだろう。

住居は26基を検出し、所属時期は五領式期から鬼高期初頭を確認できる。それぞれの段階においては、一定規模の集落を形成していたと思われるが、集落規模は本庄台地周辺の他の古墳時代集落に比べ、総じて小さい。残存状態の良好ではない遺構が多いことから、台地の縁辺部に展開するために、すでに流失している住居も少なくないと推測される。

確認された遺構は少ないものの、西五十子古墳群における中世の遺物は、五十子陣の構造や範囲を理解する上で重要であろう。とくに、大型品を含む同型のかわけは、東五十子遺跡・西五十子台遺跡・深谷市六反田遺跡などこれまでに確認された五十子陣関連の遺跡においては必ず一定量が出土している。西五十子古墳群においても、かつて別地点での試掘調査の際に大量の大型かわけが出土したことがあり、今回報告の調査範囲においてはかわけとともに東五十子遺跡など同類の方形竪穴状遺構も検出されたことから、西五十子古墳群の範囲にも五十子陣関連遺構の展開が推測できるようになった。五十子陣の中心域は、現在の本庄市東五十子地内にあつて、「城跡」・「赤坂」などの地名が残る本庄台地北東端部に推定されている。同地には、昭和30年代まで、土塁・空堀の一部も残っていたとされ、この周辺に陣の中核的遺構の存在したことは確実であろう。西五十子古墳群はこの五十子陣の中心から南西に2 km離れている。さらに、近年の調査では、女堀川左岸の微高地上にある雌濠遺跡でも同型のかわけが出土していることが明らかになっている。雌濠遺跡は五十子陣の中心から西南西に3.5 km離れた位置にあり、遺物分布から推測される五十子陣関連遺構の所在は、従来の予想を超えた範囲に及んでいる可能性が考えられる。

ST-6 円筒・朝顔形埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	(24.1)	(14.3)	35.2	15.9	8.1	11.2		1.2	0.5	半円	6.1×7.1	ヨコナデ	1次タテハケ	3本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	不明	-	良好	明赤褐色	70%	第3段外面に線刻「×」。片岩・チャートを含む。
2	(28.6)	(13.5)	36.1	15.2	9.5	11.4		1.6	0.7	半円	(6.0×7.0)	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	木目圧痕	ナナメナデ・タテナデ・指頭圧痕	-	不明	-	良好	にぶい橙色	60%	砂礫・片岩・チャートを含む。
3	(23.4)	(12.4)	36.4	14.6	9.1	12.7		1.6	0.6	半円	(7.5)×-	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	不明	棒状	良好	明赤褐色	40%	第3段外面に線刻「入」。片岩・チャートを含む。
4	26.7	(12.5)	36.6	16.0	9.7	10.9		1.7	0.5	半円	(6.2)×7.8	ヨコナデ	1次タテハケ	3~6本	一部指頭圧痕	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	橙色	70%	第3段外面に線刻「×」。片岩・チャートを含む。
5	(27.8)	(12.8)	36.7	15.9	9.8	11.0		2.0	0.5	半円	7.3×8.0	-	1次タテハケ	5本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	明赤褐色	40%	第3段外面に線刻「×」。砂礫・片岩・チャートを含む。
6	24.7	-	-	-	7.5	11.9		1.7	0.5	半円	(5.2)×7.8	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	40%	第3段外面に線刻「×」。片岩・白色針状粒を含む。
7	(23.0)	-	-	-	-	10.3		1.7	0.6	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ	5~13本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	橙色	20%	第3段外面に線刻「×」か。第3段外面に赤色塗彩の痕跡あり。片岩・チャートを含む。
8	(20.4)	-	-	-	-	12.4		2.0	0.6	半円	-	ヨコナデ	1次タテハケ	4~6本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	30%	第3段外面に線刻。片岩・チャートを含む。
9	(24.8)	-	-	-	-	11.5		1.6	0.5	半円	(5.3×5.8)	ヨコナデ	1次タテハケ	6~12本	-	ナナメハケ・ヨコナデ・タテナデ	-	-	-	良好	明赤褐色	30%	砂礫・片岩・チャートを含む。
10	(23.5)	-	-	-	-	11.1		1.8	0.7	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ	11本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	明赤褐色	10%	第3段外面に線刻。第3段外面に赤色塗彩の痕跡あり。片岩・チャートを含む。
11	(26.1)	-	-	-	10.3	10.7		1.8	0.7	半円	(5.1×5.8)	-	1次タテハケ	3~5本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	明赤褐色	35%	第3段外面に線刻「×」。片岩・チャートを含む。
12	(22.2)	-	-	-	-	11.2		1.8	0.6	半円	(5.1×7.0)	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	明赤褐色	20%	片岩・チャートを含む。
13	(25.6)	-	-	-	-	10.6		1.9	0.4	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ	4本	-	ヨコナデ・タテナデ	-	-	-	良好	橙色	20%	片岩・チャートを含む。
14	(27.0)	-	-	-	-	11.6		1.7	0.5	(半円)	-×(6.5)	ヨコナデ	1次タテハケ	4~5本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	第3段外面に線刻「×」か。片岩・白色針状粒を含む。
15	-	(11.1)	-	15.1	(9.1)	-		1.8	0.6	半円	-	-	1次タテハケ	11本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	不明	-	良好	橙色	20%	第3段外面に赤色塗彩の痕跡あり。片岩・チャートを含む。
16	-	(15.7)	-	15.3	-	-		1.8	0.7	-	-	-	1次タテハケ	3本	-	ヨコナデ・タテナデ	-	左	板状	良好	明赤褐色	15%	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
17	-	(11.6)	-	-	-	-		-	-	-	-	-	1次タテハケ	13本	木目圧痕	タテナデ	-	不明	-	良好	橙色	5%	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
18	-	-	-	-	-	-		1.7	0.5	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	タテナデ	-	-	-	良好	にぶい橙色	10%	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
19	(36.8)	(13.2)	54.0	①15.0 ④5.3	②10.5 ⑤4.1	③7.9 ⑥9.6		1.8	1.0	半円	(5.4)×7.4	-	1次タテハケ	2~5本 12本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	一部ヨコケズリ	不明	-	良好	橙色	60%	朝顔形円筒埴輪。第4段外面に線刻「×」。第6段のみ別のハケ工具。片岩を含む。
20	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	1次タテハケ	4本	-	ヨコナデ・ナナメハケ	-	-	-	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	4本	-	ヨコナデ・ナナム ハケ	-	-	-	良好	にぶい橙色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含 む。	
22	-	-	-	-	-	-	2.0	0.5	-	-	-	1次タテハケ	6本	-	ナナムハケ・ナデ	-	-	-	良好	にぶい褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含 む。	
23	-	-	-	-	-	-	1.5	0.6	-	-	-	1次タテハケ	3~4本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
24	-	-	-	-	-	-	1.7	0.5	-	-	-	1次タテハケ	3本	-	タテナデ	-	-	-	良好	にぶい褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含 む。	
25	-	-	-	-	-	-	1.6	0.5	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	タテナデ	-	-	-	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。	

ST-7 円筒・朝顔形埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	(32.2)	(18.0)	41.1	17.8	11.3	12.0		2.5	0.6	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ	3~5本	-	ナナムハケ・ヨコ ナデ・タテナデ	一部ヨコ ケズリ	不明	-	良好	橙色	40%	第3段内面に線刻「×」か。第 3段外面に赤色塗彩の痕跡。
2	(31.9)	-			9.4	13.0		2.3	0.7	半円	(7.2×8.5)	ヨコナデ	1次タテハケ	6~7本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	橙色	20%	第3段外面に赤色塗彩の痕跡
3	(28.9)	-	-	-	-	11.5		2.6	0.6	(半円)	(5.7×6.5)	ヨコナデ	1次タテハケ	3~5本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	橙色	20%	第3段内面に線刻「×」か。片 岩・チャートを含む。
4	(25.9)	-	-	-	10.2	12.7		2.1	0.6	半円	6.5×8.0	ヨコナデ	1次タテハケ	4~5本	-	ナナムハケ・タテ ナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	にぶい橙色	20%	片岩・白色針状粒・チャート を含む。
5	(26.6)	-	-	-	-	11.2		2.5	0.8	半円	-	ヨコナデ	1次タテハケ	4本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	橙色	25%	第3段内面上端に弧状の線刻。
6	(26.2)	-	-	-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	4~5本	-	ナナムハケ・ナナ メナデ	-	-	-	良好	黄橙色	25%	第3段内面に線刻「×」。片岩・ チャートを含む。
7	(22.6)	-	-	-	-	9.8		2.4	0.6	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	橙色	15%	第3段内面に線刻「×」か。片 岩・白色針状粒を含む。
8	(25.1)	-	-	-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	5~6本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	
9	(23.8)	-	-	-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	-	タテナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	第3段内面に縦位の線刻。
10	(23.2)	-	-	-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	3~5本	-	ナナムナデ・タテ ナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	チャート・白色粒・黒色粒を 含む。
11	-	-	-	-	7.8	-		2.2	0.8	半円	5.5×(6.9)	-	1次タテハケ	3~4本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	明赤褐色	20%	片岩・チャートを含む。
12	-	(15.0)	-	-	8.7	-		2.1	0.7	半円	(5.9×7.1)	-	1次タテハケ	4~5本	-	ナナムハケ・タテ ナデ	-	左	棒状	良好	橙色	60%	
13	-	(15.7)	-	-	-	-		-	-	-	-	-	1次タテハケ	3~4本	-	タテナデ	-	右	棒状	良好	橙色	10%	雲母・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)						突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態		径	調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き				
14	(41.0)	-	-	①- ⑤-	②- ⑥-	③- ④-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	4~6本	-	ナナメハケ	-	-	-	良好	橙色	10%	朝顔形円筒埴輪。 片岩・チャートを含む。
15	(36.2)	-	-	①- ⑤-	②- ⑥-	③- ④-	1.8	0.6	-	-	-	1次タテハケ	3~4本	-	ヨコハケ・ナナメ ハケ・ナデ	-	-	-	良好	にぶい黄橙色	15%	朝顔形円筒埴輪。 片岩・チャートを含む。
16	-	-	-	①- ⑤-	②- ⑥-	③- ④-	1.8	0.5	-	-	-	1次タテハケ	4~7本	-	ナナメハケ・ナナ メナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	朝顔形円筒埴輪。 片岩・チャートを含む。
17	-	-	-	①- ⑤-	②- ⑥-	③- ④-	1.8	0.8	-	-	-	1次タテハケ	3~5本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	にぶい橙色	10%	朝顔形円筒埴輪。 片岩・チャートを含む。
18	-	-	-	①- ⑥-	②- ③	③10.0 ④6.5	1.8	0.8	半円	(5.9×7.0)	-	1次タテハケ	4~5本	-	ヨコナデ・ナナメ ハケ・タテナデ	-	-	-	良好	明赤褐色	25%	朝顔形円筒埴輪。 片岩・チャートを含む。
19	-	-	-	①- ⑤-	②- ⑥-	③9.1 ④7.9	2.5	0.6	半円	(6.5×6.5)	-	1次タテハケ	3本・11本	-	ヨコナデ・タテナ デ	-	-	-	良好	にぶい黄橙色	20%	朝顔形円筒埴輪。2・3段と4 段とは異なるハケ工具。
20	-	-	-	-	-	-	2.0	0.9	-	-	-	1次タテハケ	4本	-	タテナデ	-	-	-	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。

ST-13 円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)						突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態		径	調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き				
1	(24.3)	-	-	-	8.7	11.0	2.0	0.7	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ・ナ ナメハケ	7~8本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	明褐色	25%	砂礫・チャート、微量の片岩 を含む。
2	(26.5)	-	-	-	-	11.5	2.0	0.8	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	にぶい褐色	10%	第3段外面に線刻。 片岩・チャートを含む。
3	(25.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	第3段外面に線刻。 片岩・チャートを含む。
4	(21.8)	-	-	-	-	8.8	1.8	0.7	(半円)	-	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	-	ナナメハケ・指頭 圧痕	-	-	-	良好	橙色	15%	第3段内面に線刻「×」か。 砂礫・片岩・チャートを含む。
5	(24.9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	片岩・チャートを含む。
6	(22.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	片岩・チャートを含む。
7	(24.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ・ナ ナメハケ	6本	-	ナナメハケ	-	-	-	良好	橙色	5%	第3段外面に線刻。 片岩・チャートを含む。
8	(23.8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ・ナ ナメハケ	6本	-	ナナメハケ・ナデ ・指頭圧痕	-	-	-	良好	明褐色	15%	片岩・チャートを含む。
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	6本	-	ナナメハケ・ヨコ ナデ・ナナメナデ	-	-	-	良好	橙色	15%	砂礫・片岩・チャートを含む。
10	-	-	-	-	-	-	-	-	(半円)	-	-	1次タテハケ	7本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	第3段外面に線刻。 片岩・チャートを含む。
11	-	-	-	-	-	-	-	-	半円	-	-	1次タテハケ・ナ ナメハケ	6本	-	ナナメハケ・タテ ナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	10%	第3段外面に線刻「×」か。 片岩・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部調整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ・ナメハケ	6本	-	ナナメハケ	-	-	-	良好	橙色	破片	外面に線刻。微量の片岩・チャートを含む。
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ・ナメハケ	6本	-	ナナメハケ	-	-	-	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ・ナメハケ	8本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	明褐色	破片	外面に線刻「X」。片岩・チャートを含む。
15	-	-	-	-	-	-	-	1.7	0.6	-	-	-	1次タテハケ	6本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	5本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	橙色	破片	微量の片岩・チャートを含む。

ST-14 円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部調整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	23.2	-	-	-	-	10.7	-	1.7	0.5	半円	-	ヨコナデ	1次タテハケ	4~5本	-	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	40%	第3段外面に線刻「X」。片岩・チャートを含む。
2	(22.7)	-	-	-	-	9.3	-	2.1	0.5	半円	-	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	-	タテナデ	-	-	-	良好	橙色	15%	砂礫・片岩・チャートを含む。
3	-	-	-	14.3	-	-	-	1.8	0.5	(半円)	-	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ	-	不明	-	良好	橙色	20%	砂礫・片岩・チャートを含む。
4	-	12.8	-	17.0	-	-	-	1.8	0.6	-	-	-	1次タテハケ	5本	-	タテナデ・ヨコナデ	指頭圧痕	右	木目状	良好	明赤褐色	20%	砂礫・片岩・チャートを含む。

ST-18 円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部調整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	-	(13.4)	-	18.3	-	-	-	2.2	0.4	(半円)	-X(8.7)	-	1次タテハケ	10本	ナデ	タテナデ・ヨコナデ指頭圧痕	指頭圧痕・ナデ	右	-	良好	明赤褐色	20%	チャート・微量の片岩を含む。
2	-	-	-	-	-	10.5	-	2.5	0.8	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	にぶい黄褐色	破片	外面に赤色塗装彩の痕跡あり。還元気味の焼成。
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	灰黄褐色	破片	内面に縦位5条以上の線刻。口縁部歪む。還元焼成。
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	橙色	5%	微量の片岩・チャートを含む。
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	橙色	破片	微量の片岩・白色針状粒・チャートを含む。
6	-	-	-	-	-	-	-	1.8	0.6	半円	-	-	1次タテハケ	7本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	明褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部調整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
7	-	-	-	-	-	-	-	1.9	0.6	半円	-	-	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	明褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
8	-	-	-	-	-	-	-	1.6	0.5	半円	-	-	1次タテハケ	8本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
9	-	-	-	-	-	-	-	2.2	1	(半円)	-	-	1次タテハケ	8本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	灰黄褐色	破片	還元焰焼成。
10	-	-	-	-	-	-	-	2	0.6	-	-	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
11	-	-	-	-	-	-	-	1.9	0.7	-	-	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ	-	-	-	良好	明褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
12	-	-	-	-	-	-	-	1.8	0.6	-	-	-	(1次タテハケ)	-	-	ナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	明赤褐色	破片	外面に線刻「×」か。片岩・白色針状粒を含む。
13	-	-	-	-	-	-	-	1.8	0.6	-	-	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	5%	微量の片岩・チャートを含む。
14	-	-	-	-	-	-	-	2.1	0.7	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	タテナデ・ヨコナデ	-	-	-	良好	明褐色	10%	
15	-	-	-	-	-	-	-	1.8	0.6	-	-	-	1次タテハケ	8本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	明褐色	破片	外面に線刻「×」か。
16	-	-	-	-	-	-	-	2.5	0.7	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	ナナメハケ・タテナデ	-	-	-	良好	にぶい黄橙色	破片	片岩・チャートを含む。
17	-	-	-	-	-	-	-	1.8	0.5	-	-	-	1次タテハケ	11本	-	ナナメハケ・ナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	破片	微量の片岩・チャートを含む。
18	-	-	-	17.3	-	-	-	2	0.8	-	-	-	1次タテハケ	10本	木目圧痕	タテナデ・ナナメナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	明褐色	10%	片岩・チャートを含む。
19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ・ナナメナデ	-	右	-	良好	橙色	破片	微量の片岩・チャートを含む。
20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	11本	-	タテナデ	-	右	棒状	良好	暗灰黄色	破片	片岩・チャートを含む。還元焰焼成。
21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	10本	木目圧痕	ナナメナデ	-	右	-	良好	明褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	タテナデ	指頭圧痕	-	棒状	良好	黄灰色	破片	還元焰焼成。
23	-	-	-	①- ④-	②- ⑤-	③- ⑥-	-	1.7	0.4	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	ナデ	-	-	-	良好	橙色	破片	朝顔形円筒埴輪。外面に線刻。
24	-	-	-	①- ④-	②- ⑤-	③- ⑥-	-	-	-	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	ナデ	-	-	-	良好	橙色	破片	朝顔形円筒埴輪。片岩・チャートを含む。

ST-19 円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部調整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	-	12.0	-	12.4	8.3	-	-	1.6	0.5	半円	-	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	-	タテナデ	-	不明	棒状	良好	橙色	40%	片岩・チャートを含む。

ST-23 円筒・朝顔形埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	23.1	13.7	36.2	12.7	10.8	12.7		1.9	0.6	半円	6.4×(7.0)	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・ヨコ ナデ・タテナデ	指頭圧 痕	左	-	良好	明赤褐色	80%	第3段外面に線刻「入」。 片岩・チャートを含む。
2	(23.9)	(15.0)	29.6	13.5	8.6	7.5		1.9	0.7	半円	5.0×5.8	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・タテ ナデ	-	不明	棒状	良好	橙色	30%	第3段外面に線刻。 片岩・チャートを含む。
3	23.4	-	-	-	8.8	12.1		2.0	0.7	半円	(5.0×6.0)	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	-	ナナメハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	明赤褐色	60%	片岩・白色針状粒・チャート を含む。
4	(27.4)	-	-	-	8.3	13.5		1.7	0.7	半円	-	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	-	ナナメハケ・タテ ナデ・指頭圧痕	-	-	-	良好	橙色	30%	片岩・チャートを含む。
5	(26.8)	-	-	-	-	12.2		1.9	0.8	半円	-	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・タテ ナデ	-	-	moxz	良好	にぶい褐色	20%	第3段外面に線刻。 片岩・チャートを含む。
6	(26.0)	-	-	-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	-	ナナメハケ・タテ ナデ	-	-	-	良好	にぶい橙色	15%	片岩・チャートを含む。
7	(25.5)	-	-	-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	-	ナナメハケ・ヨコ ナデ	-	-	-	良好	にぶい赤褐色	15%	片岩・チャートを含む。
8	-	-	-	-	-	-		2.0	-	半円	(5.0×5.9)	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ	-	-	-	良好	橙色	10%	片岩・チャートを含む。
9	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	1次タテハケ	9~10本	-	タテナデ	-	-	-	良好	にぶい橙色	10%	片岩・チャートを含む。
10	(36.9)	-	-	①- ②- ③- ④- ⑤- ⑥-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ・ナ ナメハケ	10本	-	ナナメハケ・ナデ	-	-	-	良好	にぶい橙色	10%	朝顔形円筒埴輪。 片岩・チャートを含む。
11	(36.3)	-	-	①- ②- ③- ④- ⑤- ⑥-	-	-		-	-	-	-	ヨコナデ	1次タテハケ・ナ ナメハケ	8本	-	ヨコハケ・ナナメ ハケ・指頭圧痕	-	-	-	良好	にぶい橙色	5%	朝顔形円筒埴輪。 片岩・チャートを含む。
12	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	1次タテハケ	10本	-	ナナメハケ	-	-	-	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
13	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ	-	-	-	良好	にぶい褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャート を含む。
14	-	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	1次タテハケ	9本	-	タテナデ	-	不明	棒状	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。

ST-44 円筒・朝顔形埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	22.7	13.0	33.5	12.9	10.9	9.7		1.8	0.6	半円	6.9×7.7	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	木目圧 痕	ナナメハケ・ナナ メナデ・指頭圧痕	-	右	棒状	良好	橙色	90%	第3段外面に線刻「×」。 片岩・チャートを含む。
2	23.1	14.7	33.0	14.4	9.7	8.9		1.6	0.7	半円	5.5×7.0	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	木目圧 痕	ナナメハケ・ナナ メナデ・指頭圧痕	指頭圧 痕	左	棒状	良好	橙色	85%	第3段外面に線刻「×」。 片岩・チャートを含む。
3	(23.7)	(10.9)	33.8	13.6	9.6	10.6		1.7	0.8	半円	5.4×-	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	木目圧 痕	ナナメナデ・タテ ナデ・指頭圧痕	-	右	棒状	良好	橙色	65%	第3段外面に線刻「×」。 片岩・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
4	22.4	(12.2)	33.0	14.1	9.0	9.9		1.9	0.6	半円	5.8×8.0	ヨコナデ	1次タテハケ	6~8本	木目圧痕	ナナメハケ・タテナデ・ヨコナデ・指頭圧痕	指頭圧痕	不明	—	良好	橙色	75%	第3段外面に線刻「×」。片岩・チャートを含む。
5	(23.3)	13.6	35.0	14.9	9.4	10.7		1.7	0.5	半円	6.0×7.2	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	木目圧痕	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	指頭圧痕	左	棒状	良好	橙色	90%	第3段外面に線刻「×」。片岩・チャートを含む。
6	(24.6)	12.5	35.1	16.0	8.0	11.1		1.9	0.5	半円	6.4×6.5	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	タテナデ・指頭圧痕	—	右	—	良好	明褐色	85%	第3段内面に4条線の線刻。片岩・チャートを含む。
7	(25.2)	13.0	(35.5)	14.6	9.4	(11.5)		2.1	0.6	半円	5.3×6.5	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナナメナデ・タテナデ	—	右	—	良好	橙色	85%	第3段内面に3条以上の線刻。片岩・チャートを含む。
8	(22.5)	—	—	—	10.3	10.1		1.5	0.8	半円	(6.5)×8.0	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	—	—	—	良好	橙色	55%	第3段外面に線刻。片岩・チャートを含む。
9	(24.8)	—	—	—	—	10.1		1.9	0.8	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	—	ナナメナデ・タテナデ・指頭圧痕	—	—	—	良好	にぶい橙色	15%	片岩・チャートを含む。
10	—	(14.6)	—	14.5	—	—		1.8	0.6	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ・指頭圧痕	指頭圧痕	右	—	良好	にぶい黄褐色	10%	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
11	(25.0)	—	—	①— ②— ③— ④— ⑤— ⑥12.1				1.7	0.8	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	6~8本	—	ハケ・ヨコナデ・ナナメナデ	—	—	—	良好	橙色	5%	朝顔形円筒埴輪。片岩・白色針状粒を含む。

ST-49 円筒・朝顔形埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	—	(15.5)	—	①26.5 ②13.9 ③9.4 ④— ⑤—				2.4	0.6	円	6.4×(5.7)	—	1次タテハケ	9~11本	—	タテハケ・ヨコナデ・タテナデ	—	右	—	良好	赤褐色	50%	朝顔形円筒埴輪。5段構成と想定される。角閃石・白色粒を含む。
2	—	—	—	①— ②15.1 ③18.1 ④6.0 ⑤— ⑥—				2.2	0.6	円	5.2×5.4	—	1次タテハケ	11本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	橙色	55%	朝顔形円筒埴輪。5段構成と想定される。角閃石・白色粒を含む。

ST-54 円筒・朝顔形埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.4	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。

1Y-17 グリッド円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	22.7	13.1	32.4	12.8	9.5	10.1		2.6	0.6	半円	(7.2×7.2)	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ハケ後タテナデ	—	右	棒状	良好	にぶい褐色	90%	第3段内面に3条線の線刻。 片岩・チャートを含む。
2	(22.1)	13.3	34.8	15.3	9.5	10.0		1.7	0.5	半円	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	木目圧痕	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	—	右	棒状	良好	にぶい褐色	65%	第3段外面に線刻「×」か。 片岩・チャートを含む。
3	24.2	12.8	37.1	16.6	9.6	10.9		1.7	0.8	半円	5.7×7.0	ヨコナデ	1次タテハケ	11~12本	—	ナナメハケ・タテナデ・指頭圧痕	—	右	棒状	良好	橙色	90%	第3段外面に線刻「×」。 片岩・チャートを含む。

グリッド円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
2	—	—	—	—	—	—		1.9	0.6	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	外面に線刻「×」か。 片岩・チャートを含む。
3	—	—	—	—	—	—		1.9	0.6	(半円)	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
4	—	—	—	—	—	—		2.1	0.7	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
5	—	—	—	—	—	—		1.9	0.6	(半円)	—	—	1次タテハケ	12本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
6	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
7	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
8	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
9	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
10	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	タテナデ	—	—	木目状	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
11	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ・ナナメナデ	—	—	棒状	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
12	(25.5)	—	—	—	7.8	13.5		1.5	0.5	半円	4.4×(6.0)	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	にぶい赤褐色	30%	第3段外面に線刻「×」か。 片岩・チャートを含む。
13	—	—	—	—	9.8	—		2.1	0.5	半円	6.7×8.4	—	1次タテハケ	10~12本	—	ナナメハケ・タテナデ・ヨコナデ	—	—	—	良好	橙色	40%	片岩・チャートを含む。
14	—	—	—	—	—	—		2.0	0.4	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	ナナメナデ	—	—	—	良好	にぶい橙色	5%	チャート・黒色粒を含む。
15	—	(15.8)	—	15.6	—	—		2.6	0.5	—	—	—	1次タテハケ	6~10本	—	タテナデ	—	右	棒状	良好	橙色	10%	チャート・黒色粒を含む。

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
16	—	10.5	—	14.1	—	—	—	1.3	0.5	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	タテナデ	—	右	棒状	良好	橙色	20%	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
17	—	(14.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5~6本	—	タテナデ・ナナメ ナデ	—	右	—	良好	橙色	10%	チャート・黒色粒を含む。
18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	17本	—	ナナメハケ・タテ ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	黒色粒・白色粒を含む。
19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	12本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	
20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	
21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	
23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	
24	—	—	—	13.9	—	—	—	1.7	0.7	—	—	—	1次タテハケ	3本	—	ナナメハケ・タテ ナデ	—	右	棒状	良好	褐色	5%	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
25	—	—	—	—	—	—	—	1.5	0.5	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	赤褐色	破片	角閃石・白色粒を含む。
26	—	—	—	—	—	—	—	2.1	0.8	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	ナナメハケ・タテ ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	黒色粒・チャートを含む。
27	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.4	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
28	—	—	—	—	—	—	—	1.2	0.6	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ・タテ ナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。
29	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.8	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
30	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.5	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。
31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。
32	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.5	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	D-13グリッドと接合。
33	—	—	—	—	—	—	—	1.9	0.6	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	
34	—	—	—	—	—	—	—	2.1	0.7	—	—	—	1次タテハケ	13本	—	タテナデ・指頭圧 痕	—	—	—	良好	赤褐色	破片	角閃石・白色粒を含む。
35	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.8	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	
36	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.6	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	—	—	—	良好	褐色	破片	片岩・チャートを含む。
37	—	—	—	—	—	—	—	1.9	0.6	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)						突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態		径	調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き				
38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	摩耗	—	—	ナナメナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
39	—	—	—	—	—	—	1.7	0.5	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	
40	—	—	—	—	—	—	1.9	0.6	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
41	—	—	—	—	—	—	1.5	0.4	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・タテ ナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。
42	—	—	—	—	—	—	1.7	0.3	半円	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	
43	—	—	—	—	—	—	1.7	0.4	半円	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。
44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	8~10本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
45	—	—	—	—	—	—	1.6	0.5	(半円)	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
46	—	—	—	—	—	—	2.2	0.6	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・タテ ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	
47	—	—	—	—	—	—	1.7	0.6	(半円)	—	—	—	—	—	ナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。
48	—	—	—	—	—	—	1.7	0.6	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	剥離のため不明	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
49	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	黒色粒・チャートを含む。
50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	チャート・黒色粒を含む。
51	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。
52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
53	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	
55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ	—	—	—	良好	灰褐色	破片	片岩・チャートを含む。 還元焰焼成。
56	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	タテナデ	—	—	—	良好	灰褐色	破片	
57	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。
58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	外面に線刻あり。 片岩・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
59	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片		
60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	14本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
61	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	右	—	良好	にぶい褐色	破片	片岩・チャートを含む。	
62	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい橙色	破片	片岩・白色針状粒・チャートを含む。	
63	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。	
64	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。	
65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい橙色	破片	片岩・チャートを含む。	

試掘円筒埴輪観察表

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
1	(27.4)	—	—	—	—	12.7	—	2.0	0.6	(半円)	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	にぶい黄橙色	5%	片岩・チャート・白色バミス・赤褐色粒を含む。
2	(25.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	6本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	5%	口縁部内面に線刻。片岩・チャート・赤褐色粒・白色針状粒を含む。
3	(26.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	橙色	5%	口縁部内面に線刻。チャート・白色バミス・赤褐色粒を含む。
4	(26.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	橙色	5%	チャート・白色バミス・赤褐色粒を含む。
5	—	—	—	—	—	—	—	2.5	0.8	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	橙色	5%	チャート・白色バミス・赤褐色粒を含む。
6	—	—	—	—	—	—	—	2.3	0.7	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ	—	—	—	良好	にぶい褐色	5%	片岩・チャート・白色バミス・赤褐色粒を含む。
7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	5%	片岩・チャート・白色バミス・赤褐色粒を含む。
8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	5%	片岩・チャート・白色バミス・赤褐色粒を含む。

大溝円筒・朝顔形埴輪観察表

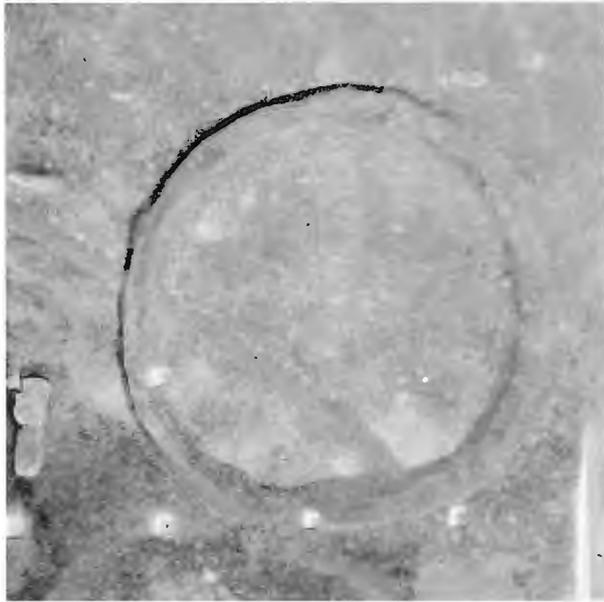
番号	法 量 (cm)						突 帯		透 孔		口縁部調整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考	
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態		径	調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き					圧痕
1	—	13.3	—	13	—	—	—	1.8	0.4	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	指頭圧痕	—	—	良好	橙色	25%	第1段外面に線刻。雲母・チャート・赤褐色粒を含む。
2	—	12.5	—	14	—	—	—	1.6	0.4	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	タテナデ	指頭圧痕	—	棒状	普通	明赤褐色	10%	雲母・チャート・角閃石・白色バミス・赤褐色粒を含む。
3	—	16.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	指頭圧痕	—	—	良好	明赤褐色	10%	片岩・白色バミス・赤褐色粒を含む。
4	—	—	—	—	—	11.9	—	1.4	0.5	半円	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	10%	第3段外面に線刻。チャートを含む。
5	—	—	—	—	—	8.9	—	1.9	0.7	(半円)	—	ヨコナデ	1次タテハケ	9本	—	タテハケ・タテナデ	—	—	—	良好	橙色	10%	角閃石・チャートを含む。
6	—	—	—	—	—	8.6	—	1.8	0.6	(円)	—	—	1次タテハケ	11本	—	ナナメハケ・ナデ・指頭圧痕	—	—	—	良好	黄橙色	5%	角閃石・白色粒を含む。
7	—	—	—	—	—	5.9	—	2.0	0.4	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	4段構成か。砂礫・チャートを含む。
8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	第3段外面に横2条線の線刻。チャートを含む。
9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	チャートを含む。
10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナナメナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	粗粒のチャートを含む。
11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ヨコナデ	1次タテハケ	8本	—	ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	外面に横線の線刻。粗粒のチャートを含む。
13	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.4	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	粗粒のチャートを含む。
14	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.6	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	角閃石・白色粒を含む。
15	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.3	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	角閃石・白色粒を含む。
16	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.7	(半円)	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテハケ・タテナデ	—	—	—	良好	明黄褐色	破片	角閃石・白色粒を含む。
17	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.6	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
18	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.6	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	ナナメハケ・タテナデ・ナナメナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	チャート・黒色粒・白色粒を含む。
19	—	—	—	—	—	—	—	1.4	0.4	—	—	—	1次タテハケ	18本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
20	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.6	(円)	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	チャートを含む。
21	—	—	—	—	—	—	—	1.1	0.5	(円)	—	—	1次タテハケ	8本	—	ハケ・タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。

番号	法 量 (cm)							突 帯		透 孔		口縁部 調 整	外 面 調 整			内 面 調 整		底 部		焼成	色 調	残存率	備 考
	口径	底径	器高	第1段	第2段	第3段	第4段	幅	高さ	形態	径		調 整	ハケ本数 (/2cm)	基部	調 整	基部	巻き	圧痕				
22	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.4	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	粗粒のチャートを含む。
23	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.6	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
24	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.4	—	—	—	1次タテハケ	12本	—	タテハケ・タテナデ	—	—	—	良好	にぶい褐色	破片	角閃石・白色粒を含む。
25	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.8	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
26	—	—	—	—	—	—	—	1.7	0.5	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	タテナデ・ナナメナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
27	—	—	—	—	—	—	—	1.4	0.5	—	—	—	1次タテハケ	14本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。
28	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.5	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	粗粒のチャートを含む。
29	—	—	—	—	—	—	—	1.9	0.4	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	外面に線刻。 片岩・チャートを含む。
30	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.6	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	外面に線刻「×」か。 片岩・チャートを含む。
31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	11本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	チャートを含む。
32	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.5	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。
33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(円)	—	—	1次タテハケ	9本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。
34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(円)	—	—	1次タテハケ	8本	—	タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	粗粒のチャートを含む。
35	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.4	—	—	—	1次タテハケ	21本	—	ヨコハケ・ナナメハケ・ナナメナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。
36	—	—	—	—	—	—	—	1.8	0.4	半円	—	—	1次タテハケ	8本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	片岩・チャートを含む。
37	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.5	円	—	—	1次タテハケ	9本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	良好	明赤褐色	破片	外面に横線の線刻。 チャートを含む。
38	—	—	—	—	—	—	—	1.6	0.5	—	—	—	1次タテハケ	8本	—	ナナメナデ	—	右	—	良好	明黄褐色	5%	黒色粒・チャートを含む。
39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	15本	—	タテナデ・ナナメナデ	—	—	棒状	良好	明褐色	5%	片岩・チャートを含む。
40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ・ヨコハケ	—	右	—	良好	橙色	5%	粗粒の片岩・チャートを含む。
41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	7本	—	タテナデ・ナナメナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	片岩・チャートを含む。
42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	9本	—	ナナメハケ・ナデ	—	右	棒状	良好	にぶい橙色	破片	角閃石・白色粒を含む。
43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	6本	—	タテナデ	ヨコナデ	右	棒状	良好	灰褐色	5%	粗岩の片岩・チャートを含む。 還元焼成。
44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1次タテハケ	10本	—	ナナメナデ	ヨコナデ	—	—	良好	明赤褐色	破片	黒色粒・チャートを含む。
45	—	—	—	①— ②— ③8.0 ④7.3 ⑤— ⑥—			—	1.5	0.4	半円	5.5×5.1	—	1次タテハケ	11本	—	ナナメハケ・タテナデ	—	—	—	一部還元	橙色	30%	朝顔形円筒埴輪。第4段外面に線刻。片岩・角閃石・赤褐色粒を含む。
46	—	—	—	—	—	—	—	2.1	0.7	—	—	—	1次タテハケ	5本	—	ナナメハケ・ナデ	—	—	—	良好	橙色	破片	角閃石安山岩粒を含む。

【文 献】

- 江原昌俊・大谷 徹 2005 「北武蔵における古墳時代中期群集墓の形成」『考古学ジャーナル』4月号 (No.528) ニューサイエンス社 東京 pp.16～18.
- 広瀬和雄 1992 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成畿内編』山川出版社 東京 pp.24～26.
- 橋本博文・佐々木幹雄ほか 1980 『宍勝寺北裏遺跡』宍勝寺北裏遺跡調査会 東京.
- 恋河内昭彦 1996 「第V章まとめ」『辻堂遺跡I—県営水田農業確立排水対策特別事業(やほり川地区)に伴う辻堂遺跡B地点発掘調査報告書—』児玉町文化財調査報告書第19集 児玉町教育委員会 児玉郡児玉町 pp.63～90.
- 松本 完 2002 『大久保山遺跡浅見山I地区(第2次)・北掘前山古墳群(第2・3次)発掘調査報告書—新幹線本庄新駅(仮称)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査I—』本庄市遺跡調査会報告第6集 本庄市遺跡調査会 本庄.
- 中村倉司 1999 「埼玉県における5世紀代の土器—和泉式土器の行方—」『東国土器研究』第5号 東国土器研究会 藤沢 pp.91～118.
- 南毛古墳文化研究会 2001 『本庄市域における古式古墳調査の成果と課題』第5回群馬県古墳時代研究会・南毛古墳文化研究会合同検討会資料 本庄.
- 太田博之 1991 『本庄遺跡群発掘調査報告書V—公卿塚古墳—』本庄市埋蔵文化財調査報告第19集 本庄市教育委員会 本庄.
- 太田博之 2001 『旭・小島古墳群—前の山古墳—』本庄市埋蔵文化財調査報告第23集 本庄市教育委員会 本庄.
- 太田博之 2004 『旭・小島古墳群—上前原1～3・5～11号墳—』本庄市埋蔵文化財調査報告第27集 本庄市教育委員会 本庄.
- 太田博之 2005 『旭・小島古墳群—林地区I—』本庄市埋蔵文化財調査報告書第3集 本庄市教育委員会 本庄.
- 大谷 徹 1998 『新屋敷遺跡D区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第194集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 大里郡大里.
- 坂本和俊 1985 「埼玉県における円筒埴輪編年の諸問題」『埴輪の変遷—その普遍性と地域性—』北武蔵古代文化研究会 pp.63～69.
- 1986 「埼玉における前期古墳の形成」『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室 浦和 pp.204～207.
- 埼玉県教育委員会 1994 『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』浦和.
- 菅谷浩之 1984 『北武蔵における古式古墳の成立—児玉地方からみた北武蔵の古式古墳—』児玉町史資料調査報告 古代第1集 児玉町教育委員会・児玉町史編纂委員会 児玉郡児玉町.
- 杉山晋作・太田博之 2005 「関東における古墳時代中期群集墓の墓制変容」『考古学ジャーナル』4月号 (No.528) ニューサイエンス社 東京 pp.3～4.
- 山川守男・盛敬彰・金子彰男・中村正明・橋本雅夫・松本和弘 1981 「新発見の埴輪窯跡群」『いぶき』12号 埼玉県立本庄高等学校考古学部 本庄 pp.29～40.
- 和田晴吾 1992 「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』第五巻近畿I pp.325～350.角川書店 東京.

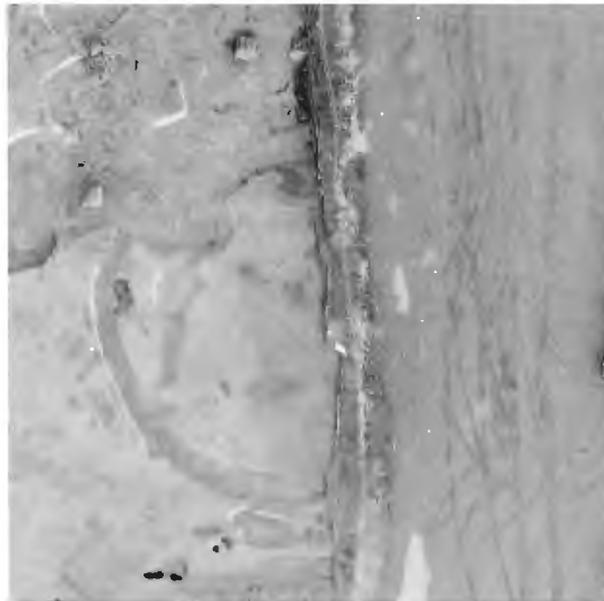
写 真



ST-7 周堀検出状況



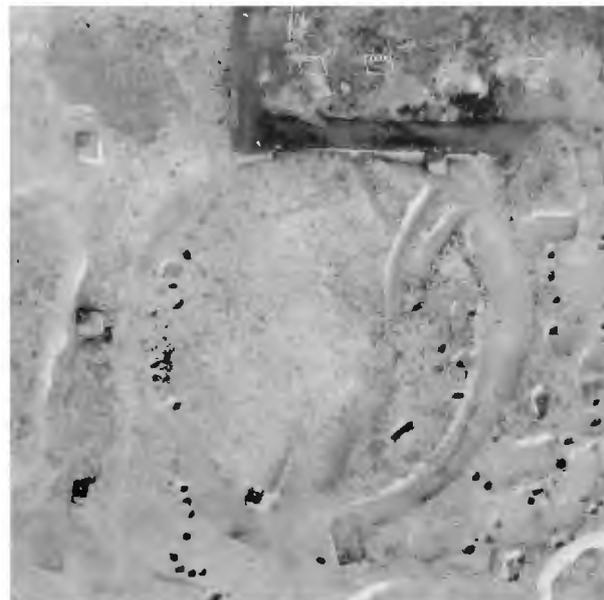
ST-14 周堀検出状況



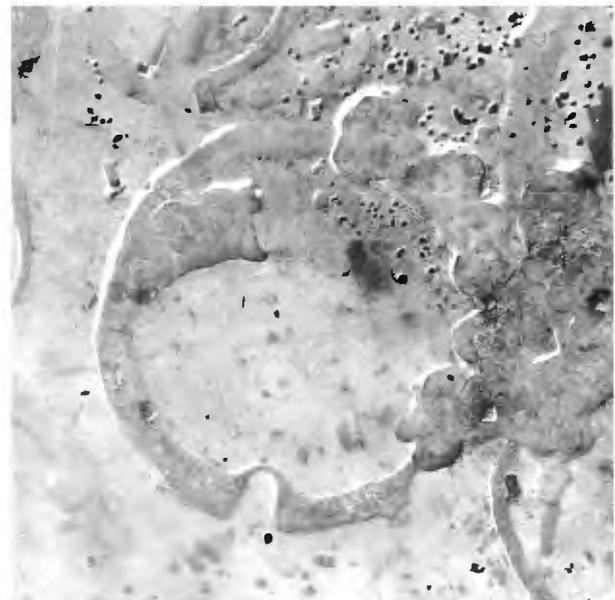
ST-15 周堀検出状況



ST-16 周堀検出状況



ST-17 周堀検出状況

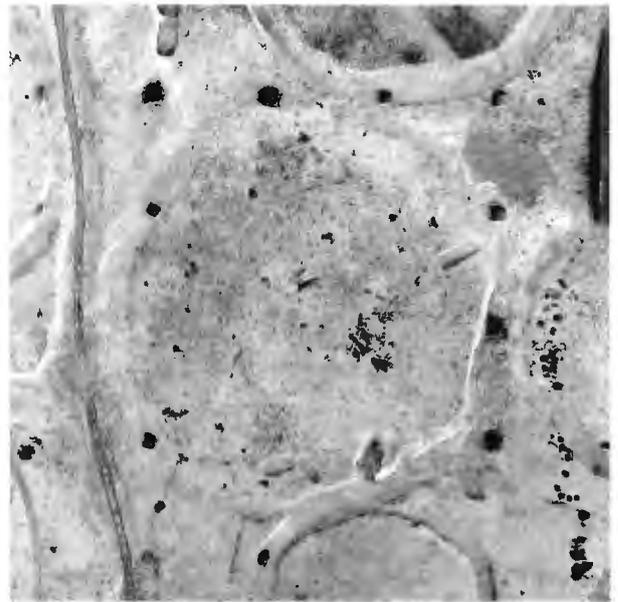


ST-18 周堀検出状況

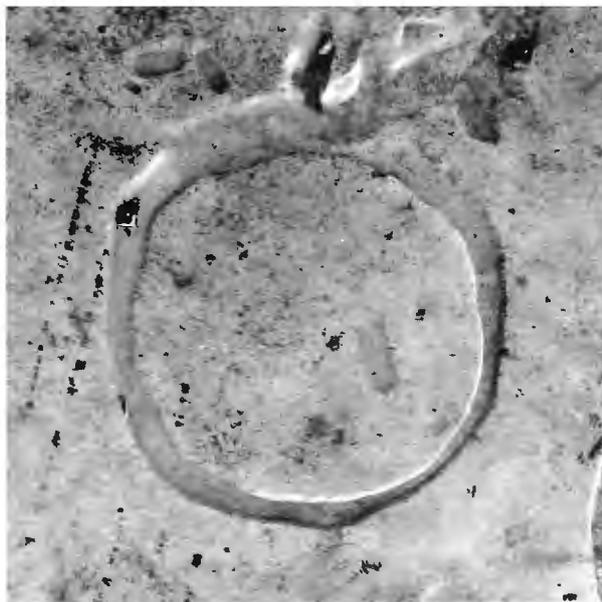
写真2



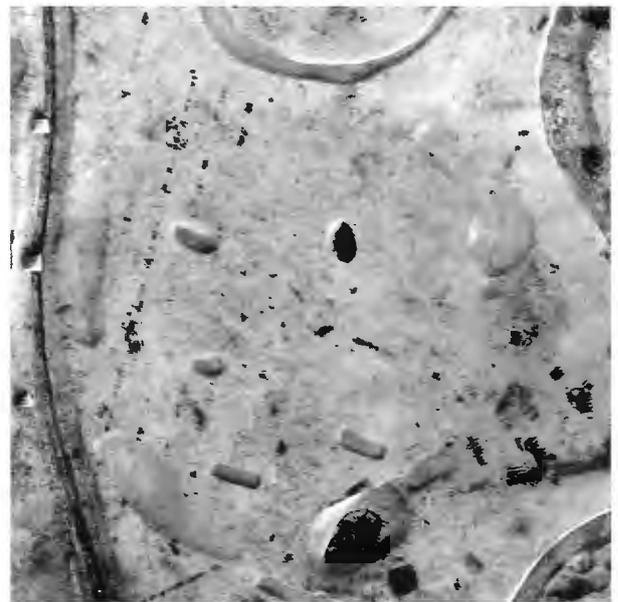
ST-19 周堀検出状況



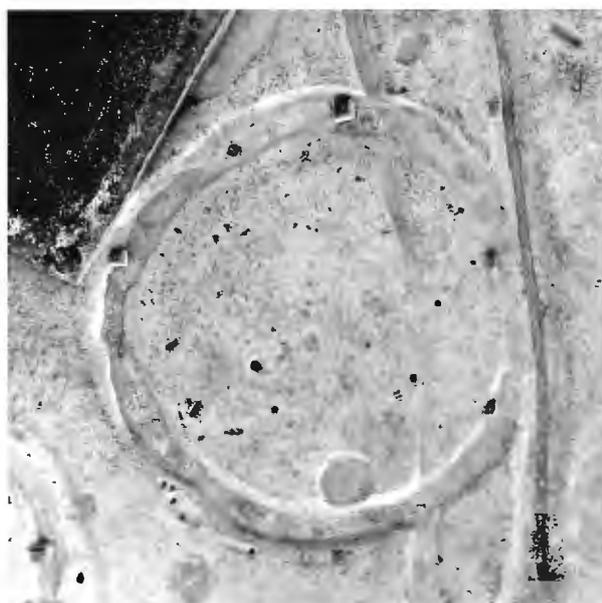
ST-20 周堀検出状況



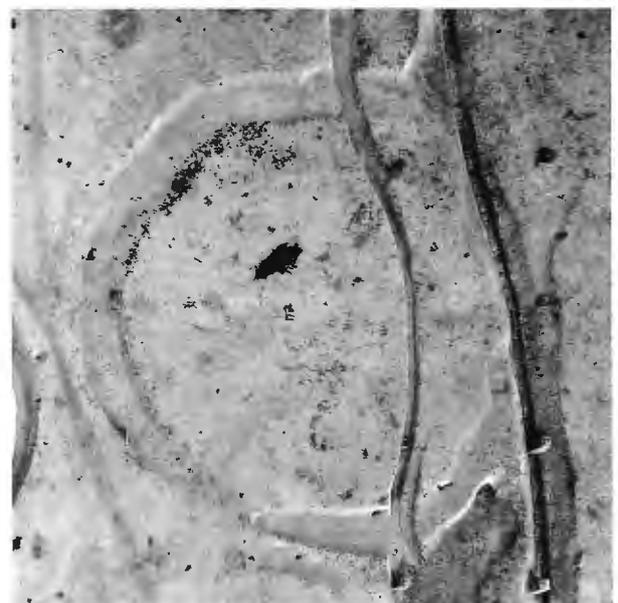
ST-21 周堀検出状況



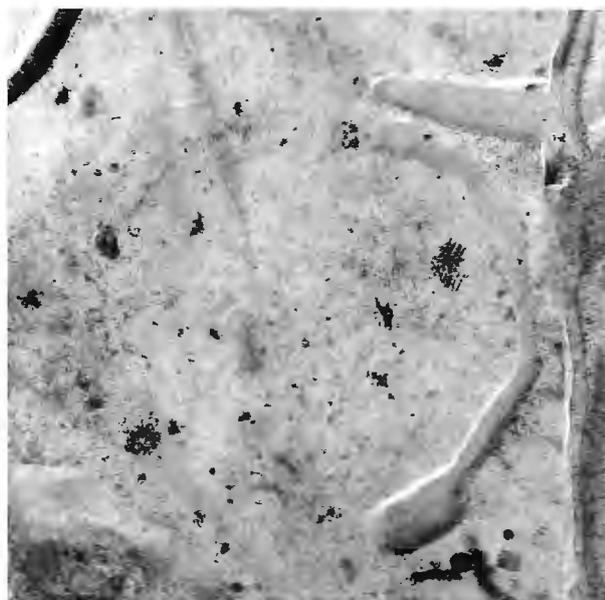
ST-22 周堀検出状況



ST-23 周堀検出状況



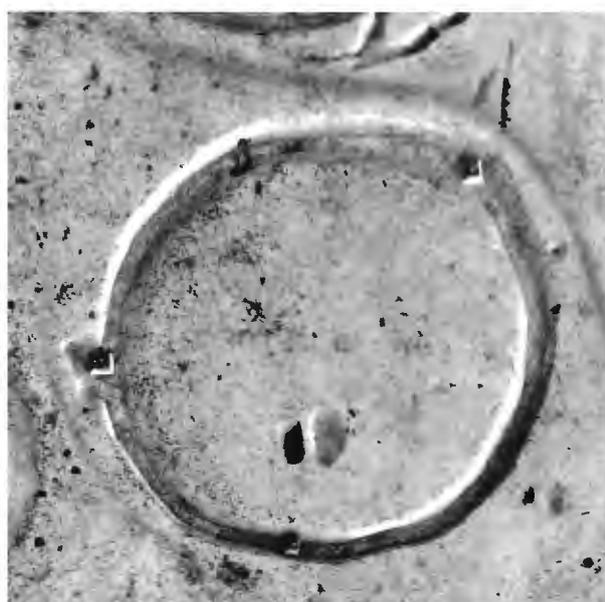
ST-24 周堀検出状況



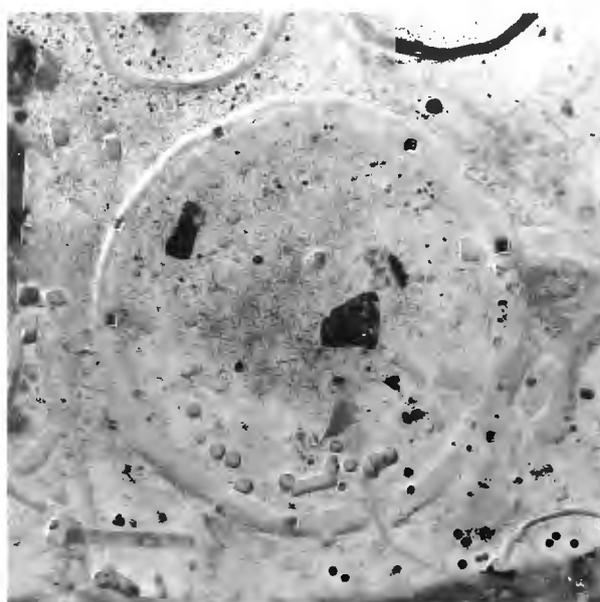
ST-25 周堀検出状況



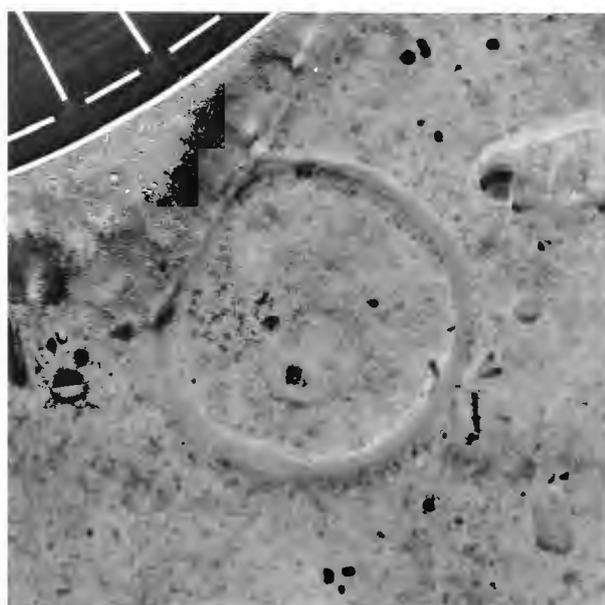
ST-26 周堀検出状況



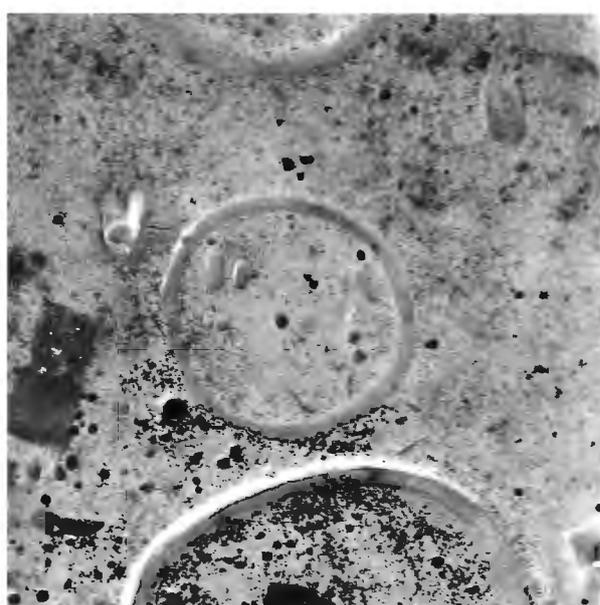
ST-27 周堀検出状況



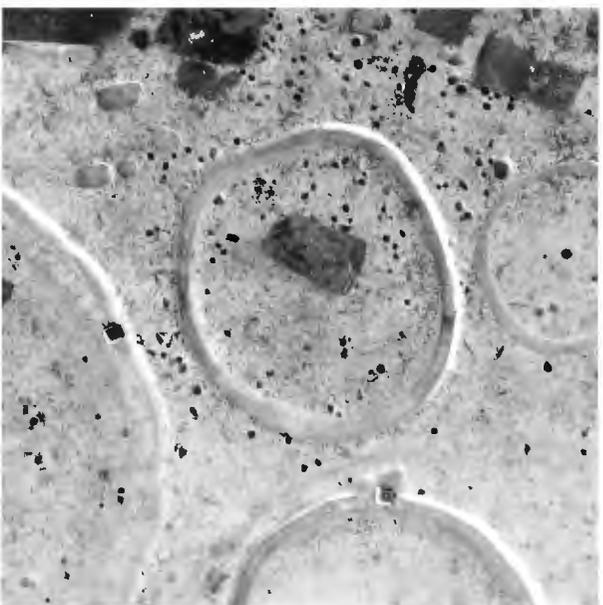
ST-28 周堀検出状況



ST-29 周堀検出状況



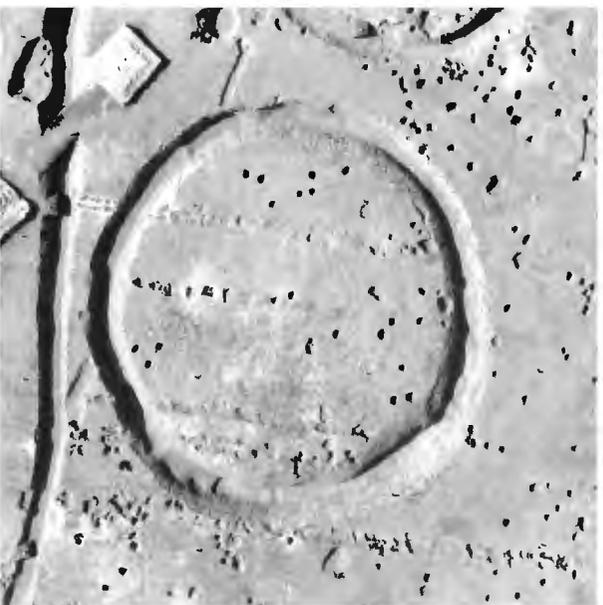
ST-30 周堀検出状況



ST-31 周堀検出状況



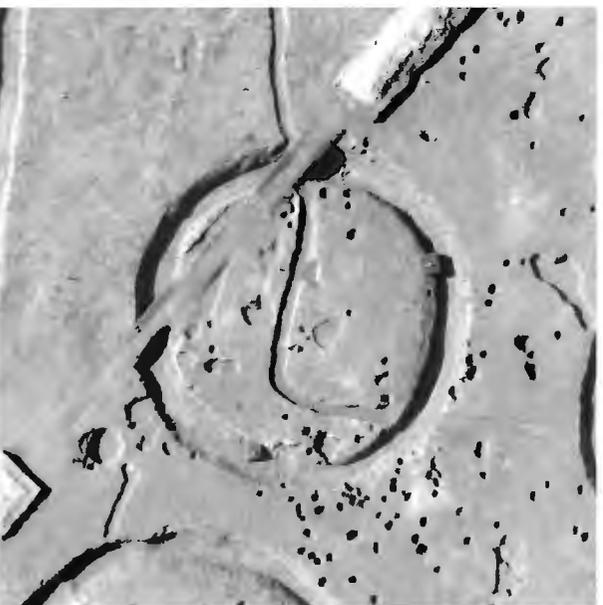
ST-32 周堀検出状況



ST-33 周堀検出状況



ST-34 周堀検出状況



ST-35 周堀検出状況



ST-36 周堀検出状況



ST-37 周堀検出状況



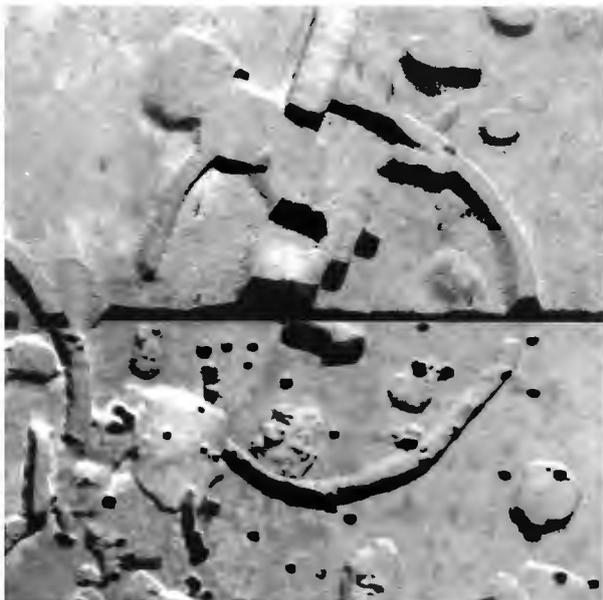
ST-38 周堀検出状況



ST-39 周堀検出状況



ST-40 周堀検出状況



ST-41 周堀検出状況

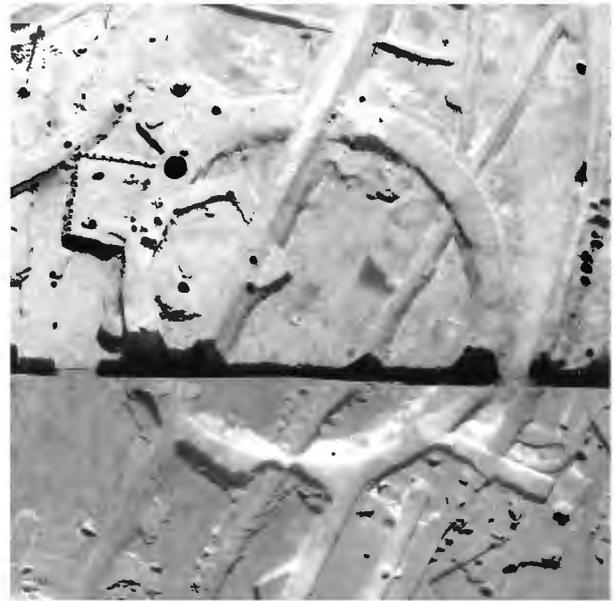


ST-42 周堀検出状況

写真6



ST-43 周堀検出状況



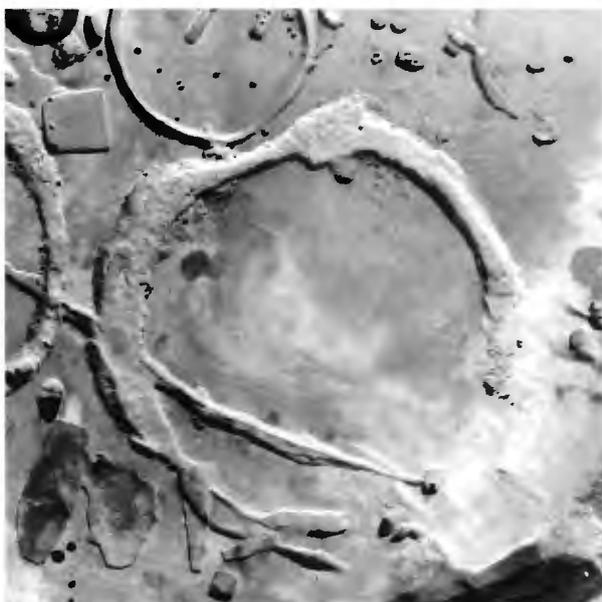
ST-44 周堀検出状況



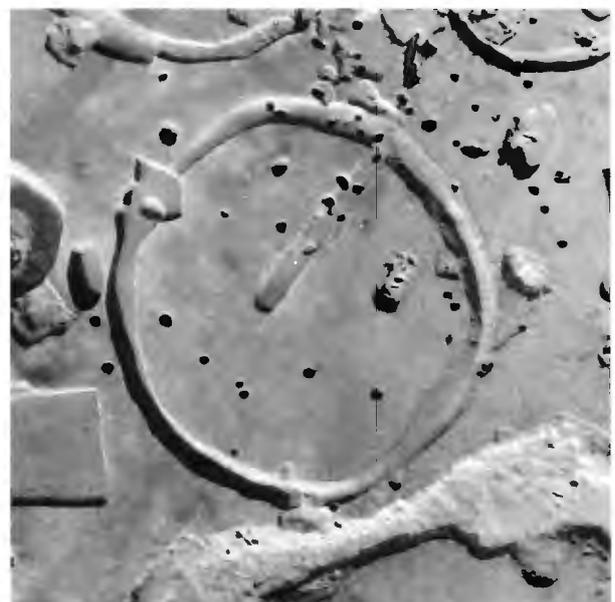
ST-45 周堀検出状況



ST-46 周堀検出状況



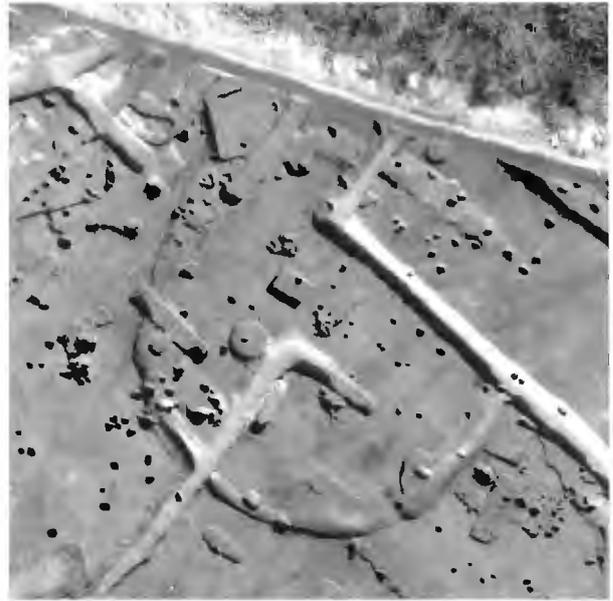
ST-47 周堀検出状況



ST-48 周堀検出状況



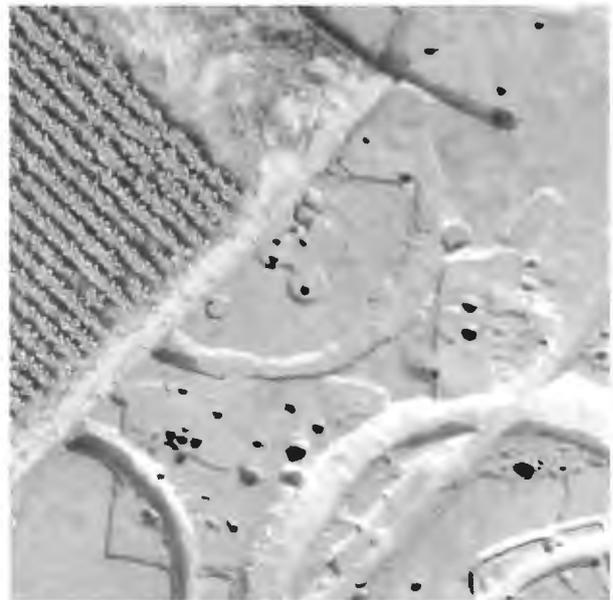
ST-49 周堀検出状況



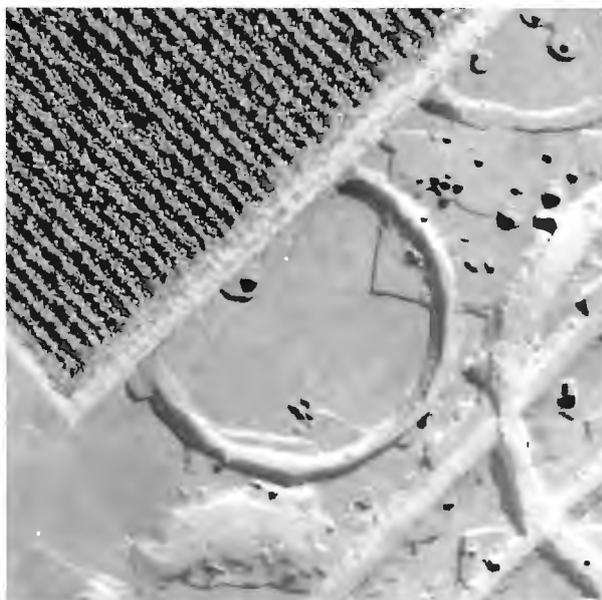
ST-50 周堀検出状況



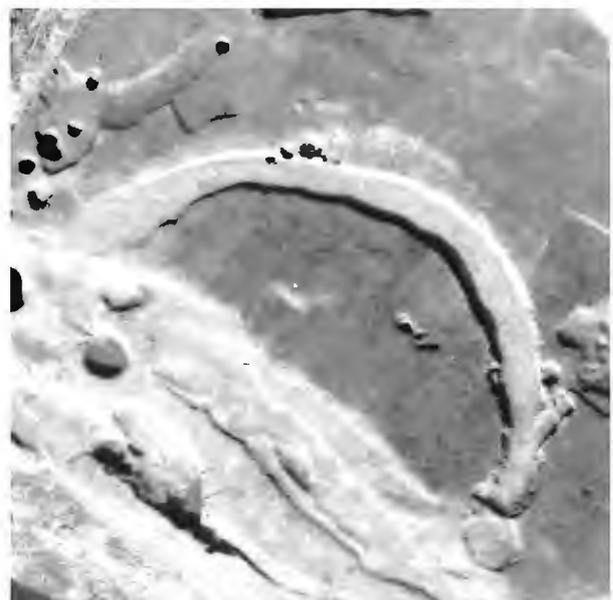
ST-51 周堀検出状況



ST-52 周堀検出状況



ST-53 周堀検出状況



ST-54 周堀検出状況

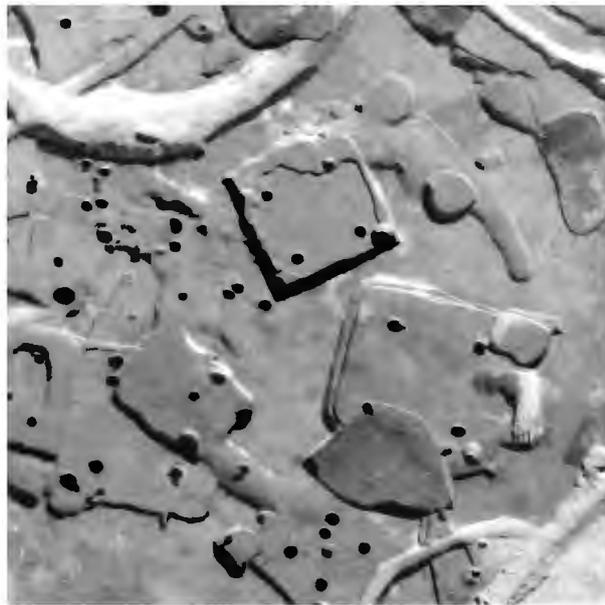
写真8



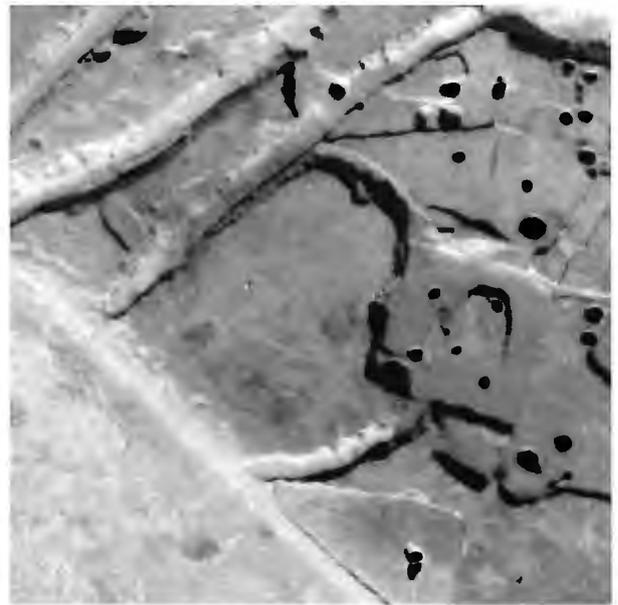
ST-55 周堀検出状況



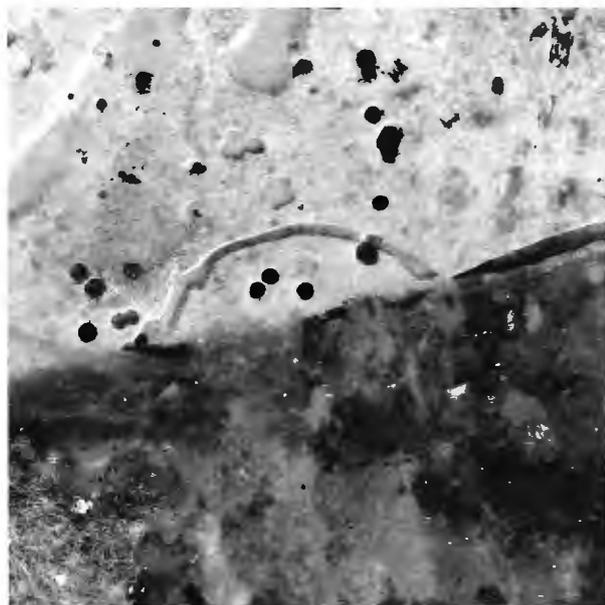
ST-56 周堀検出状況



ST-57 周堀検出状況



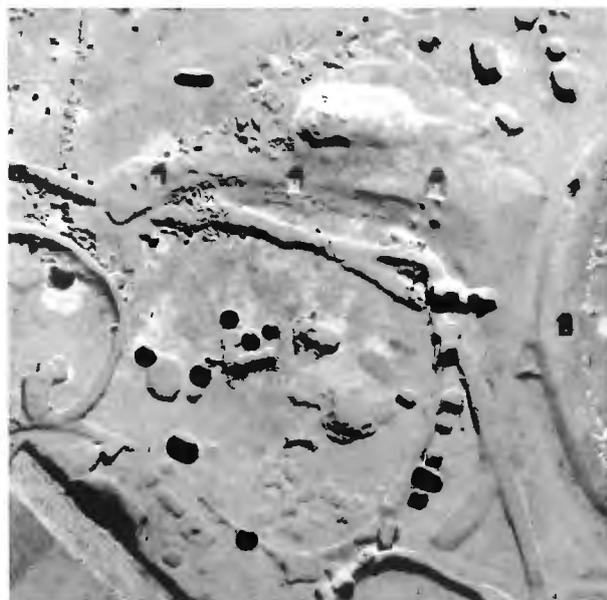
ST-58 周堀検出状況



ST-59 周堀検出状況



ST-60 周堀検出状況



ST-61 周堀検出状況



ST-62 周堀検出状況



ST-63 周堀検出状況

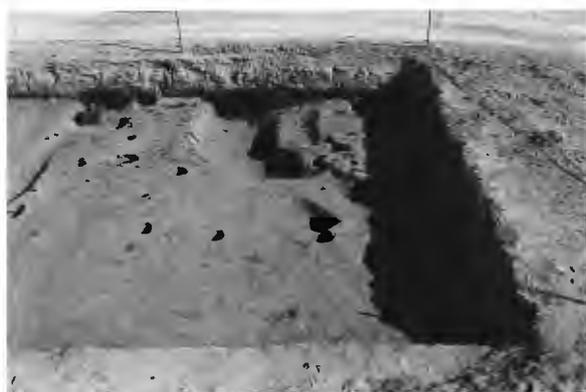
写真10



ST-3・4 東拡張区調査区全景 [北から]



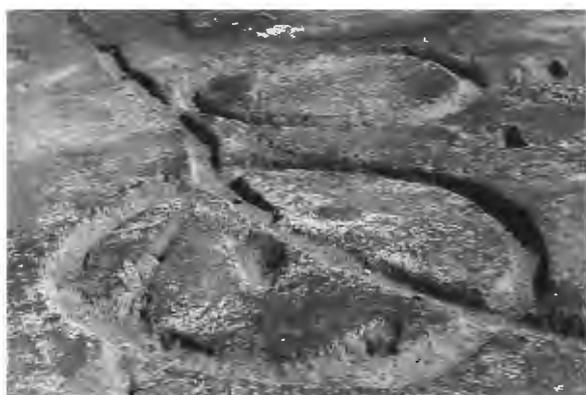
ST-4 周堀検出状況 [北から]



ST-4 周堀検出状況 [西から]



ST-8 周堀検出状況 [北西から]



ST-9 周堀検出状況 [北西から]



ST-10 周堀検出状況 [北西から]



ST-11 周堀検出状況 [北から]



ST-12 周堀検出状況 [北西から]



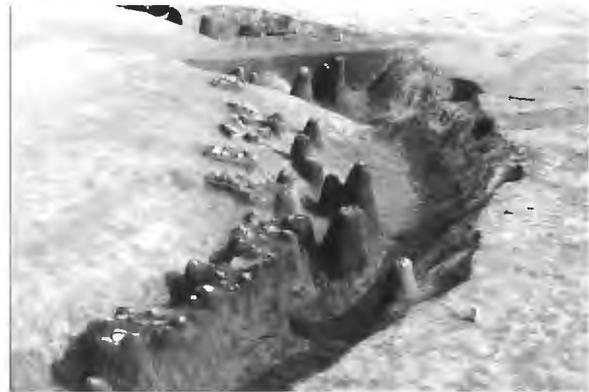
ST-4 周堀内遺物検出状況 [北西から]



ST-6 周堀内遺物検出状況 [北西から]



ST-6 周堀内遺物検出状況 [北西から]



ST-6 周堀内遺物検出状況 [北西から]



ST-14 周堀内遺物検出状況 [西から]



ST-22 周堀内遺物検出状況



ST-22 周堀内遺物検出状況



ST-22 周堀内遺物検出状況

写真12



ST-22 周堀内遺物検出状況



ST-22 周堀内遺物検出状況



ST-22 周堀内遺物検出状況



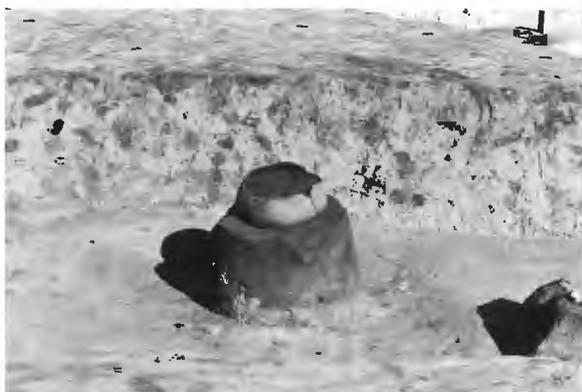
ST-22 周堀内遺物検出状況



ST-23 周堀内遺物検出状況



ST-23 周堀内遺物検出状況



ST-23 周堀内遺物検出状況



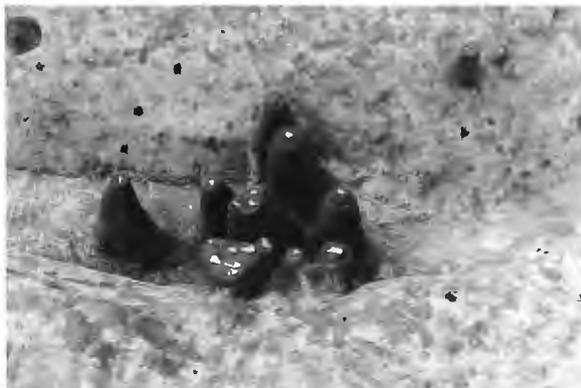
ST-24 周堀内遺物検出状況



ST-25 周堀内遺物検出状況 [南東から]



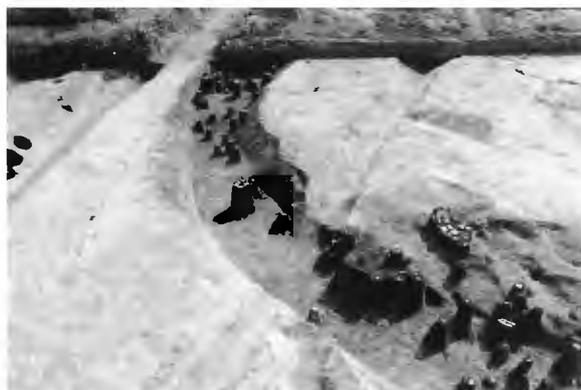
ST-25 周堀内遺物検出状況 [北西から]



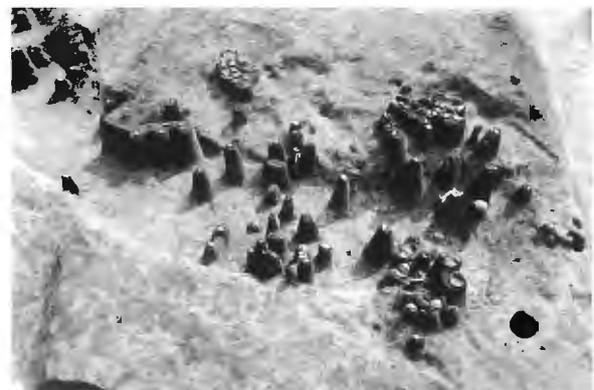
ST-32 周堀内遺物検出状況



ST-34 周堀内遺物検出状況



ST-44 H2調査区 周堀内遺物検出状況 [北から]



ST-44 H2調査区 周堀内遺物検出状況 [北から]



ST-44 H2調査区 周堀内遺物検出状況 [北西から]



ST-44 H2調査区 周堀内遺物検出状況 [北西から]

写真14



ST-44 H3調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]



ST-44 H3調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]



ST-44 H3調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]



ST-44 H3調査区 周堀内遺物検出状況 [南から]



ST-45 周堀内遺物検出状況 [西から]



ST-45 周堀内遺物検出状況 [西から]



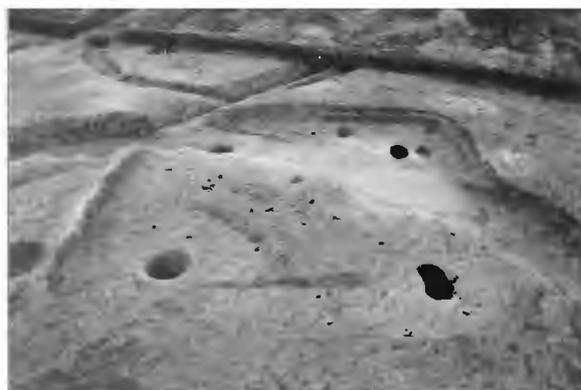
ST-49 周堀内遺物検出状況 [北から]



ST-49 周堀内遺物検出状況 [北から]



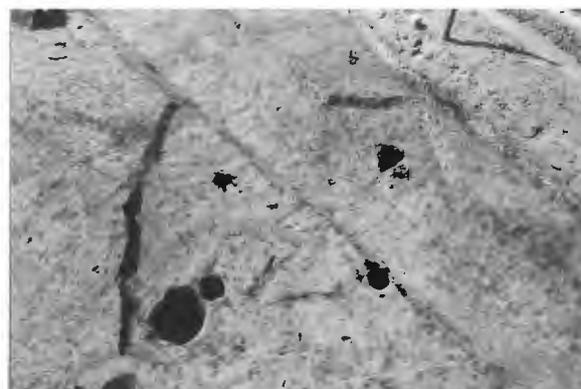
SI-1 床面検出状況 [北から]



SI-1 掘り方検出状況 [北から]



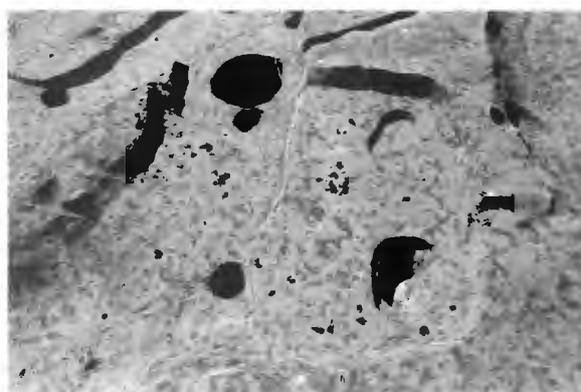
SI-1 遺物検出状況



SI-2 掘り方検出状況 [北東から]



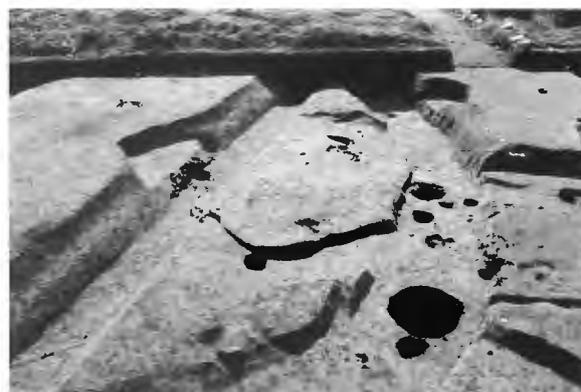
SI-2 遺物検出状況 [南西から]



SI-4 掘り方検出状況 [北東から]



SI-6 掘り方検出状況 [南西から]



SI-6 掘り方検出状況 [北から]

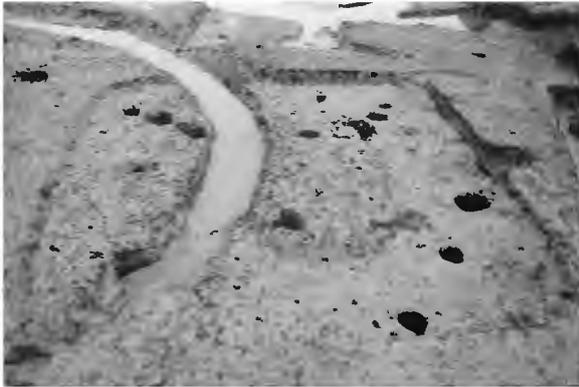
写真16



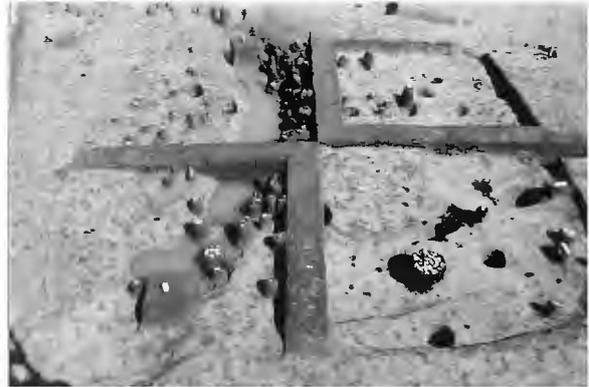
SI-7・8 掘り方検出状況 [北東から]



SI-7 遺物検出状況



SI-8 掘り方検出状況 [西から]



SI-8 遺物検出状況 [西から]



SI-9 H2調査区 掘り方検出状況 [西から]



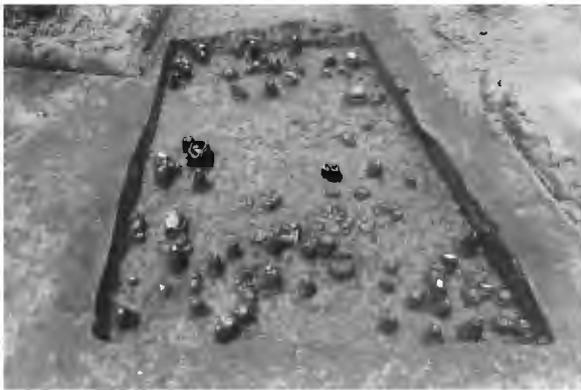
SI-9 H2調査区 遺物検出状況 [西から]



SI-9 H3調査区 床面検出状況 [東から]



SI-9 H3調査区 掘り方検出状況 [東から]



SI-9 H3調査区 遺物検出状況 [東から]



SI-9 H3調査区 遺物検出状況 [西から]



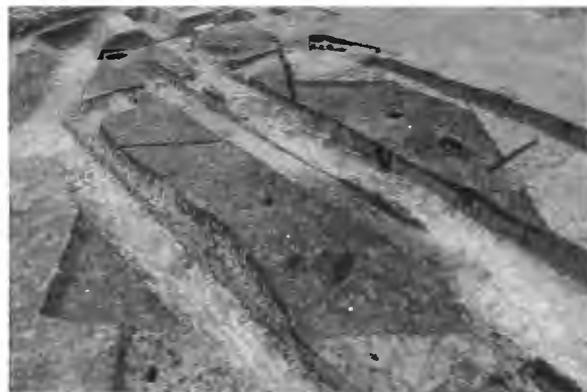
SI-9 H3調査区 遺物検出状況 [東から]



SI-9 H3調査区 遺物検出状況 [北から]



SI-9 H3調査区 遺物検出状況 [東から]



SI-10・11 床面検出状況 [南西から]



SI-10・11 遺物検出状況 [南西から]



SI-11 遺物検出状況 [南西から]

写真18



SI-12 遺物検出状況 [南西から]



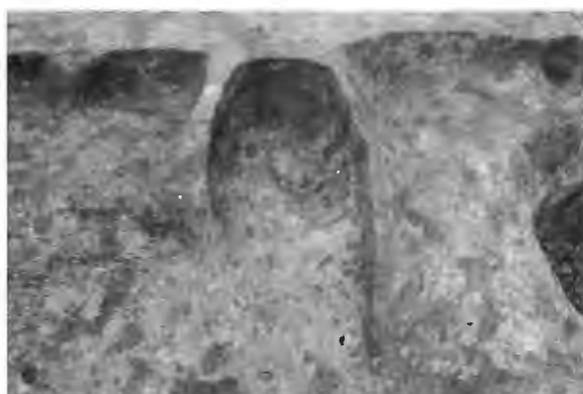
SI-12 遺物検出状況 [南西から]



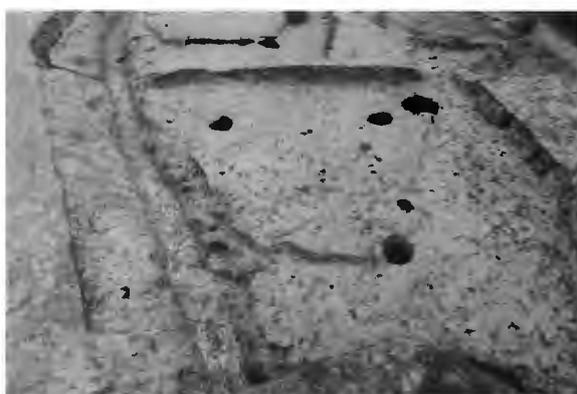
SI-15 遺物検出状況 [南東から]



SI-15 貯蔵穴遺物検出状況 [南東から]



SI-16 カマド検出状況 [南西から]



SI-16 掘り方検出状況 [南西から]



SI-17 床面検出状況 [南東から]



SI-18 掘り方検出状況 [北から]



SI-18 遺物検出状況 [北から]



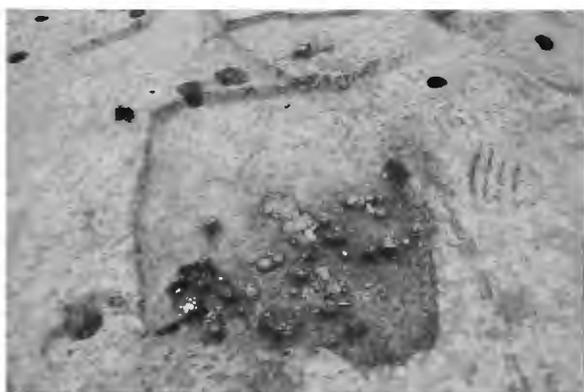
SI-18 遺物検出状況 [南から]



SI-19 掘り方検出状況 [南から]



SI-20 掘り方検出状況 [南東から]



SI-20 遺物検出状況 [南東から]



SI-21 掘り方検出状況 [南から]



SI-22 掘り方検出状況 [西から]



SI-23 床面検出状況 [南西から]

写真20



SI-23 掘り方検出状況 [南西から]



SI-23 遺物検出状況 [南西から]



SI-23 遺物検出状況 [南西から]



SI-24 掘り方検出状況 [東から]



SI-25 掘り方検出状況 [南東から]



SI-25 遺物検出状況 [南東から]



SI-26 床面検出状況 [北東から]



SI-26 遺物検出状況 [北東から]



SK-24 鉄刀検出状況 [北から]



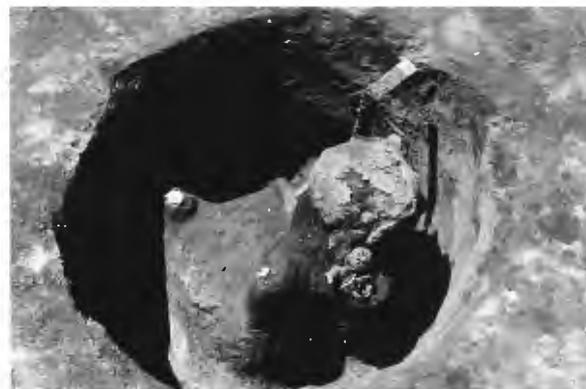
SK-24 鉄刀検出状況 [北から]



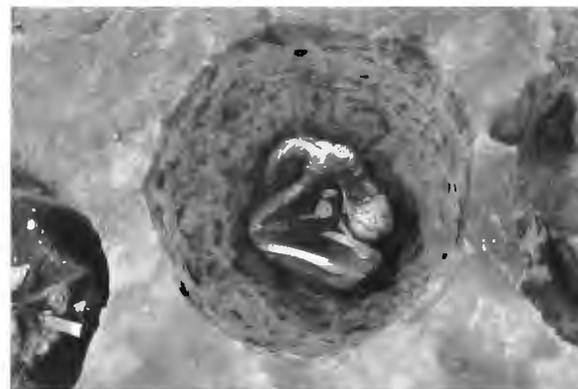
SK-191 鉄鎌検出状況 [南東から]



SK-191 鉄鎌検出状況 [南東から]



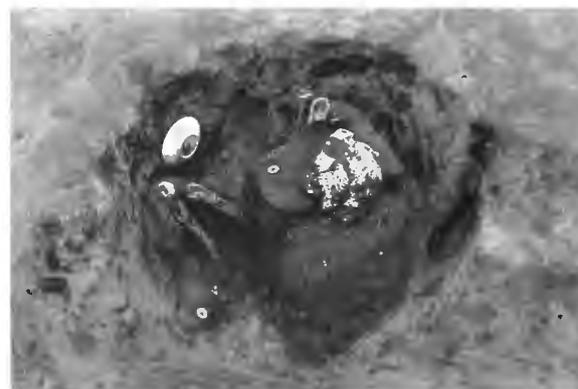
SK-207 銅製錫杖頭・金剛製袈裟金具・銅銭検出状況 [北東から]



SK-209 金剛製袈裟金具・銅銭検出状況 [北から]



SK-215 土器検出状況 [北から]



SK-216 土器検出状況 [西から]

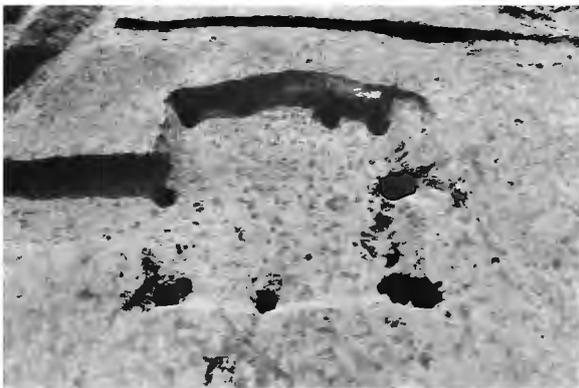
写真22



SK-376 土器検出状況



SK-389 土器検出状況



SF-7 掘り方検出状況 [北から]



1Y-17G 埴輪検出状況 [西から]



1Y-20G 土器検出状況



1Y-20G 土器検出状況



1Y-20G 土器検出状況

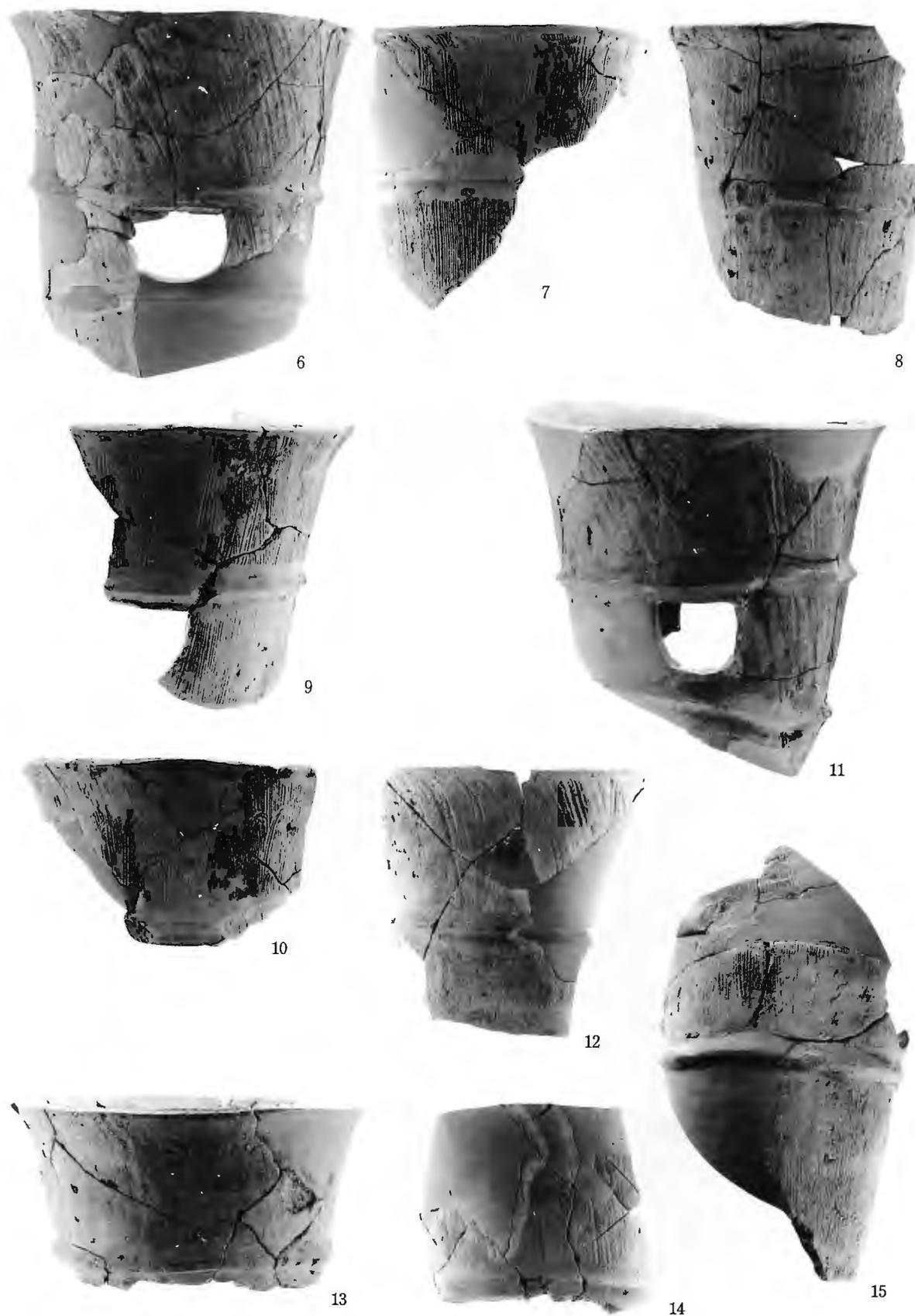


1Y-20G 土器検出状況



ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)

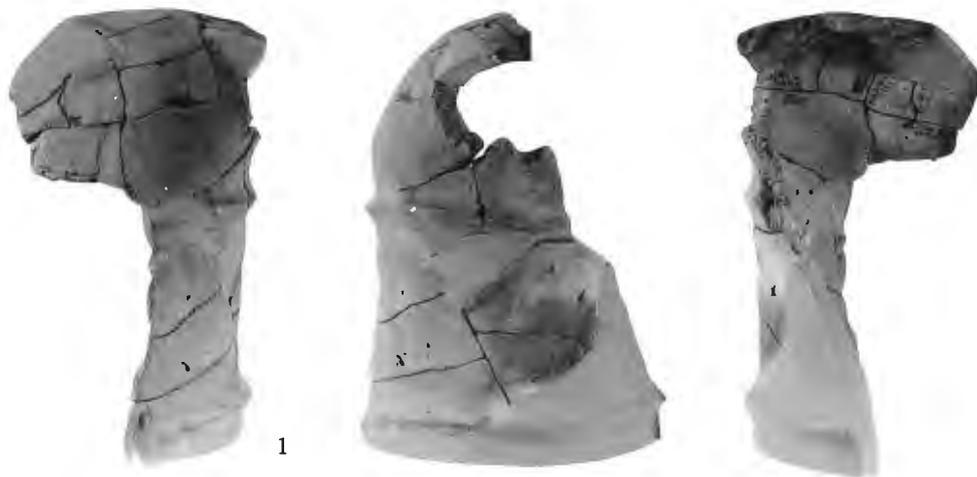
写真24



ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)



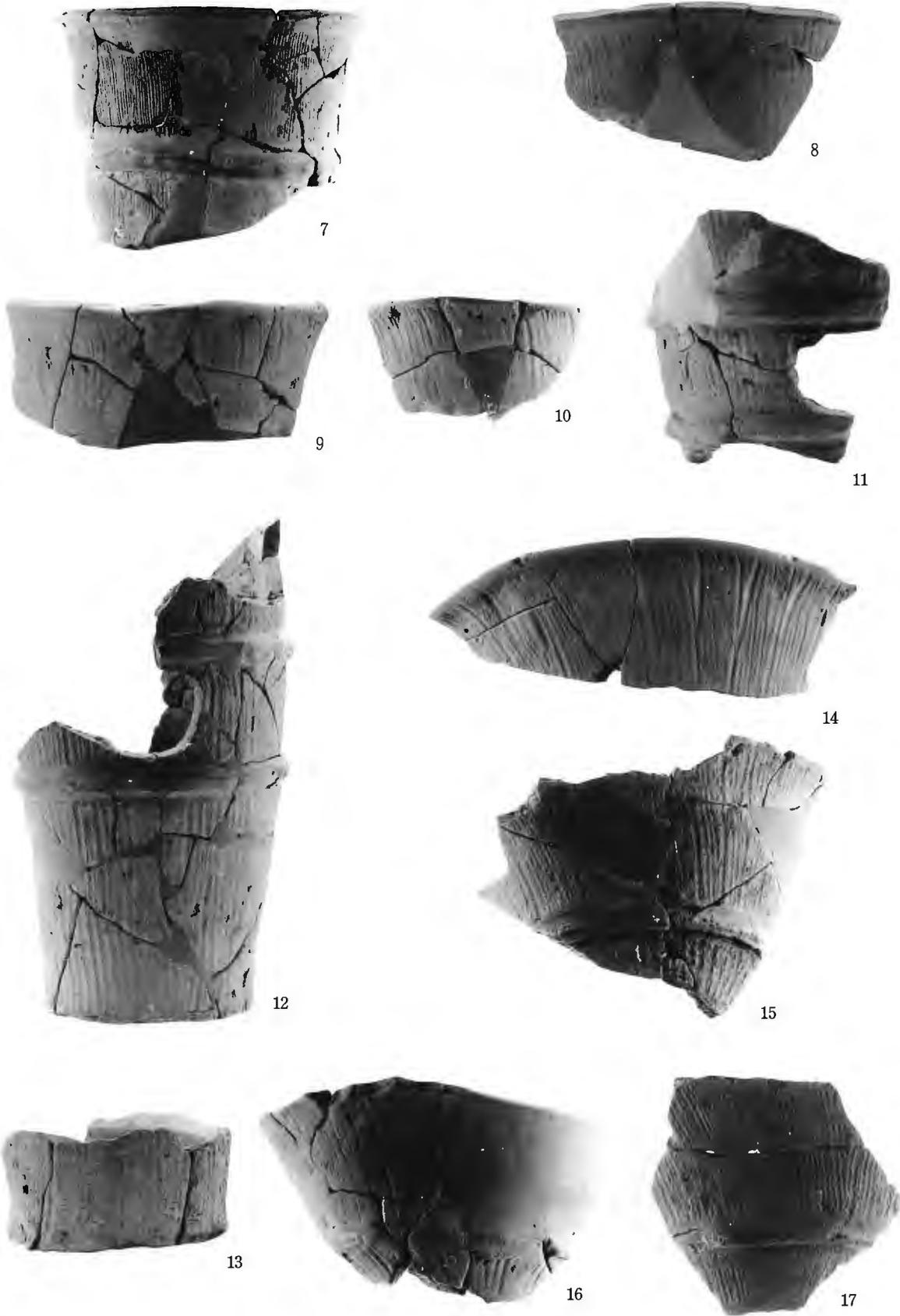
ST-6 出土円筒・朝顔形埴輪 (3)



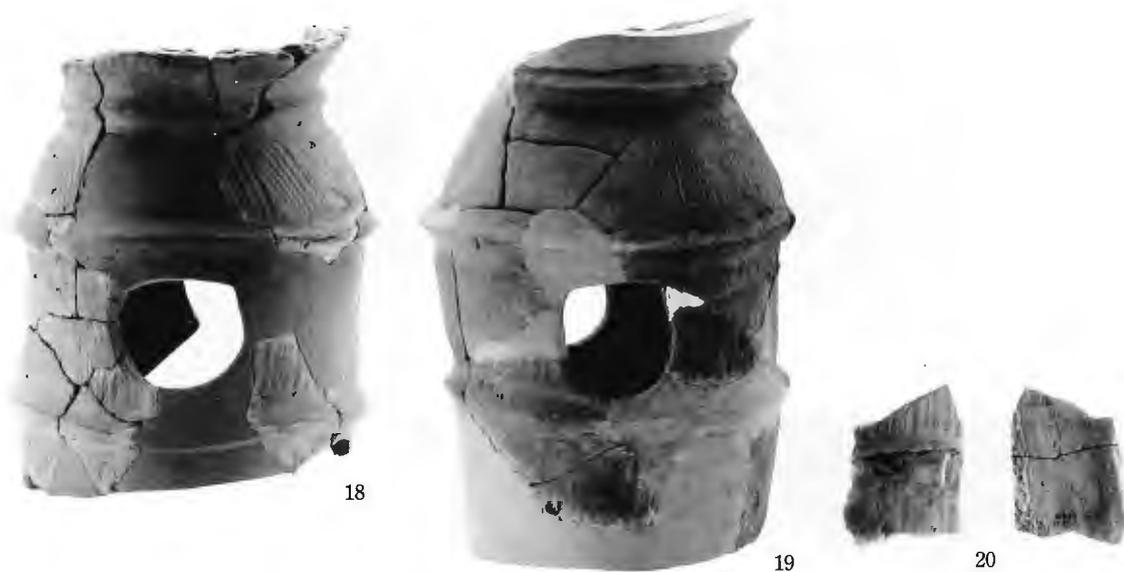
ST-6 出土形象埴輪



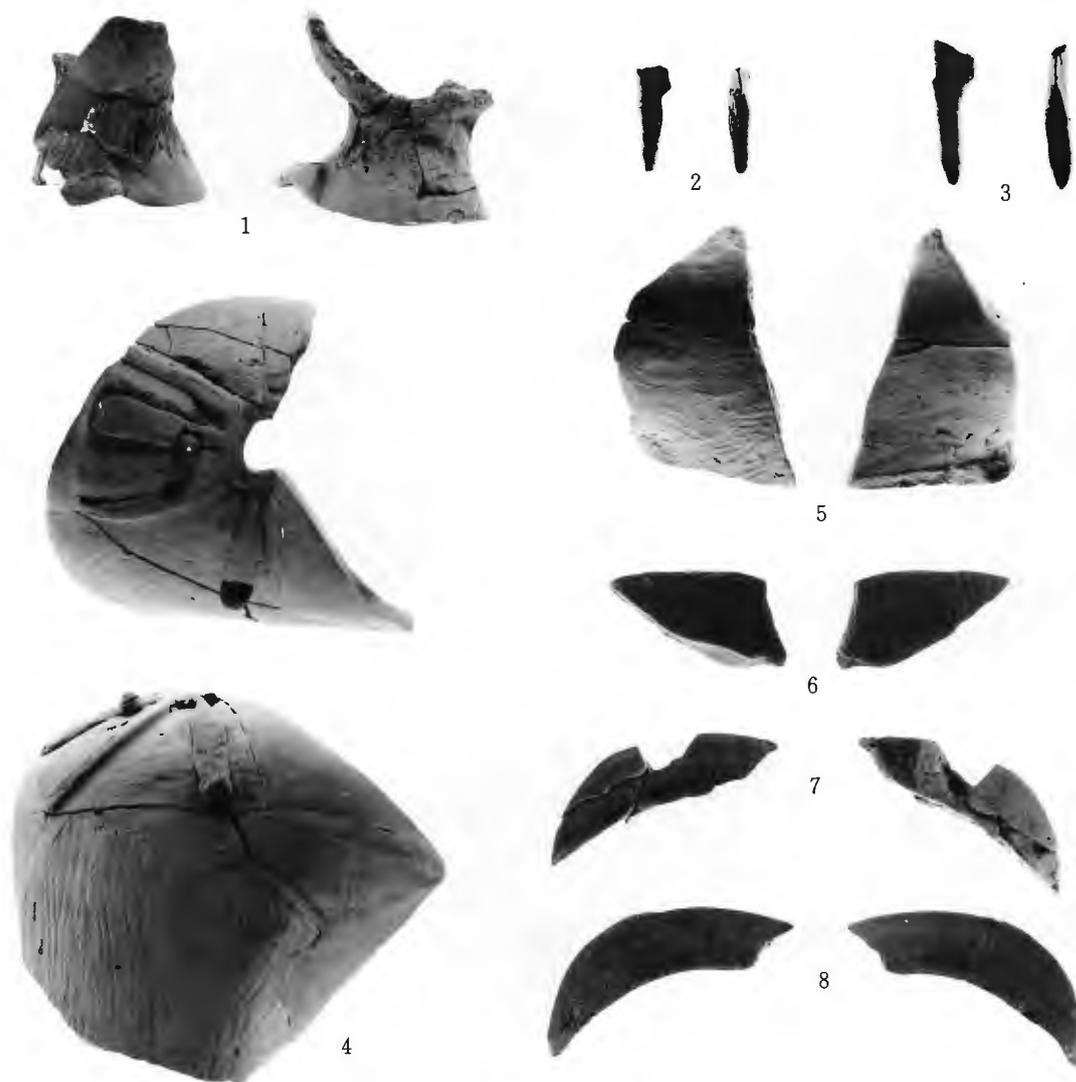
ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)



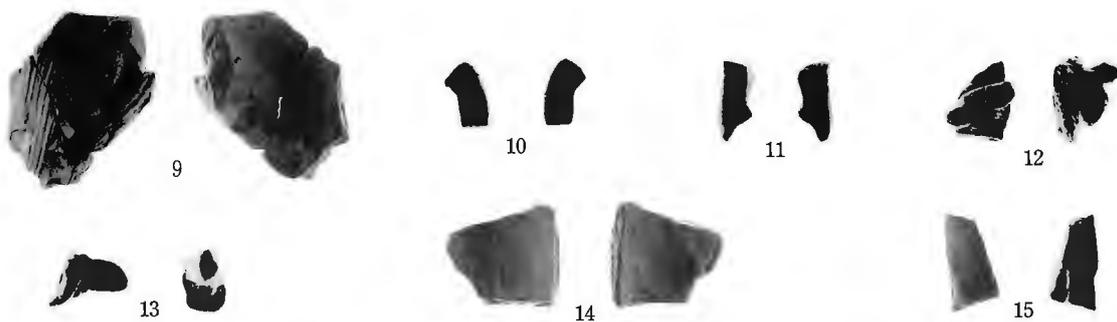
ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)



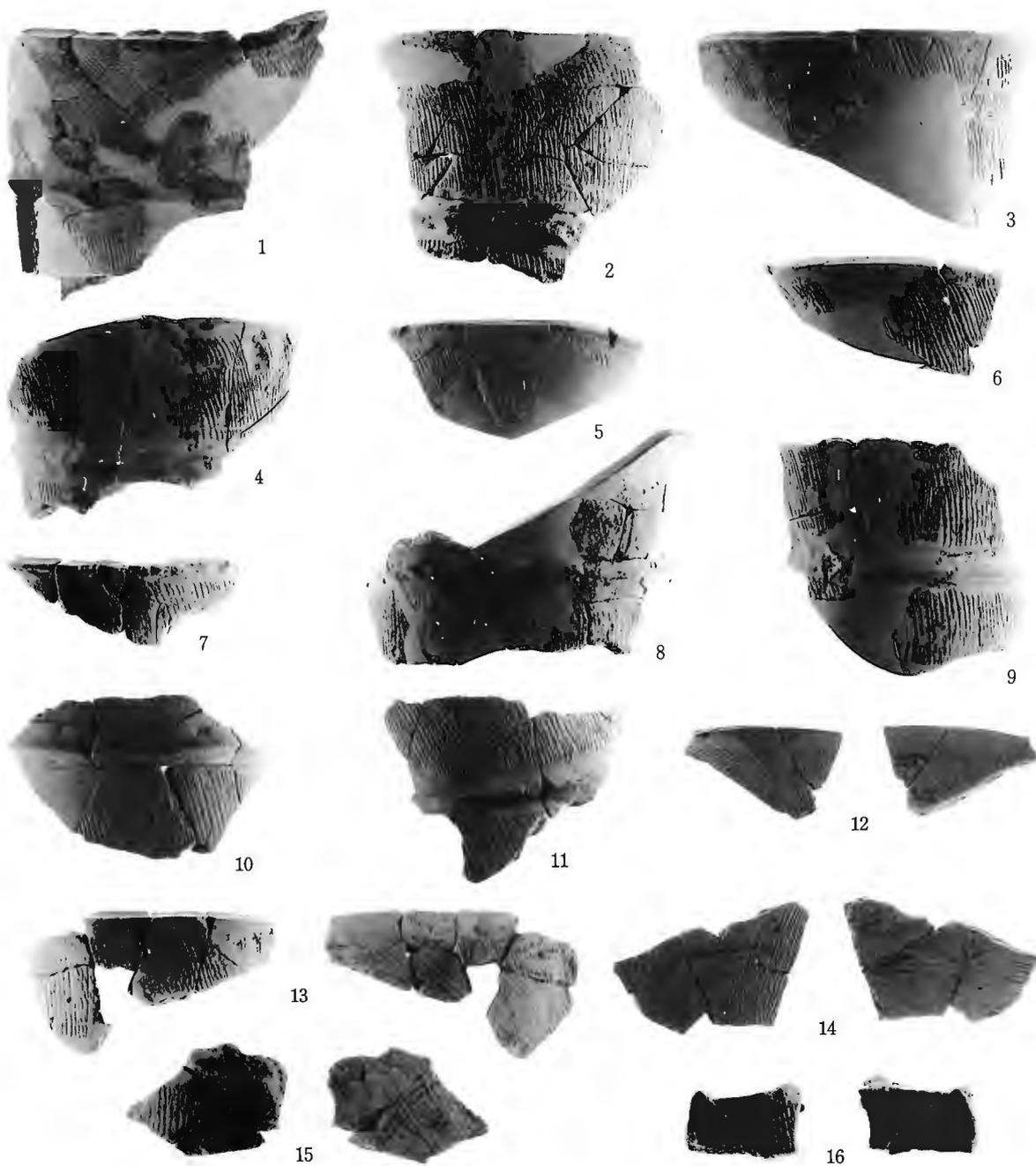
ST-7 出土円筒・朝顔形埴輪 (3)



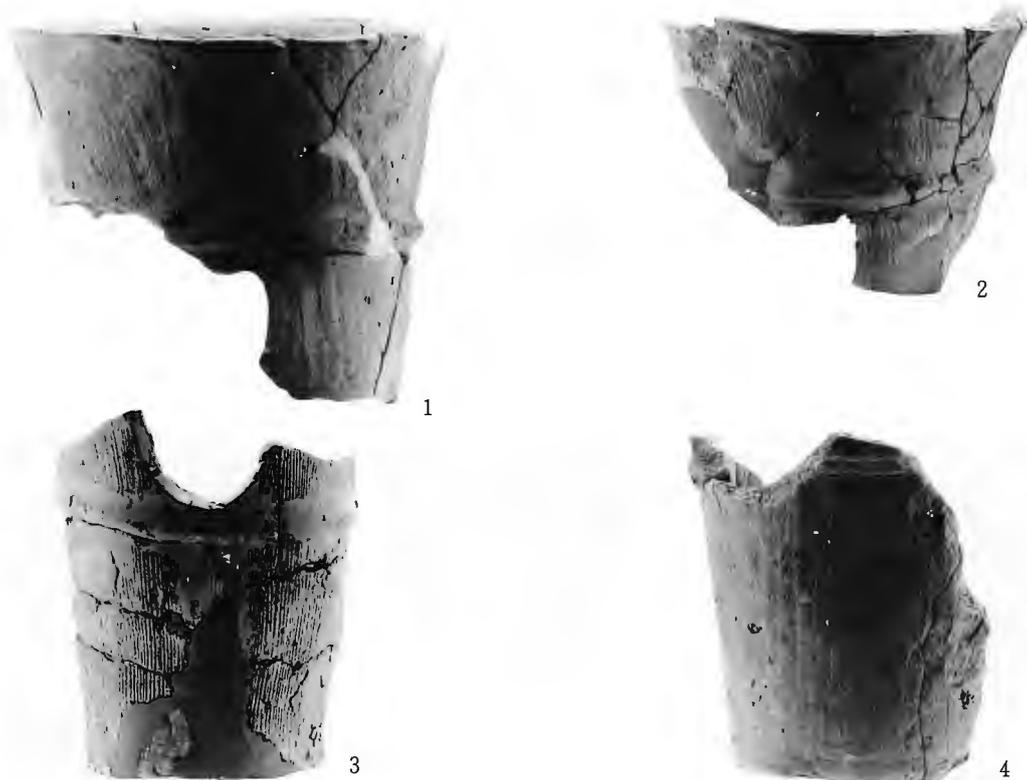
ST-7 出土形象埴輪 (1)



ST-7 出土形象埴輪 (2)



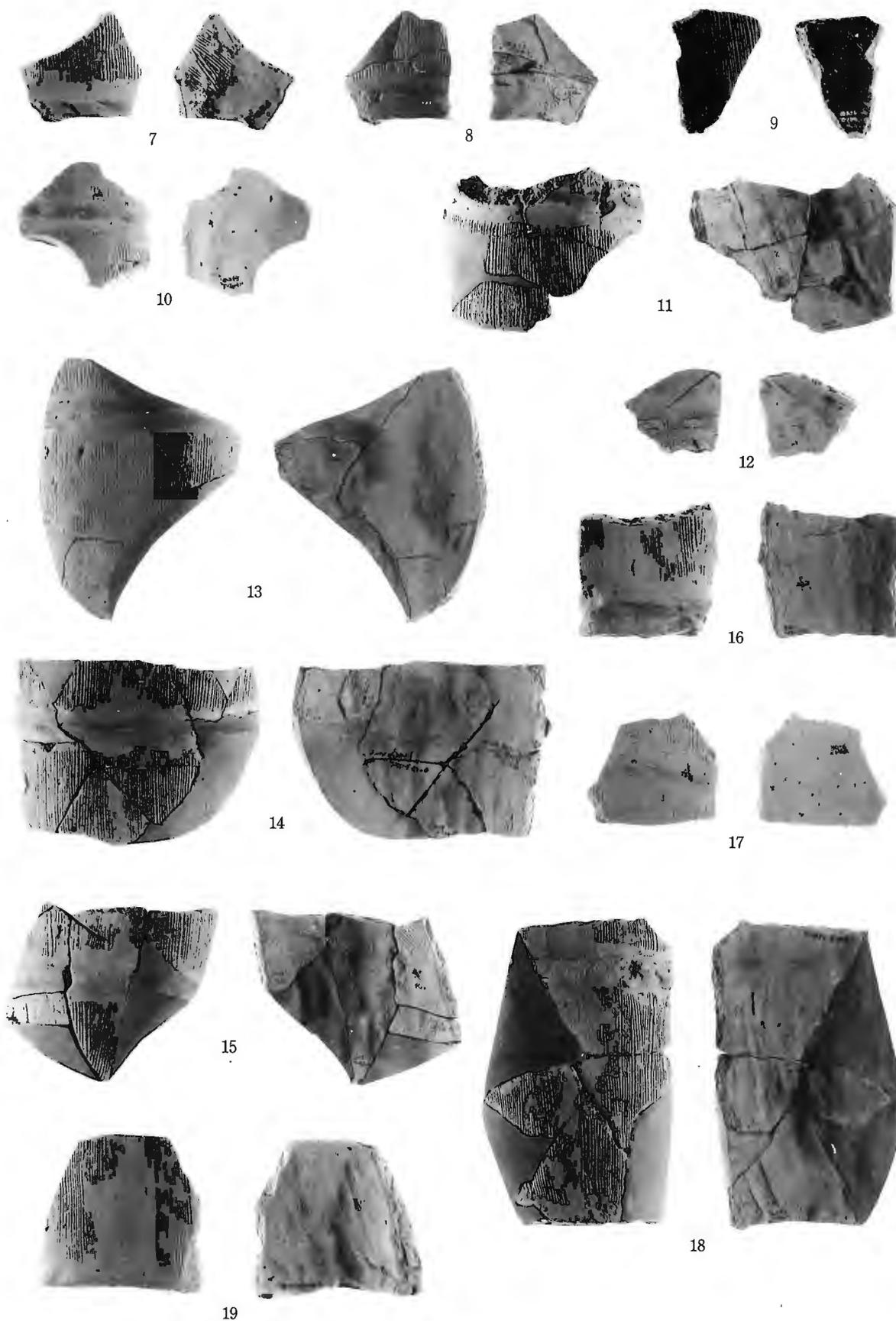
ST-13 出土円筒埴輪



ST-14 出土円筒埴輪

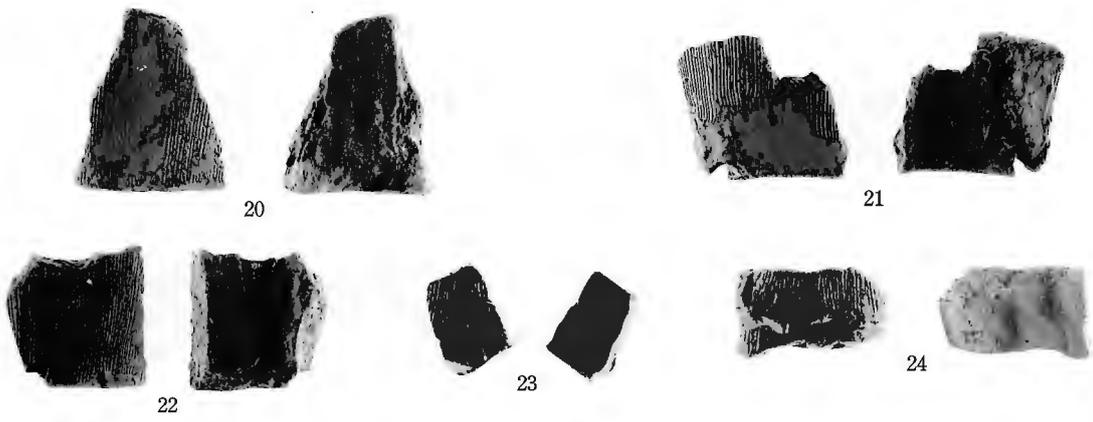


ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)

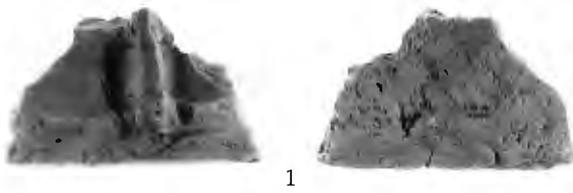


ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)

写真32



ST-18 出土円筒・朝顔形埴輪 (3)



ST-18 出土形象埴輪



ST-20 出土形象埴輪



ST-22 出土形象埴輪



ST-19 出土円筒埴輪

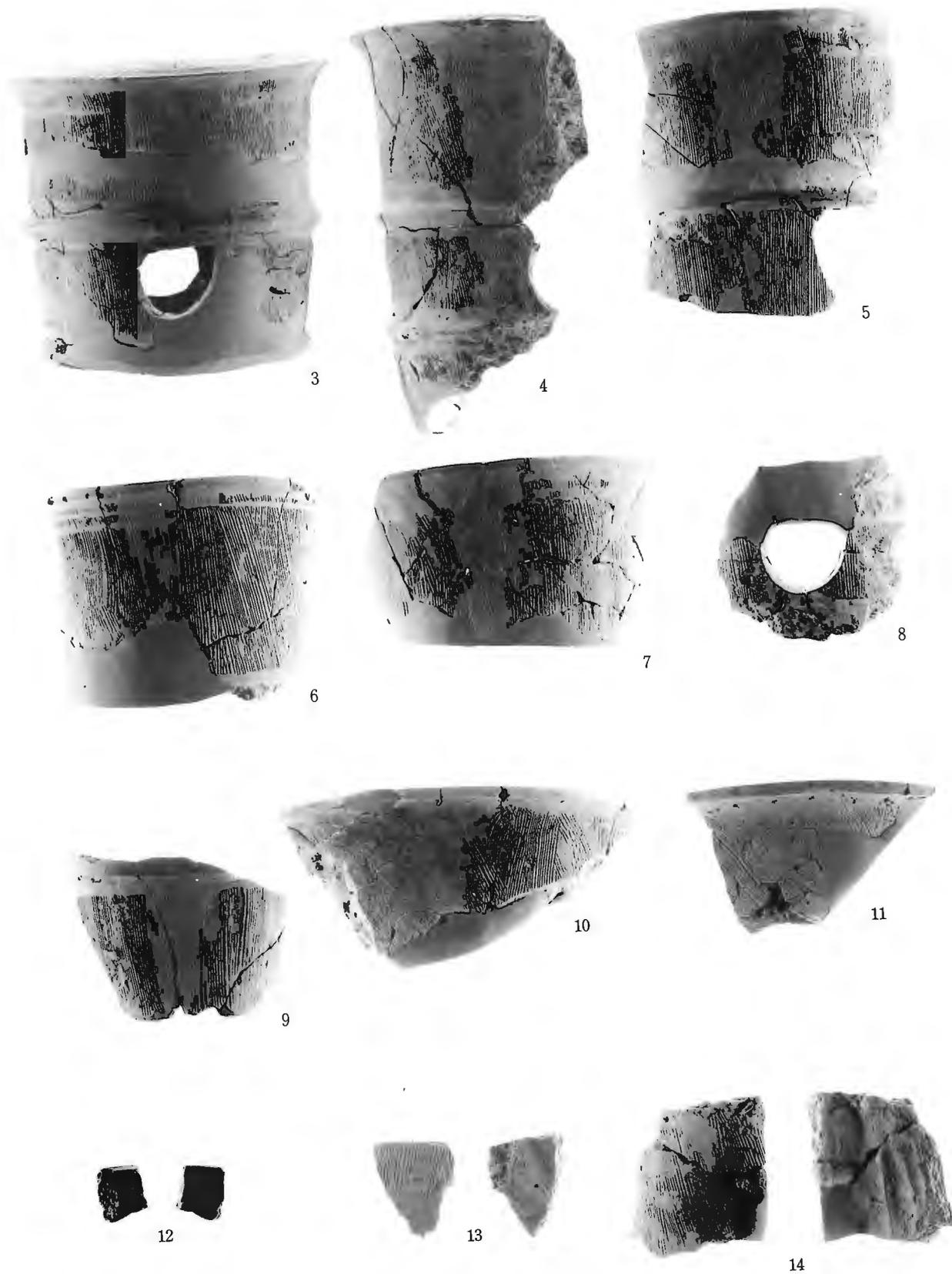


1



2

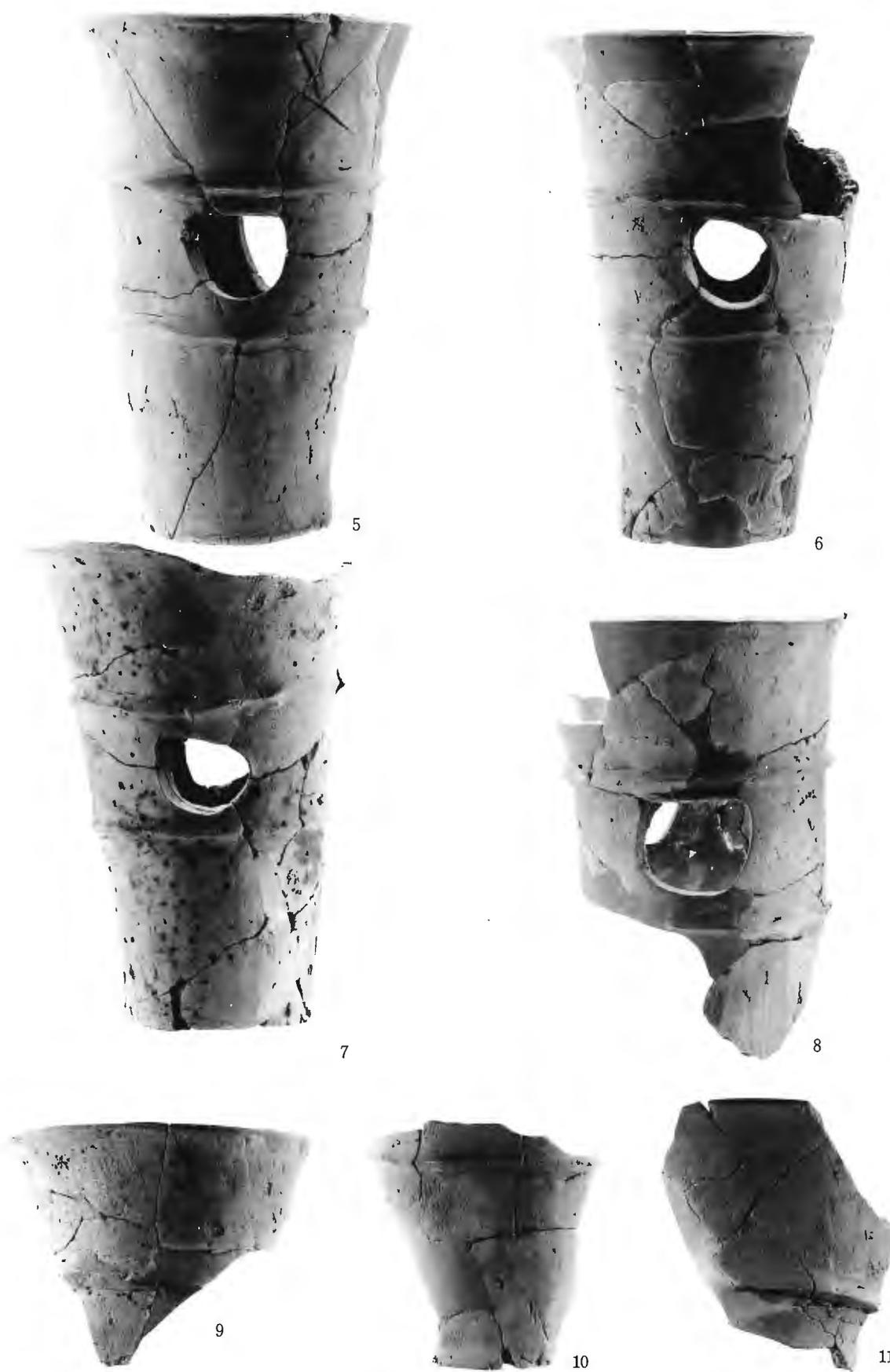
ST-23 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)



ST-23 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)



ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪 (1)



ST-44 出土円筒・朝顔形埴輪 (2)

写真36



1

ST-44 出土形象埴輪



1

ST-54 出土円筒埴輪

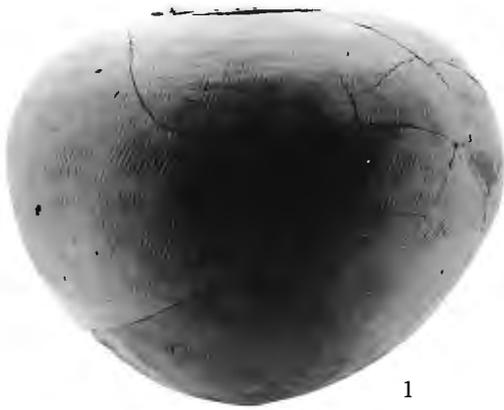


1

ST-49 出土朝顔形埴輪



2



1

ST-3 出土土器



1

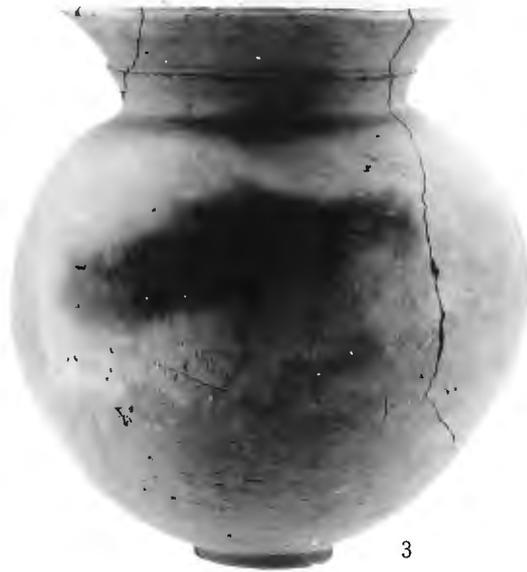
ST-5 出土紡錘車



1



2



3

ST-6 出土土器・紡錘車



4



1



2



3

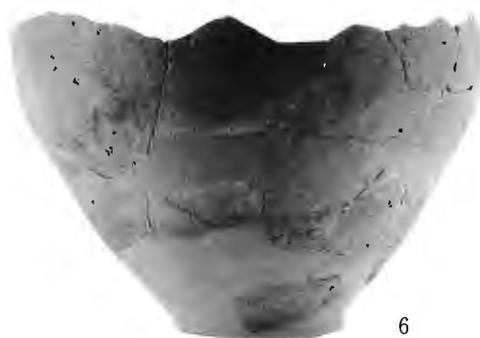


4

ST-7 出土土器 (1)



5



6

ST-7 出土土器 (2)

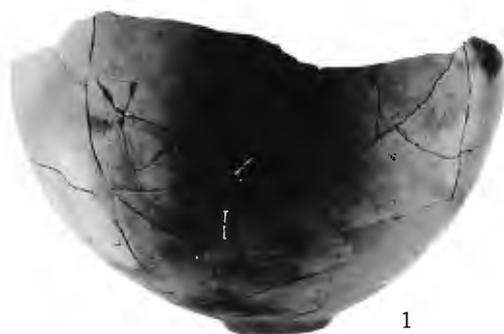


1



2

ST-13 出土土器



1

ST-14 出土土器



1



2

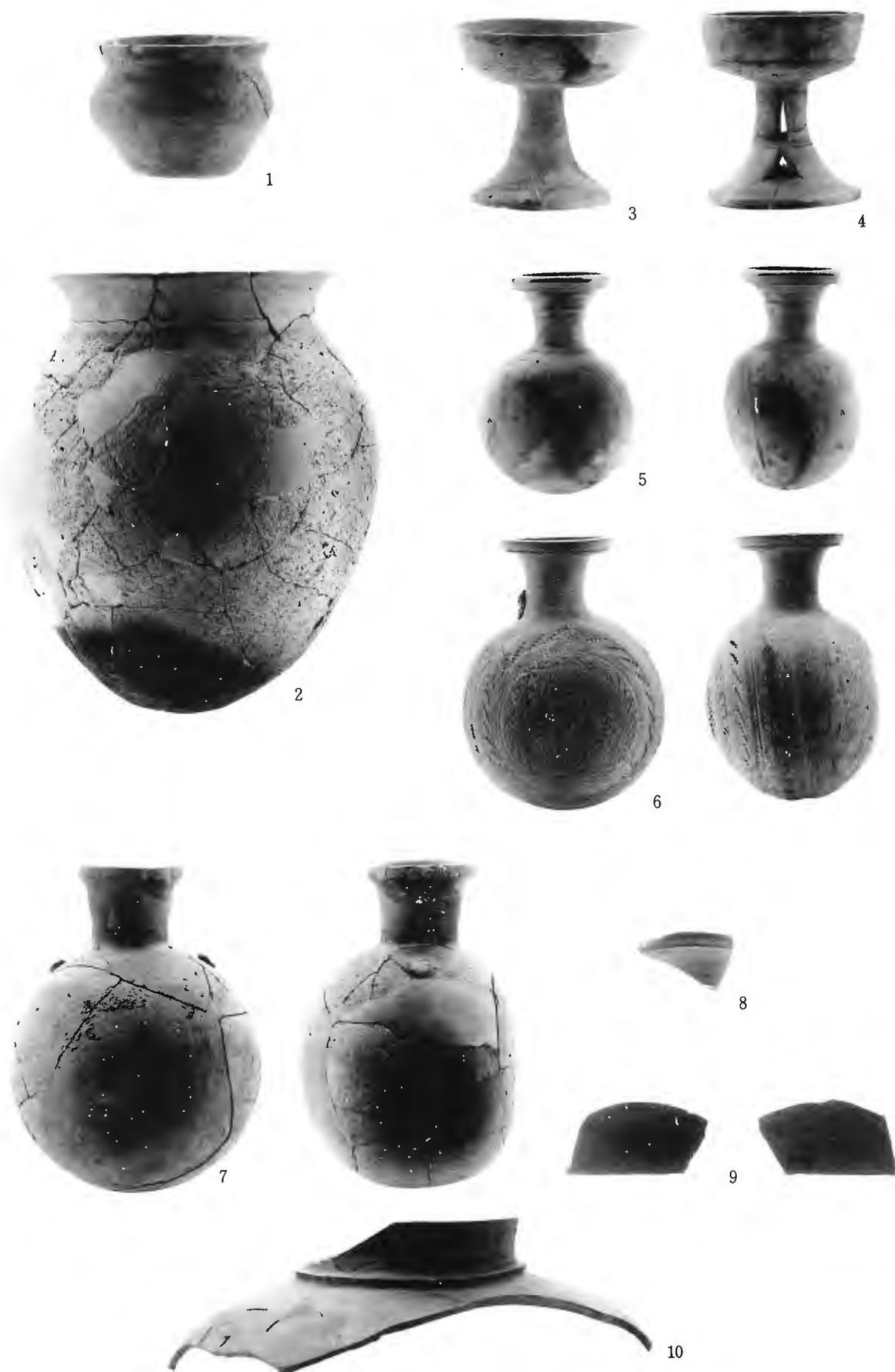


ST-18 出土土器・紡錘車



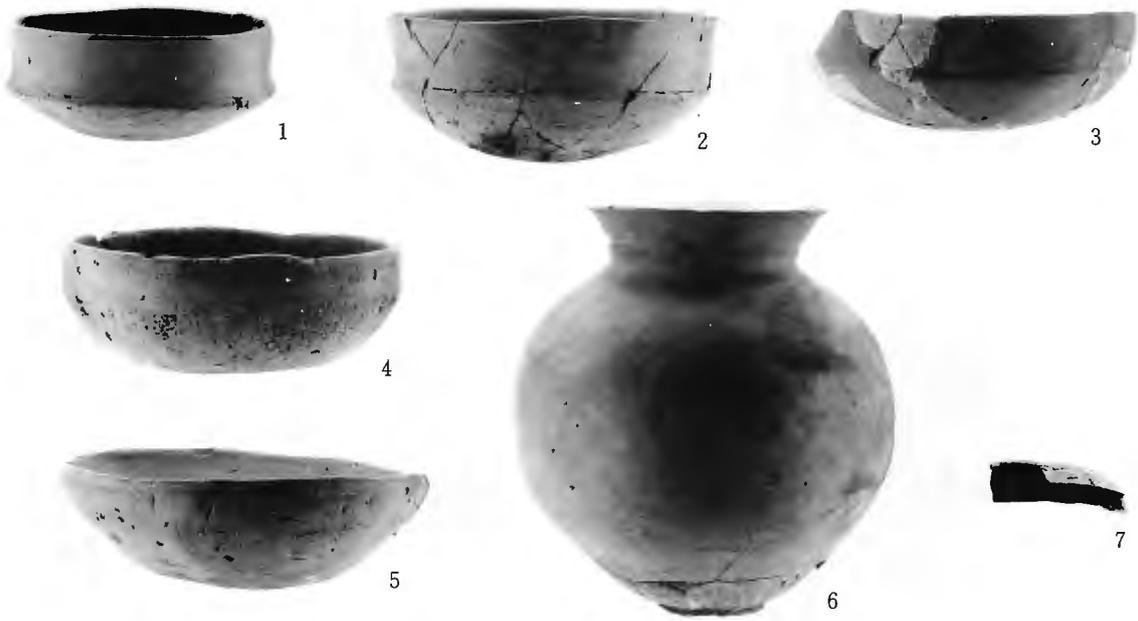
1

ST-20 出土土器



ST-22 出土土器

写真40



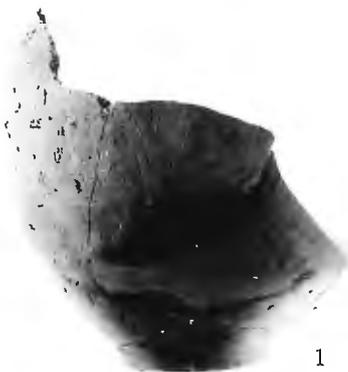
ST-23 出土土器



ST-24 出土土器



ST-25 出土土器



ST-26 出土土器



ST-28 出土土器



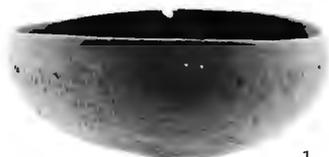
1

ST-31 出土土器

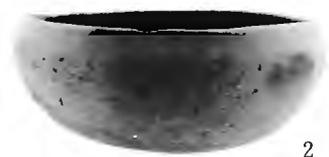


1

ST-34 出土土器



1



2



3



4

ST-35 出土土器



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

ST-43 出土土器



1



2



3



4



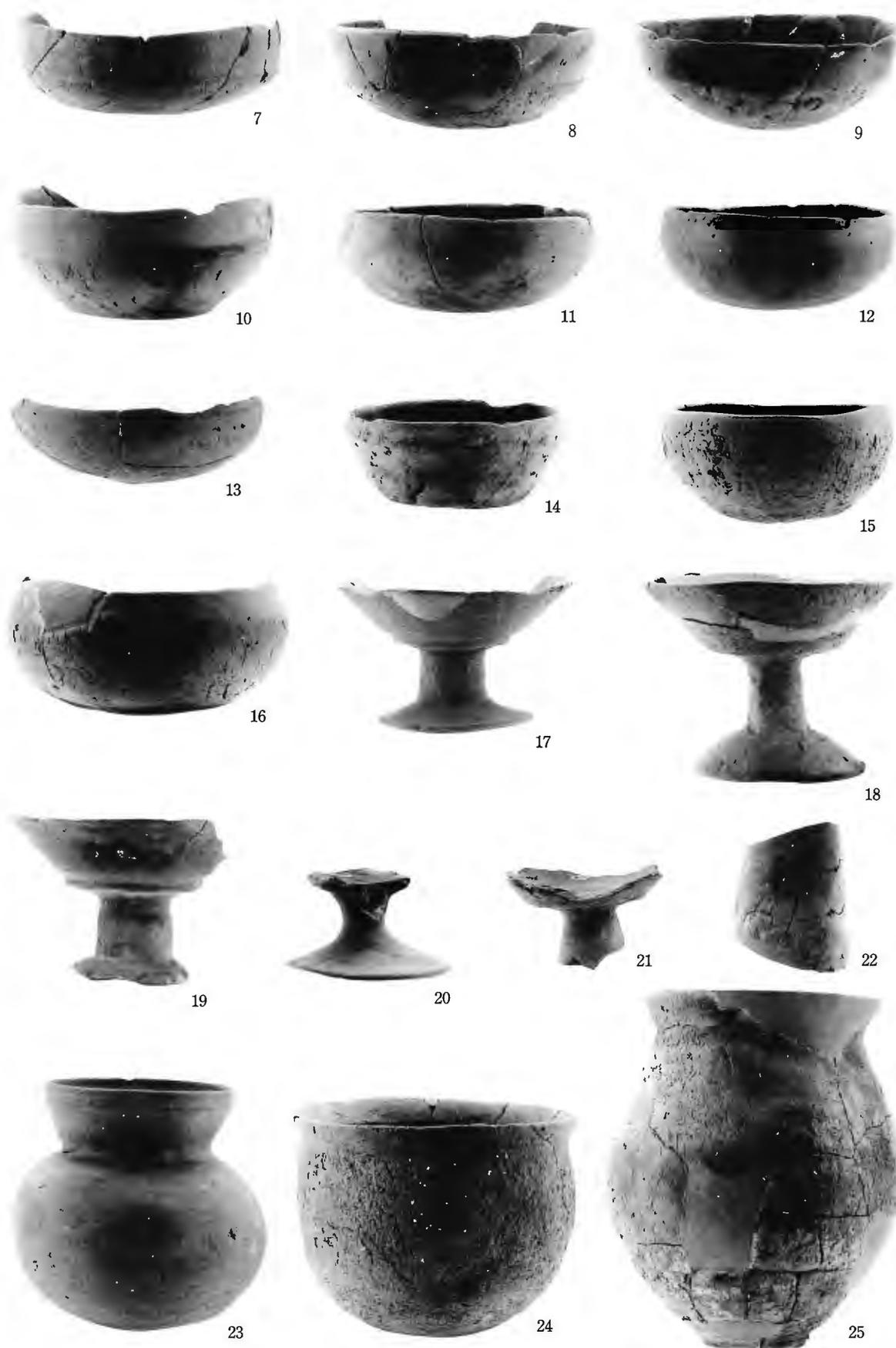
5



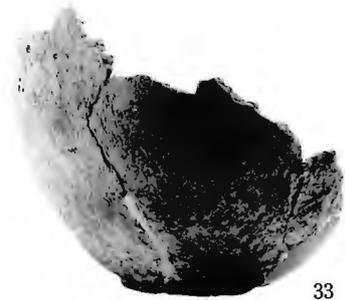
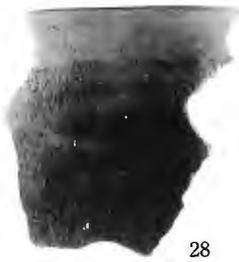
6

ST-44 出土土器 (1)

写真42

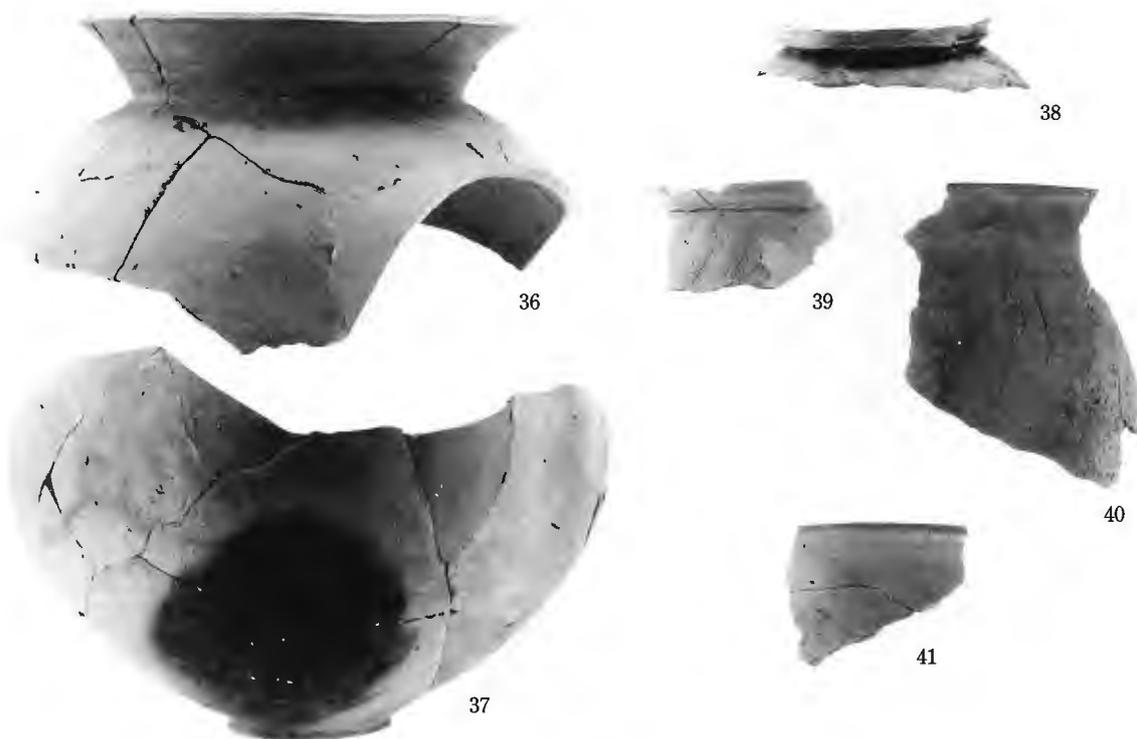


ST-44 出土土器 (2)



ST-44 出土土器 (3)

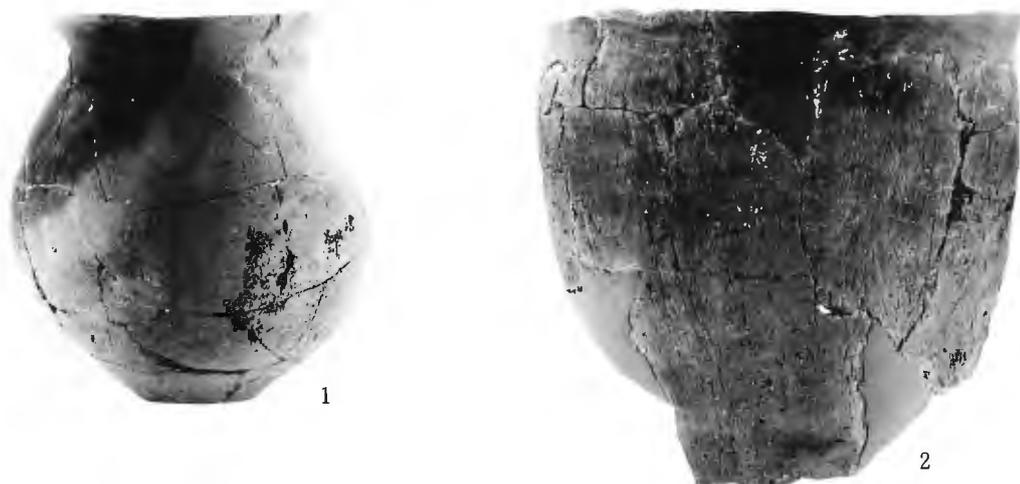
写真44



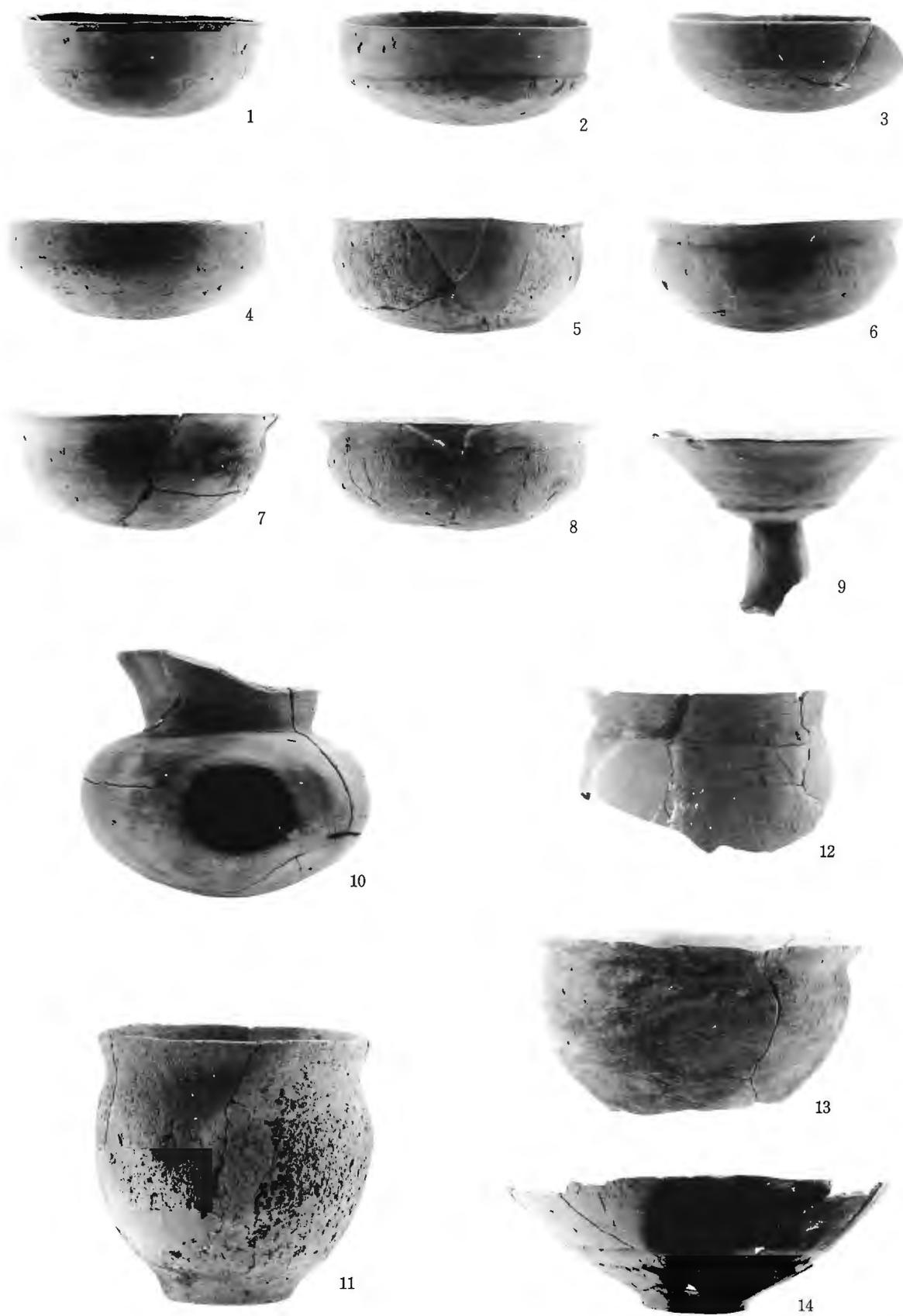
ST-44 出土土器 (4)



ST-45 出土土器



ST-49 出土土器



ST-51 出土土器 (1)

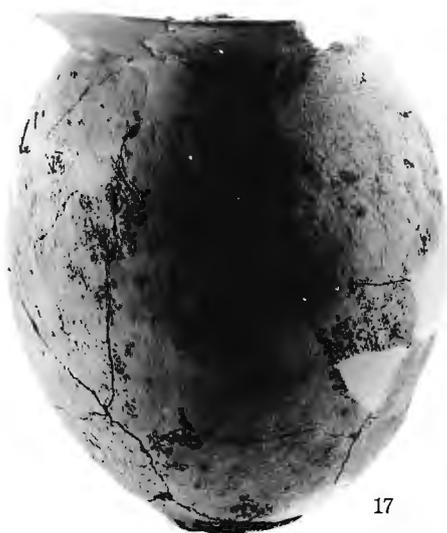
写真46



15



16



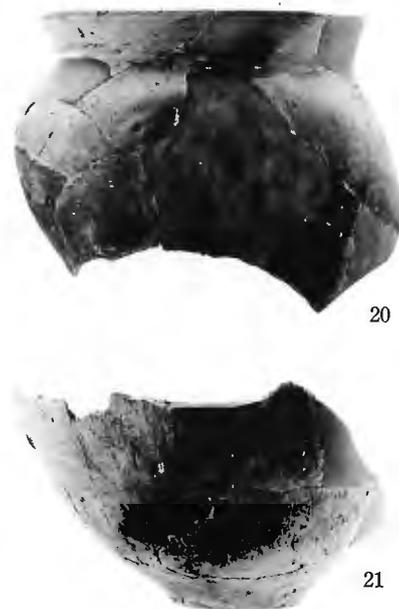
17



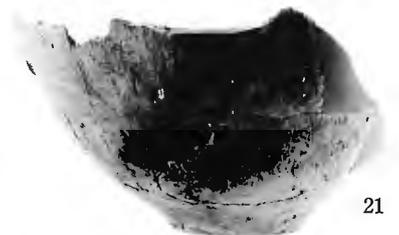
18



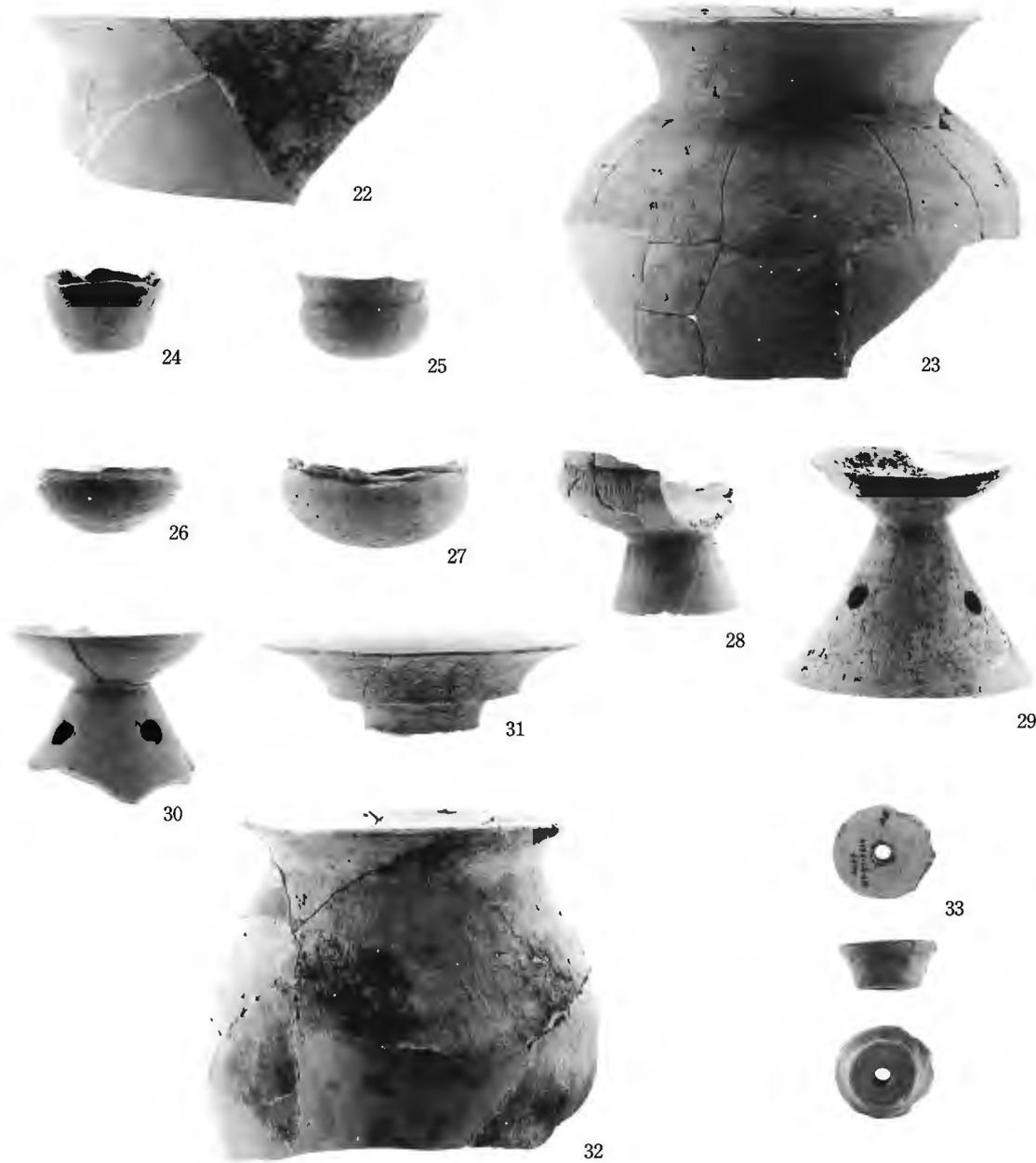
19



20



21

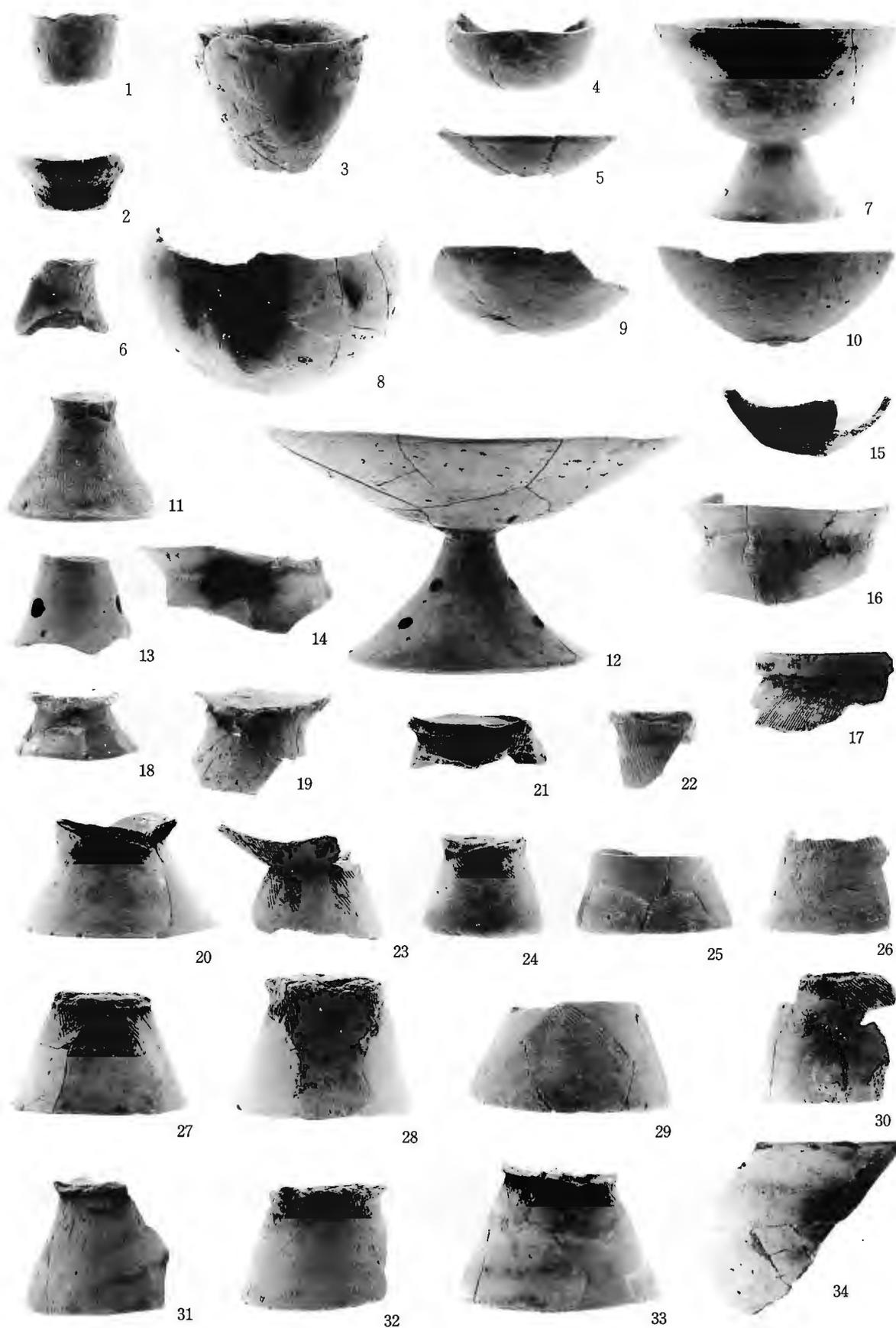


ST-51 出土土器 (3)・紡錘車



ST-54 出土土器

写真48

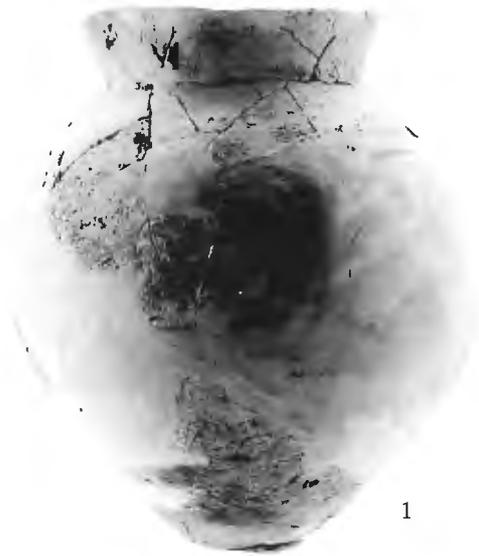


SI-1 出土土器

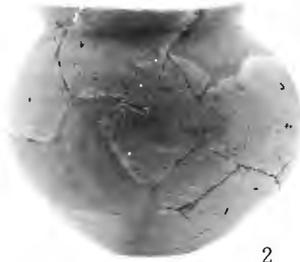


1

SI-7 出土土器



1



2



3



4



5

SI-8 出土土器・砥石・薦編石



1



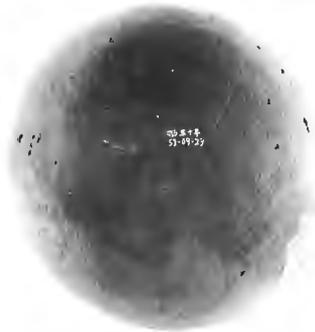
4



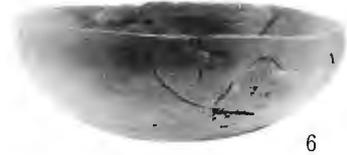
5



2



3



6



7

SI-9 出土土器 (1)

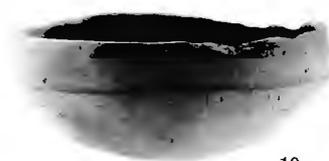
写真50



8



9



10



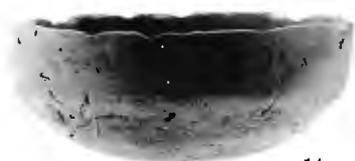
11



12



13



14



15



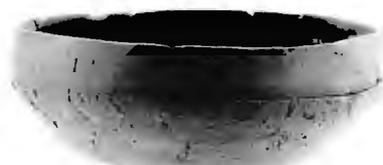
16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



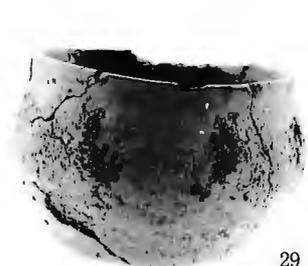
26



27



28



29



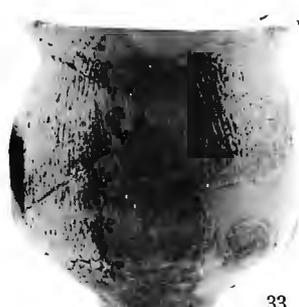
30



31



32



33



34



35



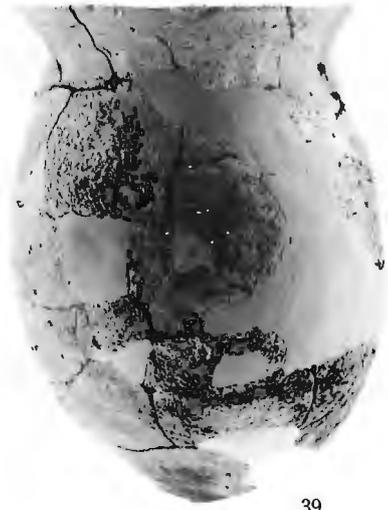
36



37



38



39



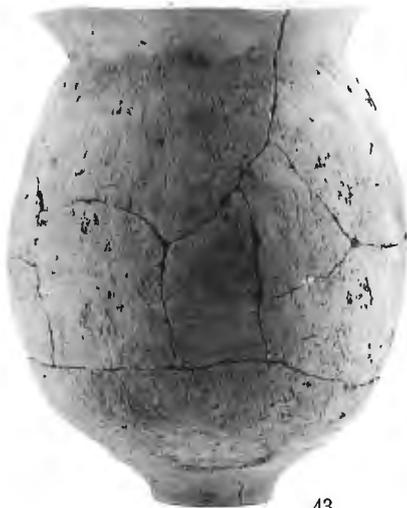
40



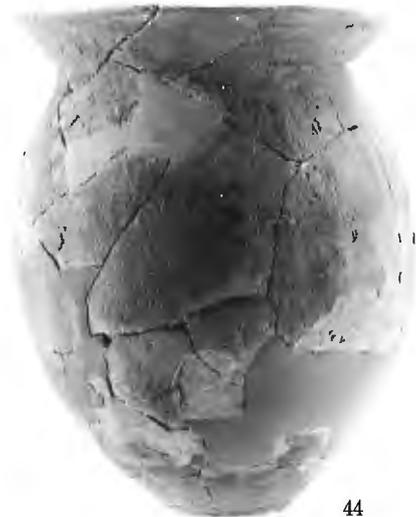
41



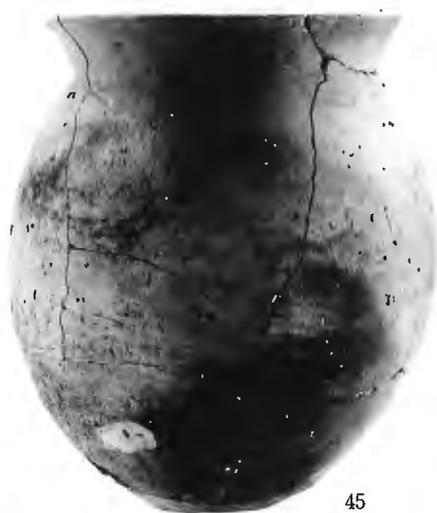
42



43



44



45



46



47



48

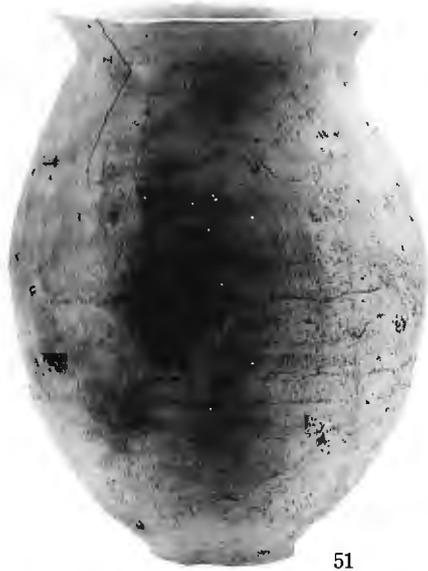


49



50

写真54



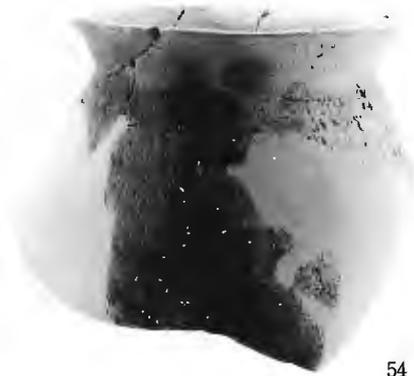
51



52



53



54



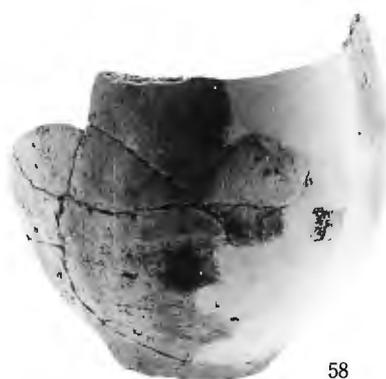
55



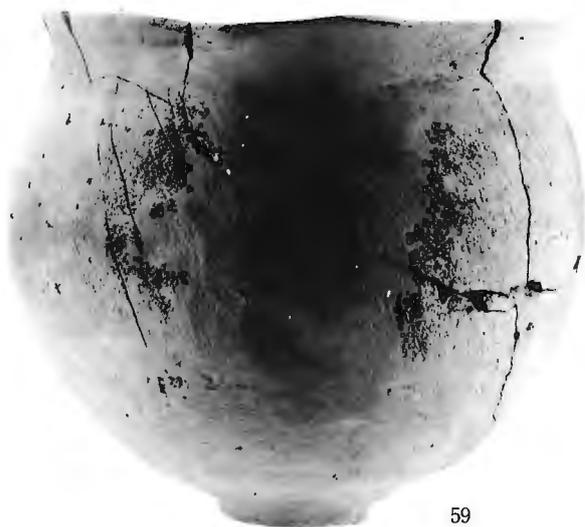
56



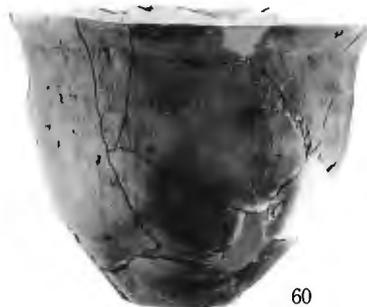
57



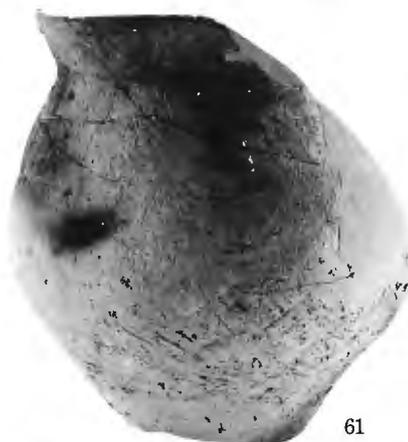
58



59



60



61

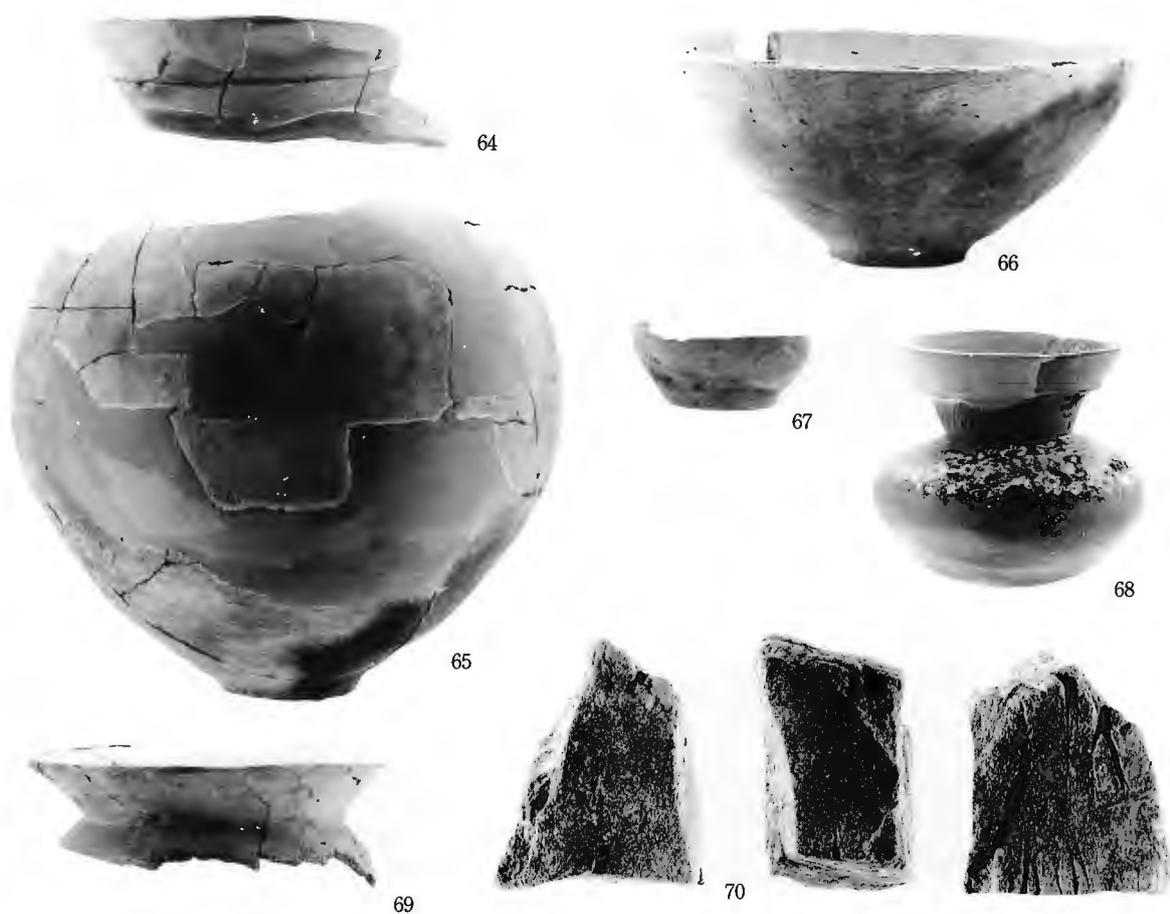


62

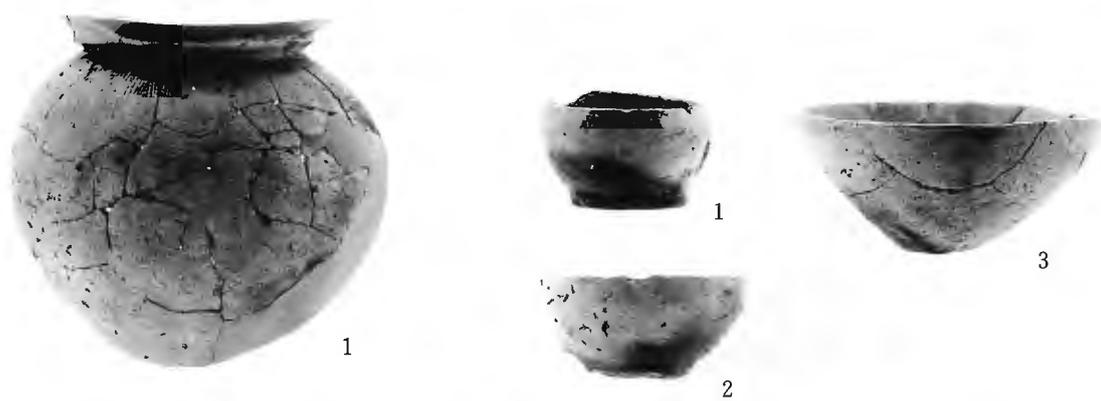


63

写真56



SI-9 出土土器 (8) · 砥石



SI-10 出土土器



SI-11 出土土器 (1)



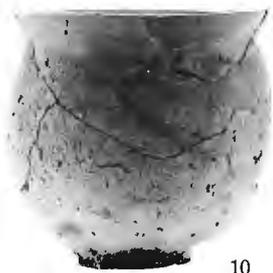
7



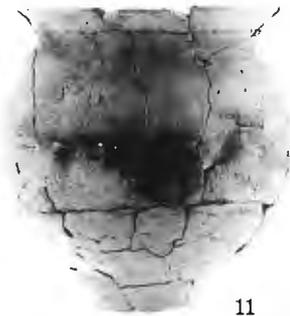
8



9



10



11



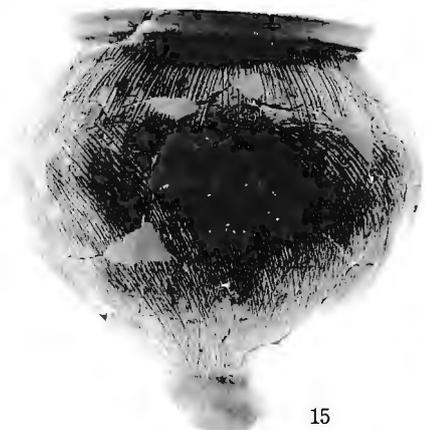
12



13



14



15

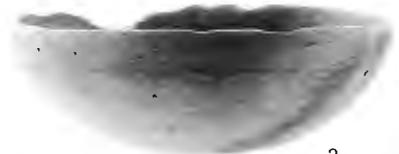
SI-11 出土土器 (2)



1



2



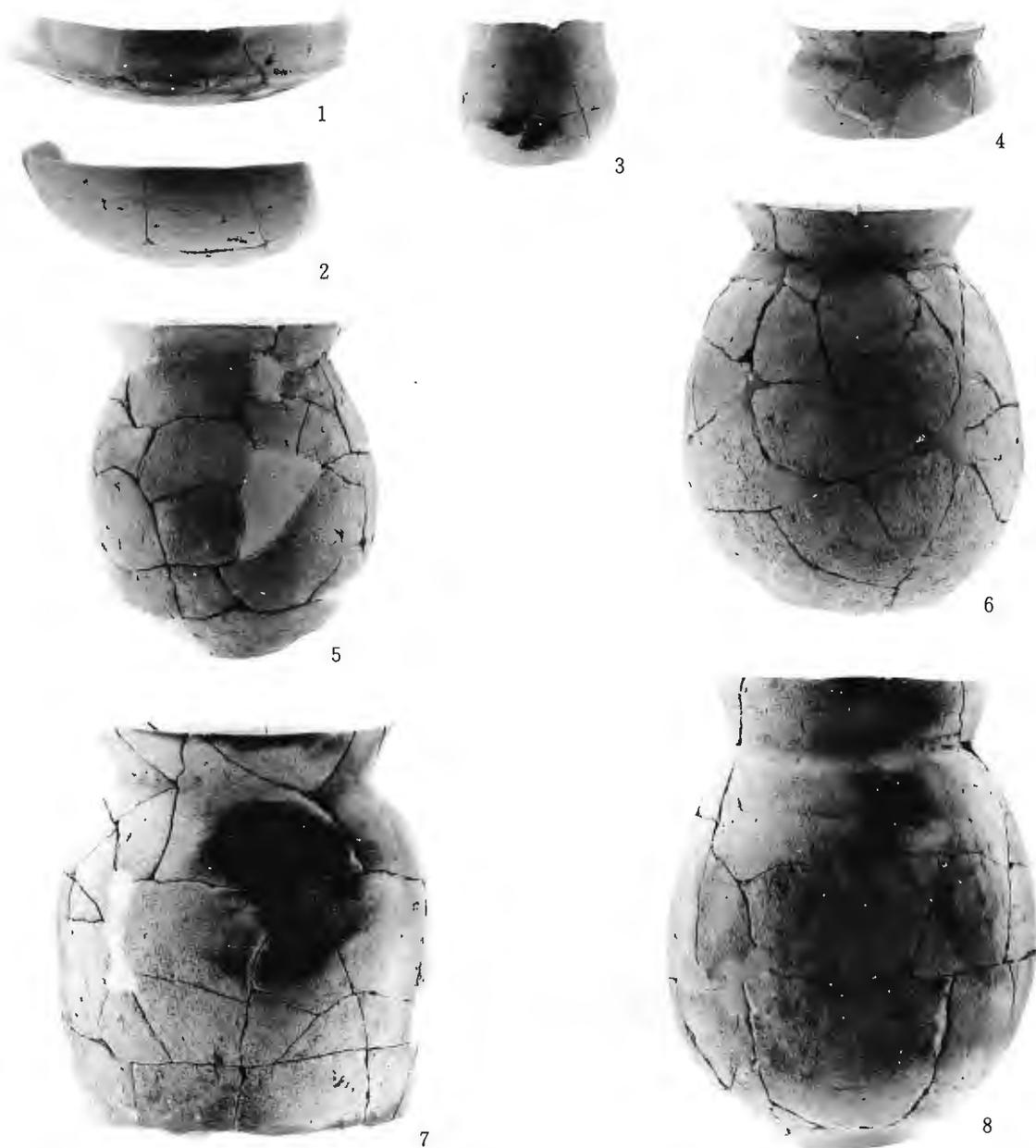
3

SI-15 出土土器 (1)

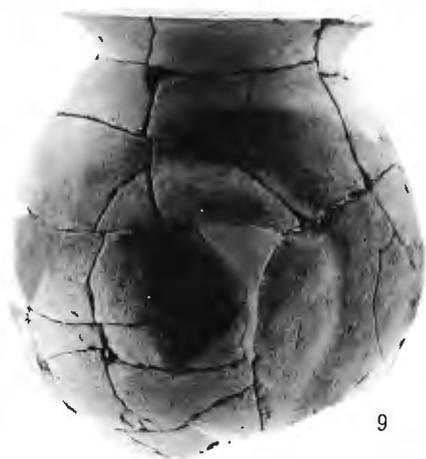
写真58



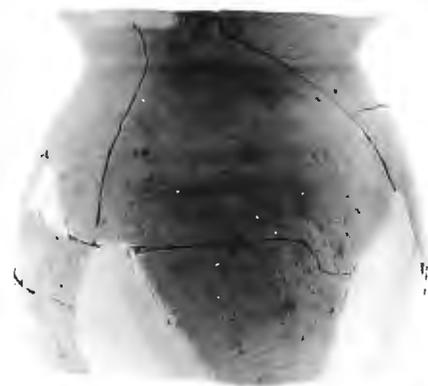
SI-15 出土土器 (2)



SI-16 出土土器 (1)



9



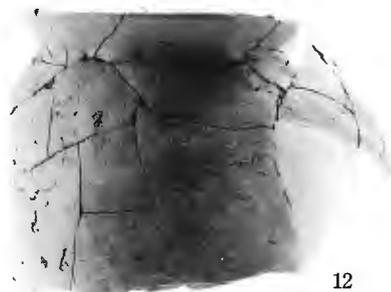
10



11



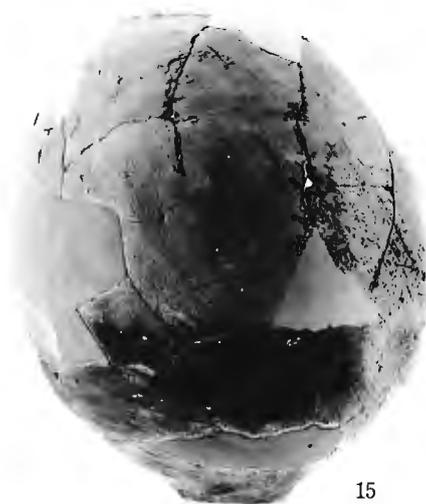
13



12

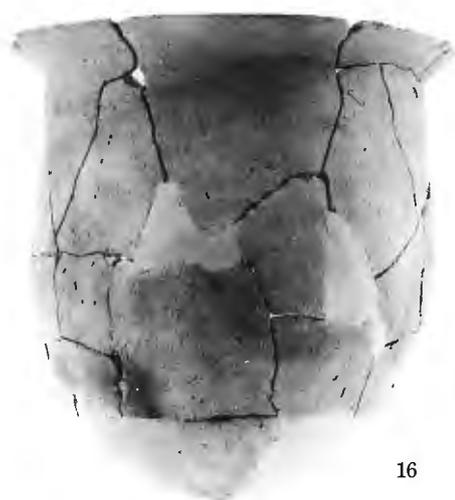


14



15

写真60



16



17

SI-16 出土土器 (3)



1



2



3



4



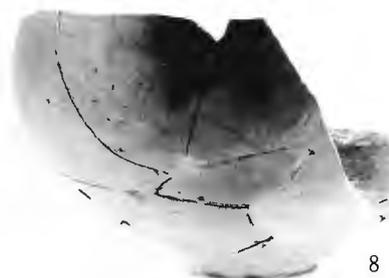
5



6



7

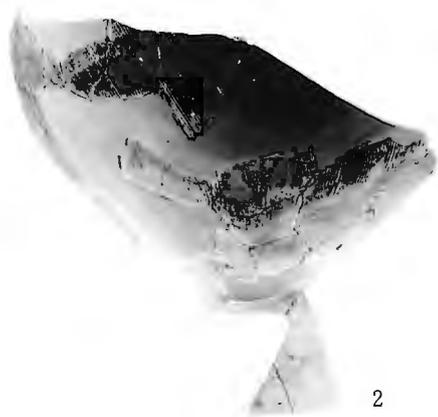


8

SI-17 出土土器

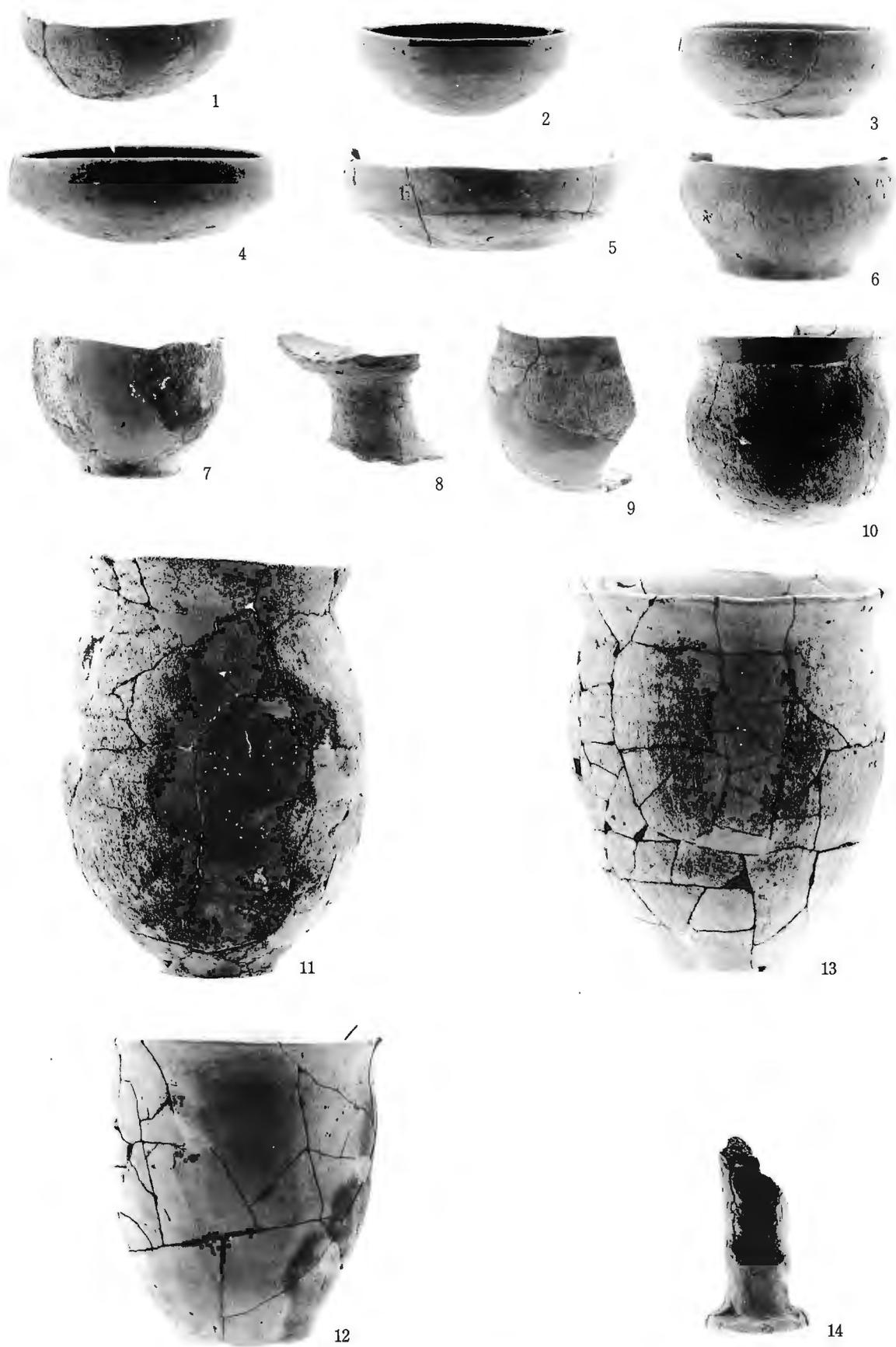


1



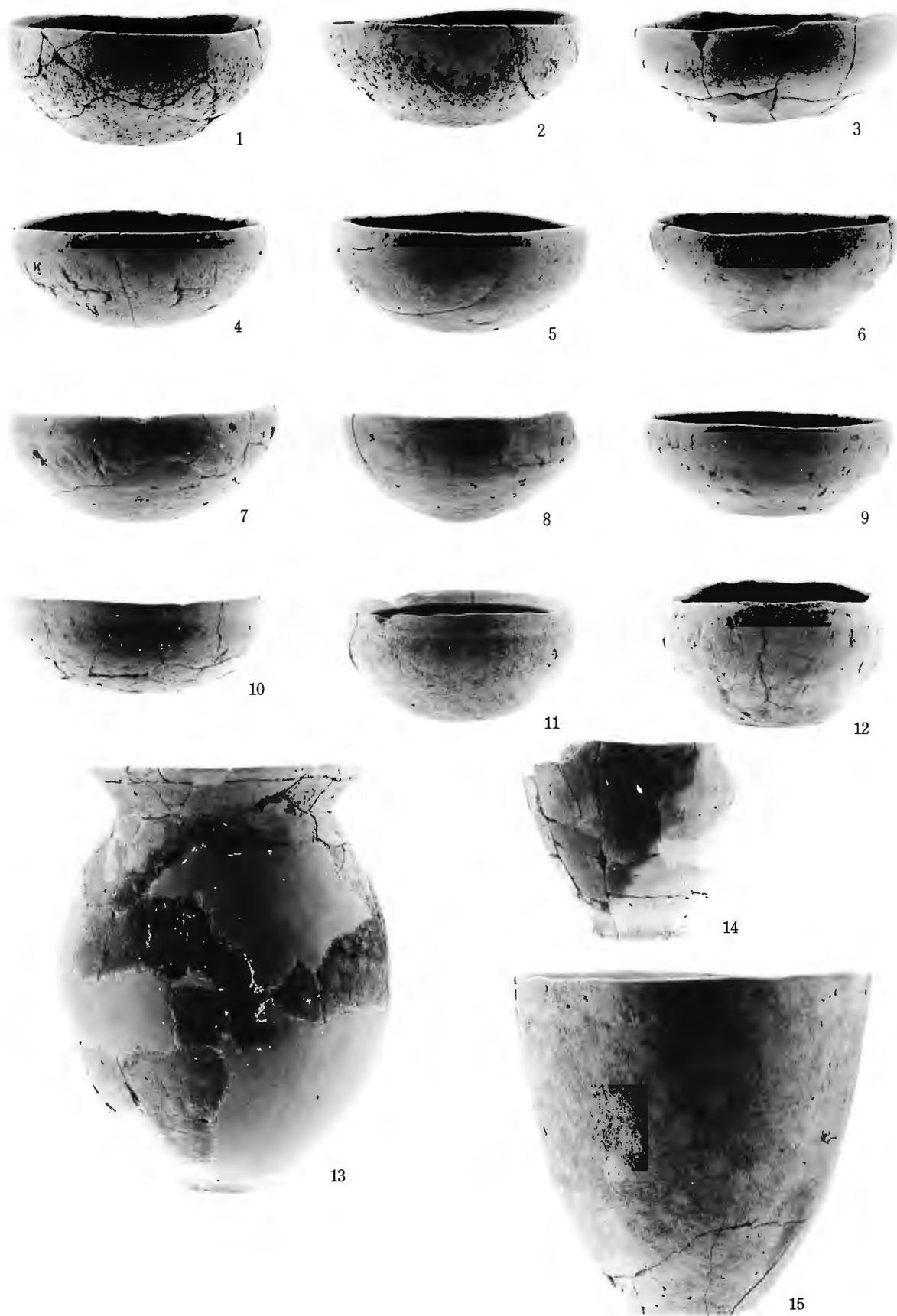
2

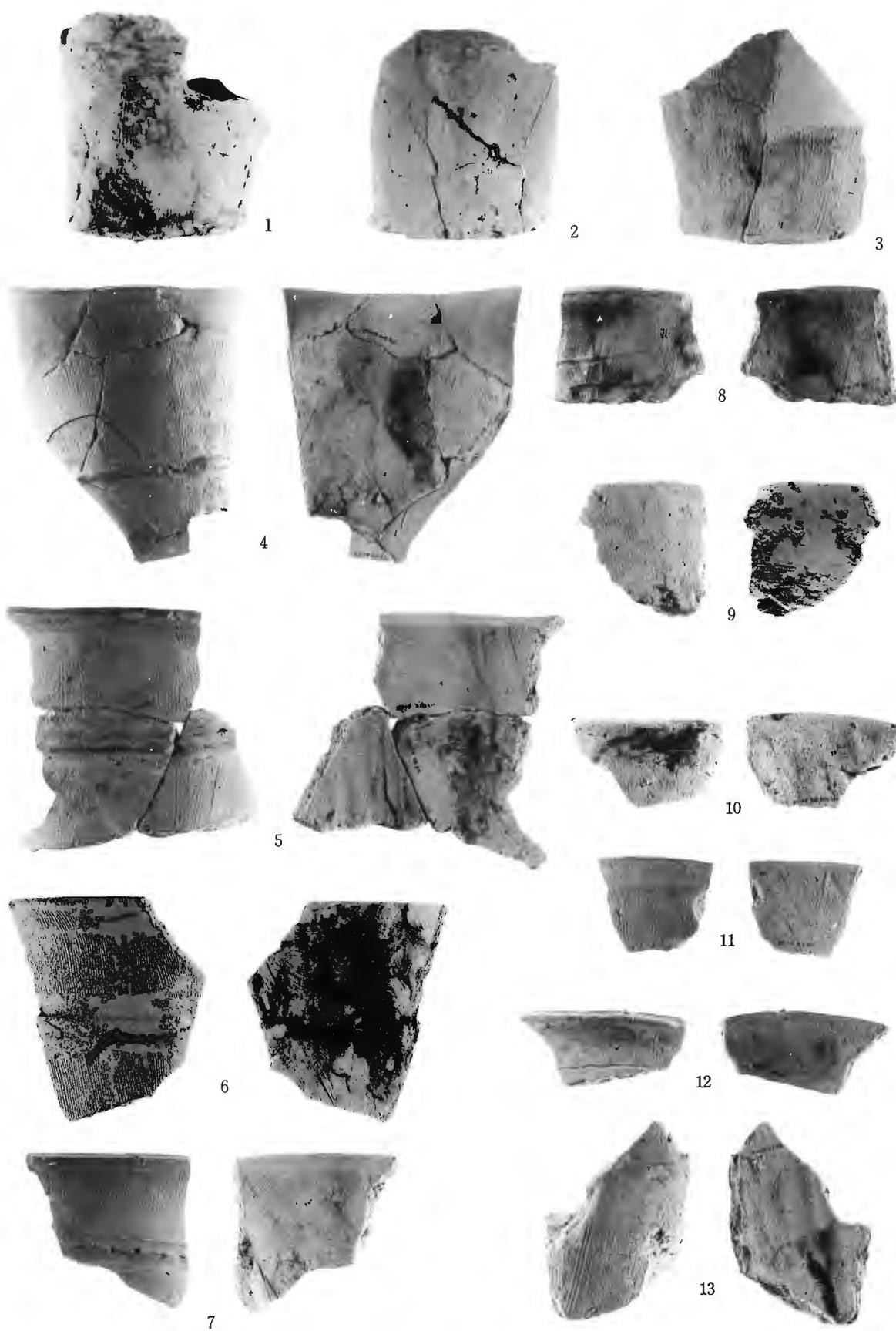
SI-18 出土土器



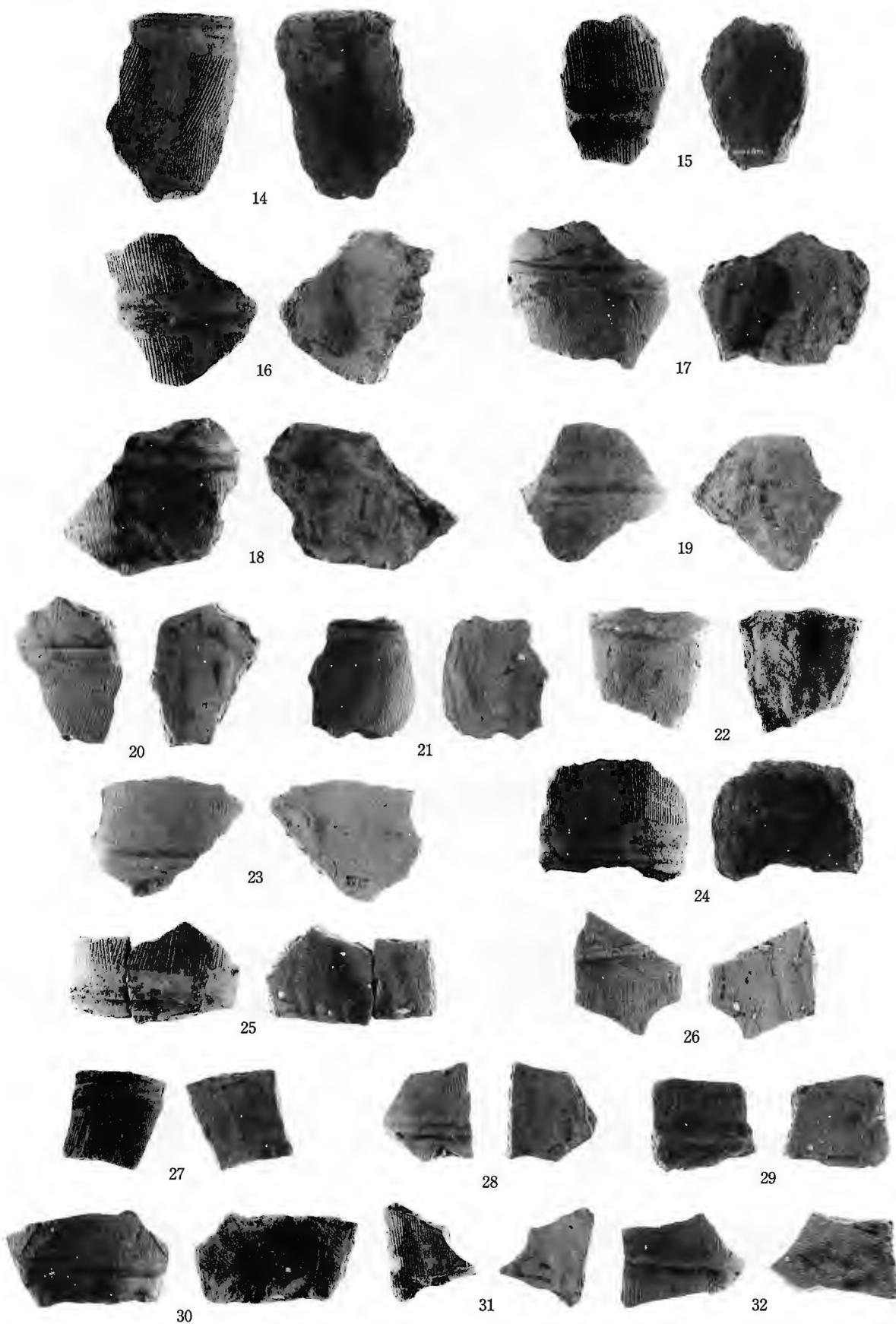
SI-21 出土土器

写真62





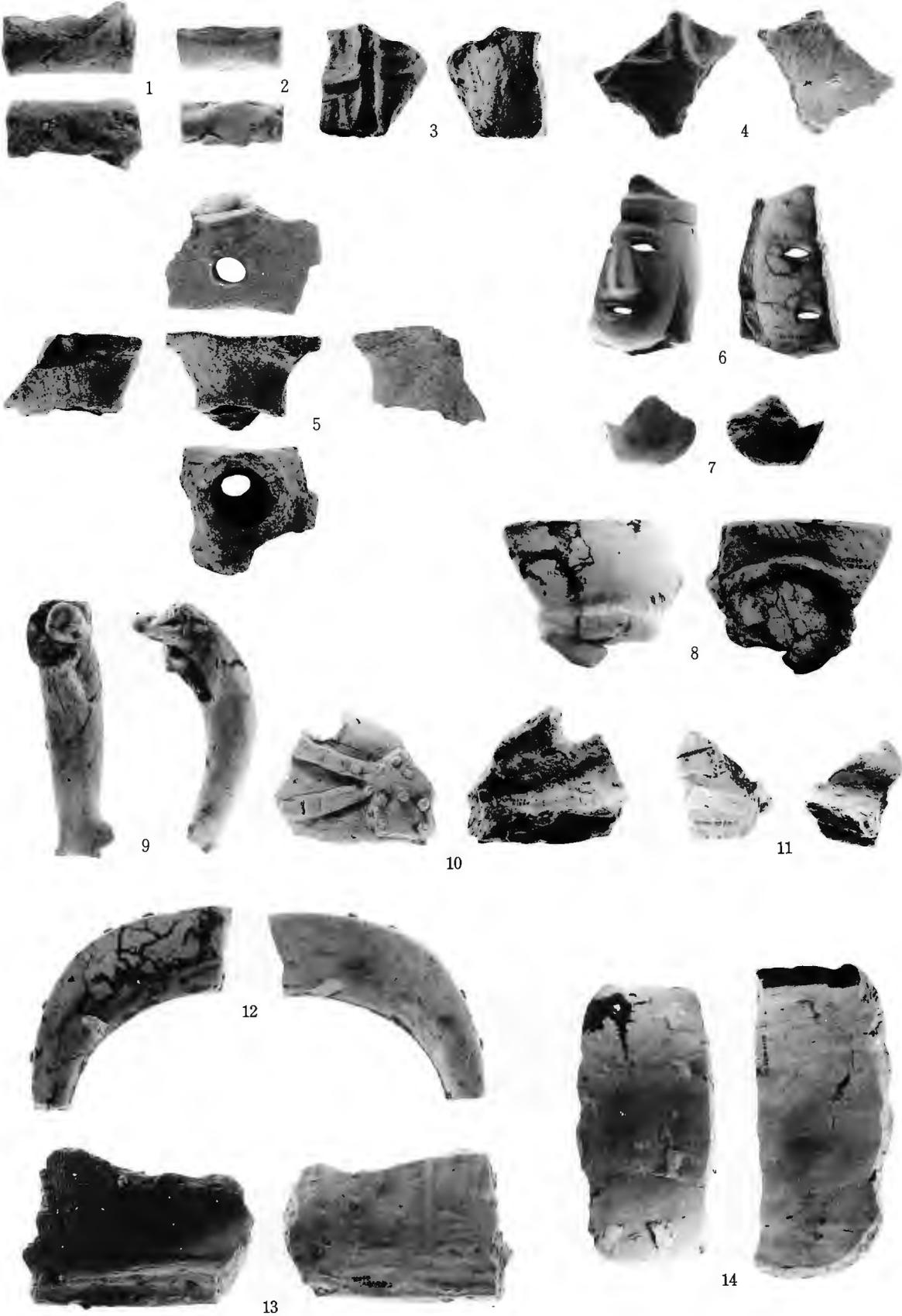
大溝出土円筒・朝顔形埴輪 (1)



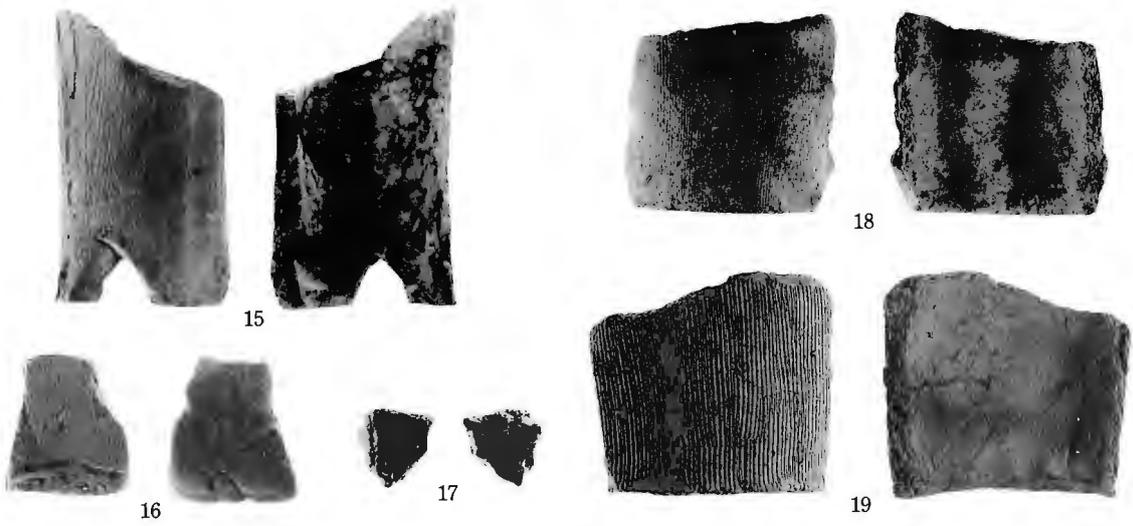
大溝出土円筒・朝顔形埴輪 (2)



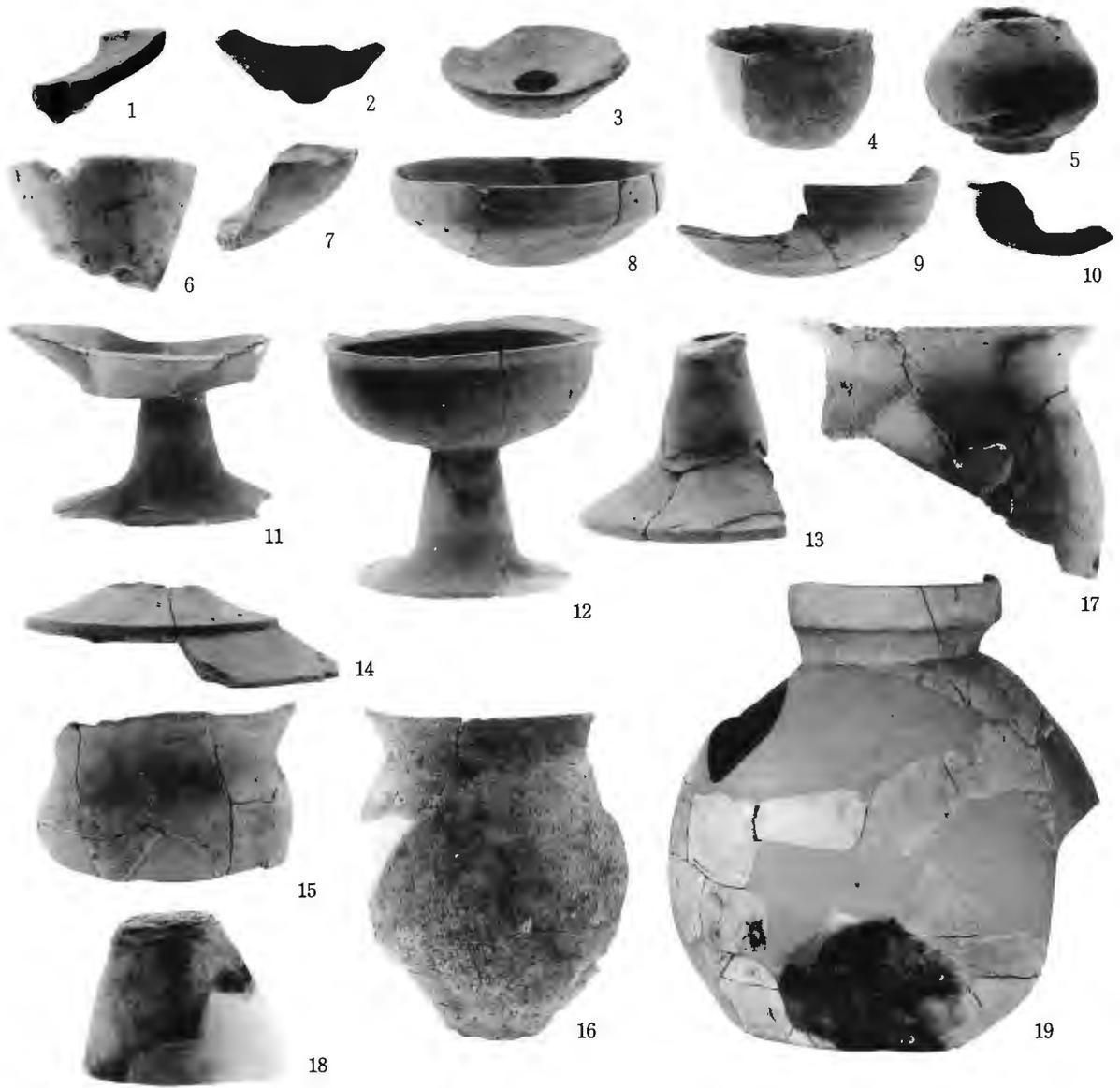
大溝出土円筒・朝顔形埴輪 (3)



大溝出土形象埴輪 (1)

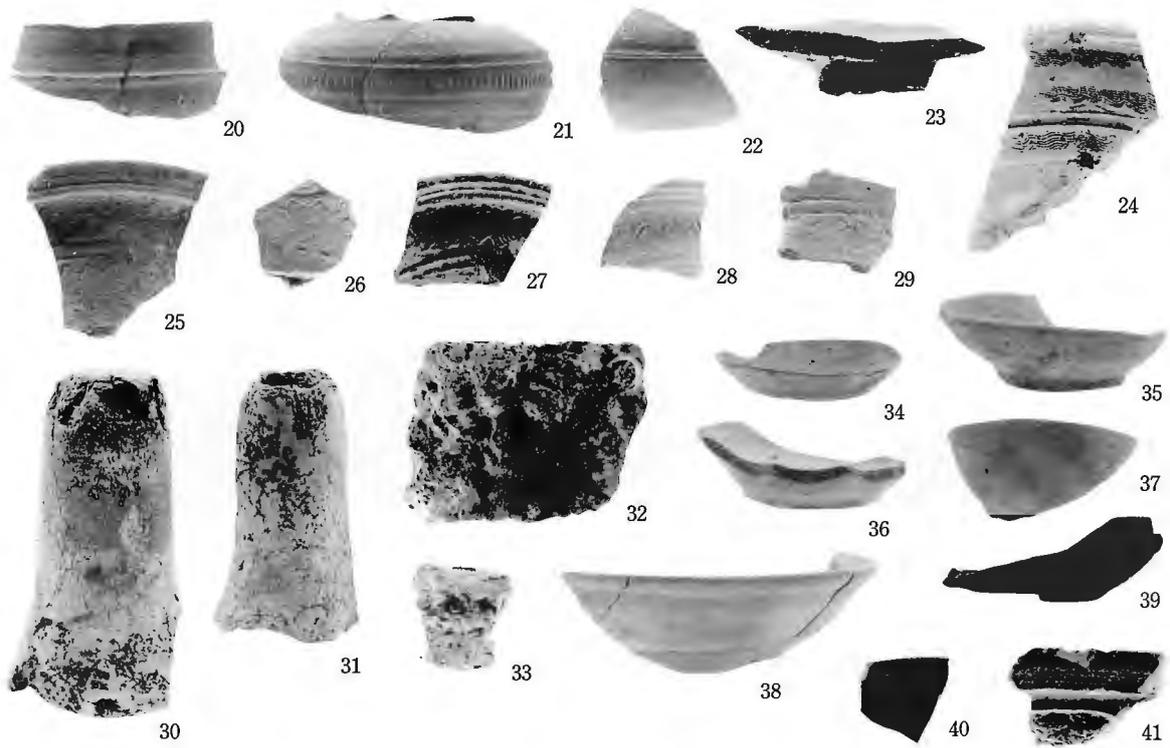


大溝出土形象埴輪 (2)

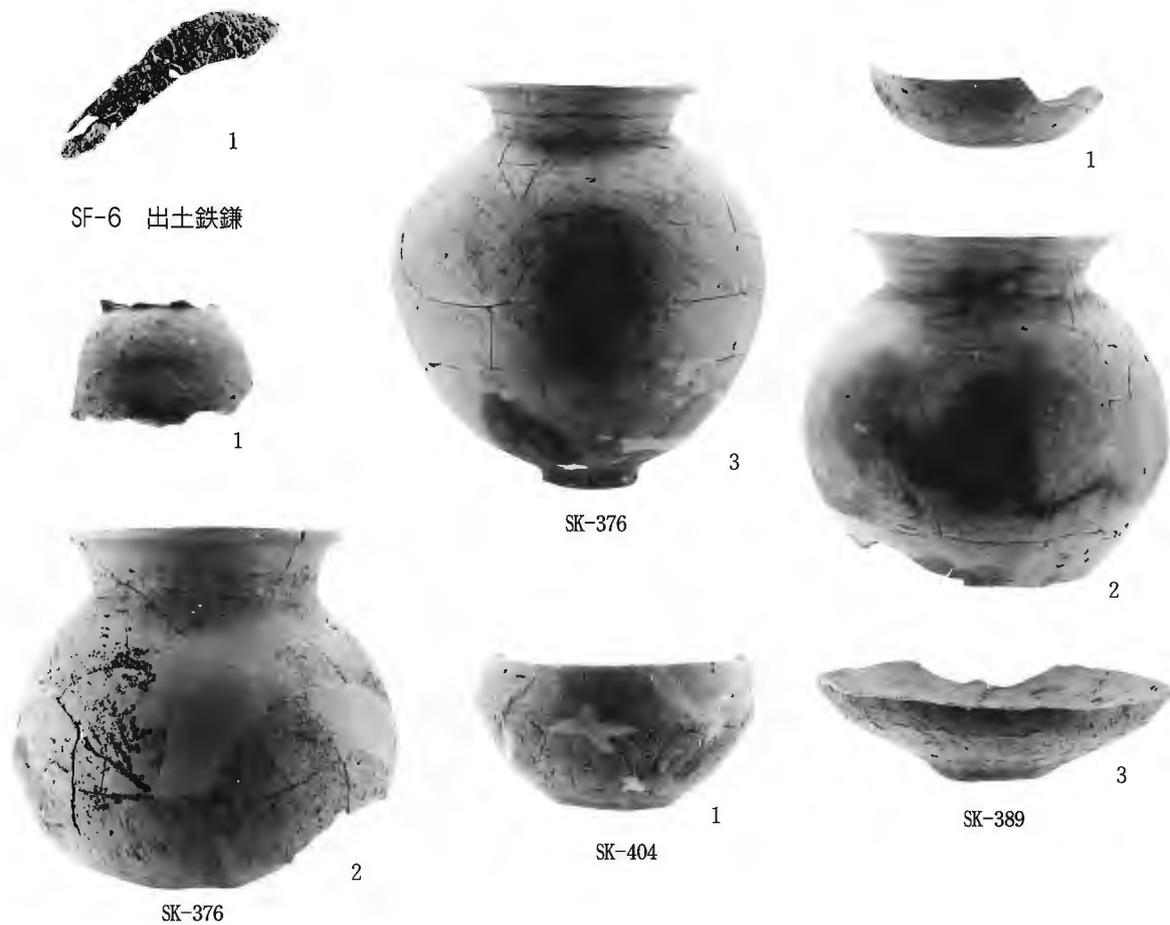


大溝出土土器 (1)

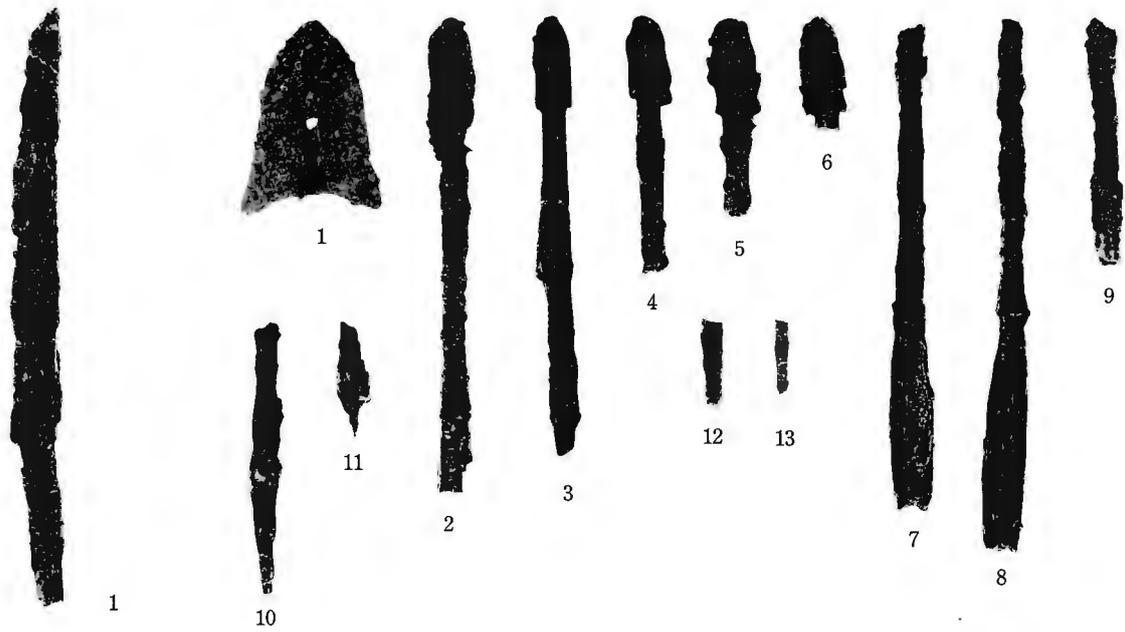
写真68



大溝出土土器 (2)

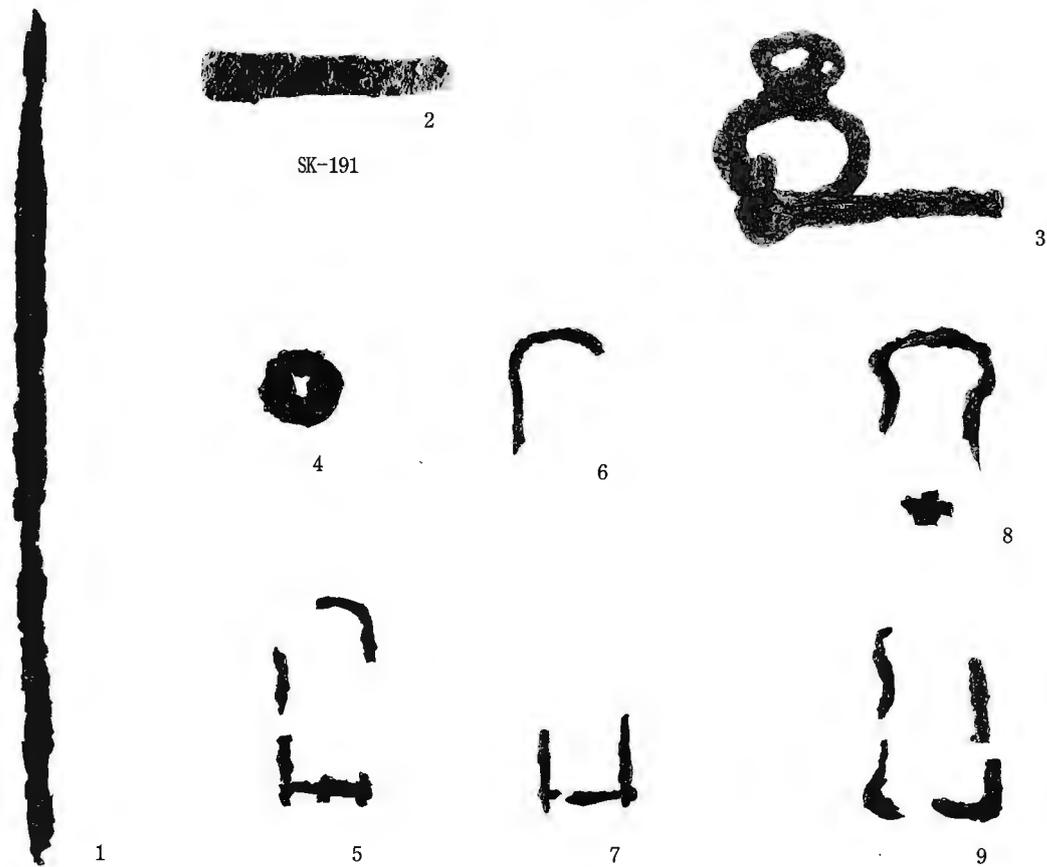


SK-376・389・404 出土土器



ST-43 出土鉄刀

ST-49 出土鉄鎌

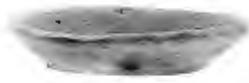


SK-24

SK-355

SK出土鉄刀・鉄鎌・鏡板付轡・鉸具・鞍

写真70



SK-208



SK-215



SK-216



SK-218

SK-208・215・216・218 出土土器



1



2



3



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



4



5



6



39



40



41



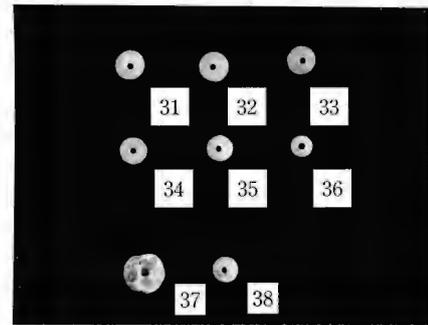
42



43



44



SK-207 出土銅製錫杖頭・金銅製袈裟金具・銅錢・数珠



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



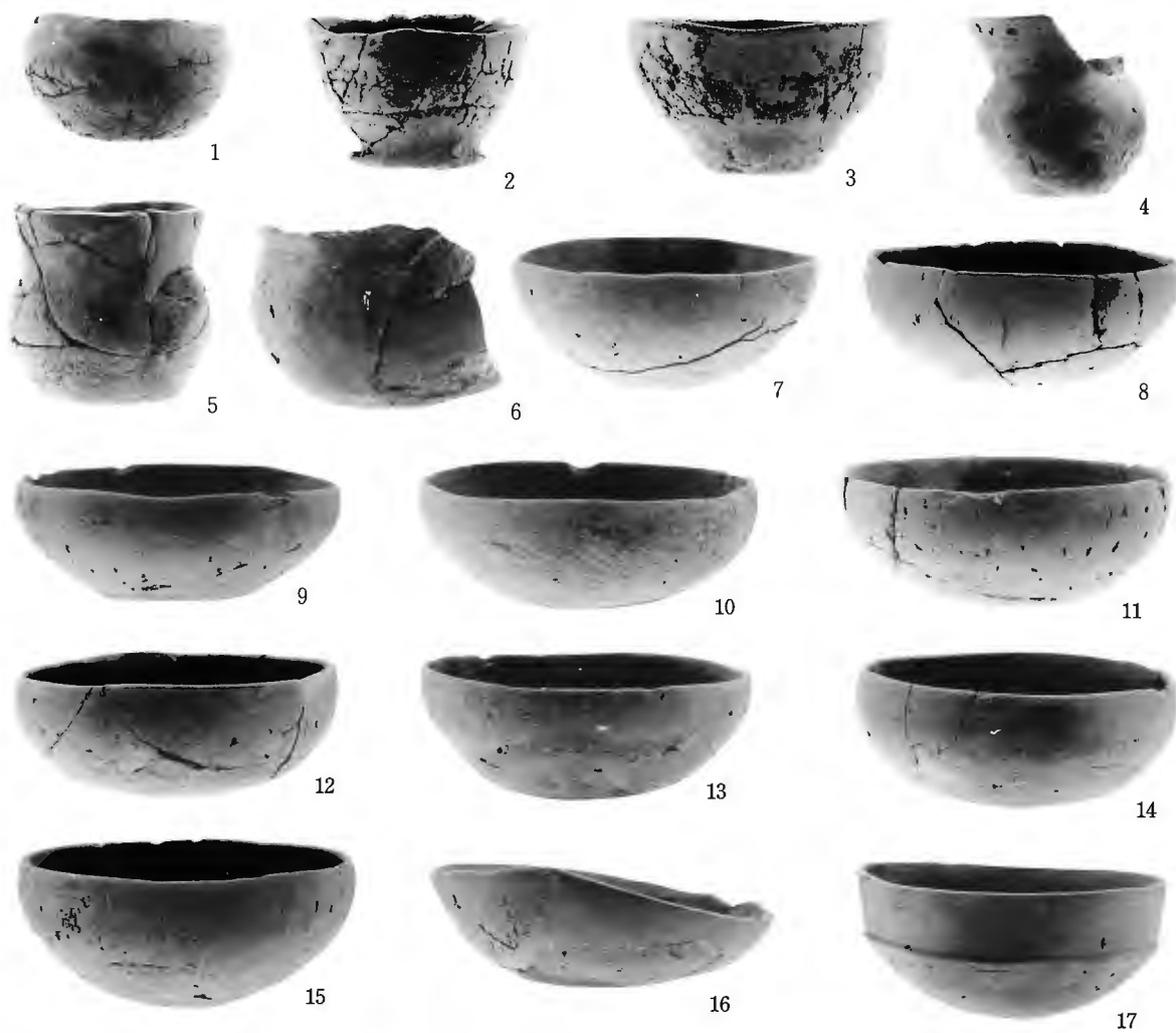
1

SK-209 出土金銅製袈裟金具・銅錢

SK-213 出土簪



1Y-17G 出土円筒埴輪



1Y-20G 出土土器 (1)

写真72



18



19



20



21



22



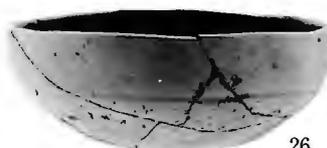
23



24



25



26



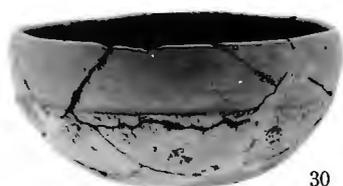
27



28



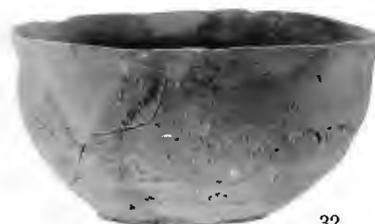
29



30



31



32



33



34



35



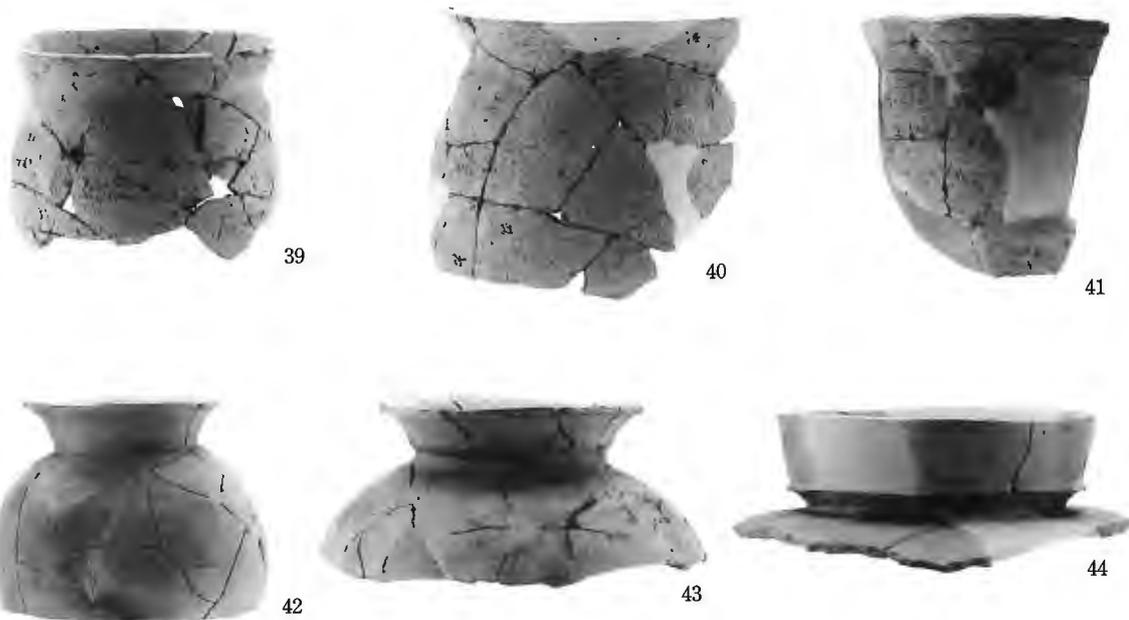
36



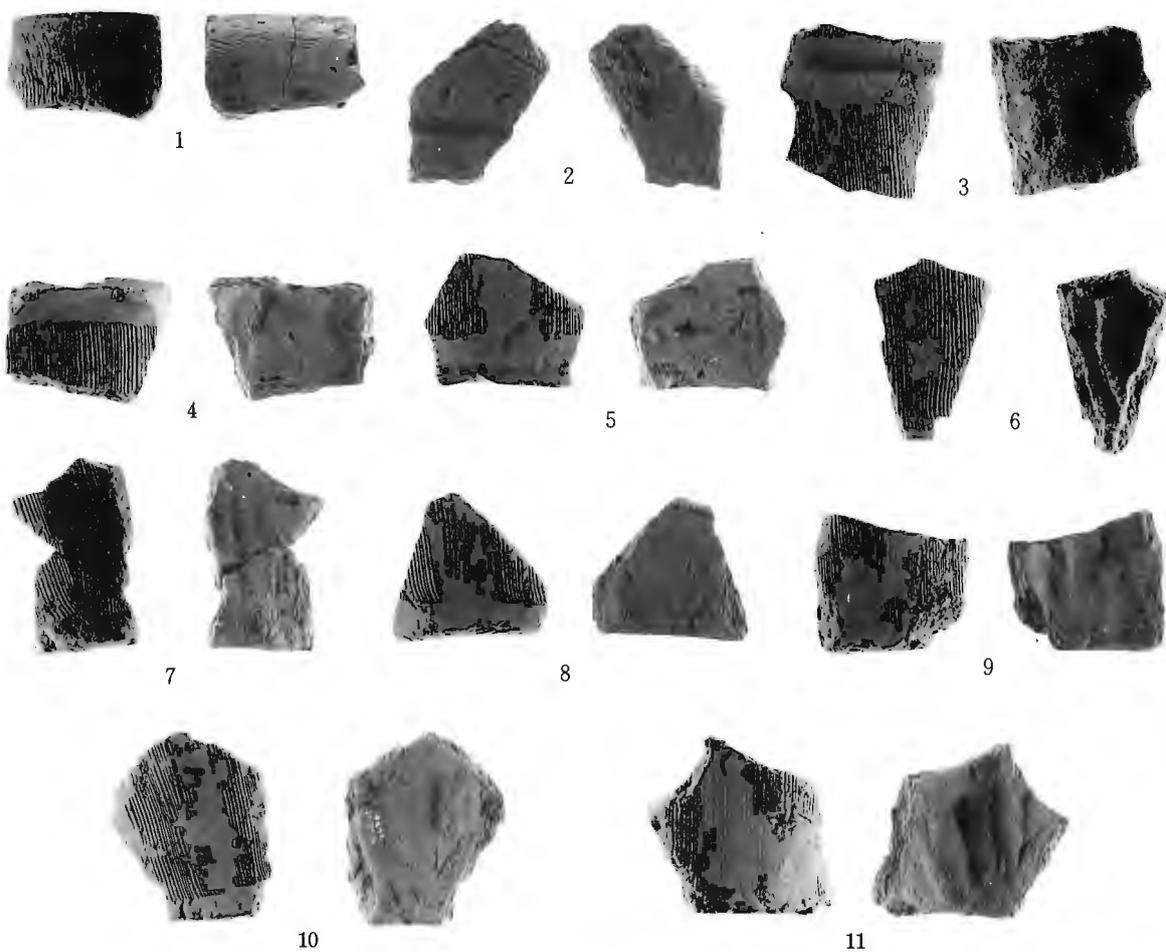
37



38



1Y-206 出土土器 (3)



グリッド出土円筒埴輪 (1)



12



13



14



16



17



15



18



19



20



21



22



23



24



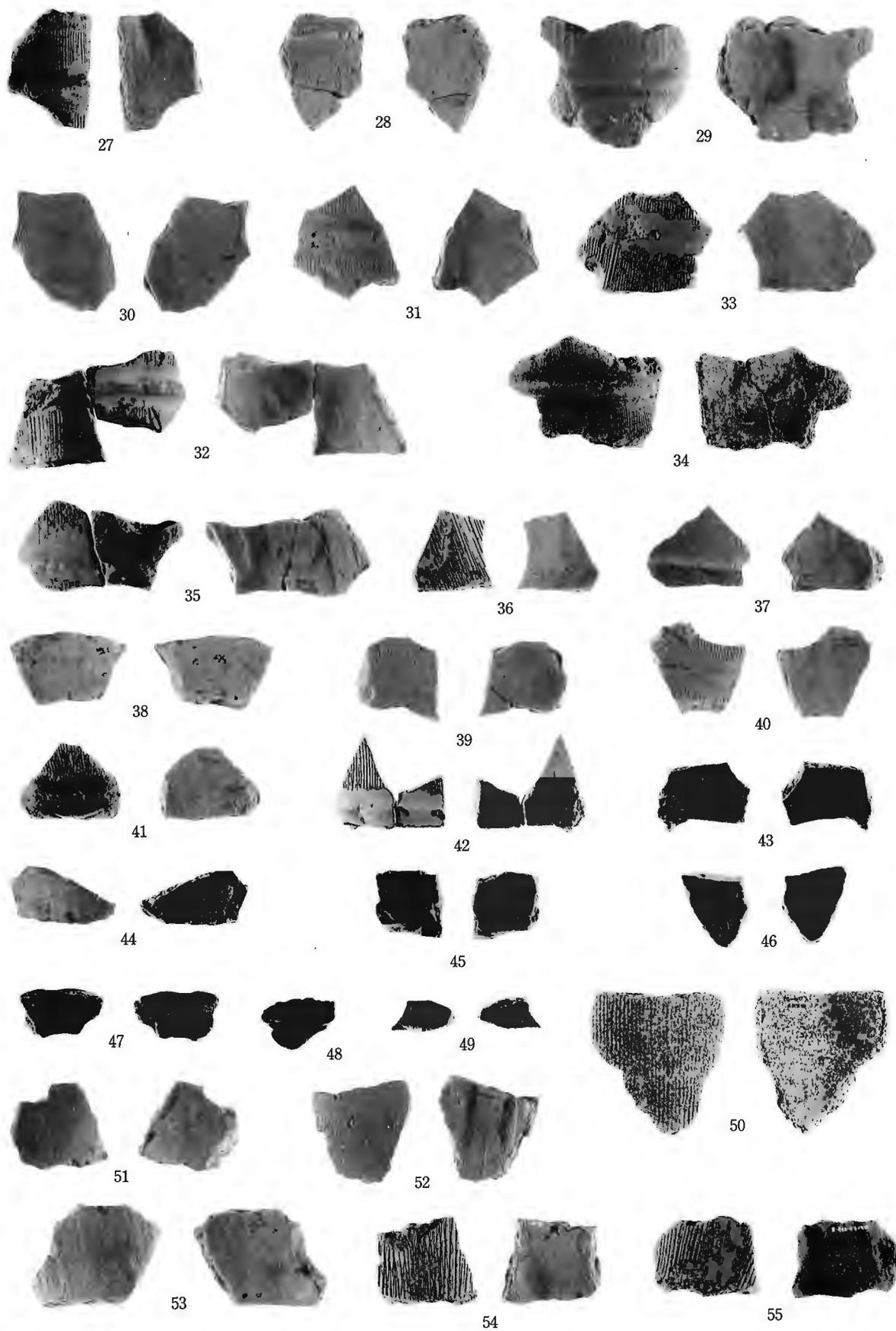
25



26

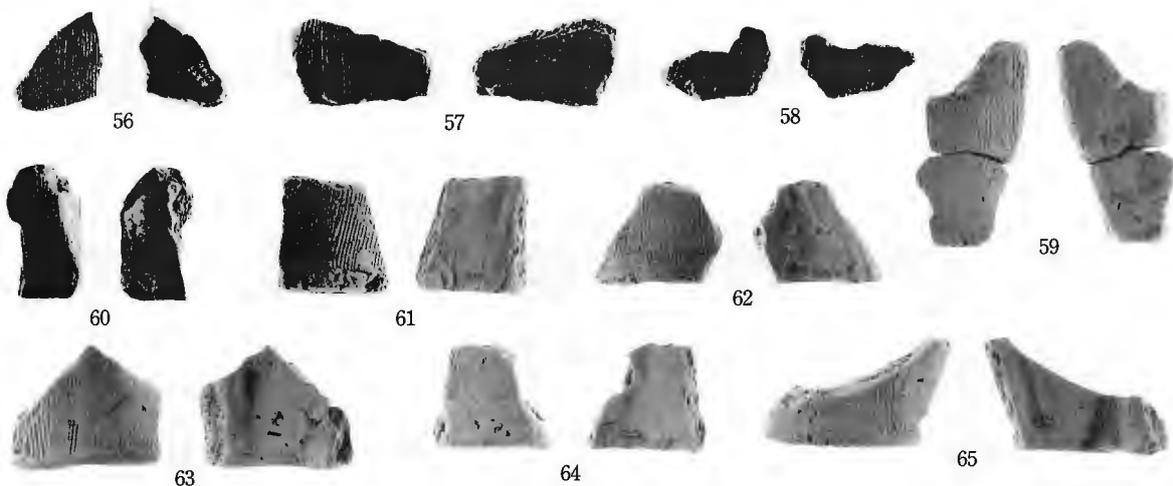


グリッド出土円筒埴輪 (2)

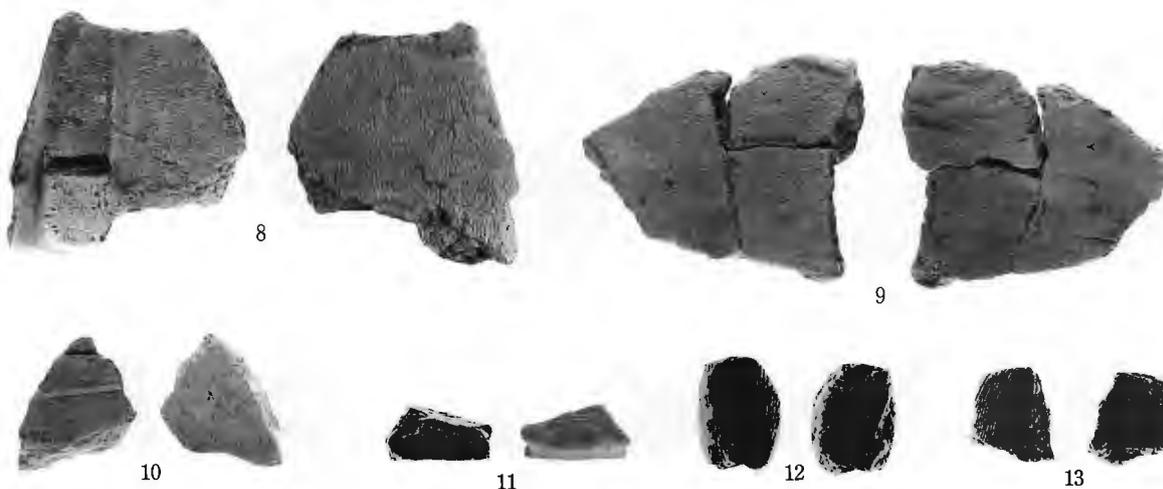
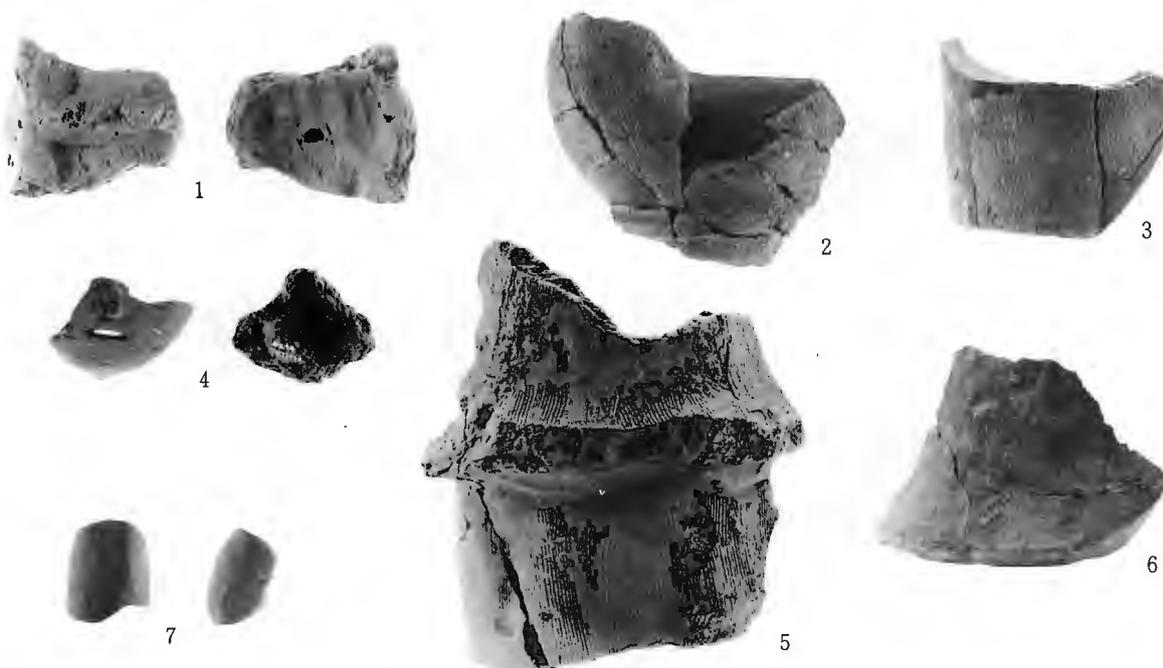


グリッド出土円筒埴輪 (3)

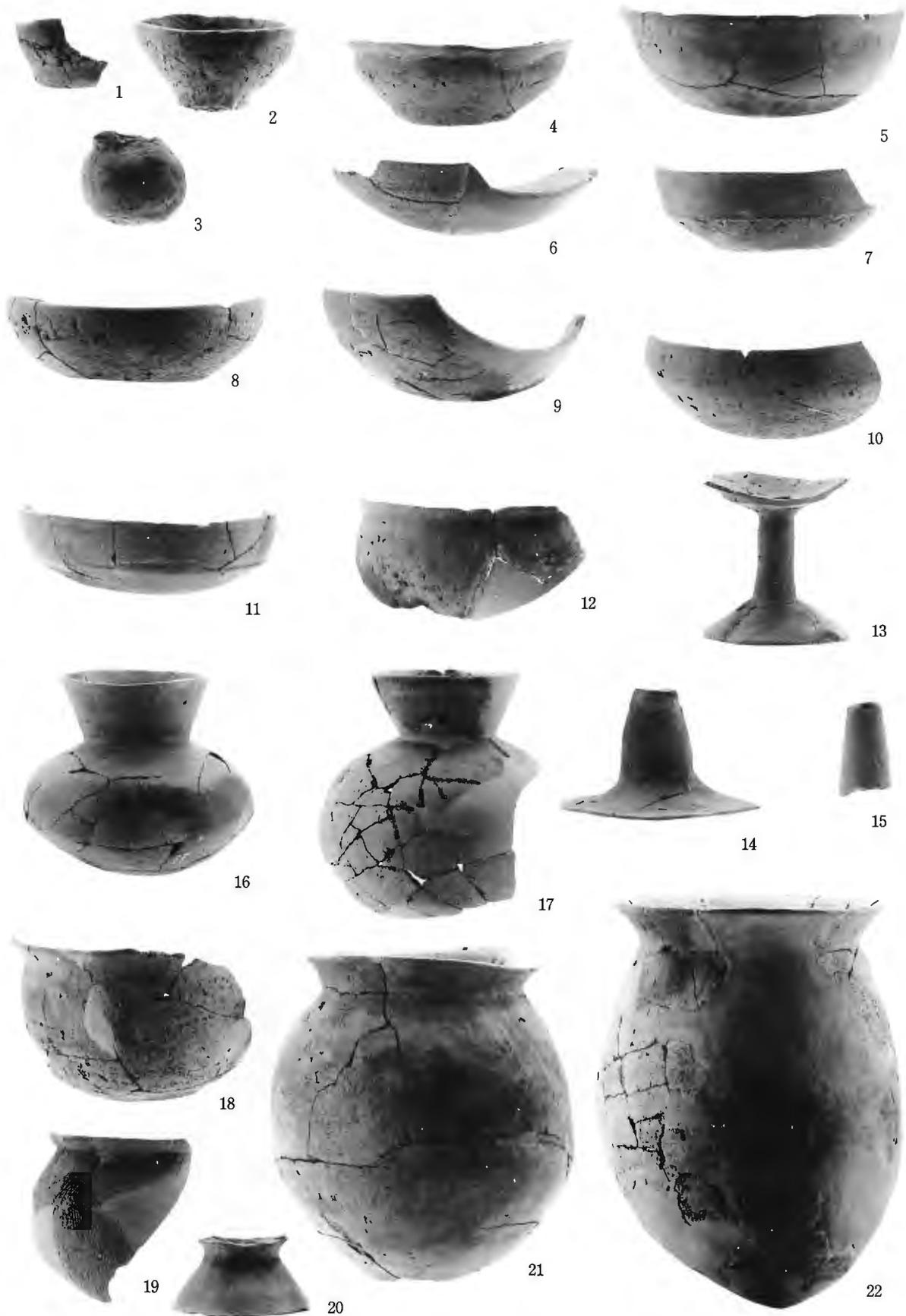
写真76



グリッド出土円筒埴輪 (4)

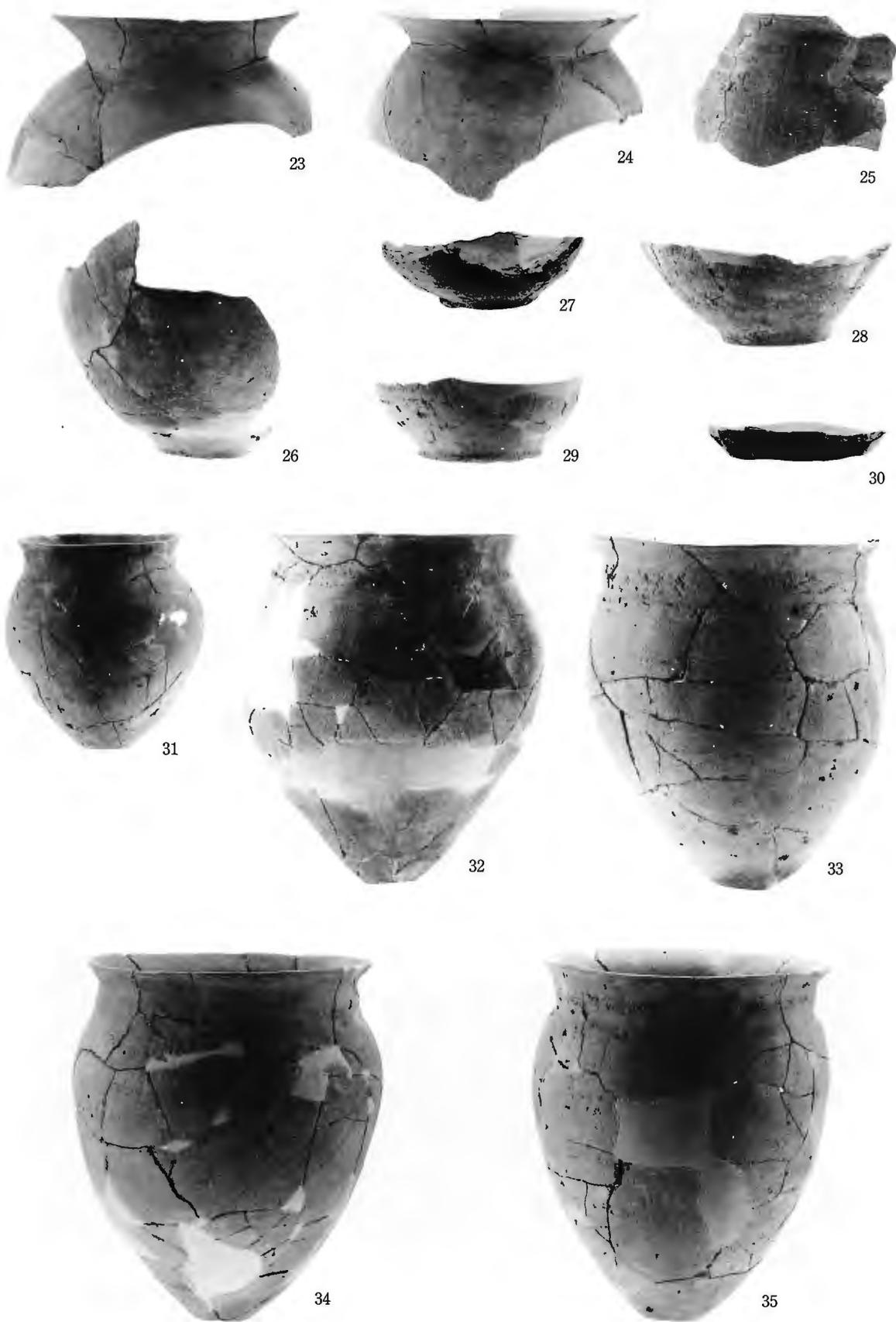


グリッド出土形象埴輪

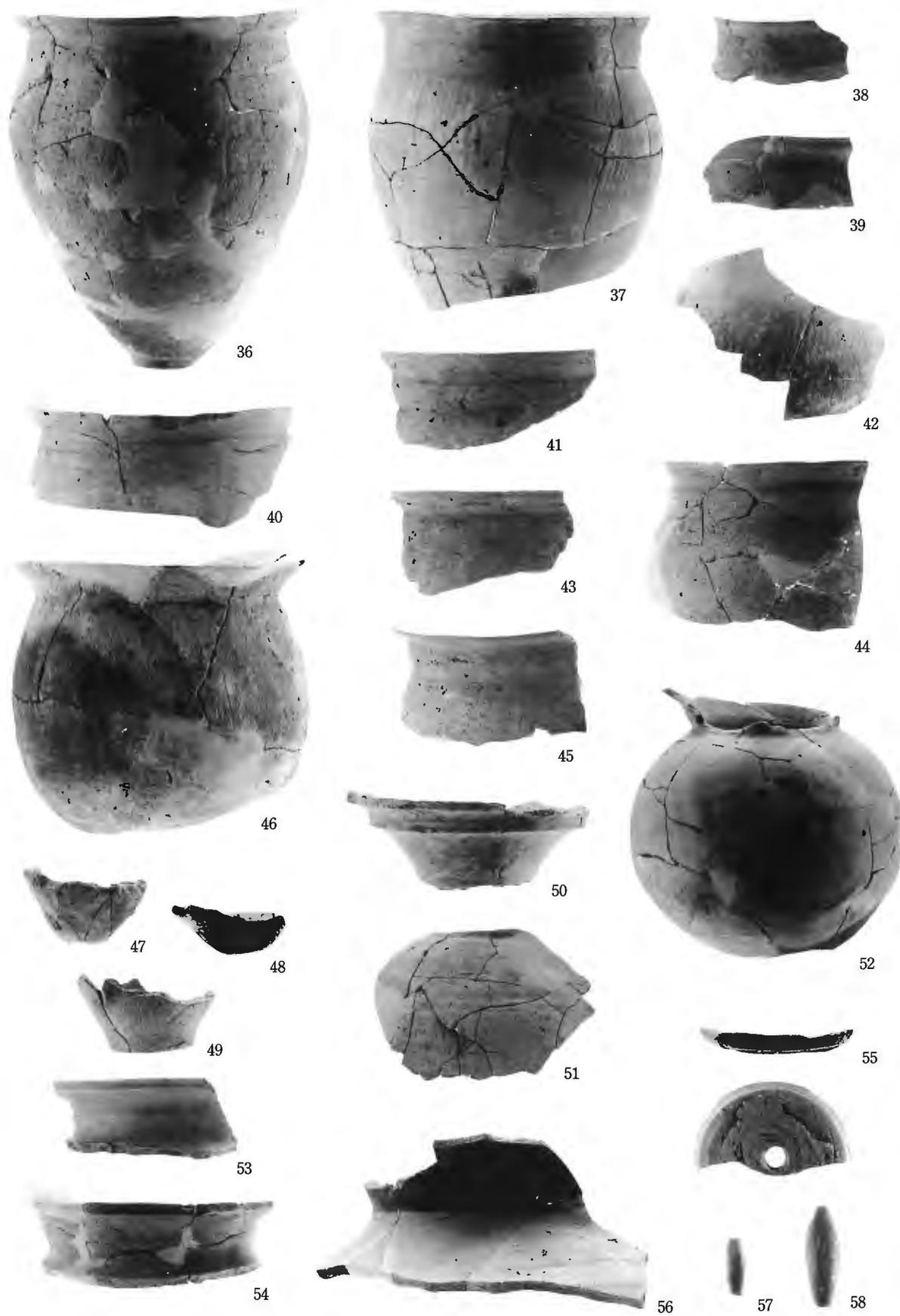


グリッド出土土器 (1)

写真78

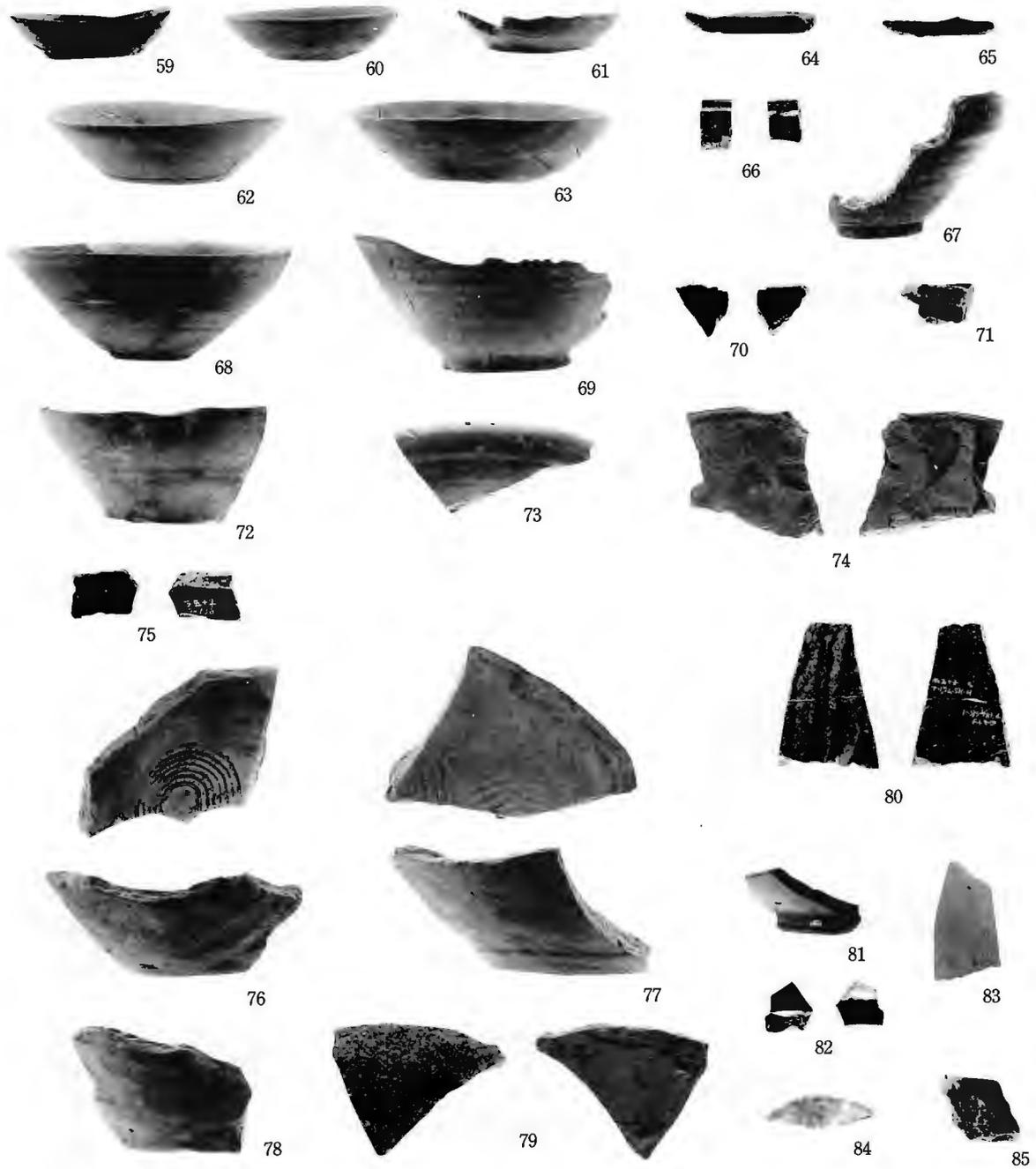


グリッド出土土器 (2)

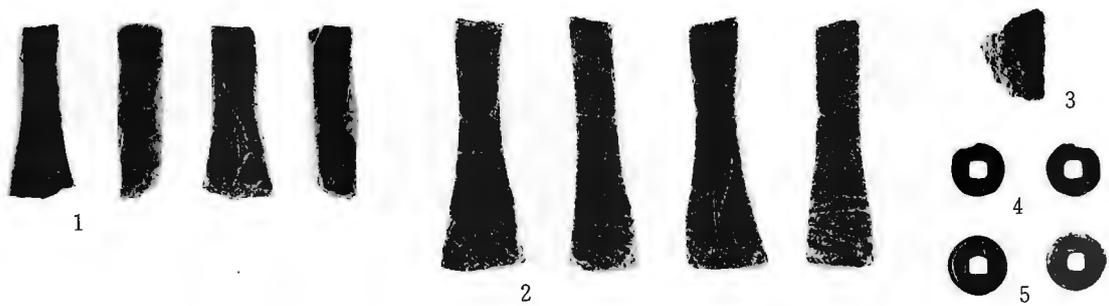


グリッド出土土器 (3)

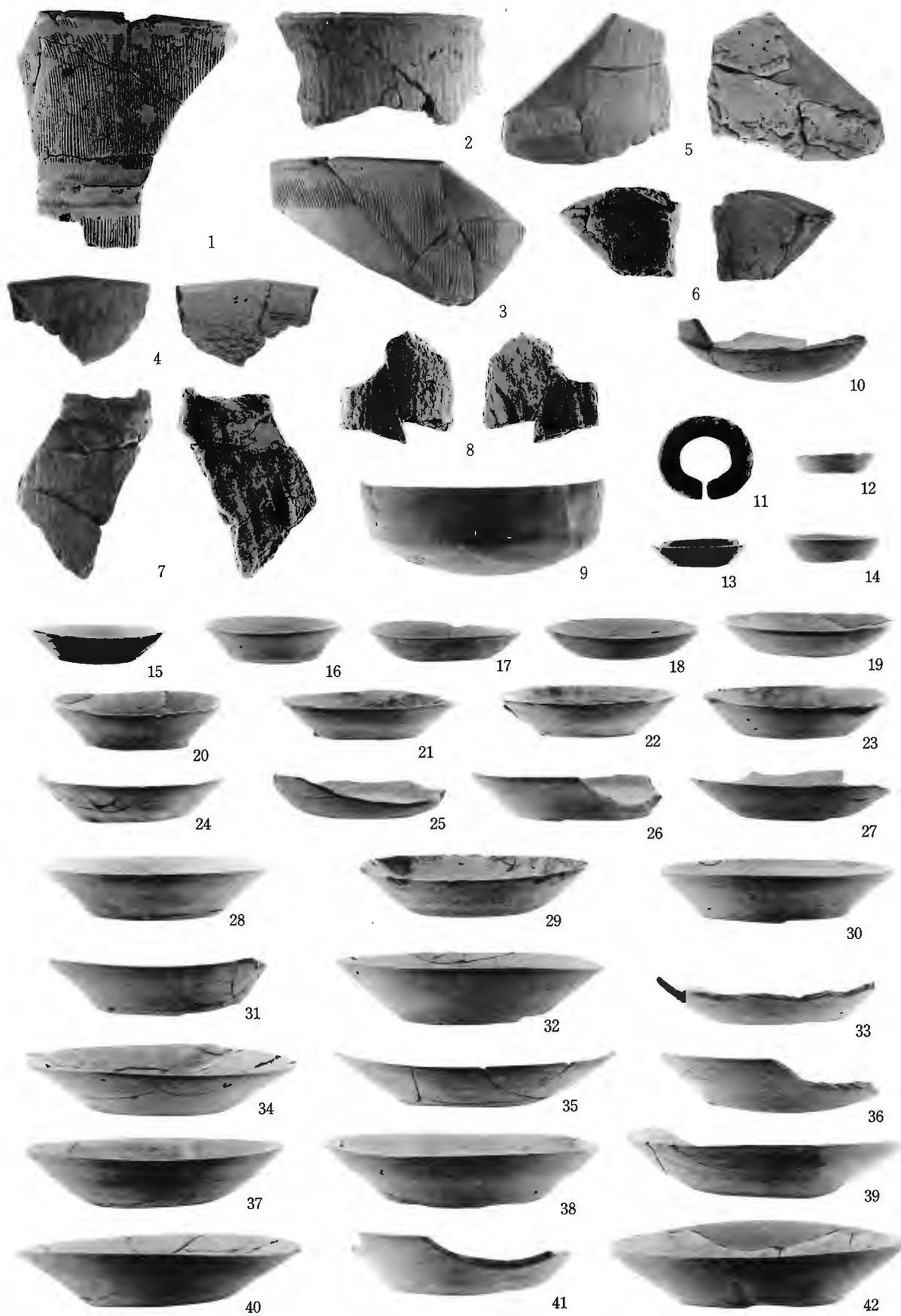
写真80



グリッド出土土器 (4)

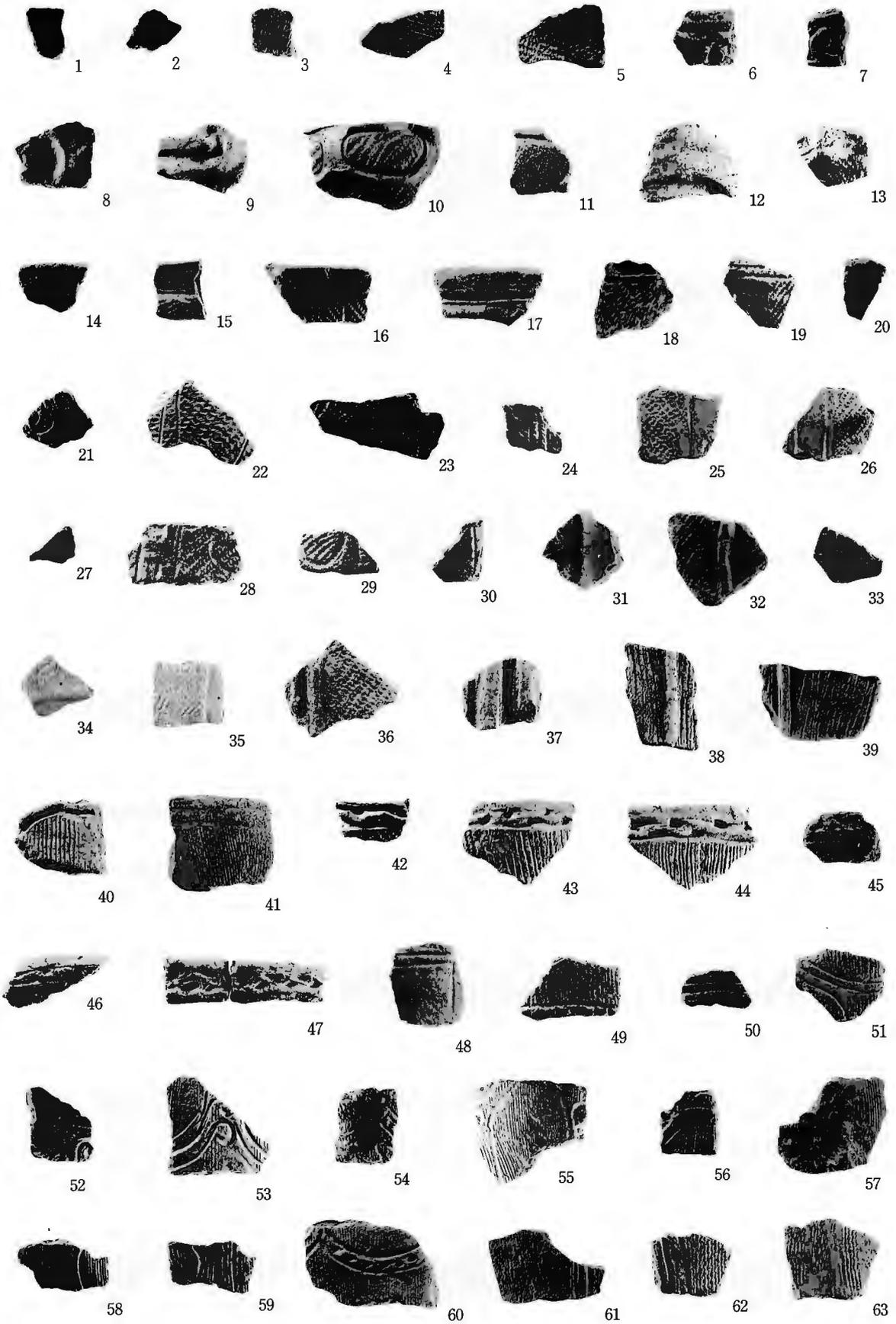


グリッド出土砥石・銅銭・羽口

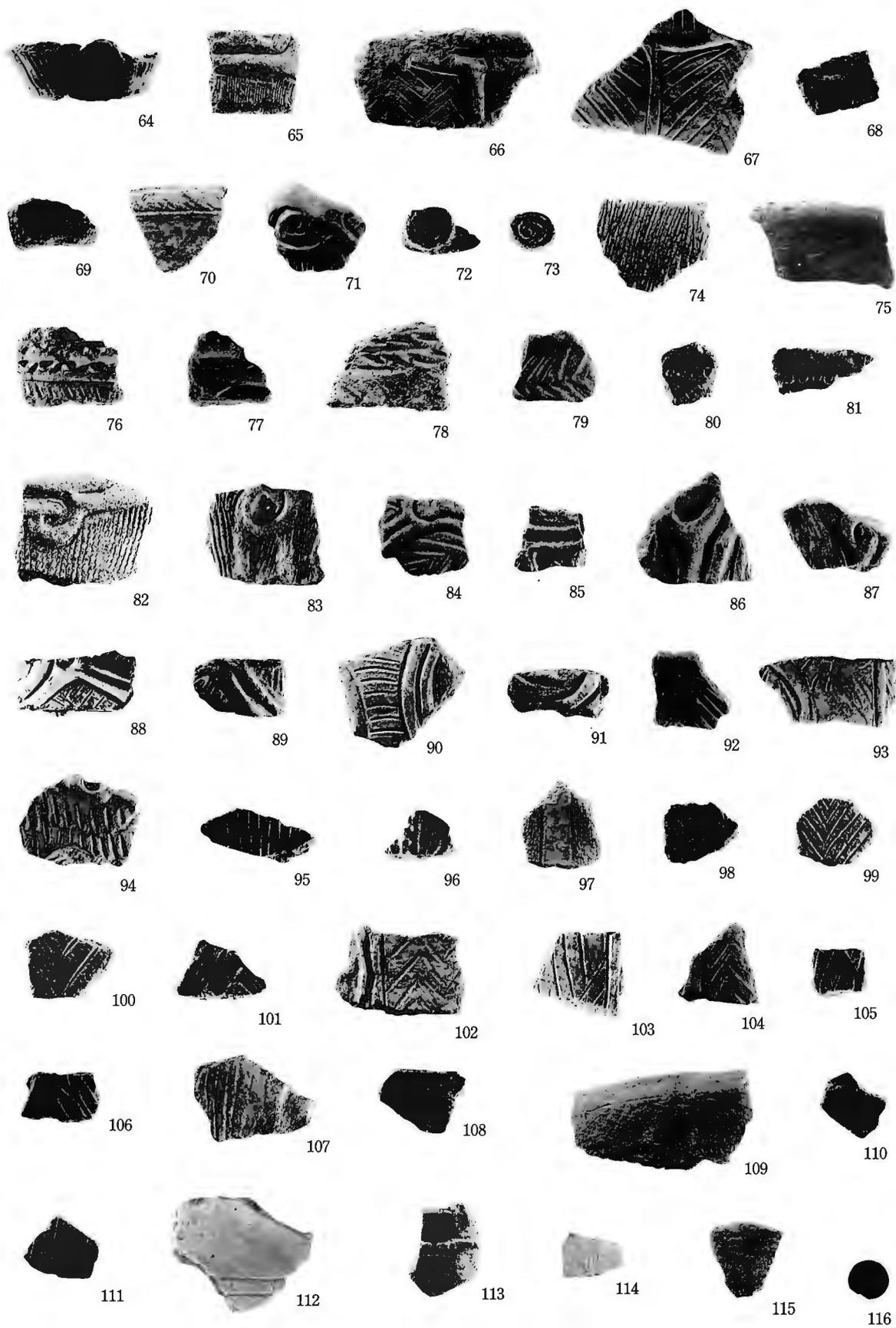


試掘調査出土遺物

写真82



調査区一括遺物 (1)



調査区一括遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	にしいかっこふんぐん							
書名	西五十子古墳群							
副書名	本庄総合公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ							
巻次								
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第5集							
編著者名	太田博之							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 本庄市教育委員会 電話0495-25-1186							
発行年月日	西暦 2007 (平成19) 年3月30日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西五十子古墳群	埼玉県本庄市 北堀・西五十子 地内	112119	049	36°13′10″	139°12′00″	19881212~ 19911206	28,885m ²	公園建設
所収遺跡	種類	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
西五十子古墳群	古墳	古墳時代前期～近世		古墳・住居・方形竪穴状遺構・井戸・土坑・溝		埴輪・土師器・須恵器 かわらけ		

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第5集

西五十子古墳群

本庄総合公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

平成19年3月26日 印刷

平成19年3月30日 発行

発行／本庄市教育委員会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄 3丁目5番 3号

電話 0495-25-1186

印刷 有限会社 浅見印刷